

令和5年度 文部科学省補助事業

「学校を核とした地域力強化プラン事業」

実践事例集

～「教育の充実」と「地域の活性化」をめざして～

『地域学校協働活動推進事業』

『コミュニティ・スクール推進事業』

『地域における家庭教育支援基盤構築事業』



滋賀県教育委員会

－はじめに－

急激に社会が変化する中で、学校と地域を取り巻く課題はますます複雑化・多様化しています。

そうした状況の中、新学習指導要領の「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る」という目標を学校と地域が共有し、連携・協働することによってその実現を図っていくことが必要です。

このたび、滋賀の教育大綱（第4期滋賀県教育振興基本計画）が策定され、令和6年度から令和10年度までの5年間における県の教育施策の基本的な方針や主な施策、目標が示されたところです。

第3期計画の成果・課題として、「学校運営協議会の設置が一定増えているが、引き続きコミュニティ・スクールの取組の推進が求められる」、「家庭教育支援チームを組織する市町が増えているが、孤立しがちな保護者の増加傾向を踏まえ、地域全体で子どもの育ちを支える取組が求められる」と挙げられています。

今後、基本目標である「未来を拓く心豊かでたくましい人づくり」に向けて、家庭や地域と学校との連携・協働活動の充実を推進してまいります。

本実践事例集は、地域全体で学びあい支えあう仕組みづくりの推進に資するものとして、各市町の工夫や努力によって取り組まれた実践をまとめたものです。県内の取組を参考に、事業の更なる拡充に取り組んでいただければと存じます。また、今後、学校と地域の連携・協働体制の構築を目指される市町におかれましては、本実践事例集を参考にいただければ幸いです。

最後になりましたが、日頃より地域において本事業をはじめ、地域全体で子どもたちの成長を支える社会の実現に向けて御尽力いただいている関係者の皆様に心より感謝申し上げますとともに、今後も引き続き御支援のほどお願いいたします。

また、本事例集の編集に際し、貴重な情報提供や寄稿をいただきました皆様に厚くお礼申し上げます。

令和6年（2024年）3月

滋賀県教育委員会事務局生涯学習課

〔目 次〕

◆ 事業の概要 1

I 県の取組 8

(1) 推進協議会の概要 8

(2) 各研修会の概要 10

◇「学校を核とした地域力強化プラン」研修会(市町事業担当者対象) 10

◇「学校を核とした地域力強化プラン」研修会(新規導入市町等対象) 11

◇県立学校コミュニティ・スクール推進事業研修会 12

◇「学校を核とした地域力強化プラン」研修会(事業推進市町等対象) 13

◇「学校を核とした地域力強化プラン」成果報告会 14

◇「地域における家庭教育支援基盤構築事業」にかかる研修会 15

II 市町の地域学校協働活動の取組 16

◇彦根市.....16	◇甲賀市.....22	◇日野町.....28
◇長浜市.....17	◇野洲市.....23	◇竜王町.....29
◇近江八幡市...18	◇湖南市.....24	◇愛荘町 ※ ...30
◇草津市.....19	◇高島市.....25	◇甲良町.....31
◇守山市.....20	◇東近江市.....26	◇多賀町.....32
◇栗東市.....21	◇米原市.....27	

※愛荘町は町独自の取組

III 地域学校協働本部の実践事例 33

◆令和5年度地域学校協働本部一覧 33

◇彦根市.....35	◇甲賀市.....102	◇日野町.....176
◇長浜市.....59	◇野洲市.....111	◇竜王町.....182
◇近江八幡市...60	◇湖南市.....120	◇愛荘町 ※ ...183
◇草津市.....83	◇高島市.....133	◇甲良町.....191
◇守山市.....98	◇東近江市.....139	◇多賀町.....192
◇栗東市.....101	◇米原市.....170	

※愛荘町は町独自の取組

IV 地域未来塾の実践事例 193

◆令和5年度地域未来塾一覧	193
◇彦根市	194
◇日野町	209
◇湖南省	204
◇竜王町	210
◇米原市	206
◇多賀町	211

V 放課後子ども教室の実践事例 212

◆令和5年度放課後子ども教室一覧	212
◇近江八幡市	213
◇東近江市	230
◇草津市	219
◇日野町	234
◇栗東市	220
◇多賀町	237
◇甲賀市	224
○放課後児童クラブの現状	238
◇野洲市	226

VI 土曜日の教育支援活動の実践事例 240

◆令和5年度土曜日の教育支援活動一覧	240
◇長浜市	241
◇東近江市	247
◇湖南省	242
◇竜王町	255

VII 地域における家庭教育支援基盤構築事業の実践事例 257

◆令和5年度家庭教育支援活動一覧	257
◇彦根市	258
◇湖南省	274
◇近江八幡市	264
◇高島市	276
◇草津市	266
◇東近江市	278
◇栗東市	268
◇日野町	280
◇甲賀市	270
◇竜王町	282
◇野洲市	272

VIII コミュニティ・スクール推進事業 284

令和5年度 学校を核とした地域力強化プラン

滋賀県教育委員会

地域住民等の参画により、地域の将来を担う人の育成を社会全体で担うとともに、持続可能な地域の教育基盤の形成を図る。

趣旨

滋賀県「地域学校協働活動推進事業」

【補助率】 国 1/3
都道府県 1/3
市町村 1/3

地域と学校が連携・協働し、将来を担う子どもたちの教育を支えるため、幅広い層の地域住民や企業・団体等の参画により、県民一人ひとりが当事者意識をもって地域を創生する活動として、「地域学校協働活動」を推進する。

県 推進協議会の設置

- 総合的な教育支援活動の在り方の検討
- コーディネーター等を対象とした研修の企画
- 事業の評価

市町 運営委員会の設置

- 教育委員会と福祉部局等の連携方策
- 地域の人材確保方策の検討
- 支援体制の整備・支援活動の実施 等

統括的な地域学校協働活動推進員

(統括的な地域コーディネーター)

- ・未実施地域における取組実施を推進
- ・地域コーディネーターの資質や活動の質の向上

地域学校協働活動推進員

(地域コーディネーター)

- ・地域住民等や学校との連絡・調整
- ・地域学校協働活動の企画・推進等

地域学校協働活動推進員(地域コーディネーター)を中心に、様々なボランティアが緩やかなネットワークを構築し、地域学校協働活動を推進

CSの導入・促進

○CSディレクターの活用により、円滑なコミュニティ・スクールの導入および推進体制構築の支援

補助要件

- ①コミュニティ・スクールを導入していること、または導入に向けた具体的な計画があること
- ②地域学校協働活動推進員を配置すること

「コミュニティ・スクール」と「地域学校協働活動」の一体的推進

地域人材等の参画

地域学校協働活動



地域学校協働本部

■地域と学校が連携・協働する仕組みづくり(本部)を促進し、地域全体で子どもの成長を支え、地域を創生する活動を実施

(R5) 16市町 134本部

- ・学校支援活動・学校周辺環境整備
- ・郷土学習 ・学びによるまちづくり
- ・地域人材育成・地域行事への参加 等



地域未来塾

■中学生を対象に、大学生や教員OBなど地域住民の協力による学習支援を実施

(R5) 6市町 35教室

- ・放課後や長期休業中に学習を深めたいすべての子どもに学ぶ機会を提供



放課後子ども教室

■放課後の子どもたちの「自主的な学びの場」と「安心・安全な居場所」の充実

(R5) 8市町 44教室

- ・活動拠点(居場所)の確保
- ・放課後等の学習指導
- ・自然体験活動支援
- ・文化活動支援 など
- 放課後児童クラブ(首長部局)と連携

土曜日の教育支援

■すべての子どもたちの土曜日の教育活動を充実させるため、外部人材等の参画により、特色・魅力のある教育プログラムを企画・実施

(R5) 4市町 29教室

- ・民間企業・団体等を中心として多様な経験や技能を持つ人材等の協力を得た支援体制の構築

趣旨

「コミュニティ・スクール推進事業」(県実施)

【補助率】 国 1/3
都道府県 2/3

公立学校が地域の人々と目標を共有し、地域と一体となって子どもたちを育む「地域とともにある学校づくり」をめざす「コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)」の導入を加速させ、将来の地域を担う人材の育成、学校を核とした地域づくりを推進する。

CSアドバイザー派遣

- 各自治体のCS立ち上げや推進体制の構築に向けた助言
- 市町と県立学校との関係の構築や情報の共有を推進

研修の充実

- 学校運営協議会委員・教職員等を対象とした研修会を開催。制度等への理解を深め、導入の促進と取組の充実を図る。

趣旨

「地域における家庭教育支援基盤構築事業」

11市町

【補助率】 国 1/3
都道府県 1/3
市町村 1/3

各地域における家庭教育支援員等の養成、家庭教育支援チームの組織化及び学習機会の効果的な提供等の様々な取組に加え、家庭教育支援チーム等の組織化・活動強化を図るための取組の推進など、家庭教育を支援するための様々な取組を支援する。

地域人材の養成

- 家庭教育支援員等の養成

家庭教育支援体制の構築

- 家庭教育支援チームの組織化
- 家庭教育支援員の配置

家庭教育を支援する取組の展開

- 学習機会の効果的な提供
- 親子参加型行事の実施
- 情報提供・相談対応等

○家庭教育支援チームの拡充を含めた地域における家庭教育支援体制の拡充・強化

…訪問型家庭教育支援に取り組む家庭教育支援員の配置拡充を推進

○学校と連携し、家庭をつなぐ機会を創出するための家庭教育支援員のコーディネート力や専門性の向上等に関わる研修機会の充実

地域学校協働本部

〔令和5年度 滋賀県教育委員会〕

【補助率】

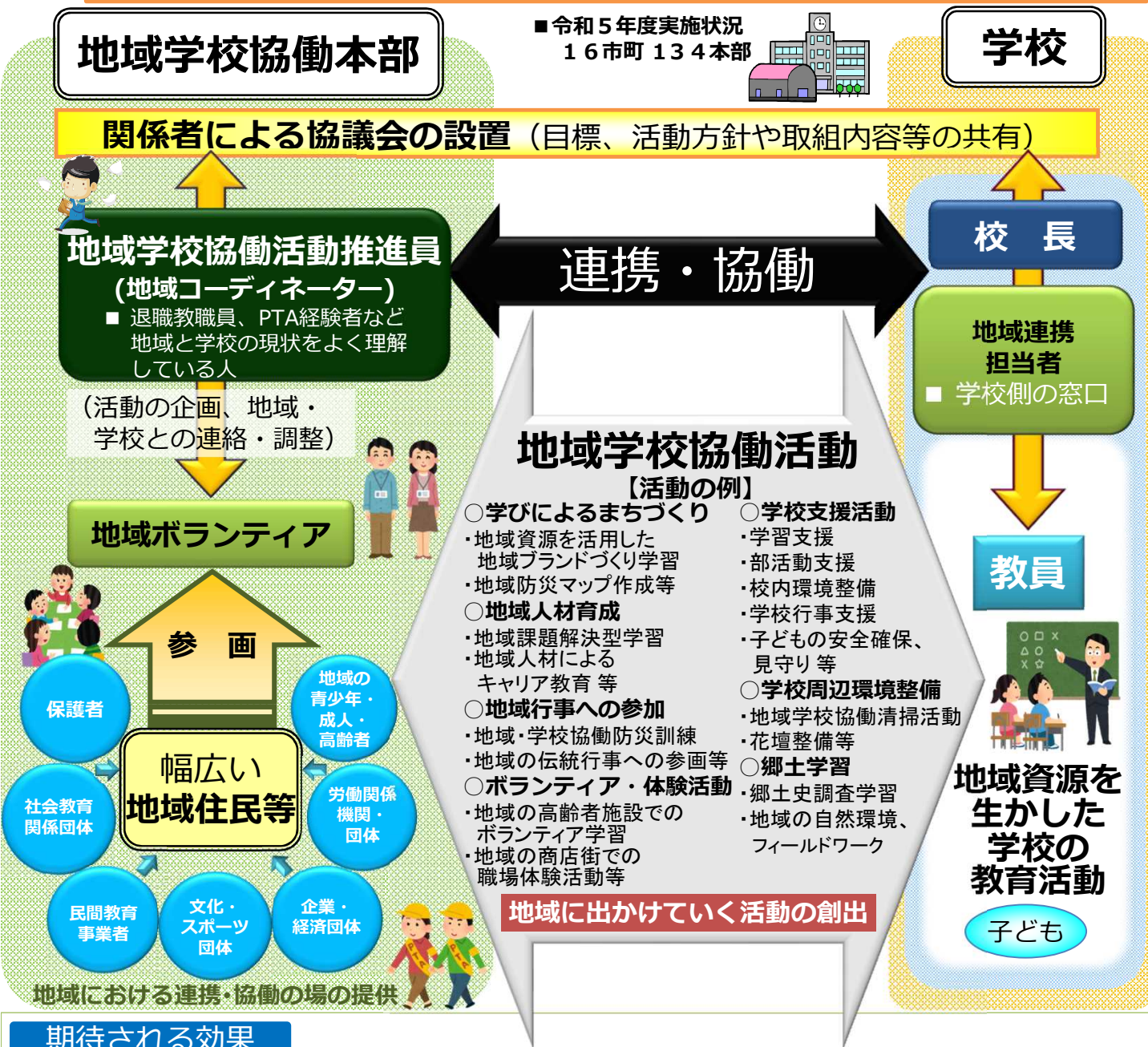
国	1/3
都道府県	1/3
市町村	1/3

「支援」から「連携・協働」へ

幅広い地域住民等の参画により、地域と学校が連携・協働しながら、地域全体で子どもの成長を支え、地域を創生する活動を実施

趣旨

地域と学校が連携・協働する仕組みづくりを促進し、子どもたちを支えるだけでなく、地域住民の生涯学習・自己実現に資するとともに、活動を通じて地域のつながり・絆を強化し、地域の活性化を図る。



期待される効果

子どもにとって

⇒ 専門的な知識や技能を持った地域住民等とのふれあいを通じて、学びや体験活動が充実するとともに、地域の人々と顔見知りになり、地域の担い手としての自覚が高まる。また、多様な経験を積むことで、学習意欲が喚起され、自ら課題を解決しようとする資質や能力が育まれる。

学校にとって

⇒ 地域住民等の理解と協力を得て、地域資源を生かした授業づくりが進められる。また、学校支援ボランティアが組織化されると、教員の異動に関わらず、持続可能な学校支援体制が担保される。子どもの教育を保護者や地域住民等とともに担うことで、ひいては教員の負担軽減につながり、子どもと向き合う時間が増える。

地域にとって

⇒ 地域住民等が自らの経験や知識を子どもの教育に生かすことで、生きがいや自己実現の機会や場がつけられる。地域の子どもの顔見知りになり、ひいては、地域住民同士も顔と名前が一致する関係が進む。学校を舞台に地域の緩やかなネットワークが形成され、新たな地域コミュニティがつけられる。

地域未来塾

〔令和5年度 滋賀県教育委員会〕

【補助率】	国	1/3
	都道府県	1/3
	市町村	1/3

－地域の力による放課後等学習教室－

現状と課題

- ・児童・生徒が、平日に学校の授業時間以外に勉強する時間が、全国と比較して短い。
- ・家で学校からの課題でわからないことがあったとき、そのままにしている中学生が約12%いる。
【令和4年度 全国学力・学習状況調査結果より】
- ・家庭の事情に左右されず、誰もが学習できる環境づくりが必要。

『第3期教育振興基本計画』 (H31.3策定)

家庭の状況が多様化する中、子どもがしっかりとした学力を身に付けることができるよう、幅広い地域住民の参画により、放課後、土曜日、休日等における一人ひとりの子どもに寄り添った学習や居場所づくりの取組を支援します。

国の動向

- 地域住民等の参画による放課後等の学習支援・体験活動として位置づけを変更。
- ・ **全ての児童・生徒を対象**に、退職教員や大学生等の地域住民等の協力により実施する **原則無料**の学習支援等
 - ・ 社会的経済的背景によらず、**誰もが学ぶことができる環境の実現**
 - ・ 地域での活動と学校の教育課程との連携を図り、教師だけでは取り組みにくい活動につなげる。

趣旨

地域未来塾

中学生を対象に、大学生や教員OBなど地域住民の協力による学習支援を実施

- ◆ 幅広い地域の協力を得て、放課後や長期休業中に学習を深めたい全ての子どもに学ぶ機会を提供
- ◆ **家庭での学習習慣が十分に身に付いていない**中学生への学習支援の場として、**多様な視点からの支援を実現**
- ◆ 部活動休業日（ノ一部活デー）の受皿として実施することで、教員の負担軽減を

教室のモデル

大学生や教員OBなどの学習支援員
・教育活動サポーター等を配置

【内容】

- ① 自学自習の支援など補習的学習
- ② 講義・授業など、教科に即した発展的学習

【対象】

学年や参加希望の有無などは、実施主体の実態に応じて柔軟に設定

【場所】

実施主体の実態に応じて柔軟に設定（学校の余裕教室や地域の公民館など）

【回数等】

回数、定期・不定期不問

○県内の取組事例

- 〈中学校で実施・放課後の学習支援〉
- ・対象は、中1～3年生の希望者
- ・年間40日（毎週水曜日、1時間程度）
- ・国語、英語、数学の基礎学力を培う補充学習
- ・指導員は、教員OBや大学生

子どもたちの 学習習慣の定着 「学ぶ力」の向上

学校との連携

- ・活動スペースとなる余裕教室の提供
- ・学習プリントの提供
- ・児童生徒の情報交換
- ・参加を促す広報チラシ等の配布
- ・ボランティアへの助言・サポート など

■令和5年度実施状況
6市町 35教室

学習が遅れがちな子どもに対して、基礎学力の定着を図る。

学習機会の提供によって、**貧困の負の連鎖を断ち切る。**

貧困対策

貧困の中にある子どもの安全を確認し、その中で学習も支援する。

福祉部局からのアプローチ

○子どもの学習・生活支援事業
生活困窮世帯の子どもを対象とした学習・生活支援事業。県および市が国の補助を受け、13市2町で実施(R4)

○地域で遊べる・学べる淡海子ども食堂
「はぐくみ基金」による実施団体への助成事業
13市5町176か所で実施(R5.2月末)

放課後子ども教室

～新・放課後子ども総合プランの推進～

令和5年度
滋賀県教育委員会

国	1/3
都道府県	1/3
市町	1/3

【補助率】

趣旨

「放課後子ども教室」は、放課後等に小学校の余裕教室等を活用して、安全・安心な子どもの活動拠点(居場所)を設け、地域住民等の参画を得て、学習支援や体験活動を実施する。

令和5年度実施状況：8市町44教室

放課後子ども教室

『新・放課後子ども総合プラン』
として実施 (H30.9月策定)

放課後児童クラブ

【地域学校協働本部】
地域学校協働活動推進員

双方で情報共有

〈学校区ごとの協議会などで情報共有を図る。〉

放課後児童支援員

放課後子ども教室が設置されている場合は、積極的に交流する。

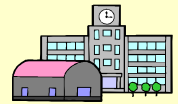
連携
協働

協働活動支援員
協働活動サポーター
学習支援員
特別支援・共生社会サポーター

多様な
プログラムの
提供
安全管理

○学習支援や体験活動

- ・学習支援(予習・復習、補充学習、ICTを活用した学習 大学生などによる進路相談など)
- ・体験活動(理科実験、芸術教室、伝承遊び体験活動、地域の資源を活用した自然体験学習、社会体験活動など)



参画

退職教職員、大学生、地域の高齢者、民間教育事業者、文化・芸術団体等の様々な地域人材

小学校など

- ・余裕教室や特別教室(図書室、家庭科室)等を提供
- ・学校敷地内の専用施設を利用
- ・体育館などの一時利用の促進

県の取組

学校を核とした地域力強化プラン研修会

地域学校協働活動推進員、コーディネーター、運営委員会委員、協働活動支援員、協働活動サポーター、学習支援員、特別支援・共生社会サポーター、ボランティア、専任指導員、放課後児童支援員、関係職員等が一堂に会し、情報交換、情報共有、資質の向上に努める。

市町の取組

放課後子ども総合プラン運営委員会

- ・事業計画の策定・安全管理方策・広報活動方策
- ・ボランティア等の人材確保・活動プログラムの企画・事業実施後の検証・評価

放課後子ども教室

連携

放課後児童クラブ(学童保育)

○すべての子ども(小学校に就学している児童)
○学習支援・体験活動の場
地域学校協働活動推進員等のコーディネーターが中心となって、学習やスポーツ、文化活動、地域住民や異年齢の子どもとの交流活動を行う。
○伝承遊び、学習(予習、復習、宿題等)、スポーツ、文化活動など
協働活動支援員・協働活動サポーター・学習支援員 学習支援や多様なプログラムの実施、安全管理 特別支援・共生社会サポーター 特に配慮が必要な子どもたちへの支援
○小学校の余裕教室、体育館、グラウンド、地域の公民館など
○平日の放課後・週末(教室により異なる)
○無料(教室により保険、材料費などの徴収あり)
○8市町44教室(令和5年12月現在)

対象
内容
主な活動
スタッフ
実施場所
開催日
利用者負担
県内数

○共働き家庭など留守家庭の小学校に就学している児童
○遊びの場・生活の場
放課後児童支援員が、保護者に代わり、健康管理、安全に対する配慮、活動状況の把握、児童の遊びの指導、活動の意欲や態度の形成、家庭との連絡などを行う。
○遊び、学習(宿題)
放課後児童支援員 遊びや生活をとおして、子どもたちの健全育成を図り、安全確保に努める。
○小学校の余裕教室、小学校敷地内やその付近の専用施設など
○平日の放課後、土曜(クラブにより異なる)
○月額5,000円～10,000円程度(施設により異なる)
○19市町333クラブ21,151人(令和5年5月1日現在)

土曜日の教育支援活動

【補助率】		令和5年度 滋賀県教育委員会
国	1/3	
都道府県	1/3	
市町	1/3	

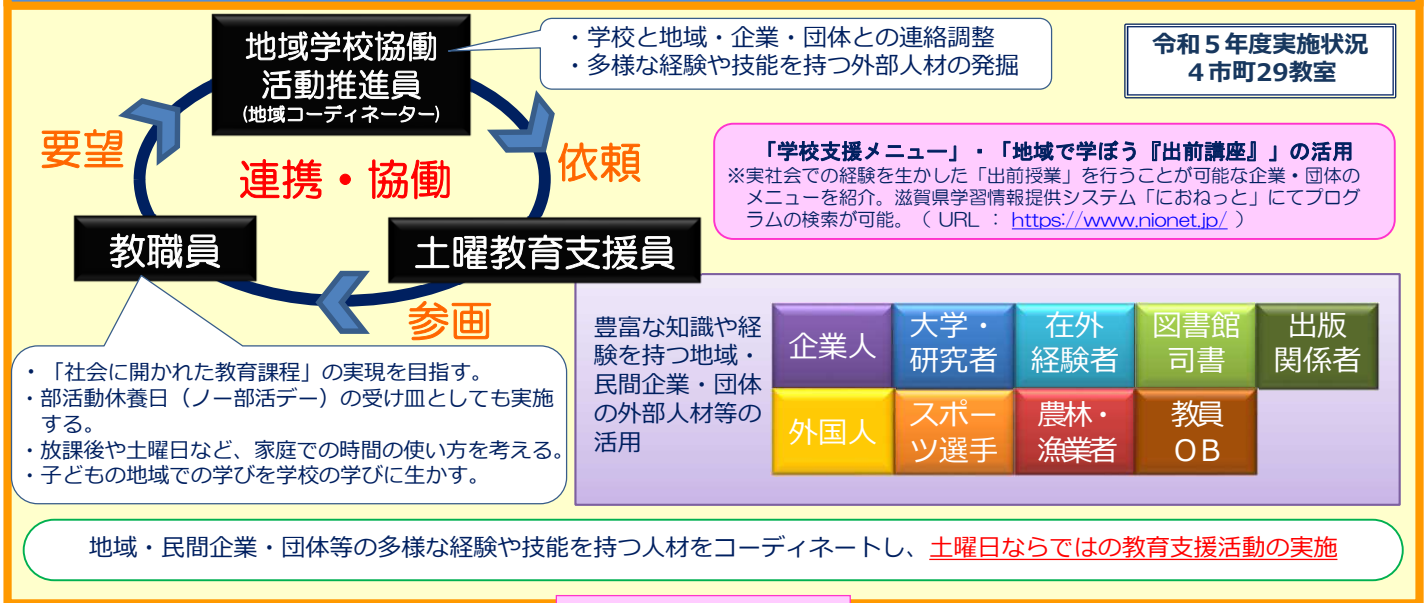
趣旨

全ての子どもたちの土曜日等の教育活動を充実するため、地域・民間企業・団体等の多様な経験や技能を持つ外部人材等の協力・参画を得て、地域の豊かな資源を活用した体系的・継続的な学習プログラムや特色ある学習プログラムを企画・実施する市町・学校等の取組を支援することにより、支援体制の構築を図るとともに、「学ぶ力^(※)」を育むことをめざす。

(※)「学ぶ力」：子どもたちが自分の将来を真剣に考え、仲間とともに力を合わせ、自ら学ぼうとする力



土曜日の教育支援活動の仕組み



- 地域の子どもの中心に据え、地域（地域人材）・家庭（保護者）・学校（教員）が**確かにつながり**、それぞれの立場から教育の営みに関わることにより、**「社会に開かれた教育課程」の実現**を図る。
- 地域の豊かな社会資源を活用した**体系的・継続的な学習プログラム**を実施することにより、**「学ぶ力」の向上**を図る。

～土曜学習例～

● 学習意欲や学習習慣形成につながる事例

学力向上を図る補足的・発展的学習、作文教室、科学実験教室、基礎学力の向上、中学生の学力向上、在外経験者による外国語教室等

● 体験活動を中心とした事例

自然体験、書道、絵画、茶道、囲碁、工作、料理、和太鼓、楽器演奏等

● 地域の歴史や文化を学ぶ事例

地域の伝統学習（伝統行事、祭り）等

地域・企業・団体ならではの
実社会で得られた
知識や経験を子どもたちへ!

外部人材を活用した土曜日の教育支援体制の構築により、社会全体で「子どもの育ち」を支える地域づくりを推進する。



地域における家庭教育支援基盤構築事業

背景

家庭を取り巻く環境が変化する中、地域において、全ての保護者が安心して家庭教育を行うことができる支援体制の仕組みづくりを行い、地域のニーズを踏まえた家庭教育支援の取組を行うことが重要である。

目的

家庭や地域と学校との連携強化を図りつつ、家庭教育支援に関わる地域の多様な人材の養成、家庭教育支援を担う者等の配置、「家庭教育支援チーム」の組織化等を行う。そして身近な地域における保護者への学習機会の提供や親子参加型行事の実施、家庭教育に関する情報提供や相談対応等の支援活動の実施に加え、支援が行き届きにくい家庭への対応を充実させることにより、地域における家庭教育支援の基盤を構築する。

各市町の家庭教育支援体制構築を支援

滋賀県

家庭教育員関係者等への研修の実施

- 「届ける家庭教育支援」地域活性化事業を活用し、市や町へ伴走支援をすることで、県内の支援が届きにくい家庭への対応の普及を図る。
- モデル市町等での取組で集積してきた知見や好事例を活用し、市町への支援を実施する。



- 地域の協力者の確保や資質向上等の方策
- 家庭や地域と学校との連携・協働の推進方策
- 他の事業関係者等との情報交換・情報共有
- 人材育成に係る専門的な研修内容

等の内容で研修実施

地域総ぐるみで家庭教育支援を支える持続可能な仕組みづくりの構築を目指す

市町で展開される事業内容

令和5年度実施 彦根市・近江八幡市・草津市・栗東市・甲賀市・野洲市
(11市町) 湖南市・高島市・東近江市・日野町・竜王町

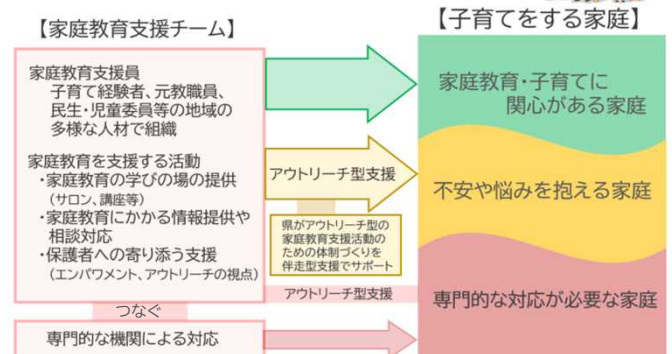
①運営委員会の設置等

- 家庭教育支援体制の整備、支援活動の在り方検討
- 地域の人材確保や養成方策の検討
- 福祉部局等との連携方策 等
行政関係者(教育委員会および福祉部局)、学校関係者、PTA関係者、社会教育関係者、学識経験者等幅広い分野の方々の参画を得て実施

②家庭教育支援に関する推進体制の構築

- 家庭教育支援に関わる地域の多様な人材の養成
支援活動の企画・運営・関係機関・団体への連携等を担う中核的人材を養成
- 家庭教育支援員等の配置
家庭教育に関する情報提供や相談対応等を行う家庭教育支援員を配置するなど、**身近な地域における家庭教育支援体制を強化**
- 「家庭教育支援チーム」の組織化
【チーム員構成例】
子育て経験者等の子育てサポーターリーダー、民生・児童委員、元教員、保健師、SSW等
- 家庭教育支援員等に対する研修の実施
県実施の研修を効果的な機会として活用。市町での実施も可能

地域全体で家庭教育を支える体制や支援が届きにくい家庭への対応を充実させることが必要



③家庭教育支援に関する取組の実施

- 保護者への学習機会の効果的な提供
就学時の健診や保護者会、参観日や企業内での従業員向け研修など、多くの親が集まる機会を活用
- 親子参加型行事の実施
親子の自己肯定感や子どもの自立心などを養成するプログラム提供
- 家庭教育に関する相談対応や情報提供
子育てに悩みや不安を抱える保護者、仕事で忙しい保護者など、様々な家庭状況に応じ、家庭教育支援チームなどによる情報提供や相談対応を実施
- 保護者に寄り添うアウトリーチ型支援の実施
自ら学びや相談の場にアクセスすることが困難な保護者など、**真に支援が必要な家庭**に対し、**家庭教育の自主性を尊重**しつつ、保護者の居場所に出向き、保護者に寄り添い情報提供や相談対応を実施する。

滋賀県コミュニティ・スクール推進事業

※「地域と学校の連携・協働体制構築事業」に含む。
令和5年度 滋賀県教育委員会

趣旨

・学校が抱える課題の解決を図り、子どもたちの教育活動等を一層充実していく観点から、地域住民等と目標やビジョンを共有し、地域と一体となって子どもたちを育む「地域とともにある学校づくり」を目指すことが必要とされる中、平成29年4月学校運営協議会の設置が努力義務化された。
・令和4年3月の「コミュニティ・スクールの在り方等に関する検討会議 最終まとめ」では、努力義務の継続が示されるとともに、コミュニティ・スクールの導入促進、質的向上、地域学校協働活動との一体的推進の3つの方向性が示された。県にアドバイザーを配置することで、各市町や県立学校のコミュニティ・スクール導入時の支援体制や導入後の質的向上のための伴走支援体制を構築する。

CS導入・運営の充実に向けた支援体制の構築

国庫補助事業「地域と学校の連携・協働体制構築事業」として実施 補助率：国1/3

①CSアドバイザー派遣

市町・県立学校のCS立ち上げや推進体制構築に向けた助言や設置後のアフターフォロー

②コミュニティ・スクールの研修の充実

推進フォーラム・学校管理職研修会・事業成果報告会等開催

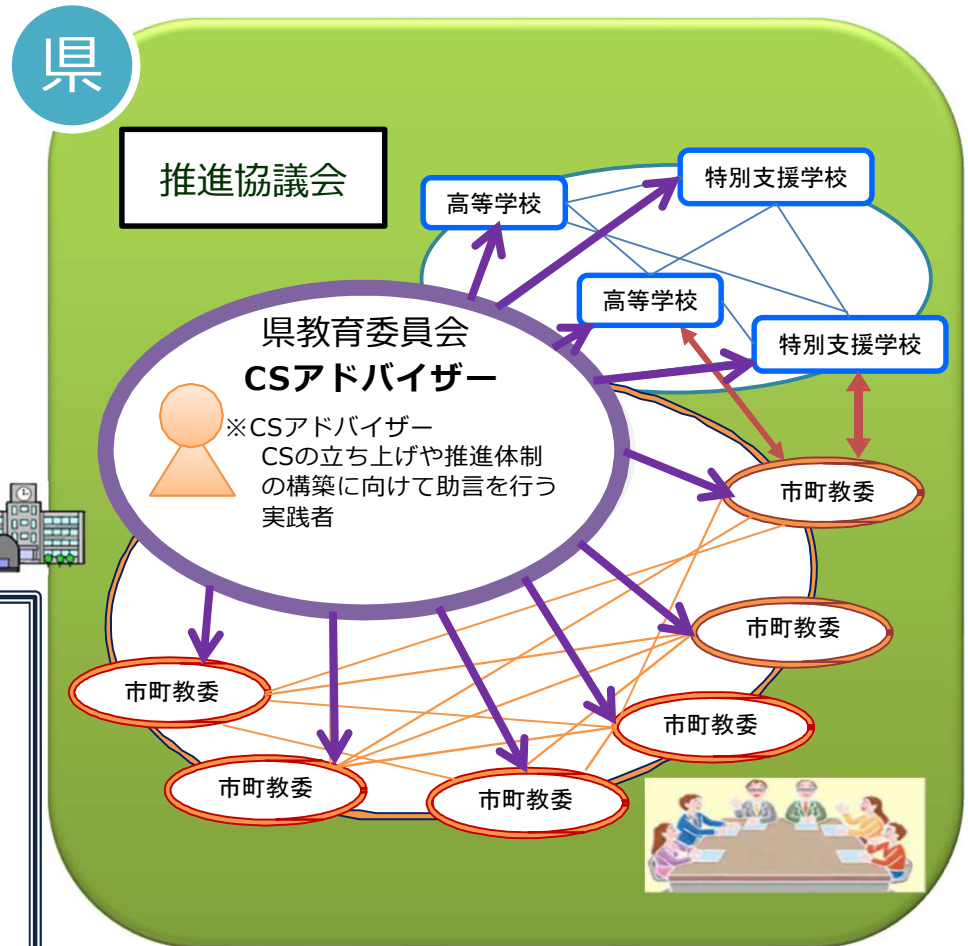
③推進協議会の開催

④学校運営協議会設置（県立学校）

コミュニティ・スクールの設置拡大および取組が充実することにより得られる効果

- 学校教育の質の向上および学校支援活動の充実
- 地域と学校が、共通したビジョンをもった主体的・能動的な取組の展開
- 地域の学校理解の深まり、当事者意識の向上

→社会総がかりで子どもたちを育む



⇨地域と学校の連携・協働体制の構築により、教職員が子どもと向き合う時間が確保される。

I 県の取組

(1) 推進協議会の概要

◆ 推進協議会委員（敬称略・五十音順）

No.	氏名	所属等	No.	氏名	所属等
1	伊藤 照男	滋賀県CSアドバイザー	5	中村 敦夫	滋賀県立甲良養護学校 校長
2	上村 文子	滋賀県スクールソーシャルワーク スーパーバイザー	6	菱沼 由美	野洲市教育委員会事務局 生涯学習課 参事 社会教育士
3	近藤 秀幸	甲賀市立柏木小学校 校長	7	山元 尚美	湖南市立石部南小学校 地域学校協働 活動推進員 学校運営協議会委員
4	武井 哲郎	立命館大学経済学部 准教授 滋賀県CSアドバイザー			

◆ 第1回推進協議会

1 協議会概要

期 日：令和5年6月13日（火）15:00～16:30

会 場：滋賀県 大津合同庁舎7階 7-A会議室（会場参加による開催）

出席者：伊藤座長、武井副座長、近藤委員、中村委員、菱沼委員、山元委員

事務局：県生涯学習課（8名）、高校教育課 杉原参事、幼小中教育課 川端主査、特別支援教育課 木部参事、
子ども・青少年局 中村主任主事

- (1) 開 会 県生涯学習課長 挨拶
- (2) 座長（伊藤委員）、副座長（武井委員）選出
- (3) 協 議
 - ①令和5年度「学校を核とした地域力強化プラン」について
 - ②「地域・学校・家庭の連携・協働体制構築の推進」について
 - ・「学校の働き方改革」について
 - ・「子どもの主体的な学び・学びの深まり」について



2 協議要旨

- ・滋賀県はCSと地域学校協働活動を一体的に推進と言いつつ、県立学校はCSのみである。文科省は、市町と同様に県立学校にもCSと本部の両方を置くと想定していた。例えば、県立学校のうち養護学校には小学部・中学部があるが、地域学校協働本部がなくてよいのだろうか。教育振興基本計画でも、CSと地域学校協働活動の一体的推進は掲げられている。県立学校の本部について予算化の検討は重要だろう。
- ・学校現場では、学習支援ボランティアに関わっていただくことで働き方改革につながる。保護者が、先生に相談しにくい場面で、親子サポーターに相談していることで、教師の時間が確保できている。
- ・県立学校には地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）がいないため、直接的な働き方改革は難しいが、業務がルーティーン化、システム化されると働き方改革につながる可能性はある。
- ・家庭教育支援や教育相談では、地域の方の力を借りることで解決できることがあるだろう。
- ・CSや地域学校協働活動が充実している学校では、地域の良さを生かした学習が展開できる。総合的な学習の時間は、キャリア教育にもなり、学習効果も高い。
- ・県立学校は、総合的な探究の時間の中で学びを深めている。県内45校中24校が地域連携重点校である。モデル事業の2校は、県独自の地域コーディネーターを配置している。



◆第2回推進協議会

1 協議会概要

期 日：令和6年2月9日（金）10:00～11:30
 会 場：滋賀県庁北新館 5-C会議室（会場参加による開催）
 出席者：伊藤座長、上村委員、近藤委員、中村委員、菱沼委員、山元委員
 事務局：県生涯学習課（8名）、高校教育課 杉原参事、幼小中教育課 畑参事、特別支援教育課 木部参事、子ども・青少年局 中村主任主事

- (1) 開 会 伊藤座長 挨拶
- (2) 報 告

令和5年度滋賀県各事業の取組について

- ① 県実施事業について
- ② 各市町における地域学校協働活動の取組状況について
- ③ コミュニティ・スクール導入状況およびCSアドバイザー会議・派遣について
- ④ 県および各市町における家庭教育支援の状況について
- ⑤ 情報提供（文部科学省「令和5年度コミュニティ・スクール及び地域学校協働活動実施状況について」）
- ⑥ その他（滋賀県設定目標にかかるアンケート結果、県立学校地域協働モデル事業）

- (3) 協 議

今後の地域と学校の連携・協働体制の推進のあり方について



2 協議要旨

- ・子どもを真ん中にネットワークを作ること、将来の地域づくりにつながる。
- ・困難を有する家庭であっても、家庭教育支援事業とCSの相乗効果が大きい。
- ・今年度から学校運営協議会、地域学校協働本部を設置したところ、学校評価において教職員の肯定的な評価が多かった。課題としては、補助金に頼らずに自走していくためのお金の整理や市教委からの具体的なアドバイスが必要であることが挙げられる。
- ・野洲市の家庭教育支援事業の取組では、困っている保護者が学校の先生ではない方に気軽に相談でき、子どもの背中を押してくれる姿が微笑ましい。
- ・保護者の方を支えようとするボランティアの志の部分が、上手に紡がれていくことが持続可能だと考えている。
- ・志でつながる方にきちんと光が届くようにするのが、行政の務めと思う。
- ・CSにより、管理職が課題について地域に相談しやすくなり、意見交換がスムーズにできるようになったと聞く。
- ・地域と学校をつなぐコーディネーターは、最初はしんどいが、道筋がつくと働き方改革につながる。
- ・特別支援学校の子どもの課題は、コミュニケーションである。地域の方の力を借りたい。
- ・子どもを中心に捉えた活動と働き方改革をどう落とし込むかの整理は教育現場としては必要だろう。
- ・特別支援学校において、地域との連携は非常に大きい。卒業後は、地域で生活する子が多いため、地域で育つ環境、地域で学べる環境づくりも考えている。
- ・県立学校モデル事業について、実施予定モデル校の体制づくりが重要。働き方改革に逆行しないように。
- ・地域づくり、CSと地域学校協働活動の一体的推進の基盤づくりを先生も一緒に作っていかねばならない。
- ・放課後児童クラブと放課後子ども教室について、関係各課で情報共有しながら連携が進むとよい。

質問1 (昨年度よりも) 地域と学校の連携協働によって、「学校における働き方改革」につながりましたか。					目標値 50%
回答数	つながったと思う	まあつながったと思う	あまりつながったと思わない	つながったと思わない	計
小学校 (義務教育学校を含む)	36	55	33	4	128
中学校	11	21	13	2	47
	47	76	46	6	175
	26.9%	43.4%	26.3%	3.4%	100%
	70.3%		29.7%		100%

質問2 (昨年度よりも) 地域と学校の連携協働によって、子どもの主体的な学びにつながったり、子どもの学びが深まりましたか。					目標値 70%
回答数	そう思う	まあそう思う	あまりそう思わない	思わない	計
小学校 (義務教育学校を含む)	54	56	16	2	128
中学校	19	21	5	2	47
	73	77	21	4	175
	41.7%	44.0%	12.0%	2.3%	100%
	85.7%		14.3%		100%

(2) 各研修会の概要

◆令和5年度 滋賀県「学校を核とした地域力強化プラン」研修会（市町事業担当者対象）

- 1 **趣旨** 県で実施される「学校を核とした地域力強化プラン」に係る市町の事業担当者を対象に、事業の趣旨や運営上の留意点などを説明することにより、事業の円滑な実施を図る。また、地域学校協働活動とコミュニティ・スクールの一体的な推進方策についての理解を深め、普及につなげる。
県全域において市町の連絡体制の構築や情報の共有を推進するとともに、設置の拡大や運営の充実に向けた方策について情報交換する。
- 2 **主催** 滋賀県教育委員会
- 3 **対象** (1) 「学校を核とした地域力強化プラン」事業主管課の担当者
(2) 各市町生涯学習・社会教育主管課担当者
(3) 各市町学校教育主管課担当者
- 4 **日時** 令和5年4月27日（木） 14:00～17:00
- 5 **会場** 滋賀県庁東館7階大会議室（大津市京町四丁目1番1号）
または、任意の会場（オンライン参加）

6 内容

- 行政説明
- ・滋賀県における地域と学校の連携・協働推進方針について
 - ・事業概要について
 - ・今年度の研修について
 - ・補助金事務および事業実施の留意点について
- 講演
- ・演題:「こどものために みんなで つなぐ 地域とともにある学校 コミュニティ・スクール ～社会に開かれた教育課程の実現に向けて～」
 - ・講師: 文部科学省総合教育政策局CSマイスター
ひいらぎこども園保育士 西 孝一郎 氏
- 情報交換
- ・県内のプラン事業の推進状況について
 - ・各市町における課題や成果等について

7 **参加者数** 37名（来場23名、オンライン14名）

8 講演の概要

目指す子ども像を達成するためには、社会に開かれた教育課程を実施しなくてはならない。また、社会に開かれた教育課程を実施する方策として、コミュニティ・スクールを活用していくこと、さらに教員一人ひとりが、カリキュラムマネジメントを実施していくことについて、4つの観点から図や事例をもとに丁寧な御教示いただいた。また、法令等の文言を参加者のわかりやすい言葉に変換し、「子どものために」「みんなで」「つながって」取り組むコミュニティ・スクールがこれからの教育活動に不可欠であることを、参加者で共有することができた。

9 参加者のアンケートより

- ・コミュニティ・スクールにおける目的、そしてキーワードとなる「熟議」「協働」「マネジメント」の意味について図や事例をもとにわかりやすく伝えてくださった。
- ・「子どものために」学校・地域の大人が手を取り合い、次世代の社会に生きる子どもの育成に関わるべきであると考えた。
- ・昨年度も聞かせていただいて大変わかりやすかった。くり返し聞くことで、より理解が深まった。
- ・大変具体的な説明で、コミュニティ・スクールの意義が腑に落ちた。
- ・学校運営協議会と地域学校協働活動を連携させていくことの必要性を感じた。
- ・コミュニティ・スクールのイメージをしっかりと理解することができた。
- ・コミュニティ・スクールの目指すところについて言語化されており、大変わかりやすかった。
- ・「なぜCSの設置が必要なのか」「どこを目指して事業の推進を図ればいいのか」など基本的なことをわかりやすく説明していただいたので、理解が深まった。
- ・他市町におけるコミュニティ・スクールに関わる取組や悩みについて共有することができ、県の課題や今後の見通しについて理解を深めることができた
- ・導入が進んでいる他市町の様子を聞くことができ、参考にできる内容について活かしていきたい。
- ・他市町の進捗状況や推進する上での課題などが大変参考になった。
- ・共通の課題が見えたり、互いの状況がわかったり、良い場であったと思う。



◆「学校を核とした地域力強化プラン」研修会（新規導入市町等対象）

1 趣旨 コミュニティ・スクールおよび地域学校協働活動を導入する（予定も含む）市町・学校の事業担当者や地域学校協働活動推進員等を対象に、事業の趣旨や運営上の留意点などを説明するとともに、具体的な体制整備に向けた手立てを学ぶ機会とする。また、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的な推進の方策について理解を深め、普及につなげる。

2 主催 滋賀県教育委員会

3 対象（主に新規導入市町を対象とする）

- (1) 各市町「学校を核とした地域力強化プラン」担当者
- (2) 各校園の地域連携担当教職員
- (3) 各校園の学校運営協議会委員
- (4) 地域学校協働活動の関係者（推進員、協働活動支援員、学習支援員等）
- (5) 各市町社会教育委員



4 日時 令和5年6月6日（火）13:30～16:30

5 会場 滋賀県庁 東館7階 大会議室

6 内容 (1) 講演：「これで安心！コミュニティ・スクールと地域学校協働活動
～ちがいを知れば一体的に進められる～」

講師：国立教育政策研究所 生涯学習政策研究部
総括研究官 志々田 まなみ 氏

(2) ミニトーク：「コミュニティ・スクールや地域学校協働活動の不安の解消に向けて」

7 参加者 110名（来場47名、オンライン63名）

8 研修会の概要（講演・ミニトークについて）

志々田氏より、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の違いや、その一体的推進について御教示いただいた。

コミュニティ・スクールとは、保護者や地域住民の意見を学校運営に反映させる仕組みである「学校運営協議会」が、教育委員会によって設置された学校のことである。地域学校協働活動とは、教職員と地域住民とが、課題や教育目標を共有し、教育的な役割を自覚し、分担しあったり、協力しあったりしながら子育てを進めようとする地域づくりの取組である。

両者の一体的推進のカギとなるのは、当事者意識を持って、多様な他者と関わりながら、学校・子どもをめぐる教育課題に取り組む大人の存在である。

参加者から出た質問や、市町から募った不安な点や疑問点について、志々田氏から丁寧に回答していただき、自身の役割について具体的にイメージをすることができた方が多かった。

9 参加者のアンケートより

- ・今、自校のコミュニティ・スクールはどうかを考えることができた。自校では今年度から全職員が運営協議会に出席し、様々な立場の者同士で話をする機会を持つ。目標実現に向けて話し合える環境ができていることは良いこととわかり安心した。また、皆が当事者意識を持ち、子どものことをたくさん知ってもらえるように仕組んでいきたい。
- ・まずは子どもを見てもらう、ということがベースになるのはその通りだと思う。地域と同じ方向を向いて活動をしていくときに、学校のグランドデザインを共有し、学校の考えていることを示しながら、地域はどんな子育てや地域づくりを目指しておられるのかをこれからも発信・受信していきたい。
- ・地域連携担当教職員の学校での役割はカリキュラムマネジメントであるということだった。学校運営協議会での熟議と学校のカリキュラムをつないでいくには、やはり学校内でビジョンをある程度持つておく必要があると思った。
- ・コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進のために学校運営協議会の在り方や、役割等が理解できた。当事者意識を持つことや、教育目標を共有することの大切さが分かった。現任校でもコミュニティ・スクールが始まったばかりなので、活動ありきの協議会ではなく、子どもたちに付けたい力を語り合える場にしていきたいと思った。



◆県立学校コミュニティ・スクール推進事業研修会

- 1 **趣旨** 学校と地域が一体となって子どもを育む「地域とともにある学校づくり」の充実方策について、コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の有効的な取組に係る講演やトークセッションを通して、県立学校における円滑かつ効果的な導入や取組の充実に資することを目的とする。
- 2 **主催** 滋賀県教育委員会
- 3 **対象（主に県立特別支援学校関係者を対象とする）**
 - (1) 県立特別支援学校教職員、県立高等学校教職員
 - (2) 県立学校運営協議会（コミュニティ・スクール）関係者、学校評議員
 - (3) 各市町担当者、県・市町社会教育委員
 - (4) 「地域連携担当者」等新任研修受講者（選択研修）
- 4 **日時** 令和5年7月4日（火）13:30～16:30
- 5 **会場** 滋賀県庁 東館7階 大会議室
- 6 **内容**
 - (1) 事例紹介
テーマ：「草津養護学校におけるコミュニティ・スクール導入から現在まで」
事例紹介者：草津養護学校 学校運営協議会 元会長 武居 誠 氏
草津養護学校 副校長 中塚 薫 氏
 - (2) 講演
演題：「京都市立東総合支援学校のコミュニティ・スクールの取組」
講師：京都市立東総合支援学校 教頭 鎌田 由佳理 氏
 - (3) グループ別情報交換
- 7 **参加者** 39名（来場21名・オンライン18名）
- 8 **事例紹介・講演・グループ別情報交換について**

事例紹介では、県内の県立特別支援学校で初めてコミュニティ・スクールを導入された草津養護学校の取組について、武居元会長と中塚副校長に御紹介いただきました。学校運営協議会設置によるビジョンの明確化、委員の選定、会長の思いに沿った運営方法について詳しく教えていただきました。

講演では、全国的にも早期に導入された京都市立東総合支援学校の鎌田教頭より御講演いただきました。「主体的に活動する子ども」、「人とものを大切にする子ども」を育むための様々な活動を御教示いただき、滋賀県内の今後のコミュニティ・スクールの取組に多くのヒントをいただきました。

グループ別情報交換では、これからCSを導入する学校と既に導入している学校の交流や、異校種の交流により広い視野でCSについて考えていただく機会となりました。

9 参加者のアンケートより

- ・具体的に立ち上げの様子や御苦労、年々重ねる組織拡大や取組が大変わかりやすく、参考になりました。自校で立ち上げるとしたら、そのメンバーやテーマ設定、どのように周囲を巻き込んでいくか、など考えることも多かったです。
- ・「地元・地域の方に守られる安心をめざして」という思いがよく伝わってきました。
- ・京都の支援学校の仕組みやコミュニティ・スクール京都方式、各学校の活動を知り、参考となる取組がありました。「発信する」「理解していただく」大切さを感じました。
- ・「地域の子は地域で育てる」という考え方が印象的でした。学校種や地域の差によってこれほどアプローチが異なるものかと感じました。参考にしたいです。
- ・他校の実践を知る機会があり大変参考になりました。特に、学校全体の教職員や保護者への周知については、学校運営協議会通信の発行を検討されている例もあり参考になりました。



◆「学校を核とした地域力強化プラン」研修会（事業推進市町等対象）

- 1 趣旨** 将来を担う子供たちの教育を支えるため、幅広い層の地域住民や企業・団体等の参画により地域学校協働活動が推進されることが期待されている。コミュニティ・スクールの導入も広がりを見せる近年、地域学校協働活動とコミュニティ・スクールが一体となった推進方策についての理解を深め、これからの地域と学校の在り方について学びを深め、一層の推進を狙い、対象者への研修会を開催する。
- 2 主催** 滋賀県教育委員会
- 3 対象** (1) コミュニティ・スクール、地域学校協働活動をすでに導入している（導入2年目以上）市町担当者、および市町立校園関係者
(2) 学校運営協議会 関係者
(3) 地域学校協働活動 関係者（推進員・地域コーディネーターなど）
(4) 県および市町の社会教育委員
(5) 教職員
- 4 日時** 令和5年10月12日（木） 13:30～16:30
- 5 会場** 滋賀県庁新館7階 大会議室（大津市京町四丁目1番1号）※オンライン参加も可。
- 6 内容** パネルディスカッション（参加型）
テーマ『『ともに考える』～コミュニティ・スクールの未来像～』
・パネリスト（3名）：大谷 裕美子 氏（文部科学省総合計画政策室CSマイスター 大阪府・奈良県社会教育委員 河内長野市立美加の台中学校区 ゆめ☆まなびネット代表コーディネーター）
関川 雅之 氏（竜王町地域学校協働本部統括マネージャー）
小柳 真一郎 氏（近江八幡市立八幡中学校 主幹教諭）
・助言・総括：大谷 裕美子 氏
- 7 参加者数** 88名（来場45名、オンライン43名）
- 8 研修会の概要**

(1) パネルディスカッション1の概要

事業を推進していく上での課題や悩み、困っていることについて事前に参加者にアンケートを実施した（Google フォームを利用）。アンケート結果が多かった「働き方改革」、「一体的推進」、「人材確保」について3名のパネリストから話題提供をしてもらい、ディスカッションを行った。

「働き方改革」について小柳氏は、様々な教育活動に地域の方が参画されることが「働き方改革」につながると八幡中学校での実践事例を紹介された。人材確保のために、地域・行政・企業とリンクし、「まちコイン」を利用していることや課題について教育現場からの視点で語っていただいた。

「一体的推進」について関川氏は、学校運営協議会と地域学校協働本部をつなぐ統括マネージャーの立場から竜王町の実践事例を紹介された。学校運営協議会と地域学校協働本部が「共通する目標」を持ち、学校が行うこと・地域が行うこと・CSが行うことのすみわけが重要であると語っていただいた。

「人材確保」については、大谷氏は、地域の方が学校に入っていくやすいように、楽しいことから始める「ボランティア活動のハードルを低くする」ことについて、実践事例を紹介された。地域の方の参画には、学校運営協議会を中心に、学習課題の解決のために必要な方々に依頼することが重要であると語っていただいた。

(2) パネルディスカッション2の概要

パネルディスカッション1を聞いた参加者に「学びのキーワード」についてのアンケートを実施した（Google フォームを利用）。回答を集約し、AI テキストマイニングで提示し、「わからないこと」を中心にパネリストがディスカッションを展開した。大谷氏は、「ボランティアの選定の方法」について学校・子ども・教員の安心安全を守るために、適材適所にコーディネートしていくこと、小柳氏は、学校をよくしていくための熟議に地域の方が参加されている「八中サミット」を紹介された。

最後に「持続可能な取組にしていく」ために、三者それぞれのお立場から「人が変わっても大事にしていくことを引き継いでいくこと」、「コミュニティ・スクールの活動そのものが持続可能な取組であること」、「地域連携担当者を複数にし、学校内で引き継ぎが円滑に行われること」等を語っていただいた。

総括・助言として大谷氏から「一体的推進」について自転車の図を使って、わかりやすく説明いただいた。また一体的推進を進めていく上での学校運営協議会の重要性、人材発掘のスリーステップ「参加・手伝う・企画」、地域の方が参画したいと思う「しかけ・きっかけ・声かけ」（3つのかけ算）について実践事例をもとにわかりやすく御教授いただいた。

9 参加者のアンケートより

- ・人材確保ということが一番の悩みであったが、パネリストの方の話聞く中で、そのために学校運営協議会があるということを知り、納得し安心した。委員の方々は力強い味方だと思って、ともに目標に向かって進んでいきたい。
- ・コーディネーターの役割が大きいと改めて感じた。自転車の図もよくわかった。持続可能な活動にするための考え方、ポイントもわかりよかった。
- ・これからも今までの場所にとどまることなく、新しいことにどんどんチャレンジしていきたいと思う。



◆「学校を核とした地域力強化プラン事業」成果報告会

- 1 趣旨** 標記事業に関わる関係者、学校教職員、行政職員等が一堂に会し、各市町における取組事例の報告をもとに「地域とともにある学校づくり」に関する情報交換を通じて、地域学校協働活動のさらなる展開やコミュニティ・スクールとの一体的な推進に向けて、今後の方策や地域と学校の連携の在り方について、ともに学ぶ機会とする。
- 2 主催** 滋賀県教育委員会
- 3 対象** (1) 地域学校協働活動関係者（推進員、地域コーディネーター、ボランティア等）
(2) 学校運営協議会（コミュニティ・スクール）関係者（協議会委員等）
(3) 家庭教育支援員、家庭教育関係者、子育て支援関係者
(4) 各市町「学校を核とした地域力強化プラン」関係者（行政担当者等）
(5) 公立幼稚園・小・中学校教職員、県立高等学校・特別支援学校教職員
(6) 県および市町の社会教育委員
(7) 社会教育士
- 4 日時** 令和6年1月19日（金）13:30～16:30
- 5 会場** 滋賀県庁 東館7階 大会議室
- 6 内容** ・報告① 甲賀市立貴生川小学校 貴生川小学校地域学校協働本部
「貴生川小学校における学校運営協議会と地域学校協働活動の一体的推進」
～はじめよう やってみよう～
貴生川小学校地域連携担当教職員 福井 里江子 氏、推進員 沢井 譲 氏
- ・報告② 米原市立米原中学校 米原中学校地域学校協働本部
「人をつなぎ、学びをつなぐ場面の創出をめざして」
～米原中学校（校区）の地域連携について～
米原中学校 教頭 村居 雅道 氏、推進員 角田 義明 氏
- ・講評：「学校を核とした地域力強化プラン」に係る推進協議会 座長 伊藤 照男 氏
- 7 参加者数** 116名（来場39名、オンライン77名）

8 報告・意見交流の概要

貴生川小学校では、学校運営協議会と地域学校協働本部を明確に構想図の中に位置付け、一体的推進を図ってきた。結果、「HelpからAssistへ」を合言葉に学校支援ボランティアが自主的に企画したり、コミュニティ・スクール「ふるさと部会」と共に社会に開かれた教育課程を実現できたりしている。学校運営協議会の議事録や、ボランティアの募集などをHP上で広く情報発信されている。

米原中学校では、「人をつなぎ 学びをつなぐ」場面の創出をテーマに、子どもも大人も地域一丸となって地域と仲間、学びと学びをつなぐ場面を創出することを推進してきた。そのために保護者や地域住民がともに学校運営に関わり、地域全体で子どもたちの学びや成長を支え、地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働し、農園活動やかまどベンチ製作をはじめとするさまざまな活動を行ってきた。

持続可能な取組にするため、子どもの育ちというねらいがぶれないよう、焦らずに積み上げていくことが必要である。

9 参加者のアンケートより

- ・きちんと構想を練り、目指す方向や思いを共有しながら連携することの大切さを改めて感じた。何より「ボランティアさん・サポーターさんはお手伝いさんではない」という当たり前のことをはっきり言われたのが、すっきりした。



- ・講評からは、改めて「何をめざしているか」「どんな子どもに育てたいか」「ぶれない目標」「委員や教職員がコミュニティ・スクールについて語れるか」ということを、取組を進めていく中で常に振り返りながら進めていかなければならないことに気付くことができた。



◆「地域における家庭教育支援基盤構築事業」にかかる研修会

核家族化、地域のつながりの希薄化、コロナ禍等、家庭を取り巻く環境が大きく変わり、子育ての悩みや不安を抱えた家庭の増加等、家庭教育を行う上での困難な状況が指摘されている。また、様々な課題を抱えつつ、地域から孤立し、自ら相談の場にアクセスすることが困難な家庭等、支援が届きにくい家庭への対応や児童虐待等、子どもをめぐる状況が懸念される中、本県においては家庭の実情に応じ、多様な人材による家庭教育支援活動が展開されている。

そこで、各地域で家庭教育支援活動に取り組む関係者等が集まり、家庭教育支援活動の現状や推進方策等について学び、情報交換や情報共有することで、県内家庭教育支援活動のさらなる充実を図るために本研修会・交流会を実施する。

- 3回シリーズとして実施。1回目は家庭教育支援の基礎を学ぶ機会に、2回目は、専門的なスキルアップを目指す機会に、3回目は県内の取組事例を知り自分たちに活かす機会とする。
- 受講対象者を広げるとともに、参加者も家庭教育関係者をはじめ、子ども食堂関係者やフリースクール関係者等も幅広く参加いただき、滋賀県内の家庭教育支援のつながりをつくる機会にもなっている。

1. 家庭教育支援基礎研修会（家庭教育支援の基礎を学ぶ機会）

日 時 令和5年6月22日（木）14:00～17:00 参加者数:84名
会 場 滋賀県庁東館7階大会議室（オンライン参加も可）
内 容 ○情報提供「滋賀県の家庭教育支援の取組について」
滋賀県教育委員会事務局生涯学習課
○講演：「かしこく、元気に、機嫌よく ～地域で支える家庭教育～」
講師：鈴木 みゆき氏（國學院大學人間開発学部子ども支援学科教授）
○情報交換：「各地域での家庭教育支援について」「家庭教育支援で困っていること」等

2. 家庭教育支援専門研修会（専門的なスキルアップを目指す機会）

日 時 令和5年9月14日（木）13:30～16:30 参加者数:103名
会 場 滋賀県庁東館7階大会議室（オンライン参加も可）
内 容 ○実践事例発表：「中央中学区 朝ごはんプロジェクトの取組から」
発表者：彦根市立中央中学校 教頭 松田 暁郎 氏
○講演：「つながりにくい親子に 光を届ける」
～支援者の心得・関わり方・支援の広げ方【相談援助編】～
講師：上村 文子 氏（滋賀県スクールソーシャルワーク スーパーバイザー・家庭教育支援アドバイザー）
○グループ別協議：「支援が届きにくい家庭への効果的な対応について」
ファシリテーター：西村 喜久子 氏（滋賀県スクールソーシャルワーカー）

3. 家庭教育支援実践交流会（県内の取組事例を知り自分たちに活かす機会）

日 時 令和6年1月25日（木）13:30～16:30 参加者数：46名
会 場 滋賀県立男女共同参画センター 大ホール
内 容 ○実践事例発表
・事例発表1：『効果的な事業展開 ～野洲市の取組～』
野洲市教育委員会事務局生涯学習課 参事 菱沼 由美 氏
・事例発表2：『地域からの支え方 ～家庭教育支援チームの取組～』
近江八幡市立武佐小学校家庭教育支援チーム 家庭教育支援員 富岡 早苗 氏
○助言：上村 文子 氏（滋賀県スクールソーシャルワーク スーパーバイザー・家庭教育支援アドバイザー）
○情報交換：「家庭教育支援活動の成果と課題」「来年度に向けて」等

※令和5年度参加者合計：233名

《全3回の参加対象者》

国庫補助事業実施および実施検討市町担当者、学校関係者、家庭教育支援員、家庭教育支援チーム関係者
各市町教育委員会家庭教育担当者、各市町教育委員会生徒指導・教育相談担当者、各市町児童福祉主管課子育て支援担当者、民生委員・児童委員、子育てサポーター、子ども家庭相談員、スクールソーシャルワーカー、子ども食堂関係者、フリースクール関係者、県および市町の社会教育委員、社会教育主事、社会教育士等

II 市町の地域学校協働の取組県の取組

彦根市における地域学校協働活動の取組

[取組状況] ■地域学校協働本部 ■地域未来塾 □放課後子ども教室 □土曜日の教育支援

■目指す姿

地域と学校が連携・協働し、地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支えるため、幅広い地域住民等の参画により、一人ひとりが当事者意識をもって「地域学校協働活動」を推進し、「地域の子は地域で守り育てる」気運を高める。また、地域住民等の生涯学習・自己実現に資するとともに、活動を通じて地域のつながりを強化し、地域の活性化を図る。

■本年度の具体的活動

- ・地域学校協働活動推進事業実行委員会の開催（年2回）
 - 第1回 6月23日（金） 各校の特徴的な取組の交流
 - 第2回 1月29日（月） 各校の実践に学ぶ 取組交流と次年度に向けた意見交流
- ・第1回 彦根市学校運営協議会研修 7月14日（金）～ オンデマンド型の動画配信研修
「コミュニティ・スクールの基礎・基本」
- ・広報ひこね10月号 「コミュニティ・スクール」の特集記事の掲載
- ・市教委担当による学校訪問 10月～11月
地域学校協働活動の推進状況の把握
学校運営協議会導入に向けた指導助言
- ・彦根市地域学校協働活動推進員研修会 11月2日（木）
「地域学校協働活動推進員の果たす役割」
- ・第2回 彦根市学校運営協議会研修 11月28日（火）
「対話のある学校 地域協働で大切な視点（熟議）」
- ・第3回 彦根市学校運営協議会研修 2月22日（木）
「コミュニティ・スクール（学校運営協議会）の充実に向けて」



【研修会 模擬「熟議」の様子】

■本年度の成果

地域学校協働活動の中身が充実してきた。学校への支援活動から協働する活動への深まりが見られた。学校運営協議会と地域学校協働活動との「つながり」を意識し、一体的な推進への理解が深まった。学校運営協議会導入に向けた気運が高まった。

■課題と今後の連携・協働活動の推進に向けて

地域未来塾の学習支援員をはじめ、事業を支える地域ボランティアが高齢化、固定化する傾向があるため、新たな支援のネットワーク化を図り、人材を安定的に確保していくことが重要である。

地域学校協働活動推進員の役割の共通理解と資質の向上をめざす。

■地域学校協働活動推進員の委嘱状況

市内全ての小中学校において、1～2名の地域学校協働活動推進員を配置し、教育委員会が委嘱した。本年度は、34名の地域学校協働活動推進員を委嘱した。

■域内の公立学校園の学校運営協議会の導入状況および計画

次年度（令和6年度）、市内の全ての小・中学校（24校）において学校運営協議会が導入される予定である。公立の幼稚園については、学校と協働・支援する組織はあるものの、学校運営協議会を立ち上げるところまではいたっていない。

長浜市における地域学校協働活動の取組

[取組状況] ■地域学校協働本部 □地域未来塾 □放課後子ども教室 ■土曜日の教育支援

■目指す姿

長浜市では全小中学校・義務教育学校にコミュニティ・スクールを導入し、地域と学校の連携と協働を進めている。今年度から地域学校協働本部を導入し、コミュニティ・スクールと地域学校協働本部の一体的な取組を行うことで、保護者や地域住民等の当事者意識や参画意識を高め、学校と地域とが一体となって子どもの「生きる力」を育む仕組みと体制づくりを進める。

また、子どもの学びを軸に、ゆるやかなつながりによる地域コミュニティの促進を図り、学校や地域、多様な主体との連携・協働により地域全体で子どもの「生きる力」を育むことを目指す。

■本年度の具体的活動

○長浜市地域まちづくり連絡会研修会（10月）

CSアドバイザー武井哲郎氏を講師として、地域学校協働活動を進めるため、本部を導入した際の地域にとっての利点や課題など地域側からの視点で研修を行い、導入についての具体的なイメージを地域の方にもっていただいた。

○学校教職員への研修（1月）

コミュニティ・スクールと地域学校協働本部について、学校の教職員を対象に研修を実施。

○田根小学校学校運営協議会での研修（2月）

コミュニティ・スクールと地域学校協働本部についての研修と熟議を行う。

○学校運営協議会全体研修（2月）

市全体での学校運営協議会の研修によりコミュニティ・スクールと地域学校協働本部についての理解促進を図る。

■本年度の成果

今年度から地域学校協働本部を導入し、市内の小中学校1校に新たに地域学校協働本部を設置した。地域住民や関係団体など幅広い主体と連携・協働することで子どもたちが地域とつながる多様な経験をすることができた。

■課題と今後の連携・協働活動の推進に向けて

長浜市はすでに地域活動を含めた形でコミュニティ・スクールの取組が行われており、新たに地域学校協働本部を導入したことで、学校運営協議会と地域学校協働本部が両輪としてうまく機能していくよう、引き続き、地域と学校、教育委員会との連携を密にしながら進めていく必要がある。

■地域学校協働活動推進員の委嘱状況

地域コーディネーターを2名配置。今後、地域学校協働活動推進員の委嘱を進める予定。

■域内の公立学校園の学校運営協議会の導入状況および計画

平成24年度から市内全ての小中学校・義務教育学校（35校）および1認定こども園に学校運営協議会を設置。

近江八幡市における地域学校協働活動の取組

[取組状況] ■地域学校協働本部 □地域未来塾 ■放課後子ども教室 □土曜日の教育支援

■目指す姿

今年度、市内5つの就学前施設、全12小学校、全4中学校が学校運営協議会設置校園（コミュニティ・スクール）として、地域と学校の協働活動の構築に重点を置き、学校・家庭・地域が連携し、同じ目標を持って子どもに向き合っている。また、市内全ての公立幼稚園、こども園、小学校、中学校に地域学校協働活動推進員を配置し、地域住民の力を学校教育に活用するため、「地域学校協働本部」を設置し、支援体制の強化を進めている。

■本年度の具体的活動

5月～8月	各校園の第1回学校運営協議会への出席及び説明
7月21日（金）	第1回地域学校協働活動推進員交流会
12月26日（火）	第2回地域学校協働活動推進員交流会
1月23日（火）	第1回コミュニティ・スクール研修会
3月	第3回地域学校協働活動推進員交流会

■本年度の成果

- ・地域学校協働活動推進員の交流会を学期末に計3回実施。昨年度、現場の教職員が事業の取組を理解できてない課題が残ったため、生涯学習課から通信を発行し、推進員の取組や、務める上で困っていることなどを発信した。推進員は交流会の内容が現場に届くことで、これまで以上に熱心に討議がおこなわれた。
- ・コミュニティ・スクール研修会を実施し、管理職や地域学校協働活動推進員の理解を深めることができた。



【実践交流会のようす】

■課題と今後の連携・協働活動の推進に向けて

- ・学校を核とした地域力強化プラン事業説明会を今年度は実施しなかった。そのため、今年度、新しく担当された先生にとっては、運営にあたり支障がでた。
- ・学校運営協議会の熟議が進むよう、今後も学校と地域の理解と協力を得て、伴走支援を継続する。

■地域学校協働活動推進員の委嘱状況

- ・社会教育法および、本市が制定した「地域学校協働活動推進員設置要綱」に基づき、市内23校園に設置している地域学校協働本部にそれぞれ1名の地域学校協働活動推進員を委嘱している。



【生涯学習課の通信】

■域内の公立学校園の学校運営協議会の導入状況および計画

- ・令和3年度より、市内5つの就学前施設、全12小学校、全4中学校の合計21校園に学校運営協議会を設置し、地域住民と協働で子どもたちの健全育成や学校運営の改善に取り組んでいる。今年度はコミュニティ・スクール全市導入3年目であることから、幼稚園、小学校から事例発表をおこない、中学校区に分かれて各校園での進捗状況や課題を共有し中学校区として今後の方向性について情報共有した。

草津市における地域学校協働活動の取組

[取組状況] ■地域学校協働本部 □地域未来塾 ■放課後子ども教室 □土曜日の教育支援

■目指す姿

草津市では平成10年度から、「地域協働合校推進事業」に取り組んでおり、学校・家庭・地域がそれぞれの教育機能を十分に発揮し、互いに協働することにより、子どもと大人がともに学び合う「地域学習社会」づくりを目指している。

昨年度からは、地域課題解決型の学習に向け、子どもたちが身近な課題に主体的にかかわることで地域社会の一員としての意識と行動力を身につけられるよう、より地域に密着した活動を進めている。

■本年度の具体的活動

(1) 運営委員会

第1回(4月13日)地域協働合校推進事業の趣旨、学校運営協議会との連携推進について説明

第2回(1月31日)実績報告書について説明

(2) 地域コーディネーター

業務説明会(4月17日)地域コーディネーターの機能と業務について

情報交換会(7月12日)1学期の事業について情報交換

総括会議(1月25日)一年の振り返り、来年度に向けての課題共有

(3) 研修

「コミュニティ・スクールくさつ兼地域協働合校全体研修会」(11月28日)

対象:学校運営協議会委員、地域連携担当教員、市立小中学校PTA会長、地域コーディネーター、まちづくり協議会長、市関係課職員

内容:・大阪公立大学 伊井直比呂教授の講演

・草津市の取組概要について説明

・松原中学校の教諭と地域コーディネーターによる実践発表

(4) 広報活動

・地域協働合校の理念や事業内容を掲載したリーフレットの発行

・各校、各地域の地域協働合校事業をまとめた実践事例集の発行



【 全体研修会 】

■本年度の成果

地域課題解決型の活動を目指し、地域協働合校での学びを従来のように学校内で完結するのではなく、学びを地域に発信して共有できるよう、各校が工夫やアイデアを生かして取組を進めた。また、情報交換会や全体研修会において地域コーディネーターの交流の場を設けることにより、事例の共有を図った。地域コーディネーターの連携による新しい事業の実現、同一中学校区の地域コーディネーター同士の自主的な会議の開催等、ネットワークのつながりによる取組が展開できた。

■課題と今後の連携・協働活動の推進に向けて

学校と地域が目標やビジョンを共有しながら有機的に連携し、社会全体で子どもを育てていく体制を盤石にすることが重要であり、活動への協力者、後継者の育成や発掘が大きな課題である。

■地域学校協働活動推進員の委嘱状況

平成31年4月から委嘱しており、今年度は地域学校協働活動推進員として24名委嘱した。

■域内の公立学校園の学校運営協議会の導入状況および計画

平成30年4月から市内全小中学校(計20校)に学校運営協議会を導入している。

守山市における地域学校協働活動の取組

[取組状況] ■地域学校協働本部 □地域未来塾 □放課後子ども教室 □土曜日の教育支援

■目指す姿

本事業を通して公民館、地域と学校がよりよくつながり、地域ぐるみで子育てを行う共同体機能を強化する。

■本年度の具体的な活動

1か月に1回程度 各公民館・学校で打合せ

(可能な限り市教委担当者同席)・・・事業の方向性の検討

10月20日 速野小地域連携実施(2地域の自治会館)

※小学校2年生生活科「まちたんけん」で

自治会長による各地域の説明

11月20日 地域学校協働活動担当者会開催

(情報交換・講師による研修会)

対象：公民館職員、学校担当者、市役所関係職員

「CS地域総がかりで子どもを育てるとは～地域学校協働活動の推進で考えたいこと～」

講師 高木和久氏(元文科省CSマイスター)



【 担当者会の様子 】

■本年度の成果

本年度は3つのモデル地域で取組を行った。公民館を起点として地域と学校がよりよく連携するために、話し合いの場を増やし、互いにできることを検討した。その中で公民館職員と学校職員が話しやすくなり、効果的に地域と学校が連携する土台ができた。吉身公民館では、自治会でボランティア募集のちらしを回覧し、5名の方の応募があった。また、子どもと地域住民とが関わって活動することで、子どもが意欲的に学習したり、地域の方が喜んでくれたりした。

■課題と今後の連携・協働活動の推進に向けて

次年度以降は、地域の支援者を増やすとともに、効果的に子どもに関わることができるようにしていくための取組が必要となってくる。公民館と学校が連携する仕組みを強化し、ボランティアの参画を促す中で、地域や学校の現状や強み、課題を共有し、子どもとかかわることを目標とする。

■地域学校協働活動推進員の委嘱状況

委嘱はしていないが、公民館職員3名が業務を行っている。

■域内の公立学校園の学校運営協議会の導入状況および計画

今後の導入について検討中である。

栗東市における地域学校協働活動の取組

[取組状況] ■地域学校協働本部 □地域未来塾 ■放課後子ども教室 □土曜日の教育支援

■目指す姿

学校・家庭・地域の協働と互いの支援で「自己肯定感が高く、笑顔にあふれた子どもを育むまち」を基盤に、緊密な連携をはかりながら、『心豊かにたくましく生きる 人の育成』を目標とする。

■本年度の具体的活動

地域学校協働本部：栗中サポーター会議（5月）、栗中サポーターズクラブ総会（2月）

放課後子ども教室：栗東市地域教育協議会（6月、3月）

各学区放課後子ども教室スタッフ会議（随時）

■本年度の成果

地域学校協働本部事業を1中学校区で、放課後子ども教室事業を8小学校区で実施し、活動を通じて、子どもの居場所づくり、地域の人との交流等の目的を達成できた。また、今年度10月より、地域学校協働本部事業を実施している1中学校がコミュニティ・スクールへ移行した。

■課題と今後の連携・協働活動の推進に向けて

活動スタッフの減少・高齢化等の問題があり、いかに確保するかが長い間の懸案事項になっている。

■地域学校協働活動推進員の委嘱状況

委嘱なし

■域内の公立学校園の学校運営協議会の導入状況および計画

2024年度より随時導入予定

甲賀市における地域学校協働活動の取組

[取組状況] ■地域学校協働本部 □地域未来塾 ■放課後子ども教室 □土曜日の教育支援

■目指す姿

未来を担う子どもたちの成長を支え、「社会に開かれた教育活動」を実現するためには、地域と学校が連携・協働し、社会総がかりで教育を行う体制を構築することが必要である。

そのため、子どもたちの教育活動等を一層充実していく観点から、幅広い地域住民等の参画により、地域と学校が連携・協働して、地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支え、地域を創生する活動「地域学校協働活動」を推進する。

また、活動を通じて、子どもたちの社会性・自主性・創造性等の豊かな人間性を涵養するとともに、地域社会全体の教育力の向上を図り、地域の活性化や子どもが安心して暮らせる環境づくりを推進する。

■本年度の具体的活動

○地域学校協働活動連絡会の開催

第1回 4月26日(水) 地域学校協働活動実施にあたっての資料配布及び説明

第2回 8月23日(水) 各地域進捗状況及び今後の活動予定、地域学校協働活動推進に向けた情報交換

○地域学校協働本部会計事務説明会

地域学校協働活動推進員を対象に会計事務説明会を開催し、疑問に思っていることなどを発言していただき、情報共有できる機会となった。

○コミュニティ・スクールにかかる学校運営協議会委員研修会ならびに第3回管理職研修会

滋賀県CSアドバイザー北島泰雄氏を講師に迎え、コミュニティ・スクール導入に向けて～持続可能な「地域とともにある学校」のために～をテーマにお話いただいたあとグループ討議を行った。

■本年度の成果

社会教育委員の会議において、湖南市教育研究所所長 法山由紀子氏を講師に迎え、湖南市におけるコミュニティ・スクール及び地域学校協働活動の状況についてお話いただき、質疑、意見交換を行った。

■課題と今後の連携・協働活動の推進に向けて

持続可能な取組とするため、地域と学校の連携・協働が重要である。また、人材の確保と推進体制の構築が必要である。

■地域学校協働活動推進員の委嘱状況

令和5年度 教育委員会委嘱 15名(新規9名・継続6名)

■域内の公立学校園の学校運営協議会の導入状況および計画

令和6年度4～6校、令和7年度3校設置予定である。

今後も各校、人材が確保でき、制度の趣旨について職員や地域の周知など、準備が整い次第、順次設置予定である。



【地域学校協働活動連絡会】

野洲市における地域学校協働活動の取組

[取組状況] ■地域学校協働本部 □地域未来塾 ■放課後子ども教室 □土曜日の教育支援

■目指す姿

地域、保護者の参画のもと、地域全体で子どもの学びや成長を支え、学校を核とした地域づくりを目指して、地域と学校が相互に連携・協働する体制をつくっている。

また、学校運営協議会が設置された中で、「ひとづくり」と「まちづくり」をコンセプトに掲げた次世代のまちの担い手づくりに重点を置き、「意見を言うだけの組織」から「一緒に行動できる組織」へ、および「地域の活性化」と「地域を愛する子どもたちの育成」を目指している。

■本年度の具体的活動

年 12 回、地域学校協働活動推進員連絡協議会を開催した。連絡協議会では、地域学校協働活動推進員が行うそれぞれの実践活動の取組見学や、高島市の高島学園の視察研修を行った。地域学校協働活動推進員同士で交流する機会となり、各校での取組を参考にしながら、自校の地域学校協働活動の実践に生かした。



【高島学園 視察研修会】

■本年度の成果

地域学校協働活動推進員連絡協議会にて各校における活動見学を重点に据え、それぞれの特色がある地域と学校の協働している様子や子どもたちの活動を見ることで、意欲的に自校の取組実践へとつながる交流となった。自校の活動の中で、自身が感じている課題について話し合ったり、他校の活動に自由に参加したりする時間もあり、積極的な交流を行うことができた。



【三上小学校左義長 視察】

■課題と今後の連携・協働活動の推進に向けて

積極的な協働活動が広がっており、地域学校協働活動推進員同士の交流も進んでいるが、新たな取組を行った場合はそれをどう継続していくか、また、継続している取組はどのように活動を広げていくかを考え続ける必要がある。より良い協働活動のPDCAサイクルをつくることのできるよう、今後検討していきたい。

■地域学校協働活動推進員の委嘱状況

各小学校・中学校に1名ずつ配置し、4月に委嘱状を交付した。

■域内の公立学校園の学校運営協議会の導入状況および計画

令和5年度より市内全小中学校に導入した。令和6年度より市内幼稚園に導入予定である。令和5年度は各園に準備委員会を立ち上げ、協議を行った。

湖南省における地域学校協働活動の取組

[取組状況] ■地域学校協働本部 ■地域未来塾 □放課後子ども教室 ■土曜日の教育支援

■目指す姿

本市では、「楽しくて力がつく湖南省教育」を標榜し、「子どもたちの育つ力を信じ、夢と志を育て、『生きる力の根っこ』を太くする」をスローガンに掲げ、学校教育に取り組んでいる。「生きる力の根っこ」となる「自尊感情」は、「学力保障」、「仲間づくり」、「ふるさと意識の醸成」の取組の三本柱により育んでいる。本市は、平成19年度の岩根小学校に始まり、令和3年度には全ての小中学校が学校運営協議会を設置し、コミュニティ・スクールとなった。市を挙げて、児童生徒の「生きる力の根っこ」を太くするために、地域と一体となって子どもたちを育む「地域と協働する学校づくり」の気運が高まっている。

■本年度の具体的活動

○市内地域コーディネーター、事業コーディネーター等運営会議 年2回

第1回 4月18日(火)

- ・湖南省教育指針、「地域とともにある湖南省ビジョン」の周知
- ・地域コーディネーター委嘱状授与 ・地域学校協働活動推進事業等の進め方について
- ・コーディネーターに期待すること 等

第2回 各中学校区において開催

日枝中校区 11月2日(木) 石部中校区 11月10日(金)

甲西北中校区 11月16日(木) 甲西中校区 12月6日(水)

- ・取組状況・情報交換、ボランティアの募集工夫、今年度の成果と課題と次年度事業構想等

○地域学校協働活動推進事業等にかかる合同研修会(兼：運営委員会) 令和6年2月13日(火)

1) 功労者感謝状贈呈

2) 研修：「地域とともに子どもを育てる湖南省教育 ～今こそ原点回帰～」

アドバイザー：滋賀県教育委員会事務局生涯学習課 主幹 川口 進一郎 氏

■本年度の成果

- ・管理職を交え、地域学校協働活動推進員等の運営会議中学校区ごとに開催。それぞれに成果と課題を出し合い共有することができ、次年度の方向性も確認できた。このことにより各中学校区内での連携の意識が高まった。解決しきれなかった課題については合同研修会にて市全体で共有。
- ・市長部局の協力により、広報「こなん」12月号で湖南省のコミュニティ・スクールと地域学校協働活動に関する特集を組み、広く市民に取組の周知を図ることができた。

■課題と今後の連携・協働活動の推進に向けて

- ・地域学校協働本部や学校運営協議会の創設時から中核となって活動してきていただいた方が高齢となられているため、今後委員の世代交代が求められる。持続可能な事業継続には一部の方に負担が偏らないような人的な広がりや継承、また各地域学校協働本部の活動資金面での経済的自立が必須であり、地域まちづくり協議会、地元企業等との連携・協働を一層進めていく必要がある。



【中学校区運営会議より】

■地域学校協働活動推進員の委嘱状況

- ・地域学校協働活動推進員全員を委嘱している。

■域内の公立学校園の学校運営協議会の導入状況および計画

- ・市内全13小中学校に学校運営協議会を設置済み。この内2小学校1中学校では地域の特性を生かし中学校区学校運営協議会を設置している。あとは各校設置である。また、多くの学校運営協議会では委員に地域学校協働活動推進員を含んでいる。

高島市における地域学校協働活動の取組

[取組状況] ■地域学校協働本部 □地域未来塾 □放課後子ども教室 □土曜日の教育支援

■目指す姿

地域の住民が地域学校協働活動を通して「地域の子どもを育む一員」としての当事者意識を持つことによって、子どもへの関心や地域の教育力を高め、地域・子ども・学校の関係強化と、世代を超えた地域コミュニティの形成をめざす。

■本年度の具体的活動

○地域学校協働活動推進員協議会（定例会）の開催

- ・年間6回開催（4月・6月・8月・10月・12月・2月）
- ・各中学校区に設置の協働本部を会議の開催場所として順番に訪問した。

○地域学校協働活動推進員が全ての学校運営協議会に参加

- ・全ての小中学校に導入済みの学校運営協議会の委員として、地域学校協働活動推進員が参加。
- ・地域学校協働活動推進員を中心として、学校と地域の活動を一体的に推進。

■本年度の成果

- ・地域学校協働活動推進員協議会では、開催場所として各地域の本部を順番に回ることによって各地域の活動を具体的に知るとともに、その他の地域も合わせて情報交換を行い、課題の共有や進め方についての意見交換を行った。
- ・今年度から正式に各校の学校運営協議会の委員として地域学校協働活動推進員が参加し、子どもたちを支える地域学校協働活動について会議で伝えるとともに、学校のニーズと地域のニーズのすり合わせを行うなど、一体的に推進する体制の整備を進めた。

■課題と今後の連携・協働活動の推進に向けて

地域学校協働活動に関わる地域ボランティアが高齢化してきているとともに固定化しつつある。子どもたちの学びや成長を支える地域学校協働活動を継続し拡げていくためには、より多くの人に参画してもらえるように今まで以上に周知に取り組んでいく。

■地域学校協働活動推進員の委嘱状況

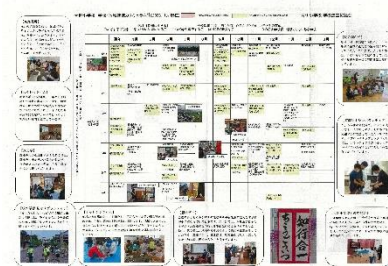
中学校区ごとに1～2名委嘱し、合計8名を配置している。

■域内の公立学校園の学校運営協議会の導入状況および計画

小中学校の19校全てに学校運営協議会を設置している。

■その他

昨年度に市内すべての小中学校の学校運営協議会において、地域と学校が連携する内容を分かりやすく1枚にまとめた「地域学校連携カリキュラム」を作成しており、今年度はこのカリキュラムを元に各学校で地域と学校が一体となって協働活動を進めるとともに、カリキュラムの見直しも随時行っている。



【地域学校連携カリキュラム】

東近江市における地域学校協働活動の取組

[取組状況] ■地域学校協働本部 □地域未来塾 ■放課後子ども教室 ■土曜日の教育支援

■目指す姿

市内全小中学校に地域学校協働本部を設置し、幅広い地域住民の参画により、地域と学校が連携・協働しながら、地域全体で子どもたちの心豊かな成長を支え、地域を創生する持続可能な活動を推進していく。

■本年度の具体的活動

- ・ 本部長及び地域学校協働活動推進員合同連絡会の開催（4月・2月）
- ・ 東近江市地域学校協働活動推進に向けた運営委員会の開催（5月・9月・2月）
- ・ 東近江市地域学校協働活動推進員連絡会の開催（6月・10月・12月・3月）
 - （1）各本部における取組の報告、情報交換、質疑応答
 - （2）県研修会等の報告
- ・ 県教育委員会主催研修会への参加

■本年度の成果

- ・ 地域学校協働活動推進員連絡会では、各本部における取組の報告の他に、中学校区での情報交換の時間を設けた。中学校区で連携した体制作りを進めた。
- ・ 本部長と地域学校協働活動推進員との連携を深めるために合同連絡会を開催した。4月の合同連絡会では、CSアドバイザー北島泰雄氏に御臨席賜りコミュニティ・スクールについての研修を実施した。
- ・ コミュニティ・スクール導入推進のため、市内の学校運営協議会委員の交流会を開催した。
- ・ 放課後子ども教室では、長期休業期間を中心に7教室実施した。
- ・ 各校におけるボランティア会議等で活用できるよう、各本部の活動をまとめた東近江市地域学校協働本部実践事例リーフレットを作成した。



【 地域学校協働活動推進員委嘱式 】

■課題と今後の連携・協働活動の推進に向けて

- ・ 各地域の特色を生かして、持続可能な活動を支援し推進していく。
- ・ 地域学校協働活動推進員、地域ボランティア等の人材確保が必要である。
- ・ 学校と地域学校協働活動推進員との無理のない連携体制を構築していく。
- ・ 各地域、各校の状況に応じた形でコミュニティ・スクールの導入を推進していく。



【 合同連絡会：CS研修 】

■地域学校協働活動推進員の委嘱状況

- ・ 平成30年度から教育委員会委嘱で市内全小中学校に配置（令和5年度29名）

■地域内の公立学校園の学校運営協議会の導入状況および計画

- ・ 令和5年度 市内小学校5校、中学校1校で実施

米原市における地域学校協働活動の取組

[取組状況] ■地域学校協働本部 ■地域未来塾 □放課後子ども教室 □土曜日の教育支援

■目指す姿

本市では、「自分の未来を自分でつかむ子どもの育成」を目指し、地域の良さを生かした特色ある教育を推進している。学校と園、家庭・地域が子どもの成長を中心に置き、目標やビジョンを共有しながら、それぞれが子どもの支援の当事者として参画するための持続可能な仕組みづくりを進めていきたい。そして、地域の人的・物的資源の活用や社会教育との連携により、各地域の自然や伝統、文化を生かした豊かな体験活動の実現を目指していきたい。また、これらの活動を通じて、子どもたちに「シビックプライド」を育み、ふるさとの愛情を深めていくことにより、子どもたちの自己肯定感や自己有用感を高め、子どもたちの将来にわたる財産としていきたい。

■本年度の具体的活動

○地域・学校の連携に関わる研修会の実施

地域学校協働活動推進委員、学校運営協議会委員、教職員を対象に地域・学校の連携に関わる研修会を開催した。講師に県CSアドバイザー北辺禎雄氏を招き、地域学校協働活動とコミュニティ・スクールの一体的推進についての研修を行った。また、各本部の現状と課題について意見交流をおこなった。

○教育フォーラムの開催

地域学校協働本部	内容
柏原学区	ブレイクダンサーTaisuke氏 講話・ダンス披露・ダンス体験
大東学区	アンガーマネジメント講座（栗東市教委・学校教育課参事安岡氏）
伊吹山学区	各学校運営協議会の取組発表と講演（CSアドバイザー北辺禎雄氏）
米原学区	収穫感謝祭・やきいも交流会・学校運営協議会主催意見交流会
河南学区	各学校運営協議会の取組発表・児童会、生徒会による取組発表会
双葉学区	小中合同参観日「ふたばの日」

■本年度の成果

各本部で学校運営協議会主催の活動を地域学校協働本部と一体となって実施することが出来た。各地域の自然や伝統、文化を生かした特色ある取り組みにより、子どもたちにシビックプライドを育むための活動とすることができた。

■課題と今後の連携・協働活動の推進に向けて

多くの地域学校協働活動支援員の参画により、事務処理や連絡等の業務が増加している。今後は、学校と地域学校協働本部の持続可能な連携体制の構築の必要性を感じている。

■地域学校協働活動推進員の委嘱状況

令和2年度より委嘱を実施。令和5年度は20名に委嘱している。

■域内の公立学校園の学校運営協議会の導入状況および計画

令和2年度に、市内全小中学校に設置している。

■その他

地域学校協働本部とコミュニティ・スクールの一体的な取り組みの先進事例として、米原学区の活動を「学校を核とした地域力強化プラン事業の成果報告会」において発表をさせていただいた。



米原中学校ブログ



【柏原学区ダンスイベント】



【米原学区収穫感謝祭】

日野町における地域学校協働活動の取組

[取組状況] ■地域学校協働本部 ■地域未来塾 ■放課後子ども教室 □土曜日の教育支援

■目指す姿

「ふるさとを愛し、ふるさとを支える子どもたちの育成」をテーマに、地域に誇りを持ち、地域が大好きな日野っ子の育成をめざして、地域と学校が連携・協働して学校生活を支援する。

「日野を学び、日野で学び、日野から学ぶ」を合言葉に、地域学習を充実させ、地域と連携し、子どもたちが夢と志をもち、共に育ち、共に生き、ふるさと日野に愛着と誇りをもてる子どもたちの育成を目指している。

■本年度の具体的活動

すべての小中学校がコミュニティ・スクールへ移行し、学校運営協議会を開催できた。



【学校運営協議会の様子】

■本年度の成果

各学校区の地域学校協働活動推進員（ふるさと絆支援員）が中心になり、当初の計画に沿って順調に活動を実施できた。また、放課後子ども教室・地域未来塾については、学習の遅れを心配する児童・生徒や保護者の支えとなり、個別に指導を受けられる喜びを感じたり、自分の力の伸びを実感したりする子どもが増えた。特に、地域未来塾では、日野町少年センターの協力のもと、放課後学習の場を設けることができ、対象生徒の拡充を図ることができた。

■課題と今後の連携・協働活動の推進に向けて

コミュニティ・スクールへ移行したものの、初年度であった学校が多く、手探りの状態である。学校運営協議会と地域学校協働活動の一体的推進に向けた熟議はこれからである。

■地域学校協働活動推進員の委嘱状況

各学校区の地域学校協働活動推進員（ふるさと絆支援員）6名、青少年育成町民会議会長、日野町少年センター所長、学識経験者、小中学校長会代表、町PTA連絡協議会代表、各地区公民館代表、各小中学校教頭6名で日野町地域協働活動推進協議会を組織し、各学校区の協働本部が家庭や地域との連携を図っている。

■域内の公立学校園の学校運営協議会の導入状況および計画

今年度新たに3小学校1中学校がコミュニティ・スクールへ移行したため、すべての学校に学校運営協議会を設置でき、コミュニティ・スクールへ完全に移行できた。

■その他

県生涯学習課主催の研修会に参加する機会には、各校から委員が積極的に参加することができた。今後は、町推進本部として実践交流会を開催し、各校の代表が集まって複数回の意見交換を行い、さらに充実した活動につながるようにしていきたい。

竜王町における地域学校協働活動の取組

[取組状況] ■地域学校協働本部 ■地域未来塾 □放課後子ども教室 ■土曜日の教育支援

■目指す姿

本町では、公民館に地域学校協働本部の事務局を置くことで優れた技術を持つ地域の方の情報を把握することができ、公民館を拠点として、地域総ぐるみで学校（園）支援体制を整えることを通して地域や家庭の教育力向上をめざしている。

また、地域学校協働本部と学校運営協議会が連携を密にし、今までの地域から学校への一方的な「支援活動」から、双方向の「連携・協働活動」になることを目指し、地域と学校がどのような子どもに育てて欲しいのか、育てるのか、その姿を共有し、それぞれの持ち味を活かして子どもたちの育ちを支援することや、まちづくりに資すること等、地域と学校がwinwinの関係性を築いていきたい。竜王キッズクラブでは、様々な体験を通じて、学校や学年の異なる子どもたちが地域の方々と交流を深め、何事にも挑戦し、自らの可能性を切り拓く「生きる力」を身につけることをめざす。

■本年度の具体的活動

地域学校協働本部：・毎月：地域学校協働活動推進員会議（定例会）の開催

・年1回：地域学校協働本部だよりの発行

・通年：学校園応援団（ボランティア）の募集

地域未来塾：土曜龍王塾（雲竜塾・昇竜塾）の開講

土曜日の教育支援：各クラブでの活動（原則土曜日開催）

・共通：公民館ホームページや各種広報等を活用した情報の発信



【学校園応援団 体力測定】

■本年度の成果

地域学校協働活動：学校園応援団の学習支援、行事支援により教員の働き方改革の一助となった。子どもたちが地域に出かけて、地元の人のお話を聞いたり歴史的な資源（人、もの等）に触れたり交流したりして地域をより理解し、地域の将来を担う子どもたちの愛郷心の育成の一端を担った。また、地域のボランティアと子どもたちが顔見知りになることで、地域でのコミュニケーションの醸成にも寄与した。学校においても町外から赴任した先生に対して地域学習を行い当町をより理解してもらうことができた。

地域未来塾：地域住民が講師として協力し、学校と地域が連携・協働することにより、生徒の学習活動を支援するとともに教師の働き方改革の一助にもなっている。

土曜日の教育支援：普段の学校生活では交流が難しい他校や異年齢の児童が、クラブ活動を通じて、共に学び様々な体験をすることで親交を深め、心身ともに成長をすることができた。

■課題と今後の連携・協働活動の推進に向けて

地域学校協働本部：学校の支援依頼に対しボランティアを派遣しているが、自ら支援チームを組織し支援できる体制の構築までは至っていない。リーダー人材の発掘と育成が必要。また、ボランティア登録者数は年々増加しているが、支援内容により協力できる人に偏りがある。学校支援依頼が届いてから派遣するまでの期間が短く調整に苦慮している。

地域未来塾：当該取組の継続に向け、指導者としての地域人材の確保が課題である。

土曜日の教育支援：講師の高齢化により事業を継続するには、講師の発掘を継続することが必要。クラブ活動内容のマンネリ化が進んでいる。

■地域学校協働活動推進員の委嘱状況 地域学校協働活動推進員を4名委嘱。

■域内の公立学校園の学校運営協議会の導入状況および計画

町内の1こども園・2小学校・1中学校に学校運営協議会を設置済。

今後も地域学校協働本部と学校運営協議会が連携を密にし、支援活動を更に発展させ、コーディネート機能を充実しつつ、地域住民の協力を得ながら活動の幅をより広げ、継続的な地域学校協働活動を実施し、発展させていきたい。併せて、双方向の活動についても充実を期す。



【チャレンジクラブ カヌー体験】

愛荘町における地域学校協働活動の取組

[取組状況] ■地域学校協働本部 □地域未来塾 □放課後子ども教室 □土曜日の教育支援

■目指す姿

地域と学校園が連携・協働して子どもを育てることにより、愛荘教育のさらなる充実と地域住民にとっては自らの学びの成果を活かす場の拡充を図る。地域学校協働活動を通して、子どもと地域住民のつながり・絆が強まり地域教育力が向上していくこと、地域全体で未来を担う子ども達の成長を支える取組の充実を目指している。

■本年度の具体的活動

(1) 実行委員会<校園長、教育委員、社会教育委員、PTA代表、老ク連代表>

- ・第1回：8月1日 地域ボランティアの拡充による地域学校協働活動の充実について
- ・第2回：1月25日 5地域学校協働活動と学校園運営協議会の取組交流
講演会「今後のコミュニティ・スクールと地域学校協働活動の活性化」
講師：高木 和久さん（生涯学習課）

(2) 学校園運営協議会委員代表者研修会<各校園より2名>

- ・研修日：5月25日
講話：「校園長との意思疎通と住民への働きかけ」
講師：園田喜久さん、下村勝洋さん（岩根小学運協代表）



【学校園運営協議会委員研修会】

(3) 推進部会<地域学校協働活動推進員、地域連携教員>

- ・3回開催（5月、7月、12月）
- ・町外研修会：7月24日 近江八幡市立金田幼稚園
7月26日 湖南市立下田小学校、11月28日 野洲市立中主中学校

(4) 推進員連絡会<地域学校協働活動推進員>

- ・3回開催（6月、10月、2月）
- ・各校園の地域学校協働活動の取組交流

(5) ボランティアの拡充の取組

- ・愛荘町ホームページに「学校園応援ボランティア募集」を掲載
- ・近隣の大学へ「学生ボランティア募集」（二次元コード）を配布
- ・町PTA連協と連携して、町ホームページに『「こども110番のおうち」募集中』を掲載

■本年度の成果

- 県内の先進校・岩根小学校の学校運営協議会代表による講話から、代表二人が「学校や地域への仕掛人」になって、校長や委員と話し合う場を頻繁にもち、地域内で活動する話が参考になった。地域のスペシャリストによる岩根の自然の恵を伝え、考える取組もよかった。
- 推進部会として、校種別にCS先進地域へ町外研修を実施。ボランティア・ルームや推進員相互の連携等継続した取組を直接確認できた。休業中の学力補充に教員が入らず、卒業生や地域ボランティアによる取組等確認できた。
- 推進員連絡会では、各校園におけるボランティア募集の実際やボランティア活動の様子について、紙面を使った交流ができた。地域へ全戸配布のボランティア募集のチラシもあり、有意義な連絡会になった。

■課題と今後の連携・協働活動の推進に向けて

- 校園の特色を活かした地域学校協働活動が進んでいる一方で、学校園運営協議会が学校評議員会の域のままの校園が多い。1月25日開催の実行委員会において、「次年度から愛荘町コミュニティ・スクール実行委員会」とし、学校園運営協議会が活性するように提起した。
- 各校園に県内の先進校・岩根小学校の学校運営協議会代表による講話から、代表二人が「学校や地域への仕掛人」になって、校長や委員と話し合う場を頻繁にもち、地域内で活動する話が参考になった。地域のスペシャリストによる岩根の自然の恵を伝え、考える取組もよかった。
- 学校園運営協議会での熟議を広げ、地域の教育力を校園に活かす機会や子どもが地域行事に参加・活躍する場を創造できることを期待している。
- 愛荘の子どもを育てる中核になる家庭教育への支援も大事にしていく。様々な状況下にある保護者を支えることや保護者同士が組織・集団の中で関わり合い、高め合う機会となる情報提供に努め、子どもとのコミュニケーションを図るボランティア活動への勧誘もしていきたい。

■地域学校協働活動推進員の委嘱状況および学校園運営協議会の導入状況

- ・町内2幼稚園、4小学校、2中学校すべての校園に地域学校協働活動推進員を委嘱している。また、すべての校園において学校園運営協議会を設置している。

■その他

- ・新型コロナウイルス感染症対策を各校園で実施し、可能な限りの活動が実施されている。

甲良町における地域学校協働活動の取組

[取組状況] ■地域学校協働本部 □地域未来塾 □放課後子ども教室 □土曜日の教育支援

■ 目指す姿

本町では、「知・徳・体」の調和のとれた心豊かでたくましい子どもの育成のために、学校・家庭・地域が参画し、協働と互いの支援で子どもの学びや成長を支え、学校を核とした地域づくりを目指している。特に、「確かな学力」「仲間づくり」「地域の子育て活動の活性化」「乳幼児期からの子育て」をテーマに、地域と共に考えを出し合い、体験、活動を推進していくことで、人と人、人と地域がつながり、地域を知り、共に育っていこうとする人づくり、まちづくりを目指している。

■ 本年度の具体的活動

今年度、本町の具体的な活動としては、令和4年度に地域コーディネーターを先行配置した小学校1校の取組を参考とし、残りの小中学校2校にも配置を目指したが人選に苦慮し、配置には至らなかった。次年度の配置に向け、人選を進めている。

■ 本年度の成果

町内の全小中学校の学校運営協議会を中心に、地域とともにある学校づくりの礎を組織として持つことができた。校園長会において、教育委員会の指導を下、進捗状況を確認するなど、意見交流を行った。

■ 課題と今後の連携・協働活動の推進に向けて

それぞれの学校や地域の実情や特性に応じて、児童生徒の学校生活を支援することを通して地域づくりが進められ、地域学校協働活動がより一層推進できるようにしていきたい。また、高齢化が本町でも課題となっている中、推進委員やボランティアの拡充を図り、活動を継続的実務的なものにしていきたい。

■ 地域学校協働活動推進員の委嘱状況

学校に設置している地域学校協働本部に地域学校協働活動推進委員を1名配置し、委嘱している。次年度以降も、社会教育法に基づき、予算の確保等を行っていく。

■ 域内の公立学校園の学校運営協議会の導入状況および計画

令和3年：学校運営協議会設置規則施行

令和4年：甲良西小学校設置

令和5年：甲良東小学校、甲良中学校に設置

多賀町における地域学校協働活動の取組

[取組状況] ■地域学校協働本部 ■地域未来塾 ■放課後子ども教室 □土曜日の教育支援

■目指す姿

多賀町は、「まちづくりは、ひとづくり」との基本認識に立ち「子育て教育熱心なまち」の具現化を進めている。一人ひとりの子どもの個性を伸ばし、健やかに、たくましく、自分の将来に希望と夢を持てる子どもが育つまち、子育て世帯を地域ぐるみで応援するまちづくりに向けた施策を充実させている。

大人は、子どもとの活動を通して知識や経験を子どもたちに伝え、子どもは、地域の歴史や伝統を学び次世代に受け継ぐことができる、互いの信頼を軸とした地域学校協働活動を目指している。

■本年度の具体的活動

(1) 登録者に対するボランティア研修会の開催

町独自で「読み聞かせ研修会」を実施し、各々の独特な言い回しを発見するなど、好評であった。(町内保育士も参加)

(2) 環境整備活動・安全見守り・読み聞かせの充実

中学校特別支援学級での花作り・野菜作りでは、ボランティアさんの指導により、生徒たちも生き生きと活動できた。また、こども園では園外活動時の見守り活動を本年度も実施し、安全な活動の一助を担った。読み聞かせには、長期休み期間に大学生が参加するなど参加層が広がった。



【読み聞かせ研修会】

(3) 「多賀町中学生土曜講座（サタスタ）」の実施

多賀中学校の生徒を対象に、土曜日の午前中、提携塾から派遣された講師による学習講座（土曜講座）を実施した。開設教科は、受講生の希望により、今年度は国語・数学・理科の3教科とした。

■本年度の成果

(1) こども園2園の園外活動時の安全見守りでは、地域の方とのふれあいが積極的に行われ、園児たちの楽しみの一つとなっている。ボランティアの方はボール遊び等にも加わり、毎回、園児も楽しい時間を過ごしている。

(2) 大滝小学校での放課後見守り活動「学びっこタイム」は8年目となり、児童・保護者・学校に好評で、定着した取組となっている。「ていねいに仕上げること」を目標に宿題を進めたり、学年を超えた様々な遊びを行ったりしており、児童は毎回楽しみにしている。

(3) 土曜講座では、中学生の学力向上を図ることができた。また、「地域活性化・人口増加と定着化」という本町の課題に応じた施策として、町行政全体の共通認識の上に立った取組となっている。

■課題と今後の連携・協働活動の推進に向けて

毎年活動を楽しみにして下さる方以外にも広く活動を知っていただくために、広報等を更に活用したり、FAXや有線放送、口コミ等でボランティアの募集に力を入れていきたい。

■地域学校協働活動推進員の委嘱状況

現在のところ、委嘱していない。

■域内の公立学校園の学校運営協議会の導入状況および計画

本町の学校園では、現在学校運営協議会を設置していない。今後、多賀町に相応しい学校運営協議会の在り方について研究し、各学校との協議を行う中で、令和7年度以降の導入について検討していきたい。

Ⅲ 地域学校協働本部の実践事例

令和5年度 地域学校協働本部一覧 17市町 142本部

No.	市町名	本部長	学校・園名	幼稚園等	小学校	中学校
1	彦根市	東中学校区地域学校協働本部	東中学校、城東小学校、佐和山小学校、旭森小学校	7	17	7
		西中学校区地域学校協働本部	西中学校、城西小学校、城北小学校、城北幼稚園			
		中央中学校区地域学校協働本部	中央中学校、平田小学校、金城小学校、平田こども園、金城幼稚園			
		南中学校区地域学校協働本部	南中学校、城南小学校、城陽小学校、亀山小学校			
		彦根中学校区地域学校協働本部	彦根中学校、河瀬小学校、高宮小学校			
		鳥居本中学校区地域学校協働本部	鳥居本中学校、鳥居本小学校			
		稲枝中学校区地域学校協働本部	稲枝中学校、稲枝東小学校、稲枝西小学校、稲枝北小学校 稲枝東幼稚園、みづほ会みづほ保育園 ふたば会稲枝ふたば保育園、ことぶき会ことぶき保育園			
2	長浜市	若葉小学校地域学校協働本部	若葉小学校	0	1	0
		田根地域学校協働本部	田根小学校			
3	近江八幡市	八幡幼稚園地域学校協働本部	八幡幼稚園	7	12	4
		金田幼稚園地域学校協働本部	金田幼稚園			
		馬淵こども園地域学校協働本部	馬淵こども園			
		北里幼稚園地域学校協働本部	北里幼稚園			
		安土幼稚園地域学校協働本部	安土幼稚園			
		武佐こども園地域学校協働本部	武佐こども園			
		老蘇こども園地域学校協働本部	老蘇こども園			
		八幡小学校地域学校協働本部	八幡小学校			
		島小学校地域学校協働本部	島小学校			
		沖島小学校地域学校協働本部	沖島小学校			
		岡山小学校地域学校協働本部	岡山小学校			
		金田小学校地域学校協働本部	金田小学校			
		桐原小学校地域学校協働本部	桐原小学校			
		桐原東小学校地域学校協働本部	桐原東小学校			
		馬淵小学校地域学校協働本部	馬淵小学校			
		北里小学校地域学校協働本部	北里小学校			
		武佐小学校地域学校協働本部	武佐小学校			
		安土小学校地域学校協働本部	安土小学校			
		老蘇小学校地域学校協働本部	老蘇小学校			
		八幡中学校地域学校協働本部	八幡中学校			
八幡東中学校地域学校協働本部	八幡東中学校					
八幡西中学校地域学校協働本部	八幡西中学校					
安土中学校地域学校協働本部	安土中学校					
4	草津市	志津小学校地域協働合校推進委員会	志津小学校	0	14	1
		志津南小学校地域協働合校推進協議会	志津南小学校			
		草津学区ひと・まちいきいき協議会	草津小学校			
		草津第二小学校地域協働合校推進委員会	草津第二小学校			
		洪川小学校地域協働合校推進委員会	洪川小学校			
		矢倉小学校地域協働合校	矢倉小学校			
		老上学区地域協働合校推進委員会	老上小学校			
		老上西小学校地域協働合校推進委員会	老上西小学校			
		玉川小学校地域協働合校	玉川小学校			
		南笠東学区地域協働合校推進委員会	南笠東小学校			
		山田小学校地域協働合校推進委員会	山田小学校			
		笠縫小学校地域協働合校推進委員会	笠縫小学校			
		笠縫東学区地域協働合校推進協議会	笠縫東小学校			
		常盤小学校地域協働合校推進委員会	常盤小学校			
松原中学校地域協働合校推進会議	松原中学校					
5	守山市	立入が丘小学校地域学校協働本部	立入が丘小学校	0	3	0
		速野小地域学校協働本部	速野小学校			
		守山南中地域学校協働本部	守山南中学校			
6	栗東市	栗東中学校地域学校協働本部	栗東中学校	0	0	1
		伴谷小学校地域学校協働本部	伴谷小学校			
7	甲賀市	柏木小学校地域学校協働本部	柏木小学校	0	9	0
		水口小学校地域学校協働本部	水口小学校			
		貴生川小学校地域学校協働本部	貴生川小学校			
		綾野小学校地域学校協働本部	綾野小学校			
		土山小学校地域学校協働本部	土山小学校			
		大原小学校地域学校協働本部	大原小学校			
		佐山小学校地域学校協働本部	佐山小学校			
		甲南中部小地域学校協働本部	甲南中部小学校			
中主小学校地域学校協働本部	中主小学校					
8	野洲市	篠原小学校地域学校協働本部	篠原小学校	0	6	3
		祇王小学校地域学校協働本部	祇王小学校			
		三上小学校地域学校協働本部	三上小学校			
		野洲小学校地域学校協働本部	野洲小学校			
		北野小学校地域学校協働本部	北野小学校			
		中主中学校地域学校協働本部	中主中学校			
		野洲中学校地域学校協働本部	野洲中学校			
		野洲北中学校地域学校協働本部	野洲北中学校			

9	湖南省	石部小学校地域学校協働本部	石部小学校	0	9	4
		石部南小学校地域学校協働本部	石部南小学校			
		三雲小学校地域学校協働本部	三雲小学校			
		三雲東小学校地域学校協働本部	三雲東小学校			
		岩根小学校地域学校協働本部	岩根小学校			
		菩提寺小学校地域学校協働本部	菩提寺小学校			
		菩提寺北小学校地域学校協働本部	菩提寺北小学校			
		下田小学校地域学校協働本部	下田小学校			
		水戸小学校地域学校協働本部	水戸小学校			
		石部中学校地域学校協働本部	石部中学校			
		甲西中学校地域学校協働本部	甲西中学校			
		甲西北中学校地域学校協働本部	甲西北中学校			
日枝中学校地域学校協働本部	日枝中学校					
10	高島市	高島学園地域学校協働本部	高島中学校、高島小学校	0	13	6
		マキノ地域学校協働本部	マキノ中学校、マキノ東小学校、マキノ西小学校、マキノ南小学校			
		今津地域学校協働本部	今津中学校、今津東小学校、今津北小学校			
		朽木地域学校協働本部	朽木中学校、朽木東小学校、朽木西小学校			
		安曇川地域学校協働本部	安曇川中学校、青柳小学校、本庄小学校、安曇小学校			
新旭地域学校協働本部	湖西中学校、新旭南小学校、新旭北小学校					
11	東近江市	玉緒小学校地域学校協働本部	玉緒小学校	0	22	9
		御園小学校地域学校協働本部	御園小学校			
		八日市南小学校地域学校協働本部	八日市南小学校			
		箕作小学校地域学校協働本部	箕作小学校			
		八日市北小学校地域学校協働本部	八日市北小学校			
		八日市西小学校地域学校協働本部	八日市西小学校			
		布引小学校地域学校協働本部	布引小学校			
		市原小学校地域学校協働本部	市原小学校			
		山上小学校地域学校協働本部	山上小学校			
		五個荘小学校地域学校協働本部	五個荘小学校			
		愛東南小学校地域学校協働本部	愛東南小学校			
		愛東北小学校地域学校協働本部	愛東北小学校			
		湖東第一小学校地域学校協働本部	湖東第一小学校			
		湖東第二小学校地域学校協働本部	湖東第二小学校			
		湖東第三小学校地域学校協働本部	湖東第三小学校			
		能登川東小学校地域学校協働本部	能登川東小学校			
		能登川西小学校地域学校協働本部	能登川西小学校			
		能登川南小学校地域学校協働本部	能登川南小学校			
		能登川北小学校地域学校協働本部	能登川北小学校			
		蒲生東小学校地域学校協働本部	蒲生東小学校			
		蒲生西小学校地域学校協働本部	蒲生西小学校			
		蒲生北小学校地域学校協働本部	蒲生北小学校			
		玉園中学校地域学校協働本部	玉園中学校			
		聖徳中学校地域学校協働本部	聖徳中学校			
		船岡中学校地域学校協働本部	船岡中学校			
		永源寺中学校地域学校協働本部	永源寺中学校			
		五個荘中学校地域学校協働本部	五個荘中学校			
		愛東中学校地域学校協働本部	愛東中学校			
湖東中学校地域学校協働本部	湖東中学校					
能登川中学校地域学校協働本部	能登川中学校					
朝桜中学校地域学校協働本部	朝桜中学校					
12	米原市	柏原学区地域学校協働本部	柏原中学校、柏原小学校	6	9	6
		河南学区地域学校協働本部	河南中学校、河南小学校、かなん認定こども園			
		伊吹山学区地域学校協働本部	伊吹山中学校、伊吹小学校、春照小学校、いぶき認定こども園			
		米原学区地域学校協働本部	米原中学校、米原小学校、まいばら認定こども園			
		大東学区地域学校協働本部	大東中学校、山東小学校、大原小学校、山東幼稚園、大原保育園			
双葉学区地域学校協働本部	双葉中学校、坂田小学校、息長小学校、おうみ認定こども園					
13	日野町	日野・鎌掛地域学校協働本部	日野小学校	0	5	1
		西大路地域学校協働本部	西大路小学校			
		南比都佐地域学校協働本部	南比都佐小学校			
		必佐地域学校協働本部	必佐小学校			
		桜谷地域学校協働本部	桜谷小学校			
日野中学校地域学校協働本部	日野中学校					
14	竜王町	竜王町地域学校協働本部	竜王中学校、竜王小学校、竜王西小学校、竜王こども園	1	2	1
15	愛荘町	愛荘町地域学校協働本部	秦荘幼稚園	2	4	2
		愛知川幼稚園地域学校協働本部	愛知川幼稚園			
		秦荘東小学校地域学校協働本部	秦荘東小学校			
		秦荘西小学校地域学校協働本部	秦荘西小学校			
		愛知川小学校地域学校協働本部	愛知川小学校			
		愛知川東小学校地域学校協働本部	愛知川東小学校			
		秦荘中学校地域学校協働本部	秦荘中学校			
愛知中学校地域学校協働本部	愛知中学校					
16	甲良町	甲良西小学校地域学校協働本部	甲良西小学校	0	1	0
17	多賀町	多賀町地域学校協働本部	多賀中学校、多賀小学校、大滝小学校、久徳うぐいすこども園 大滝たきのみやこども園、多賀さきゆり保育園	3	2	1

子どもたち・ボランティアがお客さんにならない活動を

彦根市	活動名 : 東中学校区地域学校協働本部	東中学校 学校運営協議会 : <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成20年度 地域学校協働活動推進員等数：2人（兼務2人） ボランティア登録数：50人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） □学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り ■部活動支援 ■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり ■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） □地域行事への参加 □ボランティア・体験活動 ■郷土学習 ■その他 [ボランティア等研修]		

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校 学校運営協議会 ■地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

- ① 図書室の開館支援・・・図書委員会とボランティアが協働して開館
- ② 1年生フィールドワーク（郷土学習）・・・受け入れと安全見守り
- ③ 特別支援学級の野外活動支援・・・活動場所（彦根プレーパーク）の提供と活動（火起こし、焼き芋、自然体験）支援
- ④ 工藤勇一先生の講演録画を見る会（佐和山小学校2回、地域4回・東中学校4回）ほか

■ 実施に当たっての工夫

これまで、さまざまな学校支援をおこなってきたが、ボランティアが支援に入ると、先生たちは助かって、子どもが、時には先生までもが受け身になってしまうことがあり、中学校を支援することの難しさを感じてきた。そこで、①では、地域協働活動推進員が委員会に出席して、生徒に直接支援が必要かどうかを問うたり、委員長・副委員長には毎月ボランティアの当番表を渡したりするなどし、ボランティア間では、グループLINEを使って情報共有を行った。②③では、協働活動推進員が先生方の会議に出る等、打ち合わせを丁寧におこなった。④では、「当事者意識を育てる」という工藤勇一氏（横浜創英中学高校校長）の講演録画を観る会を数多く設定し、ボランティアや保護者、先生方に、子どもへの声のかけ方、関わり方を共に考えていける機会をつくるようにした。



【 昼休みの図書室開館支援の様子 】

■ 事業の成果

- ① ほぼ毎日昼休みに図書室を開館でき、多くの生徒が利用することができた。図書委員の自覚が促された。
- ②③ 地域協働活動推進員に活動の全体が見えるようになり、適切な支援ができるようになった。
- ④ 「子どもたちに当事者意識を育てる」という目的を意識することで、大人の子どもの声のかけ方、関わり方が少しずつ変わってきた。録画を観る会に参加した人が新たにボランティアに加わるなど、ネットワークが広がった。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

①は委員会が前期後期制で、担当教員・図書委員が年度途中で変わるため、1年を通した見通しが立ちにくく、コミュニケーションもとりにくい。どの活動においても、同じ活動の支援が毎年続くと、支援があって当たり前になりがちだが、ノウハウを積み上げながらも、前年の活動にとらわれず、新たに始めるつもりで取り組められると良いと思う。彦根市では、次年度から全小中学校をコミュニティ・スクールにする方向で進んでいる。重要なのは、学校と地域が何を目標にして協働するかであるため、話し合いとともに④のような共通した視点を育む研修の場をつくっていかなければならないと思っている。



【 彦根プレーパークでの野外活動の様子 】

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校長 ■教頭 ■地域連携担当教職員
 ■その他（ 担任・学年主任・担当教員（ 部活動・委員会・日本語指導 ）・読書支援員 ）

報告書記入者（ 地域学校協働活動推進員 ）

「城東ちよこっとボランティア」さんとともに創る城東っ子の主体的な学び

彦根市	活動名： 東中地域学校協働本部	城東小学校 学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
<p>地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印</p> <p>開始年度：平成23年度 地域学校協働活動推進員等数：2人（兼務2人） ボランティア登録数：75人</p> <p> <input checked="" type="checkbox"/>学習支援（授業補助、学力補充等） <input checked="" type="checkbox"/>図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input checked="" type="checkbox"/>学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/>子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/>部活動支援 <input type="checkbox"/>学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/>学びによるまちづくり <input checked="" type="checkbox"/>地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input checked="" type="checkbox"/>地域行事への参加 <input checked="" type="checkbox"/>ボランティア・体験活動 <input checked="" type="checkbox"/>郷土学習 <input type="checkbox"/>その他 [] </p>		

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

・教員の働き方改革につながる学校支援の在り方について

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

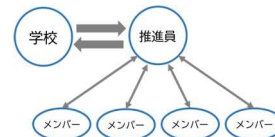
- ・高学年家庭科でのミシンの学習サポート
- ・校外学習（下学年の町探検等）の引率サポート
- ・5年生外来魚釣り引率・活動サポート
- ・4年生「やまのこ」野外活動サポート
- ・3年生ポスター作りについてのゲストティーチャー
- ・特別支援学級校外学習（さつまいも苗植え・いもほり）引率・活動サポート
- ・体力テストでの測定等の補助



【5年家庭科ミシンの学習サポート】

■ 実施に当たっての工夫

- ・地域学校協働活動推進員が、SNSでボランティア登録をしたメンバーのグループを作り、連絡ツールとして活用した。



■ 事業の成果

- ・3年生町探検など、方面ごとに少人数に分かれて行う活動で、各グループのサポートについていただくなど、子ども一人ひとりの関心に応じた活動が展開できた。
- ・高学年のミシンの学習サポートでは、1テーブルに1人程度のサポートをしていただくことができた。特に初めてミシンの学習に取り組んだ5年生の児童にとっては、個別に丁寧に支援していただいたおかげで、基礎的・基本的な技能の習得につながった。
- ・特別支援学級の活動では、子ども一人ひとりの特性をよく理解していただき、適切な関わりをしていただいたおかげで、どの子どもが満足感を感じられる活動となった。
- ・SNSを活用することで、学校⇄推進員⇄メンバーの連絡がスムーズに、かつ確実に行えた。学校からのお願いを転送する形で、推進員からメッセージを一斉配信してメンバーを募集するなど、効率よく、また、間違いなく連絡を取り合うことができた。



【3年総合ポスター作りゲストティーチャー】

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・地域・学校ともに無理・無駄のない活動を
本事業のおかげで、子どもたち個々に応じた豊かな学習活動が展開できている。持続可能な活動にしていくため、今年度のように、無理なく・無駄なく、連絡・準備・実施していくことが重要である。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（ 学級担任 ）

報告書記入者（ 地域連携担当教職員 ）

学校と佐和山応援隊の双方向連携で、佐和山っ子の確かな育ちを

彦根市	活動名：東中学校区地域学校協働本部	佐和山小学校	学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成20年度 地域学校協働活動推進員等数：2人（兼務2人） ボランティア登録数：56人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 □学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり □地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） □地域行事への参加 □ボランティア・体験活動 □郷土学習 ■その他 [長期休業前の印刷物の作成]			

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校・園 □学校運営協議会 ■地域学校協働活動推進員等 □行政 □その他（ ）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

4月、本年度も地域学校協働活動推進員の発信により、支援内容に応じた『佐和山応援隊』を募集していただいた。保護者・地域の方56名の登録で、本年度の地域学校協働本部事業がスタートした。支援事業の内容で、学校担当者と地域コーディネーターでの連絡・学年主任と地域学校協働活動推進員の連絡の区別をし、フリー一部が学校内外の連携を支えるシステムを作った。また、佐和山応援隊に意見や感想を求める双方向の連携関係を大切にしていけることも確認した。このことで、連絡の迅速化や地域コーディネーターの支援の効率化を目指した。

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

5年生の家庭科学学習“ミシンでソーイング”では、「子どもたち一人ひとりが自分の力でミシンの上糸・下糸の準備ができるようにする」というねらいを説明し、ミシンの上糸・下糸の学習に佐和山応援隊を依頼した。教師一人の一斉授業だけでは、技能の定着に時間を要する学習である。このことで手厚いみとりができ、ほとんどの子どもが一人で上糸・下糸の準備ができるようになった。また、教師と佐和山応援隊が双方向の意見交換を大切にすることで、補充を要する子どもの情報もいただき、ねらい通り「子ども一人一人が自分の力で上糸・下糸の準備ができるようになった。このことでどの子どもも次時の学習へスムーズに進めた。



【5年生家庭科学学習
“ミシン糸の準備”の学習支援】

学習のねらいを明確にしたことで、佐和山応援隊の方にも教師と同様の願いをもっていただき、同じ方向を向いた支援をいただくことができた。双方向の関係を大切にすることで、子どもたちの学習・活動中の情報を教えていただくことができ、子どもたちの学習をより高めることができた。

■ 実施に当たっての工夫

本年度は、5月から「新型コロナウイルスによる感染症」にかかわる諸事が大きく変化した。しかしながらコロナ禍やインフルエンザ感染等、楽観できない状況でもあった。学校で、感染症対策等の計画を立てて用具の事前消毒を心掛けた。また、学習のねらいを明確にすると共に子どもたちの様子や動きをわかりやすくまとめ、事前打ち合わせで学校と佐和山応援隊とが共通理解をした。また佐和山応援隊からも支援をスムーズにするための提案や要望もいただいた。こういった双方向の連携を大切にすることを原則とした。また、事後のお礼のメッセージも行うように共通理解している。

■ 事業の成果

事前打ち合わせを丁寧にすることで、学習のねらいや危険箇所・子どもへの対応の仕方等が佐和山応援隊の方に理解していただけ、ねらいの到達が効果的であった。また、双方向の連携関係を大切にすることやお礼のメッセージ等は、佐和山応援隊の方の活動意欲の向上と学校経営の円滑化を促した。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

支援をしていただくにあたり、細かく配置や役割を決めてしまったため、急な欠席等に対応しにくいことがあった。学校が頼りすぎってしまったことが大きな要因と考えられるが、余裕をもった計画で臨むことの大切さを改めて感じた。

また、現在は、「支援」という形で活動していただいているのが大半である。今後は、人材バンクのようなカテゴリーも作り、子どもたちの指導にも参画していただくことを視野に入れたい。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

□校長 □教頭 ■地域連携担当教職員 ■その他（教務、学年主任）

報告書記入者（地域連携担当教職員）

地域と学校のつながりを生かし、学びの活性化を図る

彦根市	活動名 : 東中学校地域学校協働本部	旭森小学校	学校運営協議会 : <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成20年度 地域学校協働活動推進員等数：2人（兼務1人） ボランティア登録数：64人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 □学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり ■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） □地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他 []			

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校・園 □学校運営協議会 ■地域学校協働活動推進員等 □行政 □その他（ ）

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

○学校図書ボランティア「すまいる」の活動

本校の図書ボランティアは、「すまいる」の愛称で活動をしていただいている。今年度も、新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことを踏まえ、クラス単位での読み聞かせを定期的に行った。子どもたちは、生で伝わる読み聞かせのよさを身をもって感じるようになった。学校図書館の本の整理にもご協力いただき、読書活動の充実の大きな支えとなっていただいている。

○子どもたちの心の活性化を図るゲストティーチャーの招聘

今年度は、新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことを踏まえ、従来から行ってきた形態に戻し、多くの学年でゲストティーチャーを招いた教育活動に取り組んできている。1年生の「昔の遊び体験」、2年生の「モビリティマネジメント出前授業」、3年生の「地域の歴史探訪」、4年生の「福祉学習」、5年生の「トヨタ出前授業」等を行った。どの学習活動においても、子どもたちは本物を目の当たりにすることにより心の活性化を図り、深まりのある学習を行うことができた。今年度は地域の歴史研究サークルさんが作成された「歴史まち歩きマップ」を寄付いただくなど、昨年度以上につながりを強くもてたことが大きい。地域の歴史を学ぶ上で頼もしい存在として、今後も学習支援をお願いしたい。



【3年生 地域の歴史学習の様子】

○「旭森ボランティア」の活動

今年度も、保護者対象に学校での子どもたちの安全管理と教育活動を支えるため、

①徒競走大会 ②水泳授業の監視・消毒 ③マーチング指導 ④5・6年生の家庭科・裁縫学習 ⑤3年生の地域学習 ⑥音楽集会 ⑦6年生のゲストティーチャー（職業体験談） ⑧就学時健康診断（案内） についてのボランティアの募集を行った。11名の登録があり、すべての項目でお越しいただくことはなかったが、さまざまな教育活動を支えていただいた。

■ 実施に当たっての工夫

○事前の打合せの充実

ゲストティーチャーに講師として来校いただく場合には、授業時間の中でねらいとするところや1時間の授業の流れ、支援していただくポイントなどをそれぞれの学年の教員と打合せをして実施している。地域学校協働活動推進員の方が事前に学習カリキュラムを想定して今年度の担当教員に助言をしたり、関係機関に対して手紙や電話連絡をしたりしていただくことで連携がよりスムーズに図れたことが大きな成果と感じている。

○保護者の授業・行事への分散参観と学校ホームページによる積極的な情報発信

保護者にとって、落ち着いた環境での授業や行事の参観を実現するために、地域や学年ごとに割り振った参観を昨年度に引き続き行った。新型コロナウイルスの5類への移行により、各御家庭からの参観人数の制限は行わなかったこともあり、保護者の理解を得ながら、できる限りの教育活動の公開を行ってきた。日々の教育活動について学校ホームページを通じ、「写真」と「概略の紹介文」の掲載を行い、日々の学校生活について保護者や地域の方が進んで閲覧する機会をもっといただけるよう、定期的な更新を心掛けた。また校務支援システム「teturu」を活用し、学年通信等の積極的な発信に取り組んできた。登録している保護者一人ひとりに多くのアクセスがあり、一定の情報公開を行えている評価も得ている。今後も定期的な発信を行っていきたい。

■ 事業の成果

- 学級単位の交流や分散参観の実施など、よりよい形態での協働の在り方について実践を積むことができた。
- 多忙な中、保護者の温かな支援のありがたさをより強く感じる。「旭森ボランティア」の輪を今後も是非広げていきたい。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- 学校運営協議会を通じて、地域に広く呼びかけ、「旭森ボランティア」の輪を広げ、多様な教育活動の支援の輪を広げていく。
- Teamsなどの活用でリモートを用いてゲストティーチャーや地域の方との連携の場を積極的に探っていく。
- 小さな集団での協働や関わりの在り方のよさを今後も探り、活用していく。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校長 ■教頭 ■地域連携担当教職員 □その他（ ）

報告書記入者（ 主幹教諭 ）

地域とともに子どもを「たがやす きたえる つなぐ」

彦根市	活動名：西中学校区地域学校協働本部	西中学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成21年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：20人 <input type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input checked="" type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 []			

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

- ・地域と学校（子どもたち）とがつながる活動とその運営について
- ・中学生の地域での貢献活動について
- ・地域住民への周知について

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

- ・学校のグラウンドの花壇の整備を、特別支援学級の生徒と協働して行った。
- ・学校が主体となって地域の諸団体の方と生徒代表による「中学生と小学生の地域貢献」に向けての意見交換会を実施した。
- ・地域と子どもたちがつながる新しい活動として、夏休みに「ラジオ体操の会」を開催した。またその日に、ウクライナ支援の資源回収を行った。
- ・地域の一人暮らしの高齢者のお宅へ訪問し、全校生徒制作の「クリスマスカード・ニューイヤーカード&ポスター」を生徒と民生委員児童委員さんが協力して届ける取組を生徒会が主体となって行った。また「あさがお」の種を添えて、平和への思いを込めて届けた。
- ・地域の方を講師として招き、受験を前にした子どもたちにギター教室を開催した。
- ・子どもたちが使うグラウンド周辺の環境整備活動を行った。
- ・スポーツ振興会、青少年育成協議会と連携し、イベントの役員やボランティアに中学生が参加し活躍できた。



【ラジオ体操の会】



【ギター教室】

■ 実施に当たっての工夫

- ・協働活動推進員と管理職や地域連携担当教員との綿密な打合せを行った。
- ・それぞれの活動の意味を明確にし、子どもたちに活動の意義を伝えた。

■ 事業の成果

- ・地域の方とのふれあいを通して、地域への愛着や地域を誇りに思う気持ちを育むことができ、地域貢献活動への意欲に繋がった。
- ・ラジオ体操の会の取組では、早朝から多くの方々が来られ、西中学校区の明るい未来を感じさせる気持ちの良い時間となった。
- ・クリスマスカードの取組が地域の方に受け入れられ、楽しみにされている高齢者の方も多く、中学生が地域で活動する取り組みとして根付いている。活動後、地域の方から多くのお礼の手紙等をいただき、生徒も温かい気持ちになった。
- ・ギター教室では、受験を前にしてストレスを感じていた生徒へ、心が安らぐ時間となった。
- ・社会福祉協議会をはじめ、地域の諸団体と連携協働をすることにより、生徒の学習を深めることができた。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・地域の諸団体の役員の方々が代わられていることも多く、地域の方への丁寧な説明を行い、つながりを深めていきたい。また、地域の人材のさらなる発掘や活動内容の広報活動をしっかりと行うことが大切である。
- ・小学校との連携をさらに進めるとともに、小中9カ年をかけて地域と豊かにつながることでできる核となっていく。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

- ・これまでの活動の成果と課題を明らかにし今後さらの効果的な活動を進めていきたい。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（生徒会担当教員）

報告書記入者（教頭）

児童の豊かな学びを地域とともに創造する

彦根市	活動名：西中学校区地域学校協働本部	城西小学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成21年度 地域学校協働活動推進員等数：2人（兼務0人） ボランティア登録数：50人 <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 []			

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

- ・「進んであいさつをする子どもを育てるために」をテーマに2回熟議の機会を設けた。

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

（1）郷土学習の充実

総合的な学習の時間を中心に地域を学習の場とした。

- ・4年生：地域の方と一緒に福祉体験を行った。車いす体験や点字体験、手話体験を行い、地域での取組も教えていただいた。
- ・6年生：地域の偉人「井伊直弼公」に焦点を当て、その歴史的功績や文化的功績について彦根城博物館と連携し、見学や体験活動を通して学びを深めることができた。また、直弼公が愛した湖東焼き体験やお茶体験から、調べた内容を実感することができた。



【 4年生 車いす体験 】

（2）学びを豊かにする学習支援の充実

- ・1年生：交通安全教室では、近隣交番の警察官だけでなく、子ども安全リーダーや学区の交通安全協会の方に来ていただき、通学路を想定したコース設定等により、交通安全への意識を高めることができた。
- ・5、6年生：家庭科の学習では、ミシンの学習支援に地域の方に来ていただき、ミシン系のつけ方や絡まった糸の処理の仕方等を分かりやすく教えていただいた。



【 6年生 湖東焼き体験 】

（3）地域とつながる

城西学区社会福祉協議会と連携し、地域のお年寄りに児童全員が手紙を書き、各学年の学習や生活の様子を伝えた。また、環境委員会でも「花いっぱい運動」を連携して行い、児童が地域の一人として活躍の機会となった。

■ 実施に当たっての工夫

地域学校協働活動推進員にコーディネートしていただきやすいように、担当者が積極的に学校の情報を提供したり、打合せ時期を調整したりした。

■ 事業の成果

地域の方の生の声を聞くことで地域への愛情や大事に思う気持ちを育むことができた。また、学習支援では、学習意欲の高まりのみならず、地域の方とのつながりを深める機会にもなった。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

中学校ブロック内の地域学校協働活動推進員や地域連携担当者等が集まり、地域学校協働本部「中学校区連絡会」を開き、当該年度の方針や課題について協議するとともに、地域ボランティアについて情報交換できるようにしたい。

今年度、学校運営協議会を導入したことにより、地域学校協働活動推進員の役割を明確にすることができたとともに、運営協議会会員の中で地域学校協働活動について理解が深まり、地域ボランティア募集に向けた気運も高まってきた。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

学校ホームページ：<https://www.fureai-cloud.jp/jyosei-hikone/>

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（ ）

報告書記入者（ 教頭 ）

地域・公民館とともにある学校 SCHOOL SUPPORT

彦根市	活動名：中央中学校地域学校協働本部	中央中学校 学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 開始年度：平成 23 年度 地域学校協働活動推進員等数：1 人 ボランティア登録数：14 人 <input type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input checked="" type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input checked="" type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 []		

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

- （1）PTA活動である学校清掃作業に協力を依頼し、地域コーディネーターなどが、作業の段取りや運搬車両（8台）の手配についての助言をし、伐採した樹木や草木の搬出を手伝っていただいた。
- （2）校内の環境整備事業として樹木の剪定と整備に取り組んでいただいた。
- （3）「中央中博覧会」として、授業や部活動、行事などでの生徒の制作した作品等を、地域の公民館に1週間展示していただくとともに、その設営や後片付け等で支援していただいた。
- （4）公民館の文化祭に吹奏楽部が演奏する機会を設けていただくとともに、会場の準備や楽器の運搬に支援していただいた。

■ 実施に当たっての工夫

・公民館との連携

- ・文化祭において吹奏楽部が演奏する機会を持つことができた。屋外で演奏する予定であったが、悪天候のため急遽公民館内に演奏会場を移し、約1時間のプログラムを多くの方々に鑑賞していただくことができた。学校からの楽器の搬出入を含め会場の設営などにも地域ボランティアの方々にご協力いただいた。
- ・中央中博覧会において、生徒作品の展示場として公民館と連携して実施した。地域の方々が集う場である公民館を会場にすることで、平日のみならず土曜日においても保護者や地域の方々に鑑賞していただくことができた。



【中央中博覧会（公民館）】



【地区文化祭での吹奏楽部演奏（公民館）】

■ 事業の成果

- ・毎年行っている活動については、支援の方々によく理解していただいております、スムーズな協働活動ができるようになってきている。
- ・学校と地域、地域の公民館と連携した取組ができるようになってきた。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・地域学校協働本部事業の活動スタッフの高齢化・固定化の解消が依然課題となっている。新たな人材を発掘していく必要がある。
- ・地域の協力者を増やして事業の充実を図るため、地域の公民館便りや学校通信などによる広報活動を行い、本事業の認知度を高めていけるようにする。また、支援の輪を広げ、支援者の得意を生かし学校の教育活動の充実につながる活動を模索していく。
- ・本事業に対する教職員の意識を向上させ、授業や学校行事等の教育活動への計画的な導入や連携を図っていく。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

活動の様子は本校ホームページに掲載 <https://www.fureai-cloud.jp/chuo-jh-hikone/>

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当教員 その他（ ）

報告書記入者（教頭）

豊かな子を、育み地域とつながる学校づくり

彦根市	活動名：中央中学校区地域学校協働本部	平田小学校	学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成23年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：23人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 ■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり □地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） □地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他 []			

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園
 学校運営協議会
 地域学校協働活動推進員等
 行政
 その他（ ）

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

(1) 本校伝統行事「全校ふれあい遠足」における安全指導ボランティア

本校の伝統行事である「全校ふれあい遠足」において、学校から彦根城までの行程の安全指導のボランティアをしていただいた。地域学校協働本部に登録されているメンバーと保護者にボランティアを募り、合計15名の方にお手伝いをしていただいた。各たてわり班に1～2名のボランティアに付き添っていただいた。交通量の多い交差点や彦根城等の観光客の集まる場所での安全確保をすることができた。

また、児童にとっては、地域の方との交流を深めることができた貴重な機会となり、大変充実した活動となった。



【 全校ふれあい遠足 】

(2) 学習環境の整備（教材園の整備、学校敷地内樹木の整備）

5月と9月に各学年の花壇整備や特別支援学級の畑の土起こしや土づくり、畝づくり、除草作業などをしていただいた。丁寧に環境整備をしていただいたおかげで、理科や生活科、生活単元学習などの取組をスムーズに行うことができた。また、正門前や玄関前の花壇には、その季節に合った植物を植えてくださり、子どもたちの学校生活に季節感や彩を添えてくださった。

(3) 豊かな言語活動の育成を目指した「読み聞かせ活動」

本校では、豊かな言語活動の育成のために、朝学習の時間を利用して国語の学習を行っている。その言語学習を補足する形で、各月の第1水曜日を「読み聞かせの日」とし、地域ボランティアの方に学年・学級に応じた内容の読み聞かせをしていただいている。



【 読み聞かせボランティア 】

■ 実施に当たっての工夫

- ・年度当初に地域学校協働活動推進員（コーディネーター）から、「コロナ禍後の学校と地域との連携を大切にしよう」という話をいただき、「全校ふれあい遠足」で一緒に歩いていただいたり、12月には「学校クリーン作戦」で校舎内の清掃活動を児童と一緒にしていただいたりした。コロナ禍では活動に制限があったが、本年度はなるべく児童との交流場面が増えるように意図的に計画を立てた。その結果、数多くのコミュニケーションの機会（会話、遊び）が自然に生まれ、人間関係づくりの場を増やすことができた。

■ 事業の成果

- ・地域の方々とつながることで、登下校時の児童の様子など、学校が把握していない情報を共有する機会が増え、児童理解や生徒指導に生かすことができた。地域で子どもを見守り、育てようとしてくださる存在は、大変ありがたく感じている。
- ・教材園の整備や樹木の整備では、経験や知識が豊富な方がボランティアとして活動してくださっているため、教職員が詳しく知らないことも教えていただき、大変勉強になった。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・地域学校協働本部事業登録メンバーの高齢化と固定化が進んでおり、広く地域に本事業についての情報を伝え、新たな人材を発掘していくことが喫緊の課題である。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

- ・活動の様子を、学校の児童の様子やお知らせとともに、学校ホームページで紹介している。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長
 教頭
 地域連携担当教職員
 その他（ ）

報告書記入者（ 地域連携担当教職員 ）

地域のでつくる子どもたちの豊かな学習活動

彦根市	活動名 : 中央中学区地域学校協働本部	金城小学校	学校運営協議会 : <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成23年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：70人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 ■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり □地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） □地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他 []			

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校・園 □学校運営協議会 ■地域学校協働活動推進員等 □行政 □その他（ ）

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

- (1) 登下校の安全パトロールとあいさつ運動
金城見回り隊の方々が、毎日通学路の要所に立ち、あいさつの声掛けやコミュニケーションを取り、子どもたちの安全を見守ってくださっている。
- (2) 体験活動の支援
1年生活科「むかしからつたわるあそびをたのしもう」や3年総合的な学習の時間「むかしのくらしを学ぼう」、特別支援学級の生活単元学習「大藪かぶらを収穫しよう」では学習活動のゲストティーチャーをお願いした。また、4年学校行事「やまのこ」や5年家庭科「ミシンになれよう」の学習活動補助をお願いした。
- (3) 読み聞かせ
年間を通じて、朝読書の時間に読み聞かせをしていただいた。
- (4) 花壇づくり
花の苗植えや草むしりなどを委員会の子どもたちと一緒にしていただいた。



【 5年家庭科「ミシンになれよう」 】

■ 実施に当たっての工夫

- ・今年度、地域学校協働活動推進員さんが交代されたことと、地域連携担当教職員も新任だったため、地域のことをよく知る方に随時相談して進めていった。
- ・地域の支援母体である「すこやか金城の会」が主催となる行事に学校やPTA関係からも積極的に参加した。

■ 事業の成果

- ・通学路の見守りをしていただくことで、子どもの安全確保につながっている。また、登下校の様子など適宜伝えていただくことで学校だけでは気付かない実態を把握し、即時に指導することにつながった。
- ・ゲストティーチャーの豊かな経験や地域教材を活かし、充実した学習活動を行うことができた。
- ・地域の様々な人々によって守り育てられていることを、子どもが感じる事ができた。



【 学校の花壇づくり 】

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・地域学校協働活動推進員さんが多忙であるために、ボランティアをしてくださる方々となることが難しく、橋渡しを学校が行わなくてはならない。
- ・本事業の取組を、子どもだけでなく、保護者や地域住民に十分に周知していく必要がある。
- ・ボランティアの高齢化に伴い、活動が広げられなくなっている。ボランティア登録数は多いが、実際に動いてもらえる方がそれだけいるわけではなく、実態がつかみにくい現実がある。来年度からは、ボランティアを広く公募し、登録者を整理し直す必要がある。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校長 ■教頭 ■地域連携担当教職員 □その他（ ）

報告書記入者（ 地域連携担当者教職員 ）

彦根南サポートオフィス12年目の取組 ～継続は力～

彦根市	活動名：南中学校区地域学校協働本部	南中学校 学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成23年度 地域学校協働活動推進員等数：2人（兼務1人） ボランティア登録数：30人 <input type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input checked="" type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 []		

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

- 学 校 地域学校協働活動推進員等
行 政 その他（ ）

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

(1) グリーンカーテンづくり（6～9月）

夏に涼やかさを作るグリーンカーテンづくりに取り組んで8年目。例年、地域ボランティアの方との協働作業を行っている。

今年度は、生徒や教職員の手により支柱立てや植え付け、摘芯や水やりなどをがんばり、グリーンカーテンをつくり上げることができた。

(2) 環境整備作業（今年度は延期により3学期に実施予定）

11月に学校周辺のフェンス際の草刈りや溝掃除を、地域貢献活動として参加の生徒、保護者・地域の方総勢60名程度で行う予定だったが、雨天のため3学期に延期になった。

(3) プランターの花植え

12月に地域学校協働活動推進員の方の指導により、卒業式を見据え、プランターの花植えに取り組んだ。土入れ、苗の植付け、水やりまで、熱心に取り組み、卒業式までは正面玄関で管理をしている。

(4) 図書室環境整備

コロナ禍によりここ数年は活動を見合わせており、今年度も活動は行っていない。しかし、今年度は多くの図書を購入したため、読書活動支援員（週2日来校）と連携を図り、次年度は、古くなった図書の整理を行いたいと考えている。

(5) 地域貢献活動（年間）

例年は地域ごとに中学生が参加できる活動を紹介していただき地域貢献活動を実施していたが、今年度も学校全体としては活動を見合わせた。しかしながら、コロナ禍後、徐々に地域からの依頼が増え、中学生が地域に出かける機会がもてたため、次年度は、活動の再開を検討している。



【 グリーンカーテンづくり 】



【 プランター花植え 】

■ 実施に当たっての工夫

- ・地域と学校が連携した活動を推進するために、地域学校協働活動推進員との連絡をとったり、teturu（保護者連絡ツール）配信等を活用したりしながら人材確保を図った。
- ・地域学校協働活動推進員と担当教員が定期的に連絡をとり、情報交換や運営について話し合った。
- ・地域学校協働活動推進員のスキル向上に向け、研修等を随時紹介し、研修機会の確保を行った。
- ・自治会や公民館などの地域の関係団体との連携については、次年度以降のコミュニティ・スクール化に向け、連携のあり方を再検討していきたい。

■ 事業の成果

- ・毎年行っている環境整備活動等が地域や保護者の方に定着してきている。今年度も、親子での申込みがたいへん多かった。
- ・地域学校協働活動推進員を窓口として、ボランティアの方とつながる機会ができ、地域の方の協力をお願いすることができた。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・学区の小学校では地域への事業が浸透してきたが、中学校としてはまだまだ広める必要があり、活動を充実させるためにはボランティアの人材確保が難しい状況である。親子での活動など保護者と生徒が協働する場面を設定していくことも大切と考える。また、大学等と連携・協働も模索しながら事業を推進していきたい。
- ・次年度からの学校のコミュニティ・スクール化に向け、学校運営に地域の声を積極的に生かし、地域とともに特色ある学校づくりを進めたいと考えている。学校運営協議会の会議などを通して、関係機関とも連携を図りながら、地域連携ネットワークの中心として、協議効果と宣言効果を効果的に発揮できるように進めていきたいと考えている。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

- ・学校ホームページ <https://www.fureai-cloud.jp/minami-jh-hikone/>

■ コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

- 校 長 教 頭 地域連携担当教員 その他（ ）

報告書記入者（ 教頭 ）

つながりを生み出す豊かな学び

彦根市	活動名 : 南中学校区地域学校協働本部	城南小学校	学校運営協議会 : <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成 23 年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：45人 <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 []			

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

年度当初に、計画書を作成し協議することで、いつ頃どのように御協力いただくか熟議することができた。また、その際には、例年御協力いただいているボランティアの方と校区の社会福祉協議会の方との活動が重ならないように気を付けた。

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

・就学児検診の際の運営補助

職員の出張や体調不良により、職員の配置が手薄になることが予想されたので、県立大の看護塾等をお願いしたところ3名の方にお手伝いいただいた。専門的な行事のイメージがありボランティアが集まらない傾向があるので、今後も看護塾と連携をとっていききたい。

・読書ボランティアによる読み語り

朝のさわやかタイムに、各教室で読み語りをしていただいた。コロナ禍は、机の場所で聞くようにしていたが、5類に移行され、ボランティアの方の周囲に児童を集めて読み語りをするようにした。児童との距離が近くなり、挿絵なども見やすく、より本の世界に浸ることができた。また、季節や〇〇週間に合わせた本を選んでいただいたり、図書室に読み語りで使った本のスペースを設け、児童や教師が読み返したりできるようにもしていただいた。

・社会福祉協議会の方々による「校外学習引率ボランティア」

2年生や3年生の生活科や総合的な学習の時間に地域に出かける際、引率のボランティアをしていただいた。見学場所では小グループで活動できるように、たくさんの方に来ていただいた。また、事前に担任と打ち合わせをし、学習のねらいが共有できるようにした。



【 読み語り 】



【 引率ボランティア 】

■ 実施に当たっての工夫

昨年度から校区の社会福祉協議会の方もボランティアをしていただけることになったので、社会福祉協議会の方の強みと長年支えてくださったボランティアの方の強みを考えながら依頼をした。

■ 事業の成果

- ・児童は読み語りに集中し引き込まれるように聞くことができた。読まれた本に興味をもち、自分でも読もうと図書室で借りる児童がいた。また、日頃から読書に関心をもち、意欲的に本を借りて読む児童の姿につながっている。
- ・今年度も校区内の校外学習の引率にご協力いただき、児童の安全管理においてたいへん助かった。昨年度は、校区の社会福祉協議会の方との連携が初年度で、うまく連携が取れない時もあったが、本年度は、ほぼ計画通り実施することができた。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

長年お願いしていた「幌踊り体験」であったが、インフルエンザなどの流行により、実施してもらえなかった。教えてくださる方が感染症を心配されていることもあり、来年度は実施時期を検討する必要がある。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

学校HP <https://www.fureai-cloud.jp/jyonan-hikone/>

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（ ）

報告書記入者（ 主幹教諭 ）

つなげよう 子どもを育む地域の力 ～地域の力で学びを深める～

彦根市	活動名： 南中学校区地域学校協働本部	城陽小学校	学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成23年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：62人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） □学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 □学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり ■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） □地域行事への参加 □ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他 []			

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校・園 ■学校運営協議会 ■地域学校協働活動推進員等 □行政 □その他（ ）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

- ・地域では縦のつながりが希薄になってきているため、学校で縦割り活動等の充実が図られていることはよい。
- ・コロナの影響で体力も落ち、また、コミュニケーションがとりにくくなっているように思う。体験活動を進めていることはよい。
- ・熱中症が心配であるため、今後各行事の時期についてはよく考えていく必要がある。

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

○読書活動支援

図書環境ボランティア2名の方が週に1度、図書の整理や修繕だけでなく、行事や季節に合わせた図書室内の飾りなどを工夫し、子どもたちが読書に親しめるように活動してくださっている。朝の活動の時間には、各学級で絵本の読み聞かせをしていただいている。また、「秋のお話会」を学年部ごとに実施し、ひこね市児童図書研究グループの方々に、紙芝居や読み語り等をしていただいた。

○第5・6学年 家庭科「ミシンでソーイング」

5年生は、ミシンを使ってのトートバック製作、6年生はエプロン製作に取り組んでいる。特に5年生は初めてのミシン学習であり、使い方を丁寧に指導する必要がある。ボランティアの方々は、近年、続けて来ていただいております。子どもがどのようなところにつまずきやすいかよく把握されている。操作手順を助言したり、苦戦している児童に声をかけたりして、熱心に支援いただいた。6年生にも同様に支援いただいた。

○第1学年 生活科「むかしからつたわるあそびをたのしもう」

けん玉、こま、だるま落とし、あやとり、おりがみなどの昔から伝わる遊びを地域の方に教えていただきながらともに遊び、交流した。



【 朝の読み聞かせ 】



【 ミシンボランティア 】

■ 実施に当たっての工夫

コロナ禍もありボランティアバンクの整理が十分でなかったため、次年度以降のために活用状況を一覧表に整理している。

■ 事業の成果

児童は朝の読み聞かせや、毎年実施している「お話会」をととても楽しみにしている。図書室には季節や学習内容に合う本が、見やすくレイアウトされており、読みたい本がすぐ見つかる環境となっている。これらが読書意欲の向上にもつながっている。

また、学習支援は、児童の学びをより充実したものにするだけでなく、教職員数が少ない本校において、教職員の業務軽減にもつながっている。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・学区が広く、小学校区全体をまとめる地域の組織がないことから、学校が中心となって活動を進めていく必要がある。今年から始まった学校運営協議会を生かしていけるとよい。
- ・児童だけでなく教職員も他学年の活動を具体的に知る機会があまりなく、また、担当以外が地域の方と深く関わる機会がない。顔合わせ会や感謝を伝える場などをもつなど、教員や児童の思いをつなぐ工夫が必要である。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

- ・今年度より立ち上げ、地域の方と顔を合わせ話し合う機会が増えたことで願いや思いを共有できた。今後も子どもを中心として話し合い、皆で子どもを皆で守り育てる意識、土壌をはぐくんでいきたい。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校長 ■教頭 □地域連携担当教職員 □その他（ ）

報告書記入者（ 教頭 ）

ふるさとを愛しふるさに学ぶ「We Love かめやま」

彦根市	活動名 : 南中学校区地域学校協働本部	亀山小学校	学校運営協議会 : <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度:平成23年度 地域学校協働活動推進員等数:1人 ボランティア登録数:30人 ■学習支援(授業補助、学力補充等) ■図書ボランティア(読書活動支援・図書室環境整備) ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 □学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり ■地域人材育成(地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育) □地域行事への参加 □ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他 []			

■ 事業を考案する主体(該当するすべてに■印)

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他()

■ 学校運営協議会で熟議された内容(地域学校協働活動に関わる内容等)

- ・コミュニティスクールの在り方
- ・学校運営方針についての説明
- ・地域の協力・支援を本校教育にどのように生かしていくとよいか。

■ 地域と学校が協働した活動(特徴的な活動)

(1) 栽培活動支援

1年生から3年生までの児童が、サツマイモの苗を植えて収穫する学習に地域の方がボランティアで指導支援に来てくださっている。土づくりをして、苗の植え方を教えてくださり、収穫時の支援にも来ていただいた。今年度は昨年度と栽培方法を変えて、マルチをせずやってみようということになった。尋常でない暑さのために、残念ながら昨年度のような収穫は得られなかったが、来ていただいたボランティアの方と栽培方法について考えられたことは、教師にとっても大変よい経験となった。



【1・2・3年生 サツマイモ苗植え】

(2) 3年生 総合「亀山っ子探検隊」

学習を進めるにあたって、地域コーディネーターの協力が欠かせない活動となっている。地域ごとに協力してくださる方が、子どもたちを待ってくださり、その町の祭りや言い伝え、特色を詳しく教えてくださった。子どもたちにとって、地域のことをより詳しく学ぶことができるとともに、地域の方と親しくなる機会にもなっている。



【3年生 亀山っ子探検隊】

■ 実施に当たっての工夫

地域コーディネーターとは、これまでも学校事情や児童の実態について理解していただき、柔軟に対応して下さってきた。

今年度も同様に、支援していただきたい授業について、地域コーディネーターとの打ち合わせの時間を十分に取って、学習時具体的な支援内容を共有できるようにした。

■ 事業の成果

- ・地域コーディネーターに、学校のニーズに合った人材を紹介していただき、教育活動の充実につながっている。
- ・ボランティアから様々な支援を受ける中で、子どもたちは、教職員だけでなく地域の様々な方から支えられていることを実感し進んで挨拶をしたり話しかけたりするなど、自分からかわりを深めることができている。
- ・支援の必要な行事や学習内容の時期になると、コーディネーターから声をかけてもらい助言をいただいている。ゲストティーチャーやボランティアとの連絡役になっていただいていることが、担任の負担軽減につながっている。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・地域がかかえる問題点として、ボランティアに来ていただいている方々の高齢化があげられる。ボランティアの輪の広がりを期待したいところであるが、難しい面もある。
- ・今後新たな活動を計画していくために、様々な教科や領域の地域ボランティアを発掘していきたい。

■ その他(学校運営協議会との協働等)

学校ホームページ : <https://www.fureai-cloud.jp/kameyama-hikone/>

■ 協働活動推進員(コーディネーター)と協働する学校関係者(該当するすべてに■印)

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他(各担任)

報告書記入者(教頭)

未来に向け、地域と学校（生徒）で創る協働活動

彦根市	活動名：彦根中学校区地域学校協働本部	彦根中学校	学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成 23 年度 地域学校協働活動推進員等数：4 人（兼務 2 人） ボランティア登録数：20 人 <input type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書環境整備） <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input checked="" type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 []			

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

（1）緑のカーテンプロジェクト（取組 10 年目）

- ・ 5 月上旬に、支柱設置、ネット張り、ゴーヤの苗植えを、地域ボランティアの指導のもとで実施した。
- ・ 環境委員会や各部活動および地域学校協働活動推進員による水やりを毎日行い、10 月上旬に支柱の撤去を行った。
- ・ 多くの生徒に呼びかけ、自分たちのつくった緑のカーテンであるという意識づけになった。

（2）花いっぱい運動

- ・ 正面玄関に設置する 46 個のプランターの花を 3 の倍数月ごとに植え替えて、常に来客者を花で迎えられるようにした。

（3）学校行事への支援

- ・ 入学式や体育大会などの学校行事における駐車場整理での保護者とのつながり
- ・ 全校長距離遠足の際の交差点での交通誘導
- ・ 校地内の葉刈り作業や、愛校作業への参加



【 緑のカーテンプロジェクト 】

■ 実施に当たっての工夫

- ・ 実施するごとに推進員と担当者で、活動の反省と今後の予定について協議した。
- ・ 推進員と連携して、自治会や各種団体に協力要請をしていただき、活動の交流を図ることができた。
- ・ 活動内容を紹介する掲示物を作成して校内に掲示した。
- ・ 生徒の地域貢献活動カードを作成して、参加したことが形に残るようにした。

■ 事業の成果

- ・ 緑のカーテンプロジェクトは取組 10 年目になり、生徒や地域の中で定着している。作業を通じて、自分たちの学校環境を自分たちで良くしていく意識づけになった。
- ・ 多くの地域ボランティアの方に参加していただいたことにより、協働することの大切さや地域の方に支えられていることが実感できた。また、感謝の心をもち、地域の良さを知る機会となった。
- ・ 学校での活動に地域の方が来てくださることで、地域での活動に生徒が安心して参加するようになった。
- ・ 地域と学校のつながりが発展して、生徒の美術作品を金融機関に飾ったらどうかと地域から声をかけていただき、手配してくださった。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・ 従来からの事業内容はほぼ定着してきているが、さらに工夫を加えた取組により、地域と学校の関係づくりを活発にしていきたい。
- ・ 学校が抱える課題の解決につながるような活動ができないか検討していきたい。
- ・ 自治会組織が弱体化して地域での交流が減る中で、地域と生徒のつながりはできつつあるものの、地域の方は保護者にもっと参加してほしいと願っておられる。地域学校協働本部事業への保護者参加が、地域と保護者の橋渡しになるように、保護者への周知に力を入れて、もっと参加していただけるように努めたい。
- ・ 活動に参加したことのない教職員が多いので、今後は教職員にも参加を促して、地域との連携を図り、他の活動へとつなげたい。



【 校内掲示物 】

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（ ）

報告書記入者（ 教頭 ）

見る、聞く、体験する、地域に支えられて育つ「河瀬っ子」

彦根市	活動名：彦根中学校区地域学校協働本部	河瀬小学校	学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成23年度 地域学校協働活動推進員等数：2人 ボランティア登録数：20人 <input type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 []			

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

(1)「チューリップを育てよう」(1年)

生活科の学習の一つとして「チューリップを育てよう」を行っている。身近な自然の様子や四季の変化に気付く学習の一つとして地域の方と一緒に球根を植える活動を行っている。



【2年町探検】

(2)「町探検」(2年)

普段何気なく見ている街の様子を、町探検を機会により深く詳しく知る学習となっている。2年生では、見学に行く施設の方に実際に話を聞いたりすることで、人々がよりよい地域になるように協力し、努力されていることを知る場となっている。

(3)「大豆はかせになろう」(3年)

6月末には、地域の方が育てている大豆畑を見学し、実際に種を植えさせていただいた。11月には枝豆収穫を体験させていただいた。また2学期には、大豆からできる醤油の製造過程や教えていただいたり、きな粉を作ったりと地域の方に協力をいただき充実した学習の場となっている。



【3年大豆収穫体験】

■ 実施に当たっての工夫

- ・地域と学校が連携できるように、地域学校協働活動推進員の方を中心に自治会や各種団体と連絡を取り合いながら日程や活動内容を計画し、交流を図ることができた。
- ・各学年、年間計画を見直し、昨年度までの協働活動が教科との関連性があるか、また新たに必要な活動が組めないかカリキュラムマネジメントを行った。

■ 事業の成果

- ・カリキュラムマネジメントを行うことで、教科や学習と関連付けた体験活動を行うことができ、子ども達の学びが高まり、深い学びにつながった。
- ・多くの地域の方に参加していただいたことにより、自分たちの住む地域や学習が、地域の方によって支えられていると感じることができた。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・ここ3～4年、コロナ禍の中での活動として縮小や中止をしてきている。今年度は、少し活動の幅が広がったので、今後もより効果的な活動になるように、実施前の計画と実施後の振り返りを行い、学校にとって地域にとって有意義な取組になるようにしていきたい。
- ・地域学校協働活動推進員、ボランティア共に高齢化が進んでいる。今後も継続して支援活動を組んでいただいたり、新しい支援活動が計画できたりするように、新しい人の人材発掘が重要である。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

- ・活動の様子を各クラスの通信や本校ホームページにて紹介している。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（各学年の担任）

報告書記入者（地域連携担当教職員）

地域力学校に 学校力を地域力に

彦根市	活動名：彦根中学校区地域域学校協働本部	高宮小学校	学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成23年度 地域学校協働活動推進員等数：1人（兼務1人） ボランティア登録数：80人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） □学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 ■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり ■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） □地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他〔 〕			

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

(1) 「高宮駅コミュニティセンター」での作品展

地域と学校をつなぐ手段の一つとして、今年度も、近江鉄道高宮駅に隣接した「高宮駅コミュニティセンター」に子どもたちの作品を展示し、学校と地域の繋がる機会を設けるように努めた。

(2) 読み聞かせ活動

毎週火曜日を読み聞かせの日を設定し、地域の方に協力していただき読み聞かせを行っている。

(3) 各学年の学習支援

郷土学習の充実に向けての学習支援を行っている。

■ 実施に当たっての工夫

【高宮駅コミュニティセンター】

高宮地域には、近江鉄道高宮駅に隣接した「高宮駅コミュニティセンター」があり、定期的に児童の作品展を開催して、地域と学校を繋ぐ場としてきた。絵画や書き初めなど地域で児童の作品を目にすることがあり、地域と学校が身近な存在であることを認識することができた。



【高宮駅コミュニティセンター】

【高宮っ子たんけんたい】

3年生の総合的な学習の時間では、中山道の現状や歴史について知るだけでなく、ふるさとを大切にしたいという町への愛着を高めることを目標に学習を進めている。この学習では、まず高宮の地域を知ることからスタートする。そこで、地域の方と一緒に地域を見て歩いたり、話を聞いたりしながら学習を進めてきた。また交通量が多く道幅が狭い中山道を歩くので、児童が安全に歩行できるように引率の協力もお願いしている。学習を通して、中山道の街並みや、昔の学校の様子などについて理解を深めることができた。



【高宮っ子たんけんたい】

■ 事業の成果

本校は、年々地元出身の保護者が減少し、地域の歴史はもとより伝統文化や行事などを知らない子どもが増えている。また、住民同士のつながりも希薄になってきている。本事業を通して、地域住民の多くの方々は、地域文化に親しみ、伝統を受け継いでいこうとする子どもたちの姿を喜んでくださり、好評価である。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

子どもたちだけではなく、保護者、教職員もコーディネーターとの繋がりが薄い。また、教職員の中には、担当以外の活動を知らない者も多い。保護者（PTA役員）、教職員が入れ替わっていくことで、本事業の継続的な取組が危惧される。そこで、顔合わせ会や運営協議会の開催、感謝の集いなど、職員や子どもたちの思いをつなぐ機会が必要である。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（ ）

報告書記入者（地域連携担当教職員）

地域と学校を結ぶ鳥居本学園の協働活動

彦根市	活動名：鳥居本中学校区地域学校協働本部	鳥居本中学校 学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成22年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：50人 <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input type="checkbox"/> 学校行事支援 <input type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input checked="" type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input checked="" type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input checked="" type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 []		

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

- ・地域住民と中学生の交流の場として、地域の行事（文化祭や公民館行事など）への積極的な参加をお願いしたい。
- ・部活動に、地域住民の経験者が指導者になってほしい。
- ・自然に触れる体験を大切に子どもたちの心を育ててほしい。地域の持つ魅力を味わわせてほしい。

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

（1）男鬼森林学習

学区有林（財産区共有山林）の森林整備作業について学習し、植樹や間伐作業などを実際に体験した。森林の保全と有効な活用との調和について理解することができた。

（2）地域との連携

中学校の前庭の葉狩り、剪定及び、芝生グラウンドの夏休みの水やりを実施していただいた。

学区の文化祭において、吹奏楽部の演奏及び、書写や美術作品、総合学習新聞等を展示した。さんあかレンジャーも参加した。また、宿場まつりでは、生徒全員で鳥中ソーランを披露した。



【 男鬼森林学習 植樹 】

■ 実施に当たっての工夫

- ・森林学習では、地域の山林の保全や活用について理解を深めるため、財産区の方を講師に招き事前学習を行う。
- ・学区の文化祭の参加については、打ち合わせを小まめにして、楽器の搬入等が安全に行えるようにした。

■ 事業の成果

- ・地域の行事に中学生が参加していく活動があることは、地域と中学生（中学校）が互いに支え、支えられるという関係づくりにおいて効果があると考えられる。特に、中学生の活動を実際に発信して、地域の方に見てもらおうということが、彼らの励みになっている。また、地域の方も中学生の活動を見て、頼もしく思ったり、身近に感じたり、これからの地域の担い手としての期待感を持たれている。



【 学区文化祭 吹奏楽部の演奏 】

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・学校・家庭・地域の交流が深まることにより、相互の信頼関係が強化され地域ぐるみで子育てをし、地域の活性化を目指し、今後の活動にもつながるよう、改善に努めていきたい。また、男鬼森林学習の継続・発展的な運営や、さんあかレンジャーのさらなる活躍の場を考えていくことが大切だと考えている。また、3年生の卒業研究で「鳥居本の活性化」をテーマにして、鳥居本の自然や宿場町（歴史）、産業について考察をし、未来につなげていく活動ができた。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

- ・1小学校・1中学校で、鳥居本学園として小中一貫型教育を行っている。体育大会や地域協働活動、クリーン活動・資源回収など小中で連携して行っている取組がある。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（ ）

報告書記入者（教頭）

「ふるさとと共に生きる喜びを」地域とつながる活動の支援

彦根市	活動名：鳥居本中学校区地域学校協働本部	鳥居本小学校 学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに <input checked="" type="checkbox"/> 印 開始年度：平成21年度 地域学校協働活動推進員等数：2人（兼務0人） ボランティア登録数：50人 <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input checked="" type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 []		

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容を中心に記入ください。）

総合的な学習（ふるさと学習）等地域と学校が連携・協働して地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支えるという視点にたち、鳥居本学区の特色を生かした事業の進め方について意見交換をした。

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

○ 5・6年生家庭科 ミシンでソーイング

10月に、5・6年生の家庭科で、ミシン学習の支援をしていただいた。初めてミシンを使う児童が多く、ミシンの糸をかけたり、線に沿って縫ったりする作業に時間を要した。ミシンそのものの扱いに慣れていないため、ひとたびミシンが止まったり、糸が絡まったりしたときに、友だち同士では解決できないことも丁寧に教えていただいた。ミシン縫いの楽しさを味わいながら、5年生はエプロン、6年生はナップザックを全員仕上げることができ、生活に役立つ物を作る喜びを一人一人の児童が確かに感じとることができた。



【 ミシンでソーイング 】

○ 読み聞かせ活動・図書室環境整備

地域の方に図書室の環境整備をお願いし、図書室の本の整理や新刊図書の紹介、年中行事に合わせた掲示物のデコレーションなどを行っていただいている。また、毎月2回（火曜日8:15~8:30）、約10名の方に学級毎の読み聞かせをお願いしている。子どもたちは読み聞かせを楽しみにしており、読書意欲の高揚につながっている。本の内容や発達段階により様々な工夫を凝らしていただいております、子どもたちの豊かな心の育成につながっている。



【 図書室環境整備 】

■ 実施に当たっての工夫

参加者の募集については、保護者への紙面での募集に加え、自治会を通して地域の方への配布も行い、幅広く募集をかけた。

地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）の方と年度当初と年度途中で定期的に相談をし、児童の活動を考慮して見直しをもち活動を実施した。

■ 事業の成果

学校の事情に添った支援をいただき、子ども達が、地域の人・もの・自然に触れながら、活動を仕組むことができた。活動を通して、児童は地域の人々の温かさや、自然の豊かさに触れ、自分の住む町への親しみや誇りを高めることができた。地域コーディネーターが保護者や地域の方々にも広く参加を呼びかけることで、支援者の数も徐々に増え特に中学年や低学年の保護者が高学年の学習に加わって下さり、今後の滑らかな人的な引継ぎにつながっている。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

建設的なアイデアや提案をいただき、地域の豊かな人材や教育力や教材に、学校教育が確かに支えられていることを実感した。次年度の見通しをより効果的な学習を目指し、地域の支えを学校教育に生かせるよう、より一層密に連携して活動を行っていきたい。地域への情報発信を充実し、児童の主体的な学びを後押ししていきたい。

また、地域にある団体（青少年育成協議会、民生委員児童委員協議会、スポーツ振興会など）と学校とがさらに連携を深めることで、組織的な協力を得て、人材や安全の確保、指導内容の充実を図っていききたい。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

鳥居本学園ホームページ <https://www.fureai-cloud.jp/toriimoto-hikone/> 小中学校の様子をお知らせしています。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（ 学級担任 ）

報告書記入者（ 教頭 ）

地域の未来につなぐ学校支援

彦根市	活動名： 稲枝中学校区地域学校協働本部	稲枝中学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成20年度 地域学校協働活動推進員等数：5人 ボランティア登録数：85人（稲枝中は8人） ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り ■部活動支援 ■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり □地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） □地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 ■その他〔地域運動部活動事務局〕			

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

教員の働き方改革に伴い、学校に対する支援についてどのようなことが可能かを話し合った。環境整備、学習支援等今まで当協働本部が取り組んできた事柄に加えて、令和3年度から部活動の地域移行についても、中間総括的に熟議を行った。

その中で、次のことが話題となった。

いつまでも善意によって支えられている事業形態が続くのか。ボランティアのメンバーが固定化し、年とともに高齢化が進む。抜本的に見直す時期が来ているのではないだろうか。

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

- ・朝の読書活動支援（読み聞かせ）
- ・特別支援学級の作業学習、生活単元学習にかかる支援
- ・校外学習（地域学習）支援、当日の肢体不自由児に対する支援
- ・稲枝駅周辺環境整備、稲枝サマーフェスタへの参加支援
- ・校庭樹木の剪定、除草等環境整備支援



【 地域の方による校外学習の事前指導 】

■ 実施に当たっての工夫

教員の働き方改革が大きな課題となっている時期のため、前年度までに行っていた、勤務時間外の会議をなくした。

コーディネーターが動ける範囲で保幼小中へ出向き、調整を行った。

■ 事業の成果

- ・読み聞かせを行うことで、生徒たちの読書に多様性を持たせることができた。
- ・特別支援学級の学習においては、生徒たちが興味を持ち自主的に作業ができるようになった。
- ・インターネット等では調べ難かった事を地域の専門家の話を聞くことで新しい視点が持てた。
- ・市の予算でしていただけなかった生垣の剪定ができ、近隣から喜ばれた。



【 地域の方から農作業を学ぶ 】

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

この事業が発案された頃（団塊の世代が大量退職したころ）は地域や学校に退職者たちの力やノウハウを生かせないだろうかということが一つのテーマであった。しかし今は、働き手不足のために、高齢になっても仕事に従事する方が増えて、ボランティアを募ること自体が困難な状況になっている。

今のところ、前年度までのボランティアに頼る状況である。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

稲枝中学校の学校運営協議会は令和5年度に開設されたばかりということあって、何か協働できているという段階ではないが、運営協議会の会長が、稲枝地区青少年健全育成協議会の会長であることから、地域が望む学校像については明確なビジョンがある。また、協議会は下部組織として稲枝中学校地域運動部活動の事務局を置いているので、過渡期にあると思われる教員への支援や学校づくりへの参画が求められていると考える。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（特別支援学級担任）

報告書記入者（ 地域学校協働推進員 ）

子どもたちの学びを豊かにする地域支援活動

彦根市	活動名： 稲枝中学校区地域学校協働本部	稲枝東小学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 開始年度：平成 20 年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：56人 <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input checked="" type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 []			

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

- ・本校の学校運営方針を基に、読書に親しむ子どもの育成、環境整備や自己肯定感の高まりのために大切なことについて
- ・地域の力をどう子どもたちの教育に生かすのかについて、各支援・関係団体で取り組める活動の交流

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

○読書に親しむ子どもを育成する朝の「読み語り」・図書室の環境整備

地域の「読み語りボランティア」8名の皆さんに、木曜日朝のすこやかタイムに読み語りをしていただいた。また、子どもたちがいろいろな本を手に取りやすいように、図書室の環境整備も進めていただくことで、図書室の学習環境が充実し、子どもたちの豊かな心の育成につなげることができた。

○夢を実現された本校卒業生から学ぶ「教育講演会」

本校卒業生でプロバレリーナ・ダンサーとして活躍されている上林さんをお迎えし、4・5・6年生に「夢をかなえて」～届け！先輩からのメッセージ～と題して、体験談や在校生へのメッセージについて講演いただいた。夢を実現させるためには、普段の生活でできることをしっかりとすることや、思いをしっかりと持って決してあきらめないことなどを熱く語っていただき、改めて夢に向かって努力することの大切さを感じる事ができた。



【 朝の「読み語り」 】

■ 実施に当たっての工夫

読み聞かせ時に、実物投影機を活用して本を拡大提示することで、よりお話の世界に浸ることができた。

地域人材を活用した学習や活動について、お世話になった方の所属や名前、活用した教科、内容等を記録に残し、次年度以降に活用できるようにしている。



【「夢をかなえて」
～届け！先輩からのメッセージ～】

■ 事業の成果

「読み語りボランティア」の皆さんは、本校だけでなく校区の幼稚園や中学校にも行ってくださっているので、子どもたちも安心してお話の世界に浸ることができた。

学校運営協議会のメンバーのネットワークを活用することで、学校のニーズに合わせたゲストティーチャーを紹介いただくことができた。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

学校として年間を通してどのような取組をしていくのか、またどのような人材を求めているのか、積極的に発信して教育活動を実施していく必要があると考えています。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

本校の取組について、日々の学校生活の様子と併せて稲枝東小学校ホームページにて紹介しています。

<https://www.fureai-cloud.jp/inaehigashi-hikone/>

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（ ）

報告書記入者（ 地域連携担当教職員 ）

「ALL はえみ」地域とともに、学びの充実をめざして

彦根市	活動名： 稲枝中学校区地域学校協働本部	稲枝西小学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成20年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：45人 <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input checked="" type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 []			

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

子どもの活字離れが進んできている。親と子が一緒になって本に親しむ時間を大切にしていきたい。また、コロナ禍にできなかった体験的な活動に積極的に取り組んでいきたい。

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

毎年地域のフラワーサポーターさんと高学年の子どもたちが一緒に花壇づくりに取り組んでいる。メイン花壇だけでなく、サブ花壇や中庭、昇降口など四季折々の花に囲まれている。花の植え替えや水やりなど、地域の方と共に活動に取り組むことができた。花の栽培活動を通して、命の大切さや、思いやりの心を育むことにつながった。木工教室では、昨年度はコロナ感染症対策のため、前半、後半の2グループに分けて実施したが、本年度は4年ぶりに合同開催をした。約100名の親子が鉛筆立てや本棚など、親子で力を合わせて作成することができた。

各学年の学習内容に応じて、地域の方々から話を聞いたり一緒に体験したりする学習活動を行った。低学年では地域の神社や商店に出かけて話を聞いたり、持ってきてくださった焼き芋を給食の時間に食べたりした。中学年では保護者にゲストティーチャーとして来校いただき、木を使ったものづくりについて学習した。高学年では近所の田んぼを使った田植え体験やニゴロブナの放流体験を行った。



【 花の苗植え 】



【 木工教室 】

■ 実施に当たっての工夫

フラワーサポーターさんととの花壇作りでは、地域コーディネーターと事前に年間のおよその活動計画を共有することで、見通しをもって取り組むことができた。また木工教室では、使用する材料を準備する際に、ある程度の大きさごとに分けて用意することで、時間内に効率よく活動することができた。

■ 事業の成果

フラワーサポーターさんと一緒に種まきや植え替えなど花壇作りに取り組むことで、地域や学校での出来事について自然と交流する場面が見られた。また、学校の花壇は地域のみならずとも大切な花壇であるという意識が高まり、今後も大切に続けていきたいという伝統意識の育成にもつながった。地域学習等で話を聞いた際には、実物に触れたり、体験を交えた話を聞いたりすることができた。今と昔を比べることで、町の様子や生活の仕方、暮らしやすさなど時代によって変化してきたものや、何十年も変わらず大切にされてきている場所や思いに気づくことができた。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

日程調整や前年度の内容確認、学級担任との連絡調整が難しいことがあった。今年度の活動内容、および反省点について現担任でまとめ、来年度の新担任に確実に引き継げるようにしたい。また、地域コーディネーターと年度当初におよその年間の活動内容について共有することで、計画的に活動を進めていきたい。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

年間3回の会議を行う。1学期は、学校から学校経営方針の説明をし、交流した。2学期は中間学校評価をもとに、子どもたちの姿や学校のあり方についてご意見を頂いた。3学期は、今年度のまとめと来年度に向けての課題を話し合う予定である。今年度は実際の活動写真や動画などを示しながら説明することで、子どもの様子や活動内容がよく伝わり、より具体的な内容について交流することができた。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（ 担当教諭 ）

報告書記入者（ 地域連携担当教職員 ）

ふるさとに誇りをもち、未来にたくましく生きる子どもの育成

彦根市	活動名： 稲枝中学校区地域学校協働本部	稲枝北小学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成 20 年度 地域学校協働活動推進員等数： 1 人 ボランティア登録数： 199 人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 ■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり □地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） □地域行事への参加 □ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他 []			

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校・園 ■学校運営協議会 ■地域学校協働活動推進員等 □行政 □その他（ ）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

- ・ 地域人材の発掘が課題（下校見守りの高齢化など）
- ・ 穏やかな学校生活の中にあっても、人生の荒波を乗り越える力強さを育む教育活動を探る。
- ・ 稲枝3小学校の交流を図れるとよい。
- ・ 学校教育目標やビジョンの共有と、「協働」の定義を委員会内で共通理解の必要。

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

○栽培活動支援

- ・ 年度初めの4・5月に、地域の方にお越し、各学年の栽培活動で使用する畑の整備をしていただいた。

○稲村かるたオリエンテーリング

- ・ 10月31日(火)に、全校児童が学校から柳川町、薩摩町方面へ徒歩でオリエンテーリングを行った。チェックポイントでは地域の方にその土地にかかわるエピソードを紹介していただいた。地域の豊かな歴史を感じ取り、ふるさと「いなむら」を誇りに思う気持ちをさらに高めることができた。

○交流のつどい

- ・ 11月21日(火)に、地域の方にお世話になり、1・2年生が紙芝居や人形劇、独楽（こま）まわしを楽しませていただいた。珍しい独楽の紹介をしていただいたり、回し方を教えていただいたりした。地域の方の温かさに触れ、楽しく充実したひとときとなった。



【稲村かるたオリエンテーリング】

■ 実施に当たっての工夫

- ・ 地域連携担当教員を通して、ボランティアの方を探したり日程調整をしたりした。また、窓口を一本化し、先を見通して日程が重ならないように配慮した。
- ・ 年度当初や、それぞれの活動の前には地域コーディネーターに学校にお越しいただき、活動のめあてや安全面の配慮等について打合せを行った。



【交流のつどい】

■ 事業の成果

- ・ 子どもたちの環境整備が整い、安心して学校生活を送ることができた。
- ・ 地域のボランティアの方と関わることで、子どもたちにとって身近な地域の方に教えていただいたり、お話をさせていただいたりすることで地域への愛着も深まった。稲枝北小学校の子どもたちのために地域の方々がいろいろと支援をしてくださっていることを、折に触れて紹介したり、事前指導をしたりすることで、ふるさとへの思いを深めることができた。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

ボランティアの高齢化が進んでいるため、後に続いて指導して下さる方を見つけていく必要がある。新しいボランティアの方の加入を積極的に進め、人材確保にあたっていきたい。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

学校運営協議会では、建設的なご意見やご提案をいただき、地域の豊かな人材や教育力により学校を支えていただいている。「地域に開かれた教育活動」の実現に向けて、より一層の地域との連携を深めながら、活動を行っていきたい。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校長 ■教頭 ■地域連携担当教職員 □その他（ ）

報告書記入者（教頭）

「子どもたちの笑顔のために」チームわかバンク8年目の取組

彦根市	活動名：若葉小学校地域学校協働本部	若葉小学校 学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成29年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：60人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 ■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり □地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） □地域行事への参加 □ボランティア・体験活動 ■郷土学習 ■その他 [土曜支援（教室）…第1、3週の土曜日AM]		

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園
 学校運営協議会
 地域学校協働活動推進員等
 行政
 その他（ ）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

・地域学校協働本部（わかバンク）の組織について
 ・年間の活動内容について
 ・育成する児童像について

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

①「若葉の森」の環境整備活動

校地内に植えられている2000本を超える樹木は、「若葉の森」として地域の方にも親しまれている。開校当時からこの「若葉の森」の樹木を学習の題材として、生活科・総合的な学習の時間、特別活動等を中心に樹木に関わる学びを深めている。

常設の支援（図書・学習・見守り・広報・土曜）に加え、特設の環境整備部により校地内の葉刈りや剪定、花壇の整備等の支援を充実させることができた。今後も自然豊かな環境を維持し、児童への学びへつなげていきたい。

②命を育む栽培活動

これまでから地域の方にお借りしている畑を学校園として、全学年で栽培活動を進めている。この活動の目的は、子どもたちが苗植えから水やり、草取り等、野菜を育てる過程を大切に、命の尊さ、収穫の喜びを実感できるよう、地域のボランティアさんのご協力をいただいで進めてきた。今年度も地域学校協働活動推進員との入念な打合せを行い、教育活動の目的に応じた栽培活動（畝立て、苗植え、収穫など）に支援をいただくことができた。

③地域の高校との協働によるプログラミング学習

これまでから地域のマイスター・ハイスクールである彦根工業高校の建設科と連携を図り愛校運動の一環として中庭テラスの修繕作業などに取り組んできていた。さらに、電気科とも連携を広げプログラミング学習を実施してきた。高校生からは、プログラミングについての話を聞き、実際にScratchを使用してプログラミングに取り組んだ。今後もマイスター・ハイスクールとの連携を図り、キャリア教育へとつなげていきたい。



【環境整備部による葉刈り】



【プログラミング学習】

■ 実施に当たっての工夫

○地域学校協働活動推進員と地域連携担当教職員が連携を図り、地域と学校が協働した活動を教育課程に位置付け進めることができた。活動について広く発信できるよう、広報紙を発行したり学校ホームページで紹介したりし啓発を図った。

■ 事業の成果

○地域活動推進員を中心に、「学習支援」「図書支援」「見守り支援」「広報支援」「土曜支援」「環境支援」の6つのリーダーが責任をもって進めてくださるため、どの活動も価値ある成果を感じることができた。

○8年目をむかえ、「地域の方」から「わかバンクの方」へと児童の認知度も高まり、児童とのつながりも深まってきている。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

○学校支援メンバーの一部の方に負担がかからないよう、PTAをはじめ、様々な事業所や機関とも連携を深め、長期間を見通した継続性のある活動を進めていきたい。支援メンバーの高齢化も伴い、今後の継続を可能とする組織改編が急務である。保護者への参画を呼びかけ、地域・保護者で子どもの成長を支える活動の充実を進めていきたい。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

○年間4回、学校運営協議会を開催。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長
 教頭
 地域連携担当教職員
 その他（ ）

報告書記入者（教頭）

ともに！ つなごう 深めよう 育てよう 田根っ子の未来

長浜市	活動名： 田根地域学校協働本部	田根小学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：令和5年度 地域学校協働活動推進員等数：2人 <input type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input checked="" type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 []			

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園
 学校運営協議会
 地域学校協働活動推進員等
 行政
 その他（ ）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

・令和6年2月20日の学校運営協議会にて地域学校協働活動について熟議を行う予定。

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

- 学校と連携した子ども学び座
 - ・地域のまちづくりセンター祭を活用し、子ども商店を実施。
 - ・地域の協力や学校との連携により、子どもたちが企画から準備、運営を行った。
- 講演会「聞かせて先輩」
 - ・地域の方を講師に迎え、4～6年生を対象に授業を行っていただく。
- 大学生による学習や交流活動
 - ・慶応大による、本を通じた循環型の仕組みを作ることを目的として、住民の方からいただいた材料で本棚を作るワークショップを実施。慶応の大学生と虎姫高校の生徒と共に作業を行った。
- 海外アーティストによる交流会
 - ・一つの地域に一定期間滞在し、芸術活動を行うアートインレジデンスによりポーランドからのアーティストによる音楽授業を実施。簡単な英語と身振り手振りによる音楽のワークショップを行った。
- 世代間交流「たまり場」事業
 - ・田根小学校で、地域づくり協議会福祉保健部会による世代間交流事業を実施。地域おこし協力隊や慶応大生とともに子どもたちが地域の方と交流する機会となった。



【 子ども学び座 】



【 音楽ワークショップ 】

■ 実施に当たっての工夫

・実施の際は、地域コーディネーターが学校と情報交換を行い、連携を図りながら打合せを行った。

■ 事業の成果

・子どもたちが地域の方々と一緒に活動することで地域でのつながりができ、また多様な団体と協働することで、地域や世代を超えた様々な体験をすることができた。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

・学校と地域がどんな子どもたちを育てたいかのビジョンを共通認識しながら、次年度に向けて、協働活動の内容や学習時期の調整など年間計画を学校と地域で共有しながら進めていく必要がある。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

・学校運営協議会の委員として参画いただいている、地域づくり協議会会長とまちづくりセンター所長に、地域コーディネーターとして入っていただき、連携を図っている。
 ・今後の学校運営協議会にて熟議を行いながら、共通認識をし、取組を進めていく。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長
 教頭
 地域連携担当教職員
 その他（ ）

報告書記入者（ 市民協働部生涯学習課 担当 ）

みんながつながる・ふれあう・育みあう 八幡学区 子どもは地域の宝もの

近江八幡市	活動名：八幡幼稚園地域学校協働本部	八幡幼稚園 学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印		
開始年度：平成27年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：19人		
□学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援		
■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 ■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり		
□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） ■地域行事への参加 □ボランティア・体験活動		
□郷土学習 ■その他 []		

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校・園 ■学校運営協議会 ■地域学校協働活動推進員等 □行政 □その他（ ）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

○八幡学区の自然、文化、伝統等のよさを地域の方々とも子どもや保護者、教師が一緒になって知り、地域を大切に思う子どもの育成をめざすためには、どのような取組を進めていくとよいか。取組や内容、人材確保について協議する。
○園児数が減少してきているので歯止めをかけるために幼稚園のよさをどのようにPRして園児数の確保に努めるかを協議する。

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

○絵本の読み聞かせ
毎月各学年1～2回、絵本の読み聞かせを実施。傷んだ絵本の修繕、絵本の整理。
○遠足、散歩への引率・地域行事への参加
地域への散歩や遠足、買い物に出かける際の引率や、地域の伝統行事に参加。
○園庭を開放しての食事会
子どもたちの給食時に合わせて地域の方々にも一緒に食事を楽しめる食事会の実施。
○芝生や環境整備
園庭の芝生刈りを春から秋まで週1回実施。冬芝の種蒔きや肥料散布も実施。
○未就園児の託児
研修や保育参観時に保護者が安心して参加できるように未就園児の託児を実施。

■ 実施に当たっての工夫

○絵本の読み聞かせや環境整備、未就園児の託児等、園内のボランティアだけにとどまらず、地域の方や卒園児の保護者にも声をかけ必要性について周知する。また、活動の様子を情報誌や便りを通して保護者や地域へ発信し関心を高めていく。
○子どもたちが地域や地域の伝統行事に関心や親しみをもてるように地域の方と細やかな連携・協議を重ね、機会を保障するとともに、教師も積極的に地域に出向き学ぶ機会を多くもつ。
○子どもたちも地域の方も一緒に楽しみながら園で過ごし、互いに関わり合えるような機会を計画し実施する。

■ 事業の成果

○地域の方やボランティアの方々に関わることで保育内容が豊かになり、地域の方に親しみや感謝の気持ちをもつことができた。また、自分達が大切に思われていることを実感することができた。
○地域の方と一緒に散歩に出かけたり、地域の伝統行事に参加したりすることで、地域のよさを知り、興味や関心を高めることができた。子どもたちから「祭りに行きたい」という声や実際に保護者に連れられ参加した姿も見られた。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

○一部のボランティアが重複して活動に参加しているので、活動への興味や関心を高め増員を図り継続していきたい。その為に、ボランティア同士のネットワークを広げたり活動の様子を情報誌や便りに掲載したりしていく。
○地域や地域の方と関わることでできる活動を保育計画に組み入れ実施できてきたので継続し保育内容を豊かにし、地域に根差した魅力のある園になることをめざしていきたい。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

○八幡学区のよさを活かした活動や事業を計画実施すると共に、八幡幼稚園のよさを地域へPRするための活動や事業の計画実施を学校運営協議会として協働できるように協議を重ねている。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■園長 ■副園長 □地域連携担当教職員 □その他（ ）



【 八幡学区 太鼓まつり準備を見学 】



【 地域の特産品をお買い物 】

報告書記入者（ 副園長 ）

保護者・地域の方のキラッとを保育の中に・・・

近江八幡市	活動名：金田幼稚園地域学校協働本部	金田幼稚園 学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成23年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：20人 <input type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input checked="" type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 []		

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

- ・ 絵本室の整備について。
- ・ 学びに向かう力推進事業の取組の進捗状況について。
- ・ 毎回行う参観やドキュメンテーションから子どもたちの育ちや学びについて見取り、協議を進めている。
- ・ 保護者ニーズや金田学区の課題について、預かり保育実施について。開始に伴いその様子について。

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

- ・ 週1回の読み聞かせ活動では、子どもたちは、ボランティアの方に親しみを持ち、いろいろな絵本との出会いを楽しみにしている。今年度は、ボランティアの方の協力を得て大規模な絵本室の整備を行った。
- ・ 更生保護女性会の方と連携し、水遊びの着替えの見守りなどの保育補助や、参観時の託児を依頼した。月に1回行う「にっこりタイム」でのふれあいでは、こま回しや折り紙などを教えていただき、子どもたちの楽しい時間となっている。



【 新しくなった絵本室にて 】

■ 実施に当たっての工夫

- ・ 園が必要としている支援にボランティアの方の得意分野を生かしていただけるよう推進委員と連携をしている。
- ・ 園畑や園周辺の除草や葉刈り、芝刈りは、園児には直接見えない時間に活動して下さることが多い。たくさんの地域の方にお世話になっていることを機会あるごとに子どもたちに知らせ、感謝の気持ちをもてるようにしている。

■ 事業の成果

- ・ 地域の方々との温かなふれあいや、地域のよさを感じる事が子どもたちの豊かな経験につながっている。また、ボランティアの方がやりがいを感じ、楽しく積極的に活動して下さっている。



【 にっこりタイム 】

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・ 地域ボランティアの方の高齢化が課題である。園児の保護者の参加も増えるようにボランティアを募っているが、就労を始められる保護者も多く登録者数は少ない。今後も活動内容を知らせたり、登録を呼びかけたりしてより多くの方に関わってもらえるようにしたい。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

- ・ 毎回、子どもの日常の様子を参観していただくことで、子どもたちの様子や成長の過程を確認することができたと共に、保育の中で大事にしたいことなどを考える機会も増え、よりよい子どもの育ちについて協議を深めることができた。
- ・ 幼稚園の応援団として常に見守り支援して下さっていることは、本当にありがたく感じている。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

園長 副園長 地域連携担当教職員 その他（ ）

報告書記入者（副園長）

自分が好き・人が好き・馬淵が好きな まぶちっこ ～地域の人とのかかわりをとおして～

近江八幡市	活動名：馬淵こども園地域学校協働本部	馬淵こども園 学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成 28 年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：25人 <input type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 []		

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

・地域に開かれたこども園として、馬淵こども園の良さを地域に発信していくことが大切である。また、地域の人との関わりを温かさを知り地域を大切に思う子どもの育成に向け、活動内容の検討や地域の方の人材について共有していく。

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

- ・園の環境整備として、春から秋にかけて週1回の芝生管理。
- ・月1回、各クラスにおいて絵本の読み聞かせ。
- ・あいさつ運動への参加。登園時に通用門に立ち、保護者や園児にあいさつ。
- ・保育参観時に保護者が安心してゆったりと参観できるための未就園児の託児。
- ・未就園児の絵本貸し出しのサポートや地域の未就園児の親子がこども園での遊びへの参加の際の見守りや保育補助。
- ・園外保育に出かける際の子どもたちへの交通指導や園外での活動を楽しめるよう見守りや保育補助。
- ・運動会・焼き芋・秋まつり・年末お楽しみ会等、園行事への参加、運営補助。



【 絵本の読み聞かせ 】

■ 実施に当たっての工夫

- ・地域のボランティアの方々の得意分野について把握・連携し、いきいきと活動・協力していただけるよう依頼した。
- ・月1回の絵本の読み聞かせでは、ボランティアの方々にどのクラスにも入ってもらえるよう年間スケジュールを作成し、対象年齢に合った絵本を選定していただいた。
- ・園外保育の引率では、事前に内容や役割分担等について打ち合わせを行い、安全に見守れるようにした。



【 未就園児の遊びの見守り 】

■ 事業の成果

- ・子どもたちの園生活や活動、園環境が充実し、安心安全に過ごすことができた。
- ・ボランティア活動を通して地域の皆さんに子どもたちに親しみをもって関わっていただいたり、園教育・園運営に対する理解をより深めていただいたりすることができた。
- ・実際に子どもとかわかってもらったり、してくださったことを具体的に子どもに見せたり知らせたりすることで地域の方々の顔を覚え、感謝の気持ちを持ったり温かさを知ったりすることができた。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・人材の高齢化が進み、地域の方々やボランティアの方々の人材発掘が課題となっている。学校運営協議会へ投げかけたり、地域・保護者にもボランティア登録のおたよりを配布したりして、登録者数を増やしていきたい。また、地域の方の得意なことを生かして、様々な形で子どもたちと関わっていただけるよう、活動内容も考慮していきたい。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

- ・こども園の幼児は馬淵小へも就学する。馬淵学区全体の子どもの姿の課題等共有するため、小学校との合同運営協議会を開催している。
- ・協働活動推進員は学校運営協議会の委員を兼ねていただき、行事および日頃の様子を参観する機会が増え、よりよい子どもの育ちについて協議を重ねることができた。今後も地域の方とどのような協働活動ができるのか、推進員と検討を重ねていきたい。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 副園長 地域連携担当教職員 その他（ ）

報告書記入者（ 副園長 ）

心わくわく みんなが輝く 北里幼稚園ボランティア活動

近江八幡市	活動名：北里幼稚園地域学校協働本部	北里幼稚園	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成25年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：14人 <input type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 []			

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

- ・実際に園児や幼稚園の様子を都度協議会委員に参観してもらい、見て感じられる機会をもつことで、園児のさまざまな姿からどんなことを大切にしながら保育を進めているかなど共通理解を図った。
- ・子どもが楽しめる活動、経験させたい遊びなど具体的に出し合い、地域の方の協力をいただき実施していった。
- ・年季の入った園舎の環境面を改善するためどうしたらよいか、ボランティアや地域の団体との繋がりや市との調整について。

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

- ・隔月で地域と保護者のボランティアの読み聞かせを継続。子どもたちの読書環境がより豊かなものとなっている。
- ・毎年近隣の町の老人会の方にお世話になり、芋苗植えや芋ほりの体験をしている。また、今年は近隣の高齢者との交流会も再開することができ、一緒に遊んだりふれあったりすることができた。
- ・自然豊かな地域のよさを感じられるように、園外保育ではボランティアの協力のもと安全を確保しながら四季折々の身近な自然にふれ、いろいろな風景などを楽しむことができた。地域に出かけたくさんの人と出会い関わって親しみをもつことを今後も大切にしていきたい。



【 さつまいも苗植え 】

■ 実施に当たっての工夫

- ・どんな願いをもってどんな経験をさせたいのか、どのような関わりをしていただきたいかなど丁寧にボランティアの方に伝えて相互の共通理解のもと活動できるように工夫した。



【 クッキングの様子 】

■ 事業の成果

- ・活動がコロナ禍前に戻ったことで地域の方やボランティアさんに関わったり、ふれあったりする機会も増えて『地域で育てる 地域を愛する 地域子ども～北里で遊んで つながり 大好きに～』と掲げているめざす子どもの姿の実現につながっている。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・人材の高齢化が進んでいることから、新しいボランティアの獲得や人材発掘が課題となる。
- ・長年継続している活動もあるので、新しい人材を勧誘してボランティア同士の関わりを大切に、活動を繋げていきたい。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

- ・園行事やさまざまな活動を園と協議会委員が参観を通して話し合い、よりよいものとなるように協議している。今後も子どもたちを中心に据えて活動がより豊かで楽しいものになるようにしていきたい。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 副園長 地域連携担当教職員 その他（ ）

報告書記入者（ 副園長 ）

げんき・いきいき・あづちっこ ～つながる・ひろがる・ボランティアの輪～

近江八幡市	活動名：安土幼稚園地域学校協働本部	安土幼稚園	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成24年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：44人 <input type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 []			

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

- ・令和5年度の経営管理計画について
- ・地域学校協働本部活動について
- ・子どもたちの様子および保護者の現状と課題について
- ・目指す子ども像について
- ・子どもたちの遊びの姿について
- ・園評価について

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

(1) 環境整備

今年度から新しく「芝生ボランティア」を募集し、園庭の芝刈りを実施した。環境ボランティアの方は樹木の剪定、花壇の花植えなどを実施して下さった。暑さの厳しい中作業して下さる姿に子どもたちも大きな声で感謝の気持ちを伝える姿がみられた。



【 芝刈り 】

(2) 子どもの見守り・保育補助・託児

4月中旬から入園当初の3歳児クラスの保育補助を実施した。地域の方とPTAの方で子どもたちを温かく見守って下さり、初めての園生活となる3歳児の子どもたちが安心して園生活のスタートをきることができた。また、年間を通じて参観日の託児にはたくさんの保護者が協力して下さり互いに交流することができた。



【 託児 】

(3) 図書ボランティア・おはなし会（愛称：まんまるさん）

まんまるさんのおはなし会（絵本の読み聞かせ）を月に1回、各クラスで実施した。季節や年齢に合わせて絵本を選んで下さり、楽しいひとときとなった。図書ボランティアの方々は絵本のカバーつけや、修繕をして下さり絵本環境が充実した。また、絵本室の壁面環境も新しく作成して下さり、より楽しい雰囲気づくりにつながった。

■ 実施に当たっての工夫

地域学校協働活動推進員と連携し、子どもたちにとって楽しい園生活になるようにボランティアの方々にそれぞれ得意な分野で活動していただいた。

■ 事業の成果

参観日に未就園児（弟妹）の託児をおこなうことで、保護者は安心して園児と関わり園生活に触れることができた。託児の希望者は多く、未就園児にとっていろいろなボランティアとのかわりもよい経験となった。また、絵本の読み聞かせや環境整備に関する活動も定着し、ボランティアの方々を身近な存在として意識し、関わりを深めることができた。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

様々なボランティア事業に幅広く参加して下さる方もいるが、今一步踏み込めない方も多い。登録してもそれぞれのペースでの参加や自由参加でよいことを伝え、楽しく気軽に活動していつもらえるようアピールしていきたい。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

学校運営協議会で、園の取り組みや子どもたちの姿や課題について協議を重ねてきたことで、様々な角度から子どもを見ることができ、「安土の子ども」として同じ目線で見つめ、共有することができた。今後も地域の方々と子どもたちをつなぐために学校運営協議会と連携して事業を進めていきたい。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

園長 副園長 地域連携担当教職員 その他（ ）
報告書記入者（副園長）

“にこにこ きらきら 武佐っ子”を育む あったかい支援の力

近江八幡市	活動名：武佐こども園地域学校協働本部	武佐こども園 学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成27年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：23人 <input type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 []		

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

(1) 保育教材作り（布製おもちゃ作り）

布製おもちゃ作りを中心に、人形の服やクーハン、ままごとのごちそう、避難車のカバーや乳児椅子のカバーなど製作を行う。今年度もボランティアの方々の都合もあり、各家庭で製作してもらった。出来上がったおもちゃを使って一緒に遊んでもらうことはできなかったが、子どもたちの遊ぶ様子を写真で見てもらったり、遊んでいるときのエピソードを口頭で伝えたりしてどんなものがあたらよいのか保育者と相談したりすることでさらに遊びに必要な物を作ってもらうことができた。



【 焼きいも 】

(2) 栽培活動

さつまいもの苗植えや収穫を園児と一緒にする。子ども達が活動しやすいように事前に畑にマルチをかけた後、さつまいもをおこしやすいようにツルを伸ばしたりするなど環境を整えていただいた。

(3) 行事支援

焼きいもや餅つきなどの行事の補助をしていただく。もみ殻への火の広げ方や餅の丸め方など、職員や子どもたちにコツや方法など、長年の経験を元に教えていただくことができた。



【 もちつき 】

(4) あいさつ運動

毎月1日、15日にあいさつ運動を行っている。園長と一緒に通園門前に立って挨拶をしながら園児や保護者を迎える。保護者会役員や5歳児もあいさつ運動に参加することで、他の保護者への啓発につながっている。

■ 実施に当たっての工夫（工夫・対応等）

- ・ボランティア活動を知ってもらうために、活動の様子を保護者向けに通信を発行し、情報発信を行っている。
- ・今年度も、保育教材作りは園で作成してもらうのではなく、各家庭で制作してもらえるよう布や型紙や材料などを用意し依頼する。作成したおもちゃを使って、一緒に遊んでもらうことができないので、材料を家庭に届けに行く機会に子どもの遊びの様子を伝えたり、会えない方には手紙で知らせたりした。

■ 事業の成果

- ・おもちゃ作りでは、職員だけではなかなかできなかったことを協力していただき、保育環境の充実につながり、園児の活動がより広がった。また、子ども達の活動や姿に合わせて必要な物をすぐ作ってくださったことで衛生的で心地よい、温かみを感じられる保育環境になった。
- ・行事支援では、経験豊かな方から方法や知識などを教えていただくことができた。また、保育の中に取り入れることで、子どもたちの興味・関心につながった。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・今年度もボランティアの方の都合もあり、作っていただいた布製おもちゃで一緒に遊ぶ『ふれあいタイム』などは実施できなかった。
- ・行事支援については、事前の打ち合わせと当日のスケジュールの確認を行うことで、活動がスムーズに実施できている。今後、もていねいな対応を心掛ける。
- ・地域の方や保護者の方にも、ボランティアに参加してもらえるよう働きかけていきたい。また、ふれあいタイムをどんな形で実施できるか検討していきたい。

■ コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

園長 副園長 地域連携担当教職員 その他（ 主幹保育教諭 ）

報告書記入者（ 主幹保育教諭 ）

は・あ・と・がだいじ～地域の方と心でつながる園教育を～

近江八幡市	活動名：老蘇こども園地域学校協働本部	老蘇こども園 学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成 25 年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：18人 <input type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input checked="" type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 []		

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

【栽培活動】

さつまいも・パンジーの苗の植え方や育て方を教えてもらい、収穫も一緒に行っている。栽培のアドバイスや収穫までの世話等していただいている。

【クッキング活動】

カレー作りや食育教室のクッキング活動では、ボランティアの方にも参加していただき、道具の使い方等を保育者と共に指導していただいている。

【環境】

運動会に向けて地域のボランティアの方や保護者、職員が協力し合い、園庭整備を行っている。

【絵本】

月1回のペースで絵本ボランティアの方に読み聞かせをしていただいている。

【安全教育】

保護者会役員の方がスクールガード研修を開催し、送迎時の駐車場で交通安全や園児のチャイルドシートの装着等の啓発活動を実施して下さった。

【避難訓練：老蘇コミュニティセンターへ2次避難】

避難訓練時、老蘇コミュニティセンターと連携し、第2次避難場所として避難し、防災についての話を聞いたり、施設見学を行ったりしている。



【スクールガード研修の様子】

■ 実施に当たっての工夫

- ・収穫時や年度末にボランティアの方との交流会を実施したり、子ども達からお礼のプレゼントを渡したりして、感謝の気持ちを伝える中で、園に対する理解を得られる機会を設けている。
- ・卒園児の保護者に声をかけ、継続して繋がっていただけるように、ボランティアの登録をお願いしている。

■ 事業の成果

- ・地域の方との協働活動を実施することで、子ども達も親しみをもち、交流の場を楽しみにする姿が見られる。交流の機会が園運営の理解にも繋がっている。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・地域や多方面でも活躍されているボランティアの方が多く、募った日に先約があったり、登録されている方が高齢になられ行事の内容によっては体力的に難しいことがあったりするため、今後新たな人材確保に努める必要がある。



【さつまいもの苗植えの様子】

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

園長 副園長 地域連携担当教職員 その他（ ）

報告書記入者（副園長）

地域とつながり、愛情あふれる協働活動

近江八幡市	活動名：八幡小学校地域学校協働本部	八幡小学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成24年度 地域学校協働活動推進員等数：1人（兼務1人） ボランティア登録数：148人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 ■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり ■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） □地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他 []			

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

・地域連携のあり方 ・放課後の児童の過ごし方 ・今後の保護者会活動

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

ボランティアの新規登録者が16名、登録者の合計は148名となった。

- ①環境整備…樹木剪定・枝葉処理、生け花、図書室整理、運動会テント設営・撤収、カーテン作り
- ②本の読み聞かせ…全学年毎週火曜日・朝10分間、布絵本（主任児童委員）
- ③学習支援…ミシン補助、ソーイング補助、八幡堀学習、ヴォーリズ学習、茶の湯体験、九九の間き取り、英語ボランティア、学習補助
- ④児童引率補助…町たんけん、観光ボランティアガイドによる引率
- ⑤クラブ活動支援…琴、茶、生け花、着付け
- ⑥栽培活動支援…夏野菜作り、大根作り、さつまいも作り
- ⑦その他…ベルマーク作業、雑巾づくり、150周年記念事業の準備作業
学生ボランティア（教員志望の学生）の積極的な受け入れ



【 夏野菜づくり 】

■ 実施に当たっての工夫

- ・登録されている人全員になにかできることをしてもらえるように連絡している。
- ・来校時にできる限りコミュニケーションを取り、良好な関係を築き、次につなげている。



【 八幡堀学習 】

■ 事業の成果

- ・多くの方と触れ合いから、児童は愛情を感じ、地域とのつながりを深めている。来校されたボランティアの方に、自らあいさつする児童が増えた。
- ・学習支援やボランティア活動を通じて、教員が地域の方から直接お話を伺うことで、地域理解を深めることができた。
- ・地域で活躍されている様々な職種の方を招いてキャリア学習を行い、仕事の内容や働くことの意義について学ぶことで、児童は大人への憧れや将来への希望を持つことができた。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・登録者の高齢化が進み、若い保護者の登録も増えたが、地域の人材も活用していく必要がある。（保護者は自身の仕事もあるため）
- ・ボランティア登録者に一斉配信や個別のやり取り等でSNSを利用し、連絡の効率化と地域学校協働活動推進員等の働き方改革にもつなげたい。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

- ・学校運営協議会の開催前に事前協議を行って協議内容を絞り、活発な意見交換ができるようにしている。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（ 学年主任 ）

報告書記入者（ 教頭 ）

地域とともに育てよう！「ふるさとを愛し 瞳輝く島っ子」を

近江八幡市	活動名： 島小学校地域学校協働本部	島小学校 学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 開始年度：平成 23 年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：360人 <input type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input checked="" type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input checked="" type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 []		

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

- 学 校 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等
- 行 政 その他（島学区まちづくり協議会）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動にかかわる内容等）

- ・地域で学ぶ、地域の人から学ぶことで郷土愛を育てる。
- ・読書活動の充実、家庭でのほたらきかけ。
- ・子どもが主体になれる防災体験について。



【 5年 わくわく野鳥観察会 】

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

(1) 郷土学習、食育・環境学習、各教科等の学習支援

- ・ふるさと学習 環境学習 防災学習
- 2年「まちたんけん」（大中見学「農園」「牛舎」など）「権座でおいも」（権座のお話・いも植え・いも掘り）
- 3年「ヨシ・菜の花学習」（ヨシちまき・ヨシの働きとくらし・ヨシ原の保全・ヨシ刈り・よしず・よし笛・菜種栽培、真珠等）
「まちたんけん」（地域の特徴・砂防ダム見学）
- 4年「ヨシ・菜の花学習」（菜種栽培・収穫・油を使ったクッキング 松明づくり・地域伝統の祭りと技を学ぶ）
「大中学習」「地域の祭り」（地域の農業とくらし）
- 5年「ヨシ・菜の花学習」（松明奉納）「たんぼの学習」「しめ縄作り」（SDGs）
「島小わくわく野鳥観察会」（船で渡合・権座・西の湖を巡り、探鳥）

- ・授業支援（昔遊び 昔体験 ミシンボランティア 米づくり等）
- ・エディブル・スクールヤード活動への支援 全学年（栽培 調理 食育 農業体験）
- ・行事支援 島アドベンチャー（全校、白山山ハイキング）・運動会「島っこ体育発表会」



【 全校 島アドベンチャー 】

(2) 見守り活動

- ・保護者による下校時の巡回パトロール「見守り車パトロール」
- ・地域の方による登校、下校時の見守り「みまもり隊」
- ・地域の方、保護者による朝の見守り 「行ってらっしゃい運動」

■ 実施に当たっての工夫

- ・食を伴う活動についても調理の仕方やグループ分けなどを工夫し、消毒を徹底して実施した。
- ・人材育成の観点から、推進員やゲストティーチャー、地域ボランティアの方と担任が打ち合わせをすることを大切に。その後のフォローなどを管理職がするようにした。
- ・地域の方に支援いただいた活動内容や学習の様子を、学校だよりやまちづくり協議会だより、学校ホームページなどで発信し、子どもの様子や感謝の気持ちを伝えるよう努めた。
- ・「防災学習」や「SDGs」の視点での連携について。

■ 事業の成果

- ・まちづくり協議会との連携で、新たな活動や子どもたちの学びにつながる人との出会いを作り出すことができた。
- ・地域の自然や伝統文化について地域の方とともに学ぶことで、大切に受け継いだ思いや生き方にふれることができた。
- ・エディブル・スクールヤードの取組を様々な教科や活動に結び付けることができた。
- ・地域の方の支援を受け本校ならではの学習を大切に、地域の方とのつながりを実感できた。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・推進員や地域ボランティアは経験が豊富であり十分な支援をしていただけるが、担任が単元全体を見通し授業を組まなければ学習が深まらない。担任教員が地域に愛着をもち学習を進められるよう、教材研究、地域の方との交流を進めていきたい。
- ・学校運営協議会を活用し、新たな視点からの意見をいただくとともに教育活動の後押しをさらにお願する。

■ その他 島小ホームページ <https://www.fureai-cloud.jp/shima-es/>

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

- 校 長 教 頭 地域連携担当教員 その他（担任）

報告書記入者（ 教頭 ）

夢が輝き ふるさを尊ぶ 勇気と愛のある 元気な沖島子どもの育成

近江八幡市	活動名： 沖島地域学校協働本部	沖島小学校 学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに <input checked="" type="checkbox"/> 印 開始年度：平成25年度 地域学校協働活動推進員等数：1人（兼務1人） ボランティア登録数：10人 <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input checked="" type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input checked="" type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 []		

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

- ・ 地域（島民）とのふれあいの場・機会づくり
- ・ あいさつができる子どもの育成
- ・ 特色ある教育活動について
- ・ 学校の存続に向けて

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

- ・ 郷土料理体験（ふなずし作り）：地元漁師の方に指導していただいた（3回）。
- ・ 「沖島アイス」販売体験：地元産サツマイモを材料に製造されているアイスクリームの販売体験をした。
- ・ 沖島オリエンテーリング：島内の店舗や施設、寺社を訪問し、ふれあい交流をした。
- ・ 沖島太鼓の演奏：全校児童で取り組み、学校行事や地域行事で披露している。
- ・ 島民運動会、島民文化祭：地域の方々と一緒に活動。“防災グッズリレー”、“防災じゃんけん”といった島民とともに「防災」について意識をたかめるプログラムもある。



【「沖島アイス」販売体験】

■ 実施に当たっての工夫

- ・ 自治会、老人会、まちづくり協議会等と学校との協働の場を設定すること。
- ・ コロナ禍を経て、スリム化できた行事の継続運営。
- ・ 地域産業や伝統文化にふれる機会を設定し、地域への愛着を育むこと。
- ・ 離島振興協議会と沖島町できている人的つながり（県立大ほか）もいかしながら活動の充実をはかる。



【沖島オリエンテーション】

■ 事業の成果

- ・ 地域の方々とふれあいの機会が学習活動に盛り込まれたことで、地域の願いや思いを身近に感じ取れる児童の育成につながった。
- ・ 地域学校協働活動推進員と学校との連携により、地域財（人・場・もの）の適切な活用がすすみ、計画的に学習活動を実施できた。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・ 島民の高齢化と島内の過疎化により、地域の魅力ある財が消失してしまわないか心配。それに伴い、学校との連携が希薄化しないよう学校から積極的にふれあいの場や機会を提案する。
- ・ 在籍児童数を確保するため、近江八幡市の通学区域弾力化制度等を利用してもらえる学校情報の発信を工夫すること。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

- ・ 学校HPや学校だよりで地域および保護者に学校生活の様子を発信している。
（ <https://www.fureai-cloud.jp/okishima-es/> ）

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（ ）

報告書記入者（ 教頭 ）

～『学校と地域の両輪で』地域と協働した学びを～

近江八幡市	活動名：岡山小学校地域学校協働本部	岡山小学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成22年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：180人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 ■学校周辺環境整備 ■学びによるまちづくり ■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） ■地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他 []			

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

福祉教育について
グラウンドの芝生管理について
岡山小学校創立150周年の持ち方について

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

- ・2年生では、学校菜園にて野菜栽培に取り組んだ。地域ボランティア「野菜の先生」の方々に、土作りや苗の植え方・世話の仕方等のコツを教えてもらい、いろいろな野菜を育て収穫した。
- ・3年生では、ふるさと学習の一環として、地域の花火師さんを招いて特色ある産業について学習した。花火模型を使いながらわかりやすく教えていただいたり、安全に十分配慮したうえで、運動場での打ち上げ実演を行ってもらったりした。
- ・5年生では、地域ボランティア「裁縫お助け隊」の方々に、家庭科実習の裁縫の時間に実技指導の補助をもらった。個別の指導が行き届き、子どもたちの技能の習得につながった。



【 2年生 ふるさと学習 】

■ 実施に当たっての工夫

- ・できるだけ多くのボランティアの方々に協力いただけるよう、地域学校協働推進員をととして綿密に打ち合わせを行った。
- ・学校だよりを学区全戸に配布したり、学校ホームページで活動の様子を詳しく紹介したりしながら、支援活動等を随時地域に発信している。

■ 事業の成果

- ・地域ボランティアの方々の協力を得ながら、地域ならではの体験学習に取り組むことにより、地域のよさを知ったり、学んだりすることができ、ふるさとに愛着をもつ子どもの育成につながることができた。
- ・地域ボランティアの方々に礼状を作成することで、社会性や感謝の心を育むことができた。
- ・教員や子どもたちが多くの地域の方々に支えられていることを実感して豊かな教育活動の推進につながっている。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・地域学校協働推進員を通じて、地域ボランティアの方々と学校教育目標や学校経営の位置づけを共有しながら、学習活動の目的やめあてを明確にして打ち合わせを行っていく必要がある。
- ・様々な体験活動に地域ボランティアの援助をいただいているが、子どもがお客さんになってしまい、ただ体験をするだけになってしまいがちなので、子どもの主体性が損なわれないような活動にしていける必要がある。
- ・地域のよさや伝統を伝えていただく方の高齢化に伴い、支援していただくことが年々困難になってきている。地域の新しい人材を発掘し、伝統を引き継いでいただく支援者をいかに増やしていくかが課題である。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

- ・前述の「地域の新しい人材を発掘し、伝統を引き継いでいただく支援者をいかに増やしていくかが課題」に関わって、学校運営協議会にて熟議をはかることができると思われる。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（ 学級担任 ）

報告書記入者（ 教頭 ）

ふるさとに誇りを持ち、夢に向かってのびる金田っこ

近江八幡市	活動名：金田学区地域学校協働本部	金田小学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成25年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：70人 <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input checked="" type="checkbox"/> その他【伝統芸能鑑賞、防災学習】			

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

- (1) 防災教育や防災訓練の必要性について意見をいただいた。地域の消防設備見学を1学級ずつ丁寧にさせていただき、3年生全員が消火器を使った放水体験をさせていただいた。
- (2) 地域の施設等見学による子どもたちが学ぶことの大切さを共有し、受け入れや説明、引率でご協力いただいた。

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

- (1) 1年「生き物探検」「秋みつけ」…地域の自然に触れ、環境を守る活動を学び、人々と触れ合う。
- (2) 2年「地域の自然に親しむ」…地域の自然に触れ、環境を守る活動を学び、人々に学ぶ
- (3) 3年「ホタルを守る活動を知ろう」「朝恋トマト作り」「地域の祭りを調べよう」
「地域の消防設備を知ろう」…地域の伝統や環境を守る活動を学び、人々と触れ合う。
・ホタルが住む川を守る金剛寺町の取組や、浅小井町の朝恋トマト作りに学ぶ。
・地域の火災予防の取組について学ぶ。
・浅小井町の祭り・篠田の火祭りを継承する人たちに学ぶ。
- (4) 4年「福祉学習」「地域の水害を防ぐ」「寺子屋」…住む人にやさしい地域づくりを考え、地域を守る人々と触れ合い学ぶ。
- (5) 5年「田んぼでの米作り」「環境学習」「手縫い名人になろう」…地域の環境について考える。
- (6) 6年「ミシン名人になろう」「平和学習」…地域の平和について考える。



【1年 生き物探検】



【3年 地域の消防設備見学】

■ 実施に当たっての工夫

- ・講話だけでなく、本物・実物に触れたり体験したりできる場づくりに努め、発見や感動のある学習を目指した。
- ・担当学年の主任と地域学校協働活動推進員との連携をとり、打合せ時間を確保した。

■ 事業の成果

- ・地域に愛着と誇りをもって活動されている方々の話を聞いたり、仕事の様子を見学したりすることで、教室ではできない学習、体験ができた。
- ・金田学区にお住まいの講師、ボランティアに来ていただくことで、「人」「技術」「地域」がより身近に感じられるようになった。
- ・地域の安全を守る活動（スクールガード、地域の消防、地域の川の整備等）を日常的に目にしたり、体験したりする中で、防災や安全に対する意識の高まりが見られた。
- ・放課後子ども学習「寺子屋金田」では、コミュニティセンターを学習の場として、学力補充に加えてニュースポーツの体験、防災に関わる学習等も取り入れた工夫あるプログラムで、参加した児童にもその保護者にも大変好評だった。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・大規模校で、どの学年も人数が多い。(140名～160名) その分、講師・ボランティアの方も多数お願いする必要がある。人員確保や日程調整が難しい。
- ・講師・ボランティアの方々の高齢化が進んでいる。新たな人材確保が喫緊の課題である。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

- ・学期に1度集まっていたいただき、協議会を開催している。地域と学校が協働で活動した取組について紹介し、理解と協力を求めている。協議会では概ね好意的、建設的な意見が聞かれる。
- ・高齢化に伴う新たな講師・ボランティアの確保については、協議会でも懸案事項とされている。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当教員 その他（ ）

報告書記入者（教頭）

共に伸びる ～ 自分から みんなと 最後まで ～

近江八幡市	活動名：桐原小学校地域学校協働本部	桐原小学校 学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成24年度 地域学校協働活動推進員等数：1人（兼務1人） ボランティア登録数：120人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 ■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり ■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） ■地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他 []		

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園
 学校運営協議会
 地域学校協働活動推進員等
 行政
 その他（ ）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

- ・第1回（5月） … 学校経営管理計画の承認・今年度の活動計画について
- ・第2回（7月） … 子どもの居場所づくりについて
- ・第3回（11月） … 学習参観を踏まえた子どもたちの様子について
- ・第4回（2月） … 活動報告、学校評価に対しての方針案、来年度の活動について



【 九九の学習ボランティア 】

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

- ・2年 九九の学習ボランティア
子どもたちの九九の学習の支援のために、地域のボランティアの方に依頼し、一人ひとりの九九を聞いていただいた。地域の方に聞いていただき、ほめていただくので、子どもたちにとって大変励みになり、九九の学習がさらに深まった。
- ・4年 環境学習：生ごみプロジェクト
地域ボランティアの方々のご指導により、給食の残飯をたい肥化したものを、畑に肥料として入れ、栄養たっぷりの大根を育てる取組を行った。1学期はたい肥の作り方、2学期は大根の苗植えと育て方、3学期は収穫の仕方についてのお話をいただき、一緒に作業のお手伝いをしていただいた。お世話になった方々を収穫感謝祭に招待し交流を深めた。
- ・4年 地域ふるさと学習：日野川フィールドワーク
日野川の恵みとともに人々の暮らしがあったが、時には洪水等の水害にも見舞われてきた。その中で先人の暮らしやまちづくりにおける知恵も育まれ伝えられてきた。日野川の歴史や先人の知恵などを詳しく知っている地域の方から事前学習をしていただいたり、県の流域政策局の職員の方、地域ボランティアの方とともに、フィールドワークに行ったりしてふるさとへの思いを高める学習に取り組んだ。



【 生ごみプロジェクト～大根づくり～ 】

■ 実施に当たっての工夫

- ・学校支援ボランティア（図書ボランティア、家庭科ミシンボランティア、手作り木エパズル等）の活動予定を示したボードを活用することで、教職員全体に活動時期や内容を周知するとともに計画的に進められるよう配慮した。また、地域全体に浸透するように、学校だよりやコミュニティセンターだよりに活動の様子を紹介するとともに、学校支援の輪を広げる取組を進めた。
- ・日頃お世話になっているボランティアの皆さんに対し、子どもたちからのメッセージカードや、収穫した大根の収穫感謝祭に招待する取組など、積極的な地域の方との交流を工夫した。

■ 事業の成果

- ・地域の方々が授業中や休み時間等を利用して、さまざまなメニューを用意して子どもたちと関わってくださっている。このことは、子どもの居場所づくりや居心地のよい空間づくりにつながっている。また、ボランティアの方々が日常的に学校に来ていただいていることから、子どもたちの様子を複数の目で観察することができ、安全な学校生活を送ることにつながっている。また、子どもたちの学習への励みの一つにもつながっている。
- ・図書館の環境整備や、おはなし会の開催などを通して、本を身近に感じ、本に親しむ子どもたちが増えてきている。
- ・スクールガードの方々の登下校時の見守り活動により、子どもたちは安心して登下校できている。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

校外学習や授業での支援活動において、ボランティアさんの存在は大変大きく、学校ボランティアとして定着してきているが、高齢化が進み、後継が見つからず無理をしていただいている面がある。活動を継続していくためにも、学校運営協議会での議論やまちづくり協議会・他の地域団体との連携を図り、新規募集を含めた組織的、継続的な仕組みの見直し・工夫が必要である。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長
 教頭
 地域連携担当教職員
 その他（各担任）

報告書記入者（教頭）

地域ともに体験学習を・ボランティアさんにはできるときにできることを

近江八幡市	活動名：桐原東小学校地域学校協働本部	桐原東小学校 学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに <input checked="" type="checkbox"/> 印 開始年度：平成 24 年度 地域学校協働活動推進員等数：1人（兼務 1人） ボランティア登録数：約 150 人		
<input checked="" type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input checked="" type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 []		

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

- ・学校支援グループとしての活動から気づいた子どもの様子について
- ・地域や登下校中の子ども様子や通学路の安全について

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

- （1）校内での学習活動：地域学習や専門分野でのゲストティーチャー、家庭科でのミシン実習補助
 - （2）安全見守り活動：自転車での校外学習のルートづくりと付き添い、危険箇所の安全見守り
 - （3）校外での体験学習：まち探検での施設案内と取組説明、白鳥川での観察観測の指導、たんぼのご活動の補助
 - （4）環境整備活動：図書室の掲示物作成や本修繕の整備と貸出補助、校地内樹木の剪定作業、昇降口清掃、落ち葉そうじ
 - （5）文化活動：朝読書での読み語り、校舎内生けこみ、木工パズル広場
- ※これらの活動を円滑に行うための、毎月の学校支援グループ代表者会（学校運営協議会を含む）の開催。



【 2年 地域学習ゲストティーチャー 】

■ 実施に当たっての工夫

- ・各学年の学習内容や時期を学校運営協議会グループ会議で、早めにお知らせすることで、より充実した活動になるよう工夫した。

■ 事業の成果

- ・地域ボランティアの方やゲストティーチャーがくり返し来校される機会があることにより、児童や学校との温かい関係性が感じられる。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・ボランティアグループの次の世代をいかにつくるか、人材確保についてどのグループについても話題になっている。
- ・子どもや学校教育に地域の方が関わっていることが、保護者にも実感してもらえるはたらきかけが必要。こうしたことが次のボランティア人材確保にもつながるのではないか。
- ・子どもが地域で活動する機会（学校と地域の双方向の関わり）をいかにつくっていくか。



【 5年 白鳥川での学習指導 】

■ その他

- ・本校が従来から実施してきた学校支援グループ代表者会と学校運営協議会の持ち方の工夫をし、学校や地域が目指す子どもたちの成長をめざすための熟議を重ねていく。
- ・すべての教職員が学校運営協議会との協働について、日々の教育活動との関係性や仕組みを理解する機会をもつ。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（各教員）

報告書記入者（教頭）

地域でともに育てる馬淵の子

近江八幡市	活動名：馬淵小学校地域学校協働本部	馬淵小学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成24年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：26人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 ■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり □地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） □地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他 []			

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園
 学校運営協議会
 地域学校協働活動推進員等
 行政
 その他（ ）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

- ・新たな地域人材のアテンド
（近江八幡市消防団馬淵分団長、地域の祭事の研究者など）
- ・コロナ禍以前の学習の再開
（馬淵コミュニティセンター見学）

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

- ・農業、栽培に関する活動…稲作体験（田植え、稲刈り）、ヘチマ栽培、野菜栽培
- ・歴史、伝統文化に関する活動…地域の祭事、古墳・資料館見学、茶道体験
- ・平和学習に関する学習…戦争体験者の講話（馬淵への疎開、大阪大空襲）
- ・地域防災に関する学習…消防団についての講話（ポンプ車見学）、河川（水害）学習、コミュニティセンター見学
- ・その他 絵本の読み聞かせ活動



【3年社会科 消防団について】

■ 実施に当たっての工夫

- ・昨年度までは新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、地域ボランティアの授業参加は、児童と一定の距離が確保できる講話形式のみ。また現地に出かけて屋外で話を聞く形式を主体となっていたが、制限なしで各活動を実施することにした。
- ・授業者と地域ボランティアとのマッチングや日時の調整について、推進員があらかじめ十分に授業者の要望を聞き取って仲立ちした。具体的な活動内容や支援方法などについて、授業者、推進員、支援者が事前の打合せを行って決定した。



【6年社会科 戦争体験者の講話】

■ 事業の成果

- ・推進員の役割に対する教員の理解、事業についての地域への周知が進んだことにより、様々な分野で授業のねらいに応じた効果の高い支援が得られるようになった。推進員や地域ボランティアとの協働によって、教員の地域理解が深まり地域の素材を教材化する力が高まった。
- ・継続した活動を行うことによって、児童は顔馴染みとなった支援者の来校を楽しみにするようになり、支援者は児童への理解が深まって効果的に支援を行え、継続することにやりがいを感じるという好循環が生まれている。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・地域との連携、協働の効果を高めるには、事前の授業者と地域ボランティアとの打合せが重要である。しかし、推進員の勤務できる時間が限られているため、調整が難しい。
- ・これまで参加していただいていたボランティアの方の年齢が高くなり、昨年までお願いしていた方が辞退されることが増えている。新たな地域人材の発掘が急務である。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

- ・推進員が学校運営協議会に出席し、委員へ活動についての理解を深めた。学校運営協議会での情報交換によって、新たな地域の素材を生かした活動や、新たな地域人材の発掘につながり、子どもたちの学びが深まった。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長
 教頭
 地域連携担当教職員
 その他（各担任）

報告書記入者（教頭）

未来のきたさと（喜多郷土）をつくる 子どもを育むコミュニティ・スクール

近江八幡市	活動名：北里地域学校協働本部	北里小学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成21年度 地域学校協働活動推進員等数：1人（兼務1人） ボランティア登録数：110人 <input type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input checked="" type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input checked="" type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 []			

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園
 学校運営協議会
 地域学校協働活動推進員等
 行政
 その他（ ）

- 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）
- ・ボランティアの在り方について ・登下校時の児童の安全確保について
 - ・「わたしたちのきたさと」作成について ・子どもの学力について ・ふるさと学習について



■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

(1) メダカシンポジウム

メダカの学校小田分校の方と一緒に田んぼでの田植え、観察・肥料まき・草刈り・稲刈り・脱穀・糶摺り・精米という米作りの一連の作業を体験させていただいた。11月10日【メダカシンポジウム】日に実施したシンポジウムでは、『田んぼの向こうに世界が見える』というテーマで田んぼの学校で体験したことや『米作り』や『田んぼにいる生き物』など5年生児童が総合的な学習の時間に調べた環境学習の内容を壁新聞にまとめ、ポスターセッションの形式で発表した。また、メダカの学校の方からは、これまでの活動のパネル展示をしていただき、パネル数は100枚程度になった。5年生の児童や保護者を対象に環境に関わる講演をしていただいた。

(2) 子ども安全地区懇談会

北里学区青少年育成会が主催し、「地域で子どもを守るために」をテーマとして、民生委員や自治会、まちづくり協議会、駐在所、幼小中のPTAが一堂に会して子どもの安全について話し合う地区懇談会で、平成12年から続けている。一昨年度から新型コロナウイルス感染症の影響で、学校が行う地区懇談会を兼ねて合同で行ったが、コロナ禍が収まった今年度も同じ形式で行った。駐在所から地域の現状、幼小中から各校園の様子を伝え、その後、各方面から意見をいただく。この懇談会は、あらゆる方面から貴重な意見を聞くことができ、北里学区民が一体となって子どもの安全について考える良い機会になっている。この懇談会で出た意見は学校に持ち帰り、学校運営に役立っている。

■ 実施に当たっての工夫

- ・メダカシンポジウムでは、ひびきあい活動（親子活動）を共に開催し、カレー作りも行った。材料の量や時間などについても地域学校協働活動推進委員を交えて活動を進めることができた。田んぼの学校を進めていただいた皆さんにも児童や保護者とともに楽しい場を共有していただいた。
- ・子ども安全地区懇談会では保護者や学校だけでなく、青少年育成会の呼びかけのもと、地域の自治会担当者やスクールガードさんなど児童や園児、生徒に関係する方々と情報交換をすることができた。

■ 事業の成果

- ・事業開始から13年になる。本活動が年間計画の中に位置づけられていることにより、かなり定着している。毎年、実施時期、活動内容について、地域学校協働活動推進員と一緒に各学年の担任が見直しをすることにより、より精査しながら本事業が実施できている。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・平成21年度の本事業を開始してから、同じ地域学校協働活動推進員が一人で地域と学校を繋ぐ役割を担ってきているが、今後後継者の育成や選任に困難さがある。
- ・地域学校協働活動推進員が地域と学校をつなぐ重要な役割を担っており、学校の思いを地域に、地域の思いを学校に伝えることで双方向にメリットがあるような活動を実施するように心がけている。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

- ・平成31年度からコミュニティ・スクールとして学校運営協議会を立ち上げた。5年目になり、より実効的なコミュニティ・スクールの在り方を考え、協議会での協議内容も検討している。北里の地域を教材化するため、昨年より「わたしたちのきたさと」作りに向けて話し合いを進めている。3年生担任に誰がなっても、毎年同じレベルの地域学習ができるように教材化作りを始めたが、今年度は「地域を守る人々」というテーマで進めてきた。児童にとって豊かな情報となる教材づくりに努めている。今後も、地域の担い手として活躍できる子どもの育成を目指して、地域ぐるみの活動を考えていく。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長
 教頭
 地域連携担当教職員
 その他（ ）
 報告書記入者（ 教頭 ）

人との出会いを通して、武佐を愛し、未来のむさを担う人材子どもの育成

近江八幡市	活動名：武佐小学校地域学校協働本部	武佐小学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 開始年度：平成21年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：73人 <input type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input checked="" type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他〔 〕			

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

- ・保護者と学校の連携を強くするための方策
- ・学校の教育活動を地域や保護者に周知するための方策
- ・地域や保護者の声を生かした学校行事のあり方
- ・児童の安全確保のために学校と地域が協力してできること



【フードマイレージの学習】

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

- ・地域の産業に携わる方々から学ぶ
武佐学区の伝統産業である食肉加工業や農業をはじめとして、様々な産業に携わる方々からお話を聞かせていただき、仕事に対する思いとともに、地域を愛する気持ちや未来を担う児童に期待することなどを話していただいた。
- ・海外の様々な文化から学ぶ
本校にも様々な国籍を持つ児童が在籍しているため、その保護者などから、海外の文化についてゲストティーチャーを招いてお話を聞かせていただいた。
- ・防災教育との連携
学校安全総合支援事業を進める中で、地域の防災にかかわる方々を招き、体験的に進めた。



【空き缶太鼓づくり】

■ 実施に当たっての工夫

- ・ボランティアの人材確保については、地域学校協働活動推進員を中心に進めたが、より多くの人材を集めるため、学校運営協議会委員にも声掛けを依頼した。
- ・ゲストティーチャーを招いた学習や地域ボランティアの支援による体験活動の実施の際には、児童の主体性を生かした学習や体験活動になるように、入念に打ち合わせを行った。

■ 事業の成果

- ・ゲストティーチャーの経験談や思いを直接聞かせていただくことで、児童が自分の生活を振り返り、これからの生き方を考えるきっかけとなった。
- ・武佐学区の産業や人材の魅力を発見できただけでなく、ふるさとを大切に思う心を育むことができた。児童の自尊感情を醸成することや地域人材の生きがいつくりにもつながっている。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・ボランティアの高齢化が年々進んでいる。保護者世代のボランティアの発掘と組織の拡大が必要である。
- ・保護者と学校のかかわりが希薄にありつつある。「できることをできるときに」をモットーにして、保護者の支援を得るための取組が必要である。
- ・地域や保護者にむけて、ボランティアの活動や学校が必要とする支援を周知する方法を工夫する必要がある。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

- ・学校運営協議会の委員には地域学校協働活動推進員も含まれているので、学校が必要な支援は直接伝えることができている。また、武佐学区まちづくり協議会の事務局員も入っているので、地域住民への協力依頼もしやすい。
- ・今年度から、保護者代表にも学校運営協議会の委員として参画していただき、新たな視点を加えた熟議ができるようになった。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（ ）

報告書記入者（教頭）

学校・保護者・地域が連携し、子どもを見守り育てる支援活動

近江八幡市	活動名：安土小学校地域学校協働本部	安土小学校 学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成25年度 地域学校協働活動推進員等数：1人（兼務1人） ボランティア登録数：227人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 □学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり ■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） □地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他 []		

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園
 学校運営協議会
 地域学校協働活動推進員等
 行政
 その他（ ）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

以前から学習活動等へのボランティアをお願いしていたが、令和5年度より、「安土っ子応援隊」として、保護者・地域の方にボランティア登録を募り、学校生活や授業補助等のボランティアを依頼する仕組みを整えた。その項目について協議を行った。

ボランティア部会

- ①図書部 朝学習での本の読み聞かせ、学校図書館の環境整備、読書に親しむためのイベントの企画運営
- ②校内活動部 裁縫、ミシン学習の補助、図画工作科の学習でのカッターや彫刻刀の使用の補助、水泳学習時の安全見守り
- ③地域学習部 低・中学年の地域学習時の見守り、登下校の見守り（通年）、あいさつ運動
- ④環境部 庭木の剪定、除草作業

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

- 3年生 安全・防災学習（地域の消防団による災害対策の学習と放水消火訓練）
- 3年生 ふるさと体験学習（信長ねぎの収穫、近江牛の飼育など地域の特産物について）
- 4年生 西の湖学習（ヨシ灯り作品づくりや和船に乗り、西の湖に触れ環境について考える）
- 5年生 米作り体験（米作りの一連の活動について学ぶ）
- 6年生 キャリア教育（看護師、弁護士等の職業に就いている方々の話を聞いて自分の生き方を考える）



【 5年生 米作り体験（収穫） 】

■ 実施に当たっての工夫

- ・ボランティア名簿を作成し、必要な人材を探しやすくしている。
- ・日常的に地域学校協働活動推進員と学校が密に連携し、学年との打ち合わせを設定し、学習に必要な人材の確保に努めている。
- ・ボランティアとの連絡は、主に地域学校協働活動推進員が行っている。
- ・読書ボランティア「によきによき」さん、安土っ子応援隊の図書部、図書担当教員、学校司書、地域学校協働活動推進員が日常的に情報交換し、子どもの読書推進活動を進めている。

■ 事業の成果

- ・ボランティアの協力のおかげで、地域の自然、文化、特産等を生かした安土ならではのふるさと体験学習を深めることができている。そして、ふるさとに愛着を持ち、ふるさとを大切に思う子どもの育成につながっている。
- ・地域学校協働活動推進員が、担任とボランティア、それぞれと連携することにより、必要な時に必要な人材の確保ができ、多くの学習の中でボランティアに協力をいただきながら充実したふるさと学習をすすめていくことができた。



【 朝読書 読み聞かせ 】

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・ボランティアの登録人数を増やし、学校・地域・保護者がより深くかかわる組織づくりをすすめていく。
- ・地域のよさや伝統の技などを伝えていただく方や見守りの方々が高齢化し、今後支援者が減っていくことが考えられる。新しい人材の発掘・登録が必要である。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長
 教頭
 地域連携担当教職員
 その他（ ）

報告書記入者（ 教頭 ）

老蘇の自然・文化・人に支えられた老蘇っ子の「ふるさと学習」

近江八幡市	活動名：老蘇地域学校協働本部	老蘇小学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成23年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：60人 <input type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input checked="" type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input checked="" type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 []			

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

■ 学校運営協議会で熟議された内容

- ・ふるさと学習をはじめとする学校教育活動、及び地域による学校支援について
- ・老蘇学区における福祉的課題に対し、SDGs子ども見守り隊として、子どもたちが社会的な繋がりを果たすことについて

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

(1) 豊かな自然から学ぶ

(全学年)・ビオトープでの体験活動

(4年)・西の湖学習・ヨシ灯り作品作り (5年)・ニゴロブナの放流

(特支)・畑でとれた夏野菜でピザパーティーをしよう

(2) 歴史・伝統・文化から学ぶ

(1年)・神社の見学 (2年)・神社の見学・たけのご掘り

(3年)・昔の暮らしについての聞き取り

(4年)・教林坊・杉原邸・奥石神社の見学・ふるさとの偉人についての聞き取り

(5年)・シーサー作り・伝統料理作り

(6年)・お茶碗製作・お茶たて体験・和太鼓体験・信長時代の文化・演奏会・神社・寺・安土城考古博物館の見学

(3) 地域の働く人から学ぶ

(2年)・野菜の栽培・ハチミツ採取体験・まち探検・郵便局の見学

(3年)・ネギ農家見学・イチゴ農家見学・れんこん掘り・消防署の見学・営農農家の見学

(4年)・防災学習・ゴミ処理についての学習

(5年)・自動車部品工場見学・JA営農見学・米作り学習 (6年)・木箱作り・コミセンの役割

(全校)・登下校の見守り・絵本の読み聞かせ・芝生管理委員会



【 たけのご掘り 】

■ 実施に当たっての工夫

- ・教科の学習や領域とも関連付けながら活動を進められるように、カリキュラムを構成している。
- ・以前から引き続き行われている活動が多いが、活動の意義やねらいを明確にして実施した。
- ・活動の様子を「地域支援だより」「学校だより」やホームページ上で発信し、指導者や協力者にお礼の気持ちを伝えるとともに、地域や保護者に対して、活動内容や活動意図への理解が進むようにしている。

■ 事業の成果

- ・自然や歴史、文化、人などについて知ることで、“老蘇”のよさを再発見し、そこに住んでいる自分にも愛着と誇りが持てるようになった。
- ・多くの人と出会い触れ合うことや様々な体験をすることで、いろいろな考え方、生き方に出会うことができ、将来の夢などについて考える機会が増え、夢や展望を持つ児童が増えた。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・ふるさと学習を通して「個別最適な学び」「協働的な学び」を実現するためには、課題作りの段階で個々の課題意識を高めること、児童の主体性を生かす工夫が必要であり、協働による課題解決の場を設定し、考えたこと調べたことを自らの言葉で表現する力を付けられるようにしていく。
- ・子どもたちの活動が単発で終わらず、それぞれ効果的に単元全体の構成を熟考して実施する必要がある。
- ・快く受け入れてくださる地域の方や事業者の方も多く、今後も協働活動の維持、また精選、拡大を検討していく。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

- ・地域の文化、歴史、人材など地域の思いを反映した教育ができ、また、学校が要望する支援を地域からスムーズに受けられる。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当教員 その他（教務主任、各担任）

報告書記入者（教頭）

「地域が学校づくりに参画する学校」をめざして

近江八幡市	活動名：八幡中学校地域学校協働本部	八幡中学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成25年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：60人 <input type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input checked="" type="checkbox"/> 部活動支援 <input type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input checked="" type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input checked="" type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 []			

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

- ・令和5年度学校経営方針
- ・地域学校協働本部事業の目的と事業内容
- ・登下校中の交通安全
- ・全国学力・学習状況調査の結果
- ・学校評価の結果
- ・サポート人材の発掘について



【 生徒企画のサミット後 】

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

- 1年：被服実習支援、着付け実習支援、書道実習支援、八幡FW支援
- 2年：水泳実習支援、職場体験、書道実習支援
- 3年：保育実習
- 全学年：八中サミット、図書館司書支援、美術部支援、下校時の見回り
- 太鼓部：地域行事での公演活動

■ 実施に当たっての工夫

- ・活動内容の見直しと、コミュニティ通貨アプリを使って新規登録者の開拓等を行った。
- ・持続可能な取組となるように、スクールサポーターの皆さんの都合が合うように活動時間を設定した。

■ 事業の成果

- ・例年同様に学校運営協議会にも八中サミットに参加していただき、アフターコロナの学校行事について地域・生徒・保護者・学校の四者が、学校の課題について熟議する機会となった。
- ・オリジナルゆるキャラ『でちくん』の着ぐるみの活用方法を地域の方との協働によって考えることができた。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・スクールサポーターの高年齢化が進み、登録者が減少傾向にあることが課題である。保護者への積極的な募集や学区の小中学校のボランティアさんに中学校へも足を運んでいただく等の工夫を行い、登録者数のさらなる増加や小中連携の活性化につなげたい。
- ・ゆるキャラの活用方法に関しては、今後もより多くの地域の方に参画してもらえ活動を企画していきたい。



【 着付け教室の様子 】

■ その他（学校運営協議会との協働等）

- ・ホームページにて随時活動について公開しています。右の二次元コードからご覧ください。



■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（ ）

報告書記入者（ 地域連携担当教職員 ）

～本を楽しむ環境づくり～

近江八幡市	活動名：八幡東中学校地域学校協働本部	八幡東中学校 学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成28年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：20人 <input type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input checked="" type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 []		

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

- ・読み聞かせボランティアの活動について
- ・地域人材の発掘について

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

- ・近江八幡市教育大綱にある読書活動の推進と読書環境の充実をめざす
- ・学校司書、地域コーディネーター、ボランティアなどが連携した活動
- ・図書ボランティアによる書架の整理や図書室内の飾りつけ、掲示物の作成、特設コーナーの設置、特別支援学級との交流
- ・八幡東読書ボランティアによる朝読書の時間の読み聞かせ



【 八幡東読書ボランティアによる読み聞かせ 】

■ 実施に当たっての工夫

- ・八幡東読書ボランティアの読み聞かせでは、さまざまなジャンルの本を紹介し生徒の興味関心にあったものとなるようにした。
- ・学校行事や授業進度等を把握し、教員、学校司書、地域学校協働活動推進員、ボランティアが連携した特設コーナーを設置することで、生徒が来なくなる図書館運営を行った。
- ・生徒が主体となって図書館運営を行えるよう、生徒会図書委員会や放送委員会と連携し、ボランティアだけの活動とならないように配慮した。
- ・学校行事に対する学校支援ボランティアでは、事前に参加者を把握するとともに、教職員と協働して取り組めるようにした。

■ 事業の成果

- ・図書室の雰囲気が非常によくなり、生徒の来室者数は増えた。また、図書室の開館日の当番活動や本のPOPの製作など、さまざまな活動に意欲的に行えるようになった。
- ・図書室の充実に力を入れており、読書活動につながる取組を進めることで、落ち着いた学校づくりに結びついている。また、読み聞かせを行うことで、落ち着いた雰囲気で1日のスタートを切れている。
- ・さまざまなボランティア活動にかかわる方が地域の方であるため、生徒との結びつきもより強くなっていると感じる。
- ・ボランティア任せにならないよう、協働の視点を大切にしながら取り組み、教職員、生徒、地域の方に自分たちの学校という意識が芽生えてきたように感じる。



【 図書ボランティアによる掲示物 】

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・図書ボランティアや教職員だけの取組ではなく、地域学校協働活動がそれぞれをつなぎ、より組織的に図書館運営が行えるようになった。しかし、定着までは至っていないことから定着をめざすとともに図書館運営をより充実させたい。
- ・八幡東読書ボランティアや学校支援ボランティアの募集と充実

■ その他（学校運営協議会との協働等）

- ・開巻有益・・・読書はためになるということ。読書を奨励する語。「開巻」は書物を開く意。転じて読書。「有益」は役に立つこと。「八幡東中学校図書だより」のタイトル。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（ ）

報告書記入者（ 教頭 ）

地域とともに子供を育てる地域学校協働本部事業

近江八幡市	活動名：八幡西中学校地域学校協働本部	八幡西中学校 学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに <input checked="" type="checkbox"/> 印 開始年度：平成 21 年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：30人 <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input checked="" type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input checked="" type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input checked="" type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 []		

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに印）

学 校 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行 政 その他（ ）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

- ・2度目となる学校運営協議会において、生徒会役員と「地域と学校の協働活動について」というテーマで熟議を行った。協議会委員と生徒会役員が2班に分かれて意見を交流したなかで、生徒会・学校運営協議会共同事業として地域行事への参加を決定した。
- ・3度目の学校運営協議会において、生徒会・学校運営協議会共同事業の具体的な内容について熟議を行った。



【生徒会・学校運営協議会共同事業】

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

- ・本校は地域行事への生徒の参加を積極的に推進しているが、今年度は生徒会・学校運営協議会共同事業として生徒会役員と学校運営協議会が地元地域の文化祭（2カ所）に参加し、歌「花は咲く」を披露し、生徒会役員がボランティアとして運営に携わった。
- ・技術科の栽培分野の学習に桐原学区協働のまちづくり協議会の事業である「地域花いっぱい運動」の予算を活用し、プランターで花を育て、校区の幼稚園や小学校、コミュニティセンターや子どもセンターなどの施設へ届けることを行っている。
- ・キャリア教育（職場体験学習）において、地域学校協働活動推進員を含む学校運営協議会委員が積極的に受け入れ事業所の新規開拓を行った。
- ・部活動において、ソフトテニスや卓球、ラグビーなど数多くの部において、地域の方々からの支援を受けて活動する様子が見られた。



【地域の方との部活動交流】

■ 実施に当たっての工夫

- ・地域の文化祭で歌を披露するために、週1回ペースで練習を行った。その中で魅力あるステージにするための意見交流が生徒と協議会委員との間で活発になされた。

■ 事業の成果

- ・保護者や地域の学校への関心が高まり、理解と協力が増え、学校としての評価が高まった。
- ・生徒が地域で活躍する行事や機会を自治会や町づくり協議会で作っていただき、生徒が地域で活動することも増え、中学生の地域での活躍を評価して認めていただくことで自信を持つことができた。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・学校の教育活動に関心を寄せている方はたくさんおられる。しかし、それを活かすためには、登録制にするなど、常に連絡を取れる状態にしておく必要がある。
- ・事業を実施するに当たり、教職員が地域に出向いて活動することが必要である。より活動の質を高めるためには、勤務時間外の平日夜間や休日に活動することが求められる。振替等を用いて多くの教職員が地域とかかわれる時間を生み出すことが今後の課題である。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

- ・推進員が学校運営協議会の副会長として活動しておられるので、積極的に橋渡しを行っていただいている。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに印）

校 長 教 頭 地域連携担当教職員 その他（ 主幹教諭 ）

報告書記入者（ 教頭 ）

ふるさとに愛着と誇りを ～地域の人材を活用したふるさと学習の推進～

近江八幡市	活動名：安土中学校地域学校協働本部	安土中学校 学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成23年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：50人 <input type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input checked="" type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input checked="" type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input checked="" type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 []		

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

学校の運営方針について 生徒の学校生活等の様子について 通学路について
 校内研究を含めた生徒の学力向上について ふるさと学習の推進について 制服について

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

(1) 地域との協働活動・環境ボランティア

環境ボランティアと中学校PTAが協働で、中庭の植え込みの剪定等の環境整備を行った。また、環境ボランティアと環境委員の生徒が協働でアジサイの剪定を一緒に行った。

生徒会環境委員は、安土学区少年補導委員と学校のアプローチ道にパンジーの苗やチューリップの球根を植える環境整備を行った。

(2) 地域行事への中学生の参画

中学生を地域の行事（体育大会、文化祭、信長まつり、福祉のつどい等）に参画させることで、地域の一員としての自覚を持ち、ふるさとを愛する心を育てる。地域としても、行事に参加することで関心を持ってもらい、活性化させる。

(3) 茶道体験学習

安土において織田信長が盛んにしたと言われる茶道について、地域の茶道の先生を招き、茶室や和室を会場として1年生で全員が茶道を体験する。茶道のお手前だけでなく、その歴史と精神にも触れてお話を聞く。

(4) 浴衣の着付け、地元食材を活かした調理実習

家庭科の授業で、地域の方をコーディネートし、指導していただく。

(5) 読み聞かせ、図書館ボランティア

地域の読み聞かせボランティアに朝の会で読み聞かせをしてもらう。また、民生児童委員を中心とした図書館ボランティアとして昼休みの図書室の開館をお願いし、毎日図書室を開館するとともに、地域の方と中学生が接する機会とする。



【 アジサイ剪定作業の様子 】



【 1年生茶道教室の様子 】

■ 実施に当たっての工夫

- ・ 学校と地域のニーズを結びつけることを地域学校協働活動推進員と連携して考え、具体化するようになっている。
- ・ 学校の教育課程に「ふるさと教育」として年間計画に位置づけて取組を行ってきた。

■ 事業の成果

- ・ 地域の方に得意分野を活かした活動内容（環境整備や図書館ボランティア等）で参画してもらい、教育活動が深まった。
- ・ 中学生の活動を地域に発信・紹介することで、地域から評価を受け、活動の場が広がってきた。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・ 地域ボランティアのスタッフを充実させるように図る。
- ・ 地域のニーズと学校のニーズの重なりを検討する。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

- ・ 学校づくりに関して、生徒代表者数名と学校運営協議会委員との間で意見交流会を実施
- ・ 安土中学校HP <https://www.fureai-cloud.jp/azuchi-jh>

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（ ）

報告書記入者（教頭）

志津のお宝発見！地域と作る私たちの学校

草津市	活動名：志津小地域協働合校推進委員会	志津小学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成27年度 地域学校協働活動推進員等数：3人（兼務3人） ボランティア登録数：200人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 ■学校周辺環境整備 ■学びによるまちづくり ■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） ■地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他 []			

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校
 学校運営協議会
 地域学校協働活動推進員等
 行政
 その他（ ）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

○総合的な学習の時間での支援に関わって、子ども達が地域に愛情をもち、将来地域のために活動できるようにどのような学習活動をプログラムしていけばよいか熟議し、志津のお宝は「自然」と「歴史」であることをもとに系統的な学習を仕組んでいこうと確認し、学習したことをこども環境会議など地域に発信していく。

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

（1）4年総合的な学習の時間「里山学習」

4年生の総合的な学習の時間の「森林からのおくりもの」に関連して、地域に在住の大学教授が自宅の里山を教材に学習を支援していただいた。4年生は、「やまのこ」学習もしているため、子ども達も木の名前などもよく知っており、地域にある森林に興味を持って学習を進めることができた。また、竹を燃やしてできる竹炭づくりなどを通して、環境問題に関心を持つこともできた。



【 里山学習 】

（2）お米感謝祭（田んぼの学習）

例年5年生では、地域の方に田んぼを借りて、田植えや稲刈りを体験させて頂いている。今年度は、コロナ禍も明けたので、いつもお世話になっている方に来ていただいて、「お米感謝祭」を行った。収穫したお米でおにぎりを作り、食に感謝すると共に、いつもお借りしてる地域の方にも改めて感謝の気持ちを持つことができた。

■ 実施に当たっての工夫

・長かったコロナ禍がようやく明け、子ども達が地域に出かけ学習することも少しずつ増えてきた。4年生の里山学習の他にも、2年生の町探検、3年生の「志津のお宝発見」など地域に実際出掛け、地域の方から話を聞くことを心掛けた。「志津のお宝発見」では、志津の歴史と文化をまなぶ会の方に来ていただいたおかげで、地域の企業である日東電工に特別に見学させてもらうこともできた。これにより子ども達も地域の人に対しても愛着を持つことができた。

■ 事業の成果

・子ども達にとって、地域の人と関わり地域のことを学ぶ中で、地域に対する愛情も芽生えてきた。学んだことをそれぞれ発表する活動を通して、志津の宝である「自然」や「歴史」を子ども達が意識して守っていこうとする態度が深められた。



【 お米感謝祭 】

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

・総合的な学習の時間を3年から6年まで系統的に計画し、地域協働合校との取組と連携するようにしてきた。学校評議員のメンバーの方にも講師になって頂き、学校評議員会で熟議した内容を意識して話してもらっている。今後は、学んだことをいろいろな学年で地域に発信していきたい。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長
 教頭
 地域連携担当教職員
 その他（ ）

報告書記入者（ 地域連携担当教職員 ）

地域の方と一緒に、学び育つ南っこ！！

草津市	活動名：志津南小地域協働合校推進協議会	志津南小学校 学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成28年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：145人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 ■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり □地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） □地域行事への参加 □ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他 []		

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学 校 地域学校協働活動推進員等 行 政 その他（ ）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

- ・各学期の学校（児童）の様子
- ・各学期の地域協働合校の取組についての紹介や協力依頼
- ・学校と地域との連携について意見交流
- ・学校と立命館大学との連携事業について

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

(1)「学校ボランティア始動」(全校)

本年度より、地域の方々や保護者に呼びかけ、登録制の学校ボランティアを始動させた。校内での学校行事や学習のサポート、校区内での校外学習の見守りなど、都合のつくときに気軽に参加いただくことをコンセプトとして実施している。高学年の家庭科「裁縫やミシンの扱い」、地域の公園への自然観察、学校の花壇の整備等にもご尽力いただいた。

(2)「立命館大学との交流」(全校)

「立命館大学BKC地域連携課」の方にご協力いただき、1年生から5年生は、学生の方々に小学校に来ていただき、ダンスや紙飛行機製作、科学実験や天体学習等を体験させていただいた。6年生は、大学キャンパスに行き、大学内の施設等の見学や体験学習をさせていただいた。



【家庭科 ミシンの補助】

■ 実施に当たっての工夫（学校ボランティア実施についての工夫・対応等）

最初のオリエンテーションの際に、本校ボランティアのコンセプトや留意事項等を伝えた。気軽に参加いただける雰囲気作りを常に意識している。地域コーディネーターを窓口し、地域の学校ボランティアの方々に活動案内のプリントを配布し、参加希望者を募った。また、保護者ボランティアの方々には、児童を通じて活動内容を知らせた。

■ 事業の成果

学校ボランティアの協力によって、児童の学習活動が充実したり、安全に実施できる手助けになったりと成果が大きかった。また、学校の環境美化にもつながった。立命館大学との交流については、学年のニーズに合った内容で、年齢が近い学生の方々に教えていただいたり、触れ合ったりできたことは、児童が物事に興味を持つ良い経験の場となった。



【立命館大学との交流】

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

地域の方と学校との互いの思いや意図をしっかりと話し合いの中で確認して実践することが大切である。今後も、そのような事を意識し、互いにとって有意義な活動にしていきたい。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

年に4回、学校運営協議会において、地域協働合校の事業計画や実施状況を報告している。そこで出された意見や助言等を参考にして次の活動に生かしている。

■協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校 長 ■教 頭 ■地域連携担当教職員 その他（ ）

報告書記入者（ 地域連携担当教職員 ）

ふれあい 学び合い 心をひびかせる 草津っ子

草津市	活動名：草津学区ひと・まちいきいき協議会	草津小学校 学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域協働学校概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成27年度 地域学校協働活動推進員等数：2人 ボランティア登録数：35人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り ■部活動支援 ■学校周辺環境整備 ■学びによるまちづくり ■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） □地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他 []		

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園
 学校運営協議会
 地域学校協働活動推進員等
 行政
 その他（ ）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

地域の人材を活用していることが大変すばらしい。

協力できる学習には積極的に参加されている。

今後も地域協働学校が円滑に進められるように取り組んでいく。



【 1年 さつまいもの収穫 】

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

(1) 「なでしこの花を育てよう」

「なでしこ」は、本校の校章の図柄であり、子どもたちにより愛着を感じさせながら愛校心を育てる活動を実施している。総合的な学習の時間等を活用し、環境ボランティアや湖南農業高等学校の協力を得ながら、なでしこの苗を植え、水やりや草引き作業等、日々世話をし、育てている。

(2) 「米づくり（5年）」 「花を育てよう（3年）」 「さつまいも作り（1年）」

第5学年の総合的な学習の時間では、敷地内にある学校田で稲を育てている。毎年、土づくりから収穫まで、環境ボランティアが児童一人ひとりに丁寧な指導をしており、草ひきなどの世話も児童と共に実施している。さつまいもづくりや花の植え替えも実施しており、例年、収穫後に「お米パーティー」や「さつまいもパーティー」を開催し、収穫したお米やさつまいもをともにいただきながら交流を深めている。今年度は、学んだことの発表会に参加していただいたり、収穫した作物を持ち帰っていただいたりした。参加された地域の方々も児童の姿に感動され、交流の場を楽しみにされている。



【 5年 稲刈り 】

■ 実施に当たっての工夫

- ・活動中だけでなく、活動後にもボランティアの方が「来てよかった、続けていきたい」と考えていただける活動を目指した。
- ・児童との交流がその時限りになるのではなく、感謝の気持ちを感想文やお礼状として渡すことで、ボランティアの方々のやりがいにつながるよう取り組んだ。

■ 事業の成果

- ・何年も継続してボランティア活動に取り組んでいた方が多いので、活動の流れや学校の様子をよく知っていただいていることから、スムーズに活動を行うことができています。
- ・継続して取り組んでいることがボランティアの方の「私たちが草津小学校の教育活動を支えている」という誇りや生き甲斐につながっている。
- ・関わりが深まることで、児童は、収穫の喜びとともに「いろいろな人に見守ってもらっている」と感じ、豊かな心の成長につながっている。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・継続的な活動が多く、ボランティアの方に任せてしまうことがあるので、学校環境の整備など活動を問わず、共に考える場を設定した。学校の各職員に丁寧に活動内容を伝えることで、よりよい関係を目指したい。
- ・ボランティアの方が熱心に、児童一人ひとりに丁寧な指導をいただいているおかげで、学習は予定通りに進んでいる。「児童が試行錯誤をし、自力解決する力をつける学習」を目指す必要性も感じている。そのためにも、学習のねらいや役割分担について、ボランティアと学校が十分に共通理解を行うようにした。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

- ・例年、年4回の学校運営協議会において連絡調整等を実施している。
- ・スクールESDに取り組み、地域の課題解決をしている。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長
 教頭
 地域連携担当教職員
 その他（ ）
 報告書記入者（ 地域連携担当教職員 ）

「人・もの・地域」と出会い、ふれあい、高め合おう！

草津市	活動名：草津第二小学校地域協働合校推進委員会	草津第二学校 学校運営協議会：■有 □無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成27年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：103人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 ■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり ■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） □地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他 []		

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（草津駅前商店街・草津川跡地公園（de 愛ひろば））

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

地域と学校で連携して子どもたちの育ちを見守り、地域社会と子どもたちをつなげる機会となっている。昨年度の学校評価の中で、保護者、児童ともに「あいさつをする」という項目の評価が低い傾向にあったが、今年度は「状況を判断して、その場に応じた挨拶ができる子どもの姿に感激した」というご意見があった。また、まちづくり計画に子どもの声を掲載するなど、子どもの考えを地域に生かそうとされていることが分かった。

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

【3年生 お店体験】

草津第二小学校区は駅前に広がっており多くのマンションが建ち並んでいるが、駅前には昔からの商店街も残っており新しい店と共存している。3年生では、総合的な学習で「お店体験」に取り組み、地域のいろいろなお店を見学したり体験したりすることによって働く人々の姿に触れ、商品を売るための工夫や仕事に対する思いを知ることができた。またスーパーマーケットやカフェ等で様々な仕事を体験することにより、仕事の大変さを学ぶと共に、地域の人と交流することでコミュニケーション力の向上を図ることができた。

【6年生 平和学習】

本校の6年生の子どもたちは、学区に居住されている、104歳の戦争体験者の方から毎年お話を聞き、平和について考える学習をしている。今年度も、戦地での実体験やご自身の平和への思いを聞かせていただき、改めて平和の大切さやありがたさを感じ、平和な世界のために自分は何かができるかを考えて「平和宣言」にまとめることができた。

■ 実施に当たっての工夫

コロナ禍にはできなかった「お店体験」を、今年度は実施することができた。実施にあたり直接お店の方をお願いして打合せをしたり、保護者の方にもボランティアをお願いしたりして、安全に学習ができるように準備を行った。

戦争体験者の方とも事前の打合せで思いを聞かせてもらうことで、教員自身も平和への思いを持って当日の指導にあたることができた。

■ 事業の成果

自分たちの学びと、地域の様々な人・もの・ことがらとの関わりを通して、地域に親しみを持つことができた。「お店体験」では、今まであまり意識していなかった地域のお店や働く人について知り、働くことの楽しさや厳しさを感じる事ができた。

「戦争体験を聞く」では、「地域」という身近な方の実際の体験を聞くことで心を動かされ、「平和の大切さ」を頭で考えるだけでなく、心で感じる姿が見られた。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

地域協働合校コーディネーターから、地域の各場所の担当の方に連絡をとり、学習への協力を依頼した上で、後日担当学年から連絡を取った。コーディネーターと役割分担をすることでスムーズに連絡調整を進めることができた。今後さらに活動を充実させるために、依頼先を増やすことと考えていく必要があるため、連絡・調整・事後のお礼等がスムーズにできるよう、工夫する必要がある。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

各学年とも、児童が体験することで学んだり考えたりすることを大切にして取り組んでいる。学習や活動の内容は、学校ホームページや学年・学校だよりなどを通じて、保護者にも知らせている。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（ ）



【スーパーマーケットでお店体験】



【平和学習】

報告書記入者（地域協働活動担当教職員）

いいな いいな とともに学んで ふれ合うまち 渋川

草津市	活動名： 渋川小学校地域協働合校推進委員会	渋川小学校 学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/>有 <input type="checkbox"/>無
<p>地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成27年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：250人 <input type="checkbox"/>学習支援（授業補助、学力補充等） <input checked="" type="checkbox"/>図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input checked="" type="checkbox"/>学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/>子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/>部活動支援 <input type="checkbox"/>学校周辺環境整備 <input checked="" type="checkbox"/>学びによるまちづくり <input checked="" type="checkbox"/>地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input checked="" type="checkbox"/>地域行事への参加 <input checked="" type="checkbox"/>ボランティア・体験活動 <input checked="" type="checkbox"/>郷土学習 <input type="checkbox"/>その他 []</p>		

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

学校運営協議会では、地域の方に学習の様子を紹介している。また、地域の中で学習の内容に合った人材がおられるかという相談をしている。1月の渋川ESDミュージアムは、学校HPを利用し地域の方にも見ていただけるよう発信をしている。

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

- ・ 地元の人や自然、くらし、文化に愛着や誇りを育む機会にするために環境教育を核に地域協働合校事業を進めている。
 - ・ 全校で学びの成果を展示物にまとめ、「渋川E（いいまち）S（しぶかわ）D（だいすき）ミュージアム」を開催し、保護者や地域の方にHPで発信している。
 - ・ 5年生では、「滋賀の郷土料理学習」を核に郷土料理の魅力について考えた。琵琶湖の漁師を招き、琵琶湖の現状について学ぶとともに、琵琶湖の魚貝を使った郷土料理「湖魚の佃煮」や「アメノイオご飯」を試食した。また、日野町からは和菓子職人を講師に招き、丁稚羊羹作りを実施した。作った丁稚羊羹はパッキングしてもらい、家に持ち帰って家族に学んだことや魅力を伝えた上で、家族と共に味わった。
 - ・ 6年生では、「世界農業遺産」に認定された滋賀の農業・水産業を中心に学びを深めた。琵琶湖と共生してきた滋賀の農林水産業の魅力を知ることを通して、郷土への愛着や誇りを深めることをねらっている。郷土の農産物の中から「米」「野菜」「茶」をテーマに選び生産者と出会ったり、農産物を味わったりといった体験を数多く取り入れた。また、琵琶湖真珠の歴史や養殖の技術について学び、修学旅行では三重県の海の真珠の養殖業について学びを深めた。
- 近江茶学習では、近江茶の歴史や産地の特徴について学び、ほうじ茶づくりを体験し、味わうことができた。



【5年 琵琶湖の漁師さんと湖魚】

■ 実施に当たっての工夫

地域に関わりのある物や、ゆかりのある方との調整を地域コーディネーターが中心となって行っている。また、地域コーディネーターと担任との連携を密に行うことにより、学校ニーズを把握した上で充実した活動を行うことができています。活動内容に関しては、見たり触れたり味わったりする体験的な活動を行うことで記憶に残るような活動にした。

■ 事業の成果

すべての学年が地域の方に協力を得て子ども達の豊かな体験の場・学習の場を提供していただいている。活動を通して子どもたちは地域に対する愛着を育み、地域行事に積極的に参加する児童も多い。また、保護者や地域の方々にも地域のことを知っていただく機会となっている。テーマの通り、子どもも大人も活動に関わることで学び、ふれ合いを深めている。



【6年 近江茶の学習】

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

子どもの実態や学習の内容に合わせて工夫の余地がある。めあてをしっかりと設定して見直しをもって取り組みたい。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

年4回、学校運営協議会において子どもたちの学びを報告するなど連絡調整等を実施している。また、地域の中で学習の内容に合う人材がおられるか相談したりしている。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（ 学年主任・学級担任 ）

報告書記入者（ 地域連携担当教職員 ）

地域の先生に学び、地域に誇りを持てる子に！

草津市	活動名：矢倉小学校地域協働合校	矢倉小学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成28年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：150人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 ■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり ■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） ■地域行事への参加 □ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他 []			

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ふるさと「矢倉」風景の記憶絵プロジェクト）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

登校中の見守りやボランティアで環境整備に来たときに、子どもたちのあいさつの声が励みになる。ふれあいまつりや、3年生の町探検、市民センター主催の防災キャンプなど、地域と学校が連携して充実した活動ができた。学校と地域の双方向で、高齢者世代と保護者世代を含めた活動ができないか考えていきたい。

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

「矢倉のすてきを見つけよう」（3年生）

3年生の総合的な学習では、自分たちの住む地域にある寺社、お店などのすてきな所について調べた。地域を周る時には、テーマ別に子どもたちが分かれて探検した。それぞれのグループにボランティアさんがつき、言葉や絵などがかかれた自作のフリップを使って分かりやすく説明をしてくださった。



【 ガイド・保護者ボランティアと探検 】

■ 実施に当たっての工夫

事前学習として、ふるさと「矢倉」風景の記憶絵プロジェクトの方に、当日に周るコースの説明や矢倉の歴史に関するクイズなどをしていただいた。また、保護者ボランティアを募り、安全面にも気をつけて、探検をすることができた。

■ 事業の成果

課題別のコースを選んだことで、子どもたちは興味を持って探検し、たくさん質問することができた。ふだん何気なく目にしている所でも、それぞれの神社やお店の由来などを聞くことで、より地域に親しみを感じることができた。

また、学習できたことをまとめた成果物を、市民センターやふれあいまつりに掲示したり、草津市の「子ども環境会議」に展示したりし、自分たちの地域以外の人たちにも広く発信できた。



【 瓢泉堂・道標の由来 】

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

6月実施だったが、暑い時期なので、児童や高齢者にとっては熱中症対策を講じる必要がある。今回は児童が作った成果物を市民センターやふれあいまつりに掲示したが、地域の人がコメントを送るなど、学校と地域が双方向に働くような取組にしていきたい。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

草津市「子ども環境会議」や市民センターに掲示している子どもたちの成果物を一度見ていただきたい。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（ ）

報告書記入者（ 地域連携担当教職員 ）

手をつなぎ、心通わす ^{ゆう}誘・^{ゆう}融（融け合う）老上

草津市	活動名：老上学区地域協働合校推進委員会	老上小学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成28年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：100人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 ■学校周辺環境整備 ■学びによるまちづくり ■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） ■地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他 []			

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

- ・本校研究事業スクールESDに関わる取組について（地域協働連携のあり方について）
- ・各学年の取組とボランティア・地域の協力の今後について

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

- ・米や野菜の栽培・収穫

「老上ふれあい農業合校」と学校が連携・協働して、子どもたちの農業体験を行っている。米や野菜を作る楽しさ、収穫に喜びを知り、感謝の気持ちももてるように学年に応じてめあてを設定し、学習を進めた。地域住民と協働する姿から世代間の交流も図られている。学校では、学習のみの関わりにとどめず、地域に戻った時にも声をかけあえる関係をつくることで、地域の活性化にもつながっている。

- ・みんなでつながり 安心安全！ 老上防災大作戦！

4年生が「みんなでつながり 安心安全！ 老上防災大作戦！」の取り組みを行っている。本学区は、近年都市開発が進み、他市や他県からの転入者が増加している。そのため住民同士のつながりが弱い傾向にあり、子どもたちは「自分たちの力で地域の防災意識を高められるようなイベントを開きたい」という願いをもって活動をスタートさせた。地域の避難場所や防災設備の調査のために町を歩き、地域の方や防災に関わる専門家に話を聞くなど体験活動を通して、自分たちの願いの実現に向けて取組を進めている。



【 稲刈り 】



【 防災設備について 】

■ 実施に当たっての工夫

- ・地域コーディネーターや各学年の担当が連絡調整を行い、学習計画を作成している。その際、学校の授業内容やねらいも丁寧に伝えることで学校と地域の取り組みがつながるようにしている。また、農業合校の畑には行事予定や年間の作業を掲示するホワイトボードが設置され、いつでも地域住民が確認できるようになっている。

■ 事業の成果

- ・子どもたちが地域の方の支援に触れる場面が増え、地域の方やふるさとへの愛着を感じ、豊かな人間性を養うきっかけとなる取組となっている。
- ・推進委員は世代を超えて老上小学校の体験活動を支援してくださっていることから、家庭内で地域のことが話題にのぼるなど、家庭教育的な役割も果たしている。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・取組を充実させるため、入念な打ち合わせや準備が必要となる。今後も継続して取組を図っていくためにも、学校・地域双方の負担を軽減していくことが必要である。また、地域の方の高齢化も進んでいるため、新規の推進委員・ボランティアの確保も必要である。情報の発信や円滑な情報の共有のためにも地域コーディネーターの果たす役割がより重要である。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

- ・学校ホームページ <https://kusatsu.scblo.jp/oikami>

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（ ）

報告書記入者（ 地域連携担当教職員 ）

やってみよう! 2023 ～地域とともに協同(協働)する学校～

草津市	活動名: 老上西小学校地域協働合校推進委員会	老上西小学校 学校運営協議会: <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度: 平成 28 年度 地域学校協働活動推進員等数: 1人 ボランティア登録数: 75人 <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援(授業補助、学力補充等) <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア(読書活動支援・図書室環境整備) <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input type="checkbox"/> 地域人材育成(地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育) <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 []		

■ 事業を考案する主体(該当するすべてに■印)

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他()

■ 学校運営協議会で熟議された内容(地域学校協働活動に関わる内容等)

- ・地域協働合校の活動方針や実施した内容について
- ・郷土に関する学びを深める学習について

■ 地域と学校が協働した活動(特徴的な活動)

(1) 栽培体験活動

1年生のさつまいも、2年生の大根、5年生の米などの作物を、農業合校やサポーターの方の協力を得ながら栽培した。栽培中は、適宜様子を観察し、成長を見守った。収穫した作物は、家に持ち帰り、収穫の喜びを感じることができた。



【 5年生 稲刈り 】

(2) 学習支援

5・6年生の家庭科の学習で、裁縫の学習支援をしていただいた。担任の目が行き届きにくいところの支援をしていただいたおかげで、安全に配慮しながら、きめ細かい支援を行うことができ、子どもたちは、充実感を得ることができた。



【 4年生 サンヤレ踊り 】

(3) 読書活動の推進

図書ボランティアの方には、本の貸し出しや整理、掲示物の作成など、子どもたちが本に親しめる環境づくりに貢献いただいている。

毎週火曜日には、低学年を中心に、朝の学習の時間を使って読み聞かせをしていただいた。子どもたちは、読み聞かせを大変楽しみにしていて、読み聞かせをきっかけとして読書の幅を広げることができた。

(4) 郷土学習

3年生の校区探検の際に、宮司さんや地域の歴史に詳しい方に、それぞれ現地でお話を聞かせていただいた。

下笠サンヤレ踊り保存会のみなさんに、草津市に伝統的に伝わるサンヤレ踊りについて、実演を交えながら教えていただいた。

■ 実施に当たっての工夫

- ・年度当初に「サポーター活動年間計画」を作成、配布し、保護者や地域の方に一年間の見通しを持てるようにしている。
- ・サポーターのみなさんには、検温や消毒をお願いし、感染症対策を徹底した。

■ 事業の成果

- ・地域コーディネーターを中心として、地域や保護者との連携を密にすることで、子どもたちの体験的で主体的な学習を安全に実施することができた。
- ・郷土について学ぶ取組を、3・4年生で行うことができた。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・感染症対策を実施しながらできそうな活動が定着しつつある。
- ・郷土について学ぶ活動を、充実、発展させていきたい。

■ その他(学校運営協議会との協働等)

- ・学校ホームページ <https://kusatsu.scblo.jp/oikaminishi>

■ 協働活動推進員(コーディネーター)と協働する学校関係者(該当するすべてに■印)

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他()
 報告書記入者(地域連携担当教職員)

すきです玉川 わたしも参加 つくるよろこび

草津市	活動名：玉川小学校地域協働合校	玉川小学校 学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに <input checked="" type="checkbox"/> 印 開始年度：平成28年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：45人 <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input checked="" type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input checked="" type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他		

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（地域、地域団体等）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

地域協働合校による取組について、主に以下の点について相談・検討し、活動の充実・年間計画の修正・変更に努めた。

- ①各学年の活動について、伝統・慣習に固執するのではなく、児童・保護者、地域等の実態に応じて、弾力的に内容を変更・修正したり、新たな取組に置き換えたりする。
- ②児童が主体的に活動内容や方法を創意工夫し、地域の課題解決に貢献する取組を目指すこと。
- ③将来を見据え、継続的な取組になるように活動内容・支援体制を検討し、実践すること。
特に③については、地域人材の高齢化が顕著であることから、保護者の積極的な参加・協力を促す支援体制の構築を図った。

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

【保護者によるサポート活動（玉人楽支会：E-Sup.）と地域との連携強化】

本校はこれまで、地域の方々や地域団体等からの手厚い協力を得て、地域協働合校での様々な活動を行ってきた。またPTA活動に対する保護者のマイナスイメージを払しょくするために、PTA組織のあり方や活動内容の見直しにいち早く着手し、その取組の一つとして、令和4年度に保護者による活動サポートチーム（玉人楽支会（通称：E-Sup.））を発足し、教育活動や学校行事のサポート、会員間の交流などに積極的に取り組んできた。

一方、地域人材の高齢化や、後継者不足等から、今後の継続的な活動の実施についての懸念を抱えていることや、地域と保護者との連携が不十分であることが課題として挙げられていた。そこで今年度は、地域・保護者による強力な支援体制を活かしつつ、懸念材料を解決するために、E-Sup. と地域・地域団体との連携を重視し、様々なことに取り組んだ。具体的な方法として、地域協働合校推進員とE-Sup. リーダーとのやりとりを密にし、情報を共有するとともに、可能な範囲で互いの活動に参画できるようにした。次年度はさらに多くの活動において、地域・保護者による共同支援体制を構築していきたい。



【2年学区探索活動サポート】

■ 実施に当たっての工夫

各学年の活動予定、活動内容、募集案内等について、できるだけ速やかにE-Sup. 会員に周知するために公式LINEを作成し、会員間の情報共有をスムーズに行えるようにした。公式LINEの管理・運営は保護者リーダーが務めるとともに、前年度までリーダーと学校担当者間で行っていた連絡調整を、直接、該当学年担当と行えるようにし、連携体制の効率化を図った。

■ 事業の成果

E-Sup. の発足から2年を経て、継続的な活動への取組や啓発活動の成果もあり、保護者間での認識が高まり、活動に対する理解や参画の機運の高まりを感じている。また、これまで地域・保護者がそれぞれで取り組んできた活動を共有・協働できたことで、地域・保護者の関わりが深まったことに加え今後も協力して子どもを支えていこうと目的を一つにすることができた。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

今後、この取り組みを継続するためには、年度間の確実な引継ぎのあり方や、他組織（PTA本部、地域各種団体等）とのさらなる連携が重要である。特にこれまで地域の強力な協力体制に支えられてきた地域協働合校の取組に、どのような形で寄与していくとよいか、各関係者が密に情報共有・提供を行い、お互いにとってよりよい体制を築き上げることが重要であると考えている。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

今年度より、地域協働合校推進員を学校運営協議会の委員に任命し、地域協働合校の取組に係る情報共有を図り、学校・地域との連携のさらなる充実を図った。また、E-Sup. のリーダー（今年度はPTA会長を兼務）も運営協議会の委員を務めることで、学校・地域と保護者の連携を深めることができた。今年度の実績・成果を踏まえ、次年度の委員の選出を検討したい。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（各学級担任）

報告書記入者（教務主任：地域協働合校担当）

素敵な出会い みんなで創るまち 南笠東 ～大人も子どもも 共に地域で学びましょう～

草津市	活動名：南笠東学区地域協働合校推進委員会	南笠東小学校 学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成 28 年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：約 100 人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 ■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり ■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） □地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 ■その他 [クラブ活動講師]		

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園
 学校運営協議会
 地域学校協働活動推進員等
 行政
 その他（ ）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

- ・従来に引き続き、「みな小おうえんたい」の活動写真などを学校だよりや学校ホームページに掲載した。
- ・まちづくりセンターにも掲示することで、「みな小おうえんたい」の活動をより多くの方に知ってもらおうようにする。
- ・「みな小おうえんたい」のボランティア人数のさらなる充実につなげていくこと。
- ・保護者へのPRを積極的に行うこと、また、保護者（PTA）との連携を図っていくこと。

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

【みどり学級 野菜屋さん（特別支援学級）】

みどり学級の学習で野菜の苗植えから地域の方に協力いただいた。収穫した野菜（玉ねぎ、じゃがいも、さつまいも）を地域のまちづくりセンターで販売した。児童にとって、野菜販売という学習だけでなく、「ありがとう」「おいしかったよ」と地域の方と交流できたことも、大変有意義であった。

【4年生 お弁当配食】

4年生の総合の学習で地域に在住の高齢者の方々にお弁当の配食を行った。以前より、学区の民生委員さんが行っていた配食サービスに4年生児童が参加し、各家庭を一緒に訪問し、手紙を添えて配食を行った。

【学校周辺の道路のゴミ拾い（日赤さんといっしょに）】

マナー向上委員会の児童と「みな小おうえんたい」「日赤奉仕団」の方々で、学校周辺のゴミ拾い活動を行った。児童と地域の方が一緒に活動することで、郷土愛の育成にもつながった。



【 みどり学級 野菜屋さん 】



【 4年 お弁当配食 】

■ 実施に当たっての工夫

- ・事業実施については、担当学年からの要望を地域連携担当者に伝えることで、活動内容の充実につなげた。
- ・児童や教師からの「こんな活動をやってみたい」という声にコーディネーターが協力して実施へとつながった。

■ 事業の成果

- ・校内掲示板を活用したことで、校内でも児童や保護者がいつでも活動内容を知ることができた。また、学校HPや学校だよりでも啓発することで、より広く周知できた。
- ・地域の方々が大変協力的で、子どもたちと関わることに喜びを感じてくださっている。今年度は総合の学習などの学習のゴールとして、発表などを地域の方に向けて行うことで、児童も地域の方も達成感を感じることができた。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・引き続き、学習支援を中心に実施を進めるとともに、ボランティア数の確保に努めたい。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

- ・学校運営協議会に、地域コーディネーターやまちづくりセンターの職員も参画していただいている。
- ・HPにて、活動を紹介している。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長
 教頭
 地域連携担当教職員
 その他（担任）

報告書記入者（地域協働合校担当教職員）

出会い・ふれあい・学び合い ～みんなで育てる山田の子～

草津市	活動名：山田小学校地域協働合校推進委員会	山田小学校 学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印		
開始年度：平成28年度 地域学校協働活動推進員等数：2人（兼務1人） ボランティア登録数：70人		
<input checked="" type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援		
<input type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり		
<input checked="" type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア・体験活動		
<input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 []		

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
学校・園
 学校運営協議会
 地域学校協働活動推進員等
 行政
 その他（ ）

■ 学校運営協議会で熟議された内容
 ・山田校区ならではの特色ある取組を継続して行っていく。
 ・地域との関わりを深めるとともに、新たな人材の発掘を行っていく。

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）
 (1) 湖魚を使ったメニューを考えよう【4年生】
 山田漁業協同組合の皆さんの協力のもと、琵琶湖にニゴロブナを放流する活動を続けているが、今年度は、漁師の皆さんが抱える課題から、多くの人が琵琶湖産の魚を食べる機会を増やすことを目的に、ホンモノロコを使った新たなメニューの開発を行った。調理実習での試食や給食センターの方へのプレゼン等を通して、琵琶湖の魚や地域の漁業への関心が高まった。



【ニゴロブナ稚魚の放流】

(2) アオバナたんけんたい【3年生】
 草津市の市花である「アオバナ」についてもっと知りたいという子どもたちの声から、アオバナに詳しい方からのお話を聞くとともに、実際にアオバナを植えたり、アオバナ摘みを行ったりした。また、アオバナ染めやアオバナ粉のお菓子作りを通して、アオバナの魅力を十分に感じる事ができた。最後は、この魅力を多くの人に知ってもらえるよう紙芝居にまとめ、百貨店のアオバナの催事場に展示していただいた。



【アオバナ染め体験】

(3) その他
 読書サークル「トトロ」の皆さんによる読み聞かせ、地域の農家の方々からネギやアスパラガスについての講話等。

■ 実施に当たっての工夫
 ・地域との窓口を地域コーディネーターが中心となって行うことで、スムーズに調整が進み、より有意義な活動になるようにしている。
 ・活動内容をより多くの方に知ってもらうために、学校のホームページだけでなく、まちづくり協議会のホームページ等にも載せてもらうようにしている。

■ 事業の成果
 ・校内の掲示板上に『地域協働合校コーナー』を設け、各学年の取組について紹介することで、多くの子ども達が掲示板を見ている。また、「〇年になったらこんなことができる!」「この場所に行ってみたい。」と自分達が住む地域への関心も非常に高い。
 ・歩いていける範囲に、漁港、ビニールハウスや農業センター、田畑などがあり、様々な体験ができる環境にあるため、地域の方々の協力のもと、ともにふれあいながら体験を進めている。アンケート等でも「地域行事に参加している」と答える子どもが多い。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
 ・今後、学校運営協議会とともに、地域の様々な諸団体との連携をさらに深めることで、地域の抱える課題や願いに対して子ども達が考えたアイデアを発信・提案できる場づくりを検討していきたい。

■ その他
 ・学校運営協議会に地域コーディネーターと担当教諭も参画し、年間4回実施している。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
校長
 教頭
 地域連携担当教員
 その他（ ）

報告書記入者（地域連携担当教員）

協力して育つ 共に育つ 響いて育つ 子どもの夢育て

草津市	活動名： 笠縫小学校地域協働合校推進委員会	笠縫小学校 学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成 27 年度 地域学校協働活動推進員等数：8 人（兼務 8 人） ボランティア登録数：50 人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 ■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり ■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） □地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他 []		

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

- ・ 学校運営基本方針…地域の力を活かした学校運営について承認を得た。
- ・ ICTを活用した教育の推進…生活習慣、学習取組週間の協力から、家庭力、地域力の高さが伺えるが、SNSの影響が心配。
- ・ 学校生活の様子や環境整備について…たくさんの行事等を含め、子育ての分野でも地域の力で協力したり、校内環境整備をPTAと地域で連携して整備したりしていただける旨の声を得た。

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

(1) 栽培活動

3年生の総合的な学習の時間で、地域の伝統産業である青花紙用のアオバナを栽培する最後のお一人である「アオバナ栽培の名人」を招き、苗の植え方や世間の仕方を教えていただいた。また、育てた花を摘み、伝統的な方法で和紙を染める体験をすることもでき、地域の産業についての理解を深めることができた。また、中庭の「ふれあい花壇」では、環境美化委員会の児童がボランティアの協力を得ながら、季節の花の栽培活動を行うことができた。



【 青花紙づくり 】

(2) 地域の人から学ぶ

特別支援学級の子どもたちは、学区の民生委員・児童委員さんと制作活動を通して交流を行った。民生委員児童委員さんの方から交流の企画を出していただいたり、必要なものを準備していただいたり、積極的に関わっていただいた。2年生の生活科では、地域の商店等の協力を得て、それぞれのお店の工夫や思いを聞かせていただき、地域のお店に関心と親しみをもつことができた。6年生の総合的な学習の時間では、学区の「ふるさと絵」から、伝統の「サンヤレ踊り」や「講踊り」などに関心を持ち、フィールドワークで取材を行ったり、ゲストティーチャーを迎えて話を伺ったりしたうえで、自分たちでも調べ活動を行って地域について理解を深めることができた。

■ 実施に当たっての工夫

年度や学期初めに、学習支援等をお願いしたい内容について、学年と地域コーディネーターとで打合せを行い、学習の展開や人材の確保に見通しを持てるようにした。

■ 事業の成果

- ・ 授業支援については、専門的な視点を生かした話を聞いたり、体験をしたりでき、子どもたちの学びが深まった。
- ・ 継続してボランティア活動に取り組んでいただいている方が多く、読書や下校パトロール、授業支援などの活動をスムーズに行うことができた。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・ ボランティアとの授業前の打ち合わせによって、授業はスムーズに進むものが多かった一方で、授業後のふり返りの時間を取ることは難しかった。地域コーディネーターやボランティアが入れ替わっても、人材との連絡や段取り等が引き継げるように、記録の方法を工夫していく必要がある。
- ・ 年度末に近づくにつれ、講師謝礼が不足がちになった。年間計画を見直す過程で、必要となるボランティアについて整理し、見通しを持った予算計画を立てる必要がある。
- ・ 継続してボランティアに協力してくださる方がいるものの、学習を進める上で必要な人材を新たに発掘していく必要がある。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

笠縫小学校ホームページ <https://kusatsu.scblo.jp/kasanui>

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（ ）
報告書記入者（ 地域連携担当教員 ）

ふるさとの「いのち」とふれ合う東っ子

草津市	活動名：笠縫東学区地域協働合校推進協議会	笠縫東小学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成27年度 地域学校協働活動推進員等数：2人 ボランティア登録数：85人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） □学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 ■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり ■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） ■地域行事への参加 □ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他 []			

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校 □学校運営協議会 ■地域学校協働活動推進員等 □行政 □その他（ ）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

本校独自の教育活動である「葉山川学習」（葉山川を基点とする環境学習）や「東っ子句会」を大事にして継続させ、支援していききたいとのこと。

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

本校グラウンドの横を流れる葉山川を基点とした環境学習の中の一つに、5年生が行う「葉山川生き物調査」がある。この活動は長年続いており、子どもたちは大変楽しみにしている。しかし、実際に川に入るという危険を伴う活動であるため、子どもたちの安全を確保するための対策を十分にとる必要があり、地域の学習ボランティアの力はなくてはならないものである。事前の現地の草刈り、川の深みを示し危険箇所を示す旗立てや活動範囲のロープ張り、観察場所のテント設営、そして、共に川へ入って活動すること等しなければならぬことはたくさんある。



【 生き物を見つけた！ 】

活動当日、子ども達はグループごとに学習ボランティアと川へ入り、喜々として魚などを探しながら歓声をあげていた。魚の名前を覚えてもらい獲り方のコツを習い、そして、川へ入る心地よさを味わい楽しむ姿が見られた。活動後半は、捕まえた生き物をグループごとに観察し他のグループと交流した。鮎、ヨシノボリ、ブラックバス、ブルーギル、カダヤシ、スッポン、川エビ、アメリカザリガニ、アカミミガメ、タニシ、水カマキリなどが見られた。最後に、魚に詳しい学習ボランティアから、琵琶湖や川に生息する外来種が環境に及ぼす影響を学び、川の美化とともにふるさとの川の環境保全への意識を新たにしました。

■ 実施に当たっての工夫

この事業は、成果は大きいものの準備と支援に多大な負担を伴うため、学習ボランティアの高齢化によって存続が難しい状態にあった。そこで、今年度は川の活動場所を学校の近くに移動し、荷物運搬の労力を減らし、現地の桜並木の影を利用することでテントを張る手間を省いた。川がやや浅くなり魚の捕れる量が懸念されたが、子どもや高齢者には安全な活動場所となった。また、保護者に活動支援を呼び掛けたことで数名の保護者とその知人の支援が得られ、活動のねらいの達成ができた上に学習ボランティアの負担軽減につながった。

■ 事業の成果

子ども達の身近にあり親しみ深い葉山川であるが、安全教育上、日頃より子ども達が川の中に入って遊ぶことを禁止している。しかし、この事業では、学習として実際に川の水に入って生き物を捕まえるという普段はできない魅力的な活動が体験できる。さらに、学習ボランティアと共に活動してアドバイスをしてもらったり知らなかったことを教えてもらったりする中で、関係が深まりつながりができる。

また、今年度は1月にある「びわ湖フローティングスクール」に向けて、今回の生き物調査を通じて身近な川の環境保全に目を向け、川とつながる琵琶湖の抱える問題や環境保全へと関心を高めることができた。

なお、今回この事業の見直しを図ったことで、学習ボランティアの高齢化に伴う不安点が軽減され、持続可能な事業となったことは大きな成果である。



【 活動のまとめ 】

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

葉山川を基点とした本校独自の環境学習を今後も地域の学習ボランティアや保護者の協力のもとに継続し、コロナ禍が明けて復活した「東っ子博物館」を発表と啓発の場として益々発展させていきたい。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校長 ■教頭 ■地域連携担当教職員 ■その他（ 該当学年教員 ）

報告書記入者（ 地域連携担当教職員 ）

みんなで祝おう 常盤小学校創立150周年

草津市	活動名：常盤小学校地域協働合校推進委員会	常盤小学校 学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに <input checked="" type="checkbox"/> 印 開始年度：平成27年度 地域学校協働活動推進員等数：3人 ボランティア登録数：300人 <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input checked="" type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input checked="" type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input checked="" type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 []		

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

- ・地域コーディネーターの複数人体制について
- ・地域の協力体制のお願い
今までの地域学習を継続させるために地域の方の高齢化が問題である。他に協力していただける方はいないかという相談。
- ・校外において児童が安全に活動できる場所を探すこと（生き物観察のための川）、複数人での活動の見守りができるように支援者の協力依頼。
- ・創立150周年の記念事業について相談。

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

地域の方の協力のもと、10月に常盤小学校創立150周年記念事業としてサプライズゲストを小学校に招いて、共に150周年を祝った。また、常盤学区民ふれあいまつりでの「150周年記念式典」や「記念事業しゃぼん玉体験」では、しゃぼん玉名人を招き、児童、保護者だけでなく、地域の方や近隣のこども園の園児にも参加してもらった。秋晴れの青空の下、すべての人の記憶に残る体験をすることができた。150周年を児童だけでなく、卒業生や地域の方が祝うということを通じて、より一層学校への愛着を感じていた。150周年の歴史と伝統ある常盤小学校に誇りを持ち、これからの新たな歴史を地域の方と一緒に作ってほしい思いを高めていた。



【しゃぼん玉体験】

■ 実施に当たっての工夫

サプライズゲストの招へいについては、地域の方の熱い思いを伝え、実現した。サプライズゲストや児童の安全確保のため、当日も多くの地域の支援を受けることができた。「150周年式典」や「記念事業しゃぼん玉体験」についても、児童の発表や活動の様子を温かく見守り、励ましの声をかけていただいたおかげもあり、児童の満足感をさらに高めることができた。

■ 事業の成果

150周年を児童と地域の方が共に祝うことで、学校への愛着をより一層高めることができた。特にサプライズゲストに150周年を祝ってもらったことで、思い出深い150周年となった。

式典や記念事業の事前準備や当日の安全確保等では、地域の方にたいへんお世話になった。児童も地域の方の支えに感謝の気持ちを高めることができた。常盤小学校がたくさんの人をつなぐことができた。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

150周年に関わり、会議や打ち合わせを複数回行った。会議や打ち合わせが長くなることもあったので、負担に感じることもあった。それぞれの事業や式典に関わって、終了後のふりかえり等で、地域の方や地域コーディネーターの方の意見をいただき、今後の参考にしていくことが必要である。

地域の方、地域コーディネーターの方の協力的な姿、学校運営協議会の方々の支えがあったからこそ、創立150周年を盛大に祝うことができ、感謝の一言に尽きる。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

毎回、学校運営協議会で進捗状況を報告し、各委員から相談、助言を得ている。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（ ）

報告書記入者（地域連携担当教職員）

学校と地域の連携を通じて、生き生きと活動に参画できる社会づくり

草津市	活動名：松原中学校地域協働合校推進会議	松原中学校 学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：令和4年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：210人 <input type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input checked="" type="checkbox"/> 部活動支援 <input type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input checked="" type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input checked="" type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 []		

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

- ・学校の運営方針について
- ・校内研究を含めた生徒の学力向上について
- ・地域協働合校の活動方針や実施した内容について
- ・スクールESDくさつ推進事業に係る地域人材と学校をつなぎ、継続した活動にするための手段・方法について

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

- ・農業体験
草津市農林水産課の農商連携調整員や地元農家の方々の指導のもと、開墾や土壌改良、畝づくりや栽培などの農業に関わる体験活動を行った。
- ・部活動支援員による部活動指導
地域の方の専門的な知識や技術力を活用し、生徒の競技力向上にむけた活動を行った。
- ・図書室ボランティア
生徒が本に親しみを持てるよう、ビブリオバトルの開催や書架の整理など工夫を凝らした活動を行った。
- ・環境整備作業
生徒とPTAが協力して学校の環境を整備するための活動を行った。
- ・コミュニティ教室（2月の実施）
キャリア教育の一環として、1年生を対象に地域の方から「働くことの意義」や「やりがい」について講話をしていただく予定である。



【 農業体験 開墾 】

■ 実施に当たっての工夫

- ・農業体験を行うにあたって、総合的な学習の時間を通して、農作物を育てる意義や目的を考え、草津市の特産野菜である「ベジクサ」について調べ学習等を行った。
- ・地元の農作物により親しみを持つため、地元農家の方に講演をしていただいた。

■ 事業の成果

- ・教職員では満たせない「専門的な知識」、「多くの目で細やかにみること」、「安心安全面のサポート」等により、生徒の学習や体験の充実を図ることができた。
- ・地域関係者やボランティアの方々とのふれあいにより、生徒たちにとって温かいつながりをもつことができた。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・地域関係機関との連携を通して、地域ボランティアの充実を図る。
- ・地域のニーズと学校のニーズの重なりを検討していく。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

- ・学校運営協議会における熟議を通して、地域課題解決型学習に向けたアイデアを出していただいております。地域人材活用に係るパイプ役を担っていただいております。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（事務職員）

報告書記入者（地域連携担当教員）

地域と学校が協力して育てる立入の子ども

守山市	活動名：立入が丘小学校地域学校協働本部	立入が丘小学校 学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：令和5年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：6人 <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input type="checkbox"/> 学校行事支援 <input type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 []		

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

・設置なし

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

・クラブ活動における活動支援

※地域在住の大学生がバスケットボールクラブに参加し児童と一緒に活動した。

・2年生九九の聞き取り支援

※九九を習った後の暗唱を聞いてもらい、定着の確認をしてもらった。

・清掃活動支援

※1年生や4年生の清掃時間にボランティアにきてもらい、児童とともに掃除をしてもらった。

・家庭科調理実習支援。

※5年生の調理実習の支援に入ってもらった。

・特別支援学級の自立活動における音楽活動の支援

※老人ホーム等で音楽療法の活動をされてきた方のピアノに合わせて、体を動かしたり歌ったりする活動を楽しむことができた。



【 クラブ活動支援 】

■ 実施に当たっての工夫

- ・自治会長会で事業のねらいや概要を伝え、協力を要請した。
- ・依頼事項を明確にして自治会長の協力のもと地元自治会にチラシなどを回覧した。
- ・公民館の担当者に学校の様子を見てもらう時間を取る等、連携を密にした。

■ 事業の成果

- ・ちらしの回覧から、ボランティア募集の応募があり、学校の活動支援に参画してもらうことができた。
- ・九九の聞き取りでは、担任以外にも聞いてくれる人がいることで、子どもが安心して学習に取り組むことができた。また、清掃活動に支援いただくことで、教員だけでは見えにくい子どもの様子を見てもらうことができた。清掃ボランティアの方からは、「低学年の子どもの様子がよくわかってよかった」、「元気をもらった」という声をいただいた。
- ・人員不足の学校において、地域の方の支援は、職員にとっても大きい支えとなった。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・多くのボランティアの方に学校に来てもらい、子どもにとって良い影響が多くあった。しかしながら、ボランティアの方と事業の目的や子どもの様子、地域での様子などを情報共有する時間は多くとれなかった。引き続き、ボランティアに来てくださる方を募集するとともに、情報共有の時間をどう確保していくかが今後の課題である。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

・未定

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（ ）

報告書記入者（ 教頭 ）

地域とのつながりを通して育てる速野っ子

守山市	活動名：速野小地域学校協働本部	速野小学校	学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：令和5年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：3人 <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input type="checkbox"/> 学校行事支援 <input type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 []			

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

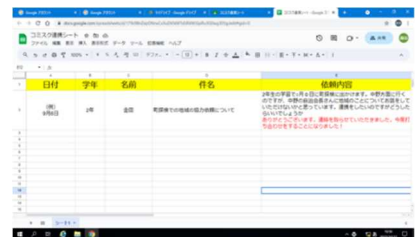
・設置なし

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

- ・小学2年生、生活科「町探検しよう」
公民館の担当者と学年主任が連携し、地域の自治会館で自治会長より、地域の行事や歴史を教えてもらった。昔の学校の様子や地域に伝わる「お満灯籠」の話等を聞くことができた。
- ・小学4年生 社会科・総合的な学習の時間「野洲川の歴史」の講師
野洲川の洪水を実際に目の当たりされた方から当時の様子や人々の思いを聞くことができた。

■ 実施に当たっての工夫

- ・事業のねらいを話し合い、目標をもって活動を行うことができたようにした。
- ・自治会長会に事業のねらいを説明し、協力を依頼した。
- ・担当者が話しやすいように学校の職員室に公民館担当者の座席を設置した。
- ・クラウド上の共有フォルダを活用し、公民館担当者と地域連携担当者以外の教員が情報交換しやすようにした。



【 共有フォルダの活用 】

■ 事業の成果

- ・児童が地域の方とつながることができ、授業以外で出会ったときにあいさつができるようになるなど地域の方に親しみをもてるようになった。
- ・自治会長等が子どもとかかわることで、喜びを感じてくださった。
- ・児童が地域の歴史等を地域の方から聞くことで、過去の出来事を身近に捉えたり、地域に親しみを感じたりして学習意欲が高まった。



【 2年生の学習の様子 】

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・公民館と連携して自治会長と学校がつながり、学習につなげることができた。
- ・子どもたちにとって地域の方から学ぶことができることはとても効果的であり、子どもの学びが深まった。このことを継続するとともに、事業の目的を共有できるボランティアを増やしていき、子どもとより効果的にかかわることができるようにしていきたい。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

・未定

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（ ）

報告書記入者（ 地域連携担当教職員 ）

地域住民と生徒の交流を中心とした連携

守山市	活動名： 守山南中地域学校協働本部	守山南中学校	学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：令和5年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：4人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） <input type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input type="checkbox"/> 学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input type="checkbox"/> 郷土学習 <input checked="" type="checkbox"/> その他 [地域住民と生徒の交流スペースの設置]			

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

・設置なし

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

- ・地域住民との交流スペースを設置し、地域の行事等への参加依頼を地域住民が直接行うことができるようにした。また、教員との交流も想定し、ボランティアが広がることもねらいとしている。
- ・地域在住の大学生が授業の補助に入り、教科を限定せず生徒の個別指導を行った。



【 地域交流スペース 】

■ 実施に当たっての工夫

- ・関係者が事業のねらいを話し合い、目標をもって活動を行うことができるようにした。
- ・自治会長会で事業の概要やねらいを説明した。
- ・地域の団体に事業のねらいを説明し、協力を依頼した。
- ・ボランティア募集のチラシを自治会で回覧してもらった。

■ 事業の成果

- ・定期的に関係者が事業の目的を話し合うことができる基礎を築くことができた。
- ・学校関係者が自治会長会や地域団体の会議に出席し、事業の目的やニーズを伝えることができた。
- ・関係者が顔を合わせることで、今後の連携をしやすくなった。
- ・中学生と年齢の近い大学生が個別支援に入ることで質問がしやすくなり生徒の学習理解が深まった。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・ボランティア募集のチラシを自治会に回覧したが、依頼内容が明確でなかったり、地域のニーズとマッチしなかったりしたこともあり、応募は多くなかった。今後は、事業の目的を関係者で今以上に共有し、育てたい子ども像や依頼内容を明確にして募集し、よりよく生徒とかかわっていただけるようにしていきたい。
- ・学校関係者以外のコーディネーター（地域と学校のパイプ役）の任命

■ その他（学校運営協議会との協働等）

・未定

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（ ）

報告書記入者（ 教頭 ）

サポーターさん、学校、地域の人々の思いと努力をつなぐ ～循環・持続する取組を求めて～

栗東市	活動名： 栗東中学校地域学校協働本部	栗東中学校 学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに <input checked="" type="checkbox"/> 印 開始年度：平成22年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：34人 <input type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 図書室環境整備） <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input checked="" type="checkbox"/> 部活動支援 <input type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 []		

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

今年度10月より、コミュニティ・スクール（学校運営協議会）への移行を完了し、当面、①学校経営の課題についての熟議・承認は学校運営協議会、学校と地域をつなぐソーシャルキャピタルの取組と方針立案は地域学校協働本部（「栗中サポーターズ・クラブ」）とすみ分けを行った。

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

地域ボランティア「栗中サポーター」が生徒会エコロジー委員や有志生徒とで、里芋、さつまいも、大根を育てた。その過程では、サポーターが近隣から馬糞を調達、耕すなど下準備をしたうえで、生徒たちと一緒に苗を植えた。今年の猛暑で収穫自体は、昨年より大幅減となったが、ここ数年のコロナ禍で土に触れたことさえない子どもたちにとっては、有意義な体験となった。



【 野菜の販売会 】

そこで育った野菜の一部は、販売会を設けて地域の人々に買っていただき、収益で子どもたちの自習コーナーの書籍を購入した。自習コーナーにあるサポーターの手作りの本棚はまたにぎやかになり、楽しみにしていた子どもたちが集まった。

残りの野菜は、10月に実施している2年職業体験の一環で生徒たちが起業（スタートアップ）した地元産物品販売店舗「たまりば」で、目玉商品として販売した。たくさんの地域の方が来店し、大盛況の中で完売した。その収益を子どもたちは、「パレスチナのガザ地区で続く戦闘で被害を受けた子どもたちに役立ててほしい」と、日本赤十字社に寄付した。

■ 実施に当たっての工夫

地域の方からの馬糞の提供や、サポーターの野菜作りのスキルを得て、子どもたちが豊かな体験をし、その成果物である野菜を地域の人々が購入し、その収益を子どもたちの自習コーナーの書籍購入や寄付に活用する…こうして事業に関わる人々の思いと努力をつなぐことをねらいとして活動を構想してきた。また、作業や分担を適切に区切ることで、気軽に幅広い方が協力できる取組にしてきた。さらには活動への理解と参加・応援いただける地域の方を増やすために、学校だよりとコラボした「サポーター通信」を全校保護者と地域の自治会役員さんに毎月配布した。

■ 事業の成果

野菜作りでは、参加した生徒が豊かな表情で作業に取り組み、サポーターさんからは、「元気がもらえる」と言っていた。自分たちで野菜を作り、収益を得、本を購入し、読書を楽しむ…という流れの中で、関わる人々が興味をもって楽しみ、やりがいを得たこと。そうした思いや努力の循環を少しでも感じてもらったことは大きかった。

また、2年職業体験と収穫がうまくリンクし、育てた野菜を起業体験担当生徒に販売してもらい、その収益を寄付という形で社会に還元できた意義も大きかった。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

「栗中サポーター」活動に参加する方々、特に発足当時から登録者の高齢化が大きな課題である。昨年は、新たな会員として数名登録いただいたが、今後も引き続き幅広い世代の方に登録を呼びかけたい。また、今年のような記録的な猛暑がもたらす被害とそうした気候変動に耐える栽培スキルを持ち合わせていないことから収穫が減ることも、循環する活動を作るうえでは大きな悩みである。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

市教育委員会規則の策定を受け、今年度10月より学校運営協議会制度を導入した。導入に至るまで、教職大学院研修派遣中の職員の助言を受けて、学校運営協議会と地域学校協働本部（「栗中サポーターズ・クラブ」）の連携・接続について検討した結果、地域学校協働本部の代表者を学校運営協議会に含みつつ、互いの強みを生かす「すみ分け」を取り入れるに至った。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（生徒指導主事）

報告書記入者（地域連携担当教員 地域学校協働活動推進員）

つながろう ふれあおう 笑顔あふれる 柏っ子のわ！

甲賀市	活動名： 柏木小学校地域学校協働本部	柏木小学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：令和5年度 地域学校協働活動推進員等数：2人 ボランティア登録数：32人 <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 []			

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

- ・「人とつながりふれあうことを通して自分も人も大切に、仲間と共にくまなく生きる力を育む」を目標に「つながろう ふれあおう 笑顔あふれる柏っ子のわ！」をキャッチフレーズとして地域と学校で子どもたちを育てていくことについて協議した。
- ・今年度の取組として、地域学校協働活動を同時に立ち上げるため、活動の中心となる学習支援ボランティア（柏っ子サポーター）を募集し、学習や環境整備、行事補助等、できることから取り組んでいくことを協議した。

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

(1) 学習支援

家庭科調理実習、ミシン実習、かけ算九九聞き役

(2) 環境整備

グラウンド整備（草引き、草刈り）、前庭の剪定

(3) 学校行事支援

さつまいも苗植えと収穫、運動会後片付け、持久走大会見守り、交通安全教室補助



【 第1回柏っ子サポーター会議 】

■ 実施に当たっての工夫

- ・柏っ子サポーター募集ちらしを保護者及び学区区長会を通じて柏木学区全戸に配布し協力をお願いした。
- ・年2回のサポーター会議を開催した。（1回目はサポーターとしての役割等冊子にして説明。2回目はサポーター活動の振り返り。）
- ・サポーターへの活動依頼、出席確認等はメールで行い効率化を図った。

■ 事業の成果

- ・様々な活動を通してサポーターの方々にとって学校が身近な場所に思っていたできるようになり何度も来ていただけるようになった。
- ・サポーターの方々との触れ合いにより子どもたちとサポーターの方々との温かいつながりが出来てきた。
- ・教職員だけでは支援や整備等、手の届かない所へ地域の方が入ることにより、教職員の負担軽減と教育活動の充実につながった。



【 かけ算九九暗唱補助 】

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

【課題】

- ・サポーター活動が単発で終わることなく継続的な展開にもっていく活動が必要である。
- ・登録したサポーター全てが活動に参加できるようにすること。

【工夫】

- ・学校からの発信だけでなく地域や児童からの提案による活動を取り入れることにより、活動の場を広げていきたい。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

- ・学校運営協議会委員と教職員で「地域は何を求め、学校は何をもとめているか」のテーマのもとグループ討議を行った。地域学校協働活動で、どのようなことができるかについてもアイデアを出し合うことができた。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（ ）

報告書記入者（ 地域学校協働活動推進員 ）

出かけよう！ふれ合おう！水小大好き！

甲賀市	活動名：水口小学校地域学校協働本部	水口小学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：令和4年度 地域学校協働活動推進員等数：2人 ボランティア登録数：20人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 ■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり ■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） ■地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他 []			

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園
 学校運営協議会
 地域学校協働活動推進員等
 行政
 その他（ ）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

- ・ 地域や児童の課題の共有、団体間ネットワークの構築
- ・ 学校に必要な支援の整理
- ・ 予算案の検討

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

- ・ 地域協働本部主催「あき祭り」

各種団体の協力を得て、土曜日を使って全校児童や地域に呼び掛け、多くのブースを設けて実施した。缶バッジづくり、読み聞かせ、工作、ポッチャ体験、学校園で収穫したサツマイモをかまどベンチで焼いての提供など実施し、約100人の参加者を得た。

- ・ 放課後学習教室

4～6年生に募集をかけ、計10日間の日程で放課後学習教室を実施した内容は、地域の方々に教えていただくメニューを様々に用意し、「ふれあい」をメインに行った。テレビの解体、ギター教室など、多様な学び、体験を得ることができた。

■ 実施に当たっての工夫

「あき祭り」の実施に際して、学校への関連団体代表者の顔合わせを広く呼び掛けて行った。地域協働本部の目的やコミュニティ・スクールの説明などを経て、今回のイベントの意味合いを共有した。

■ 事業の成果

多くの参加者を迎えることができ、地域協働本部や関連団体への理解を深めることができた。また関連団体が一堂に会することで、協力体制の大切さを実感として得ることができた。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

課題は昨年度と引き続き「年間計画等見通しを持った活動」と「予算」である。

本年度も様々な活動に対するボランティア募集を行ってきた。しかし募集時期の短さや周知の難しさもあり、参加者の確保がままならなかった。次年度は年間を通じた活動を整理し、余裕を持ったボランティア募集を行いたい。予算についても同様であり、年間の計画の見通しが立てば、計画的かつ効率的に予算執行が望める。

少しずつ学校の教育活動に対する参加の意識が高まってきたことは感じるが、テーマである「ふれあい」の頻度をもっと上げたいところである。CSルームを中心に、地域の方やボランティアの方が気軽に訪れることのできる体制づくりが、来年度も引き続きのテーマである。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

本年度は、「動きやすさ」「本来の役割」を意識して学校運営協議会と地域協働本部を独立させて取り組んできた。創造的な活動ができ、動きやすかったというメリットは大きかった。が、両組織の情報共有に課題があった。来年度は定期的な情報共有の場を設けることで改善を図りたい。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長
 教頭
 地域連携担当教職員
 その他（ ）



【 あき祭り 缶バッジづくり 】



【あき祭り 読み聞かせ】

報告書記入者（校長）

はじめよう やってみよう（地域と学校が協働して取り組む活動）

甲賀市	活動名： 貴生川小学校地域学校協働本部	貴生川小学校 学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに <input checked="" type="checkbox"/> 印 開始年度：平成4年度 地域学校協働活動推進員等数：1人（兼務1人） ボランティア登録数：39人 <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input checked="" type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 []		

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

- ・昨年度から取り組む「スマイルプロジェクト」と名付けたあいさつ運動の広がりや取組の成果。
- ・児童、保護者、教職員アンケートをもとに児童の学習意欲に関する課題や要因、対策について協議。子どもの自主性を生かした取組が各方面で重要であると確認
- ・総合的な学習の時間の内容について、子どもが自ら学び、学んだことを表現することで、地域に誇りと愛着もてるよう「地域学」を進めていくこと
- ・総合的な学習の他、クラブ活動などでも地域人材を活用すること。この際、学習のねらいを共通理解し、振り返りをしっかりすること。



【 ひまわり教室 】

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

・ひまわり教室（夏休みの地区での学習会）

P.T.A.が主催となり、夏休みに各地区の公民館や集会所にて「ひまわり教室」と名付け、学習会を行っている。P.T.A.の地区委員や民生児童委員、地区役員さんに加え、地区担当の教職員が参加し、支援を行っている。夏休みの宿題に取り組むだけでなく、子ども同士が自由に遊んだり、子ども会行事と一体になったり、各地区で工夫して行われた。

・ふれあいマーケットへの参加（11月の地区イベント）

自治振興会主催の地域行事に児童がお客さんでなく、積極的な参加を目指すために子どもふれあい広場の子どもスタッフを募集した。5、6年生の子どもたちがスタッフとして参加し、行事を盛り上げた。また、クラブ活動の作品展示やステージ発表も行った。企画段階から子どもたちのアイディアが生きる取組が必要である。



【 ふれあいマーケット 】

・きぶかわ学習教室（冬休み・自治振興会主催）

冬休みに貴生川公民館で3～6年生を対象に書初め練習と百人一首大会を行った。水口東中学校の書道部の生徒の指導を受け、22名の児童が参加した。学校運営協議会の委員や学校教職員も参加した。子ども食堂より昼食が提供され、事後アンケートから多くの子どもの満足し、楽しい時間を過ごしたことが伺えた。

■ 実施に当たっての工夫

- ・平成26年度より始まったひまわり教室であるが、コロナ禍で中止を余儀なくされていたため、P.T.A.が主となり復活するには課題もあった。目的や意図が認識されていないため、P.T.A.役員会に出席し意義を確認して再開をお願いした。その際、P.T.A.に過度な負担がかからないよう学校運営協議会が後方支援をした。また、従来の子ども会の行事や子ども食堂ともコラボし、地域の児童数や子どもの実態に合わせた多様な取組を行った。

■ 事業の成果

- ・地域と学校が協働して取り組むことで、内容の充実と活動の広がりが見られた。地域におけるハード面、ソフト面の資源を十分に生かすことができた。参加する児童は楽しみにしており、子どもたちの居場所づくりの一助になっている。学校運営協議会が後方支援を行うことで、連携を図ることができている。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・参加できる子どもに限られており、より多くの子どもが参加しやすい体制を整える必要がある。継続的な活動ができるようスタッフの充実が必要である。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（ ）

報告書記入者（ 地域学校協働活動推進員 ）

地域の力を学校へ 地域の中の学校・学校を核にした地域へ つながり合う綾野小CS

甲賀市	活動名：綾野小学校地域学校協働本部	綾野小学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
-----	-------------------	-------	---

地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印	
開始年度：令和5年度	地域学校協働活動推進員等数：1人（兼務1人） ボランティア登録数：12人
<input checked="" type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習	<input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input type="checkbox"/> その他 []
<input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア・体験活動	

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

- 学校・園
 学校運営協議会
 地域学校協働活動推進員等
 行政
 その他（ ）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

- 子どもたちや学校の実態を踏まえた「学校の運営方針」について…学校経営管理全体計画を基にして
- 学校運営協議会で取り組んでいく活動の具体について…①学校教育支援 ②地域連携 ③放課後・学外教室の3本柱で
- 地域学校協働本部の活動の進捗状況と今後に向けて
- ボランティアの拡充に向けて
- 広報誌の発行と内容の検討について

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

- （2年）栄養バランスを考えて食べよう（食育）
 学校教育支援活動について検討していく中で、学校運営協議会委員の1名が健康推進員をしており、その活動のニーズと2年担任のニーズが一致し実施の場が実現した。

■ 実施に当たっての工夫

- 担任と健康推進員（ボランティア）との間に地域学校協働活動推進員が介し、授業を行うに当たって、細部にわたるまで何度も打合せを行い当日を迎えた。
- 小学校で実施するのは初めてだったので、資料も1セットしかなかったが、2学級同時実施に合わせ、資料を2セット作成するとともに、健康推進員が2班に分かれて実施した。

■ 事業の成果

- 子どもたちの反応
 「いつもは食べられないけど今日は頑張って半分まで食べました。」「これほどの指かなと考えながら食べました。」「食べ物には一つ一つ役割があることに気づきました。」「嫌いなものも食べてバランスをよくしなきゃと思いました。」「魚や野菜、お肉などいっぱい食べてたくさんの栄養をとりたいと思いました。」「今日の朝ごはんは全部の指の栄養食べられたよ！」
- ボランティア（健康推進員）の声（感想）より
 子どもたちからたくさんの発表があり、最後まで話をしっかり聞いてくれてよかったです。子どもたちのパワーはすごい！いっぱいパワーをもらいました。良い経験をさせていただきました。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- 上述の①②③のうち、熟議の結果、まずは①学校教育支援を中心に進めていくことになった。開始初年度ということもあり、ボランティアの募集に最も力を注ぐことになった。
- 学校の保護者を含めた地域全体への周知も同時進行で進めていくこととなり、CSへの理解の広がりとともにボランティアも徐々に集まってきた。
- ボランティアについては、特定の団体に丸ごと依頼をする方法とはらず、活動に理解・賛同してくださる個人を中心に進め、その方から更に協力していただけそうな方へと、「人から人へ」を基本に進めていった。
- 次年度は①の活動の継続・充実を図るとともに、②地域連携活動へ、更に次々年度は③放課後・学外教室へと同心円的に活動を広げていきたい。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

- 学校運営協議会の委員のほとんどが日中に仕事をもっている人が多く、地域学校協働本部部員を兼任しているものも多い。そうした中、地域学校協働活動推進員の役割は大きい。その負担軽減と充実を図るために、次年度は2名体制での運営を現在考えている。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

- 校長
 教頭
 地域連携担当教職員
 その他（ ）



【 栄養のバランスよく食べようね 】



【 この食材はどの指にあてはまるかな？ 】

報告書記入者（校長）

未来へつなぐ 土小の教育活動 ～地域とともに～

甲賀市	活動名：土山小学校地域学校協働本部	土山小学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：令和3年度 地域学校協働活動推進員等数：2人 ボランティア登録数：16人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） <input type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 ■学校周辺環境整備 ■学びによるまちづくり <input type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 []			

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校・園 ■学校運営協議会 ■地域学校協働活動推進員等 ■行政 その他（ ）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

3校(旧鮎河小、旧山内小、本校)の持つ教育的な環境・素材・人材を有効に活用し、ふるさと甲賀・土山の魅力を体感・体得できるようにする。

地に足のついた「土山学」の充実を図るための活動・支援・交流を進めていく。

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

- ① 6年生 いこうか！土山町 CYATA(きゃつた)・map
土山の自慢の場所は“どこ”ですか？ の作成
- ② 5年生 バケツ稲栽培
- ③ 3年生 お茶摘み体験、茶工場見学



【 茶摘み体験 】

■ 実施に当たっての工夫

- ① 6年生の児童がこれまでの「土山学」の学びの成果として、28か所のおすすめの場所を地図にした。町内の企業(フレンドマート土山店、道の駅あいの土山、土山サービスエリア)などから情報提供をいただき、これらの企業はもとより、町内の公共施設にmapを置いている。さらに、市公共交通推進課の協力を得て、グループで立案したコースを公共交通機関でめぐり、「土山学」の集大成としての地域学習を行った。
- ② 例年、田んぼのご事業で、地域の農家の協力を得て田植え、稲刈り体験を実施してきたが、それに加えて、5グループで2杯ずつバケツ稲の栽培、観察を行った。1杯は1本植え、もう1杯は5本植えとして、どちらが多く収穫できるのか、稲という植物はどのように成長し、モミをつけていくのか観察をした。
- ③ 地場産業である土山茶を学習するため、校内で栽培している茶園での茶摘み、茶農家での工場見学を行った。茶工場見学では、刈り取られた茶葉がいろいろな機械を通るたびに様子を変え、だんだん細く仕上がっていく流れを学んだ。

■ 事業の成果

- ① 地元土山にはどのような観光地、魅力があるのか再確認でき、郷土愛を育むことができた。また、時刻表を確認しながら公共バスを利用することは、これまでにないよい経験となった。
- ② 葉齢の教え方や、分けつの増え方を学んだ上で定期的な観察を行うことにより、1本が20本以上になり数千の穂をつけていく過程がわかった。また、1本植えでも5本植えでも収量には差がないことも知ることができた。
- ③ 茶摘みでは茶農家から「一芯二葉」で摘むことを学ぶと、子どもたちは「いっしんによ、いっしんによ」と言いながら楽しく摘み取っていた。また摘み取った葉を電子レンジで温め、手で揉みこんで、フライパンで煎り乾燥させ試飲することもできた。



【 公共バスでの地域学習 】

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

特別な準備を必要とせず、継続できる内容で実施していくことが大切である。しかし、田んぼのご事業では、農作業の提供は農家にとって大きな負担であり、いかにして地元の負担を軽減し協力を得やすい内容としていくか考えなければならない。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

学校運営協議会のたびに推進委員から活動報告をしていることに加え、運営協議会の委員には協働本部の委員を兼ねておられる方もあり、円滑な協働体制となっている。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校長 ■教頭 ■地域連携担当教職員 ■その他（全ての教職員）

報告書記入者（ 地域学校協働活動推進員 ）

つながれ 大原！ みんなで 笑顔に！

甲賀市	活動名：大原小学校地域学校協働本部	大原小学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：令和5年度 地域学校協働活動推進員等数：2人（兼務2人） ボランティア登録数：169人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 ■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり ■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） □地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 □郷土学習 □その他 []			

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園
 学校運営協議会
 地域学校協働活動推進員等
 行政
 その他（ ）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

どれだけの事業を実施するか
 実施するにあたって、誰がどのようにかかわっていくか
 目的や共通理解するべきことなど

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

- ・草引き活動（地域に依頼するのではなく、ボランティア募集で参加を募り、児童と一緒に活動できる機会を設けた）
- ・持久走コース練習の見守りを周辺の地域に広報し、一般の見守りを呼び掛け、沿道を見守っていただけた。
- ・学校のシンボルであるけやき保護のため、4年生の児童と地域代表で樹木医の説明を聞き、養生作業をした。毎年、4年生が作業を受け継ぐ。



【 児童と一緒に草引き 】

■ 実施に当たっての工夫

- ・ボランティアは、楽しいものであり、強制されるものではなく、自発的なものであると考え、あえて任意団体に依頼するようなことはしない。
- ・担任とのコミュニケーションを大切にする。

■ 事業の成果

- ・事業にかかわった方は、楽しかったと提供いただいているし、地域が少しでも元気になってもらいたいという思いで、声掛けをし、学校周辺の方は、草引きや持久走練習も気にかけてもらえるようになったと思う。
- ・活動に対し、11月現在で延べ390名を超える方々にかかわっていただけた。



【 児童と一緒にけやきの治療作業 】

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・1年目であり、なかなか先が見通せず急な案内をすることになったので、今年度の事績をもとに先を見据えた活動にしたい。
- ・準備、後片付けにどこまでかかわってよいかなど、細かな打合せができなかった。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

- ・学校運営協議会のメンバーが協働本部のメンバーにも入っているため、活動への理解や協力が速やかであった。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長
 教頭
 地域連携担当教職員
 その他（担任）

報告書記入者（地域学校協働活動推進員）

ふれ愛 おくり愛 心はじける さやまっ子!!

甲賀市	活動名： 佐山小学校地域学校協働本部	佐山小学校 学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：令和5年度 地域学校協働活動推進員等数：2人 ボランティア登録数：9人 <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 []		

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

今年度が立ち上げ1年目なので、まず、子どもたちの強みと弱みを出し合い、どんな子どもに育てたいか熟議した。本地域の子どもたちは、まじめで落ち着いているが、自分の良さを発揮することに恥ずかしさや遠慮が見られることがある。なので、人との温かなふれあいを糧として、主体的に自分の良さを発揮する子どもを育てよう方針を立てた。ビジョンは次の通りである。

「ふれ愛（横のつながり） おくり愛（大人から子どもへ世代を超えた縦のつながり）

心はじける（一人一人がもっている良さを主体的に発揮する） さやまっ子!!」

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

- ・わくわくフェスティバル…子どもたちが、もち米の田植えと稲刈りを地域の協力のもと行った。その後、収穫祭として、餅つき、わら細工づくりを、子ども、保護者、地域の方々で行った。
- ・学習サポート隊…放課後や昼休みに、子どもたちの学習支援を行った。放課後には、宿題や自主学習、読書に取り組む姿が見られた。昼休みには、「地あたまトレーニング」と題して、脳を鍛えるための線つなぎやパズル、早口言葉などを楽しみながら行っている。
- ・植木サポート隊…校庭の松などの樹木の選定をしてくださっている。
- ・野菜サポート隊…子どもたちの野菜作りを支援してくださっている。
- ・ミシンサポート隊…5・6年生の家庭科学習のミシンを支援してくださっている。
- ・水泳、持久走見守り隊…子どもの安全を見守りながら、励ましの言葉もいただいている。
- ・版画サポート隊…彫りの安全を見守ったり、刷りを支援したりしていただいている。



【餅つき】

■ 実施に当たっての工夫

- ・わくわくフェスティバルでは、餅つき協力者やわら細工協力者を募集し、地域の方とつながりが持てるように、その方々に名札をつけていただいた。また、日ごろの見守りのお礼を子どもたちが伝える場も設けた。
- ・できるだけ、子どもたちとふれあっていただけよう、地域COや担当教員が場や機会を整えた。お礼の手紙やプレゼントも喜んでいただいている。



【わら細工教室】

■ 事業の成果

- ・わくわくフェスティバルでは、子ども、保護者、地域の方々が一堂に集う場となり、子どもと地域、保護者同士、地域同士、いろいろなふれあいが生まれた。
- ・ボランティアの方々には、学校や子どもたちの様子を肌で感じていただき、学校や子どもたちのために、協力しようという思いが広がりつつある。子どもは、いろいろな方とふれあい、成長している。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

今年度は、発足したばかりで、ボランティア登録数が9人とまだ少ないが、しだいに口コミで増えてきている。様々な場面で地域と協働できることがわかってきたので、来年度は、より広くこの活動を伝え、充実させたい。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

まず、地域学校協働本部での今年度の成果を学校運営協議会と共有し、今後の取組の柱をともに熟議し、地域学校協働活動での実践につなげていきたい。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（ ）

報告書記入者（校長）

西地域と 図豊かにつながり 図美しい郷土と 図文化を育む

甲賀市	活動名 : 甲南中部小地域学校協働本部	甲南中部小学校	学校運営協議会 : <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度: 令和5年度 地域学校協働活動推進員等数: 1人 ボランティア登録数: 26人 <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援(授業補助、学力補充等) <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア(読書活動支援・図書室環境整備) <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input type="checkbox"/> 地域人材育成(地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育) <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 []			

■ 事業を考案する主体 (該当するすべてに■印)

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他 ()

■ 学校運営協議会で熟議された内容 (地域学校協働活動に関わる内容等)

- ・CS初年度のめざす子どもの姿として提案された「あいさつをする子」「話を聴く子」について子どもの現状から適切かどうか、その実現のために「学校運営協議会の果たす役割は何か」「学校運営協議会は協働本部とどのように関係していくか」について熟議した。
- ・ボランティアルームを設置するに当たり、その役割と運用方法、そして学校が必要とするボランティアの募り方等について年間を通して議論を重ねてきた。

■ 地域と学校が協働した活動 (特徴的な活動)

- ・FBC花壇コンクールに取り組みに当たり、地域の老人クラブと保護者・学校が連携し、地域の花壇の苗の移植から水やり、除草作業などを子どもたちと共に行っている。
- ・「田んぼの子」を推進するために地域の農事改良組合営農部の方々の協力を得て、田植えから稲刈りまでの作業を子どもの学びの視点から行っている。収穫後にはお世話になった方々を招き、家庭科の時間を使い子どもたちが調理したお米を食べていただく「感謝の集い」を実施した。



【 地区花壇の移植作業 】

■ 実施に当たっての工夫

- ・FBC地区花壇の取組については、老人クラブ代表と保護者地区担当が年2回打合せの会議をもち、作業がスムーズに行えるようにしている。
- ・田んぼの子も営農部の代表者との打合せを行い、学校の思いを伝えながら効果的な体験活動が行えるよう努めている。

■ 事業の成果

- ・本年度FBC花壇コンクールは、学校だけでなく地域での取組が評価され「国土交通大臣賞」を受賞した。
- ・協働本部ではビジョンの共有をまずめざしたが、各団体、各地域で「めざす子どもの姿」をある程度意識して子どもと関わっていただけるようになった。
- ・学校だけではなく地域においても「あいさつをする子ども」の姿が多く見られるようになった。
- ・協働本部で参画する各団体の取組の様子を交流することで、学校では把握できない各地域での子どもの姿を知ることができた。また、それぞれの活動の実状を理解することで今後の協働のあり方について模索するヒントになった。
- ・今年度行われた事業では「地域との協働」という視点から進め方や内容が見直された。



【 稲刈り作業 】

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・今後事業を充実していくためには学校を支援するボランティアの拡充が求められる。初年度は学校のニーズに応じたボランティアの人数確保は難しかったが、次年度以降自治振興会との関係やSNS等の利用も視野に入れながら募っていきたい。

■ その他 (学校運営協議会との協働等)

- ・昼休みに地域の方々と子どもが遊びを通してふれあう場を設定する場をなんとか設定したいと考えている。

■ 協働活動推進員 (コーディネーター) と協働する学校関係者 (該当するすべてに■印)

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他 ()

報告書記入者 (地域学校協働活動推進委員)

★「中主大好きプロジェクト」★ ～つながり中主・ぬくもり中主・はぐくみ中主～



野洲市	活動名：中主小学校地域学校協働本部	中主小学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：令和2年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：102人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 ■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり ■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） ■地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他 []			

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
 ■学校・園 ■学校運営協議会 ■地域学校協働活動推進員等 □行政 □その他（ ）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）
 (1) 学校運営上の課題…教職員の負担軽減
 (2) 学校と地域の課題…安全な登下校体制の確立、児童や家庭教育支援、学ぶ力向上

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）
 (1) 学習活動支援
 ・生活科や社会科、総合的な学習の時間の学習支援（中主のすてき発見、福祉学習や夢の種まき学習ゲスト、九九マスター支援等）
 ・環境学習支援（魚のゆりかご水田学習、ヨシの苗植、田植え稲刈り体験学習支援等）
 ・学習補充支援（算数のびっこタイム）
 ・読み語りボランティアによる本の読み聞かせ
 (2) 登下校や休み時間等の見守り支援 & 寄り添い活動
 ・家庭教育支援員による不登校傾向児童の登校支援や、授業中・休み時間等の見守り
 ・月1回チュウズデー（小中合同あいさつ運動）の実施、愛の声かけ運動
 (3) 学校行事支援（運動会支援等）
 (4) 環境整備支援
 ・定期的な校内の除草作業&樹木の伐採等
 ・PTA&地域&学校による夏の奉仕作業、年末PTAさんと一緒にトイレそうじ
 ・読書ボランティアによる読書環境づくり（掲示物、本の整頓や修繕支援等）
 (5) 地域行事への参加（中主子ども食堂、12月チュッピーフェア、おすそわけ会）



【中主のよさを新たに発見！
魚のゆりかご水田】



【夢の種まき授業】

■ 実施に当たっての工夫
 (1) 地域・保護者等の教育活動への協力依頼発信
 気軽に無理なく参加協力をめざし、地域学校協働活動推進員が、毎活動毎に「協力依頼文」を配付
 (2) 事前事後の「かんたん打合せ」の実施
 事前の“支援の趣旨&配慮事項の確認”、事後の“次回に生かす「振り返りタイム」”
 (3) 安心安全への配慮
 協力者の事故やけが等が発生した場合のボランティア保険

■ 事業の成果
 ・地域学校協働活動推進員のコーディネートにより、学校と地域を繋ぐ“より値打ちのある教育活動”を展開することができた。
 ・家庭教育支援員等地域の方の登下校見守り支援により、不登校傾向児童の登校意欲向上、家庭背景を背負った児童や家庭の癒やしと安定に繋がった。
 ・学校、家庭、地域や関係機関が一体となり、学校行事等を進めることができた。学校だけではできないことに快くご協力いただき、教職員の負担軽減に繋がった。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
 ・地域協働活動推進員と地域連携担当教職員が連携し、年間活動の見通しやボランティアメンバーの把握・整理をする。
 ・積極的な地域発信をし、地域学校協働活動への理解者と新規ボランティア加入を増やす。
 ・地域ぐるみで子育てをする雰囲気高めるとともに、地域の方々への感謝の気持ちをもち表現できる児童や郷土愛の育成を図り、「子どもも大人も中主大好き」と実感できる地域づくりをめざす。

■ その他（学校運営協議会との協働等）
 学校運営協議会を毎月定例化して実施。地域と学校でどのような子どもを育てていくのかを話し合い、目標とビジョンを共有し、そのためにできることを具体的に考え、子どもを育てる当事者としてPDCAを進める主体的組織となっている。今年度は、安全な登下校システムの確立や教職員の負担軽減に繋がる“自動音声代替電話対応”等大きなバックアップをいただいた。今後も「地域の宝」である子どもをまん中に据えた取組を検討していきたい。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
 ■校長 ■教頭 ■地域連携担当教職員 ■その他（学校運営協議会、PTA）

報告書記入者（教頭）

地域とともにある学校をめざして

野洲市	活動名： 篠原小学校地域学校協働本部	篠原小学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：令和元年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：作成中 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 <input type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 ■学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 []			

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

- ・地域は学校の働き方改革につながる取組として何ができるのか。
- ・地域学校協働活動の人材不足解消のためにどのような団体に協力を依頼できそうか。
- ・長年継続して行ってきた学習支援活動について、本来のねらいが果たされているのか記録を残し検証していく。
- ・隣接するこども園とともに9年間の取組を考えていく。

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

(1) おしゃべり会および研修会の開催

- 地域と学校、保護者の思いを互いを知るための場を設けた。
- 4月 全校縦割り遠足の下見・研修（教職員のための現地地域学習）
 - 7月 先生と地域とのおしゃべり会（地域が教職員の思いを知るため）
 - 10月 保護者と学校、地域のおしゃべりパーティー（保護者の思いを知るため）

(2) 地域と合同のわくわくコンサート

例年コミュニティーセンターで開催されている地域の祭りや学校の音楽会を同日開催し、校区の中学校吹奏楽部の演奏や地域の発表とともに音楽会を行った。

(3) 読書推進活動

週に1回朝の読み聞かせと、月に1回図書整理を実施。また、週に1回あるロング昼休みの時間を利用して「しのっこサロン」を開催。「トリックアート」をテーマにイラストや絵本の世界を紹介した。



【 おしゃべりパーティー 】

■ 実施に当たっての工夫

- ・熟議や研修を行う時には「無理なく」「楽しく」をモットーにしている。
- ・篠原らしさを大切に、継続可能な在り方を目指して進めている。

■ 事業の成果

- ・運営協議会（準備会）で協議したことを着実に実践につなげた。教職員全体での現地学習は、実体験によって地域の良さを学ぶことができた。歴史的な財産である夕日ヶ丘の整備を行い、学習等に活用できるよう準備が進められた。
- ・地域と合同で音楽会を開催するのは初めての試みだった。児童は中学生や地域の発表から様々な刺激を受け、地域の方から賛同の声や今後の参考になる意見を収集できた。



【 地域と合同のわくわくコンサート 】

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・保護者や地域住民へ広く周知し、学校ボランティアや地域ぐるみの子育てに関心を持ってもらう必要がある。
- ・熟議のため「おしゃべり会」という形を大切に、テーマ別・学年別など目的に応じて継続していく。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

- ・運営協議会の設置初年度だったが、コミュニティ・スクール準備委員からスムーズに移行することができた。今年度は、学校の現状や課題、家庭・保護者の困り事や関心事、地域が抱えている問題などを洗い出すことを目標にして取り組んだ。教職員と運営協議員（地域）、保護者とのおしゃべり会での声をもとに、次年度への課題整理ができた。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（ ）

報告書記入者（ 地域学校協働活動推進員・地域連携担当教職員 ）

祇王の子どもを地域ぐるみで育てる取り組み

野洲市	活動名 : 祇王小学校地域学校協働本部	祇王小学校 学校運営協議会 : <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度: 令和5年度 地域学校協働活動推進員等数: 1人 ボランティア登録数: 70人 <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援(授業補助、学力補充等) <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア(読書活動支援・図書室環境整備) <input type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input type="checkbox"/> 地域人材育成(地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育) <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 []		

■ 事業を考案する主体 (該当するすべてに■印)

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他 ()

■ 学校運営協議会で熟議された内容 (地域学校協働活動に関わる内容等)

- ・学校の課題を挙げ、それをもとに祇王小学校の職員の働き方改革を探るようにした。
- ・ボランティア派遣について、岐王まちづくり推進協議会とさらに連携して進めていく。
- ・PTA活動について、現状の把握と次年度以降の動向について確認した。

■ 地域と学校が協働した活動 (特徴的な活動)

- ①学校運営協議会 (6/21(水)、10/28(土)、3/1(金)予定)
- ②ボランティアの派遣
 - ・児童クラブ活動(グラウンドゴルフクラブ)の指導
 - ・5年生・6年生家庭科(手縫い、ミシン)の指導補助
 - ・5年生「ほほえみ祇王米」圃場提供、田植え、稲刈りの指導
 - ・スクール農園の草刈り・畑の耕し
 - ・図書室蔵書整備・お話会の開催(図書館司書の協力を得ながら)
- ③スクールガードによる登下校の見守り



【スクール農園の草刈り・耕し】

■ 実施に当たっての工夫

- ・ボランティアの派遣については、地域コーディネーターを窓口にして地域の人材に声をかけて指導補助・協働作業として来校してもらった。

■ 事業の成果

- ・学校運営協議会が始まり、地域と学校が連携して学校運営を行うことの意義が確認できた。
- ・地域で子どもを見守るという土壌ができていたので、ボランティア派遣やスクールガードがスムーズに行われた。



【お話会での手作り紙芝居】

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・学校運営協議会での熟議を経て、今までよりさらに地域の協力を得ながら教職員の働き方改革につながる学校運営を進めていくことが課題である。
- ・地域、PTA、学校が連携しやすい体制をつくっていくことが働き方改革につながる。

■ その他 (学校運営協議会との協働等)

- ・学校の困り感や要望を学運協に挙げ、それをもとに熟議を重ねることでよりよい学校運営ができるようにしていく。

■ 協働活動推進員 (コーディネーター) と協働する学校関係者 (該当するすべてに■印)

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他 ()

報告書記入者 (教頭)

「三上を誇りに思い、三上を愛する子に！ ～地域の人とともに～」

野洲市	活動名：三上小学校地域学校協働本部	三上小学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成25年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：個人登録9人 SG登録185人、同窓会役員7人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 ■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり ■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） ■地域行事への参加 □ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他 []			

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校・園 ■学校運営協議会 ■地域学校協働活動推進員等 □行政 ■その他（同窓会）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

- ・これまでの学校応援団や同窓会等における取組を、どのようにつなぎ、よりよい活動へと移行していくか。
- ・地域の行事や取組で、児童も参画しながら継承していけるものには何かがあるか。どのようにしていけばよいか。
- ・「できるときに、できる人が、子どもたちのために協力していく」ことを大事にしたい。

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

(1) 天保義民フィールドワーク～土川平兵衛さんに学ぶ～（6年生）

6年の総合的な学習の時間において、郷土の偉人である「土川平兵衛」ゆかりの地を巡り、天保義民の思いや生き方について地域ボランティアの方から学んだ。10月15日に行われた天保義民祭にも希望児童が参列し、地域への思いを深めることができた。



【 瓢箪の種抜き作業 】

(2) 瓢箪の栽培と作品制作（4年）

学校応援団ボランティア2名の協力により、瓢箪のための土作りや環境整備をしていただいた。その後、苗の植え付け時にも児童に指導していただき、一緒に植えるとともに、9月の収穫後には、瓢箪に穴を空け、水に浸ける作業もしてくださり、1ヶ月後、児童とともに種を抜く作業も協力いただいた。乾燥させた瓢箪に、児童が絵付けし、作品として、学校玄関に展示している。



【 家庭科ミシンボランティア 】

(3) 家庭科ミシンボランティア（5・6年）

5・6年生の家庭科でミシンを使った制作活動の際に、地域ボランティアの方に協力いただき、ミシンの調整や使い方のサポートをしていただいたおかげで、安心して学習を進めることができた。

(4) その他の活動

- ・三上山登山の見守り（3～6年） ・田植え・稲刈りなどの稲作体験（5年）
- ・ずいき祭りの紹介・たで寿司づくり体験（3年） ・左義長体験（全校）
- ・マラソン大会時のコース見守り（全校） ・図書館ボランティア（年間）
- ・愛校清掃活動（除草作業） など

■ 実施に当たっての工夫

- ・学校からの依頼支援については、活動ごとに、協力いただけるボランティアを調整・決定している。
- ・学校運営協議会や同窓会の方々の協力も得ながら、三上の子どもたちを、三上の地域でサポートする体制づくりを進めている。

■ 事業の成果

- ・様々な活動において、地域ボランティアや学校応援団ボランティア、同窓会の方々などの協力を得て、児童が郷土（三上）の自然や人々、文化などのよさや素晴らしさを学ぶことができた。
- ・地域の方からも、児童との関わりやつながりができることを喜んでいただいている。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・地域学校協働活動推進員を中心に、学校の取組への協力だけでなく、学校から地域行事への参画の仕方等についても検討を図る。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校長 ■教頭 □地域連携担当教職員 □その他（

）
報告書記入者（教頭）

やすっこの育ちを支える活動 ～目指そう、応援から協働へ～

野洲市	活動名： 野洲小学校地域学校協働本部	野洲小学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：令和5年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：55人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 ■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり □地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） □地域行事への参加 □ボランティア・体験活動 □郷土学習 □その他〔 〕			

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

- 学校・園
 学校運営協議会
 地域学校協働活動推進員等
 行政
 その他（学校応援団役員会）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

- ・【みんなが明日また来たいと思える学校に】という児童が考えた目標について議論。新入生、保護者、在校生、教職員にも活用できるSOSホームを中心とした地域マップづくりを実施することとした。
- ・野洲小学校の児童に育てたい力について。明るさ、素直さ、等本校の子どもの長所を確認するとともに、これからの時代を行く抜くために育てたい力について議論。“支援しすぎていないか”を考えていきたい。

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

- ・朝の読み聞かせ：朝学習の時間に各クラスへ赴き絵本の読み聞かせを実施
- ・図書美化活動：図書室の整備、図書の整理・修理・蔵書管理等を実施
委員会活動補助
- ・学校環境整備：落ち葉清掃、草刈り、給食エプロン修理
- ・授業応援（例）：5・6年生家庭科授業指導補助、4年生江州音頭指導支援
3年生昔のくらし学習支援、2年生栽培活動応援
2・3年生町探検支援、4年生防災学習支援
各学年校外学習応援、夏休み学習会スクールガード



【えほんにくぎづけ（朝の読み聞かせ）】

■ 実施に当たっての工夫

- ・学校からの依頼に応じてコーディネーターが支援ごとに参加サポーターを調整決定し、学校と打合せ等丁寧に行っている。
- ・取組内容について【応援団通信】を作成し配付するとともに、HPに掲載。
（兵庫県内小学校のCS会議にオンラインで参加し、紹介した）

■ 事業の成果

- ・児童にとって—地域の力が学校に入ることにより、より豊かな学習効果を得られた。
- ・教員にとって—支援が必要な児童への支援が充実し、安全に安心して教育活動を行えた。
- ・地域住民にとって—学校や地域の子どもたちが身近に感じられ、学校での教育活動に積極的にかかわることができた。



【江州音頭指導支援】

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・「できる時にできる範囲で」温かい支援をモットーに取り組む。
- ・やすっこのにつけたい力を明確にしなが、支援しすぎない支援について検討する。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

地域と学校でどのような子どもを育てていくのか、具体的な話し合いを進め、目標とビジョンを共有し、子どもを育てる当事者として主体的組織づくりを行っていく。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

- 校長
 教頭
 地域連携担当教職員
 その他（ ）

報告書記入者（校長）

コミュニティ・スクールの活動開始元年 可能性を探る

野洲市	活動名：北野小学校地域学校協働本部	北野小学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成23年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：103人 <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input checked="" type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input checked="" type="checkbox"/> その他 [学校応援団フェスタ、夏休みルーム、学校図書館の椅子再生体験]			

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

- ・学校運営協議会並びに地域学校協働活動等をいかに地域へ周知するか。
- ・委員が、コミュニティ・スクール、地域学校協働活動などに関して十分な理解を得るべきであること。
- ・地域（企業）との連携活動の可能性について。

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

◎ボランティアが依頼を受けて活動するもの

- ① 学習支援（家庭科、校区探検協力、生活科：サツマイモ栽培、調理実習 等）
- ② 読み聞かせ（全クラス1回/年、10分/回、昼休み後）
- ③ 環境整備（除草活動、学級園（畑）整備、植栽整備）
- ④ その他（給食エプロン修繕、活け花、賞状筆耕、講師手配）

◎地域学校協働活動として自発的に活動するもの

- ① 「図書館プロジェクト」（恒常的な学校図書館の環境整備活動）
- ② 「夏休みルーム」（夏休み期間中の児童の居場所づくり事業）
- ③ 「親子でチャレンジ！椅子再生体験」（学校図書館の環境整備に親子で参画） 【 応援団フェスタで講師を務める児童 】
- ④ 「見守り活動」（登校時）
- ⑤ 「学校応援団フェスタ」（地学協の各種活動の周知、児童参画）



■ 実施に当たっての工夫

◎授業支援に関して

- ・依頼に際し各授業のめあてを聞き取り、伝えることで、ボランティアの目的意識を醸成した。教員の思いをしっかりと聞くことが、ずれのない支援につながる。
- ・授業支援後はボランティアの意見等を集約し、逐次報告を担当教員に届けた。結果、継続支援が必要な授業において、回を重ねるごとに授業改善が図られた。 【 親子で椅子の張替えに挑戦する様子 】



◎自発的活動に関して

- ・「教育活動や児童に有益であること」を念頭に計画し、学校の理解と協力を得るプロセスを急がない。
- ・活動のめあてや振り返り等は、協力してもらったボランティアにも還元し、達成感を持ってもらえるようにしている。
- ・「学校応援団フェスタ」で児童の参画を促し10名が大人と共に活動した。

■ 事業の成果

- ・「めあて」をたずね続けることで、教員の「ボランティアに求めること」への理解が深まった。
- ・「めあて」を伝え続けることで、ボランティアの「子どもたちの学習に対する関心」が高まった。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・教職員は依頼する人、地域人は協力する人、という棲み分けが綺麗に整い過ぎている。課題に気づき「変えたい」と思うことで当事者意識が生まれるのだとすれば、教員と地域が互いを知る機会を設け、課題を共有する必要があると考える。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

- ・学校が目指す教育の姿やCSを導入すること、地域学校協働活動に関する実践等をパネルにし、地域の夏祭りで発信した。
- ・親子環境整備活動を地域（企業）と連携して実施した。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（ 依頼者となる各教員 ）

報告書記入者（ 地域学校協働活動推進員 ）

チュッピーの会 学校運営協議会とともに「地域とつながる中主っ子」

野洲市	活動名： 中主中学校地域学校協働本部	中主中学校 学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：令和元年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：20人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 ■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり ■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） ■地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 □郷土学習 ■その他 [あいさつ運動]		

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校・園 ■学校運営協議会 ■地域学校協働活動推進員等 ■行政 □その他（ ）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

・あいさつ運動 ・チュッピー弁当づくり ・チュッピーフェア ・昼休み見守り活動

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

(1) 学習支援

・放課後こつこつ教室への学習支援 ・総合的な学習「このまち大好きプロジェクト」の講師
 ・チュッピー弁当づくり ・特別支援学級生活単元学習の農業指導

(2) 読書活動

・昼休みの図書室の運営、見守り ・図書室の環境整備 ・幼稚園への読み聞かせ活動

(3) 子どもの見守り

・昼休みの見守り、生徒とのふれあい

(4) 環境整備

・夏季休業中の除草活動 ・校内の樹木の剪定
 ・「キラキラ中主タウン」自治会との連携行事 ・長期休業中の地域貢献活動

(5) 地域行事への参加

・中主学区チュッピーフェア ・共同募金活動



【 とどけよう チュッピー弁当 】

■ 実施に当たっての工夫

地域学校協働活動推進員の方と連携を大切にし、チュッピーの会（地域学校協働活動会議）を月1回計画した。

■ 事業の成果

・チュッピーコミュニティサークル（ボランティアサークル）を立ち上げ、地域の支えもあり生徒の自主的な活動として取り組むことができた。大人だけの意見だけではなく、生徒たちと推進員の方々と一緒に話し合う場をつくることができたことは大きかった。
 ・地域の方とのふれあいや、温かい声掛けにより、生徒たちの笑顔が増えた。
 ・将来地域を担う生徒の育成につながった。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

(1) 教職員の意識改革

地域学校協働活動は、生徒の教育効果のみならず、教員の負担軽減にもつながることもふまえ、教員が地域と積極的につながるよう意識を高める。

(2) 地域と自分との関係

生徒自ら地域の一員であるということを自覚し、自分の住む地域との関係性を見つめ直し、生徒の自発的な活動に発展させることを大切にする。

(3) 地域と学校・生徒との熟議

熟議には地域と学校だけではなく、生徒が参加できるようになることが大切である。生徒に付けたい力を考え、主体的に取り組めるよう進める。



【 チュッピーフェア 】

■ その他（学校運営協議会との協働等）

中主学区のマスコットキャラクター「チュッピー」にちなんで、「チュッピーの会（地域学校協働活動会議）」として、学校運営協議会委員6名の方を中心に、協働活動の進め方や具体的な取組について熟議している。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校 長 ■教 頭 □地域連携担当教職員 ■その他（ 教務主任・事務職員 ）

報告書記入者（ 教頭 ）

地域も学校も元気になる、地域と中学生が「近く」なる、地域も中学生を育む取組を！

野洲市	活動名：野洲中学校地域学校協働本部	野洲中学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：令和3年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：26人 <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input type="checkbox"/> 学校行事支援 <input type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input checked="" type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input checked="" type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input checked="" type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input checked="" type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input type="checkbox"/> 郷土学習 <input checked="" type="checkbox"/> その他 [人権学習]			

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

地域学校協働活動年間計画 体制づくり
 地域と学校でできること やってみたいこと 学校運営上の課題 意見書の提出
 今後の課題

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

中学生が地域社会の一員として活躍するきっかけとなるように、本校に図書館ボランティアとして来ていただいている方より絵本の読み聞かせのノウハウを教わり、校区のこども園に出向き、園児に読み聞かせを行った。

校区に近江富士と呼ばれる三上山があり、三上学区青少年育成会議の後援を受けて「新春三上山登山」を計画した。多くのサポーターとともに三上山を登り、下山後は、作っていただいた豚汁を食べた。



【 絵本の読み聞かせ 】

■ 実施に当たっての工夫

読み聞かせは、初めて体験する生徒もいるので、事前に読み聞かせ講座を実施して、園児が楽しんで絵本を聞いてもらえるような工夫やアドバイスを受けた。

三上山登山では、冬山での登山になることでもあり、青少年育成会議のメンバーや学区内にある駐在所の警察官もスタッフとして参加してもらい安全面の徹底を図った。

■ 事業の成果

読み聞かせでは、園児への対応が上手な生徒が多く、キャリア教育としても効果があり、今後の生徒自身のキャリア形成にも大きく役立つと考えられる。

三上山登山では、生徒の達成感だけでなく、中学生の言動から地域の方々の中学生への関わり方や新たな「中学生観」を持ってもらう良い機会となった。



【 新春 三上山登山 】

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

読み聞かせは、地域学校協働活動のコーディネーター主導で実施できたが、三上山登山は、年始の行事となっているため生徒の参加数や学校の負担感に課題がある。成果の大きい事業であるので継続していきたいが、そのためにはコーディネーターや地域との連携に工夫が必要である。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

野洲市は今年度よりコミュニティ・スクールと学校運営協議会がスタートし、地域とともにある学校づくりについて協議を重ねている。地域学校協働活動もコーディネーターが中心となって取組を進めているが、学区全体を巻き込んだ取組が今後の課題であると考えている。少しずつ活動範囲を広げ、地域とともにある学校づくりに向けて努力を重ねたい。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（各活動に関わる担当教員）

報告書記入者（教頭）

地域総がかりとなって、子どもを育み「魅力ある学校づくり」の実現に向けて

野洲市	活動名：野洲北中学校地域学校協働本部	野洲北中学校 学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：令和5年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：0人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） □学校行事支援 □子どもの安全確保、見守り ■部活動支援 ■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり □地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） ■地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他 []		

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園
 学校運営協議会
 地域学校協働活動推進員等
 行政
 その他（ ）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

- ・ 将来、部活動の地域移行の実現にむけて
- ・ 生徒が地域イベントへの積極的な参画にあたっての仕掛けづくりについて
- ・ 「魅力ある学校づくり」への具体的な方策について
- ・ 教職員のCSの意識向上と働き方改革について



【 コミセンギおう収穫祭 】

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

- ・ 校内の大規模な除草作業
- ・ 中学生ボランティアとして学区民運動会、自治会の夏祭りへの参画
- ・ 自治会主催の防災訓練や清掃活動への参加

■ 実施に当たっての工夫

- ・ 年度当初に自治会長会に出席し、CSの目的や今後の流れについて説明
- ・ 各地区の地区長（生徒）が各自治会長へあいさつ（顔つなぎ）

■ 事業の成果

- ・ CS元年の年。コロナ禍で地域行事が中止となっていたが、学校と地域が連携協働し、生徒は地域イベントに積極的に参画した。
- ・ 生徒は地域活動にも参加し成就感や達成感を味わい、地域住民からも笑顔が見られ、大変好評であった。



【 さつまいもの育成 】

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・ 自治会によってCSの認知が低いのが、興味のある自治会は過度な負担にならないようにスタートした。生徒が地域で活躍できる場が与えられた。
- ・ 一方、地域住民が学校に出向く機会を作る必要がある。まだまだ、教員はCS事業について認識不足が否めない。将来的には、教職員の働き方改革の起爆剤となり得るようにしたい。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長
 教頭
 地域連携担当教職員
 その他（ ）

報告書記入者（ 教頭 ）

地域も通学路もきれいにしよう！カラフルガードレール大作戦！

湖南省	活動名：石部小地域学校協働本部	石部小学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成21年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：150人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 ■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり □地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） □地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他 []			

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園
 学校運営協議会
 地域学校協働活動推進員等
 行政
 その他（ ）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

本校は、「思いやり」と「自ら正しく判断し行動できる力」を育成することを目標において、学校と地域と家庭が協働し、活動を展開している。学校運営協議会の校外活動支援委員会では、通学路における危険箇所を調査し、子どもたち自身が通学路の危険箇所を知り、災害時に適切な回避行動を取ることができるような活動を協議した。

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

- ・通学路危険箇所の共有
PTAからでた危険箇所を学校運営協議会と共有し、地域で対応できる箇所などは協議した。
- ・用水路危険のオリジナル看板の点検
設置した20箇所全て、看板が外れていないか点検した。
- ・通学路の一旦停止線に貼った「とまってシート」の点検
劣化した「とまってシート」を貼り直した。
- ・カラフルガードレール大作戦
子どもたちが通学路のさびたガードレールや柵を通るみんなが元気がでるような色に塗り替えた。
- ・スクールガード研修会
「地域で子どもを守る」をテーマとし、甲賀警察署（石部交番）の方を講師に迎え、研修会を開催した。



【カラフルガードレール大作戦！】

■ 実施に当たっての工夫

カラフルガードレール大作戦では、子どもたちがスムーズにペンキ塗りができるように、前週に地域ボランティアと協働してサビ取り作業を行った。色の配色や役割などは事前に打ち合わせを行った。点検し劣化した部分は区長が早急に対応していただき、柵の安全も確保できた。

■ 事業の成果

子どもたちと地域の方が一緒に活動することにより、コミュニケーションの輪が広がった。
スクールガード研修会では、石部交番の方に依頼したことにより、通学路の危険箇所を写真で説明していただき、PTA、地域と共有できた。意見交換では4グループに分かれ、子どもたちの安全についてたくさんの意見を集約することができた。



【スクールガード研修会】

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

スクールガード研修会の中で、地域と協働のできることの課題がいくつか出たことにより、今後の活動に取り込んでいきたい。そして、たくさんの地域ボランティアの協力が得られるように活動を発信していきたい。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長
 教頭
 地域連携担当教職員
 その他（ ）

報告書記入者（ 地域学校協働活動推進員 ）

間伐材を使って学校に必要なものを考えて作ろう！ 子どもたちの自主性の育成をめざして～

湖南省	活動名：石部南小学校地域学校協働本部	石部南小学校 学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成21年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：175人 <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input checked="" type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 []		

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（児童会）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

「子どもと地域がひびきあう」をキャッチフレーズとし、「ふるさと意識の醸成」「子どもたちの自主性の育成」の取組の一環として、4年生が「ふれあい夢の森」を中心に年間を通して、森林環境ボランティア「みどりのバトンタッチ」にお手伝いいただき、森林環境学習を行った。

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

- 6月2日 間伐事前授業
- 6月12日 間伐体験
- 11月6日 事前打合せ
- 11月20日 木工教室



【 間伐の様子 】

■ 実施に当たっての工夫

コミュニティ・スクールのめざす「子どもたちの自主性の育成」の一環として、本校の子どもたちが間伐した木材をどのように使うかを考え話し合った。

子どもたちはグループごとに、校内に必要なものを調べ話し合い、橋、案内看板、ベンチ、名札を提案した。制作するために必要な材料と設計図を作り、みどりのバトンタッチさんと一緒に考えた。

■ 事業の成果

- ・間伐から木工教室まで、年間を通して森林環境学習ができた。
- ・子どもたちは自主的に考えて行動し、校内に必要なものを話し合い、調べることができた。
- ・橋を制作するグループは、安全に渡る為に手すりを考案し、みどりのバトンタッチと一緒に考え制作することができた。
- ・各グループが協力して作業をし、遅れているグループのお手伝いをする姿が見られた。
- ・子どもたちが作りたかったものに、取り組むことができたことで、子どもの主体性を伸ばし、「自己肯定感」を向上させることができた。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

作業には危険な道具を使用したりするため、事前に学年の先生やボランティアとの打合せを入念に行う必要がある。

グループごとの制作中に、作業をする子どもに偏りがないように、どんな作業が必要かを考えて子どもに把握させる工夫が必要。



【 手すり付きの橋 】

■ その他

- ・森林環境学習ボランティア「みどりのバトンタッチ」会員数22名。
- ・平成24年度に緑化功労賞「しゃくなげ賞」を受賞。
- ・令和4年度に第72回全国植樹祭「ノースロップ賞」を受賞。
- ・1年生・記念植樹。2年生・野菜の学習。3年生・椎茸の栽培。
- ・4年生・木工教室。5年生・しめなわ作り。6年生・植樹。
- ・その他に裏山整備や学校農園整備等、年間活動回数20回。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（ ）

報告書記入者（ 地域学校協働活動推進員 ）

みくもっ子を支援育む地域の見守り隊～地域のあたたかいまなざしに守られて～

Table with 3 columns: 湖南市, 活動名: みくもっ子地域学校協働本部, 三雲小学校 学校運営協議会: ■有 □無. Below the table is a summary of activities and implementation details.

■ 事業を考案する主体 (該当するすべてに■印)

- 学校・園 ■学校運営協議会 ■地域学校協働活動推進員等 □行政 □その他()

- 学校運営協議会で熟議された内容 (地域学校協働活動に関わる内容等)
・「らくらく勉強会」(放課後宿題教室)を昨年度に引き続き継続している。

■ 地域と学校が協働した活動 (特徴的な活動)

- ・ 登下校の安全確保【各地区スクールガード】
【通学ボランティア】登下校の見守り、同行
・ 教育環境の整備【環境ボランティア】花壇植栽、草刈り、修繕等
【掃除ボランティア】掃除の仕方の指導、支援
【図書ボランティア】絵本の読み聞かせ、見守り
【昼休みの見守り】折り紙教室の開催
・ 学習、行事の支援【家庭科:ミシン】ミシンの使い方の支援
【家庭科:調理実習】実習の見守り
【体育科:持久走記録会】危険箇所の立ち番、誘導
【クラブ活動】4つのクラブ活動において地域の方に講師依頼 クラブ活動の手伝い
【生活科:町探検】2年生活科「町探検」の引率見守り
【引き渡し訓練】保護者が来られない児童の下校の同行
【交通安全教室】自転車を使った実地訓練の見守り



【 掃除ボランティア 】

■ 実施に当たっての工夫

- ・ 独自の事業 (折り紙教室等)は、学校と協議の上、開催を決定した。
・ 環境ボランティアの草刈り作業を早朝より開始するとともに、従来よりも作業時間を短くして、熱中症のリスクを軽減した。
・ 折り紙教室の開催時に参加人数が多く、密を避けるために学年毎に開催した。



【 折り紙教室 】

■ 事業の成果

- ・ 上記のようなボランティア活動が、長期にわたり継続していることから、児童や教職員に浸透している。また、小学校で関わりを持ったボランティアが、引き続き中学校でも活動しているので、児童に寄り添う9か年の見守りができている。
・ ボランティア活動が児童にも浸透しており、花植えのときには、多くの児童が自主的に参加する姿が見られた。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・ 地域と学校が双方向に働く活動となるように、ボランティア代表者会や懇親会等の機会を持ち両者の願いを共有している。
・ 熱心な活動が児童の育ちに対して過干渉とならないように、助言を促すこともある。
・ 活動の発信に際して個人情報を守ることや、SNS等への投稿を控えてもらうことを、呼びかけている。
・ 紙面によるメンバー募集に頼らず、地域の中で活動の趣旨に賛同して下さる人材をネットワークから探している。
・ 地域ボランティアの活動内容を親子で知ってもらえるようなお知らせをしていきたい。

■ その他 (学校運営協議会との協働等)

- ・ 地域コーディネーターが、学校運営協議会委員として参画している。

■ 協働活動推進員 (コーディネーター) と協働する学校関係者 (該当するすべてに■印)

- 校長 ■教頭 □地域連携担当教職員 □その他()

報告書記入者 (地域学校協働活動推進員)

広がるボランティアの輪

湖南省	活動名：三雲東小学校地域学校協働本部	三雲東小学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成23年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：110人 <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input checked="" type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 []			

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

- ・ 甲西中学校区小・中9年間を通して関わる（見守る）地域を目指す。
- ・ 小・中9年間を通して自分で考える力のある子へ育てる。
- ・ 主体性を育む教育について正しい認識を保護者に啓蒙していく。
- ・ 子どもの居場所づくり、学力補充。



【 計測のお手伝い 】

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

体力テストボランティア

■ 実施に当たっての工夫

- ・ 担当教員と詳細な打合せを行い、役割分担を計画した。
- ・ 保護者ボランティアの人数が多いスクールガードを中心に声をかけ、参加希望者からのネットワークも使ってボランティア募集をお願いした。
- ・ ボランティアに参加可能な時間を把握し、担当場所、種目、補助内容の分かる一覧表を作成し、教員、ボランティアが共通理解できるようにした。
- ・ ボランティア用の名札を準備した。



【 スムーズな計測ができました 】

■ 事業の成果

学校側からの要望があり、今年度初めて取り組んだ支援である。ボランティアの皆さんには計測補助や記録表への記入のほか、参加人数の多い時間帯にはたてわり班の引率と児童管理をお願いした。各種目にボランティアが1～2名入ることで計測にかかる時間が短縮され、児童の移動もスムーズにできた。

日頃から協力的なボランティア参加者は、児童にも顔なじみが多く、その子にあった配慮のあるサポートをしてくださった。また、教員の負担も軽減し、時間に余裕ももてる活動になったと喜んでもらった。ボランティア参加者からは、子どもたちと一緒に活動ができて楽しかった、自分が少しでも役に立ててよかったと感想をいただいた。次年度も取り組んでいきたい活動となった。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・ ボランティア自身のネットワークも活用しながら、地域の方だけに頼らず保護者も積極的に参加できる取組を学校と今後一緒に考えていきたい。
- ・ 地域コーディネーターが一人のため後継者を見つけていくことが課題である。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

ボランティア活動を「三雲東小学校ボランティア通信」として発行し、周知した。（ホームページにも掲載）

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（ ）

報告書記入者（ 地域学校協働活動推進員 ）

子どもをお客さんにしない ～どの子ども輝ける場を保障する～

湖南省	活動名： 岩根小学校地域学校協働本部 (根っこ応援団)	岩根小学校 学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成20年度 地域学校協働活動推進員等数：2人 ボランティア登録数：220人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 ■学校周辺環境整備 ■学びによるまちづくり ■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） ■地域行事への参加 □ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他 []		

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校
 学校運営協議会
 地域学校協働活動推進員等
 行政
 その他（まちづくり協議会）

■ 学校運営協議会で熟議された内容

コロナ禍で制約された活動が続いたが、アフターコロナの今、もう一度原点に戻り、子どもの健全な成長のために地域全体で何ができるかを熟議した。メンバーとして、コミュニティ・スクール理事・まちづくり協議会・民生委員児童委員・PTA本部役員・教職員・各ボランティアグループの代表が集まり、今までの取組の成果や子どもの変容と課題について話し合った。

また、それぞれの立場で今後どのような取組をしていくのかを確認した。「子どもをお客さんにしない」を合い言葉に、主体的に行動できる子どもをみんなで育てていくことを共通理解できた。

■ 地域と学校が協働した活動（めざせ！防災士いわねっこ）

「災害時に地域を守る一員として活動できる防災士になりたい」という子どもたちの願いから、防災ワークショップを実施した。企画は全て児童が行い、ワークショップには、地域の方も巻き込んでいった。当日は、岩根まちづくり協議会や湖南省危機管理・防災課、湖南省中央消防署、地域の防災士にも協力を求め、消火訓練・配給活動・段ボールベッドづくり・防災カルタなど、発達段階に合わせた内容を実施した。

司会進行は子どもたちが行い、専門的な知識は地域の各団体の方が説明するなど互いに連携し実施することでスムーズに活動することができた。



【 配給活動 】

■ 実施に当たっての工夫

子どもたちの思いや活動の趣旨が、学校運営協議会やまちづくり協議会の方に正確に伝わるよう、学校運営協議会や地域学校協働活動推進員がサポートした。あくまで、子どもが主体的に行動することを意識してサポートすることとした。

■ 事業の成果

子どもたちの思いを受けて、地域の様々な立場の方が集まりワークショップのサポートをしていただいたことは、子どもにとって大きな喜びであり達成感があったようだ。

また、地域の担い手として、自分たちも行動できるという自信にもなり、自尊感情の向上にもつながった。6年生が中心の取組だが、全ての子どもがどこかの場面で活躍でき、生き生きとした表情を見せていた。

本校では、今まで災害による危機が二度あり、その度、地域が支えてくださっている。その地域性を引き継ぐ意味でも、有意義な実践となった。



【 段ボールベッドづくり 】

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

学校と地域がつながる活動は実施できているが、関わってくださる方の高齢化が課題である。子育て世代や壮年層の方とのつながりは弱い。若い世代の方のように主旨を理解していただき、働きながらもかかわりができる工夫が必要と感じている。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

学校ホームページ：[コミュニティ・スクールの活動をご覧ください。](#)



■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長
 教頭
 地域連携担当教職員
 その他（ ）

報告書記入者（校長）

子どもたちの出来る力を支える地域と「善っこを育てる会」

湖南省	活動名：菩提寺小学校地域学校協働本部 (善っこを育てる会)	菩提寺小学校 学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成22年度 地域学校協働活動推進員等数：3人(兼務2人) ボランティア登録数：200人 <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援(授業補助、学力補充等) <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア(読書活動支援・図書室環境整備) <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input type="checkbox"/> 地域人材育成(地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育) <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 []		

■ 事業を考案する主体 (該当するすべてに■印)

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他 ()

■ 学校運営協議会で熟議された内容 (地域学校協働活動に関わる内容等)

- ・子どもとの関わり方
- ・学校行事の関わり方
- ・学校の様子を熟知できるように意見交換



【 全校遠足 危険箇所の見守り 】

■ 地域と学校が協働した活動 (特徴的な活動)

- ・全児童 390 名余りが、学校から希望が丘文化公園まで行列を作って歩く全校きらめき遠足。行き帰り、現地での安全面など、子どもたちを一日見守ってくださるボランティア、道中の危険箇所での見守りのボランティアに地域・保護者の多くの人たちに参加していただいた。
- ・畑作業 地域の畑の先生のもと、各学年が種まきから収穫までを学習することができた。

■ 実施に当たっての工夫

- ・各事業に対して必要な支援を、担当職員・担任とコーディネーターとの早めの情報交換をするようになった。
- ・ボランティア募集の際、紙媒体だけではなくメールでの配信も随時行い、参加するしないに関わらず活動を多くの人に知ってもらえるようにした。

■ 事業の成果

- ・先生方との情報交換をすることで、スムーズにボランティアの募集をすることができた。
- ・急にボランティアが必要になった時でも、メール配信で対応することができた。
- ・学校に支援いただいていることを知ってもらうため、月に一度発行する「善っこを育てる会」広報にボランティアさんたちの活動を載せ、ホームページにも掲載している。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・関わりがないと知らないことが多いので、年に一度、ボランティアの皆さんと職員との交流報告会を実施し、お互いを知り情報を交換する場作りをしている。



【 昨年度の交流報告会の様子 】

■ 協働活動推進員 (コーディネーター) と協働する学校関係者 (該当するすべてに■印)

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他 ()

報告書記入者 (地域学校協働活動推進員)

コロナ禍を経て4年ぶりに開催できた 「第12回 あすなろカーニバル」

湖南省	活動名： 菩提寺北小学校地域学校協働本部 (あすなろ応援団活動)	菩提寺北学校 学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成21年度年度 地域学校協働活動推進員等数：2人 ボランティア登録数：80人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り ■部活動支援 ■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり □地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） ■地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 ■その他 [あすなろカーニバル・CS主催の運動会]		

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園
 学校運営協議会
 地域学校協働活動推進員等
 行政
 その他（あすなろボランティア）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

2023年5月よりコロナが2類から5類に下げられコロナ禍前のような活動が出来るようになり、ぜひ学校・地域・保護者（PTA）が連携して子どもたちの「ふるさとづくり」として11回も毎年開催してきた「あすなろカーニバル」を復活させようと熟議が重ねられた。開催意義・趣旨を再度共通理解したうえで安全に開催するために企画・体制・ボランティア依頼など細部に至るまで話し合いを行った。

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

- ・あすなろカーニバル 10月21日 第12回開催
- ・CS主催運動会 5月27日 CS理事たちによる運動会（全学年綱引き大会開催）
- ・図書ボランティア 図書室の季節の飾り・朝の読み聞かせ・お話し
- ・ちくちくボランティア 家庭科学習補助・カーテン補修
- ・見守りボランティア まち探検や郊外学習の引率・見守り
- ・クラブボランティア クラブ活動指導補助
- ・花と緑のボランティア 学校の花や畑のお世話・子どもたちへの指導補助



【あすなろカーニバルの様子】

■ 実施に当たっての工夫

「あすなろカーニバル」では、たくさんのボランティアさんを動員するので、安全に当日スムーズに動けるように各理事が各ブースの責任者となり動いた。餅つきや飲食物も配布するので衛生面に特に注意を払い、冷凍クレープを自然解凍するものにして直接手を触れないようにした。

「運動会の綱引き大会」は全学年を色別チームに分けて、総当たりにして全学年が参加し、応援も楽しめるようにした。最後は先生や大人との対戦も行い大盛り上がりでした。

■ 事業の成果

コロナ禍で薄れてきていた、人と人とのつながりを少しずつ取り戻せたように思う。まだまだ、以前のようにすべて戻せたわけではないが、長年かけて培ってきた学校と地域のつながりをまたしっかり手を携えて地域の子どものために進んでいける分岐点の年になったと思う。



【綱引き大会の様子】

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

来年度は菩提寺北小学校創立30周年を迎え、令和6年11月に周年事業を開催する予定なのでさらに学校・地域・保護者（PTA）との連携が今年度以上に必要かつ重要になってくると思う。すでに、周年事業のための実行委員会も立ち上がっている。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

学校運営協議会理事は学校行事において来賓ではなく学校職員と一緒に運営に関わっている

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長
 教頭
 地域連携担当教職員
 その他（教務関係職員）

報告書記入者（地域学校協働活動推進員）

『本や文章に親しみをもちつために』 ～ 図書関連ボランティアの活動 ～

湖南省	活動名 : 下田小学校地域学校協働本部	下田小学校 学校運営協議会 : <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成 23 年度 地域学校協働活動推進員等数：3人（兼務2人） ボランティア登録数：100人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 ■学校周辺環境整備 ■学びによるまちづくり □地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） ■地域行事への参加 □ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他 []		

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

下田小学校学校運営協議会では、4つの委員会で協議した内容や、学校現場での問題点について熟議を重ねている。
 地域学校協働活動については、ボランティア人材の確保や、ボランティアが児童や教員と関わる場合に必要な情報や活動の目的の共有すべき内容や共有方法等について話し合っている。学校運営協議会理事も地域学校協働活動に積極的にかかわることで、課題の共有ができています。

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

下田小学校では、児童の図書室利用が盛んにおこなわれており、その一端を図書関係ボランティアの活動が担っている。
 ・1年生読み聞かせボランティア（毎週金曜日5時間目）：教室での絵本読み聞かせと図書室での本の返却、貸し出しの補助
 ・朝の読み聞かせボランティア（2年～6年 年間3回 木曜日朝学習の時間）：教室での読み聞かせ
 ・暗唱ボランティア（1年～6年 月1回程度）：「ことばの宝箱」という冊子の暗唱・音読の聞き取り

■ 実施に当たっての工夫

・1年生読み聞かせでは、教室での読み聞かせ時に書画カメラと電子黒板を利用して、教室の後ろまで見やすくなるように工夫している。図書室では児童が借りたい本を探すサポートをしている。
 ・朝の読み聞かせは、ボランティア1人で15分間読み聞かせをしている。担当学年はボランティアの読みたい本や都合の良い日程等を基準に相談して決めている。
 ・暗唱ボランティアは、少人数の児童を1人のボランティアが担当し、児童が揃った時に毎回注意点を確認するなど、児童が集中して取り組める環境を作っている。毎回、活動終了後に振り返りを実施し、次回に向けての改善点や気になることをボランティアで共有し、担当教員とも情報共有をしている。



【1年生読み聞かせ】

■ 事業の成果

・1年生の読み聞かせと朝の読み聞かせが継続して実施されていることで、児童に本を読む習慣が身につく、学年が上がっても図書室や公共図書館の利用が継続されている。ボランティア自身も読み聞かせに参加することで、新しい本との出会いがあり、自身の読書習慣にもつながっている。
 ・暗唱ボランティアに頑張ってもらえることが、児童の安心感や自信につながっている。暗唱や音読がうまく言えなかったときも、ボランティアが頑張っていた点をほめてくれることで、もう一度挑戦するための原動力となっている。
 ・図書関係ボランティアでも地域の方とふれあう機会が生まれ、学校や家庭以外の地域でも児童を見守る環境が広がるきっかけとなっている。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

・どの活動でもいえることだが、活動に参加して下さるボランティアが固定化、減少している。特に読み聞かせは、子どもの前で本を読むという活動の特徴上、ハードルが高く感じられなかなか新しい手が見つからない。
 ・暗唱だけに限られたものではないが、やる気がある児童とそうでない児童との差が大きい。やる気が出ない児童にどのように声を掛けるのかがいいかということボランティア間で考えながら活動をしていかなければならない。
 ・1年生読み聞かせと朝の読み聞かせは、ボランティアリーダーが中心となって活動を進めている。その他の活動についても、ボランティア自身が主体的に活動できるような環境を整えていきたいと考えている。児童が主体的に活動に参加するためにも、まずはボランティアが主体的に動くことが大事になってきている。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

令和6年3月15日、下田小学校は創立150周年となり、記念式典の企画、運営を学校運営協議会が担っている。150周年記念式典では、運営スタッフとしてボランティアに参加していただく予定となっている。式典をはじめ、様々な場（SNSも含む）で学校運営協議会の活動と、地域学校協働活動についての広報活動を進めている。
 地域の方々に、学校運営協議会や地域学校協働活動について知ってもらう良い機会をとらえて、発信を続けている。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（理事、民生委員、下田まちづくり協議会）

報告書記入者（地域学校協働活動推進員）

湖南省	活動名：水戸小地域学校協働本部	水戸小学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成22年度 地域学校協働活動推進員等数：2人 ボランティア登録数：70人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り ■部活動支援 ■学校周辺環境整備 ■学びによるまちづくり ■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） ■地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他 []			

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校・園 ■学校運営協議会 ■地域学校協働活動推進員等 □行政 □その他（ ）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

- ・水戸っ子応援団の活動
- ・学校づくり委員会とふるさとづくり委員会の活動
- ・保護者や地域への周知方法
- ・地域人材の発掘や資源の活用方法



【 お昼休みお話し会 】

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

1年、交通安全教室 2年、まちたんけん 3年、水戸のヒーローにインタビュー
 4年、さつまいもづくり 5年、田んぼの子学習と環境学習
 6年、敬老会でランチオンマット作成
 その他、読み聞かせボランティアによるお昼休みのお話し会、外国籍児童交流会
 ボランティア&教職員の交流会、運動会やまちづくりフェスタでの活動掲示、ボランティアカフェ

■ 実施に当たっての工夫

- ①先生とボランティアで授業の目的や子どもの対応を共有すること、
- ②活動をとらえて子どもも大人も成長できる取組とすること
- ③地域で子どもが活躍できる場の調整

■ 事業の成果

4年ぶりにボランティア&教職員の交流会やボランティアカフェを開催でき、地域の方から「元気で素直」「明るくてフレンドリー」という水戸っ子のよさを教えていただいた。地域の中でどんなことができるか、どんなことをしたいかを話し合い、CSについてもこれまでの学校から言われたお手伝いをするボランティアではなく、共に子どもを育てるチームとして地域やボランティアの存在が必要だと意識できる会だった。子どもたちは学年ごとに地域と関わる学びがあり、学年があがるにつれ地域の一員として自覚。また地域の方や保護者と共に活動していると意欲的に学ぼうとする姿が見られた。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

長年経験しているボランティアは水戸小の目指す「自ら学び自ら育つ」子どもの姿を知り、関わってくださるので子どもたちものびのび活動できている。
 コロナで縮小した活動を楽しみにしていた地域の方も多いので今後どう取り組んでいくのか地域や保護者と話す場を定期的につくっていくことや、今年度同様工夫しながらすすめていこうと思う。



【 教職員&ボランティア交流会 】

■ その他（学校運営協議会との協働等）

理事会では学期ごとに子どもたちとボランティアの活動をふりかえっている。
 学校で行っているアンケートの結果について子どもと保護者の状況を把握して活動に活かせるよう努めている。CSでは運動会や行事でスタッフとしての活動や地域にPRする方法を熟議している。

■協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校長 ■教頭 ■地域連携担当教職員 □その他（ ）

学校に地域の力を、地域に生徒の活力を！

湖南省市	活動名：石部中学校地域学校協働本部	石部中学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成26年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：94人 <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input type="checkbox"/> 学校行事支援 <input type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input checked="" type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input type="checkbox"/> 郷土学習 <input checked="" type="checkbox"/> その他【入学試験面接指導等】			

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

- ・令和6年度創立50周年に向けて実行委員会を立ち上げ、実行委員会と連携した取り組み。
- ・コロナ禍あけの学校行事や学校運営、学校や地域での生徒の様子について情報交換と共有。

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

- ・1年生、3年生国語科書写の授業において、作品出展のための授業に地域の方に来ていただき、支援いただいた。

■ 実施に当たっての工夫

- ・日ごろ地域で、子どもから大人の方までに書道を教えておられる方々に支援を依頼した。事前にコーディネーターがボランティアの方たちの日程調整を行い、担当教師との打ち合わせ会を設けた。漢字とひらがなのバランスや名前を書く場所等配置を教えていただいたり、お手本を書いていただいたりして、丁寧にわかりやすく教えていただいた。



【 書写支援 】

■ 事業の成果

- ・教えていただいたことを意識すると、とてもきれいに書けて嬉しかったです。
- ・例えを用いて、字の表現の仕方を教えてくださったおかげで、バランス良くきれいに上げることができました。（生徒感想）
- ・アドバイスをいただいて上達を喜ぶ生徒や、示してくださったお手本に感嘆の声をあげる生徒を見ていて、嬉しい気持ちでいっぱいになりました。生徒たちが例年以上に懸命に取り組むことができました。（国語科担当者感想）
- ・来ていただいたボランティアのみなさんも、生徒たちの一生懸命な取り組みを見て大変楽しかったと喜んでいただいた。



【 書写支援 】

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・今回は、作品を仕上げるためだけの授業になってしまったので、今後可能なら時間数を増やし、基本的なことから教えていただけると良いと感じる。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

<https://ishibe-jh.konan.andteacher.jp/>

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（ ）

報告書記入者（ 地域学校協働活動推進員 ）

Chance (チャンス)・Challenge (チャレンジ)・Change (チェンジ) ～地域とともに進める生徒の自主的な活動の場づくり～

湖南省	活動名：甲西中地域学校協働本部	甲西中学校 学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成 28 年度 地域学校協働活動推進員等数：3 人（兼務 3 人） ボランティア登録数：40 人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 <input type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり ■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） ■地域行事への参加 <input type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 []		

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

- 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）
 - ・ 地域学校協働活動の内容を地域の方々にもっと知ってもらうためのPRの方法 → 学校評価の項目に入れる。また、PR用広報紙を発行する。
 - ・ 授業参観、行事参観をし、小中学生の活動を知り、できることを考える。
 - ・ 地域の行事で小中学生が活躍できる場を作り、自分たちで主体的に動かす経験をさせることを計画。



【ふるさと再発見 取材中】

- 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）
 - ・ 図書室整備 …… 図書室の環境整備と本の帯コンテストの制作補助
 - ・ 書写の授業支援 …… お手本準備や個別指導。全学年対象で書写講師3名
 - ・ ミシンの授業支援 …… 1月から1年生の家庭科支援。5名で活動
 - ・ スモールティーチャー …… 小学生の夏休みの勉強会を中学生が支援する活動（異年齢交流）
 - ・ 読み語り …… 朝読書の10分間で読み語りを行う。1、2年生が対象6名で活動
 - ・ 文化体験講座 …… 地域の方々を講師として招いて14の講座を1年生の親子活動として実施
 - ・ ふるさと再発見 …… ふるさと湖南省の魅力を再発見するフィールドワーク。地域の方に協力してもらい行った。
 - ・ キャリア教育の講演 …… キャリア教育の一環として、「働くこととは」「学習の仕方」などの講演。1学期に1、3年生、2、3学期に2年生対象に行った。
 - ・ ボランティアまつり …… 社会福祉協議会のイベントに生徒が模擬店の企画と出店し即完売（チュロス・ドリンク）
 - ・ ふれあい給食 …… ボランティアセンターからの依頼で一人暮らし高齢者に配布するお弁当掛け紙を生徒がデザイン
 - ・ クリスマスパティー …… 中学生が主体となって進める地域のイベントを…というこで、CSやまち協が関わり、小学生や未就学児を招待し、パーティーを開催。

■ 実施に当たっての工夫

- ・ 授業がスムーズに進むよう担当教師やボランティア講師と随時連絡を取り合った（ミシンの点検・書写の準備、後片付け等も行った）
- ・ ボランティアスタッフには当日の予定（クラス、場所など）分かるよう玄関に案内板を設置した

■ 事業の成果

- ・ ボランティアまつりでは生徒が自主的に企画段階から参加して当日は楽しく地域の方とも交流できた。
- ・ 読み語りと家庭科の授業支援は小中連携することで9年間にわたる支援となっている。
- ・ 夏の「お化け大会」が地域に根づく行事となっていることから、中学生が主体となって考える「クリスマスパーティー」をすることに。自主的に実行委員として参加し、企画、運営をする頼もしい姿が見られた。



【大盛況のクリスマスパーティー】

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・ 学校運営協議会との協働により実施した「クリスマスパーティー」は盛況で、本人たちも満足していたが、「自分たちが進めていく」意識がまだまだ薄い。学校行事については、「生徒に任せて自主的な活動にする」ことが増えてきたが、総合的な学習の時間などにおいては、大人がお膳立てをして行っている活動がほとんどである。今後は、自分たちが問題意識を持ち、探求していく、自分たちが地域に関わる・変えていく、それを楽しむという活動を目指していきたい。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（教科担当、該当学年教員）

報告書記入者（地域学校協働活動推進員、教頭）

つくろう！ 育もう！ 子ども・学校・ふるさと の未来

湖南省市	活動名： 甲西北中学校地域学校協働本部	甲西北中学校 学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成31年度 地域学校協働活動推進員等数：4人（兼務4人） ボランティア登録数：10人 <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input checked="" type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input checked="" type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 []		

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

- ・授業や行事への地域の方の協力の方策（学校はどのようなことを協力してほしいと思っているのか聞かせてほしい）
- ・来年度の「防災フェスタ」開催のあり方について
- ・不登校生徒への支援について

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

- ・朝の読書の時間に「本読み隊」として生徒に本の読み聞かせを行った。
- ・校区内の2つの地域まちづくり協議会や社会福祉協議会等の呼びかけに応じ、地域行事に参加。吹奏楽部が演奏したり、遊びのブースや食べ物の販売ブースを担当したりした。家庭部が手作りワッフルを販売しすぐに完売するほどの人気だった。
- ・5月には市で開催されたトレイルランに応援隊で参加。
- ・8月には昨年度より開催している「防災フェスタ」を開催。防災についてボランティア部の生徒が学んだことを展示したり、模型で見せたりした。市の危機管理・防災課や防災士連絡会、また地元自治区や防災アドバイザーの方々と協働した。
- ・2年生の職場体験先の事業所の新規開拓をした。
- ・湖南省市少年センターの啓発物品のティッシュに入れるイラストを生徒が描いた。
- ・1年生のフィールドワークに市内の事業所や地域の方の協力を仰ぎ、24コース作ることができた。



【 みたらしだんごのブース 】

■ 実施に当たっての工夫

- ・コロナ禍が明けて活動が再開されてきているが、学校の負担が増えないような活動を心がけている。
- ・活動を進める上で、その都度、生徒の意見や思いを尊重し、ひとりひとりの持ち味が生かせるような配慮と、次につながっていく活動となるよう心がけている。

■ 事業の成果

- ・ボランティア部の生徒を中心に地域行事への参加が増えたことで、今では地域の方が楽しみにして下さるまでに変わり依頼も増えている。ボランティア部員だけでなく全校生徒に呼びかけることで、地域行事に参加する生徒が増えた。
- ・生徒主体の「防災フェスタ」を行うことで、関わった生徒たちの防災に対する意識が深まった。



【 防災フェスタ かまどベンチ 】

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・学校から地域への活動は、地域にも浸透し生徒の活躍の場は増えつつあり、学校が一步踏み出し、それを地域の大人が後押しするというように、学校と地域の連携が進んでいる。しかし、まだ生徒も教員も一部の人材に頼っているの、さらに広げ、活動を持続可能にするための組織づくり、仕組みづくりを進めていきたい。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

- ・地域コーディネーターが学校運営協議会のメンバーとなり、報告・熟議をすることで、さらに活動が認知され広がっていている。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（ ）

報告書記入者（ 地域学校協働活動推進員 ）

学校を核とした地域づくりを目指して ～このまちが好き！と皆が言えるように～

高島市	活動名：高島学園地域学校協働本部	高島小学校・高島中学校 学校運営協議会：■有 □無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成 29 年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：70人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 ■学校周辺環境整備 ■学びによるまちづくり ■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） ■地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 ■その他〔福祉活動、まちづくり活動等〕		

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校・園 ■学校運営協議会 ■地域学校協働活動推進員等 ■行政 ■その他（公民館、各種団体等）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

（1）学園全体の取り組みについて

小・中学校の各学校運営協議会が学園一つになることで、小中一貫校を生かした広がり・繋がりある活動について熟議出来た。

（2）ボランティアの拠点づくり

以前より小学校に設置されていた「修身堂ボランティア」ルームが、中学校にも今年度より正式に設置することが出来た。名前を小学校は「修身堂ひびきあいルーム」中学校は「修身堂つながりルーム」とした。

（3）学校・地域連携カリキュラムの作成に向けた意見交換

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

（1）読書の充実に向けて

小学校では図書ボランティアの活動が定着しており、各教室での朝の本の読み聞かせ、昼休みには専用の「おはなしルーム」で本の読み聞かせ、また年3回、図書委員の子らとのイベント開催など、とても盛んとなった。

また、中学校での朝読書にはほんの10分ほどの活動にも関わらず、多くの地域の皆さんに参加してもらうことが出来た。中学生徒会より、手作りのブックカバーが参加者にプレゼントされ、益々つながることが出来た。

（2）中学生の地域への関わり

コロナが5類となり、地域での行事等も復活し、「大溝まつり」に曳き手として参加、歴史遺産である「大溝城址の清掃活動」に参加、高島地域スポーツカーニバルにスタッフ参加、また「大溝まちづくりマルシェ」に多くの生徒が積極的に参加するなど、地域に大きく貢献することが出来た。

（3）運動会に向けて

運動会に必要な道具を、生徒会と地域の皆さんと共に作製することが出来た。

また、運動会に向けて地域&PTAが協力して清掃活動を行うことが出来た。



【若い力で祭りを盛り上げる】

■ 実施に当たっての工夫

- ・各学年の教員等から要望の聞き取り、学校運営協議会で熟議されたことを、出来る範囲内でその思いが実現出来る様心がけた。
- ・各団体等に配布する広報紙には、その団体から参加されている方の写真を選び掲載するよう心がけた。
- ・製作活動はボランティアだけで行うのではなく「子ども達に出来ること」で参加してもらおうよう呼びかけた。

■ 事業の成果

昨年度目標に掲げていた、PTAとの合同協働活動が実現し、地域の方と保護者の間に交流が生まれ、活動の幅が広がった。

また、学校行事等が地域にも浸透し、それぞれのカタチで活動が行われている。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

開設以来続けてきた活動は地域に定着している。また今後新たな取り組みも熟議を重ねた上で行っていきたい。



【みんなの力で！マラソン大会】

■ その他（学校運営協議会との協働等）

学校運営協議会以外で行う「コミュニティ・スクールびわこ全日本大会」には活動家の皆さんに多く参加して頂いており、話し合われたことは大いに協働活動に活かされている。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校長 ■教頭 ■地域連携担当教職員 ■その他（学年主任・生徒会担当教員等）

報告書記入者（地域学校協働活動推進員）

つながり響き合う教育を目指して ～マキノ地域学校協働本部～

高島市	活動名：マキノ地域学校協働本部	マキノ東小学校・マキノ西小学校・マキノ南小学校 マキノ中学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 開始年度：平成30年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：108人 <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input checked="" type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input checked="" type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input checked="" type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他〔 〕			

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

(1) 小中学生、地域の方を交えた学校運営協議会での内容

- ・小中学校ではその主体でもある児童・生徒自身の考え方や意見等を踏まえて学校運営が出来るよう、協議会に児童・生徒、地域の方に参加頂き熟議等を行うことが出来た。どちらも対象、現場を踏まえた意見を共有、相互理解が出来、今後の学校運営に前向きな意見が出された。
- ・中学校では、地域の方、PTA役員に生徒が加わって、テーマを「誰もが居心地のよいマキノ中学校にするために」として実施されたこともあり、生徒からは「もっとこんな機会を増やして欲しい。」との意見が出された。
- ・小学校では2校で児童と学運協委員が意見交換を行う機会を持っていただくことができたが、テーマを「地域に役に立つこと」、「夏休みの宿題について」として実施され、喋りやすいテーマで児童と委員がうまく話し合うことができた。



【中学生を交えた学校運営協議会】

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

(1) 小学校での協働活動の連携

- ・地域資源を活かしたフォトロゲイニングの実施
夏休みのPTAの事業で、地域の方から聞いた見どころをマップに落とし、親子のグループでポイントをどれだけたくさん回れるかというフォトロゲイニングを実施し、地域の理解と次回の実施など前向きな活動が行われた。
- ・150周年事業で、地域の方を招き学校探検を実施
記念事業に合わせ、来られた地域の方を児童が作成した問題を一緒に解きながら学校の校舎内を案内し、相互のコミュニケーションが深められた。



【フォトロゲイニングの実施】

■ 実施に当たっての工夫

今年度から地域連携カリキュラムを運用していくことになり、より児童、生徒・保護者には地域の魅力を知ってもらおうと共に、地域の方に関ってもらえるような機会を増やせるように努めて頂いた。

■ 事業の成果

- | | | | |
|------|-----------------------------|-----|----------------------------------|
| ○子ども | 地域への理解・関心の高まり
社会貢献 | ○学校 | 新たなボランティア人材の発掘
円滑な連携カリキュラムの運営 |
| ○地域 | 地域の教育力の向上・地域の活性化
社会参加の提供 | | 地域への理解・関心の高まり
児童への社会貢献の機会の提供 |

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

これまでの学校、学運協、地域への働きかけと学校での熟議、ボランティアの登録に配慮して頂いたことで、地域の方との連携が進み、学校側の広報、LINEを活用した呼び掛け等もあって、ボランティアの数も増え、関わりも増えるようになった。ただ、このような取組も全ての学校で行われているものではないので、さらに学校同士の連携や理解を深めて欲しい。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

学校運営協議会委員に教師、児童・生徒、地域の方と直接話をしてもらう熟議、懇談会等の機会を作って頂いたことにより、現場の声を直接聞いて頂き、意見交換することが出来た。今後はさらにその機会を増やして頂き、今年度から始まった地域連携カリキュラムについてもこのような現場の意見等を踏まえて主体的な関わりを持って頂けるとともに、9年間を意識したカリキュラムの実施を検討して頂けることを期待したい。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（ ）

報告書記入者（地域学校協働活動推進員）

ふるさとを愛し 豊かな心を育み 自ら学び挑戦する子の育成を目指す取組

高島市	活動名： 今津地域学校協働本部	今津東小学校・今津北小学校・今津中学校 学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに <input checked="" type="checkbox"/> 印 開始年度：平成30年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：60人 <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input checked="" type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input checked="" type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 []		

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに印）

- 学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（民政委員長/児童委員他）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

今津町で出来た「琵琶湖周航の歌」に関する小学校から中学校までの一貫した取組は出来ないものか？

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

今津中学校（3年）、東小学校（5年）、北小学校（5年）が合同で湖岸に咲く「はまひるがお」の保全活動を行った。また、今津中学校（3年）、東小学校（6年）、北小学校（6年）合同で特定外来種ナガエノツルノゲイトウの除去作業をおこなった



【 はまひるがお保全活動の様子 】

■ 実施に当たっての工夫

1年間かけて、地域協働プログラムとして実施できないか検討してきて実施することができた。

■ 事業の成果

中学生、小学生がびわ湖の湖岸にある保存すべき植物と除去すべき植物の違いが分かり今後につながる。

また、同時進行でおこなった湖岸清掃も役立ち、びわ湖岸を美しくすることにつながる。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

5年生がおこなった「はまひるがお」の保存活動は開花時期が過ぎており次年度以降に変更の工夫がある。

6年生のおこなったナガエノツルノゲイトウ除去の作業では、作業見学になってしまったため今後の検討課題である。



【 特定外来種除去作業の様子 】

■ その他（学校運営協議会との協働等）

事業の開始前に学校運営協議会を持つことが出来なくなってしまい細かく打合せが出来なかった。

学校運営協議会と細部の打合せは出来ていないが方向性は理解し合えているので十分と思われる。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに印）

- 校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（主幹教諭、担当教諭）

報告書記入者（ 地域学校協働活動推進員 ）

つながり響き合う教育を目指して ～朽木地域学校協働活動本部～

高島市	活動名：朽木地域学校協働本部	朽木東小学校・朽木西小学校・朽木中学校 学校運営協議会：■有 □無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成30年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：105人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り ■部活動支援 ■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり ■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） ■地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他 []		

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校・園 □学校運営協議会 ■地域学校協働活動推進員等 □行政 ■その他

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

- ・子どもたちにつけたい力
- ・地域連携カリキュラム
- ・学校運営や地域に関わる課題

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

- ・朽木東小学校 ・家庭科の授業の発展として6年生が「地域を元気にしたい 朝市で何かを売ろう」という思いで活動することができた。その活動には日赤奉仕団の方々の応援（朝市出店のものづくり準備・材料の調達・作り方の指導・当日の応援等）と子どもたちの地域を思う願い、その思いを応援したいという地域の方々の支えとがあり実行できた。収益金は子どもたちの考えで募金することになった。
- ・朽木西小学校 ・運動会や学習発表会、授業参観、グランドゴルフ等学校と地域が一体となって活動することができた。縮小されていたいろいろな行事が少しずつ元に戻ってきたので子どもたちの元気が地域の方の元気の源となり笑顔につながった。
- ・朽木中学校 ・生徒会を中心に「地域とつながろう」をテーマに活動できた。自治組織協議会「すみまち」との連携で生徒会と「すみまち」の委員とで話し合いを2回行った。その中での内容を元に、年末の民生委員児童委員協議会による活動を、中学生自身が書いた手紙を持って一緒に各家を訪問できた。また、秋のすみまち主催「米祭り」では中学生の太鼓発表や各お店のボランティアもしてイベントを盛り上げた。地域行事のスポーツフェスティバルには係の仕事をしたり、競技に参加したり地域の一員として活動できた。また、こども園の夏祭りや運動会のボランティアにも積極的に参加することができた。



【朝市出店・募金活動】



【こども園運動会ボランティア】

■ 実施に当たっての工夫

- ・各校園の行事の把握に努め、地域と連携できることやつながれる内容を考えた。
- ・各団体や協議会と連携に努め、協働できることを増やした。

■ 事業の成果

- ①地域の団体の主体的な取り組みがあり、たくさん子どもたちが参加することができた。そのことで、たくさんの地域の方とふれあうことができ地域の方のありがたさや地域の良さに気づくことができ、自己有用感を持つことができた。
- ②今年は、いろいろな行事が復活し、中学生の活躍の場が増えた。特にこども園でのボランティアで、園の子どもたちとふれあったり先生方や保護者との関わりもでき自己肯定感を持つことができた。
- ③子どもたちの主体的な活動が少しではあるができた。お世話になっている地域を盛り上げたい、役に立ちたい、自分たちのできることは何かと考えて活動ができた。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

子どもたちの主体的な活動はできてきたがまだまだ、学校だけ地域だけでは限界があり、協働の重要性を改めて感じた。また、これから先のことも考え、持続可能な活動にしていくことも大事だと思う。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

学校運営協議会の運用・委員の役割を研修し、ますます「学校づくりは地域づくり」を合い言葉に活動していけることを願う。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校長 ■教頭 ■地域連携担当教職員 ■その他（担任等教職員）

報告書記入者（地域学校協働活動推進員）

つながり響き合う地域づくりを目ざして～みんな主役～ ～安曇川地域学校協働活動～

高島市	活動名：安曇川地域学校協働本部	安曇小学校・青柳小学校・本庄小学校 安曇川中学校	学校運営協議会 ■有 □無
-----	-----------------	-----------------------------	---------------

地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印
 開始年度：平成30年度 地域学校協働活動推進員等数2人（兼務2人） ボランティア登録数：70人
 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援
 ■子どもの安全確保、見守り ■部活動支援 ■学校周辺環境整備 ■学びによるまちづくり
 ■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） ■地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動
 ■郷土学習 ■その他〔福祉学習〕

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
 ■学校・園 ■学校運営協議会 ■地域学校協働活動推進員等 □行政 ■その他（ボランティア団体・個人 社協）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

- ① 授業参観後に協議会をする学校が増え、子どもの様子から、学習や日常のこと等、具体的なことを話す機会が増えた。
- ② 昨年度先生方と一緒に作ったカリキュラムを中間見直しをしながら、地域の方との協働活動の内容や更新等検討ができた。
- ③ 支援の方を探す時、学運協で話し合い、委員の皆さんも、ボランティア探しに協力的で、関わり人口が増えた。
- ④ 生徒、児童と一緒に会議に参加して、子ども達の考えを聞き、地域の方とどのように関わって協働活動ができるか考えた。
- ⑤ それぞれの学校の、特徴を出した活動にするために、地域の方を講師として、郷土を学び、どのように地域と繋がるか。

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

- ① 体験活動 琵琶湖に近い学校だから、「湖漁を食べて元気になろう」昔は日常的に湖漁（雑魚）の煮付けが食事に出ていた。もう一度再現を。保護者も魚捌き教室を実施。ウグイやハスの3枚おろしを学び、つみれにして焼いて食べる。子ども達は、初めてのことが喜び、骨をたたいてつみれを焼きおいしそうにいただいた。（2小学校）
- ② 地域の施設やボランティアグループや社会福祉協議会との連携 図書館や藤樹記念館に近い学校は、定期的にそこへ訪れる計画を立てる。地元の施設になじみ誇りに思う。手話クラブ、人形劇団 剪定クラブ等 自分たちが練習をしていることを学校の活動に活かせる。お互いに喜び地域の方も生きがいを感じている。
- ③ 社会福祉協議会と繋がる。福祉教育 3年聴覚障害 4年視覚障害（3小学校） 中学校は、ボランティア活動をするにあたり、ボランティアの内容を、社協職員・推進員・生徒・担任と一緒に考える。
- ④ 3小学校共通に「菌太郎」の作者に来ていただき、読み聞かせをしていただき食育について考える。
- ⑤ キャリア教育にて、地域で活躍、懸命に仕事している人の話を招き。働くことについて考える。
- ⑥ どここの学校も定期的に除草作業を、PTAと祖父母地域の方などで一緒にすることができた。月1回作業日を設けられた。
- ⑦ 住民自治協議会と民生委員、日赤奉仕団などともつながり、年末に一人暮らしのお年寄りに手紙や花の苗を届ける。



【はす（湖魚）をさばく】

■ 実施に当たっての工夫

- ① 事前打ち合わせ・講師、担任 推進員で必ず連絡、相談しておく。事前準備も詳細を学校へ知らせ準備物等も依頼しておく。
- ② 子どもの数、活動によってボランティアさんを頼む。
- ③ 4校（中1、小3）担当しているのでできるだけ学校をまんべんなく周る。
- ④ 先生にあの事どうですか等、気楽に話せる雰囲気を作り、相談も気楽にできるように。
- ⑤ 学運協においても、協働活動の情報と現状と課題を話す。協力を依頼する。



【「菌太郎」読み聞かせ・食育】

■ 事業の成果

- ① 学校はにぎやかになってきた。子ども達も気さくに地域の方にあいさつをしている。
- ② 地域の方から、「気持ちよく挨拶してくれたわ」とのうれしい言葉を聞く。
- ③ ミシンなど個別に関わったりしたら、丁寧にお礼を言ってくれる。
- ④ たくさんの人に声をかけてもらったり、ほめてもらったり、子ども達はいい気分。
- ⑤ 教育活動が充実したと思う。子ども達も早くきれいにでき、自信满满でいい気持ち。
- ⑥ ボランティアの皆さんも活動が広がったと言って、喜んで参加して下さってる。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ① どうしてもボランティアに来てくださる方が偏っているので、多くの人に来ていただけるよう、開拓をしていく必要がある。
- ② 学校の情報を得ることと、身近に簡単な相談打合せで実践できるよう、各学校に一人の推進員がいると充実する。
- ③ 教職員も私たちも発想の転換をして、子ども達の意見を取り入れた活動も必要になってきた。特に中学校では。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

- ① 小中一貫教育と小小連携のつながり考えた活動を、もっと増やしていきたい。
- ② 生徒の入った学運協や、委員の皆さんの発言も増えてきているので、人数なども増やし協力してもらえる学運協

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校長 ■教頭 ■地域連携担当教職員 ■その他（事務職員）

報告書記入者（地域学校協働活動推進員）

つながり響きあう教育を目指して ～みんなであたたかく見守り育てよう「学而事人」の人～

高島市	活動名：新旭地域学校協働本部	新旭南小学校・新旭北小学校・湖西中学校 学校運営協議会：■有 □無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成 30 年度 地域学校協働活動推進員等数：2人 ボランティア登録数：136人（むくげの花の会、夢の会、希望の会） ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り ■部活動支援 ■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり ■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） ■地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他〔教育相談窓口開設〕		

- 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
 ■学 校・園 ■学校運営協議会 ■地域学校協働活動推進員等 ■行 政 □その他（ ）
- 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）
 - 【湖西中学校】・校内研究主題であるSDGsと学校・地域連携カリキュラムの位置づけや年間の予定について
 - ・学校地域合同防災学習（学校、地域、行政、PTAで取り組む防災訓練）について
 - 【南小学校】・学校・地域連携カリキュラムについて（実施する内容について学運協委員、ボランティア、教職員で熟議）
 - ・学校運営における地域、PTAとの連携強化について
 - 【北小学校】・「みどりプロジェクト（高学年による地域貢献活動）」についての成果と課題
 - ・学校・地域連携カリキュラムについて
 - ・自由進度学習について
- 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）
 - ・学而事人おはようミーティングの活動 始業前に校門や昇降口、校舎内で挨拶・声かけをする。会員（むくげの花の会）、生徒、教職員、保護者のにぎやかなミーティングの場としている。支援活動の情報交換や打ち合わせの場でもある。この活動は、学校の敷居を低くし、より活動しやすい環境作りとなっている。（湖西中）
 - ・学校地域合同防災学習 計画段階から行政、地域（防災士、ボランティア）、PTAで取り組む防災訓練を行った。（湖西中）
 - ・地域貢献活動・地域と連携した活動 中学校吹奏楽部は、ふれあい食堂・新旭ふくし祭・地域のイベントで出前演奏を行った。中学校家庭部は社会福祉協議会と連携して作品を高齢者、施設、公共施設へ配布している。北小学校では、高学年が自治会と協働し自分たちで企画運営する地域貢献活動を行った。中学生と小学生と一緒に駅前のゴミ拾いを行った。
 - ・のぞみひろばの活動 北小学校からの「地域の方と子どもたちがふれあう機会をもっと増やしたい!」といった要望を受け、毎週金曜日の昼休みに子どもたちと地域の方があそびで交流をする機会をつくっている。
- 実施に当たっての工夫

各校の「ボランティアの会」の「世話人会」を毎月実施し、学校と活動の意義、実施方法等を十分協議して協働活動を行っている。協働活動の計画に当たっては地域の方が少しでも多く学校へ来ていただけるように、また、児童生徒が地域に出て活躍できるように考えている。活動が活発に行えるよう地域の団体との連携や保護者・祖父母の参加にも配慮して取り組んでいる。
- 事業の成果

「児童生徒が地域のボランティア活動へ積極的に参加するようになった。」「学校に入りやすくなった。」「以前に比べ子供たちが落ち着いて授業を受けている。」などの言葉を頂いている。今年度は、広くボランティア活動に参加を呼びかけることができ、多くの方に参加していただいた。登下校の見守り活動が充実し、不審者の減少や運転者のマナーも向上した。「校区として学校を核とした地域づくりと共に交通安全」に貢献しているとして表彰をいただいた。
- 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
 - ・関係の団体や機関・施設等との連携を進め、小中学生の体験活動や地域貢献活動の場を拡げていくこと。
 - ・町内の保育・幼稚園や学童保育所にも支援・協働の活動を拡げる地域総がかりの子育てにつなげること。
 - ・ボランティアの会の高齢化、新規会員の発掘が課題。



【学校地域合同防災学習の様子】



【のぞみひろばの活動の様子】

■コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

- 校 長 ■教 頭 ■地域連携担当教職員 ■その他（学年主任、担任）

報告書記入者（ 地域学校協働活動推進員 ）

地域とともにある学校 子ども応援団

東近江市	活動名：玉緒小学校地域学校協働本部	玉緒小学校 学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成24年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：32人 <input type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input checked="" type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 []		

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

○生活科（1年・2年）「サツマイモを育てよう」

ボランティアの方が、畝づくりや苗植え、マルチシート張りを協力してくださり、1、2年の児童はボランティアの方のアドバイスを受けながら、苗植えや収穫の体験学習をすることができた。今年度は、数年ぶりに学校でサツマイモを試食することができ、自分たちで収穫したサツマイモをみんなで味わうことができた。



【 3年生 間引き体験 】

○家庭科（5年・6年）「ソーイング」

ミシンを使う学習では、事前にミシン一台一台の動作確認を丁寧にしてくださった。学習当日には、各学級の一班に一人以上見てくださり、担任だけでは見切れないところを丁寧に教えてくださった。

○その他 ・図書室の環境整備 ・読み語り ・地域探検 ・登下校の見守り
・田んぼの学校 ・マラソン立哨

■ 実施に当たっての工夫

・昨年度までは、コロナ禍の影響で活動を見合わせたり縮小したりすることを余儀なくされていた。今年度は、今まで活動していたものと同じように継続するのではなく、回数を増やしたり、新たにできることを模索したりした。その中で、どのような事業がどの学年に必要なのかを考え、その都度地域コーディネーターと相談し、人材を見つけていただいた。

■ 事業の成果

・ボランティアの方との打合せでは、学習のねらいやご指導いただくポイントを確認するだけでなく、児童の思いや提案等も伝え、主体的な学習になるように打ち合わせをした。その結果、児童が発信したり、ボランティアの方と話し合ったり共同したりするような学習を実現することができた。
・回数を重ねるごとにボランティアさん同士も顔見知りになり、お互いに意見を申し合ったださる姿があった。また、ボランティアさんとの繋がりが増えることで、同じ方が違った内容でも助けてくださったり、新たな人材を教えてください。ボランティアさんの協力により、安全の確保や支援の必要な児童へのサポート等が充実し、本当にありがたく感じている。



【 5・6年生 家庭科の学習 】

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

・今年度の取組を見直し、来年度以降も実現可能な活動を検討した上で、地域コーディネーターさんをはじめ、協力いただくボランティアの方に、早い段階でお知らせできるようにしていきたい。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

玉緒小学校HP <http://www2.higashiomi.ed.jp/tamasho/>



■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（ 学年主任 ）

報告書記入者（ 地域連携担当教職員 ）

「必要な時に必要な支援を」を合言葉に、今後につながる継続した支援活動を！

東近江市	活動名：御園小学校地域学校協働本部	御園小学校	学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 開始年度：平成 28 年度 地域学校協働活動推進員等数：1 人 ボランティア登録数：25 人 <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 []			

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

① 外国籍児童が全校児童のおよそ一割程度在籍しており、多くの児童が日本語指導教室（ひまわり学級）に通室している。外国籍児童を対象に、夏季休業・冬季休業期間に地域のコミュニティセンターで外国人児童への学習サポート活動を行っていただいた。また、勉強のあとには、みんなで遊んだりおやつを食べたり楽しくすごした。



【 外国籍児童学習サポート 】

② 郷土学習・学習支援

3年生の総合的な学習の時間「御園のじまんを調べよう」のゲストティーチャーや、2年生の生活科「まちたんけん」の校外活動の支援、5年生の家庭科「ミシンでソーイング」の活動補助など、多岐にわたって支援を受けている。

■ 実施に当たっての工夫

御園小学校地域学校協働本部では、「必要なときに必要な支援を！」を合言葉に事業を進めている。推進員と学校担当者が適宜連絡を取り合い、学校のニーズに応じて人材を発掘していただき支援を受けている。

■ 事業の成果

推進員の豊富な経験と人脈により、学校の希望に対して積極的にコーディネートしていただいている。多くの方にボランティアに来ていただくことで、学校の様子を地域の方々に知っていただけるよい機会となっている。また、子どもたちだけでなく、教職員が地域を知り、繋がる機会にもなっており、地域との関わりの大切さを感じた。



【 3年生 総合的な学習の時間 御園のじまんを調べよう 】

ボランティアの方の協力により、担任が個別に支援が必要な児童へのサポートにあたることができたり、地域の方々と子どもたちが気軽に話す機会となったり、充実した学びとなる取組となった。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

今まで築き上げてきた地域ボランティアさんとの関係を切らせることなく、今後も地域との絆を深めていけるように働きかけていきたい。また、地域ボランティアとともに保護者にも様々な活動のサポートをお願いしながら、地域が一体となった活動を広めていきたい。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

東近江市立御園小学校ホームページ <http://www2.higashiomied.jp/misonosho/>

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（日本語指導担当教員）

報告書記入者（教頭）

輝け南っ子！！ ～地域を学ぶ、地域の人々と学ぶ～

東近江市	活動名：八日市南小学校地域学校協働本部	八日市南小学校 学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成24年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：40人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 ■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり ■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） □地域行事への参加 □ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他 []		

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

・地域的に自治会組織が確立しておらず、コミュニティ・スクール実現については、検討が必要である。

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

- (1) 畑の先生による特別支援学級での植え付け作業（じゃがいも、さつまいも、大根）収穫
- (2) 芝生化されたグラウンドでの芝生刈りや水やり、施肥などのお世話
- (3) 南小学校読み語りグループによるスキルタイムでの読み語り
- (4) 大風保存会による大風作りの指導
- (5) 図書室壁面の飾り製作、飾り付け

■ 実施に当たっての工夫

- ・特別支援学級の畑では、地域の方が先にうねを作ったり、マルチをかけて植える準備をしてくださったりすることで、スムーズな植え付け作業ができた。
- ・図書壁面では、図書室で作業を行っていたため、休み時間などは児童が興味をもって側にきてくれたが、密を避けるため、会議室などの別室で作業をし、児童との動線も重ならないように工夫した。
- ・読み語りでは、ボランティアと児童との間隔を空けるために、自分の席に座り静かに聞くようにした。



【 特別支援学級 畑の学習 】

■ 事業の成果

- ・定期的な芝刈りなど適切な管理がされることで、常に快適な状態で授業が行われる。また、休み時間や放課後などにも子どもたちの生き生きと活動する姿が見られる。
- ・季節感あふれる壁面飾りにより、図書室に対する子どもたちの関心がさらに高まった。
- ・特別支援学級の子ども達が、畑の先生に対してお手紙や芋のツルで作ったリースのお礼や、感謝のお手紙を渡すなどつながりを深めている。



【 大風保存会と6年生大風あげ 】

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・大風など、地域の皆様と協力しながら、徐々にではあるが、行事が実施できている。
- ・コロナが終わり、今後どのような行事を残し進めていくか、内容を精査しながら、関係機関と相談して取り組んでいきたい。
(市陸上記録会の指導や、地域学習、昔の暮らし、昔のあそびなど)

■ その他（学校運営協議会との協働等）

- ・南部地区まちづくり協議会と連携しており、スムーズな活動ができている。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校長 ■教頭 ■地域連携担当教職員 ■その他（事務職員）

報告書記入者（教頭）

地域とともに歩む学校 「熱い支援」が、学校を支えてくださっています！

東近江市	活動名：箕作小学校地域学校協働本部	箕作小学校 学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要		
開始年度：平成 26 年度 地域学校協働活動推進員数：1人 ボランティア登録数：103人		
■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援		
■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 ■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり		
■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） □地域行事への参加 □ボランティア・体験活動		
■郷土学習 □その他 []		

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

学習支援

- ・全校 読み語り活動（通年）
- ・全校 花や野菜の栽培活動（通年）
- ・1年 昔のあそび 芋ほり体験
- ・2年 町たんけん（太郎坊山・八日市図書館等）
- ・3年 町たんけん（御代参街道・くすのき・公共施設訪問等）
- ・3年 総合的な学習「ビオトープ環境学習」
- ・3年 社会科「昔のくらしについて」
- ・5年 田んぼの学習（田植え・生き物観察・稲刈り・脱穀・学習発表会）
- ・6年 総合的な学習「大凧づくり」
- ・6年 総合的な学習「キャリア教育」
- ・5、6年 家庭科調理実習

学校行事支援、子どもの安全確保、見守り

- ・スクールガード活動支援、運動会準備および後始末支援

学校周辺環境整備

- ・運動場の芝生管理および施肥作業、
- ・前庭および校地内の剪定作業

■ 実施に当たっての工夫

- ・学習のねらいを理解して学習活動について地域学校協働活動推進員と打合せを綿密に行い、適切な支援活動がなされるように努めた。
- ・支援内容に適したボランティア人材を確保し、適宜依頼できるように各所、各団体、個々に幅広く声をかけた。
- ・学校と地域、ボランティアの三者が、共に安心感と親近感、信頼感を持てるように、綿密な連携を行った。

■ 事業の成果

- ・継続的にボランティアに来てくださることで、子どもたちと地域の方とのつながりがうまれ、子どもたちにとっては親しみを持ってかかわることができた。また地域の方からは、「子どもから元気もらった」などと肯定的なご意見をいただいた。
- ・地域の方々の専門性や技能を生かした支援、安全への配慮をしていただき、子どもたちは豊かな学習活動が展開できた。
- ・自分たちの住む町について学習を進める中で、地域に対する関心が高まり、地域の一員としての自覚や地域への親近感が高まったように感じる。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・今後も、「地域とともに歩む学校」として学校と地域の絆がさらに深まり、活動が充実したものにしていきたい。同じ活動であっても、子どもの実態に合わせた工夫の余地がある。めあてをしっかりと意識して取り組み、教職員と地域学校協働活動推進員との連携を密にしていくことが大切である。
- ・協力いただけるボランティアの方の中には、年齢を感じさせず、惜しみない協力をいただき感謝している。しかしながら、今後も継続して同じような支援をお願いできるかは不透明である。

■ その他（学校運営協議会との協議等）

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（全教職員）

報告書記入者（地域学校協働活動推進員、教頭）



【1年 芋ほり体験】



【2年 まち探検】

地域とつながり、地域とともに子どもを育てる学校づくり

東近江市	活動名：八日市北小学校地域学校協働本部	八日市北小学校 学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成 28 年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：15人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input type="checkbox"/> 学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり ■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 []		

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園
 学校運営協議会
 地域学校協働活動推進員等
 行政
 その他（ ）

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

- 1年・・・昔遊び
- 3年・・・町たんけん 畑見学
- 4年・・・いきものの森での活動
- 5年・・・田植え 稲刈り ミシン補助
- 6年・・・キャリア教育 ミシン補助
- 全校・・・読み聞かせ マラソン大会立哨



【 6年 夢訪問（理容師） 】

■ 実施に当たっての工夫

・昨年度まで、読書ボランティアがなかったこともあり、学校だより等を通じてボランティアの募集を行った。ボランティア名簿を地域コーディネーターと共有し、必要に応じて活用してもらえるようにした。

■ 事業の成果

- ・6年生の「夢訪問」で、子どもたちは仕事の道具を見せていただいたり、実演しておられる様子を見たりして、大変興味深く学習に取り組めた。いろいろな職業のプロに来ていただくことにより、今後自分がどのようなことを頑張ればいいのか、将来に向けて今の自分を見つめるとともに、職業に対する夢を膨らませることができた。
- ・今年度より、読書の時間を設けたが、楽しくいろいろな本を紹介して下さることで、読書の幅が広がるのではないかと今後も期待している。
- ・マラソン大会など、地域の方が見守ってくださっているおかげで、安心して大会の運営ができています。と同時に、声援が子どもたちへの大きな励みになっている。



【 読み聞かせ 】

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・今年度からボランティアの募集を行いミシン補助や読み聞かせに来ていただいているが、地域コーディネーターを通して時間を要するため教頭または担任が連絡調整をしている状況である。まだまだ組織として成り立っていない。
- ・6年生の「夢訪問」については、毎年ゲストティーチャーをお願いしている方もあり、恒例行事として定着しつつあるが、十分に謝礼を払うことができず、材料費などで負担をかけてしまうこともあり心苦しく感じている。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

・学校行事がコロナ禍前に戻った今、地域の力をより生かした活動を多く取り入れていきたい。しかしながら、地域の物的、人的資源がまだまだ生かしていない状況なので、地域の良さや強みをどんどん見つけていきたい。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長
 教頭
 地域連携担当教職員
 その他（担任）

報告書記入者（教頭）

「地域の子どもは地域で守る・育てる」～つながる地域と学校～

東近江市	活動名：八日市西小学校地域学校協働本部	八日市西小学校 学校運営協議会 <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成24年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：250人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 ■学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり ■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 ■郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 []		

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校・園 学校運営協議会 ■地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

新型コロナウイルス感染症が5類に移行となった今年度は、昨年度に引き続き基本的な感染症予防対策を意識した上で、学校ボランティア等の協力を得ながら地域学校協働活動を推進することができた。ミシンボランティアや校外学習補助ボランティアにも昨年度以上にたくさんの方が参加した。

5年生の「たんぼのこ体験事業」はコロナ禍においても実施し、特に中心的な体験となる田植えと稲刈りは屋外での活動ということもあり、ほぼコロナ禍前と同じように行うことができた。しかし、収穫祭（ボランティアさんへのお礼の会）は実施場所が校舎内であることや調理・飲食をとまなうことから、コロナ禍においては実施を見送っていた。5類に移行のタイミングで、今年度は4年ぶりに収穫祭を実施した。児童は総合的な学習で取り組んだ米作りの学習について、タブレット端末を活用しプレゼンテーションソフトでわかりやすくまとめ、学校ボランティアの前でしっかりと発表することができた。また収穫した米でおにぎりを作り、みんなで収穫の喜びを味わうことができた。



【 収穫祭（お礼の会） 】

本校は今年度、持続可能な学校づくりの一環としてグラウンドの芝生化に取り組んだ。6月の土曜日・日曜日の2日間にわたって、のべ250名のボランティアが芝生植への準備に取り組み、翌月曜日に全校児童が芝生植えを行った。9月には芝生が生えそろうグラウンドで運動会を開催することができた。地域住民有志による芝生ボランティアも結成され、芝生の維持管理を行っている。



【 芝生植への準備 】

学校ボランティアをはじめとする様々な地域住民の行動や人格にふれることで、児童は成長していく。次年度も教育活動に無理なくボランティアの支援を取り入れ、地域学校協働活動を推進していきたい。

■ 実施に当たっての工夫

- ・地域学校協働活動推進員と連携し、年度当初に年間をとおしてどのような支援が必要か検討しておく。学級担任等との打合せで詳しい内容について検討し、学校ボランティアがスムーズに学習支援が行えるようにしている。

■ 事業の成果

- ・地域学校協働活動推進員と学級担任等との打合せを十分に行ったことにより、学校ボランティアから有効な支援を受けることができた。
- ・学校ボランティアに支援いただける機会は、コロナ禍前までは回復していないが、児童にとっては地域の方とふれ合ったり、地域の方から学んだりする貴重な機会となった。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・学校ボランティアの高齢化や感染症防止対策等を考慮しつつ活動を充実させるためにも、学校から地域学校協働活動についての理解を図るような発信をしていく必要性がある。
- ・学校を支援してもらっただけでなく、今後は地域の行事やボランティア活動への児童の参加など、双方向の取組も考えていく必要がある。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校長 ■教頭 ■地域連携担当教職員 ■その他（学級担任等）

報告書記入者（ 教頭 ）

地域の力を学校へ！ ともにあゆむ「布引っ子応援団」

東近江市	活動名：布引小学校地域学校協働本部	布引小学校	学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成 29 年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：37人 <input type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input checked="" type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 []			

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

- 通年 ボランティア読み聞かせ、校外活動引率支援、スクールガード活動支援、教育環境整備
 4～5月 5年「田んぼの学校」実施計画・打合せ・田植え
 6月 5年「田んぼの学校」田んぼの生物観察学習補助
 6～7月 3年「まちたんけん」講師・郷土学習の補助
 8～9月 5年「田んぼの学校」打合せ・稲刈り・脱穀作業
 11月 マラソン大会 マラソンコースにて監視補助
 12月 5年「田んぼの学校」まとめ学習発表会
 1月 6年キャリア教育 地域の先輩に学ぶ
 1月 1年昔の遊び体験



【 3年 町探検 】

■ 実施に当たっての工夫

- 地域学校協働活動推進員がスクールガードを兼ねていることもあり、学校へ毎日来てくださり、教員との円滑な打合せを進めることができた。
- 学校だよりやHP等で、地域と学校が連携・協働している事例を取りあげて保護者や地域へ周知を行った。
- 地域学校協働活動推進員と教職員が密に連絡を取り合うことで、必要に応じて学習支援や監視補助など、随時対応してもらうことができた。

■ 事業の成果

校外学習や地域学習の相談をすることで、教材の発掘や講師の依頼など状況に応じた対応をしていただき、読書活動や郷土学習、キャリア学習等、充実した学習ができた。地域にも学校ボランティア活動が周知されており、地域学校協働活動推進委員を通して学校からの要望に多数応えていただいた。
 また校内マラソン大会では、本番だけでなく練習時からコースの見守りをしていただき、大変ありがたかった。学校教育環境整備にも毎年ご尽力いただいている。本年度も掲示板や棚の制作など、教職員や子どもたちにとって過ごしやすい学習環境を整えてくださっている。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- 支援ボランティアの継続性のために名簿等を作成して、校内での引き継ぎを確実に行う。
- 広い校地の学習環境の整備のため、引き続き施設メンテナンス型のボランティアの充実を模索していく。
- 地域学校協働本部の活動について地域や保護者への広報活動をさらに充実させる。



【 5年 稲刈り 】

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（ ）

報告書記入者（ 教頭 ）

地域とともにある学校づくり、魅力がいっぱい、持続可能な教育環境づくり

東近江市	活動名： 市原小学校地域学校協働本部	市原小学校	学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成 25 年度 地域学校協働活動推進員等数：2 人 ボランティア登録数：約 80 人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 ■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり <input type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他 []			

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
 ■学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）
 ・学校運営協議会 設置無し

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）
 ○学習支援：授業補助(家庭科調理実習・裁縫・ミシン、町探検引率、和楽器鑑賞、絵手紙教室、漢検補助員)
 ○図書ボランティア：(読書環境 読み語り 創作クラフト 読書祭り等のイベントなど)
 ○学校行事支援：(マラソン大会見守り SGや大学生)
 ○子どもの安全確保、見守り(SGさんの下校見守り)
 ○学校周辺環境整備(木の剪定、草刈り、花壇の整備)
 ○郷土学習：(地域農家見学、神社見学、しめ縄づくり、江州音頭体験、昔遊び交流、豆腐づくり等)



【 地域農家見学 】

■ 実施に当たっての工夫
 ・毎月 1 回ボランティア会議を開催し、各活動の反省と今後の計画を立てている。
 ・保護者連絡アプリを利用し教育活動の見える化を行う。

■ 事業の成果
 ・保護者連絡アプリの「学校ブログ」や学校だより等の発行を頻繁に行うことにより、保護者・地域住民へ活動内容を周知し、協力を得ている。
 ・児童は自然に生まれるあいさつや、心のこもった会話が出来る。
 ・児童は一年間で様々な活動を行い、数多くの大変貴重な体験をしている。
 ・教職員、特に若手教員にとって、連携事業等を通して地域の人々との多様な交流体験が、よりよい OJT となっている。
 ・地域の人と児童の絆が深まり、学校全体に明るい笑顔と活気が感じられる。



【 しめ縄づくり 】

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
 ○課題
 ・ボランティアの方々の高齢化
 ○工夫
 ・ボランティア募集の案内を行い幅広い層にボランティアとして参加していただく。
 ○展望
 ・学校と地域がともに成長していく活動になるよう熟議を重ねる。

■ その他（学校運営協議会との協働等）
 ・学校運営協議会 設置なし

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
 ■校長 ■教頭 ■地域連携担当教職員（事務職員） ■その他（学級担任）

報告書記入者（市原小学校地域学校協働本部長）

～地域の自然・人材を生かし、主体が起きて学ぶ山小っ子を目指して～

東近江市	活動名： 山上小学校地域学校協働本部	山上小学校	学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成 29 年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：24人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 ■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり ■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） □地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他 []			

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校・園 □学校運営協議会 ■地域学校協働活動推進員等 □行政 □その他（ ）

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

【3年生 総合的な学習の時間(親子活動) 「森っ子スクール」】

地域の木材製板や枝等を使いネームプレートを作った。山上小学校振興会と相谷町里山会から多くの方がボランティアとして指導に関わってくださった。日頃できない体験だったが、楽しく充実した活動になった。

【4年生 総合的な学習の時間 「地域学習：千草街道を歩く」】

『わたしたちの東近江市』にも掲載されており、織田信長も関係していると言われる「千草街道」と「馬つなぎの松」を、歴史に詳しいボランティアさん達に案内していただきながら歩いた。針葉樹や広葉樹が豊かに育つ山中を気持ちよく歩く体験ができた。市原小学校との交流もあり、またやまのこ学習とのつながりの上でも充実した学習となった。



【4年生 地域学習の様子】

【5年生 総合的な学習の時間「愛知川生き物調査」】

愛知川清流会の方にご協力いただき、学校の近くを流れる愛知川で生き物調査、和南川で魚類調べを行った。水生生物や魚類、水の透視度の調査等と関連づけて、郷土を流れる川の水質と生態系について学習を深めた。また、うみのこ学習とのつながりの上でも充実した学習となった。

【6年生 総合的な学習の時間 国語科 地域学習】

国語科での地域の魅力発信の学習において、地域で活躍されている方にお話をしていただいた。また、子どもたちのニーズに合わせた地域の方と関わりが持てるようにした。

■ 実施に当たっての工夫

- ・ボランティアの方には、子どもたちの学習について詳しく伝え、子どもたちが主体的に考えるきっかけになるように配慮していただいた。
- ・コーディネーターが授業に幾度か参加し、コーディネーターの立場で支援できることを担任と協議しながら行った。

■ 事業の成果

- ・地域を教材にして学ぶ子どもの姿から、意欲的・主体的な様子が見られた。本物に触れ、実体験を重ねていくことで、実感の伴った理解や、追及していくきっかけを見つけることができた。
- ・地域の自然環境や人材を活用し、学校教育活動の中に地域の力を生かす機会を持たた。
- ・ボランティアの方々の経験や知識を生かした活動を展開していくことで、その方々にとっても自分を生かす場となり、活発な地域づくりにつながる活動になった。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・地域の優れた人材をどのように学校教育と結び付けていったらいいのか、地域に出ていくことで学習の質が向上する内容ほどのようなものがあるのかアンテナを張っていかないといけない。
- ・ボランティアの方の高齢化を考え、常に新たな人を見つける工夫をしていく必要がある。
- ・教職員が忙しいこともあり、教科書の内容に地域教材を加味していく発想があまり持っていない。次年度夏季研修会を企画していただき、地域コーディネーターからの情報を提供し、共有できるようにしていく。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

山上小学校HP：<http://www2.higashiomi.ed.jp/yamasho/>

■ コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校長 ■教頭 ■地域連携担当教職員 □その他（ ）

報告書記入者（ 地域連携担当教職員 ）

【地域の方に支えられて、地域と共に学ぶ学校】～学校・地域・家庭のつながりをめざして～

東近江市	活動名：五個荘小学校域学校協働本部	五個荘小学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成25年度 地域学校協働活動推進員等数：2人 ボランティア登録数：26人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 ■学校周辺環境整備 ■学びによるまちづくり □地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） □地域行事への参加 □ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他 []			

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校・園 ■学校運営協議会 ■地域学校協働活動推進員等 □行政 □その他（ ）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

- ・ ともも円卓会議について
- ・ 引き渡し訓練について
- ・ 家庭教育支援について
- ・ おさがりおゆずり会について
- ・ 学校行事（運動会）の支援について
- ・ 夏休み勉強会について
- ・ 子育てサロンについて

■ 地域と学校が協働した活動（【五個荘地区ともも円卓会議】）

・ 本校学校運営協議会、五個荘中学校学校運営協議会、五個荘地区まちづくり協議会の三者が共通の主催者となり、「五個荘地区で住み続けたいと思えるまちづくり」と「子どもたちの未来を育むためにできる地域での教育活動の方向性」を参加者で協議する「五個荘地区ともも円卓会議」を開催した。グループに分かれ、五個荘地区がもつ素晴らしい教育資源等を振り返るとともに、参加者一人ひとりの地域への熱い思いをベースに、子どもたちを支える活動はどんなもので、どう具現化していくのかについて協議をした。参加者の姿や感想からも五個荘地区への愛情と将来を担う子どもたちのために、懸命に知恵を出し語り合う大人の本気を感じることができた。



【 ともも円卓会議での熟議 】

■ 実施に当たっての工夫

- ・ 学校運営協議会の委員が各グループに入り、協議が円滑になるように工夫した。
- ・ 参加者が各グループで思い描いたアイデアを「どのようにすれば実現できるか」や「いつまでに何をすればよいのか」という実効性のあるものにするために、ファシリテーターのサポートを得ながら実施した。

■ 事業の成果

- ・ 年々、地域の方が学校の教育活動に参画・協働する姿が充実してきていると感じている。多様な委員の参画で本校学校運営協議会が立ち上がり数年経ったが、年々取組も深まりをみせている。学校に福祉的な機能を持たせるためにスタートした「おさがりおゆずり会」等も、保護者にも定着してきている。



【 ボランティア交流会 】

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・ コロナ禍を超え、今年度は様々な活動が動き出したため、学校現場の慌ただしさも相当なものであった。子どもたちのウェルビーイングの実現のためには、教師のウェルビーイング達成が大前提である。そのためにも、例えば、「働き方改革」に資する地域学校協働活動を仕組む等の視点で、学校運営協議会や地域学校協働活動推進員（コーディネーター）が軸となり、学校・地域・家庭がつながりをもちながら子ども達の未来を育んでいくことを目指していきたい。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

- ・ 地域学校協働活動推進員（コーディネーター）が本校学校運営協議会の委員であるため、学校運営協議会で協議されたことを実行するための調整等がスムーズに進んでいる。
- ・ 本校学校運営協議会委員の役職等（市教育委員、市議会議員、保護者、社会教育委員、地域学校協働活動推進員、市スポーツ推進員等、多様な立場の方が委嘱を受け、本校学校運営協議会委員として活動）

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校長 ■教頭 ■地域連携担当教職員 ■その他（ 教務主任・各教職員 ）

報告書記入者（ 地域連携担当教職員 ）

地域とつながる学校づくり「みんなで育てよう 愛東南の子どもたち」

東近江市	活動名：愛東南小学校地域学校協働本部	愛東南小学校 学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成 28 年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：28人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 □学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり □地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） □地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他 []		

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

- ・体験活動：（1年）昔遊び（けん玉、おはじき、新聞ゴマ等）の指導と支援
 （2年）菜の花栽培（種まき、世話）の指導と支援
 （5年）米づくり（田植え、稲刈り、脱穀）の指導と補助
- ・地域学習：（2年）町たんけん
 （3年）ブドウ、イチゴ、ナシ、ネギ、お茶農家さんへの見学
 （4年）地域教材（鯉江井）の見学と解説、地域の神社の祭りの解説
 （6年）愛東の歴史（城址）見学と解説
- ・学習支援：（5年）家庭科でのソーイング実習・ミシン実習補助
- ・全校読書活動：ボランティア「ブックんの会」による読み聞かせ、お話の会
- ・安全見守り活動：登下校やマラソン大会等で危険個所の安全見守り、交通安全教室での指導
- ・本校創立 150 周年イベントの開催：気球体験・シャボン玉体験



【4年 地域の神社の祭りの解説】

■ 実施に当たっての工夫

- ・地域学校協働活動推進委員と教職員が打合せをする時間を設定し、学校支援の年間の見通しを共通理解できるようにした。
- ・学校側のニーズを地域学校協働活動推進委員にしっかり伝え、人材の掘り起こしをしてもらった。
- ・学校だよりや学年だよりで、ボランティアさんの活動の様子などを紹介した。



【3年 ナシ農家の見学】

■ 事業の成果

- ・ボランティアグループ「ブックんの会」による読み聞かせは、継続的に続いていることで、子ども達の読書の習慣化や質の向上につながっている。また今年度は、低学年・中学年・高学年に分かれて「お話の会」を実施していただき、より読書に対する意識の向上につながった。
- ・地域を学ぶ、地域で学ぶ、地域の人から学ぶ活動を通して、郷土愛の育成につながっている。子ども達は、学んだことや考えたこと、実践したことをまとめ、11月の「くすのきまつり」で、保護者や地域の方々、招待したゲストティーチャーの方々に発表することができた。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・登録の名簿を年度ごとに見直し、異動等で教職員が代わっても、継続的に地域との連携がとれるような体制づくりが必要である。
- ・地域学校協働活動について、保護者や地域への広報活動をより充実させ、新たなボランティアの人材の掘り起こしを進める。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（担任）

報告書記入者（地域連携担当教職員）

地域の教育力を結集し、「地域と共に歩む学校」をめざして

東近江市	活動名：愛東北小学校地域学校協働本部	愛東北小学校	学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに <input checked="" type="checkbox"/> 印 開始年度：平成26年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：38人 <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 []			

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

① 読み語り活動

本校では、読書ボランティアの方によって行っている。全学年を対象にした読み語りがあり、毎月1回、朝の始業前にある。子どもたちは、ボランティアの方による読み読みの日を心待ちにしており、朝、当番が控え室に迎えに来る。本や絵本や紙芝居など、工夫した読み語りをしていただいている。読み読みの後、ボランティアの方々と交流の時間をもち、お互いの工夫点などを学び合い、常に良いものにしていただいている。



【 全校読み聞かせ 】

② 5年生「たんぼのこ」体験学習

本校は、NPO法人「茗荷村」、集落の農業法人、ボランティアグループ等の方々の協力を得て、「たんぼのこ」の学習が進められている。

農村地域であっても、最近では農業体験が少なくなっている中、この体験は貴重な学習の場となっている。田植え・稲刈りはもちろんのこと、稲の生長を観察する学習を通して、米作りの苦勞と喜びを味わうことができた。お米の収穫後には、「感謝の集い」を開き、ご協力いただいたボランティアの方を招いて学習の成果を発表し、収穫の喜びと感謝の気持ちを実感する機会を持った。



【 たんぼのこ・稲刈り 】

泥だらけになった田植えや上手に鎌が使えた稲刈りなど、よい体験ができた。

③ 3年生の町探検学習への支援・補助

社会科の学習として、自分たちの住む地域を知る町探検に出かける。学級担任だけでは地域の歴史や文化について十分な指導が行き届きにくく、児童の学習効率や安全面での留意を図るための手立てが必要となる。そこで、ボランティアを募り、地域の歴史をよく知る方に協力いただき、それぞれの場所で歴史的な側面から地域の成り立ちなどについて学習ができた。子どもたちとボランティアの方と和やかな交流ができ、子どもたちの充実した表情が見られた。

■ 実施に当たっての工夫

- ・関わっていただく地域の方々と学校との、お互いの負担にならない適度な距離感を保つように努めている。
- ・学校への地域住民の関心や思いが高まるよう、ボランティアの人数が増えるように努めている。
- ・コロナ感染防止対策は緩和の方向ながら、読書ボランティアの方には、ご協力いただき、検温、体調管理、手指消毒、マスク着用等の各自での対策をお願いしている。（アクリル板は設置しない。）

■ 事業の成果

- ・ボランティアの支援により児童の学習効果が上がり、学習への励みになっている。
- ・子どもたちが地域の方と交流する中で、学校外での出会いやつながりの輪が広がっているように思われる。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・子どもたちの学習を充実するため、学校と地域コーディネーターの連携を、さらに密にするよう努める。
- ・効果的な活用を進めるために、地域の人材バンクの策定や人材発掘を図るようアンテナを高くしていく。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

- ・当本部では、学校の依頼に対し、情報などを集約的に持っておられる所への協力依頼を第一歩としている。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（学級担任）

報告書記入者（地域連携担当教職員）

地域の力を集めて育てる子どもたち

東近江市	活動名：湖東第一小学校地域学校協働本部	湖東第一小学校 学校運営協議会	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成25年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：60人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 ■学校周辺環境整備 ■学びによるまちづくり ■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） □地域行事への参加 □ボランティア・体験活動 ■郷土学習 ■その他〔夏休み子どもの居場所作り〕			

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校・園 □学校運営協議会 ■地域学校協働活動推進員等 □行政 □その他（ ）

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

★「昼休みお話し会」の開催

朝読書に加えて、ボランティア有志による拡大版読み聞かせ「昼休みお話し会」が、夏と秋に2回開催された。読書ボランティアからの発案で、計画、準備、実施とすべてボランティアの皆さんの手で行われた。教育課程編成上、読書の時間の制約がある中で本に親しむ時間を確保し、読書好きを増やしたいという願いから始まった。第1回はテーマを「夏」、第2回は「ハローウィン」と決め、本の選定は勿論のこと、会場となる会議室の飾りなども工夫して取り組まれた。読み聞かせを中心に、素話、ブラックシアター、手話で歌、手品と多様な内容が盛りこまれた。昼休みの時間帯で自由参加にも関わらずたくさん子どもたちが集り、お話し会を楽しんだ。



【ボランティアの昼休みお話し会】

★夏休み期間中の子どもの居場所作り（地域学童保育開催）

湖東中学校校区3小学校の地域コーディネーターが中心となり2週間にわたり夏の居場所作りとして取り組んだ。子どもの見守り役をはじめやゲストティーチャーを地域の人々から募り、木工教室、革細工教室、昔の遊び体験などを日替わりメニューで計画し、子どもたちが日頃できない体験を準備した。

★地域学習と夏休み湖東地区見学会

湖東地区では、6年生国語科「まちの未来を考える」を小学校での地域学習の総決算として位置づけ、地域を知り、自分たちのまちの未来を考える学習として地域コーディネーターの積極的な支援の下で発展的に取り組んでいる。また、この学習の事前学習として、参加者を募って湖東地区の良さを体験的に知ってもらうための夏休み校外学習も行っている。本年度は地区内にある「サントリーフラワーズ」「クレフィール湖東」そして農地とつながりが深い「永源寺ダム」で現地見学学習会を行った。



【地区の魅力を探るクレフィール湖東見学】

■ 実施に当たっての工夫

- 湖東中学校校区の地域コーディネーターが絶えず連携して情報交換し、計画や立案、地域の協力や支援を得て、夏の居場所作りや地域学習の支援に取り組んだ。
- 地域学習の協力を得るために、地元企業や関係機関および協力者との連絡や打ち合わせをていねいに行った。
- 「まちの未来を考える」の学習に当たっては、学んだこと、考えたことを返す場としてゲストティーチャーへの報告会までを企画した。

■ 事業の成果

- 読書ボランティアの皆さんによる自発的なお話し会が学校側の負担なく開催できた。集まった子どもたちはお話しを熱心に聞き入り、本の世界を楽しむことができた。
- 夏休み中の2週間と期間限定ながら子どもの居場所作りができ、保護者に「子どもの安全と安心の場」が提供できた。また子どもたちにとっても普段の学校や家庭ではできない体験や活動ができたり、新しい友達ができたりと収穫多い夏休みを過ごすことができた。
- 毎年のPTA環境整備作業・グラウンド除草については、昨年度本校のグラウンドが芝生化され、植え付け以降その維持管理は地元の少年サッカークラブに協力を得ている。従来地域の方々にもボランティアを募る一大行事だったが、芝生化と地域団体の協力でグラウンド作業について省力化が図れた。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

6年生国語科「まちの未来を考える」をきっかけとした地域学習は、国語科の教科書の単元に加えて、総合的な学習の時間ともリンクしての学習であった。また6年間の生活科や社会科の地域学習の総まとめとしての意義がある内容でもあったが、来年度以降の教科書にこの単元がなくなり、時間の制約や内容の軽減が心配される。少子高齢化が進む中で地域に生きる主体性を持った子どもたちが育てるためにも今後も大事に取り組みたい。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校長 ■教頭 ■地域連携担当教職員 ■その他（湖東中校区内の地域コーディネーター）

報告書記入者（地域学校協働活動推進員）

地域で育てよう！ いきいき湖二っ子

東近江市	活動名：湖東第二小学校地域学校協働本部	湖東第二小学校 学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成23年度 地域学校協働活動推進員：1人（兼務1人） ボランティア登録数：38人 ■学習支援員を配置した学習支援 ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 ■学校周辺環境整備 □学びによる町づくり ■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） ■地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他 []		

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校 学校運営協議会 ■地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

① 「ボンぽんの会」による読み聞かせボランティア

毎月第2火曜日の朝読書の時間に、絵本の読み聞かせに来ていただいております。10年以上継続している取組である。紙芝居による読み聞かせや季節に応じた選書を工夫していただき、子どもたちは大変楽しみにしている。



【1、2年 計算ボランティア】

② 総合的な学習や生活科での地域学習

「ふるさと学習」として、地域の特色ある場所や偉人、働く人などについてお話をいただいたり、また、地域の施設を見学に行ったりさせていただいた。1月には「ふるさと学習発表会」を開催し、児童はこの学習で学んだことを他学年の児童や保護者に向けて発表した。

③ 学習支援ボランティア

11月に低学年の計算（たし算、ひき算、九九）の定着のための計算ボランティアや家庭科のミシンを使った裁縫の支援ボランティアを地域の方に呼びかけ、協力いただいた。また、一学期の音楽会に向けて、器楽演奏の支援や合唱のピアノ伴奏を協力いただいた。



【3年生地域のお仕事体験】

④ スクールガード

今年度は39名の方に児童の登下校の見守りをお願いしている。スクールガードの半数はPTAであるが、仕事をされている方も多いため、毎日当番制で下校の見守りをしてくださる地域もある。

■ 実施に当たっての工夫

各教科等のねらいを確かめ、行事や特別活動、生活科や総合的な学習の時間との関連を見直しながら、授業時数の精査や発展的な学習活動に取り組んでいる。（例：3年総合の地域学習での大工さん体験と図工科の木工作品作り）

■ 事業の成果

① 学習支援ボランティア

- ・保護者、地域の学校理解が深まり、学校・地域相互の様子についても交流をすることができ、開かれた学校づくりの一端となっている。
- ・地域のボランティアの方々は、子どもたちとつながることによって、エネルギーをもらえると喜んでくださっており、複数のボランティアに参加してくださる方もおられる。また、数年にわたって協力いただいている方の中には、児童の名前や性格などをよく理解してくださっている方もおられ、個々の児童に応じた声かけや関わりをしてくださっている。

② ゲストティーチャー

- ・学習ニーズに合わせて、専門的な知識や技能を持っておられるゲストティーチャーを積極的に招くことで、教育効果が高められた。地域の方も、子どもたちに少しでもふるさとのことを学んでもらおうと、丁寧に指導してくださっている。
- ・地域で学ぶ、地域を学ぶ「ふるさと学習」が推進され、地域との結びつきが強くなり、子どもたちに郷土愛が培われている。

③ 環境ボランティア

- ・9月のPTA環境整備作業の日に合わせて、環境整備ボランティアを募っている。前庭の松等の剪定や校舎周辺の草刈りをしてくださり、校地内の美しい環境整備への支援をしていただいている。

④ 地域とともにある学校づくり

- ・学校評価の保護者アンケートでは、「学校は地域学習や体験学習に取り組んでいる」という項目に対し、95%の方が肯定的な回答をしている。これは、地域の方が主体的に学校支援に向けて取り組んでくださったことにより、地域学習（ふるさと学習）を充実させることができたからだと考える。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・年度末に地域コーディネーターと地域学習の内容の精選をしたり、校外での学習時期の調整をしながら年間計画を見直したりし、次年度に誰が担任になってもスムーズに連携できるような記録を残していく必要がある。
- ・ボランティアの方との連絡調整や地域の情報提供等が過重負担にならないように、地域コーディネーターの複数配置についても検討していきたい。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校長 ■教頭 ■地域連携担当教員 ■その他（教務主任）

報告書記入者（教頭）

「変貌する地域再発見」と「まちづくり」を意識した活動へ

東近江市	活動名：湖東第三小学校地域学校協働本部	湖東第三小学校 学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成30年度 地域学校協働活動推進員：1人 ボランティア登録数：26人 <input type="checkbox"/> 学習支援員を配置した学習支援 <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書環境整備） <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input checked="" type="checkbox"/> 学びによる町づくり <input type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input checked="" type="checkbox"/> その他〔キャリア教育・平和学習・地域学習など〕		

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

- まち協歴史文化プロジェクトと連携して、2年生の生活科「まちたんけん」3年生の社会科「地域学習」において、より広がりや深みを持たせた。コーディネーターも積極的にその方針に参画して、昔の生活『愛知井を辿る』を意識した「まちたんけん」とした。
- 本年度も読書ボランティアグループ『あめんぼ』が定期的に学校に集まり、パネルシアターや紙芝居の制作、稽古・打合せを実施する等、熱心な取組状況である。昼休みに定期的に発表活動をしている。『朝読書』には、一般の読書ボランティアも巻き込んで、毎月の「読み語り」も実施した。昼休みの「お話会」はコロナ以降、今年も学年単位で実施するように工夫した。
- 1年生の生活科「秋みつけ」で、今年も「すこやかなの杜グランドゴルフ場」の全面的な協力を得て、工作指導等もお世話いただき、今年も深みと広がりのある活動になった。ドングリもたくさん拾うことができ、植樹体験もできて、満足感も大きい。
- 2年生では、今年も清水芋（里芋）掘りが実現できた。掘り起こした芋は、すべて自分たちが持ち帰るということが、楽しみをさらに深めた。子芋をはがす作業を楽しめた。
- 6年生では、今年も湖東地区小中学校のコーディネーターが互いに連携して、6年生教材「町の未来を考えよう」に関して、総合的な学習の時間に発展させる取組を行った。小学校ごとにプレゼン発表を試みた。5年生に対するプレゼン大会をすることで、次年度への接続を考えた。



【4年生：お話会】



【1年生：秋みつけ】

■ 実施に当たっての工夫

- 2年生のまちたんけん体験学習として、今年も、この地の特産である『清水芋（里芋）』掘りの体験ができた。「植える体験」と「掘る体験」を2回に亘って協力していただき、貴重な体験となった。
- 地域コーディネーター通信を、今年度も月刊で発行した。（通算で85号/1月末で）

■ 事業の成果

- 読書ボランティアやその他のボランティア等が、絡みあって複数の活動へと広がりを見せた。3年生昔の生活学習にも生かされた。
- 担任とコーディネーターが連携することに加え、「まち協」歴史文化プロジェクト・子育て支援PJとの連携も継続した。特に、夏休みの「湖東再発見」多賀でアケボノゾウと天体観測を体験しようの広がりも継続した。
- 1年生の生活科「秋みつけ」では、「湖東地区グランドゴルフ連盟」のスタッフ交代に伴い連携がさらに深まった。
- 『愛知井とともに』を発行し続けている成果として、地域とのつながりがより深くなっている。
- 湖東地区のコーディネーターが連携して、6年生の教材「町の未来を考えよう（国語科）」を手がかりに、実際の「町作り」への提言を行う等、コミュニティースクールへの連続性が生まれてきた。その一環として、各コーディネーターがゲストティーチャーとしても加わった。しかし、来年度から国語で、この教材が消えることが悔やまれる。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- コーディネーターと各担任との連絡調整を行うには、放課後のわずかな時間しかない。限られた時間内で、効果的な学習となるような仕掛けとヒントを共有できるようにするためには、工夫と検討がさらに必要である。年次を追って慌ただしくなる現場では切実である。

■ その他

- 「まち協」子育て支援プロジェクト・歴史文化プロジェクトとの連携も模索した。
- 「まち探検」の実施において、『（一社）湖東まちづくり』のバスが利用できる便宜を図ってもらえると、教育効率も格段に高まり、問題意識の定着（湖東地区が扇状地であることの検証・押立地区との文化的違いなど）にも意義があると思われる。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当教員 その他（各担任）

報告書記入者（地域学校協働活動推進員）

子どもたちにとって安心・安全な居場所づくりをめざして～人とのかかわりを大切に～

東近江市	活動名：能登川東小学校地域学校協働本部	能登川東小学校 学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに <input checked="" type="checkbox"/> 印 開始年度：平成 27 年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：80人 <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 []		

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

- ・地域支援が充実しているものの、高齢者世代と子育て世代がほとんどである。その間の世代も校区の地域力を高める柱の一つとなるようにしたい何が必要か。
- ・数年にわたる新型コロナウイルス感染症による制限もあり、地域との関係や人と人との関係が希薄になってきている。人とつながる力、かかわる力を育てるためにも、地域の人とともに活動することが必要である。

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

【環境整備】

ボランティアさんからの提案で、校舎内外の環境整備を行っている。例年に引き続き、ミシンのメンテナンスを行った。また、家庭科室使用前の清掃・準備をした。

【学習支援】

図画工作科での電動のこぎりや家庭科でのミシンを使う作業や家庭科の調理実習において学習支援を行った。機械操作や電気調理器を使う作業で多くの人が支援することにより、子どもたちが安全に活動できるようにした。

【ゲストティーチャー】

人から直接学ぶ学習や交流体験学習を大切にしている。2年生では生活科の学習でボランティアの方に野菜の苗の植え方を教えてもらった。また、6年生では能体験学習を行い、地域の方から伝統文化を学んだ。実際に面を見つけてもらったり、目の前で演じてもらったりして、貴重な体験となった。3年生では地域で働く農家の方からお話を直接していただき、自分の住む地域の農業の様子を学ぶことができた。



【 野菜の苗の植え方 】

■ 実施に当たっての工夫

- ・年度当初に各学年と打合せを行い、1年間の見通しをもって、計画的に活動できるようにしている。
- ・推進員のネットワークやボランティアさんとのつながりを活用しながら、学校支援の輪を広げるとともに、お互いの交流を大切にしている。

■ 事業の成果

- ・今年度も、新たに登録して下さったボランティアさんもあり、活発に活動できた。コロナ禍でこれまでできなかった活動ができるようになり、地域の方とたくさん関わることができるようになってきた。これからもできるかかわりを考え、子どもたちにとっての安心・安全な居場所づくりをしていきたい。



【 実際の農場見学・収穫体験 】

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・学校がめざす子ども像との関連を明確にし、そのために教育活動の中にどのように位置づけ、活用・運用していくかの熟議が必要。
- ・学校をさらにオープンにし、家庭・地域との風通しをよくし、「連携」「つながり」を大事にしたい。
- ・人から学ぶことを大切に、人とかかわる力・つながる力をつけたい。（教師も）

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（ ）

報告書記入者（ 地域連携担当教職員 ）

「郷土を愛し、心豊かで、ふるさとを大切にする子」をめざして

東近江市	活動名：能登川西小学校地域学校協働本部	能登川西小学校 学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成29年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：約60人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 ■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり ■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） □地域行事への参加 □ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他 []		

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

(1) ふるさと発見

2年生「町探検」、3年生「校区探検」、5年生「みずっこ調査隊」、6年生「キャリア教育」において、地域の自然や歴史を学んだり、地域で活躍される方の話を聞いたりした。自分の地域に愛着や誇りをもって、主体的に学ぶことができた。



【 2年生 伊庭 謹節館を学ぶ 】

(2) 校地環境整備作業および園芸ボランティア

環境ボランティアを募集して、児童とともに、学級園に苗を植えたり、草取りをしたりした。花や作物の成長を観察し、自然の恵みに触れることは児童にとって大事な活動であった。

(3) マラソン見守りとさわやかロードボランティア

ボランティアを募集して、マラソン試走日とマラソン大会で、マラソンコースでの児童の見守りをお願いした。沿道に立って声援を送りながら見守りをしてくださり、子どもたちの励みになった。朝の交通立番やあいさつ運動にも協力いただき、日々の安心につながっている。



【 5年生 裁縫の学習 】

(4) 学習支援

5、6年生での家庭科裁縫の学習の補助、図画工作科の糸鋸作業の補助などに入っただき、スムーズに作業を進めることができた。

(5) 図書ボランティア

朝の読書の時間に読み語りをしていただいた。月に数回の取組ではあったが、ボランティアの方が来てくださる日を心待ちにしている児童の姿があった。

■ 実施に当たっての工夫

- ・1学期末に「本部事業のお知らせと学校支援ボランティア登録のお願い」文書を全戸配布し、学区の方々に理解と協力が得られるようにした。今年度も新規登録の方が数名あり、新たな活動につながっている。
- ・今年度は、西小学校区地域教育協議会との連携会議が再開でき、そのネットワークを活用して支援者を広げている。
- ・学期当初に各学年と打合せを行い、年間の見通しをもって活動できるようにしている。

■ 事業の成果

- ・地域コーディネーターのおかげで、内容も広がり、持続可能な事業が進められている。
- ・自分たちの地域を知る活動につながり、郷土を愛し、大切にしたいと思う心が育っている。
- ・地域の方々の協力により子どもたちが「ほんもの」の体験をして「感動」を得られること、多くの人と関わり、またいろいろな人から認められる場面があることで、子どもたちの自尊感情が高まっている。さらに地域が好きになり、地域のために役に立ちたいと思う子どもが増えている。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・地域コーディネーターの役割の大きさを感じている。西小学校区地域教育協議会との連携も大切にし、丁寧に引き継ぎを行い、支援者を募り、子どもたちの自主的な活動となるようにしていきたい。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校長 ■教頭 ■地域連携担当教職員 □その他（ ）

報告書記入者（ 教頭 ）

地域に感謝 子ども応援隊

東近江市	活動名：能登川南小学校地域学校協働本部	能登川南小学校 学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成 28 年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：158人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） <input type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 ■学校周辺環境整備 ■学びによるまちづくり ■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 ■郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 []		

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

（1）「猪子山活動」

本校は、猪子山の麓にあることからこの里山を身近な教材として、全学年が年間を通して、下記のねらいのもと活動に取り組んでいる。

- ・四季折々の美しさを見せる猪子山に関わることで郷土の自然の豊かさを体感し、身近な自然を愛する態度を養う。
- ・仲間とともに活動することで、思いやりや助け合いの心を養う。
- ・活動を支援してくださっている方々への感謝の気持ちを養う。

活動には、保護者を含め地域のボランティア、外部講師、地域の有識者等、たくさんの方々が関わってくださっている。



【 猪子山活動 】

（2）「車いす体験」

本校5年生は、「総合的な学習」の時間の中で「車いす体験」を行っている。児童が車いすを押したり、乗ったりする体験を通して、障がいのある方やそのサポートを行う方の気持ちを共感的に理解し、望ましい行動について考えることができるようにと、地域ボランティアの力を借りながら実施している。



【 車いす体験 】

■ 実施に当たっての工夫

猪子山活動は、本校の環境教育（エコ・スクール）の中心となる活動である。全校24の縦割り班をさらに2分し、ボランティアの数も増やして安全に活動できるように工夫し実施した。そのためボランティア一人当たりの児童数も少なくなり、目が行き届き児童を把握しやすくなり、児童の安全確保ができた。

■ 事業の成果

今年度は、コロナ5類感染症移行になり、地域の方とともに活動する機会も増えた。芝生管理作業や各学年の地域学習への協力・参加、および安全確保に関する取組等をしてくださる地域の方々の姿を見て、子どもたちは感謝の気持ちを深めることができた。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・地域ボランティアの高齢化に伴い新規ボランティアの募集、組織の充実（学生ボランティア、民生委員等）課題である。
- ・いかに地域と連携した活動を取り入れ学習効果をあげるか。また、新たな連携・協働の在り方を探っていく必要がある。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（各活動担当）

報告書記入者（地域学校協働活動推進員）

地域と共に歩む学校「くりみのこ」

東近江市	活動名：能登川北小学校地域学校協働本部	能登川北小学校 学校運営協議会：■有 □無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成 29 年度 地域学校協働活動推進員等数：1 人 ボランティア登録数：33 人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 ■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり □地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） □地域行事への参加 □ボランティア・体験活動 □郷土学習 □その他 []		

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園
 学校運営協議会
 地域学校協働活動推進員等
 行政
 その他（ 学区地域教育協議会 ）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

今まで行ってきた事業をふまえて、年度初めにどのように連携していけばいいのかを話し合った。
 地域と家庭と学校で、どんな子どもを育てていきたいかを共有することが大切であると確認した。

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

大きなかぶ La さんによる読書活動「読み聞かせ」「ちょっと豪華なお話会」
 学習ボランティアによる支援「ハウス栽培の整備やノウハウ」
 「裁縫やミシン」「米作り」
 環境ボランティアによる校地内整備「剪定」「草刈り」
 安全ボランティアによる見守り「登下校」
 学区地域教育協議会、体育振興会、PTAの協力による「くりみフェスタ」開催



【 田植え体験 】

■ 実施に当たっての工夫

PTA活動と協同し、剪定・除草作業を行った。
 また、PTA活動だけでは手に負えない剪定・除草作業も定期的に担った。

■ 事業の成果

ボランティアの顔合わせの場を設けたことで、年間の活動の見通しがもて連携しやすくなった。
 多くの方が登録していただいたおかげで、児童の安全確保、役員や職員の負担軽減につながった。



【 ちょっと豪華なお話会 】

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

児童の人数の減少に伴い、保護者（PTA）の人数も減る中で、地域の協力が
 必要不可欠になってくる。そのための話し合いも必要となる。
 素早い連絡・応答ができるように、コドモン（学校配信メール）への登録をお願いする。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

能登川北小学校 110 周年に向けて、準備を進める。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長
 教頭
 地域連携担当教職員
 その他（ 担任、事務 ）

報告書記入者（ 地域連携担当教職員 ）

蒲生の子は蒲生で守り育てよう。地域の教育力を結集し蒲生東小学校を支援しよう。

東近江市	活動名：蒲生東小学校地域学校協働本部	蒲生東小学校 学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成20年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：17人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 □学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり ■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） □地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他 []		

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

- 学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等
行政 その他（ボランティアグループ三弓会）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

コミュニティ・スクールを昨年度より導入し、各委員がそれぞれの分野で意見交流を行い、子どもたちにつけたい力について熟議をすすめた。今年は「人をつなぐ」「地域をつなぐ」ことについて熟議をすすめ、「防災」を窓口に何かできないか意見交流を進めているところである。

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

「生活科」や「社会科」「理科」「総合的な学習の時間」などで、地域教材を生かしたり、体験活動をもとにして学んだりする活動などで、地域住民ならではの経験をいかしたゲストティーチャーや学習支援・安全支援等を実施している。

マラソン大会の走路の安全管理と立哨は、ボランティアですべて行っており、試走を含めて3回のタイム測定が実施できている。ただ、現在利用している中高学年のマラソン大会のコースの一部が道路拡張事業と重なり、次年度以降のマラソン大会のコースや実施できるかどうかについては今後の課題である。

■ 実施に当たっての工夫

平成13年に発足したボランティア「三弓会」を母体に伝統的な支援活動を継続している。「できる人が、できるときに、できることを支援する」「人から強制されるのではなく、自発的意思に基づいて行う」「先生や子どもと一緒に活動し、学校をよりよくしていく活動にしよう」「ボランティア自身の経験や専門性を活かそう」という考えを基本に、少しずつ支援の輪を広げながら活動を続けている。今年度も学校の方針通り、子どもたちの体験活動を実施すべく、支援を続けてきた。

毎月定例のボランティア会議では、学校から提案された支援計画をもとにして、参加者等を決めている。実施した活動について反省を出し合っている。また、2～3カ月先を見通して参加者を募っている。今年度も学校だより等を利用し、ボランティアの参加を募りボランティアの輪を広げる取組も続けていく。

■ 事業の成果

地域の方々の専門性や技能を生かした支援や安全への配慮をしていただき、豊かな学習活動を展開することができている。また、地域住民が学校の教育活動に関わることで、地域の絆が深まり教育力が向上し、郷土愛を培うことにもつながっている。

子どもたちは、ボランティアの専門的な知識や技能に触れたり、多様な体験の機会を得られたりすることによって、学習意欲が喚起され、自ら問題を解決しようとする意欲を高めることができている。ボランティアの方々とも顔なじみになり、親しみを感じながら感心して活動している。

子どもたちの学びを感じながら、蒲生東小学校の地域の資源や教育力をいかした特色ある教育活動の推進に寄与していることが、ボランティアの誇りでもあり、郷土愛を高めることにもなっている。

恒例となっている活動への支援については、参加されるボランティアの方々の内容をしっかりと把握して参加され、ボランティア会議で振り返りを行い、次年度の活動に生かすという流れができている。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

地域の良さを感じながら作り上げられてきた蒲生東小学校の学習活動を継承するため、新しいボランティアの参加や育成、ボランティアに求められる新たなニーズへの対応が課題となっている。毎月のボランティア会議への参加は難しいが、できるところで支援したいという方がおられると考えている。広くボランティアを募集できるシステム作りが期待される。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

昨年度より学校運営協議会が立ち上がった。この活動がさらに発展できるよう、コミュニティセンターやスポーツ少年団、PTA、民生委員児童委員等の地域で活動されている方と連携を深める大変貴重な機会となっている。



【マラソン大会の立哨】



【3年生 まちたんけん】

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

- 校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（ ）
 報告書記入者（蒲生東小学校地域学校協働本部長）

蒲生の子は蒲生で守り育てよう

東近江市	活動名：蒲生西小学校地域学校協働本部	蒲生西小学校 学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成20年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：27人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 ■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり ■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） □地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他 []		

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校・園 □学校運営協議会 □地域学校協働活動推進員等 □行政 □その他（ ）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

- 「蒲生の子は蒲生で守り育てよう」というキャッチフレーズのもと、児童は地域の一員であることを念頭に、学校からの要請を受けて活動している。児童の下校時には、各地区の方々により「下校見守り」を継続的に実施している。
- 「田んぼの学校」や「総合的な学習の時間」の取組では、学校支援ボランティアに協力してもらい学習指導をおこなっている。また、地域の特性に応じたゲストティーチャーを招き、地域から学ぶゲストティーチャー授業をおこない、「ふるさと蒲生」を意識していく地域学習の場としている。このことで地域の教育力も高められている。
- 地域の方々の経験や専門的な知識・技能を活用する場を広げ、子どもたちとのふれあいを通じた地域社会全体の教育力の向上を構築し、地域の活性化に結び付ける。学校支援ボランティアも子ども、学校、すべてがWinWinな関係でいられるように意識して取り組む。

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

- 2年生の生活科「野菜を育てよう」では、野菜栽培に詳しい学校支援ボランティアさんに種まきから収穫までの期間、長期にわたって指導・助言をいただきながら学習活動を進めた。学校支援ボランティアさんへ感謝を伝える「ありがとうの会」にもご参加いただき、子どもは相手意識のある活動に積極的に取り組んだ。
- 5年生の家庭科「裁縫・ミシン」の学習では、学校支援ボランティアさんに補助をしていただき、個々に応じた指導助言により技術習得の充実につながった。
- 毎週金曜日の朝学習において読み語りを実施している。学校司書と5名体制で各クラスにて読み語りをさせていただいている。

■ 実施に当たっての工夫

- 学校支援ボランティアを広く地域に募集し、応募いただいた方を中心に活動を行った。
- 年度始めに「ボランティア会議」を行い、活動の予定や活動内容の紹介、学校支援ボランティア同士の交流を図り、初めて参加いただく方にも趣旨等ご理解いただきながら、参加いただけるようにした。



【 5年 田んぼのこ 収穫感謝祭 】

■ 事業の成果

- 地域の学習を通して、地域理解が深まると共に、地域の様々な事象について学んでいこうとする態度が育ってきている。
- 昨今地域での関わりが減っているなか、学校以外の方（地域の大人としての学校支援ボランティアさん）との関わりが持てる機会として貴重な場となっている。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ボランティアの方の高齢化による負担感があるため、保護者や地域の学生の方へのボランティア募集を継続して行う。
- 地域に広くボランティアを公募し、継続して安定的な人材確保に努める。



【 2年 野菜の種植え 】

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校長 ■教頭 ■地域連携担当教職員 □その他（ ）

報告書記入者（ 地域連携担当教職員 ）

地域の文化・歴史・人を知り、ふるさとをもっと好きになろう

東近江市	活動名：蒲生北小学校地域学校協働本部	蒲生北小学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成20年度 地域学校協働活動推進員等数：1人（兼務1人） ボランティア登録数：60人 <input type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input checked="" type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 []			

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

今年度は、『学校支援ボランティア募集』をどのような形で行うのかについて熟議を行った。児童の9割が新興住宅地から通っている本校は、地域との関わりが年々希薄になっている。地域の方々にとっても、学校の課業時間にはお勤めがある方も多い上、ここ数年のコロナ禍により、学校への敷居が高くなっているのではないかと考える。子どもたちにとってボランティアの方との関わりは、先生や家族以外の大人と接する貴重な時間であり、また関わりを持ってくださるボランティアの方にとっても、子どもとの関わりが、新しい学びや気づきに繋がる大切な取り組みであると感じている。

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

<ふるさと発見学習>

2年生の生活科において、地域の公民館や農家に出向き、子どもたちから疑問を投げかけ、それに対して、丁寧に答えていただいた。また、コミュニティセンター館長を学校にお招きし、施設の使い方や住民への対応などの話を聞いた。

4年生の総合的な学習「日野川探検」では、地域におられる専門的な知識をお持ちの方から、日野川に生息する生きものの話を伺った。昨年見つけられなかった生物の発見などもあり、子どもたちがワクワクする時間となった。

<引き渡し訓練>

全校一斉での引き渡し訓練を行った。運動場の駐車場係や子どもを保護者へ引き渡すなどの役割を地域の方にお助けいただいた。前年度、学校運営協議会で熟議・検討を重ねた取り組みを生かすことができた。



【 2年生生活科
：まちのすてきはっぴょう会 】

■ 実施に当たっての工夫

学校運営協議会の運営については、参加者全員で、前もって時間の確認をし、参加人数の確保に努めた。

田んぼの学校の事業についてのボランティア募集については、事前に地域の自治会長へチラシを持っていき、来てくださる方を紹介してもらった。



【 4年生総合的な学習：日野川探検 】

■ 事業の成果

地域の方々各自が自分たちの学習のために時間を割いて来てくださるということは、自分たちが、地域にとって、とても大切な存在だと認識でき、自己有用感に繋がる大事な時間だと感じている。

また引き渡し訓練など、防災に関わって、地域の方に学校が行っていることを知ってもらっておくことは、いざという時に人と人の繋がりにも必ず役に立つと考える。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

『ボランティアを地域に呼ぶ』というよりは、『学校に地域の人を入れる・子どもと地域を関わらせる』という仕掛けがづくりを考えていくのが、今後の学校運営協議会の役割で、『防災』を通して、学校と地域が繋がれるような取組等について、今後さらに考えていきたい。また、『地域人材をどれだけ発掘できるか』、についても、本校にとって大きな課題だととらえている。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

学校運営協議会で熟議を重ねたが、主となる取組があった方が運営が分かりやすいのではないかと意見もあったため、学校に関わる他団体（PTA・後援会など）と協働して、コロナ禍で立ち消えてしまった「通学合宿」や「防災キャンプ」の復活についても前向きに検討していきたい。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（教務主任）

報告書記入者（地域連携担当教職員）

地域文化の継承、地域とのつながりをめざして

東近江市	活動名：玉園中学校地域学校協働本部	玉園中学校	学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成28年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：6人 <input type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input checked="" type="checkbox"/> 部活動支援 <input type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input checked="" type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 []			

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

- 玉園中合唱コンクールにおける八風太鼓の演奏
太鼓演奏が伝統となりつつある。本年度は、全校生徒から太鼓演奏を希望する者を集めて、演奏者を抽選で決定した。地域の先輩方に指導をしていただき、地域文化の良さを実感することができた。このことで、より地域との関係が深まり、地域の方とのつながりが深まりつつある。
- 部活動（ソフトテニス）の指導において、地域の方から専門的な技術指導をしていただいている。
- 地域の文化祭に生徒作品を展示し、学校での学習活動の成果を地域の方に見て頂く機会とした。
- 第1学年において、家庭科授業の一環として地域の方に着物の着付け教室を開催していただいた。



【 八風太鼓練習風景 】

■ 実施に当たっての工夫

- 協働活動推進員や地域のコミュニティセンターと連携をとり、実施可能な内容を検討し共有した。
- 校区内に在住する中学校教育に必要な人材（ボランティア）の発掘につとめる。

■ 事業の成果

- 地域コーディネーターを中心に、地域の伝統文化である八風太鼓の演奏が7年目を迎え定着している。本年度は、全学年から希望者を募集したところ、予想以上に希望者が集まったため抽選を行った。太鼓経験者は3名であったが、コーディネーターやボランティアの計画的な取組により、ステージ発表まで仕上げる事ができた。中学校と地域の関わりを実感できる取組であった。
- 部活動指導で、生徒が専門的な技能指導を受けることにより、主体的な姿勢が育った。
- 学校での学習活動を地域の方に見ていただく良い機会となった。
- 地域の方に学習活動の支援をしていただき、地域の方とのつながりを持つ良い機会となった。



【 地域の文化祭への生徒作品展示 】

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- 「八風太鼓」の取組は7年目を迎え、生徒自身がより主体的に取り組めるよう、玉園中卒の先輩や地域の方が指導を行っている。地域伝統文化の継承、地域とのつながりを感じる点でも意義深い活動である。
- 現在のコーディネーターのように、学校の要望に沿った活動を支援していただけるコーディネーターの後継者が見当たらないこと。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（担当者）

報告書記入者（玉園中学校地域学校協働本部長）

学校と地域が一体となって推進する学校づくり

東近江市	活動名：聖徳中学校地域学校協働本部	聖徳中学校	学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成 29 年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：16人 <input type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input type="checkbox"/> 学校行事支援 <input type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input checked="" type="checkbox"/> 部活動支援 <input type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input checked="" type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input checked="" type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 []			

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

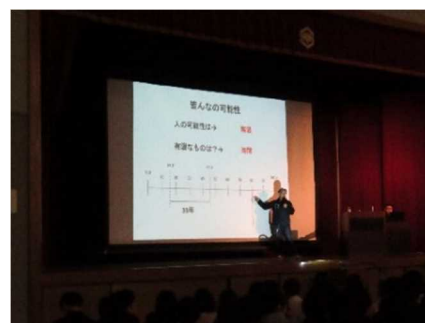
・学校愛や地域愛を育むために地域で活躍されている方と生徒との接点をどのように持つか。

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

- ①図書ボランティアによる読み語りを4月から各学年に定期的に行っていた。
- ②朝の挨拶運動や聖徳中学校の日に参加していただいた。
- ③「聖徳中学校の日」
 - ・「聖徳中学校の名前の由来」について地域の方を講師に招いて母校愛・地域愛を育んだ。（1年）
 - ・地域で活躍されている卒業生の方を講師に招き、「夢は叶う～動けば変わる～」と題して講演をしていただき、この地域で起業した思いや夢を実現するために大切なことなどを学んだ。（全校）
- ④部活動支援は継続的にしていただいている。

■ 実施に当たっての工夫

- ①様々な行事について保護者・地域にも呼びかけ参観を募った。
- ②吹奏楽部は地域（各コミセン）等の行事に積極的に参加した。
- ③挨拶運動、読み語りは、計画的に実施した。
- ④「聖徳中学校の日」について、講師について十分に検討し実施した。
- ⑤生徒会役員が、地域で開催される「中学生と大人のしゃべり場」に参加し地域との交流を深めた。



【 聖徳中学校の日 講演 】

■ 事業の成果

- ①読み語りは、何年も継続して実施しているので、生徒の反応も良く効果は大きい。
- ②挨拶運動は、生徒会が行う日、PTAが中心に行う日、民生委員さんが実施して頂いている日（放課後）等活動が広がってきている。
- ③「聖徳中学校の日」は、生徒に母校愛や地域愛を育むことを願って始まり2年目であり、学校と地域をつなぐ一つの取組になってきた。



【 読み語り 】

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（部活顧問・事務職員）

報告書記入者（ 聖徳中学校地域学校協働本部長 ）

地域と学校が協働し、自然豊かな環境の整備を通して、持続可能な環境づくりを推進する。

東近江市	活動名：永源寺中学校地域学校協働本部	永源寺中学校 学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成 28 年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：4人 <input type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input type="checkbox"/> 学校行事支援 <input type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input checked="" type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input checked="" type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input checked="" type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 []		

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

- ・生徒数の減少によるPTA会員数の減少に伴い、学校環境の維持が難しくなっている。
- ・校地内の木が大きくなりすぎて、落葉や落木による学校環境への影響が出ている。
- ・役員をしていただく方が高齢化し、新たな人材を見つけることが必要である。
- ・中学生が地域行事の司会を務めた。生徒の活動において連携を図ることは大切である。

校地内環境整備

- ・地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）のコーディネートによりボランティアを見つけてくださり、広大な梅林の剪定作業をしていただいた。
- ・地域コーディネーターが地域の会合で呼びかけをしてくださり、地域の方がボランティアで前庭の高木やアジサイ園の剪定・除草に来てくださった。環境面と安全面でとても助かっている。また、地域の方で自主的に校地まわりの除草作業をしてくださる方がおられ、地域の支援の温かさを感じている。

地域学習の講師招聘

- ・永源寺地区の歴史をよく知る方を講師としてお招きし、地域学習講座を実施した。永源寺のもみじ観光や愛知川の様子、中学校の成り立ち等について興味深いお話を聞くことができ、生徒は地域のよさに気づき、より身近に感じる事ができた。



【 地域学習講座 】

■ 実施に当たっての工夫

- ・窓口を校長が担当し、教頭と連絡を取り合い、職員に連絡をした。
- ・活動の実施に際して、事前の打ち合わせを丁寧に行った。目的の共有や配慮を要すること、当日までの準備等について具体的な打合せをした。
- ・事務局を通じて、ボランティア登録をした。



【 ボランティアによる剪定作業 】

■ 事業の成果

- ・教職員のみでは技術的に困難なこともボランティアの方の力をお借りしてでき、立ち枯れしていて危険な木や、校舎に接して光を遮ってしまう木等を自前の機械で伐採していただいた。
- ・地域コーディネーターが地域の会合で呼びかけてくださったことで、地域の方に学校が困っていることが気軽に発信でき、また、地域の方から学校に対しての温かい声援があった。地域の方が学校に来られることで、地域に育まれている学校という意識が生徒と職員に育っている。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・20年以上前に植えられた木が育って、素人には手が付けられなくなっていることから、今後もボランティアさんの協力を得ながら、10年先を見据えた環境整備を継続する必要がある。技術を持った方が少なくなっている。
- ・生徒数の減少により学校職員の数も減り続けることから、持続可能な環境づくりを考えていかなければならない。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（ ）

報告書記入者（ 永源寺中学校地域学校協働本部長 ）

自分よし みんなよし 未来よし でつむぐ地域との連携

東近江市	活動名：五個荘中学校地域学校協働本部	五個荘中学校 学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成 28 年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：16人 <input type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input type="checkbox"/> 学校行事支援 <input type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input checked="" type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input checked="" type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 []		

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（まちづくり協議会）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

今年度より学校運営協議会を設置しコミュニティ・スクールがスタートした。五個荘中学校の様子や生徒の様子を伝え、より良い学校にしていくために、地域に開かれた学校の在り方等について協議をした。

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

① 「五個荘地区総合防災訓練」に多くの生徒が参加

8月26日（土）行われた「五個荘地区総合防災訓練」では11の訓練ブースが設けられ、参加生徒が多くの訓練を体験した。いざという時のために、地域の力になれるように、生徒も積極的に訓練に参加する姿が見られた。

② 「五個荘ふれあい広場」に係る環境整備活動

10月21日に開催された「五個荘ふれあい広場」に向けて駐車場となるグラウンドの除草作業と中央公園の美化活動を地域の方と行った。また、「ふれあい広場」当日も福祉委員の生徒が模擬店のスタッフとして参加した。



【 総合防災訓練の様子 】

■ 実施に当たっての工夫

- ・「総合防災訓練」ではできるだけ多くの体験ができるように、学級ごとにスタートのブースを分散させた。また、スタンプラリー形式にすることで生徒たちも楽しみながら多くの訓練ができた。
- ・草刈り機を使って除草して下さる場所と、生徒が除草する場所を区切ることで安全に作業が進められた。

■ 事業の成果

総合防災訓練に多くの生徒が参加することで、地域の方と触れ合う機会が設けられ、生徒自身の防災への意識と地域貢献の意識が高められた。

グラウンドや中央公園の整備作業では、地域の一大イベントの準備に携わることで生徒も地域とのつながりを感じ地域のイベントの運営について知ることができた。



【 グラウンドの整備作業の様子 】

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

学校の教育活動において生徒が地域とつながりながら活動をするは大変意義深いものであると考えている。またコロナ禍が明け、活動できる内容が戻りつつある中で、生徒にとって有意義な活動になるように内容を吟味する必要がある。今後もぜひ地域とのつながりを意識して活動を継続していきたいと考えている。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

今年度から五個荘中学校でも学校運営協議会が設置された。学校保健委員会に学校運営協議会の方々や生徒も参加し、「生徒の健康」について語り合う機会を設けたり、授業の参観もしたりしていただいている。また、五個荘地区は、青少年育成に関して熱心な地域で、普段から多くの地域の方々に学校生活や防災学習等の行事に協力していただいている。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（主幹教諭）

報告書記入者（教頭）

地域ので、ふるさと愛東が好きな愛東中生を育てよう！

東近江市	活動名：愛東中学校地域学校協働本部	愛東中学校	学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成29年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：8人 <input type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input checked="" type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input checked="" type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input checked="" type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 []			

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

- 地域の素晴らしい自然、歴史、産業、取組、施設等を知り、愛東が好きな子どもたちを地域と学校が協力して育てていく取組を進めた。
- 「総合的な学習の時間」において、地域の人、もの、事業所、施設を活かした地域学習、環境学習、平和学習、職場体験学習、福祉体験学習を実施した。
 - 部活動のボランティア活動として、地域の方々と協働して歩道の花植えなどを実施した。また、保育園でのクリスマス会を企画運営した。
 - 「愛と夢のつどい」で、生徒代表3名の作文発表と生徒会による司会を行った。
 - 家庭の授業で幼稚園での保育実習を行った。
 - 地域コーディネーターの声かけで、雄飛園の剪定を行った。
 - コミセン実施のイベントに生徒がボランティアとして参加した。



【 保育園でのクリスマス会 】

■ 実施に当たっての工夫

- 学校の情報と地域の情報を交流し、入念に打合せをした。
- 不定期ではあるが、コーディネーターと校長が話し合いを持ち、学校の困っていること、地域が学校に望んでいることの情報交換を行った。

■ 事業の成果

- 学校やPTA活動ではできない環境整備ができた。
- 生徒も地域の一人としてボランティア参加し、地域活動の意義を学ぶことができた。
- 全学年で、ふるさと愛東に関わる「総合的な学習の時間」の授業実施により、生徒たちに郷土愛が芽生えるとともに、地域の方々に生徒の様子を見ていただいたり、学校の学習内容を理解していただいたりすることができた。



【 雄飛園整備 】

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- 学校行事や部活動との関係から、日程調整が難しい。
- 学校だより等で学校の活動について発信・周知しているが、コーディネーターと連携して、部活指導やゲストティーチャーなどに携っていただける地域の人材を発掘していきたい。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

生徒達の活動の様子は、メール配信アプリ「コドモン」（保護者向け）で、発信している。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（ ）

報告書記入者（ 教頭 ）

湖東を愛する生徒の育成と地域とともに歩む学校づくりをめざして

東近江市	活動名：湖東中学校地域学校協働本部	湖東中学校	学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成 29 年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：16人 <input type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input checked="" type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input checked="" type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 []			

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

①絵本の読み語り

月1回、学年・学級別にボランティアによる絵本の読み語りを実施している。

②あいさつ運動（登校見守り）

青少年育成市民会議、保護司会、民生児童委員、コミュニティセンター、PTA等との連携により、定期的に朝のあいさつ運動を実施している。

③部活動支援員による部活指導

卓球、バスケットボール部において、地域の部活動支援員による技術指導をしていただいている。

④学校環境整備

PTAによる年2回の除草作業に加え、地域の方がボランティアで除草や剪定作業をしていただいている。

⑤地域行事への参加

地域主催の行事に参加したり、中学生スタッフとして活動したりしている。

⑥地域学習

小学校との連携により、継続した取り組みを進めるとともに、地域への思いを深める取組をおこなっている。



【 絵本の読み語り 】

■ 実施に当たっての工夫

活動の狙いに迫るため、できるだけ地域の方が学校に来ていただく機会を確保した。地域とも連携して、地域イベントへの参加やスタッフとしての活動など、地域での会議を重ねて協議した。

■ 事業の成果

- ・絵本の読み語りでは、生徒が集中して取り組む姿が見られ、一日の学校生活の始まりの時間として、落ち着いた雰囲気づくりができた。
- ・地域学習では校区内の小学校との連携により、継続した取組をおこない、地域を愛する生徒の育成に向けて貴重な学びの機会となっている。
- ・部活動支援員による指導により、部活動における技術向上に成果が見られる。
- ・地域行事への参加により、地域の方に中学生の活躍している姿をみていただくことができ、学校への協力体制も向上してきた。
- ・あいさつ運動の取組には多くの地域の方が参加していただき、地域の子は地域で育てるという理念に基づいた取組が定着しつつある。



【 部活動支援員 】

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

湖東中学校の生徒育成に関わり、地域の各団体と学校との連携を密にするための合同会議等の実施について、地域団体主催で積極的な動きをつくっていただいております。今後は活動の目的や方法などについて協議を重ねていく予定である。

湖東地域は子どもたちの健全育成にかかわる組織が充実しており、地域連携を深めることでそれぞれの立場での思いを共有し、さらに発展させていきたい。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（ ）

報告書記入者（湖東中学校地域学校協働本部長）

地域コーディネーターを中心とした地域人材による学校の環境整備

東近江市	活動名：能登川中学校地域学校協働本部	能登川中学校 学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成 29 年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：29人 <input type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input checked="" type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 []		

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

学校運営協議会という組織がないため、熟議された内容は特にないが、例年、学校行事支援や部活動支援、学校周辺の環境整備などの活動に取り組んでいる。

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

1. 学校周辺環境整備

校地内の草刈りや剪定作業をしていただいている。地域コーディネーターの呼びかけで、毎回4～10人程度の学校ボランティアの方々が作業分担当場所を自分たちで確認し、1～2時間程度の作業を行ってもらっている。PTA奉仕作業と合わせて、校内周辺環境整備に努めてくださっている。



【 校舎周辺環境整備 】

2. 部活動支援

今年度は、柔道部と女子ソフトテニス部の指導にあたっていただいた。技術的指導のみならず、礼儀やマナーの指導など、スポーツを通して「心・技・体」の育成に尽力いただいている。柔道部に関しては、近畿大会出場、全国大会出場など好成績を収めることができた。部活動環境を整えてくださっている。



【 部活動支援（近畿大会の様子） 】

3. 学校行事支援

入学式や卒業式といった儀式的行事の時に、保護者の家用車を止めるだけのスペースが本校にはない。そこで毎年、グラウンドを駐車場として開放している。式当日は教職員もそれぞれの役割分担があるため、駐車場誘導や交通整理に立つことができない。そこで、5名程度の学校ボランティアの方々に来ていただいて、その任にあたっていただいた。

■ 実施に当たっての工夫

地域コーディネーターの方と学校とが事前に「いつ」、「どのような内容を」、「何人で」という点について事前に打合せを行い、地域の方々と本活動について見通しを持った。また、部活動支援については、顧問との連携を密にしながら日々の指導にあたっていただいた。

■ 事業の成果

事業の成果としては、教師の負担が軽減されることで教師と生徒との関わる時間が増えたことである。また、部活動支援については、前述のとおり、近畿大会出場、全国大会出場と好成績を収めることができた。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

生徒と関わる場面が部活動支援に限られているため、日常の学習活動の中で生徒と地域の方々に関わる場面が展開できていないこと。

地域コーディネーターの方と活動の見通しを持ったとは言うものの、目指す学校像や学校教育目標を共有化するという点が不十分であったこと。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（ ）

報告書記入者（ 教頭 ）

地域ので心豊かにたくましく育まれる蒲生の子どもたち

東近江市	活動名：朝桜中学校地域学校協働本部	朝桜中学校	学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成20年度 地域学校協働活動推進員等数：1人（兼務1人） 協働活動支援員：4人 <input type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input type="checkbox"/> 学校行事支援 <input type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input checked="" type="checkbox"/> 部活動支援 <input type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 []			

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

部活動支援

- ・外部コーチ（協働活動支援員）の方に来校いただき、剣道部、サッカー部、バレー部、コンピュータ部の指導をしていただいた。



【 剣道部の指導の様子 】

■ 実施に当たっての工夫

- ・部活動顧問と部活動支援員との情報共有の実施
- ・専門性を生かした指導と練習メニューの作成補助、顧問のサポート

■ 事業の成果

- ・優れた指導により、技術面はもとより、精神面においても生徒の能力が向上した。
- ・能力が向上することで、部員一人一人に自信が芽生えた。
- ・大会遠征時の支援により、安全が確保され安心につながった。



【 コンピュータ部の大会参加の様子 】

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・指導の時間がさらに確保できることが望ましい。
- ・働き方改革を踏まえて、さらに多くの部活動において同様の指導が実施されることが望まれる。
- ・部活動のよりよい在り方を、地域・支援員・学校で継続して検討していくことが必要である。
- ・地域コーディネーターの方とは、様々な課題や今後の活動について指導や助言及びご協力をいただきたい。
- ・地域ボランティアの活用について検討していく必要がある。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（ 部活動顧問 ）

報告書記入者（ 教頭 ）

One Team 柏原 「はびろの里未来コミュニティ」

米原市	活動名：柏原学区地域学校協働本部	柏原小学校・柏原中学校 学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成27年度 地域学校協働活動推進員等数：3人（兼務3人） ボランティア登録数：50人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 ■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり ■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） ■地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他 []		

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校・園 ■学校運営協議会 ■地域学校協働活動推進員等 ■行政 □その他（ ）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容を中心に記入ください。）

- ・柏原小学校 はびろウォークの取組に関して、下見の時期や、コースやチェックポイントの場所、地域に関する講話の内容について。
- ・柏原中学校 防災訓練の取組方について、毎年担当者が変わっても継続的に実施できるよう検討した。新しい部活動の創設について。

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

- ・柏原小学校「はびろウォーク」 須川地区を縦割り班に分かれて歩き、地域の方たちや歴史、自然とふれあった。クイズに挑戦するときは、班のメンバー全員で力を合わせ答えを導くことができた。チェックポイントでは学校運営協議会委員やボランティアとジャンケンをするなどの交流ができ、大変盛り上がった。
- ・柏原中学校「地域防災訓練」 10月に本校体育館・校舎等を使って地域防災訓練を行った。今年度は市の総合防災訓練との合同実施であったため、防災にかかわる多くの方と交流ができた。学年別活動では、1年生は避難所の設営、2年生は消防署による消火訓練や救命講習、3年生はかまどベンチを使って炊き出しを行った。



【 はびろウォーク 】

■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

- ・柏原小学校 学校から須川地区までは距離があるため、往路は徒歩だったが、復路は児童の体力面と時間のことを考え、バスでの移動とした。
- ・柏原中学校 大規模災害を想定し、炊き出しはご飯パックとレトルトのカレーライスとした。その簡易さが、生徒にとって取り組みやすいものとなり、割り当てられた仕事に責任を持って取り組むことにつながった。防災関係者との交流もすっかりできた。



【 地域防災訓練 】

■ 事業の成果

- ・柏原小学校 子どもたちは学校外での活動に心弾ませ、のびのびと活動することができた。今年は須川地区での活動で、地域のことを改めて知ったり、より詳しく探求したりすることができた。また、上学年は下学年の子たちに寄り添って歩いたり、皆がクイズに参加できるように声をかけたりすることができ、リーダーシップを発揮するよい機会となった。
- ・柏原中学校 保護者・地域住民のみならず、行政や関係機関と連携しながら実施することで様々な内容を取り入れた事業となった。炊き出しでは生徒が活動の主体となり、災害を自分事として捉えるための貴重な体験となった。また、多くの大人の方の活動を目にすることで防災訓練の大切さを実感することができた。生徒にとっては、将来、地域を担う一員となるんだという意識が芽生える取組となった。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・事業の実施は学校運営協議会委員やボランティアの協力なしでは難しい。また、学校主体となっている事業を学運協主体に変えていく必要がある。そのため、事業内容は臨機応変に変更できる組織作りが必要である。各園校の交流については、コロナ前かそれ以上の取組を実施していきたいので、学校運営協議会と連携し、さらなる情報の共有や熟議が重要である。

■ その他

- ・事業には学校運営協議会委員にも積極的に参画していただいている。こども園は学運教には参画しないが、柏原区では従来から連携をしており、今後もこども園と小・中学校で地域を巻き込んだ実践を行う予定である。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校長 ■教頭 ■地域連携担当教職員 □その他（ ）

（報告書記入者 柏原中学校 校長・柏原小学校 教頭）

「子どもは地域の宝」 ～地域みんなでふるさとを愛する子どもを育てよう！～

米原市	活動名：河南学区地域学校協働本部	河南小学校・河南中学校 かなん認定こども園	学校運営協議会：■有 □無 学校運営協議会：□有 ■無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成27年度 地域学校協働活動推進員等数：4人（兼務2人） ボランティア登録数：130人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り ■部活動支援 ■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり □地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） ■地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他 []			

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校・園 ■学校運営協議会 ■地域学校協働活動推進員等 □行政 □その他（ ）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

- ・地域ボランティアの人材確保のために、どのようにPRするかを検討した。
- ・学校運営協議会主催「河南学区まいばら教育フォーラム」の内容や開催時期、感染症対策について協議した。

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

河南学区は、中山道の宿場町（醒井・番場）であった地域のため、歴史・文化の史跡が多く、小中学校ともふるさと学習に取り組んでいる。その活動には、地域活性化を目的に活動されている「番場の歴史を知り明日を考える会」等のご支援をいただきながら実施している。また、小学校での「ふれあいひろば」では、地域の方々にご協力いただきながら実施している。



【 ふれあいひろば 】

■ 実施に当たっての工夫

- ・学習ボランティアや講師はできるだけ河南学区在住の方々にご協力願うため、地域学校協働活動推進員が人材発掘に努めた。
- ・「河南学区まいばら教育フォーラム」の生徒・保護者の参加を再開し、多くの参加が得られるように努めた。

■ 事業の成果

- ・河南中学校の家庭科の手縫いやマシン縫いの授業では、教員1人ではなかなか目の届かないところを、ボランティアの方々に数時間学習支援をしていただくことで、きめ細かい指導ができ、生徒の意欲につながっている。
- ・音楽科の和太鼓教室では、その道に長けた地域の方5名に演奏指導をしてもらい、1、2年生の連続で学ぶ充実した取組となった。



【 手縫い補助ボランティア 】

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・コロナ禍以降事業が再開されつつある中、かなん認定こども園との活動を検討することができなかった。
- ・各校園とも地域学校協働活動推進員との窓口が管理職に、報償費などの事務作業が学校事務職員に偏る傾向にある。そのため、「地域連携担当教職員」にその職務を任せられる校内体制の構築と、事業全般において地域学校協働推進員との役割分担を明確化することが必要である。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

- ・小中連携による「河南学区学校運営協議会」を立ち上げて5年となる。今年度も、「笑顔いっぱい花いっぱい活動」「笑顔いっぱいあいさついっぱい活動」「笑顔いっぱい学びいっぱい活動」の3本柱で事業の推進を図っている。
- ・学校運営協議会委員には、地域学校協働推進員や社会教育委員が参画し、コミュニティ・スクール事業と地域学校協働推進事業の一層の連携を図っている。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校長 ■教頭 ■地域連携担当教職員 ■その他（事務職員）

報告書記入者（河南中学校 教頭）

人とつなぎ 学びをつなぐ 子どもの育成を地域とともに

米原市	活動名：米原学区地域学校協働本部	米原中学校・米原小学校 学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 まいばら認定こども園 学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに <input checked="" type="checkbox"/> 印 開始年度：平成 28 年度 地域学校協働活動推進員等数：2人 ボランティア登録数：90人 <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input checked="" type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input checked="" type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 []		
<input checked="" type="checkbox"/> 事業を考案する主体（該当するすべてに <input checked="" type="checkbox"/> 印） <input checked="" type="checkbox"/> 学 校 <input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動推進員等 <input type="checkbox"/> 行 政 <input type="checkbox"/> その他（ ）		

- 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）
 - ・農園活動・環境整備活動を中心とした活動 小・中・園一体とした活動の推進
 - ・飛び出し坊やの製作、収穫感謝祭（教育）

- 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）
 - ・総合的な学習の時間での農業指導や農園整備の実施、収穫感謝祭の開催
 - ・生徒会との連携によるアルミ缶回収や親子愛校作業の開催
 - ・こども園の農園の環境整備（芋苗の手配や芋つるの処分）、環境整備（網戸の整備など）
 - ・小学校 夏休みの親子愛校作業への参加と環境整備作業、農園の整備作業
 - ・園・小・中が共同で実施した活動 飛び出し坊やの作成、教育フォーラムの開催
 - ・認定こども園・小・中合同の収穫感謝祭の開催（400名参加）

- 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）
 - ・2名の地域学校協働活動推進員をそれぞれ中学校担当、こども園・小学校担当として学校との連携調整を密にした。
 - ・中学校内に地域支援本部室を設置していることから、校内で地域の方と接する機会が増え、随時活動を進めることができた。地域学校協働活動推進員には何回も学校園にも足を運んでいただき、積極的に活動いただいた。
 - ・本校にはPTA組織がなく、親子愛校作業は有志による参加のみであったため、学校ボランティアにも参加いただき除草作業をお手伝いいただいた。学校ボランティアの方で学校内及び周辺の草刈りを2日間実施していただいた。

- 事業の成果
 - ・各学年の総合的な学習の時間に、地域学習としてさつまいも・ネギ・大豆・大根・タマネギ等の栽培を行った。農業指導をされている方に畑をトラクターで耕作していただき、農作物の植え付けや収穫の方法について指導をしていただいた。日頃お世話になっている関係機関や地域の方をお呼びして全校で開催した収穫感謝祭にあわせて薪作りや火起こしをお願いした。
 - ・収穫感謝祭には地域ボランティア 15名に参加いただき、認定こども園・小学校・中学校の子供たちとの交流をもつことができた。
 - ・3年生の生徒が育てた葉ボタンのプランターを日頃お世話になっている地域や関係機関への配布する際に運搬や育苗に協力いただいた。
 - ・本校では、生徒会を中心にラヴプロジェクトとして、アルミ缶やペットボトルキャップの回収を行っている。その趣旨を理解していただき、地域での回収活動や後始末に協力いただいた。また、アルミ缶回収の業者への依頼から運搬まで行っていただいた。
 - ・今年も引き続き、交通安全啓発の飛び出し坊やを地域学校協働活動推進員の協力を得ながら制作することとなった。中学校の生徒にデザインを募集し、色塗りなどの作業をボランティアの方と一緒に実施することができた。また、小学校6体、園3体、中学校6体の飛び出し坊やを作成、各校園に配布し、通学路等の危険箇所に設置する予定である。

- 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望
 - ・業務が多様化している中、年間を通じて充実した活動ができているのは、地域学校協働活動推進員の人柄と尽力による部分が大きい。この活動が持続し、発展するためにも、地域学校協働活動推進員を補佐しつつ、次の地域学校協働活動推進員を育成していくことが必要である。
 - ・地域ボランティアの固定化・高齢化が進んでいる。新規ボランティアを学校と地域学校協働活動推進員が連携し発掘していく必要がある。

- その他（学校運営協議会との協働等）

コミュニティ・スクールの指定を受け、6年目となる。今年度も地域学校協働本部と学校運営協議会が学校教育を推進するための両輪となりうまく機能していると感じている。今後、新型コロナの心配がなくなれば、生徒が地域へ向う社会貢献できる取組を推進したい。

- 地域学校協働活動推進員と協働する学校関係者（該当するすべてに印）
 - 校 長 教 頭 地域連携担当教職員 その他（ 学年主任 ）



【 収穫感謝祭 意見交流会】



【 収穫感謝祭 焼き芋作り】

報告書記入者（ 米原中学校 教頭 ）

地域人材を生かした特色ある学校づくり～DAITOアクティビティ～

米原市	活動名： 大東学区地域学校協働本部	大東中学校・大原小学校・山東小学校 学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 山東幼稚園 学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成 29 年度 地域学校協働活動推進員等数：3人 ボランティア登録数：7人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り ■部活動支援 ■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり □地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） ■地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 □郷土学習 □その他 []		

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園
 学校運営協議会
 地域学校協働活動推進員等
 行政
 その他（ ）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

- ・ DAITOアクティビティの活動内容について（*DAITOアクティビティとは、生徒が主体的に考え、地域とともに取り組む活動）、前年度から取り組みが始まり、今年度はどのように進めていくか。
- ・ 学習支援について、基礎学力向上のため、夏季休業や冬季休業、テスト前、3年生の入試直前に補充教室の開催を行うこと。

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

- ・ 大東中学校では、地域の方を招いて「豊年太鼓踊り」の鑑賞会と体験会を行った。また、学校司書やボランティアを交えて「校内ビブリオバトル」を開催し、図書室利用や読書への関心を高めた。ほかにも、「テーブル作り体験」や「茶道体験教室」などを行った。
- ・ 「ジョイスパーク」「山東幼稚園夏祭りボランティア」「グリーンパーク山東フォレストアドベンチャープレオープン体験」などの地域のイベントに生徒たちが参加し、地域の方々との交流を深めることができた。

■ 実施に当たっての工夫

- ・ 生徒たちが主体的に取り組めるよう、自由参加型の活動を多く実施した。

■ 事業の成果

- ・ 生徒たちがDAITOアクティビティの活動に参加し、主体的に取り組むことができた。
- ・ 生徒の学習活動が充実した。
- ・ 地域の方に学校の教育活動に関心を持ってもらうことができ、学校行事に参加してもらうきっかけ作りとなった。



【 豊年太鼓踊り鑑賞 】

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・ 潤沢に使える予算の確保が必要である。
- ・ 人材発掘・人材確保をさらに進めたい。
- ・ 生徒の声を取り入れながら、さらに充実した活動にしていきたい。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

- ・ 地域の願いを踏まえて、地域とともに歩む学校づくりをしていきたい。
- ・ 学校にも地域にもメリットがある取組を推進していきたい。



【 ビブリオバトル 】

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校 長
 教 頭
 地域連携担当教職員
 その他（ ）

報告書記入者（ 大東中学校 地域連携担当教職員 ）

地域の子どもの健やかな育成をめざす「おうみネット支援ボランティア」の取組

米原市	活動名： 双葉学校区域学校協働本部	双葉中学校・坂田小学校・息長小学校 学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 おうみ認定こども園 学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成29年度 地域学校協働活動推進員等数：2人（兼務1人）ボランティア登録数：50人 ■ 学習支援（授業補助、学力補充等） ■ 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■ 学校行事支援 ■ 子どもの安全確保、見守り ■ 部活動支援 ■ 学校周辺環境整備 □ 学びによるまちづくり ■ 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） □ 地域行事への参加 ■ ボランティア・体験活動 ■ 郷土学習 □ その他 []		

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園
 学校運営協議会
 地域学校協働活動推進員等
 行政
 その他（ ）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

- ・ 校園から学校園経営方針についての説明を受け、今年度の運営方針について協議をした。
- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響で行うことができなかった教育活動について、必要性を鑑みて今後の活動方針を協議した。

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

(1) 地域に学ぶ学習活動

- ・ 1年生：昔遊び体験 6つの遊びを紹介していただき、子どもたちがそれを体験する。
- ・ 3年生：昔の暮らし 地域の方から昔に使っていた道具や暮らしについて話を聞き、時代の移り変わりを学ぶ。
- ・ 5年生：ミシン学習 ミシンの基本的な使い方とナップザックの制作の補助をしていただく。
 防災学習 自分の住んでいる地域の防災（避難場所や消火栓等）について、現地で学ぶ。
- ・ 6年生：雅楽鑑賞 地域の雅楽隊による楽器の紹介や「越天楽」等を鑑賞する。
 キャリア教育 2名の方から、仕事の内容や思い、大切にしていること等を聞く。

(2) 読み聞かせボランティアによる読書活動等

- ・ 2年生 近江図書館見学時の引率と見学補助をしていただく。
- ・ 読み聞かせ：毎月2回、朝読書の時間に各学級にて読み聞かせをしていただく。
- ・ その他 環境整備や図書館司書と協働して蔵書の登録等をしていただく。

(3) 学校内及び周辺環境整備

- ・ P T A愛校活動時に、樹木の剪定等を行っていただく。
- ・ 年度末に校舎周辺の草刈りと環境整備を行っていただく。

(4) おうみ友愛民生委員活動

- ・ 民生委員と連携して、地域の方に向けて手紙を作成して配布する。



【 5年生 防災学習 】

■ 実施に当たっての工夫

- ・ 年度当初に担任からの要望等を学校担当者が取りまとめ、地域学校協働活動推進員と学習の目的の共有を行った。また、地域ボランティアに協力いただきやすいように日程を早期に決定した。
- ・ 活動前には担任も含めて事前打ち合わせを行って詳細を確認したり、事後に振り返りをして次年度に向けての改善点を挙げたりした。
- ・ 活動後には、学んだことや感謝の気持ちを地域ボランティアの皆さんに伝えた。
- ・ H P や通信等で発信し、活動内容を地域の方に広げるようにした。

■ 事業の成果

- ・ 専門的な知識や技能を持っておられる方に支援していただき、学習が充実した。
- ・ 地域の方にボランティアをお願いするため、顔見知りの子どものも多く、安心して学習に取り組むことができた。
- ・ 樹木の剪定や草刈り等を行っていただき、子どもたちの学習環境を整えていただくことができた。
- ・ 今年度よりおうみ友愛民生委員活動を開始し、学校から地域への発信・貢献という流れも少しずつできてきた。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・ 持続可能な活動となるよう、学校にも地域にもメリットとなる活動を展開していく必要がある。地域の方に協力していただくだけでなく、子どもたちの地域への貢献活動を通して自己有用感を高め、地域愛や社会参画への意識を育んでいきたい。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校 長
 教 頭
 地域連携担当教職員
 その他（ ）

報告書記入者（ 坂田小学校 地域連携担当教職員 ）

地域との連携・協働し、一緒に学校・ふるさと日野への誇りを高める学習を目指して

日野町	活動名： 日野・鎌掛地域学校協働本部	日野小学校 学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成 29 年度 地域学校協働活動推進員等数：1人（兼務1人） ボランティア登録数：50人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 ■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり ■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） ■地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他 []		

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校・園 □学校運営協議会 ■地域学校協働活動推進員等 □行政 □その他（ ）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

- ・地域・学校それぞれの強み・弱みならびに「どのような子に育てたいか」について話し合った。
 <学校の強み> あいさつができる、学校行事が多い、学校ボランティアが多い、クラブ活動で地域との交流が多いなど
 <学校の弱み> 学校行事でしか田舎体験ができていない、子どもの数が多いので目が行き届きにくいなど
 <地域の強み> 日野祭りを中心に地域のつながりが強い、人材が多い、歴史がある、自然いっぱいなど
 <地域の弱み> 子どもの数が減っている、子ども対象の行事をしても子どもが集まらないなど
 <育てたい子ども像> 人や地域に対し感謝できる子、地域を愛する心を持ってほしい、明るく元気に育ててほしいなど

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

○地域の人々や施設から学ぶ 「日野菜学習」（第3学年）

「歴史ウォークラリー」（第6学年）

- ・第3学年は日野菜の植え付け・収穫について指導していただいた。学習のまとめとして、お世話になった方を招待し、創立150周年第2部にて「日野菜はかせ発表会」を実施した。
- ・第6学年では、校区内の歴史的施設等をウォークラリーで見学する学習を実施。事前にふるさと館の館長からのガイダンスを受け、見学地では、観光ボランティアの方に案内していただき、ふるさと日野への誇りを高める学習となった。



【日野菜はかせ発表会（第3学年）】

○子どもたちの学習活動を活性化させるボランティア活動等

- ・図書ボランティア：メンバーは6名。活動日は毎週火・金曜日。子どもたちが読書活動に関心を高めるための環境整備作業を中心に活動をしている。活動内容は、学校図書司書、学校図書担当と連携し、時期に合わせた活動を行っている。
- ・家庭科ボランティア：メンバーは日赤奉仕団（日野分団・鎌掛分団）。高学年の裁縫活動について、学習支援していただいている。毎回、2～3名が授業支援していただいている。
- ・なかよしコンサート（年4回開催）
 地域で音楽活動をされている個人・グループを招き、昼休みにコンサートを開催している。

■ 実施に当たっての工夫

- ・子どもたちの学習が深まるためにも、地域の方に指導・支援をお願いした。また、子どもたちが学習したことをまとめて、お世話になった地域の方に発表する場を設けた。
- ・教員は、事前にふるさと絆支援員（地域学校協働活動推進員）と学習活動の全体計画を作成する中で、育てたい子どもの姿や付けたい力を明確にすることで、関係機関の思いを大切にしつつ、学習の質が高まるよう意識した。
- ・地域の高等学校（日野高校）音楽部のみなさんによる「なかよしコンサート」を実施した。

■ 事業の成果

- ・学習活動の成果を発表会や学習成果物により関係者へ発信することで、地域の方々へ学校教育活動への理解を深めることができています。継続的に学習活動に参加してくださっている方も増えており、教育活動のねらいを意識して児童へかかわってくださる方も存在する。
- ・なかよしコンサートのように、学習活動以外の場面でも、地域で活躍する方々と学校がつながる活動を計画、実践することができた。コンサートは、毎回、多くの児童が集まり、音楽活動への意欲や関心を高める取組となっている。また、昨年度より地域の高校音楽部による「なかよしコンサート」を行うことで、地域の高校を知り、憧れを持つよい機会となった。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

今年度よりスタートした「学校運営協議会」の方々の意見も参考に、地域と学校とともに「育てたい子ども像」をしっかりとったうえで事業を展開していきたい。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校長 ■教頭 ■地域連携担当教職員 ■その他（各学年担当職員）

報告書記入者（教頭）



学校・家庭・地域の ～ きずな・つなぐ・むすぶ ～

日野町	活動名：西大路地域学校協働本部	西大路小学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成 29 年度 地域学校協働活動推進員等数：1人（兼務1人） ボランティア登録数：30人 <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 []			

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

- ・ 幼小公連携による様々な取組
- ・ 3年総合的な学習 名人さんに学ぼう の取組
- ・ 環境整備作業、運動会準備等の取組

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

(1) 公民館での音楽コンサート（5・6年生）

6月に行った校内音楽会(150周年記念事業の一環)に、足を運んでいただけなかった地域の方々に向けて、5・6年生児童が公民館へ出向き、演目を披露した。家族に小学生がいなかったり、仕事の都合等で小学校へ来られなかったりする地域の方々に関心を持ってもらうことができ、後日行ったPTAふれあい学習会へ参加して下さる地域の方々がおられたことにつながった。



【 音楽コンサート 】

(2) PTAふれあい学習会

PTA主催で「昔の遊び」を体験する活動を行ったが、音楽コンサートに参加して下さった地域の方々に参加し、児童・保護者とともに活動してくれた。当初計画ではなかった「笹船づくり」の活動を取り入れることができた。

(3) 総合的な学習（3年 名人さんに学ぼう）

3年生の児童が、総合的な学習で地域の名人さんに弟子入りし、学ぶ学習を行った。（日野祭り囃子、日野祭の際につくる郷土料理、丁稚ようかんづくり）この活動により、地域の良さを学び、愛郷心を育むことができた。

(4) 環境整備作業（全校）

毎年、2学期開始直前に行っている環境整備作業へ、児童・保護者とともに参加して活動していただいた。

■ 実施に当たっての工夫

学校側のニーズと地域の方々の思いをすりあわせる打合せの機会を綿密に取り、計画・実施した。

■ 事業の成果・実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

昨年度末に、総合的な学習の活動年間計画を見直し、地域の方々がかかわって下さる活動についても、単発で実施されないように進めることができた。さらに、全学年に広がる活動にできればと考える。



【 名人さんに学ぼう 】

■ その他（学校運営協議会との協働等）

学校運営協議会は、今年度5回の会議を予定しており、様々な意見の交換・熟議をし、現状の相互理解と課題解決に努めている。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（各学年担任）

報告書記入者（教頭）

地域ぐるみで子どもを見守り、学校を支援する協働活動のために

日野町	活動名：必佐地域学校協働本部	必佐小学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：令和5年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：60人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） <input type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり ■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 []			

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

・学校運営協議会委員の皆さんと教職員との熟議の中で、本校児童の強みと弱みについて共有することができた。児童の課題の中で、家庭学習が定着していないことが課題として挙げられた。家庭学習の定着については、「学校・家庭・地域が一体となって今後取り組むテーマとしてふさわしい」「有効な手立てを皆で考えていきたい」という共通理解が得られた。

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

(1) 見守りあいさつ運動

朝の登校時間帯に、必佐小見守り応援隊やPTA有志の皆さんが交代で校門付近に立ち、あいさつ運動に取り組んだ。

(2) 体験的な学習への支援

焼き芋や田植え・稲刈りなどの指導を地域の方をお願いした。家庭科の裁縫やマシン縫いなど、個別の支援を必要とする学習での支援をお願いした。

(3) ふるさと学習支援

日野町の特産品である日野菜の栽培や日野菜漬けで経験豊かな地域の方に指導をしていただいた。



【 焼き芋づくり 】

■ 実施に当たっての工夫

・本事業の広報とボランティア募集のために関係機関や地域の方にチラシを配布し、事業への理解と協力を依頼した。
 ・見守り活動の全体会議で各団体の代表の方に説明をして依頼をした。

■ 事業の成果

・見守りあいさつ運動を数年間続けてきたため、児童にあいさつの習慣が身につけてきた。大きな声で気持ちよくあいさつをして、学校生活を気持ちよくスタートすることができている。
 ・ボランティアの皆さんのおかげで、児童は楽しく学習に取り組むことができた。そして、達成感や成就感、地域への関心が高まった。



【 田植え体験 】

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

・人材の開拓に努めることで、地域の良さや室に気づき地域への関心を児童が高めていけるようにしていきたい。
 ・指導者の考えや指導方針を明確に示し、活動推進員の意見も聞きながら打合せを丁寧に行う必要がある。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

・学校運営の様子や子どもたちの学習の様子をURLで紹介している。

<https://www.fureai-cloud.jp/hissa-es/>

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（ ）

報告書記入者（ 教頭 ）

「好きです桜谷」と自信を持って言える子を育てる

日野町	活動名： 桜谷地域学校協働本部	桜谷小学校 学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成 29 年度 地域学校協働活動推進員等数：1人（兼務1人） ボランティア登録数：100人 <input type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input checked="" type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input checked="" type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input checked="" type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 []		

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

○連携・協働体制づくりに向け、学校と地域そして家庭がどのような力を子どもに育んでいくか、具体的な方策を進めていけるような体制づくり。

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

(1) 3年生は2学期の総合的な学習の時間に「日野菜」について学習を行っている。今年も9月末から日野菜の種をまき、間引きや収穫までの作業をJA職員、地域の方々の支援を受けながら栽培活動を進めてきた。GI認定を受けた日野菜を今年は漬物にするだけでなく、日野菜を使ったいろいろな調理にも挑戦してみたいという子どもたちの思いを受け、「日野の伝統料理を継承する会」の協力のもとで「日野菜を使った料理教室」を行った。3年生はこの調理実習の際に栽培活動で協力していただいたJA職員や地域の皆さんを招待し、ともに味わうことができた。



【 日野菜を使った料理に挑戦 】

(2) 5年生、6年生は、今年も家庭科の学習で、「東桜谷ソーイングクラブ」や「東西桜谷健康推進委員」の方に裁縫や調理実習で協力をしていただいた。5年生も6年生も玉結び、玉止め、まち針の打ち方などの基本の縫い方をはじめ、ミシンの使い方を、丁寧にソーイングクラブの方から説明しながら教えていただいた。子どもたちも丁寧にアドバイスを受けながら安心して実習に取り組むことができた。調理実習では6年生のお弁当作りで何種類ものおかずを作る際、児童の質問に対し的確にアドバイスをしながら、最後の後始末まで丁寧に指導支援をしてくださった。また、今年度は2年生の生活科の大根調理の際も指導支援を受けられた。

(3) 昨年度よりマラソン大会のコースを中之郷周辺に変更し、実施している。このマラソン大会には試走から公民館運営委員の皆さんや地域の皆さん、そして保護者の方に立哨等で支援していただいている。今年度も公民館のスタート地点には大きなバルーンのアーチが設置されただけでなく、1年生一人ひとりに完走証を、各学年には月桂樹で編んだ冠をいただいた。

(4) 学校運営協議会が昨年度より導入され、6月16日の19時半から1回目の協議をした。11月8日には学運協の方以外にも保護者や地域の支援者の方に参加していただき、給食試食と授業参観、そして教員も含めての「地域とともにある学校づくり研修会」を行った。今年度は余呉小中学校のCSコーディネーター松田幸夫氏を講師に迎え、教員と地域の方が「育てたい子どもの力や課題」について熱心に熟議を行った。3回目は1月30日に開催する予定である。

■ 実施に当たっての工夫

- ・参加される方の多くが地域の高齢者であるため、活動の種類や日程調整を含め、事前に丁寧な打合せ等を行った。
- ・子どもが主体的に地域の方々と協働して学び、体験できる活動を進めてきた。

■ 事業の成果

- ・今年度も地域の方々と協働活動による行事・学習活動を実施することができた。また今年度は地域の文化祭で高学年児童と地域の方との「桜谷地域の未来について」語り合う熟議の機会を持つことができた。
- ・今年度は地域の講師を招き教職員のふるさと教材について学ぶ現地研修会を実施することができた。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・ふるさと学習カリキュラムの縦と横のつながりを意識した実施計画については今後も検討し作成をしていきたい。
- ・地域学習の講師の高齢化が進んでいる。新たな地域学習の講師を発掘していきたい

■ その他（学校運営協議会との協働等）

- ・学校運営協議会も2年目を迎え、さらに創立150周年を来年度に控えるなかで地域と学校がお互いに考えを出し合う機会が増えている。150周年記念式典が終わったあとも連携しながら子どもを育てる仕組みづくりを今後も協議していきたい。



【 未来の桜谷について考えよう 】

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（ ）
報告書記入者（ 教頭 ）

ふるさと日野町を愛し、誇りに思う気持ちを育む地域学校協働活動

日野町	活動名： 日野中学校地域学校協働本部	日野中学校 学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに <input checked="" type="checkbox"/> 印 開始年度：令和5年度 地域学校協働活動推進員等数：1人（兼務1人） ボランティア登録数：50人、団体8団体 <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input checked="" type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input checked="" type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 []		

事業を考案する主体（該当するすべてに印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

失敗を恐れずにチャレンジできる生徒を育てていきたい。自己肯定感を持ち、積極的に人とのコミュニケーションができる生徒を育てていきたい。そのためにも地域の方々など幅広い年代の方々との交流の中で、人と積極的に関っていけるようになると良い。また失敗しそうなことも、地域の方があたたかく見守って下されば安心して活動できるのではないかと。

地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

(1) ふるさと学習（1年生 総合的な学習の時間）

郷土について学びきっかけとして、歴史、文化、自然環境をテーマとして、日野町の方々に講演をしていただき、その後、グループごとに日野町内に出向き、町内の方に聞き取り調べ学習を行った。それをパワーポイントにまとめ、講演していただいた講師の先生も招き、自分たちが調べた内容をプレゼンテーションした。



【 ふるさと学習 】

(2) ボランティア学習（2年生 総合的な学習の時間）

社会福祉協議会の方や地域でボランティア活動をしておられる方のお話を聞き、生徒たちが自分たちでできるボランティア活動を考えた。社会福祉協議会の方の協力を得ながら生徒たちが地域へ出向き、草むしりやごみ拾いをしたり、クリスマス小物やポスターなどを制作し福祉施設へ贈ったりする活動を行った。



【 ボランティア学習 】

(3) 読書活動推進事業

1、2年生を対象に毎週火曜日に、各学年1クラスずつ、地域の読み聞かせグループの方に読み聞かせをしていただいた。

(4) 授業支援

- ・3年生の家庭科保育実習で往復路の安全のために、交通立ち番をしていただいた。
- ・1年生の家庭科手縫い実習の時間に実習補助として支援していただいた。
- ・道徳の時間に、ゲストティーチャーとして地域の方に授業に入ってもらい、お話をいただいた。

実施に当たっての工夫

学校の担当の先生方と地域の方との打ち合わせを行ってもらい、その活動のねらいや内容についてよく理解してもらってから活動をスタートした。

事業の成果

- ・家庭科の授業では顔なじみのある日赤奉仕団の方々と交流をしながら、温かい雰囲気の中で授業が進められた。毎時3人ほど来ていただき、縫い方をすぐに教えてもらえるので、生徒たちは安心して活動していた。
- ・ふるさと学習では日野町内の各部門の専門家からの話を聞き、「自分たちの町を誇りに思う。」と感想に書く生徒が何人もいた。また町内へ出向き調べ学習をする時には、町内の多くの方々からの温かい支援を受け、積極的に楽しそうに活動していた。

事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

定期的に来ていただくような活動で、学校の急な時間変更に対応が間に合わないことがあった。学校の職員と学校地域協働活動推進委員、ボランティアの方々との連携をさらに密にし、理解を深めながら事業を展開していきたい。また、現在行っている活動を推進するとともに、教職員からの要望と地域の方々の思いが重なるような新しい活動を模索していきたい。

その他（学校運営協議会との協働等）

道徳のゲストティーチャーを探す時に、運営協議会で適任者を考えていただいた。また今後の活動の提案などもいただいた。

協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに印）

- 校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（各担当の教職員）

報告書記入者（地域学校推進委員）

私たちの地域学校協働活動～地域が一体となり子どもたちの学習を支える～

竜王町	活動名： 竜王町地域学校協働本部	竜王こども園・竜王小学校・竜王西小学校 竜王中学校
		学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに <input checked="" type="checkbox"/> 印 開始年度：平成22年度 地域学校協働活動推進員等数：4人 ボランティア登録数：661人（平成23年からの累計）		
<input checked="" type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援		
<input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input checked="" type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり		
<input type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input type="checkbox"/> ボランティア・体験活動		
<input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 []		

事業を考案する主体（該当するすべてに印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

- 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）
 - ・学校のグランドデザイン（学校教育目標）を熟議し、どんな子どもに育ててほしいか、そのためには子どもの健やかな成長に地域はどう関わるかなどを地域学校協働本部でいかに具現化していくかを検討した。

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

(1) 学習支援

- ・令和2年度より取り組んでいる「はなまる先生」を継続し、児童が家庭で行った宿題プリント等の丸つけをボランティアが行い、生み出した時間を先生と子どもが関わる機会として増やすことにより、先生、子ども双方から満足の声を得ている。
- ・体力測定、自習監督、家庭科授業支援や農園支援などにより教員の働き方改革の一助となっている。

(2) 学校行事支援

- ・学校事業等に、子育て中の保護者も参加できるように託児支援を行った。
- ・ジョギング大会中の横断見守りを行い、学校行事に参加する児童の安全確保を行った。
- ・田植え、稲刈り体験の支援、ベルマーク集計等の支援を行った。

(3) 地域学習（双方向の取組）

- ・「地域学習」に注力することにより、ふるさと竜王にまつわる伝統や歴史等の地域資源（地域教材）を理解し、竜王への愛郷心を育てるきっかけの一つとしている。
- ・新しく赴任した教職員への地域学習機会の提供



【 古墳見学 】

■ 実施に当たっての工夫

- ・ボランティアを募集する際に、児童の保護者や家族（祖父母）に声をかけている。

■ 事業の成果

- ・地域学校協働本部に届いた児童からの感謝の手紙を支援ボランティアに宛てた暑中見舞いや年賀状に添付をすることで、子どもたちの感謝の声を直接ボランティアに伝え、喜びを感じていただくことにより、ボランティアのやりがいを提供できた。
- ・ボランティアに参加することで、子どもや孫の学校での家庭とは違う姿を見ることができ、新たな発見ができた。
- ・ボランティアと児童が顔見知りになり、日頃から地域でのコミュニケーションが取れた。



【 まちたんけん 】

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・地域には優れた知識や技術を持った人材がたくさんおられるにも関わらず、ボランティアの継続や新規発掘に苦慮している。拠点となっている公民館に来てくれる方には声をかけられるが、地域で活動する方にまでは声をかけられない。
- ・学校と地域で双方向性のある展望を持った活動を行うためには、社会に開かれた教育課程をいかに実現するかが重要な鍵となる。そのため、地域連携にかかる年間活動計画を作り、学校と地域、お互いが全体を見据えながら事業を展開する必要がある。
- ・統括地域学校協働活動推進員を公民館に設置しているが、学校からの急な支援依頼の対応に苦慮している。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

- ・より深い学校支援を行うためには、地域学校協働本部と学校運営協議会が一層連携を密にする必要がある。
- ・町内にある校園全てに学校運営協議会は設置できているが、まだ地域学校協働本部との完全な連携の実現にまで至っていない。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（ ）

報告書記入者（ 公民館 公民館係 ）

地域と幼稚園と保護者が手を取り合って ～トライアングル大作戦～

愛荘町	活動名：愛荘町地域学校協働本部	秦荘幼稚園	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：令和5年度 地域学校協働活動推進員等数：2人 ボランティア登録数：51人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 ■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり ■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） □地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他 []			

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校・園 ■学校運営協議会 ■地域学校協働活動推進員等 □行政 □その他（ ）

- 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）
運営協議会として、どんな子どもを育てたいのか、じっくりと話し合い目標を共有して、子ども達の心と体の安全を守ることを第一に活動を推進していく。



【 田植え体験 】

- 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

○田植え、稲刈り体験

5月に田植え体験、9月に稲刈り体験をさせていただいた。

【年長：体験、年中・年少：見学】

貴重な体験を通してお米ができるまでの過程を知る経験となった。

○お話広場

月2回、ボランティアの方が各クラスに絵本の読み聞かせをしてくださった。地域の方が絵本を読んでくださることで親しみを感じ、楽しみにする姿があった。

○さつまいもの栽培

ボランティアの方と一緒に苗を植えたり、掘ったり、さつまいもの茎の料理を見せてくださったりと地域の方が教師役となり指導してくださった。また、地域の方を含め民生委員や主任児童委員の方にも手伝っていただき、収穫した芋を使って調理をしたり、食育指導をしたりしてくださった。さらに、収穫した芋のつるを利用してリース作りをしてくださったり、おいも屋さんとして保育サポートをしてくださったりしたおかげで、今後の保育に活かすことができた。

○きりりんデー

園庭や畑の除草作業、花植え、園庭の机や椅子のペンキ塗り、木に名札を付ける、衣装作りのサポート、玩具作り等の活動を含め、年間を通して園庭や畑の除草作業をしてくださった。

- 実施に当たっての工夫

- ・実施に当たっては、地域学校協働活動推進員が中心となって園側や地域の方と連携を取り合い、活動の調整を行った。
- ・稲刈りでは、保護者ボランティアを募り、地域の方と連携を密にしたことで安全に実施することができた。
- ・園の玄関に関わってくださったボランティアの方の写真を掲示したことで、子ども達や職員も繰り返し名前や顔を認識することができた。

- 事業の成果

- ・毎年栽培しているさつまいもだが、今年度は地域の方に指導していただいたことで地域の方に親しみを持ち、職員だけでは指導できない貴重な体験活動も地域の方のおかげで行うことができた。

- 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・子ども達が様々な活動を通して地域の方とのふれあいができるように、ボランティアの人材確保や新たな人材の開拓を検討していく。

- その他（学校運営協議会との協働等）

- ・今後も推進員を中心に地域と園が連携をし、子ども達に豊かな経験ができるよう進めていきたい。



【 おいも屋さん 】

- 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校長 ■教頭 ■地域連携担当教職員 ■その他（ PTA、担任 ）

報告書記入者（ 地域連携担当教職員 ）

地域に学び、地域とともに子どもを育てる

愛荘町	活動名：愛知川幼稚園地域学校協働本部	愛知川幼稚園	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：令和3年度 地域学校協働活動推進員等数：2人 ボランティア登録数：16人 <input type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input checked="" type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 []			

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

- ・園経営の基本方針と目標・ビジョンの共有について
- ・3つの活動の柱「園環境の充実」・「体験活動の推進」・「保護者ボランティアの活性化」の具体的な取組について
- ・地域の特徴とそれを生かした保育内容、人材の発掘について

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

・壁面制作

保護者ボランティアが季節にあった玄関壁面を制作してくださっている。
ボランティアが全て作るのではなく、子ども達の作品も壁面の一部として飾っているなど工夫したものとなっている。

・一人一鉢栽培

地域の方が土づくりから始め、種から丹精込めて育てられたマリーゴールドの苗を全園児分持ってきてくださり、子ども達に植え方を教えてくださっている。
子ども達は自分の鉢に植えて、大切に育てている。

・砂場の掘り起こし、時計台と鉄棒のペンキ塗り

地域企業の協力を得て、固まった砂場の掘り起こしや時計台と鉄棒のペンキ塗りをしてくださった。砂場の掘り起こしでは、ふかふかの砂に大喜びの子ども達だった。

・タイヤのペンキ塗り

園関係者だけでなく地域住民の方々に協力をしてもらい園のタイヤにペンキを塗っていただいた。



【砂場の掘り起こし】



【タイヤのペンキ塗り】

■ 実施に当たっての工夫

- ・長く続けていくために “できる人ができる時にできることから” をモットーに無理なく活動を進めている。

■ 事業の成果

- ・今年度は地域の企業や地域にお住まいの方などたくさんの方々の力によって充実した活動ができた。
- ・保護者ボランティアが壁面制作に加えて、月1回保育用品制作、図書の整備等のボランティア活動をしてくださった。
- ・地域の方に来ていただくことで職員だけでは指導できない貴重な体験活動ができています。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・より地域に開かれた園を目標として、地域の方々の力を生かし充実した活動にしていきたい。
- ・今年度は運営委員や地域推進員を中心に地域の方に声をかけていただき、たくさんの方に来て園いただいた。今後はさらにボランティアの人材確保のために人の輪を広げていきたい。
- ・地域の特徴を生かし、子ども達が地域の良さや特色に気付けるような体験を取り入れていきたい。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

- ・今後も地域推進員を中心に地域との連携・協働を深め、“地域で子ども達を育てる”という意識を高めていきたい。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

園長 副園長 地域連携担当教職員 その他（学級担任・PTA）

報告書記入者（地域連携推進担当職員）

みんなでつくる みんなの秦荘東小学校

愛荘町	活動名：秦荘東小学校地域学校協働本部	秦荘東小学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：令和3年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：80人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） □学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 ■学校周辺環境整備 ■学びによるまちづくり ■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） □地域行事への参加 □ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他 []			

■ 事業を考案する主体

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

- ・学校行事や環境整備について、ボランティアの積極的な募集について（校区内で回覧）
- ・めざす子どもの姿について協議、実践活動案の提案

■ 地域と学校が協働した活動

○学校支援活動

- ・学習支援【農業体験】稲の栽培（5年）…田植え、稲刈り、脱穀、やまいも栽培（4年）…植木鉢での栽培
農業ボランティア、J A、役場の協力を得て、学習を進めている。特にやまいもは愛荘町の特産でもあり、やまいも振興会の指導の下、郷土学習をかねて行った。

【福祉学習】アイマスク、盲導犬、認知症（3年）

社会福祉協議会、ボランティア団体の方による授業

【音楽科】6年（雅楽演奏）…蚊野「千鳥会」による演奏

【キャリア教育】高学年…地域の方による授業

- ・環境整備【運動場とその周辺の除草等】

【清掃活動】低学年のそうじの見守り支援、学期ごとのトイレの掃除

○図書ボランティア

- ・読書活動支援【読み聞かせ】 毎週火曜日 朝

○郷土学習

【社会科】3年（身近な地域の調査）金剛輪寺、歴史博物館、古墳公園の調査では、お寺の住職や学芸員からの案内と説明を受けた。

6年（第二次世界大戦）遺族会の方より戦中や戦後の生活について聞き取りを行う。



【 やまいも植えつけ（4年） 】



【 収穫祭（5年） 】

■ 実施に当たっての工夫（対応等）

実施にあたっては、地域学校協働活動推進委員、学校側(教頭・地域連携担当教員等)が連絡を取り合い、活動の調整にあたった。

■ 事業の成果

ボランティアの方の協力を得た活動を年間を通して実施することができた。子どもにとっては地域の人々と顔見知りになり、地域の中の一員とである意識が高まってきた。

稲作関係のお礼で収穫祭を実施した際、普段は1人暮らしなので、大勢での食事ができることに喜んでおられた。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

地域の方や各種団体、行政など幅広く支援をいただき、それぞれの活動を中心になって進めている。課題としては、地域学校協働本部の活動が学校の教員中心になっていることである。今後、地域の人材をさらに活用し、協働本部との連携を進めたい。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

地域住民の自らの経験や知識を学校の教育に生かし、生きがいを感じる場が設けられるように地域学校協働本部を中心に地域への発信とともに地域資源を生かした教育活動の計画を進めていきたい。

■協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（ ）
 報告書記入者（ 地域連携担当教職員 ）

愛荘町立秦荘西小学校 地域学校協働活動 「手と手(てっとうて)」

愛荘町	活動名：秦荘西小学校地域学校協働本部	秦荘西小学校 学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに <input checked="" type="checkbox"/> 印 開始年度：令和3年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：28人 <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input checked="" type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input checked="" type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input checked="" type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 []		

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに印）

- 学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（民協OBつながり隊）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

幅広い地域住民の参画によって、地域と学校が連携・協働して地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支えるという視点にたち、秦荘西小学校の特色を生かした事業の進め方について意見交換した。地域の方の参画を期待する教育活動の内容や支援の内容について共通理解した。

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

・ぶどう復活プロジェクト

コロナ禍で中止になっていた本校伝統のぶどうの栽培を復活させたいとボランティアで集まった23名の児童と地域の方々がタッグを組んで取り組んだ。ぶどう園の草刈りや袋かけ、観察など年間を通して取り組みを続けた。ぶどうの栽培や管理は難しく、子どもの力では難しい作業もあるが、子どもたちの一生懸命な姿やぶどうの復活を願い、自主的に取り組んでいる様子が地域の方に伝わり、市域の方も積極的に管理に関わっていただいた。

第1回のぶどう園除草作業には、多くの地域の方にも来ていただき、子どもたちと一緒に作業してもらった。「子どもたちが、伝統のぶどうを復活させるために行動してくれたので、うれしいんや。私たちも手伝いたい。」と言っていただいた。その後も何度かの除草作業、ブドウの房の袋掛けなど地域の方と一緒に取り組んできた。また、消毒やジベ処理（種をなくすための薬品処理）など子どもたちには難しい作業を地域の方が引き受けてくださった。

地域でのぶどう栽培が20年以上たっている。ぶどうの木が老木になり、思い描くような、たわわな房にはならなかったが、自分たちが育てたぶどうを「甘い。」と笑顔を見せていた。全校の児童にも、給食の時間に食べてもらい、ぶどうを育てることの大変さや地域の方々の協力があってできたことを校内放送した。また、新聞社やテレビ放送でも取り上げてもらい、学校と地域が連携していることをアピールできた。このぶどう復活プロジェクトは、学校と地域をつなぐ活動となっている。



【ぶどう園除草作業】

■ 実施に当たっての工夫

- ・地域コーディネーターから募集案内を出していただき、協力内容を具体的に挙げ、支援していただける活動を回答していただいた。依頼窓口は原則として地域コーディネーターにまとめ、ボランティア各位との連絡調整をしていただいた。

■ 事業の成果

- ・地域コーディネーターを中心として、地域や保護者との連携を密にすることで、子どもたちの体験的で主体的な活動を安全に実施することができた。
- ・様々なボランティアにたくさんの方が来校されその方々と親しげに話す様子やあいさつを交わす児童が増え、地域の方々とのつながりがもてた。



【ブドウの房の袋掛け】

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・ボランティアの高齢化が進みつつあるので、新たな人材の開拓が必要。
- ・本校にあるブドウの栽培が地域と連携して続けられるように今後もボランティアの方を募る。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

秦荘西小学校ホームページアドレス https://www.town.aisho.shiga.jp>04_hatanisisyou

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに印）

- 校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（該当学年教員）

報告書記入者（地域連携担当教職員）

学校の教育活動を支え、子どもたちを育てる 「えちひが応援団」

愛荘町	活動名：愛知川東小学校地域学校協働本部	愛知川東小学校 学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：令和3年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：30人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 ■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり ■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） □地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他 []		

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園
 学校運営協議会
 地域学校協働活動推進員等
 行政
 その他（後援会「東輝会」）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

○学校支援ボランティア活動の充実について

学校の教育活動を支え、子どもたちを育てる応援団として、どのような形で取組を進め、地域の力を生かしていくのか協議した。学校のニーズと地域のボランティアのマッチングを図り、取組を拡充していく必要があることを確認した。また、ボランティア活動の初期段階では、補助や支援を中心に取組を進め、活動が軌道に乗った段階で、子どもと一緒に活動したり、交流をしたりする機会を増やしていく。そして、子どもの力を伸ばす地域の先生「えちひが応援団」として、継続的かつ発展的な取組とすることを共通理解した。

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

○「えちひが全校たんぼのこ」

コロナ禍が明け、学校と地域のボランティアが協働し、全校児童による「えちひが全校たんぼのこ」を復活させることができた。5月には全校で田植え、9月には全校で稲刈りを多数のボランティアの方の協力のもと実施した。また、6年の総合的な学習の時間に、ゲストティーチャーとして地域の方を招き、米作りを中心とした農業の仕事や働くことの意義などを学ぶことができた。さらに、12月には、特別支援学級と5・6年を対象にもちつき大会を実施した。

地域学校協働活動推進員を中心に、多くの地域の方の協力をいただいて「えちひが全校たんぼのこ」を従来よりもパワーアップして復活させることができた。



【 えちひが全校田植え 】

■ 実施に当たっての工夫

- ・活動の内容や規模により、ボランティアを募る対象を調整した。
- ・単発の活動で終わらないように、継続的な計画を立てた。

■ 事業の成果

コロナ禍で縮小されていたが、今年度は全校で取り組むことができ、全校児童の一体感が生まれ、意義深い取組となった。また、田植えや稲刈りでは、きょうだい学年で活動したため、コロナ禍で十分に取組めなかった異学年交流ができ、下学年を思いやる上学年の好ましい姿が見られた。

また、年間を通して取組を進め、ボランティアの方に協力をいただいたため、子どもたちとボランティアの方のつながりが生まれたため、今後の発展に期待したい。



【 6年キャリア教育 先輩に学ぶ 】

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

学校とボランティアの方で段取りをし、子どもに活動の機会や場のみを与えることが多かった。今後は、子どもとボランティアの方が協力する取組や、ボランティアの方から子どもたちが学ぶ取組などを増やしていきたい。

■協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長
 教頭
 地域連携担当教職員
 その他（ ）

報告書記入者（ 地域連携担当教職員 ）

地域は学校の応援団・学校は地域の応援団 ～地域と学校の協働を通して～

愛荘町	活動名：秦荘中学校地域学校協働本部	秦荘中学校 学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：令和3年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：12人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） □学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り ■部活動支援 ■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり ■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） ■地域行事への参加 □ボランティア・体験活動 □郷土学習 □その他 []		

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

- ・ 地域学校協働活動の協力者の募集をどのように地域に知らせ定着した人材バンクを広げるにはどうすればいいか。
- ・ 大学生をはじめとする若いボランティア人材を活用したいが、交通費の限界が有り常時、依頼ができない。
- ・ 学校が必要としているボランティア内容と人材確保の情報に隔たりがあるが今後も連携をしていく必要がある。

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

- ・ 2年生職場体験学習における事業所への依頼と受け入れ。
- ・ 社会を明るくする運動に生徒会も参加。
- ・ 学力補充へのボランティア（学生ボランティアを含む）の取組。
- ・ 家庭科実習へのボランティア協力の取組。
- ・ 学校周辺環境整備への協力の取組。
- ・ 体育館ステージの幕の修繕ボランティアの予定。
- ・ 福祉教育活動（キャラバンメイト/手話体験）のボランティア協力の取組。



【 家庭科実習の地域ボランティア 】

■ 実施に当たっての工夫

（できるだけ多くの地域人材の参画等）

- ・ 中学校へは抵抗感があるため気軽にボランティアできる雰囲気作りに努めた。
- ・ 校区に限らず広く多方面の方々が中学校と交流・連携できる内容を探ってきた。
- ・ 生徒と年齢的に近い学生ボランティアと気軽にふれ合い学力向上を図ってきた。



【 学習補充の地域・学生ボランティア 】

■ 事業の成果

- ・ 教科の学習内容に関わるボランティアが今まで少なかったが、今年度は少しでも実施できた。
- ・ 各学年の要望に応えるべく地域のボランティア人材の確保に方向性が見えてきたことに意義があった。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・ 地域ボランティアの方が、中学校の支援協力へのハードルがまだまだ高いため、中学校が求めている人材の具体的な内容を地域に発信していくことが必要である。小学校であれば何とか支援できるが中学校の活動と言うだけで支援に参画できるのか不安も考えられる。特に、数学・英語の学習内容については協力への抵抗が見られ、誰でもお願いできるとは限らない。そのためボランティア探しが難しく登録者が極端に少ない現状である。
- ・ 地域の中で活動を重ねる中で、地域のよさに触れ、地域からも協力できる内容に理解を深め、少しずつ学習内容まで参画を通じて、生徒に自信を持たせ愛荘町に愛着と誇りを感じさせたい。
- ・ 今年度、家庭科の実習でボランティア協力があり、いろんな教科等で広げていけるきっかけづくりにつなげたい。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

秦荘西小学校ホームページアドレス https://www.town.aisho.shiga.jp>04_hatanisisyou

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（ 該当学年教員 ）

報告書記入者（ 地域連携担当教職員 ）

知を愛し 人権を尊び 連帯に生きる愛知中生・学校運営協議会(CS)の取組

愛荘町	活動名 : 愛知中学校地域学校協働本部	愛知中学校	学校運営協議会 : <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：令和3年度(学校運営協議会設置) 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：49人 ■学習支援(授業補助、学力補充等) ■図書ボランティア(読書活動支援・図書室環境整備) ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り ■部活動支援 ■学校周辺環境整備 ■学びによるまちづくり ■地域人材育成(地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育) ■地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他 []			

■ 事業を考案する主体(該当するすべてに■印)

■学校・園 ■学校運営協議会 ■地域学校協働活動推進員等 □行政 □その他()

■ 学校運営協議会で熟議された内容(地域学校協働活動に関わる内容等)

- 令和3年度より、本校に学校運営協議会(コミュニティ・スクール)が設立された。初年度より熟議を重ね、「学力を支える」と「学校美化を推進する」ことに取り組むことにした。そして、子ども達の中学校生活の向上のため、①学習部会・②環境部会・③お助け部会の3つの活動部会を設置した。それぞれの活動部会には、学校運営協議会委員が2名ずつ所属し、この委員2名を核として地域からのボランティアがそれぞれの部会で活動している。
- 令和4年度後期から令和5年度前期までの各部会の活動は以下の通りである。
 学習部会……学級文庫「E-Book」の設置と運営、日本語指導教室へのボランティア
 環境部会……花プランターの設置と管理、学校美化活動、トイレ清掃ボランティア
 お助け部会……キャリア教育授業のため地域の事業所からの講師招聘および授業支援



【 地域行事へのボランティア参加 】

■ 地域と学校が協働した活動(特徴的な活動)

(1) 地域行事への生徒ボランティア

8月5日(土)に、山川原地域総合センター「交流夏まつり大会」の子ども行事に、学校で募った生徒がボランティアとして参加し、活動の支援を行った。「魚つかみ大会」では、幼児から小学生までの部門の準備や運営、後始末を行った。参加児童や園児に優しく接したり、責任感ある言動がとれていたことなどから、周囲の方々から感謝やお褒めの言葉をいただき、参加生徒の励みにもなった。

(2) 学校授業支援

学校教育活動の支援として、コミュニティ・スクールの「お助け部会」が核となり、地域から講師をボランティアとして招聘し、1年生のキャリア教育の授業を支援した。授業中のパネルディスカッションでは、発表者(2名)や司会者も地域人材で行い、生徒には大変印象深い授業となった。学校施設の収容人数の都合や感染症対策もあり、学年を2分割して実施したことから、同じ授業を2回行った。



【 1年キャリア教育の授業支援 】

■ 事業の成果

- 学校運営協議会(コミュニティ・スクール)は、校長(学校)の構想(願い)をできる限り実現しようと一丸となって活動していただいている。活動分野も多岐にわたっており、学校にとって大変心強いサポーターとなっている。同時に、地域の学校として、地域に支えられている存在である意識も、生徒や職員に培われてきている。今後もさらに推進していきたい。
- 昨今の教育課題は、学校の中や学校の指導機能をフルに活用しても、解決しきれないものが増えてきている。その解決の糸口として、学校運営協議会とPTAが連携して活動することで、地域と家庭が連携した子育てができる環境が整う可能性を見いだすことができた。今後の活動で研究していきたい。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- 学校運営協議会委員や地域コーディネーター、学校ボランティア人材の確保
 - 学校運営協議会の事業の継続や引き継ぎが円滑にいくよう、学校運営協議会委員や地域コーディネーターの人材を確保したい。
- 活動予算の確保
 - 活動によっては予算が必要なものもあり、持続可能な活動とするためにも、ある程度の予算を確保したい。

■ その他(学校運営協議会との協働等)

- 学校運営協議会の会議を平日の勤務時間内に設定することにより、教職員の働き方改革を支援していただいている。

■ 協働活動推進員(コーディネーター)と協働する学校関係者(該当するすべてに■印)

■校長 ■教頭 ■地域連携担当教職員 ■その他(主幹教諭)

報告書記入者(地域連携担当教職員)

地域とともに、子どもも大人も笑顔いっぱいの甲良西(nishi)学区を創ろう

甲良町	活動名：甲良西小学校協働本部 「笑nishi（えにし）」	甲良西小学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：令和4年度 地域学校協働活動推進員等数：9人 ボランティア登録数：30人 <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input checked="" type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 []			

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

- ・学校運営方針（組織の在り方、推進委員拡大等）
- ・活動内容 ①学校生活を参観し、子どもの困り感を探る ②学校環境整備活動について
③読書活動推進に向けて ④学校行事等において学校の負担軽減活動について
- ・広報活動（笑nishi 通信、活動広報における防災無線放送等）

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

- ・学校生活を豊かにする活動
（休み時間を活用したピアノコンサート、地域サークルによる音楽科における体験活動）
- ・学校行事における連携活動
（地域をまきこんだ児童会による広報活動と県下一斉清掃活動）
- ・心を豊かにする読書活動の推進
（学校図書館の整理整頓、笑nishi 図書コーナーの設置）



【 ピアノコンサート 】

■ 実施に当たっての工夫

- ・教室横のホールを活用し、児童が参加しやすいようにした。
- ・廊下歩行が課題であったため、天気の悪い日にコンサート日を設定し、校舎内でも落ち着いて過ごせるようにした。
- ・児童会児童による校内放送および地域に向けた防災無線放送を朝、夕と2日行った。
- ・西学区の各家庭で読まなくなった本を回収するための全校配布広報および小学校、中学校に回収ボックスを設置した。

■ 事業の成果

- ・笑：地域の方のピアノ生演奏に対し、憧れのまなざしで見える児童の姿が見られた。
知っている曲であったため、口ずさんだり、終わった後もリズムにのったり楽しんでいる姿が見られた。
- ・ni：「ni」し学区の学校だけで行っていた県下一斉清掃であったが、西学区全体に呼びかけることで、数名であったが、地域の方も参加してくださった。
- ・shi：学校では朝の読書活動に取り組んでいる。読書に親しむ「shi」勢を育てていきたい地域の想いと学校の思いを広報し、ご家庭で読み終わった本を学校で回収し、図書室や教室の本棚に置き、「笑nishi 図書コーナー」を設置できた。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・講師、ボランティアの拡充
- ・協働本部役員の幅広い団体と年齢層によるバランスの取れた構成と拡大
- ・子どもの主体性、創造性を生かした学校運営のための地域の支援内容と方法の検討

■ その他（学校運営協議会との協働等）

- ・今年度で2年目の活動となった。昨年の活動より継続する花壇の活動等ある中で、図書コーナーの設置等、学校教育に実効的な関わりができた。地域の担い手である子どもの育成のために、笑顔いっぱいの地域づくりに参画していきたい。



【 ボランティア拡充の広報パネル作成 】

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（ ）

報告書記入者（ 教頭 ）

「地域とともに多賀の子を育てよう」

多賀町	活動名：多賀町地域学校協働本部	町内6校園	学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成20年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：130人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 ■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり ■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） □地域行事への参加 □ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他 []			

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校・園 学校運営協議会 ■地域学校協働活動推進員等 ■行政 その他（ ）

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

（1）読み聞かせ（小・中・保・こども園）、絵本の修繕（保・こども園）

保育園・こども園・小学校・中学校では、静かに話を聞く体制が整い、幼小中連携の成果が表れている。クラス単位での読み聞かせにより「少人数の方が本選びがしやすい」との声をいただいている。今年度も実施した絵本の修繕は、基本の修繕が中心で、一冊にかなりの時間を要するものもある。子どもたちが好きな絵本類を時間をかけて修繕していただいた。



【5年生ミシン学習指導】

（2）福祉・琴・ミシン・環境学習（小・中）

地域のサークル等がゲストティーチャーとなり、琴や福祉などについて、本物に触れる機会を持ち、体験を交えて学習した。ミシン学習では、洋裁を教えておられた方が事前にミシンの調整もしてくださり、スムーズに学習が進められた。福祉学習では、盲導犬・手話・点字なども教えていただいた。また、環境学習では中学校特別支援学級の生徒に、花・野菜作りを収穫から販売まで、年度当初から継続して指導していただいた。

（3）自然保育時の見守り（大滝たきのみやこども園）、園外活動時の見守り（久徳うぐいすこども園）

自然保育を重視した大滝たきのみやこども園では、近くの高取山へ定期的に出かける活動が行われている。毎月ローテーションにより、雨天時でも見守り活動をしていただいた。毎回、子どもたちは、地域の方との触れ合いをたいへん楽しみにしている。また、久徳うぐいすこども園では、園庭の工事に伴い、グラウンドが使用できる近隣施設での活動見守りをしていただいた。毎月ローテーションにより、ボール遊びや虫つかみ、遊具遊びの見守り等にご協力いただいた。

■ 実施に当たっての工夫

読み聞かせや授業補助、環境学習などについて、打合せなどをできるだけ行ない、学校や園とボランティアの方々の双方の希望に沿って進められるようにした。子どもたちからのお礼の気持ちがボランティアの方に直接伝わるよう、学校や園へ働きかけを行なっている。「毎年お手紙を残しているんです」と、うれしそうに話してくださる方も多い。

■ 事業の成果

福祉学習では、より内容の濃いものにするために、ボランティアの方も工夫改善をされ、子どもたちの記憶に残る学習ができた。また、特別支援学級の生徒に対し、種まきから収穫・販売まで一連の流れを指導していただき、毎日の野菜の生育状況を共有できた。さらに、こども園の自然活動見守りなどでは、交流がより深められた。



【自然保育見守り】

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

学校支援の更なる充実を図るため、より多くのボランティアを創出することが必要である。ボランティアの募集をより広くおこない、子どもたちが本物に触れる学習をすすめられるよう学校との連携を図っていきたい。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

年に2回、ボランティア活動だより「ボランティア通信」を発行し、地域・校・園・公共施設で回覧および掲示を行った。更に一年間の活動報告書を作成し、全ボランティア登録者に配布したり会議等で紹介したりするなど、活動内容について周知した。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校長 ■教頭 ■地域連携担当教職員 ■その他（教務主任、各学年担当者）

報告書記入者（地域コーディネーター）

IV 地域未来塾の実践事例

令和5年度 地域未来塾 活動事例一覧

市町名	教室数	教室名	対象学校名	主な実施場所	委託	委託団体名
彦根市	19	水曜放課後学習会	東中学校	東中学校	○	東中学校区 支援地域協議会
		くろがねもち教室	城東小学校	城東小学校	○	
		さわやま教室	佐和山小学校	佐和山小学校	○	
		学力補充教室	西中学校	西中学校	○	西中学校区 支援地域協議会
		夏休みきらり学習教室	城北小学校	城北小学校	○	
		放課後バックアップ教室	城西小学校	城西小学校	○	
		土曜教室・てみる	中央中学校	中央中学校	○	中央中学校区 支援地域協議会
		学び育ちLL教室	中央中学校	中地区公民館	○	
		南中未来塾「水曜ゼミ」	南中学校	南中学校	○	南中学校区 支援地域協議会
		亀山補充学習教室	亀山小学校	亀山小学校	○	
		彦根中地域未来塾	彦根中学校	彦根中学校	○	彦根中学校区 支援地域協議会
		5年生学習支援教室	河瀬小学校	河瀬小学校	○	
		学力向上教室	高宮小学校	高宮小学校	○	
		学力補充教室	鳥居本中学校	鳥居本中学校	○	鳥居本中学校区 支援地域協議会
		夏休み国語算数教室	鳥居本小学校	鳥居本小学校	○	
		地域未来塾	稲枝中学校	稲枝中学校	○	稲枝中学校区 支援地域協議会
		かがやき教室	稲枝東小学校	稲枝東小学校	○	
		ホップタイム	稲枝西小学校	稲枝西小学校	○	
		ぐんぐんクラブ	稲枝北小学校	稲枝北小学校	○	
湖南市	4	放課後学習会	石部中学校	石部中学校		
		放課後学習会	甲西中学校	甲西中学校		
		地域みらい塾	甲西北中学校	菩提寺まちづくりセンター 岩根まちづくりセンター		
		日枝中未来塾	日枝中学校	日枝中学校		
米原市	6	はびろ学習会	柏原中学校	柏原中学校		
		いつ今教室	大東中学校	大東中学校		
		小論文対策講座	伊吹山中学校	伊吹山中学校		
		放課後&長期休業中の全校学習会				
		米原学習室(MGK)	米原中学校	米原中学校		
		土曜バチスタ	河南中学校	河南中学校		
日野町	2	ちょこっと学習会	日野中学校	日野中学校		
		立ち寄り学習処 ちょき		日野町少年センター		
竜王町	1	土曜龍王塾(雲竜塾、昇竜塾)	竜王中学校	竜王中学校		
多賀町	1	土曜講座(サタスタ)	多賀中学校	多賀中学校	○	(株) TOMONI

あたたかい人間関係の中で、自分らしさを発揮して学習に取り組める場を

彦根市	活動名：水曜放課後学習会	東中学校	学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
主な活動場所：年間開催日数：25日（開催ペース：週1日） 平均参加人数：8人		開始年度：平成26年度 地域学校協働活動推進員等数：2人 学習支援員等 平均人数：5人	
・学習形態： <input checked="" type="checkbox"/> 個別の学力補充 <input type="checkbox"/> 教材を使った一斉学習 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・教室の持ち方： <input checked="" type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・学習支援員等の属性： <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input checked="" type="checkbox"/> 元教職員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input type="checkbox"/> その他			

■ 活動の概要と目的

放課後の時間を利用して、生徒たちが自主的に学習できる場を提供。基礎でつまづいている生徒には、学習支援ボランティアが寄り添い学力を向上させる。地域の人とつながる場をつくる。

■ 特徴的な学習支援内容

生徒の自主性を尊重し、生徒が決めたことをやり遂げられるような支援を心がけた。

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫

「東中学校区地域学校協働本部」が主体となり、学校と相談しながら開催。3年生の希望する生徒を対象としたが、2学期には、2年生の生徒から参加希望があったため受け入れた。生徒個別の学習ファイルを作成し、学習終了後に、各自で学習の振り返りを記入し、ボランティアがメッセージを書くなどして交流に活用した。

■ 事業の成果

生徒とボランティアとの関係がよく、生徒は安心して積極的に質問し学習をすすめている。 【学習会の様子】

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

1年生の希望者も受け入れたいが、ボランティアの数が足りないため難しい。多忙な教員との連携が難しく、家庭の事情で家庭での学習が難しい生徒や不登校の生徒など、本来こうした場が必要であろう生徒になかなか届かない。



報告書記入者（ 協働活動推進員 ）

それぞれの「〇〇したい！」にあった支援で、学力アップ！

彦根市	活動名：くろがねもち教室	城東小学校	学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
主な活動場所：学校（各教室） 年間開催日数：3日（開催ペース：夏季休業中） 平均参加人数：20人／1日		開始年度：令和4年度 地域学校協働活動推進員等数：2人（兼務2人） 学習支援員等 平均人数：4人／1日	
・学習形態： <input checked="" type="checkbox"/> 個別の学力補充 <input type="checkbox"/> 教材を使った一斉学習 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・教室の持ち方： <input type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input checked="" type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・学習支援員等の属性： <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input checked="" type="checkbox"/> 元教職員 <input type="checkbox"/> 地域住民 <input checked="" type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input type="checkbox"/> その他			

■ 活動の概要と目的

- ・3年生以上を対象とし、国語、算数の基礎的・基本的な学習内容の定着を目指す。
- ・夏季休業終盤の3日間、8:30から実施。

■ 特徴的な学習支援内容

- ・1学期の学習状況を参考に、個々の課題に応じた問題等を準備し、取り組む。
- ・各学年2～3人体制で指導に当たり、それぞれの困り感に寄り添った個別の指導・支援を基本とする。

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫

- ・1学期末個別懇談会で保護者に案内する。
- ・友達同士で話をしたりせず、自分の課題に集中して取り組むようにする。

■ 事業の成果

- ・2学期開始直前に設定したことで、夏季休業中の課題について質問をするなど、子ども自身が課題意識をもって参加することができた。また、8:30開始としたことにより、生活リズムを整えるきっかけになった。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

- ・下校時の見守り等への協力もいただければ、参加する児童・保護者ともさらに安心感をもてるのではないかと考える。



【個別の支援を受け、安心して取り組む】

報告書記入者（ 地域連携担当教員 ）

個に応じた学習支援～「わからない」を大切に 明日の授業に自信と楽しみを～

彦根市	活動名： さわやま教室	佐和山小学校	学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
主な活動場所： 年間開催日数：18日（開催ペース：月2～3日） 平均参加人数：14人		開始年度：令和3年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 学習支援員等 平均人数：5人	
・学習形態： <input checked="" type="checkbox"/> 個別の学力補充 <input type="checkbox"/> 教材を使った一斉学習 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・教室の持ち方： <input checked="" type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・学習支援員等の属性： <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input checked="" type="checkbox"/> 元教職員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input checked="" type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input type="checkbox"/> その他			

■ 活動の概要と目的

佐和山小学校高学年児童で、主に算数科で学年相当の学習にしんどさが見られる児童を対象に、学力の向上を目指して学力補充をしている。

■ 特徴的な学習支援内容

学校（担任や担当教員）と連携を取り、児童一人一人の学習課題を把握し、学習計画を立てる。学習進度に合わせて予習・復習を行う。学年別に担当する学習支援員を大まかに決めて、できるだけ同じ支援員が指導・支援にあたることで子どもたちが安心して聞ける関係づくりに努めた。少人数での学習形態で一人一人の弱みを補充するため、子どもたちも達成感が得やすく、わかることが意欲につながり楽しく学習に取り組んでいる。



【 学習の様子 】

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫

高学年の希望者が対象。学期ごとに参加希望者を募り、保護者と担任で話し合っって参加日程を決めている。

■ 事業の成果

昨年度申し込んで学習への理解の深まりと楽しさを実感した児童が、今年度も申し込み、積極的に学習に取り組んでいる。「わかる」ことの楽しさが日々の授業への意欲にもつながっている。また、少人数で自分のペースに応じた学習ができるよさを体験し、コツコツと学習を積み上げられることを子ども自身も感じて前向きに学習に取り組んでいる。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

学習支援員の人材確保が難しい。昨年度からの継続で確保できているところはあるが、少人数での個別支援という学習形態を続けていくためにも、安定した人数の保障についてよりよい手立てを模索していく必要がある。

報告書記入者（ 学ぶ力向上推進リーダー ）

「あなたの未来のために学力向上をめざしませんか？」 来たれ！ 未来塾

彦根市	活動名： 学力補充教室	西中学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
主な活動場所：被服室・理科室 年間開催日数：22日（開催ペース：週1日） 平均参加人数：15人		開始年度：平成26年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 学習支援員等 平均人数：5人	
・学習形態： <input checked="" type="checkbox"/> 個別の学力補充 <input type="checkbox"/> 教材を使った一斉学習 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・教室の持ち方： <input checked="" type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・学習支援員等の属性： <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input checked="" type="checkbox"/> 元教職員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input checked="" type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input type="checkbox"/> その他			

■ 活動の概要と目的

・学力補充を目的とした学習教室を開催した。放課後や夏季休業中の時間を活用して学習支援員が個別の学習指導を行った。

■ 特徴的な学習支援内容

・元教職員の学習支援員による、豊富な経験と高い指導力を生かして生徒の学力向上を図った。
・各自が学習課題を自身で準備することで、生徒の目的意識を明確にした。

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫

・全学年を対象にして、自主的に取り組める希望者を募り実施した。
・夏季休業中は、各学年の学力補充教室と連携して実施した。
・2会場で学習会を実施し、集中して学習ができる対策を行った。

■ 事業の成果

・個に応じた学習支援が実施でき、学習意欲の向上が図れた。
・地域の方との交流が深まった。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

・学習支援員の高齢化が進み、人材を確保することが難しくなりつつある。
・学生の支援員としての意識が低く、参加率が悪かった。

■ その他

・特別な支援を必要とする生徒への指導者側の学習支援スキルを高めていくための体制を検討する必要がある。



【放課後学習教室】

報告書記入者（ 教頭 ）

夏休みきらり学習教室 ～個別指導による学力補充学習～

彦根市	活動名：夏休みきらり学習教室	城北小学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
主な活動場所：教室 年間開催日数：3日（開催ペース：年3日） 平均参加人数：60人		開始年度：平成26年度 地域学校協働活動推進員数：1人 学習支援員等 平均人数：4人	
・学習形態： <input checked="" type="checkbox"/> 個別の学力補充 <input type="checkbox"/> 教材を使った一斉学習 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・教室の持ち方： <input type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input checked="" type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・学習支援員等の属性： <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input checked="" type="checkbox"/> 元教職員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input type="checkbox"/> その他			

- 活動の概要と目的
 - ・実施日時：夏季休業中の3日間、（7月21日（金）24日（月）25日（火））、いずれも8:30から10:00まで
 - ・目的：算数科を中心とした、個別の学力補充
- 特徴的な学習支援内容
 - ・算数科に絞り、個々の児童の苦手とする課題や児童が高めたいと考える内容について、補充指導や問題演習を行った。
- 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫
 - ・担任より個別指導が望ましいと考える児童の参加を中心とした。
- 事業の成果
 - ・地域の方々の協力のおかげで個別対応が可能となり、つまずきを的確に把握し、スモールステップできめ細かに支援することができた。本学習を通して、子どもたちは「分かった!」「できた!」という思いを実感し、学習への意欲を高めることができた。
- 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて
 - ・さらに充実した指導となるよう、学習支援員の確保に努めていきたい。



報告書記入者（ 教頭 ）

基礎・基本の定着をねらいとした学習支援

彦根市	活動名：放課後バックアップ教室	城西小学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
主な活動場所： 年間開催日数：16日（開催ペース：週1日） 平均参加人数：15人		開始年度：平成24年度 地域学校協働活動推進員等数：2人（兼務0人） 学習支援員等 平均人数：3人	
・学習形態： <input checked="" type="checkbox"/> 個別の学力補充 <input type="checkbox"/> 教材を使った一斉学習 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・教室の持ち方： <input checked="" type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input checked="" type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・学習支援員等の属性： <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input checked="" type="checkbox"/> 元教職員 <input type="checkbox"/> 地域住民 <input checked="" type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input type="checkbox"/> その他			

- 活動の概要と目的
 - ・算数科の基礎・基本の定着に向け、個別指導を主とした教室を4～6年生の希望者を対象に年間16回開催した。
- 特徴的な学習支援内容
 - ・プリントやドリルの内容を基本とし、個別指導を主とした学習支援を行っている。
- 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫
 - ・下校時、保護者が確実に迎えに来られることを確認し、迎えが可能な児童のみ参加できることとした。
- 事業の成果
 - ・児童に個別に対応することができるため、その児童が持つ困り感に寄り添い、理解を深められることができた。
- 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて
 - ・より充実した指導となるよう、多くの学習支援員の確保が急務となる。



【 6年生のバックアップ教室 】

報告書記入者（ 教頭 ）

来てみる・やってみる 「土曜教室・てみる」

彦根市	活動名 : 土曜教室・てみる	中央中学校	学校運営協議会 : <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
主な活動場所 : 理科室		開始年度 : 平成 26 年度	
年間開催日数 : 7 日 (開催ペース : 月 1~2 日)		地域学校協働活動推進員等数 : 1 人	
平均参加人数 : 15 人		学習支援員等 平均人数 : 8 人	
・学習形態 : <input checked="" type="checkbox"/> 個別の学力補充 <input type="checkbox"/> 教材を使った一斉学習 <input type="checkbox"/> その他 () ・教室の持ち方 : <input type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input checked="" type="checkbox"/> 土曜日実施 <input type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他 () ・学習支援員等の属性 : <input checked="" type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input checked="" type="checkbox"/> 元教職員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input checked="" type="checkbox"/> 大学生 <input checked="" type="checkbox"/> NPO 等関係者 <input type="checkbox"/> その他			

■ 活動の概要と目的

子ども達への学習補助はもちろん学習支援員等との対話を通じて、学びへの動機付けや将来なりたい姿を見つけることをねらいとしている。

■ 特徴的な学習支援内容

1対1または子ども2人に指導者1人とし、学習支援員との関係づくりを大切に、生徒のやる気を尊重した学習の動機付けとなる学びの場をつくっている。2時間の学習時間の合間に、生徒と支援員の交流の時間を設定して、話をしたり、カードゲームなどを一緒に行ったりすることで、よりコミュニケーションが深まるようにしている。この交流を楽しみにしている生徒も多く、ここでの温かみで励ましのあるふれあひから生徒の自尊感情の高まりなども期待している。



【1対1を基本として実施】

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫

全校生徒に案内を配布し希望を募っている。開設日は、部活動や各種検定の時間と重ならないように配慮して調整している。毎回、実施後に地域コーディネーターが中心となり学習支援員、学校関係者で集約会議を行い、子どもの関わりの質の向上につなげている。

■ 事業の成果

個別指導により、つまづきを的確に把握しながら学習支援を行い基礎学力の定着を図ることができている。特に、3年生の受講者が多く、各自が考えている受験先の学習に対応することで、進路の実現につなげることができている。また、休日の午前中に開催することで、生活リズムを整え学習習慣の定着にもつながっている。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

活動推進員や学習支援員の確保、企画・運営ができるコーディネーター確保が必須である。

報告書記入者 (教頭)

子どもの自主的な学びと育ちを支える地域の居場所づくり

彦根市	活動名 : 学び育ちLL教室	中央中学校	学校運営協議会 : <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
主な活動場所 : 中地区公民館		開始年度 : 平成 24 年度	
年間開催日数 : 44 日 (開催ペース : 週 1 日、月 4 回)		地域学校協働活動推進員等数 : 1 人	
平均参加人数 : 14 人		学習支援員等 平均人数 : 10 人	
・学習形態 : <input checked="" type="checkbox"/> 個別の学力補充 <input type="checkbox"/> 教材を使った一斉学習 <input type="checkbox"/> その他 () ・教室の持ち方 : <input checked="" type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他 () ・学習支援員等の属性 : <input checked="" type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input checked="" type="checkbox"/> 元教職員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input checked="" type="checkbox"/> 大学生 <input checked="" type="checkbox"/> NPO 等関係者 <input type="checkbox"/> その他			

■ 活動の概要と目的

毎週月曜日の夜に地域の公民館にて開催。自主的な学びへの動機付けや将来なりたい姿を見つけることをねらいとしている。学習の補充を行い、自信をもたせる。

■ 特徴的な学習支援内容

マンツーマン対応で学習支援員やボランティアとの関係づくりを大切に、子どものやる気を尊重した学びの場をつくっている。固定した時間割は定めず、子どもの状況に応じて、人間関係づくりの向上を目指して、交流を目的とした活動を取り入れている。

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫

全校生徒に案内を配布している。また、活動状況はフェイスブックから発信していることから、近隣学区の子どもたちの参加もある。



【 LL教室の様子 】

■ 事業の成果

個々の学力やモチベーションにあわせて学習を進めることで主体的に取り組む場となっている。また特別な支援を要する子どもや生活面での課題を抱えている生徒も参加し、他者とかかわったり自分を見つめたりする時間となり、地域での居場所づくりになっている。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

ボランティアの確保や数年ごとの教科書変更に対応した教材整備と教材の保管場所確保が課題である。

報告書記入者 (教頭)

放課後学習「水曜ゼミ」

彦根市	活動名：南中未来塾「水曜ゼミ」	南中学校 学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
主な活動場所：南中学校区		開始年度：平成29年度
年間開催日数：15日（開催ペース：週1日）		地域学校協働活動推進員数：1人（兼務1人）
平均参加人数：15人		学習支援員等 平均人数：4人
・学習形態： <input checked="" type="checkbox"/> 個別の学力補充 <input type="checkbox"/> 教材を使った一斉学習 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・教室の持ち方： <input checked="" type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・学習支援員等の属性： <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input type="checkbox"/> 元教職員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input checked="" type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input type="checkbox"/> その他		

■ 活動の概要と目的

- ・放課後学習「水曜ゼミ」（11～2月）は、3年生を対象に進路実現に向けて基礎的な学力を身に付けるために、プリントを使って学習している。基本、週に1回のペースで実施している。
- ・未来塾事業を活用した夏休み補充教室は、実施していない。

■ 特徴的な学習支援内容

学習支援員は、教員や地域の住民、近隣に在籍している大学生が中心となり、個別の学習支援にあっている。水曜ゼミの学習教材としては、県立入試問題集や国語・数学・英語の基本的な内容プリントを準備して、個に応じた学習に取り組めるようにしている。



【大学生から学ぶ生徒の学習の様子】

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫

水曜ゼミは受験を控えた3年生で、特に基礎学力の強化が必要と思われる生徒を対象に実施している。近隣の大学生や本校卒業生への連絡、また地域学校協働活動推進員による地域への声掛けや連絡により、学習支援員の確保にあっている。

■ 事業の成果

家庭では一人で学習できない生徒の学習の場となり、学習支援員に積極的に質問するなど意欲的に取り組んでいる。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

参加生徒に対して学習支援員の人数が少ない日もあり、安定した人材確保が必要である。校区にある大学と連携し、学習支援員が確保できる体制も今後検討したい。また生徒用学習者用端末の活用についても検討を進めていきたい。

報告書記入者（ 教頭 ）

夏休み前補充学習教室

彦根市	活動名：亀山補充学習教室	亀山小学校 学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
主な活動場所：かめやまホール		開始年度：令和2年度
年間開催日数：3日（個別懇談期間中）		地域学校協働活動推進員等数：1人
平均参加人数：18人		学習支援員等 平均人数：6人
・学習形態： <input checked="" type="checkbox"/> 個別の学力補充 <input type="checkbox"/> 教材を使った一斉学習 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・教室の持ち方： <input type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・学習支援員等の属性： <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input checked="" type="checkbox"/> 元教職員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input type="checkbox"/> その他		

■ 活動の概要と目的

昨年度までは、夏季休業中の3日間に全校児童に参加希望を募って、学習教室を実施していた。参加希望者が多く、意欲的に学習できたが、今年度は、個別の学力補充というところに重点を置いた学習教室を計画、実施した。

■ 特徴的な学習支援内容

- ・学習支援員一人に児童2～3人が教えてもらうことができた。
- ・一人一人に応じた課題を準備し、学習を進めた。

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫

開催時期として、児童の登下校を保護者の方をお願いするうえで、夏季休業中よりも課業日の方が送迎していただきやすいのではないかと考え、個別懇談中の3日間に設定した。個別懇談の放課後であれば、学習時間も十分確保することができ、保護者の方にも送迎をお願いしやすいと考えた。参加については、算数科で4年生以上とし、少人数で個別に学習の補充ができるようにした。また、課題については、一人一人の学習状況に応じた課題に取り組めるように、担任が問題を精選した。

■ 事業の成果

募集人数と補充教室での学習内容を限定したことで、学習支援で来ていただいた地域の方と担任外の教務・管理職で2～3人ずつの児童の学習支援を行うことができた。児童は、わからないところがあるとすぐに聞くことができたり、解答をすぐに確認してもらうことができたので、「わからない」が「わかる」になり、意欲的に学習に取り組むことができた。また、地域の方に来ていただいて教えてもらったことは、地域の方と身近に接するよい機会ともなった。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

開催時期の検討や学習支援に協力いただける方の確保について、考えていく必要がある。

報告書記入者（ 教頭 ）

学びを育む学習会

彦根市	活動名 : 彦根中地域未来塾	彦根中学校	学校運営協議会 : <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
主な活動場所: 被服室 年間開催日数: 42日 (開催ペース: 週2日) 平均参加人数: 18人		開始年度: 平成29年度 地域学校協働活動推進員等数: 0人 学習支援員等 平均人数: 3人	
・学習形態 : <input checked="" type="checkbox"/> 個別の学力補充 <input type="checkbox"/> 教材を使った一斉学習 <input type="checkbox"/> その他 () ・教室の持ち方 : <input checked="" type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input checked="" type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他 () ・学習支援員等の属性: <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input checked="" type="checkbox"/> 元教職員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input checked="" type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input checked="" type="checkbox"/> その他			

■ 活動の概要と目的

- ・毎日の授業だけでは十分に学力が定着しない生徒も多く、何を学習してよいのかわからない生徒も多数いる。そこで、地域の方々や大学生等の協力を得て、一人ひとりの学力に応じた学習を個別対応で進め、学習習慣と学力の定着を図る。

■ 特徴的な学習支援内容

- ・夏季休業中の補充教室や質問教室では、全学年で5日間開催し、生徒の自主学習に対する支援を、学習支援員と教員が行った。
- ・3年生の放課後学習会では、10月から毎週火・木曜日を基本にして、生徒が持参する学習教材に対する支援を、学習支援員と教員が行った。

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫

- ・3年生の放課後学習会では、参加希望者が多かったので曜日でメンバーを分けて実施した。

■ 事業の成果

- ・学習支援員に積極的に質問したり終了時刻になっても続けようとしたりするなど、勉強に対する意欲が高まった。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

- ・域学校協働本部事業に関わる地域の方にも学習支援員として参加してもらえるように、方法を模索したい。



【 3年生放課後学習会 】

報告書記入者 (教頭)

算数科学習支援教室

彦根市	活動名 : 5年生学習支援教室	河瀬小学校	学校運営協議会 : <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
主な活動場所: 5年生教室・少人数教室 年間開催日数: 10日 (開催ペース: 週5日) 平均参加人数: 30人		開始年度: 平成23年度 地域学校協働活動推進員等数: 2人 学習支援員等 平均人数: 2人	
・学習形態 : <input checked="" type="checkbox"/> 個別の学力補充 <input type="checkbox"/> 教材を使った一斉学習 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (プリント等採点) ・教室の持ち方 : <input type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他 () ・学習支援員等の属性: <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input type="checkbox"/> 元教職員 <input type="checkbox"/> 地域住民 <input checked="" type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input type="checkbox"/> その他			

■ 活動の概要と目的

- ・5年生算数科の学習支援を行い基礎学力の定着を図る。
- ・学習に自主的に、意欲的に取り組もうとする態度を養う。

■ 特徴的な学習支援内容

- ・算数の基礎的な学力の補充 ・プリントを採点する。

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫

- ・今年度本校に教育実習に来た実習生に声をかけ、学習支援を依頼した。
- ・5年生の学習に合わせて支援をしてもらった。2学期末は、既習学習の復習を中心に支援をしていただき、3学期は、面積の学習に特化してクラスごとに支援をしていただいた。

■ 事業の成果

- ・休み時間を利用し担任が1人で復習や定着度合いを見取っていたが、2人体制で指導することで個々の学力に応じた効率的な支援をすることができた。
- ・2学期末の復習の時期に設定することで、これまでの学習でのつまずき気づき、解き方の再確認ができた。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

- ・ここ数年、支援員を教育実習生にきてくれた学生にお願いしている。子どもとの年齢も近いこともあり、子どもにとって親しみやすい存在であり、学習について聞きやすい存在となっている。今後も、実習生を中心に声をかけ支援員の確保に努めたい。
- ・休み時間の学習補充教室以外にも、学習支援をしていただく機会を模索していきたい。



【 復習プリント チェックしてもらう児童 】

報告書記入者 (地域連携担当教職員)

地域とともに育てる子どもの学ぶ力

彦根市	活動名：学力向上教室	高宮小学校	学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
主な活動場所： 年間開催日数：2日（夏季休業中） 平均参加人数：60人 ・学習形態： <input checked="" type="checkbox"/> 個別の学力補充 <input type="checkbox"/> 教材を使った一斉学習 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・教室の持ち方： <input type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input checked="" type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・学習支援員等の属性： <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input type="checkbox"/> 元教職員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input type="checkbox"/> その他		開始年度：令和3年度 地域学校協働活動推進員等数：0人 学習支援員等 平均人数：2人	

■ 活動の概要と目的

- ・基礎学力の定着及び学力のさらなる向上を図る。
- ・学習習慣の定着とともに、学習に自主的、意欲的に取り組もうとする態度を養う。

■ 特徴的な学習支援内容

- ・国語と算数を中心に補充学習を進める。

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫

- ・前半後半の2つのグループ制にした。前半は、基本コースとし、授業の復習や夏休みの宿題に取り組んだ。後半の応用コースでは、発展問題に取り組んだ。

■ 事業の成果

- ・少人数の学習の機会としたことで、個々の学力に応じた支援ができた。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

- ・より充実した指導となるよう、学習支援員の確保に努めたいが、予算的に厳しい状況である。



【 学力向上教室 】

報告書記入者（ 地域連携担当者 ）

地域と学校を結ぶ鳥居本地域未来塾

彦根市	活動名：学力補充教室	鳥居本中学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
主な活動場所：各教室 年間開催日数：10日（開催ペース：夏休み） 平均参加人数：10人 ・学習形態： <input checked="" type="checkbox"/> 個別の学力補充 <input type="checkbox"/> 教材を使った一斉学習 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・教室の持ち方： <input type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input checked="" type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・学習支援員等の属性： <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input type="checkbox"/> 元教職員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input checked="" type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input checked="" type="checkbox"/> その他		開始年度：平成24年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 学習支援員等 平均人数：2人	

■ 活動の概要と目的

生徒の学力の補充を目的として、長期休業中に、教員と一緒に実施している。

■ 特徴的な学習支援内容

・基礎的な学力の補充

長期休業中に出される英語、数学、国語、理科、社会の課題（ワーク、タブレットドリル）の基礎的な問題やわからない問題を中心に個別支援している。

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫

- ・学力の補充が必要な生徒に、教員が参加勧誘の声をかけた。
- ・学習支援員の人数に偏りが出ないようにスケジュールの調整をする。

■ 事業の成果

- ・生徒は、わかりやすく教えてもらっていると好評である。
- ・地域の方も、中学生に学習を教えることで喜んでもらえる充実感がある。
- ・学習を通して、地域の方と中学生が交流できる。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

- ・学習支援をしてくださる地域の方が、限定されている。支援をしてくださる地域の方をどのように発掘するかが課題である。
- ・平日の放課後等の実施は、行事や時間設定、人員の確保という面から、なかなか難しい。



【 夏休み補充学習 】

報告書記入者（ 教頭 ）

輝く笑顔 一人ひとりの「わかった!」をめざして

彦根市	活動名 : 夏休み国語算数教室	鳥居本小学校	学校運営協議会 : <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
主な活動場所 : 鳥居本小各教室		開始年度 : 令和2年度	
年間開催日数 : 3日		地域学校協働活動推進員等数 : 1人	
平均参加人数 : 20人		学習支援員等 平均人数 : 3人	
・学習形態 : <input checked="" type="checkbox"/> 個別の学力補充 <input type="checkbox"/> 教材を使った一斉学習 <input type="checkbox"/> その他 () ・教室のもち方 : <input type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input checked="" type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他 () ・学習支援員等の属性 : <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input checked="" type="checkbox"/> 元教職員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input type="checkbox"/> その他			

■ 活動の概要と目的

国語科・算数科の基礎基本の学力の定着を目的として、夏季休業中の3日間（7月21日(金)、24日(月)、25日(火)）、いずれも、8:30から10:20まで実施した。

■ 特徴的な学習支援内容

基礎基本の内容に特化した内容の補充指導や問題演習を行う。間違いやつまずきに個別に対応し、「わかった」を実感できるよう、きめ細かな支援をする。

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫

個別指導が望ましい児童への、担任からの呼びかけにより参加を募り、個に応じた学習を進め子どもの自信につなげた。

地域学校協働本部事業にいただいた意見を組み入れ連携して事業を実施した。実施した様子についてもまた、学園運営協議会等においても伝えるようにした。

■ 事業の成果

学習そのものに苦手意識があり、基礎基本の積み上げが困難な児童が参加しているため、スモールステップの学習活動を仕組み、褒め認める言葉がけにより成就感や達成感を実感できるよう支援した。その結果、一つ一つを積み上げることの大切さ目を見せる児童の姿も見られた。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

よりきめ細かな対応が充実するよう、支援いただける方の確保に努めたい。



【 夏休み国語算数教室 】

報告書記入者 (教頭)

生徒と指導者、生徒同士で教えあい、学びあう態度を培う学習塾

彦根市	活動名 : 地域未来塾	稲枝中学校	学校運営協議会 : <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
主な活動場所 : 稲枝中学校多目的室、図書室		開始年度 : 平成28年度	
年間開催日数 : 21日 (開催ペース : 週1・月4日)		地域学校協働活動推進員等数 : 4人 (兼務2人)	
平均参加人数 : 15人		学習支援員等 平均人数 : 4人	
・学習形態 : <input checked="" type="checkbox"/> 個別の学力補充 <input type="checkbox"/> 教材を使った一斉学習 <input type="checkbox"/> その他 () ・教室のもち方 : <input checked="" type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他 () ・学習支援員等の属性 : <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input checked="" type="checkbox"/> 元教職員 <input type="checkbox"/> 地域住民 <input type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input type="checkbox"/> その他			

■ 活動の概要と目的

中学3年生の受験対策、塾等に行かない生徒の学力補充

■ 特徴的な学習支援内容

中学生同士で教え合いをし、指導者が支援をする。

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫

稲枝中学校第3学年に依頼して参加生徒を募集

■ 事業の成果

ともに学ぶ姿勢が身に付き、自主性が育ってきた。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

生徒の参加者を抱えている課題などで、制限を設け、支援体制をはっきりさせる、逆に学校で勉強したい者はだれでも参加できるなど、目的を明確にできればと思う。



【 熱心に学習する生徒 】

報告書記入者 (地域学校協働支援員)

子どもたちの学びを豊かにする地域支援活動「かがやき教室」

彦根市	活動名： かがやき教室	稲枝東小学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
主な活動場所： 音楽室		開始年度：平成30年度	
年間開催日数：10日（開催ペース：月1、2日）		地域学校協働活動推進員等数：5人（兼務1人）	
平均参加人数：25人		学習支援員等 平均人数：5人	
・学習形態： <input checked="" type="checkbox"/> 個別の学力補充 <input type="checkbox"/> 教材を使った一斉学習 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・教室の持ち方： <input checked="" type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・学習支援員等の属性： <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input checked="" type="checkbox"/> 元教職員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input checked="" type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input type="checkbox"/> その他			

■ 活動の概要と目的

3・4・5年生の児童を対象に、6月より月に1、2回程度の学力補充の時間を計画した。

■ 特徴的な学習支援内容

担任からの聞き取りをもとに、事前に児童がつまづきを感じている学習内容を何種類か選び、プリントを作成する。児童は、自分の課題に合った学習内容を進め、学習支援員は児童の困り感や質問に応じて、個別の学習支援を行った。

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫

基礎的・基本的な内容に絞り、参加を呼び掛けた。併せて、個別に支援することで伸びが期待できる児童にも担任から声をかけて参加を促した。

■ 事業の成果

担任からの聞き取りをもとに学習プリントを絞り準備したことで、苦手な内容の克服に一定の成果が見られた。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

少人数のよさを生かして個に応じた支援ができたが、人数が増えるとその効果がやや弱くなる。年間を通して個の成長を記録して見取るまでは、今後の課題である。

■ その他

本校の取組について、日々の学校生活の様子と併せて稲枝東小学校ホームページにて紹介しています。

<https://www.fureai-cloud.jp/inaehigashi-hikone/>



【 学習支援の様子 】

報告書記入者（ 地域連携担当教員 ）

わくわく はえみ学習

彦根市	活動名： ホップタイム	稲枝西小学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
主な活動場所：		開始年度：令和2年度	
年間開催日数：13日（開催ペース：月1～2日）		地域学校協働活動推進員等数：0人	
平均参加人数：21人		学習支援員等 平均人数：6人	
・学習形態： <input checked="" type="checkbox"/> 個別の学力補充 <input type="checkbox"/> 教材を使った一斉学習 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・教室の持ち方： <input checked="" type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・学習支援員等の属性： <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input checked="" type="checkbox"/> 元教職員 <input type="checkbox"/> 地域住民 <input type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input type="checkbox"/> その他			

■ 活動の概要と目的

・確かな学力の定着と苦手な学習内容の復習

■ 特徴的な学習支援内容

・一つの学級を2グループに分け、各グループに2名の指導者を配置した。課題は学習内容に合わせて難易度を分けて用意したり、教科書、ドリルの問題を使用したりした。

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫

・学年の学習内容や定期テストに合わせて学習課題を準備することで、子どもたちも目標をもって取り組むことができた。また、学級での既習内容について確かめたり振り返ったりすることもできた。

■ 事業の成果

・1クラス10～13名の少人数で実施し、元教員を2名配置することで、充実した個別学習支援をすることができた。また、子ども同士で教え合ったり、励まし合ったりする場面も見られ、難しい問題でも自分の力で最後まで取り組もうとする粘り強さが育ってきている。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

・学期ごとの日程調整や内容確認を早めに行ったことで計画的に取り組むことができた。



【 ホップタイム 】

報告書記入者（ 地域連携担当職員 ）

「できる・分かる」楽しさと喜びを味わわせ、子どもたちの学意欲を高める

彦根市	活動名：ぐんぐんクラブ	稲枝北小学校 学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
主な活動場所：2年教室・4年教室		開始年度：平成27年度
年間開催日数：50日（開催ペース：週2日）		地域学校協働活動推進員等数：1人
平均参加人数：5人		学習支援員等 平均人数：2人
・学習形態： <input checked="" type="checkbox"/> 個別の学力補充 <input type="checkbox"/> 教材を使った一斉学習 <input type="checkbox"/> その他（ ）		
・教室の持ち方： <input checked="" type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他（ ）		
・学習支援員等の属性： <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input checked="" type="checkbox"/> 元教職員 <input type="checkbox"/> 地域住民 <input type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input type="checkbox"/> その他		

■ 活動の概要と目的

少人数による個別指導で「できた・分かる」楽しさと喜びを味わわせ、子どもたちの学意欲を高められるようにする。

■ 特徴的な学習支援内容

課業日の月曜日（1～3年）水曜日（4～6年）、学期ごとに参加児童を募集し定員を8名程度までとして学習支援ボランティアによる指導を行う。算数科を中心に宿題をしたり個に応じた課題（プリント等）を準備して実施したりし個別の進捗で学習を進める。

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫

全校児童に募集をし、希望者の中から個別指導を要する児童が参加できるようにしている。希望者が多数の場合は、支援を必要とする児童に絞り、4～7名という少人数で実施している。

■ 事業の成果

学習に苦手意識のある児童、集団の一斉学習では学習内容の習得が困難な児童への個別支援が充実した。分からないことをその場ですぐに聞いたり、やり直したりできることで、「できる・分かる」という実感をもたせることができた。また、個別に復習等に取り組むことで理解が進み、児童の学習意欲も高まった。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

支援の必要な児童が参加を希望しない場合があり、募集の仕方を工夫する必要がある。効果があることを知らせ、児童へ声をかけるとともに、懇談会などを通して保護者に直接声をかけていきたい。また、学習支援者と担任との打合せを充実させるなど連携を一層、密にしていく必要がある。

■ その他

地域学校協働活動推進員のご尽力により現在の学習支援者にお世話になることができていますが、今後の人材確保も課題となっている。

報告書記入者（ 教頭 ）

学習習慣の定着と自ら学ぶ意欲を高める放課後学習会

湖南省	活動名：放課後学習会	石部中学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
主な活動場所：石部中学校 教室		開始年度：平成28年度	
年間開催日数：55日（開催ペース：月5日程度）		地域学校協働活動推進員等数：1人（兼務1人）	
平均参加人数：15人		学習支援員等 平均人数：2人	
・学習形態： <input checked="" type="checkbox"/> 個別の学力補充 <input type="checkbox"/> 教材を使った一斉学習 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・教室の持ち方： <input checked="" type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・学習支援員等の属性： <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input checked="" type="checkbox"/> 元教職員 <input type="checkbox"/> 地域住民 <input type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input type="checkbox"/> その他			

■ 活動の概要と目的

家庭での学習がうまく進まない生徒に対し、課題や提出物に取り組む支援を行い、学習習慣の定着をめざす。聞きあい、学びあうことができる学習会とする。

■ 特徴的な学習支援内容

宿題のわからないところの学習やワークでの復習を支援する。定期テストに向けて、苦手な教科や単元の学習をする。

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫

自分で学習内容を決め、主体的に取り組む姿勢を大切にする。対話を通して学びあえる学習会としている。基本的な内容の教材を用意しておき、基礎基本を身につけられるようにする。

■ 事業の成果

自分で学習計画を立てられるようになってきた。わからないことをそのままにせず、質問をして理解しようとする姿勢がみられた。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

冬季は完全下校時刻が早まり、ほとんど放課後の時間がないので、学習会の時間確保が難しい。定期テスト前には、多くの生徒が学習会に参加しており、指導者の確保が必要である。



【学びあいで楽しく学習】

報告書記入者（ 教頭 ）

やる気をサポート！ ～生徒たちの未来づくり・夢づくり～

湖南省	活動名：放課後学習会	甲西中学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
主な活動場所：甲西中学校 第二理科室		開始年度：平成26年度	
年間開催日数：25日（開催ペース：週1日）		地域学校協働活動推進員等数：3人（兼務3人）	
平均参加人数：5～10人		学習支援員等 平均人数：4人	
・学習形態： <input checked="" type="checkbox"/> 個別の学力補充 <input type="checkbox"/> 教材を使った一斉学習 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・教室の持ち方： <input checked="" type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input checked="" type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・学習支援員等の属性： <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input type="checkbox"/> 元教職員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input checked="" type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO関係者 <input type="checkbox"/> その他			

■ 活動の概要と目的

本校の生徒の課題である自主的・主体的な学習習慣を定着させるため、全学年対象に放課後週1回1時間の学習会を実施している。

■ 特徴的な学習支援内容

家庭ではなかなか学習に取り組みにくい生徒が自主的に参加したり、学習習慣がついていない生徒などに声をかけたりして学習会を行っている。支援員はそれを見守る。教育実習を経験した大学生などが分かる部分を教えることもしている。

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫

今年度は、生徒一人ひとりが宿題などのやらなければならない課題を明確化し、見通しを持って学習する力を育てるため、毎時のはじめに計画を立てる目標シートを導入した。生徒の募集については、毎月各学級で当月の予定を掲示、学習面に気になる生徒に個別に声かけをすることもある。学習支援員の方については、地域の方や本校で教育実習をした大学生に呼びかけている。

■ 事業の成果

平時は参加する生徒が固定化されているが、テスト前になるとこれまで参加のなかった生徒が見られ人数が増える。今年度より目標シートを導入したことで、生徒の学習に対する意欲が上がった。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

一人で課題に取り組む生徒が多いので、わからないところを学習支援員の方にもっと質問できるとよい。学力に課題やしんどさのある生徒や受験を控えた3年生がもっと参加できるように、個別に声かけをしていく必要がある。



【学習会のようす】

報告書記入者（ 学習支援員、教頭 ）

拓こう！ 挑もう！ 自分の夢・未来を ～地域での学び場づくり～

湖南省	活動名：地域みらい塾	甲西北中学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
主な活動場所：菩提寺まちづくりセンター・岩根まちづくりセンター		開始年度：令和3年度	
年間開催日数：30日（開催ペース：月2回）		地域学校協働活動推進員等数：4人（兼務4人）	
平均参加人数：各会場10人		学習支援員等 平均人数：4人	
・学習形態： <input checked="" type="checkbox"/> 個別の学力補充 <input type="checkbox"/> 教材を使った一斉学習 <input type="checkbox"/> その他（ ）			
・教室の持ち方： <input checked="" type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input checked="" type="checkbox"/> 土曜日実施 <input checked="" type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他（ ）			
・学習支援員等の属性： <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input checked="" type="checkbox"/> 行政職員 <input type="checkbox"/> 元教職員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input type="checkbox"/> その他			

■ 活動の概要と目的

学習の場の提供

■ 特徴的な学習支援内容

学習の進み具合をみながら、希望に応じ個別に支援

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫

事前申込み無しでの自由な参加とし、時間内であればいつ来てもいつ帰ってもOK。
校内にポスターの掲示、チラシの配布、メール配信システムやホームページへの掲載を使って開催のお知らせをしている。

■ 事業の成果

さまざまな理由で自宅では自主学習しづらい生徒が、落ち着いた雰囲気の中で集中して学習に取り組んでいる。生徒同士が教え合い学んでいる時もある。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

家庭環境などさまざまな事情で学習が遅れがちな、本当に必要な生徒に対しての支援ができていないのではないか。

■ その他

開催会場が2会場であることで、学習支援等への謝金の補助が前年度と同じなので、限界を感じている。



【 黙々とがんばっています 】

報告書記入者（ 学習支援員 ）

日枝中未来塾 ～自学できる生徒を目指して～

湖南省	活動名：日枝中未来塾	日枝中学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
主な活動場所：第2会議室		開始年度：平成29年度	
年間開催日数：10日		地域学校協働活動推進員等数：3人（兼務3人）	
平均参加人数：15人		学習支援員等 平均人数：4人	
・学習形態： <input checked="" type="checkbox"/> 個別の学力補充 <input type="checkbox"/> 教材を使った一斉学習 <input type="checkbox"/> その他（ ）			
・教室の持ち方： <input checked="" type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input checked="" type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他（ ）			
・学習支援員等の属性： <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input checked="" type="checkbox"/> 元教職員 <input type="checkbox"/> 地域住民 <input checked="" type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input checked="" type="checkbox"/> その他			

■ 活動の概要と目的

基礎学力の定着と学校生活安定のため、支援が必要な生徒に対して学習会を実施する。

■ 特徴的な学習支援内容

外国籍生徒に対して、母語や「やさしい日本語」での対応により、基礎学力の定着と、生活面の安定を目指す。

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫

基本的には希望参加であるが、三者懇談会や教育相談を通して、生徒理解に努め、必要な生徒には積極的に参加を勧める。

■ 事業の成果

個別の対応を行うことで、学習意欲の向上が見られたり、家庭学習の習慣へつなげることができたりしている。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

継続して取り組んできているので、一定の成果をあげている。

■ その他

通訳さんの力を借りたり、タブレットの翻訳機能を使ったりして支援を充実させる。



報告書記入者（ 学習支援員、教頭 ）

自分でつかむ自分の未来「はびろ学習会」

米原市	活動名：「はびろ学習会」	柏原中学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
主な活動場所：柏原中学校図書室		開始年度：令和4年度	
年間開催日数：3日		地域学校協働活動推進員等数：3人（兼務3人）	
平均参加人数：20人		学習支援員等 平均人数：2人	
・学習形態： <input checked="" type="checkbox"/> 個別の学力補充 <input type="checkbox"/> 教材を使った一斉学習 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・教室の持ち方： <input checked="" type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input checked="" type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・学習支援員等の属性： <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input checked="" type="checkbox"/> 元教職員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input type="checkbox"/> その他			

■ 活動の概要と目的

- ・テスト前および長期休業中に自宅での学習に取り組むことが難しい生徒への学習支援とする。
- ・学習習慣の定着と自学自習ができる力を付けるきっかけとする。

■ 特徴的な学習支援内容

参加者各自が教材を準備し、自分のペースで自主的に進めることを基本とした。

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫

自分の都合に合わせた時間への参加とした。

■ 事業の成果

テスト前も休業中も予想したより多くの生徒が参加した。基本的には全員黙々と取り組み、自ら学習に向かう姿勢づくりとすることができた。また、全開催日時に参加する生徒もおり、自学自習の習慣を身に付けるきっかけとなった。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

やはり、学習支援委員の確保が難しい。CS委員とも連携しながら探していきたい。また、部活動との兼ね合いや実施時刻の設定が難しい。学習習慣をつけさせることが目的でもあるので、他の長期休業日やテスト前の土日にも実施していけるよう検討していきたい。



報告書記入者（ 校長 ）

学力補充「いつやるの？今でしょ！教室」

米原市	活動名：いつ今教室	大東中学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
主な活動場所：会議室、図書室、美術室		開始年度：平成25年度	
年間開催日数：37日（開催ペース：定期テスト前・長期休業中）		地域学校協働活動推進員等数：1人	
平均参加人数：10～30人		学習支援員等 平均人数：7人	
・学習形態： <input checked="" type="checkbox"/> 個別の学力補充 <input checked="" type="checkbox"/> 教材を使った一斉学習 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・教室の持ち方： <input checked="" type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input checked="" type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・学習支援員等の属性： <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input checked="" type="checkbox"/> 元教職員 <input type="checkbox"/> 地域住民 <input type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input checked="" type="checkbox"/> その他			

■ 活動の概要と目的

- ・概要 定期テスト前や長期休業中、また3年生入試前の時期に学力補充やテスト対策を実施する。
- ・目的 学習に不安を持っている生徒の基礎学力定着と向上
自宅での学習に取り組むことが難しい生徒への支援
希望進路の実現に向けた個々の弱点補強や支援

■ 特徴的な学習支援内容

- ・参加希望者を募って実施
- ・課題プリントを作成し、参加生徒の学力レベルに応じた指導
- ・各生徒の疑問や質問に個別に対応

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫

- ・各テスト前や長期休業前に参加募集の案内を作成しての呼びかけ

■ 事業の成果

- ・生徒からは「丁寧に教えてもらえるのでわかりやすい」という感想が多い。
- ・今年度は、国語・数学・英語に加えて社会の教室も開催する。
- ・保護者からの事業継続実施を望む声が多い。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

- ・学習支援員の一定数の確保や日程調整、開催日数増加の検討



【 いつ今教室の様子 】

報告書記入者（ 地域連携担当職員 ）

伊吹山中学校 小論文対策講座

米原市	活動名：小論文対策講座	伊吹山中学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
主な活動場所：本校ランチルーム 年間開催日数：3日（冬季休業中） 平均参加人数：11人		開始年度：令和元年度 地域学校協働活動推進員数：0人 学習支援員等 平均人数：1人	
・学習形態： <input checked="" type="checkbox"/> 個別の学力補充 <input checked="" type="checkbox"/> 教材を使った一斉学習 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・教室の持ち方： <input type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input checked="" type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・学習支援員等の属性： <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input checked="" type="checkbox"/> 元教職員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input type="checkbox"/> その他			

■ 活動の概要と目的

本校3年生の生徒を対象に、本県県立高等学校特色選抜や推薦選抜での入学検査で課される小論文に対応するため、地域住民であり、高等学校教員でもある講師を招聘し、「小論文対策講座」を実施した。

■ 特徴的な学習支援内容

生徒は、本県県立高等学校のこれまでの小論文の問題を課題にして、本番さながらに挑戦するとともに、学習支援員を務める講師が一人ひとりの小論文を添削することで、自分の小論文を見直し、課題を改善できるように支援内容を工夫した。

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫

自分の希望する進路に応じて、3年生に講座参加の希望を募った。広いランチルームを会場とし、ICT機器を効果的に活用した。

■ 事業の成果

生徒・保護者からも、「実施して欲しい」との声があり、地域のニーズに合っている。生徒一人ひとりが複数の小論文の課題に取り組み、また、講師により個別に添削を行うことで、自分の小論文を見直し、課題を改善できるようになり、充実した講座となっている。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

小論文の添削に時間がかかるため、今後人材を増やすなど工夫する必要がある。



【 小論文対策講座 】

報告書記入者（ 教頭 ）

放課後学習会 & 夏休み全校学習会

米原市	活動名：放課後&長期休業中の全校学習会	伊吹山中学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
主な活動場所：本校ランチルーム 他 年間開催日数：放課後10日 長期休業中8日 平均参加人数：30人		開始年度：令和元年度 地域学校協働活動推進員数：0人 学習支援員等 平均人数：2人	
・学習形態： <input checked="" type="checkbox"/> 個別の学力補充 <input type="checkbox"/> 教材を使った一斉学習 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・教室の持ち方： <input checked="" type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input checked="" type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・学習支援員等の属性： <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input checked="" type="checkbox"/> 元教職員 <input type="checkbox"/> 地域住民 <input checked="" type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input type="checkbox"/> その他			

■ 活動の概要と目的

定期テスト前の放課後や長期休業中を利用して、生徒一人ひとりが、自分の習熟度や自分のペースに応じて学習を進めることで、基礎的・基本的な知識を習得する。さらに授業で学んだ内容や課題にじっくり取り組み、個別に質問できる場として開催した。

■ 特徴的な学習支援内容

複数の学習支援員が生徒の要望に応じて支援できる体制をとることができるようにした。

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫

学習内容や課題等は、各生徒が自分で予定を立てて準備し、自由に質問ができるような形態をとっており、多くの生徒が参加を希望し、学習を進めることができていた。長期休業中は部活動と並行して午前中に実施し、部活動単位での学習会参加があった。

■ 事業の成果

長期休業中や、部活動停止期間となる定期テスト前に実施したことで、生徒にとっては充実した学習習慣を継続させることができた。また、自分の習熟度に応じて各教科の学習を進めることができるため、目標が立てやすく、十分に理解できるまで学習に取り組むことができた。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

生徒のニーズに応じるようにするため、学習支援員の確保に努め、今後も個別の学習指導・支援ができる体制づくりを進めていく必要がある



【 放課後学習会 】

報告書記入者（ 教頭 ）

地域の力を活用し、自律・創造・仁愛の3本柱を大切する生徒の育成をめざす

米原市	活動名： 米原学習教室（MGK）	米原中学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
主な活動場所：米原中学校 年間開催日数：70日 （8月1週目5日間、10月以降月平均10日開講） 平均参加人数：20人		開始年度：平成29年度 地域学校協働活動推進員数：2人 学習支援員等 平均人数：1～2人	
・学習形態： <input checked="" type="checkbox"/> 個別の学力補充 <input checked="" type="checkbox"/> 教材を使った一斉学習 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・教室の持ち方： <input checked="" type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input checked="" type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・学習支援員等の属性： <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input checked="" type="checkbox"/> 元教職員 <input type="checkbox"/> 地域住民 <input checked="" type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input checked="" type="checkbox"/> その他			

■ 活動の概要と目的

- ・コロナ禍を経て、学習面で不安を抱える生徒も多い中、長期休業中に、学習に不安を持っている生徒を中心に学習支援を行う。
- ・3年生は2学期から放課後の時間を活用し、スーパーMGKと題して地域で居場所づくりの活動している大学生に依頼し、学力補充教室を開催する。
- ・3学期は入試の小論文講座を1月に4回開催する。

■ 特徴的な学習支援内容

今年度は、8月の第1週に1～3年の全学年、生徒が課題を持参し、元教員と地域ボランティアが個別指導を行った。3年生は9月より入試に向けた学力補充教室を週1～2回開催した。1月には入試の小論文対策として元国語教員が指導にあたった。

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫

全保護者あてに、案内を出した。課題の多い生徒は担任から直接声をかけた。夏季学習について、3年生を中心に1、2年にも拡大して質問教室を実施できた。アンケートなどを実施し、内容の改善に活用した。

■ 事業の成果

一人では課題に取りくめない生徒も、課題を提出することができた。3年生については講座を選択することにより、苦手教科の克服につながった。また、入試を意識した学習を2学期から行うことができた。年齢も近い居場所づくりで実績のある大学生に依頼することで生徒の安心感につなげることができた。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

- ・教員の働き方改革の視点からも本事業は有用であるが教員OB等講師の確保が難しい。
- ・朝の始業前の時間にも補習・質問教室ができるといいがこれも講師の確保が難しい。



【 MGKの様子 】

報告書記入者（ 教頭 ）

笑顔いっぱい・学びいっぱい活動 ～自ら学ぼうとする生徒への学習機会の場の設定～

米原市	活動名： 土曜バチスタ	河南中学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
主な活動場所： 年間開催日数：15日（開催ペース：月2日） 平均参加人数：8.7人		開始年度：平成29年度（昨年から活動名変更） 地域学校協働活動推進員等数：0人 学習支援員等 平均人数：2人	
・学習形態： <input checked="" type="checkbox"/> 個別の学力補充 <input type="checkbox"/> 教材を使った一斉学習 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・教室の持ち方： <input type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input checked="" type="checkbox"/> 土曜日実施 <input type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・学習支援員等の属性： <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input checked="" type="checkbox"/> 元教職員 <input type="checkbox"/> 地域住民 <input checked="" type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input type="checkbox"/> その他			

■ 活動の概要と目的

月2回土曜日の午前中に開催し、自主的に学ぼうとする生徒のために、その場を提供して、生徒の学びの基礎を育成する。

■ 特徴的な学習支援内容

本校を卒業した大学生と本校の元教員を講師に招き、自主的に学習を進めるうえで、わからないところをすぐに質問できる体制を構築した。

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫

保護者宛の文書や学校通信によって周知した。9:00から12:00の間の都合のつく時間帯で参加可能にした。

■ 事業の成果

家庭ではなかなか集中できない生徒も、土曜学習会に参加することで黙々と取り組む雰囲気の中、集中して学習に取り組んでいた。わからないところをいつでも講師に教えてもらえる環境で意欲的に学習できた。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

講師の大学生の都合もあるため、開催日を事前に決定することに苦慮した。定期テスト前など多くの生徒が参加する傾向があり、今後も学習する場の提供は必要と強く感じた。【 土曜バチスタの様子 】

■ その他

前日に、昇降口に案内をたて、メール配信で開講予定を事前に周知した。



報告書記入者（ 教頭 ）

気軽に訪ね、気軽に学ぼう、ちょこっと学習会

日野町	活動名：ちょこっと学習会	日野中学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
主な活動場所：図書室		開始年度：平成30年度	
年間開催日数：25日（開催ペース：毎週水曜日）		地域学校協働活動推進員等数：1人	
平均参加人数：60人		学習支援員等 平均人数：4人	
・学習形態： <input checked="" type="checkbox"/> 個別の学力補充 <input type="checkbox"/> 教材を使った一斉学習 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・教室の持ち方： <input checked="" type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・学習支援員等の属性： <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input checked="" type="checkbox"/> 元教職員 <input type="checkbox"/> 地域住民 <input type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input type="checkbox"/> その他			

■ 活動の概要と目的

一人では学習に向き合えない生徒や、日頃は質問などがしにくい生徒にとって学びの場となることを目的として学習支援員の支援のもと学習会を実施している。

■ 特徴的な学習支援内容

前年度は定期テスト前に全学年を対象に経験豊富な元教職員に支援員をお願いして実施していた。昨年後半からはテスト前だけでなく、毎週水曜日の放課後に実施したが、図書室に入りきれず増室が必要なほどの人数が参加する日もあった。

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫

全校生徒に参加者募集のチラシを配った。また、朝の会や帰りの会を利用して、担任より、期日の連絡と、積極的な参加を促すようしてもらった。

■ 事業の成果

家庭では、なかなか学習に取り組めない生徒も、集中して学習に取り組めた。また、学習支援員に分からないことを質問することで、理解を深めることができた。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

毎週がんばって参加する生徒がいる反面、普段から学習に向き合えない生徒の参加は少ない。参加者を新規開拓するため積極的に広報活動を行っていきたい。



【 学習の様子 】

報告書記入者（ 教頭 ）

一緒に勉強してスッキリさせましょう！ ちょっと ききたい ちょき

日野町	活動名：立ち寄り学習処 ちょき	日野町少年センター	学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
主な活動場所：		開始年度：令和3年度	
年間開催日数：100日（開催ペース：週1～3日）		地域学校協働活動推進員数：0人	
平均参加人数：4人		学習支援員等 平均人数：3人	
・学習形態： <input checked="" type="checkbox"/> 個別の学力補充 <input type="checkbox"/> 教材を使った一斉学習 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・教室の持ち方： <input checked="" type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input checked="" type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・学習支援員等の属性： <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input checked="" type="checkbox"/> 元教職員 <input type="checkbox"/> 地域住民 <input checked="" type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input type="checkbox"/> その他			

■ 活動の概要と目的

家庭学習の習慣が十分でない生徒が、学校帰りに気軽に立ち寄り、日常の中学校の学習で十分理解できなかったところを、大学生や教員経験者の指導を受けて学習する場所を提供し、基礎学力や学習意欲の向上を図った。

■ 特徴的な学習支援内容

昨年度の反省を生かし、今年度から全学年を対象とし、学習支援員は大学生や教員経験者を配置し、できるだけ気楽に質問・学習ができるように努めた。

また、基礎学力の不足した生徒や家庭学習の習慣のない生徒に対しては、できるだけ個別指導で細部まで指導できるよう配慮した。

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫

参加者の募集については中学校と連携し、4月に全校生徒にチラシを配布し募集した。

また、部活動や学校行事との調整を行いながらより参加しやすいように努めた。

■ 事業の成果

日頃の学習で理解できていないところを学びなおすことができ、また学習習慣が定着していない生徒にとっては決められた時間に学習できる機会となり、参加者は満足していたようである。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

学年によって参加人数に差異がある。学習意欲の個人差が大きく、学習規律を維持することが課題である。また、学校に登校しづらい生徒や、学校の学習支援活動には参加しづらい生徒への呼びかけをどうするか課題である。



【 活動の様子 】

報告書記入者（ 学習支援コーディネーター ）

土曜龍王塾～「望み高かれ！」輝く未来に向け“志高く生きていく生徒の育成”を目指して～

竜王町	活動名：土曜龍王塾（雲竜塾・昇竜塾）	竜王中学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
主な活動場所：竜王中学校		開始年度：平成28年度	
年間開催回数：土曜日 6回		地域学校協働活動推進員数：0人	
平均参加人数：土曜日 45人		学習支援員等 平均人数：8人	
・学習形態： <input checked="" type="checkbox"/> 個別の学力補充 <input checked="" type="checkbox"/> 教材を使った一斉学習 <input type="checkbox"/> その他（ ）			
・教室の持ち方： <input type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input checked="" type="checkbox"/> 土曜日実施 <input type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他（ ）			
・学習支援員等の属性： <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input checked="" type="checkbox"/> 元教職員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input checked="" type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input type="checkbox"/> その他			

■ 活動の概要と目的

竜王中学校OB・OGを中心とした大学生や教員OBなど、地域住民から幅広く協力を得て、中学校3年生を対象に秋以降の土曜日に学習を一層深めたい子どもたちの学ぶ機会として、また、家庭学習の習慣が十分に身につけていない子どもたちへの学習支援の場の創出として事業を実施する。

■ 特徴的な学習支援内容

雲竜塾（発展的な学習・特色選抜入試対策）と昇竜塾（基礎的・基本的学力の定着）の2つのコースを設け、生徒のニーズに合わせ、子どもたちの主体的な学習を支援する内容としている。



（竜王中学校より提供）

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫

生徒の要望を受け、例年よりも時間を増やして実施した。また、クラスを増やし、よりきめ細やかな指導ができるようにした。

■ 事業の成果

受講生も多く、学習支援に貢献するとともに、大学生や教員OBなどの地域住民が講師として協力し、学校と地域が連携・協働する場となっている。また、参加した受講生は希望校に進学する割合が高くなっている。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

今後、受講生が増えた場合、教材や謝礼などの経費をどう捻出するか、また、継続可能な指導者の確保をどうするかが課題である。

報告書記入者（ 生涯学習課 生涯学習係 主査 ）

中学生の学力向上を図る土曜講座の取組 ～ 教育委員会・学校・塾等の連携 ～

多賀町	活動名： 土曜講座（サタスタ）	多賀中学校	学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
主な活動場所： 年間開催日数：17日（開催ペース：月3日） 平均参加人数：25人		開始年度：平成21年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 学習支援員等 平均人数：4人	
・学習形態： <input type="checkbox"/> 個別の学力補充 <input checked="" type="checkbox"/> 教材を使った一斉学習 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・教室の持ち方： <input type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input checked="" type="checkbox"/> 土曜日実施 <input type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・学習支援員等の属性： <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input type="checkbox"/> 元教職員 <input type="checkbox"/> 地域住民 <input checked="" type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input checked="" type="checkbox"/> その他			

■ 活動の概要と目的

中学生の学力向上を目的として、土曜日の午前中、多賀中学校を会場として希望生徒に対して、塾講師の指導による学力講座を開講している。

■ 特徴的な学習支援内容

提携塾に講師派遣を依頼し、学年毎に3時間の学習講座を開催している。受講生の希望をもとに開講教科を決めており、今年度は、国語・数学・理科の3教科を開講している。塾講師とともに、大学生ボランティアも加わり、丁寧な学習支援を行っている。また、中学校と連携し、年間指導計画に沿った学習内容となるようにしている。

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫

中学校と連携して、参加者の募集を行っている。応募をしやすいするため、各学級で募集案内の文書を配布し、教育委員会だけでなく学校への申込みも可能になるようにしている。

■ 事業の成果

「安価で学習機会が得られ、土曜日の規則的な生活リズムが確立できる。」と、保護者にも大変好評である。また、学校と連携した指導を行うとともに、効果的な個別支援もでき、学習に自信をつけた生徒も多い。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

奨学金受給者や大学生中心に学習ボランティアを広く募集することにより、ボランティア活動への参加者数を上げ、より充実した個別の学習支援が図られるようにする。



【 土曜講座での学習風景 】

【 町担当者 】

V 放課後子ども教室の実践事例

令和5年度 放課後子ども教室 活動事例一覧

市町名	教室数	活動名	対象学校名	主な実施場所	委託	委託団体名
近江八幡市	11	寺子屋 八幡	八幡小学校	八幡コミュニティセンター		
		寺子屋 沖島	沖島小学校	沖島小学校		
		寺子屋 岡山	岡山小学校	岡山小学校		
		寺子屋 金田	金田小学校	金田コミュニティセンター		
		夏休みメディアセンター開放	桐原小学校	桐原小学校		
		五月放課後子ども教室	桐原東小学校	五月自治会館		
		寺子屋馬淵	馬淵小学校	馬淵小学校		
		北里わくわく広場	北里小学校	北里小学校		
		寺子屋 むさ	武佐小学校	武佐小学校		
		ふるさと安土wo楽しもう!	安土小学校	安土コミュニティセンター		
		寺子屋老蘇 「こども学習教室」	老蘇小学校	老蘇コミュニティセンター		
草津市	2	放課後子ども教室	笠縫小学校	笠縫小学校		
		放課後子ども教室	老上西小学校	老上西小学校		
栗東市	8	放課後こんぜっ子広場	金勝小学校	金勝小学校 コミュニティセンター金勝	○	栗東市地域 教育協議会
		葉山東ふれあい子ども広場	葉山東小学校	葉山東小学校 コミュニティセンター葉山東	○	
		はるたっこ広場	治田小学校	治田小学校 コミュニティセンター治田	○	
		チャレンジはるひがっこ	治田東小学校	治田東小学校 コミュニティセンター治田東	○	
		のびのび広場	治田西小学校	治田西小学校	○	
		大宝わくわくタイム	大宝小学校	大宝小学校	○	
		さんさん・キッズ	大宝東小学校	大宝東小学校	○	
		大宝西ふれあい子ども広場	大宝西小学校	大宝西小学校	○	
甲賀市	3	夕やけ教室(放課後教室)	貴生川小学校	貴生川小学校	○	貴生川小学校 地域学校協働本部
		放課後教室	水口小学校	水口小学校	○	水口小学校地域 学校協働本部
		土っこ放課後教室	土山小学校	土山小学校	○	土山小学校地域 学校協働本部
野洲市	7	野洲学区わくわく子どもクラブ	野洲小学校	コミュニティセンターやす	○	野洲市地域 教育協議会
		三上楽しいクラブ活動	三上小学校	コミュニティセンターみかみ	○	
		篠原地域子ども教室運営協議会	篠原小学校	コミュニティセンターしのはら	○	
		ぎおう子ども体験教室	祇王小学校	永原御殿跡	○	
		北野っ子フレンドリークラブ	北野小学校	コミュニティセンターきたの	○	
		中主地域子ども教室(中里学区)	中主小学校	コミュニティセンターなかさと	○	
		中主地域子ども教室(兵主学区)		コミュニティセンターひょうず	○	
東近江市	7	八日市キッズ夏休み学習会	箕作小学校 八日市北小学校	八日市コミュニティセンター		
		みなみっこ学習会	八日市南小学校	南部コミュニティセンター		
		子どもの居場所	湖東第一小学校 湖東第二小学校 湖東第三小学校	湖東コミュニティセンター 各小学校		
		わくわく夏休み勉強会	五個荘小学校	五個荘コミュニティセンター		
		放課後子ども教室「まなびい」	市原小学校	市原小学校		
		マナビーみその	御園小学校	御園コミュニティセンター		
		日本語学習会なかよし	市内小中学校	東近江市福祉センターハートピア		
日野町	5	日野小チャレンジ教室 (日野小てらこや)	日野小学校	日野小学校		
		放課後チャレンジ教室	西大路小学校	西大路小学校		
		放課後子ども教室	南比都佐小学校	南比都佐公民館		
		放課後必佐寺子屋	必佐小学校	必佐小学校		
		放課後学習補充教室	桜谷小学校	桜谷小学校		
多賀町	1	学びっこタイム	大滝小学校	大滝小学校		

～笑顔の交流～ 学校と地域が協働で子どもたちを育む

近江八幡市	活動名：寺子屋 八幡	八幡小学校 学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
主な活動場所：八幡コミュニティセンター 年間開催日数：29日（開催ペース：月1～4日） 平均参加人数：25人		開始年度：令和4年度： 地域学校協働活動推進員数：1人 平均スタッフ数：5人
・活動内容： <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援 <input checked="" type="checkbox"/> 体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 芸術・文化 <input type="checkbox"/> スポーツ <input type="checkbox"/> その他（ ） ・教室のもち方： <input checked="" type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input checked="" type="checkbox"/> 土曜日実施 <input checked="" type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・スタッフの属性： <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input checked="" type="checkbox"/> 元教職員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input checked="" type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input type="checkbox"/> その他		

■ 活動の概要

学習支援…3年生の児童（希望者）が月1～2回木曜の6時間目にコミセンで、地域の方や先生と宿題に取り組む。

「沖島まるごと体験塾」「カロム教室」「書道教室（八幡書道会さんの指導による）」「さつまいも収穫体験」「百人一首教室」「子どもクッキング教室」など実施。

■ 特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫

支援が必要な児童に対して行事を通じて自然な形でサポートできるように工夫、徐々に心を開いてくれてきたように感じる。

■ 学校や放課後児童クラブとの関わり・連携

チラシの配布や、申込書の提出、寺子屋の際の安全な登下校について等、学校や放課後児童クラブにはたくさんのご協力をいただいている。

■ 他事業との関わり

寺子屋だけでなく、まち協の各部会も子ども育成のための活動をしている。納涼まつり、文化のつどい（八幡まち協文化部会）、子ども食堂（福祉部会）、防災教室（安全安心部会）、平和学習会（人権部会）などの案内も寺子屋の際に行っている。

■ 事業の成果と課題

スタッフの皆さんの熱意ある活動で、子どもたちも慣れ、子どもたちも笑顔で「寺子屋の人や！」と駆け寄ってくれる子もいる。今後も引き続き、事業を通じて子どもたちをサポートしていきたい。



【沖島まるごと体験塾の様子】

報告書記入者（ 八幡学区まちづくり協議会 ）

自分の「めあて」をしっかり持って、最後まで学習に取り組める児童の育成

近江八幡市	活動名：寺子屋 沖島	沖島小学校 学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
主な活動場所：沖島小学校多目的ホール 年間開催日数：60日（開催ペース：週2日） 平均参加人数：10人		開始年度：平成28年度： 地域学校協働活動推進員数：1人 平均スタッフ数：2人
・活動内容： <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援 <input type="checkbox"/> 体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 芸術・文化 <input type="checkbox"/> スポーツ <input type="checkbox"/> その他（ ） ・教室のもち方： <input checked="" type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・スタッフの属性： <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input type="checkbox"/> 元教職員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input type="checkbox"/> その他		

■ 活動の概要

宿題や自主学習・読書に取り組む。水曜（全校）・金曜（低学年）を活動日に設定。

■ 特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫

学習支援員に質問したり、指導を受けたりしながら各自の学習に取り組む。水曜活動ではコグニッショントレーニングや百マス計算にも取り組んだ。

■ 学校や放課後児童クラブとの関わり・連携

学校の教員が補助的に指導にあたることもある。

■ 他事業との関わり

特になし

■ 事業の成果と課題

- 定期的開催しているので、学習の積み上げ（今年度は百マス計算による計算力定着効果）がみられた。
- 読書も時間的に確保できるため、読書習慣の育成がはかれた。



【宿題支援をする様子】

報告書記入者（ 教頭 ）

～新たな発見、新たな学びを～

近江八幡市	活動名：寺子屋 岡山	岡山小学校 学校運営協議会：■有 □無
主な活動場所：岡山小学校 年間開催日数：21日（開催ペース：月4日） 平均参加人数：15人 ・活動内容：■学習支援 □体験活動 □芸術・文化 □スポーツ □その他（ ） ・教室の持ち方：■平日放課後実施 □土曜日実施 □長期休業日実施 □その他（ ） ・スタッフの属性：□企業関係者 □行政職員 ■元教職員 □地域住民 □大学生 □NPO等関係者 □その他		開始年度：平成30年度： 地域学校協働活動推進員数：1人 平均スタッフ数：4人

■ 活動の概要

子どもたちの学習意欲の向上や主体的な学びの習慣の確立を図ることを目的とし、学校の教室を使って水曜日の放課後に1時間～30分程度実施した。学習支援員は4名でいずれも元教員である。

■ 特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫

コロナ禍における新しい学校生活にあわせ、3密を回避できる学習環境を設定している。元教員の学習支援員が担当しているため、宿題等の課題や授業の補習的な内容ではなく、それぞれの専門性を生かして、国語、社会、算数の発展的な学習を行った。算数では数の仕組み、位とりの楽しさを味わい、国語では論語などの漢文や古文なども提示し、子どもたちの探求的な学習意識の向上をはかった。

■ 学校や放課後児童クラブとの関わり・連携

特になし

■ 他事業との関わり

特になし

■ 事業の成果と課題

発展的な学習内容や中学校や高等学校で学ぶ内容に取り組んだり、紹介したりすることで子どもたちの学習への興味・関心を高めることができた。

全校5時間運営の水曜日に実施をしているが、他事業の活動が同様に入ってくるため、毎回全員参加をすることが困難。



【 学習の一場面 】

報告書記入者（ 教頭 ）

安全で安心な放課後の居場所づくり

近江八幡市	活動名：寺子屋 金田	金田小学校 学校運営協議会：■有 □無
主な活動場所：金田コミセン・金田小体育館 年間開催日数：10日（開催ペース：11月より週1日） 平均参加人数：18人 ・活動内容：■学習支援 ■体験活動 ■芸術・文化 ■スポーツ □その他（ ） ・教室の持ち方：■平日放課後実施 □土曜日実施 □長期休業日実施 □その他（ ） ・スタッフの属性：□企業関係者 □行政職員 □元教職員 ■地域住民 ■大学生 □NPO等関係者 ■その他		開始年度：平成29年度： 地域学校協働活動推進員数：1人 平均スタッフ数：3人

■ 活動の概要

・4年生の児童21名（希望者）が、毎週水曜日の放課後、コミュニティセンターに集い、学習やスポーツ、体験活動に取り組む。

■ 特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫

・市スポーツ課と連携し、スポーツ推進員の指導の下、ニュースポーツ「キンボール」に取り組んだ。

・主に宿題や、子どもたちの主体的な学習を中心にプログラムを組んだ。

・常時3名のスタッフにより、きめ細やかに子どもの学習を支援した。

・1月の阪神淡路大震災の時期に合わせて、防災学習を行った。

（スタッフの方が、東北で東日本の震災を経験されたこともお話いただきながら）

・消耗品として防災グッズを購入し、教材として活用いただいた。

■ 学校や放課後児童クラブとの関わり・連携

・推進員と教頭が内容について相談、協議し連携を図った。

・スポーツの際はスポーツ推進員さんとも連携した。

■ 他事業との関わり

・特になし

■ 事業の成果と課題

・事後のアンケートでは児童も保護者も大満足な様子で、楽しく充実した活動を振り返っていた。

・10回（各2時間）の教室を3人の支援員で運営したが、予算が見合わなかった。



【1月17日に実施された防災教室】

報告書記入者（ 教頭 ）

夏休みに学校図書館で共に学ぼう 共に楽しもう！

近江八幡市	活動名：夏休みメディアセンター開放	桐原小学校 学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
主な活動場所： 開始年度：令和5年度： 年間開催日数：4日 地域学校協働活動推進員数：1人（兼務1人） 平均参加人数：80人 平均スタッフ数：7人		
・活動内容： <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援 <input checked="" type="checkbox"/> 体験活動 <input type="checkbox"/> 芸術・文化 <input type="checkbox"/> スポーツ <input type="checkbox"/> その他（ ） ・教室のもち方： <input type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input checked="" type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・スタッフの属性： <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input checked="" type="checkbox"/> 元教職員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input checked="" type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input type="checkbox"/> その他		

■ 活動の概要

・夏休み中の子どもの居場所づくりとして、メディアセンター（学校図書館）を開放し、読書、夏休みの宿題、自主学習等を行う時間とした。地域学校協働活動推進員に、事前にスタッフ募集を依頼し、地域住民の方々や学校図書ボランティアの方々に来ていただき、読み聞かせや学習補助を行った。

■ 特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫

・開催日の工夫…開催日を決めるにあたり、地域子ども食堂が行われる日や学校司書の勤務日に合わせ、多くの子どもたちが参加できるようにした。
 ・ふだんの休休みに来ていただいている「手作りパズル」ボランティアの方に協力いただき、同じ時間に、パズル体験コーナーを開催した。

■ 学校や放課後児童クラブとの関わり・連携

・夏休み中に行う各学年の勉強会の開催も、できるだけ同じ日に開催し、勉強会後にメディアセンターや子ども食堂で過ごせるようにした。

■ 他事業との関わり

・きりっ子食堂（子ども食堂）との同日開催

■ 事業の成果と課題

・昨年度まで学校主体で行っていたメディアセンター開放を、地域ボランティアの方々に入っただき、地域と学校の連携で子どもの夏休み中の居場所づくりを開催することができた。また、パズル体験や勉強会・子ども食堂との同日開催など、今までバラバラで行っていたものを同じ日に開催することにより、それぞれの催しに多くの子どもたちが参加した。今後は、さらに地域や保護者の協力を得て、地域と学校の連携および働き方改革にもつながる活動としていきたい。



【 当日の様子 】

報告書記入者（ 教頭 ）

地域の方と地域の中で すてきな「ふれ合い・学び合い」

近江八幡市	活動名：五月放課後子ども教室	桐原東小学校 学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
主な活動場所： 五月自治会館 開始年度：令和5年 年間開催日数：52日（開催ペース：週1回・7・8月夏休み10日） 地域学校協働活動推進員数：1人 平均参加人数：10人 平均スタッフ数：2人		
・活動内容： <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援 <input type="checkbox"/> 体験活動 <input type="checkbox"/> 芸術・文化 <input checked="" type="checkbox"/> スポーツ <input checked="" type="checkbox"/> その他（地域住民との交流・ゲーム） ・教室のもち方： <input checked="" type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input checked="" type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・スタッフの属性： <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input checked="" type="checkbox"/> 元教職員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input checked="" type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input type="checkbox"/> その他（民生委員・スクールガード・）		

■ 活動の概要

放課後安心して活動できる居場所づくり。子どもの自主性を重視した活動。
 宿題・自主学習のサポート。ゲーム等遊びでの仲間づくり。
 地域住民（高齢者等）交流

■ 特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫

強制するのではなく、子ども自身がしたいことを取り組む。
 （安心安全な最低限のルールを説明し、見守りをしながら、一緒に勉強・遊ぶ）
 子どもたちの意見を取り入れて準備（備品等購入）する。

■ 学校や放課後児童クラブとの関わり・連携

長期休み期間中で、学校の先生が来られるときには宿題等を見ていただいている。

■ 他事業との関わり

無し

■ 事業の成果と課題

子どもたちの自主性が高まった、自分たちで考えるようになってきた。相手の事を考えるようになってきた。地域の大人と触れ合う事でのマナーが出来てきた。
 大学生の支援者には年代が近いせいか、何でも話し打ち解けている。
 子ども同士の関係がうまく築けず、休みがち子どもも出てきた。



【学習に取り組む子どもたち】

報告書記入者（ 推進員 ）

待ち時間に取り組もう！しっかり学習！楽しく体験！寺子屋馬淵！

近江八幡市	活動名： 寺子屋馬淵	馬淵小学校 学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
主な活動場所：馬淵小学校図書室 年間開催日数：5日 平均参加人数：3人		開始年度：令和4年度 地域学校協働活動推進員数：1人（兼務1人） 平均スタッフ数：2人
・活動内容： <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援 <input checked="" type="checkbox"/> 体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 芸術・文化 <input type="checkbox"/> スポーツ <input type="checkbox"/> その他（ ） ・教室の持ち方： <input checked="" type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・スタッフの属性： <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input type="checkbox"/> 元教職員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input type="checkbox"/> その他		

■ 活動の概要

- ・折り紙やあやとり等の昔遊び ・学習支援
- ・読み聞かせ ・ボードゲーム（カードゲーム）

■ 特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫

放課後子ども教室への参加で通常下校の人数が少なくなることを防ぐため、学校で児童の預かりが必要なPTA行事のときと、バスで下校する子どもたちを対象にして、バスの待ち時間を活用して行った。

■ 学校や放課後児童クラブとの関わり・連携

- ・なし

■ 他事業との関わり

- ・家庭教育支援基盤構築事業

■ 事業の成果と課題

○児童と地域の方が交流する場を持たた。

○子どもたちは次の実施日を気にするぐらい楽しみにし、活動を喜んでいた。

▲児童が減っていく中、放課後に児童を残して活動させることは難しい。

（学童に行く児童も多く、地域に下校する児童の数がすごく少なくなってしまう）

▲来年度はバスで下校する児童が1名となり、今年度のままの事業実施の継続は難しい。



【 学習支援のようす 】

報告書記入者（ 教頭 ）

わくわくすること、はじめてみよう

近江八幡市	活動名： 北里わくわく広場	北里小学校 学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
主な活動場所：北里小学校各教室、多目的教室、グラウンド 年間開催日数：10日 平均参加人数：10人		開始年度：令和5年度 地域学校協働活動推進員数：1人（兼務1人） 平均スタッフ数：5人
・活動内容： <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援 <input checked="" type="checkbox"/> 体験活動 <input type="checkbox"/> 芸術・文化 <input checked="" type="checkbox"/> スポーツ <input type="checkbox"/> その他（ ） ・教室の持ち方： <input type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input checked="" type="checkbox"/> 土曜日実施 <input checked="" type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・スタッフの属性： <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input type="checkbox"/> 元教職員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input checked="" type="checkbox"/> その他		

■ 活動の概要

- ・夏休みステップアップ教室（4～6年生） ・漢字検定（年2回）
- ・陸上教室（年2回） ・ニュースポーツ（モルック）&夏カレー

■ 特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫

- ・北里学区スポーツ振興課が力を入れているモルックとPTA保健体育部が企画する夏カレー作りをつなぎ合わせて、イベントを行った。夏休みに希望者のみの参加としたが、全校児童の半分以上が参加する大イベントとなった。近江八幡市と北里学区のスポーツ振興課から講師として、モルックのルール説明等を行っていただいた。
- ・陸上教室には、スポーツ少年団の練習前や練習後にそのまま参加する姿があった。

■ 学校や放課後児童クラブとの関わり・連携

- ・推進委員と教頭が内容について相談、協議して連携を図った。
- ・教員が補助指導にあたることもあった。

■ 他事業との関わり

- ・北里学区まちづくり協議会 ・漢字検定協会

■ 事業の成果と課題

- ・今年度から北里では放課後子ども教室がはじまった事業のため、まだまだ学校が調整等を行うことが多い。
- ・サポーター等を増やししながら、地域に定着する取り組みにしていけるようにしていく。



【 モルック&夏カレー 】

報告書記入者（ 教頭 ）

スエバあちゃん食堂と連携した子どもの居場所づくり

近江八幡市	活動名：寺子屋 むさ	武佐小学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
主な活動場所：西木戸会館 年間開催日数：約50日（開催ペース：週2回・月8～9日） 平均参加人数：水・金：4～5人 土：約20人		開始年度：令和4年度 地域学校協働活動推進員数：1人 平均スタッフ数：水・金：5人 土：10人	
・活動内容： <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援 <input checked="" type="checkbox"/> 体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 芸術・文化 <input type="checkbox"/> スポーツ <input checked="" type="checkbox"/> その他（季節の料理を味わう） ・教室のもち方： <input checked="" type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input checked="" type="checkbox"/> 土曜日実施 <input checked="" type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・スタッフの属性： <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input type="checkbox"/> 元教職員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input checked="" type="checkbox"/> 大学生 <input checked="" type="checkbox"/> NPO等関係者 <input type="checkbox"/> その他			

■ 活動の概要

- ・水曜日および金曜日の午後に西木戸会館を開放している。宿題をした後は遊んだりくつろいだりできる居場所づくりにつながっている。
- ・月に1回程度、土曜日に「スエバあちゃん食堂」を開催し、体験活動をしたり、季節の行事を楽しんだり、旬の食材を使った料理を味わったりしている。

■ 特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫

- ・スエバあちゃん食堂には、児童だけでなく、児童の保護者や地域のお年寄りなども参加することから地域住民の交流の場となっている。

■ 学校や放課後児童クラブとの関わり・連携

- ・水曜日および金曜日の活動には本校の児童生徒支援加配教員が参加している。土曜日の活動には教職員の有志が参加している。

■ 他事業との関わり

- ・スエバあちゃん食堂の主催者が本校の家庭教育支援員であるため、家庭教育支援チームとの連携が図れている。

■ 事業の成果と課題

- ・地域で孤立しがちな家庭や保護者が参加することにより、地域住民や教職員と話すきっかけづくりになっている。
- ・参加する児童および教職員が固定化されてきているため、開催方法や周知の方法を工夫し、より多くの児童および教職員にとって参加しやすいものにしていく必要がある。



【近江牛のホルモン鍋を味わう】

報告書記入者（ 教頭 ）

友だちと楽しく活動し、つながりの輪を広げよう

近江八幡市	活動名：ふるさと安土 wo 楽しもう！	安土小学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
主な活動場所：安土コミュニティセンター 年間開催日数：15日（開催ペース：週・月 日） 平均参加人数：30人		開始年度：平成27年度： 地域学校協働活動推進員数：1人（兼務1人） 平均スタッフ数：5人	
・活動内容： <input type="checkbox"/> 学習支援 <input checked="" type="checkbox"/> 体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 芸術・文化 <input checked="" type="checkbox"/> スポーツ <input type="checkbox"/> その他（ ） ・教室のもち方： <input type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input checked="" type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・スタッフの属性： <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input checked="" type="checkbox"/> 行政職員 <input checked="" type="checkbox"/> 元教職員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input type="checkbox"/> その他			

■ 活動の概要

- ・長期休業中の子どもたちの仲間づくり、交流を深めながら思い出となるような活動の提供

■ 特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫

- 【活動】・夏休みこども映画会
 ・ジュニアダンス教室
 ・ヨシ灯りを作ろう
- ・プラネタリウム☆を楽しもう！
 ・ジュニアスポーツ教室

【工夫】・低学年は保護者同伴で、安心して参加できるようにする。

- ・ダンス教室やヨシ灯りなどは、練習や作品を発表できる場を設け、見通しをもって意欲的に活動できるようにする。

■ 学校や放課後児童クラブとの関わり・連携

- ・コミュニティセンターでの子ども体験活動のチラシを学校で配布したり、参加を呼び掛けたりした。

■ 他事業との関わり

- ・特になし

■ 事業の成果と課題

- ・長期休暇中は、地域とのつながりや子ども同士のつながりが希薄になりがちであるが、長期休暇中に活動を設定することで、つながりづくり、仲間づくりの場となった。また、異年齢の友だちができ、長期休業後の学校での活動でもつながりを生かすことができた。さまざまな分野の活動があることで、自分に合った活動を選んで参加できた。
- ・平日の活動については、ボランティアの確保に向けて、人材発掘に力を入れていきたい。



【ジュニアスポーツ教室】

報告書記入者（ 教頭 ）

寺子屋老蘇で学習方法を身に付け基礎学力アップ！地域とともに

近江八幡市	活動名：寺子屋老蘇「こども学習教室」	老蘇小学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
主な活動場所：老蘇コミュニティセンター研修室		開始年度：平成30年度	
年間開催日数：10日（開催ペース：週1日 学年別）		地域学校協働活動推進員数：1人	
平均参加人数：7人		平均スタッフ数：4人	
・活動内容： <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援 <input type="checkbox"/> 体験活動 <input type="checkbox"/> 芸術・文化 <input type="checkbox"/> スポーツ <input type="checkbox"/> その他（ ）			
・教室の持ち方： <input checked="" type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他（ ）			
・スタッフの属性： <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input type="checkbox"/> 元教職員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input checked="" type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input type="checkbox"/> その他			

■ 活動の概要

- ・基礎学力の定着をめざした学習活動をする。
- ・地域の方や学生による支援を受け、自主学習や家庭学習の方法を習得する。

■ 特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫

- ・計算力・漢字力の向上をめざし毎回はじめに「百ます計算」や漢字の書き取りをした。
- ・宿題を始め、各々が目標を決めプリント学習等を行った。
- ・1時間で集中力を重視して行った。
- ・学校や放課後児童クラブとの関わり・連携を行った。
- ・対象の3・4年生が6時間授業の火曜日に設定し、図書室で行った。
- ・終了後、指導員に子どもたちを放課後児童クラブまで送っていただいた。



【 学習に取り組む様子 】

■ 他事業との関わり

- ・老蘇まちづくり協議会でも、夏季休業期間中に「寺子屋」を全学年対象に実施している。

■ 事業の成果と課題

- 成果
- ・学年別に少人数で学習する機会となり、よい支援を受けられた。
 - ・学力が低い児童の基礎学力が向上した。
 - ・学習に集中して取り組むことができるようになった。

- 課題
- ・プリントの採点や整理に指導者の手が取られてしまうので、児童が自主的に課題を選んだり、自己採点したりできるシステムの構築が望まれる。
 - ・下校時刻が遅くなるので、保護者の迎えを必須条件としたため、保護者の都合で参加できない児童がいる。

報告書記入者（ 教頭 ）

「自分に必要な学習に、自分で取り組む」～学習習慣の定着を目指して～

草津市	活動名：放課後子ども教室	笠縫小学校 学校運営協議会：■有 □無
主な活動場所：笠縫小学校		開始年度：平成30年度
年間開催日数：30日（開催ペース：月5日程度）		地域学校協働活動推進員数：2人（兼務2人）
平均参加人数：15人		平均スタッフ数：2人
・活動内容：■学習支援 □体験活動 □芸術・文化 □スポーツ □その他（ ）		
・教室の持ち方：■平日放課後実施 □土曜日実施 □長期休業日実施 □その他（ ）		
・スタッフの属性：□企業関係者 □行政職員 ■元教職員 ■地域住民 □大学生 □NPO等関係者 □その他		

■ 活動の概要

放課後の時間を活用し、児童が特参した宿題や課題等へ自ら取り組むことで、自主学習の方法や日々の学習習慣の定着を図る。

■ 特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫

支援員は、児童の見守りを基本とし、必要に応じて学習がスムーズに進むように声かけを行うなど、児童が安心して学習できる環境づくりに配慮している。

■ 学校や放課後児童クラブとの関わり・連携

放課後子ども教室の終了後、児童育成クラブに通所する児童については、児童育成クラブの支援員が送迎にくるなど、安全確保に配慮した連携を行っている。

■ 他事業との関わり

草津市教育委員会事務局児童生徒支援課の実施事業である「放課後自習広場」として平成28年度より事業実績を積み重ね、平成30年度に「放課後子ども教室」として開設した。

■ 事業の成果と課題

活動を支援する地域コーディネーターや児童育成クラブの支援員等が関わることで、安心できる環境のもと学習習慣の定着と放課後の子どもの居場所づくりに寄与している。

課題としては、参加または不参加について連絡がとれない家庭への対応が難しい。



【 学習風景 】

報告書記入者（ 放課後子ども教室担当職員 ）

「自分に必要な学習に、自分で取り組む」～学習習慣の定着を目指して～

草津市	活動名：放課後子ども教室	老上西小学校 学校運営協議会：■有 □無
主な活動場所：老上西小学校		開始年度：令和5年度
年間開催日数：20日（開催ペース：月3日程度）		地域学校協働活動推進員数：1人（兼務1人）
平均参加人数：45人		平均スタッフ数：4人
・活動内容：■学習支援 □体験活動 □芸術・文化 □スポーツ □その他（ ）		
・教室の持ち方：■平日放課後実施 □土曜日実施 □長期休業日実施 □その他（ ）		
・スタッフの属性：□企業関係者 □行政職員 ■元教職員 ■地域住民 □大学生 □NPO等関係者 □その他		

■ 活動の概要

放課後の時間を活用し、児童が特参した宿題や課題等へ自ら取り組むことで、自主学習の方法や日々の学習習慣の定着を図る。

■ 特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫

支援員は、児童の見守りを基本とし、必要に応じて学習がスムーズに進むように声かけを行うなど、児童が安心して学習できる環境づくりに配慮している。

■ 学校や放課後児童クラブとの関わり・連携

支援員の中には、学校教育活動をサポートする者がおり、児童が安心して学習できる関係性の中で支援を行っている。

■ 他事業との関わり

草津市教育委員会事務局児童生徒支援課の実施事業である「放課後自習広場」として平成28年度より事業実績を積み重ね、令和5年度に「放課後子ども教室」として開設した。

■ 事業の成果と課題

活動を支援する地域コーディネーターや児童育成クラブの支援員等が関わることで、安心できる環境のもと学習習慣の定着と放課後の子どもの居場所づくりに寄与している。

課題としては、参加または不参加について連絡がとれない家庭への対応が難しい。



【 学習風景 】

報告書記入者（ 放課後子ども教室担当職員 ）

いつも楽しいみんなの広場「放課後こんぜっ子広場」

栗東市	活動名：放課後こんぜっ子広場	金勝小学校 学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
主な活動場所：金勝小学校体育館 コミュニティセンター金勝 年間開催日数：26日（開催ペース：週1日） 平均参加人数：9人		開始年度：令和5年度： 地域学校協働活動推進員数：1人（兼務1人） 平均スタッフ数：5人
・活動内容： <input type="checkbox"/> 学習支援 <input checked="" type="checkbox"/> 体験活動 <input type="checkbox"/> 芸術・文化 <input checked="" type="checkbox"/> スポーツ <input checked="" type="checkbox"/> その他（自由遊び） ・教室の持ち方： <input checked="" type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・スタッフの属性： <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input type="checkbox"/> 元教職員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input type="checkbox"/> その他		

■ 活動の概要

- ・地域の方々にサポータースタッフとしてご協力をいただきながら事業活動を行った。
- ・子ども達の自主性に任せた自由遊びを基本とし、なわとびやボール遊び、バドミントン、折り紙、お絵かきなどやりたいことができるようにした。

■ 特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫

- ・竹とんぼや竹馬、めんこ等、昔遊びを実施した。

■ 学校や放課後児童クラブとの関わり・連携

- ・学校には参加児童への連絡調整等でご協力をいただいた。

■ 事業の成果と課題

- ・自由遊びを通じて、子ども達は楽しく放課後を過ごすことができた。
- ・サポータースタッフとして事業に関わってくださっている地域の方と、子ども達が一緒に活動することにより、地域住民と子ども達の交流を深めることができた。
- ・スタッフの人数不足が大きな課題となっている。



報告書記入者（市担当）

放課後のあそびば葉山東ふれあい子ども広場

栗東市	活動名：葉山東ふれあい子ども広場	葉山東小学校 学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
主な活動場所：葉山東小学校体育館・コミュニティセンター葉山東 年間開催日数：30日（開催ペース：週・月4日） 平均参加人数：32人		開始年度：平成20（2008）年度 地域学校協働活動推進員数：1人（兼務1人） 平均スタッフ数：10人
・活動内容： <input type="checkbox"/> 学習支援 <input checked="" type="checkbox"/> 体験活動 <input type="checkbox"/> 芸術・文化 <input checked="" type="checkbox"/> スポーツ <input checked="" type="checkbox"/> その他（クラフト） ・教室の持ち方： <input checked="" type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・スタッフの属性： <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input type="checkbox"/> 元教職員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input type="checkbox"/> その他		

■ 活動の概要

放課後安心して活動のできる居場所づくり

■ 特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫

軽スポーツ（ボール遊び、縄跳び、おにごっこ）
 クラフト（季節ごとの作品作り）
 絵手紙教室の方の指導で、全国タオル筆で描く絵てがみコンクールに募集する）
 学期終了ごとにお楽しみ会を開催し、親睦を深め交流する。

■ 学校や放課後児童クラブとの関わり・連携

上級生が下級生の面倒を見ることが、子どもの成長とともに仲良くでき、お互いに困った時に助け合うことの大切さを学ぶ。

■ 他事業との関わり

葉山東学区ふれあいまつりに参加し、クラフトの皆さんが作った作品を展示し参加する。

■ 事業の成果と課題

学年やクラスの違った子どもたちが地域の方々に寄り添い、ふれあいを深めることの大切さを学ぶことができた。
 スタッフの年齢が70歳以上の高齢者となり、もう少し若い方に声かけをしながら募集をする。



【 お楽しみ会 】

報告書記入者（コミセン葉山東 職員）

いつも楽しいみんなの広場「はるたっこ広場」

栗東市	活動名 : はるたっこ広場	治田小学校 学校運営協議会 : <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
主な活動場所: 治田小学校体育館 コミュニティセンター治田 年間開催日数: 24日 (開催ペース: 週1日) 平均参加人数: 26人		開始年度: 平成19年度 地域学校協働活動推進員数: 1人 (兼務1人) 平均スタッフ数: 7人
・活動内容: <input type="checkbox"/> 学習支援 <input checked="" type="checkbox"/> 体験活動 <input type="checkbox"/> 芸術・文化 <input checked="" type="checkbox"/> スポーツ <input checked="" type="checkbox"/> その他 (自由遊び) ・教室のもち方 : <input checked="" type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他 () ・スタッフの属性: <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input type="checkbox"/> 元教職員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input checked="" type="checkbox"/> その他		

■ 活動の概要

- ・地域の方々にサポータースタッフとしてご協力をいただきながら事業活動を行った。
- ・子ども達の自主性に任せた自由遊びを基本とし、なわとびやボール遊び、バドミントン、折り紙、お絵かきなどやりたいことができるようにした。

■ 特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫

- ・11月に輪投げ、12月にクリスマスツリー作り、2月にスローイングビンゴを実施した。

■ 学校や放課後児童クラブとの関わり・連携

- ・学校には参加児童への連絡調整等でご協力をいただいた。

■ 事業の成果と課題

- ・自由遊びを通じて、子ども達は楽しく放課後を過ごすことができた。
- ・サポータースタッフとして事業に関わってくださっている地域の方と、子ども達が一緒に活動することにより、地域住民と子ども達の交流を深めることができた。
- ・スタッフの高齢化やスタッフの人数不足が大きな課題となっている。



報告書記入者 (市担当)

新しいことにどんどんチャレンジ「チャレンジはるひがっこ」

栗東市	活動名 : チャレンジはるひがっこ	治田東小学校 学校運営協議会: <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
主な活動場所: 治田東小学校体育館、コミュニティセンター治田東 年間開催日数: 23日 (開催ペース: 週1日) 平均参加人数: 7人		開始年度: 平成19年度 地域学校協働活動推進員数: 1人 (兼務1人) 平均スタッフ数: 5人
・活動内容: <input type="checkbox"/> 学習支援 <input checked="" type="checkbox"/> 体験活動 <input type="checkbox"/> 芸術・文化 <input checked="" type="checkbox"/> スポーツ <input type="checkbox"/> その他 () ・教室のもち方 : <input checked="" type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他 () ・スタッフの属性: <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input type="checkbox"/> 元教職員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input type="checkbox"/> その他		

■ 活動の概要

- ・地域の方々にサポータースタッフとしてご協力をいただきながら事業活動を行った。
- ・子ども達の自主性に任せた自由遊びを基本とし、なわとびやボール遊び、バドミントン、折り紙、お絵かきなどやりたいことができるようにした。

■ 特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫

- ・7月にミニ夏祭り、10月に手づくりぜんざいをつくりましょう会、12月にクリスマスパーティー、2月にお楽しみ会を開催した。

■ 学校や放課後児童クラブとの関わり・連携

- ・学校には参加児童への連絡調整等でご協力いただいています。

■ 事業の成果と課題

- ・自由遊びや、季節に応じた体験活動を通じて、子ども達は楽しく放課後を過ごすことができました。
- ・サポータースタッフとして事業に関わってくださっている地域の方と、子ども達が一緒に活動することにより、地域住民と子ども達の交流を深めることができた。
- ・スタッフの高齢化やスタッフの人数不足が大きな課題となっている。



【 クリスマスパーティー 】

報告書記入者 (市担当)

人とかがわり楽しく活動！あたたかい仲間づくりをめざすのびのび広場の取組

栗東市	活動名： のびのび広場	治田西小学校 学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
主な活動場所：治田西小学校		開始年度：平成15年度
年間開催日数：20回（開催ペース：月1回程度）		地域学校協働活動推進員数：1人（兼務1人）
平均参加人数：20人		平均スタッフ数：6人
・活動内容： <input type="checkbox"/> 学習支援 <input checked="" type="checkbox"/> 体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 芸術・文化 <input type="checkbox"/> スポーツ <input type="checkbox"/> その他（ ） ・教室のもち方： <input checked="" type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・スタッフの属性： <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input type="checkbox"/> 元教職員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input type="checkbox"/> その他		

■ 活動の概要

- ・児童に差別をなくすための力をつけることや、あたたかい仲間づくりをすることを目的として、人権学習や、助け合いながらする体験活動などを行っている。

■ 特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫

- ・地域の方を講師としてお招きしての体験活動ができるよう工夫している。また、今年度は、のびのび広場だけでなく、治田西小学校区の各園とともに、職員の人権研修も含めた人権コンサートを開催した。

■ 学校や放課後児童クラブとの関わり・連携

- ・学校の掲示板で活動の様子や感想等を掲示している。

■ 他事業との関わり

- ・地域で行われている「じんけん広場ふれあい文化祭」で、のびのび広場で作った作品を展示したり、活動紹介の発表を行ったりした。

■ 事業の成果と課題

- ・1～6年生の児童が参加しているため、異学年との交流が図れたり高学年ということを意識したりすることができた。また、地域の方とのかかわりも増え、児童同士だけでなく職員や地域の方との触れ合いの場となっている。本来は、対象地区児童を含めた取り組みとなっていたが、近年対象地区児童は参加していないこと、参加人数が減少傾向にあることが課題である。治田西小学校のたくさんの児童が人権意識を高め、自分や周りの人を大切にできるような生き方の素地を培っていきたい。



【 展示用作品づくり 】

報告書記入者（ のびのび広場担当 学習生活支援加配 ）

いつも楽しいわくわく活動「大宝わくわくタイム」

栗東市	活動名： 大宝わくわくタイム	大宝小学校 学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
主な活動場所：大宝小学校体育館		開始年度：平成19年度：
年間開催日数：23日（開催ペース：週1日）		地域学校協働活動推進員数：1人（兼務1人）
平均参加人数：16人		平均スタッフ数：6人
・活動内容： <input type="checkbox"/> 学習支援 <input type="checkbox"/> 体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 芸術・文化 <input type="checkbox"/> スポーツ <input type="checkbox"/> その他（ ） ・教室のもち方： <input checked="" type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・スタッフの属性： <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input type="checkbox"/> 元教職員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input type="checkbox"/> その他		

■ 活動の概要

- ・地域の方々にサポータースタッフとしてご協力をいただき事業活動を行った。
- ・活動内容については事前に決定し、ペットボトルボウリングや紙コップけん玉作りなど毎回違う活動を行った。

■ 特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫

- ・笹飾り作りやハロウィン工作など季節に応じた活動を行った。

■ 学校や放課後児童クラブとの関わり・連携

- ・学校には参加児童への連絡調整等でご協力いただいた。

■ 事業の成果と課題

- ・自由遊びや、季節に応じた体験活動を通じて、子ども達は楽しく放課後を過ごすことができました。
- ・サポータースタッフとして事業に関わってくださっている地域の方と、子ども達が一緒に活動することにより、地域住民と子ども達の交流を深めることができました。
- ・スタッフの高齢化やスタッフの人数不足が大きな課題となっています。



【 松ぼっくり工作 】

報告書記入者（ 市担当 ）

明るく元気に太陽のように「さんさん・キッズ」

栗東市	活動名：さんさん・キッズ	大宝東小学校 学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
主な活動場所：大宝東小学校体育館 年間開催日数：30日（開催ペース：週1日） 平均参加人数：27人		開始年度：平成19年度 地域学校協働活動推進員数：1人（兼務1人） 平均スタッフ数：13人
・活動内容： <input type="checkbox"/> 学習支援 <input checked="" type="checkbox"/> 体験活動 <input type="checkbox"/> 芸術・文化 <input checked="" type="checkbox"/> スポーツ <input type="checkbox"/> その他（ ） ・教室の持ち方： <input checked="" type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・スタッフの属性： <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input type="checkbox"/> 元教職員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input type="checkbox"/> その他		

■ 活動の概要

- ・地域の方々にサポータースタッフとしてご協力をいただきながら事業活動を行った。
- ・子ども達の自主性に任せた自由遊びを基本とし、なわとびやボール遊び、バドミントン、折り紙、お絵かきなどやりたいことができるようにした。

■ 特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫

- ・7月に盆踊りの練習、10月にハロウィンイベント、11月にポッチャ、1月にカルタ取り・コマ回しと季節に応じた体験活動を実施した。

■ 学校や放課後児童クラブとの関わり・連携

- ・学校には参加児童への連絡調整等でご協力いただいた。

■ 事業の成果と課題

- ・自由遊びや、季節に応じた体験活動を通じて、子ども達は楽しく放課後を過ごすことができた。
- ・サポータースタッフとして事業に関わってくださっている地域の方と、子ども達が一緒に活動することにより、地域住民と子ども達の交流を深めることができた。
- ・スタッフの高齢化やスタッフの人数不足が大きな課題となっている。



【 ハロウィンイベント 】

報告書記入者（ 市担当 ）

地域の方とのふれあいを大事に「大宝西ふれあい子ども広場」

栗東市	活動名：大宝西ふれあい子ども広場	大宝西小学校 学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
主な活動場所：大宝西小学校体育館 年間開催日数：25日（開催ペース：週1日） 平均参加人数：13人		開始年度：平成19年度 地域学校協働活動推進員数：1人（兼務1人） 平均スタッフ数：5人
・活動内容： <input type="checkbox"/> 学習支援 <input checked="" type="checkbox"/> 体験活動 <input type="checkbox"/> 芸術・文化 <input checked="" type="checkbox"/> スポーツ <input type="checkbox"/> その他（ ） ・教室の持ち方： <input checked="" type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・スタッフの属性： <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input type="checkbox"/> 元教職員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input checked="" type="checkbox"/> その他		

■ 活動の概要

- ・地域の方々にサポータースタッフとしてご協力をいただきながら事業活動を行った。
- ・子ども達の自主性に任せた自由遊びを基本とし、なわとびやボール遊び、バドミントン、折り紙、お絵かきなどやりたいことができるようにした。

■ 学校や放課後児童クラブとの関わり・連携

- ・学校には参加児童への連絡調整等でご協力いただいた。

■ 事業の成果と課題

- ・自由遊びを通じて、子ども達は楽しく放課後を過ごすことができた。
- ・サポータースタッフとして事業に関わってくださっている地域の方と、子ども達が一緒に活動することにより、地域住民と子ども達の交流を深めることができた。
- ・スタッフの高齢化やスタッフの人数不足が大きな課題となっている。



【 自由遊び 】

報告書記入者（ 市担当 ）

学習習慣の確立と放課後の居場所を目指して

甲賀市	活動名 : タヤけ教室(放課後教室)	貴生川小学校	学校運営協議会 : <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
主な活動場所 : 貴生川小学校図書室他		開始年度 : 平成30年度 :	
年間開催日数 : 30日 (開催ペース : 週・月3~4日)		地域学校協働活動推進員数 : 1人	
平均参加人数 : 25人		平均スタッフ数 : 6~8人	
・活動内容 : <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援 <input checked="" type="checkbox"/> 体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 芸術・文化 <input checked="" type="checkbox"/> スポーツ <input type="checkbox"/> その他 ()			
・教室の持ち方 : <input checked="" type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他 ()			
・スタッフの属性 : <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input checked="" type="checkbox"/> 元教職員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input checked="" type="checkbox"/> その他			

■ 活動の概要

- 水曜日の放課後、15:00~17:00で前半1時間は宿題や読書、プリント学習を行う。後半1時間はトランプなどの卓上ゲームや折り紙、カラム、ジグソーパズルなど用意したものから選んで、自由に時間を過ごしている。希望する児童数が多く、場所やスタッフが対応できないため、3~4年生で実施している。



【 教室風景 】

■ 特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫

- 月1回の体験活動として、火おこし体験、非常食づくり、ドローン教室、百人一首、制作活動として、しめ縄、クリスマス飾り、風鈴づくり、スポーツとしては、グラウンドゴルフ、軽スポーツなどに取り組んでいる。子どもがやったことのない活動を選び、外部から講師を招いて行っている。

■ 学校や放課後児童クラブとの関わり・連携

- 学校には場所の提供をしていただいているが、教職員には文書配布以外には負担をかけないようにしている。放課後の居場所づくりが目的であるため、放課後児童クラブを利用する児童は対象から外している。しかし、体験活動については児童クラブと情報交換をしている。

■ 他事業との関わり

- 本教室がモデルとなり、各地区で放課後や長期休暇中に地区学習会が広がっていくことを目指している。その際、PTAや子ども会行事、子ども食堂とも連携し、多様な活動になっていくことを望んでいる。

■ 事業の成果と課題

- 開始して6年目を迎える。コロナ禍で一時期休止をした時もあるが、学校や保護者の中には存在が定着している。児童クラブに通う児童が増え、参加者は減少傾向にある。放課後の多様な対応を考えることも必要である。

報告書記入者 (地域学校協働活動推進員)

地域の方とふれあおう！楽しもう！

甲賀市	活動名 : 放課後教室	水口小学校	学校運営協議会 : <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
主な活動場所 :		開始年度 : 令和4年度 :	
年間開催日数 : 10日 (開催ペース : 秋・冬の不定期)		地域学校協働活動推進員数 : 2人	
平均参加人数 : 10人		平均スタッフ数 : 10人	
・活動内容 : <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援 <input checked="" type="checkbox"/> 体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 芸術・文化 <input checked="" type="checkbox"/> スポーツ <input type="checkbox"/> その他 ()			
・教室の持ち方 : <input checked="" type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他 ()			
・スタッフの属性 : <input checked="" type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input type="checkbox"/> 元教職員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input checked="" type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input type="checkbox"/> その他			

■ 活動の概要

- 年間計10日を「放課後学習教室」と設定。対象を4・5年生と6年生の二つに分け、チラシ等で募集を行った。内容は宿題のサポートやプリント学習などの学習補充と体験的な学習に大別される。体験的活動の講師は、地域住民を中心に依頼し、それぞれの得意分野を生かした活動を取り入れた。



【 身近な電化製品を解体 】

■ 特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫

- 地域の人材を生かしたバラエティに富んだ内容を設定できた。

■ 学校や放課後児童クラブとの関わり・連携

- 放課後児童クラブとは参加児童の名前を共有し、混乱がないようにした。学校職員とのかかわりは特にはない。

■ 他事業との関わり

- 特になし

■ 事業の成果と課題

- 参加を希望者のみにしたこと、学習教室への参加について人数が把握でき、活動の準備がスムーズであった。一方、教室終了後保護者のお迎えが必要なため、その体制がとれる家庭の児童しか参加できない実情があった。

- 放課後学習教室の目的として「学力補充」と「体験活動」のどちらに力点を置くのかについては学校運営協議会の協議となった。結果、「学校を心安まる楽しい場所に」というねらいの下、楽しめる活動にシフトした。参加児童は学校ではできない活動を楽しむことができたが、講師の確保、活動内容の準備及び予算の不足等課題はあった。

報告書記入者 (校長)

未来へつなぐ 土小の教育活動 ～地域とともに～

甲賀市	活動名 : 土っこ放課後教室	土山小学校 学校運営協議会 : <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
主な活動場所 :		開始年度 : 令和3年度 :
年間開催日数 : 33日 (開催ペース : 週1日)		地域学校協働活動推進員数 : 2人
平均参加人数 : 30人		平均スタッフ数 : 3人
・活動内容 : <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援 <input checked="" type="checkbox"/> 体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 芸術・文化 <input type="checkbox"/> スポーツ <input type="checkbox"/> その他 ()		
・教室の持ち方 : <input checked="" type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input checked="" type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他 ()		
・スタッフの属性 : <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input checked="" type="checkbox"/> 行政職員 <input checked="" type="checkbox"/> 元教職員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input type="checkbox"/> その他		

■ 活動の概要

火曜の放課後に3年生以上を対象とし、宿題、自主学习、体験的な活動を行った。

■ 特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫

体験的な活動として、課業期間では英会話、プログラミング、俳句、お箏を、夏季にはこれに加えて、切り絵、水墨画にも挑戦した。3学期には漢字検定を行った。

■ 学校や放課後児童クラブとの関わり・連携

学校が目指している基礎学力の向上を図るため、宿題や自主学习の取組に加え、漢字検定に向けた漢字練習、計算力向上のためのスピード計算にも取り組んだ。



【 お箏演奏“なでしこ楽坊” 】

■ 他事業との関わり

本校は本年度創立150周年を迎えた。放課後教室においても練習を重ねてきたお箏の演奏を記念式典で発表した。

■ 事業の成果と課題

学習の充実はもとより、体験活動を経ることにより英語活動、情報教育、国語科、音楽科への興味関心の高まりがみられた。参加条件として保護者に児童の迎えをお願いしていることから、児童が希望しても家庭の都合により参加できない児童がいる。

報告書記入者 (地域学校協働活動推進員)

まず一度やってみよう。いろいろなことを体験して、初めて分かることがいっぱいある！

野洲市	活動名：野洲学区わくわく子どもクラブ	野洲小学校 学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
主な活動場所： 開始年度：平成18年度 年間開催日数：80日（開催ペース：月1日） 地域学校協働活動推進員数：0人 平均参加人数：15人 平均スタッフ数：3人 ・活動内容： <input type="checkbox"/> 学習支援 <input checked="" type="checkbox"/> 体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 芸術・文化 <input checked="" type="checkbox"/> スポーツ <input type="checkbox"/> その他（ ） ・教室のもち方： <input type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input checked="" type="checkbox"/> 土曜日実施 <input type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・スタッフの属性： <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input type="checkbox"/> 元教職員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input type="checkbox"/> その他		

■ 活動の概要

いけばな教室・絵手紙教室・親子クッキング・日本舞踊や茶道教室など学校での基礎学習以外に、子どもたちの体験学習テーマをかかげ参加意欲を高めることを狙う。

■ 特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫

学年ごとではなく、全学年同時に同じ内容の課題に取り組んで、協力し合い、見習いながら、それぞれの協同体験学習にチャレンジしながら成果をめざしている。

■ 学校や放課後児童クラブとの関わり・連携

各講座毎に月に1回土曜日の午前中に開催しており、学校の放課後ではないため、直接的なかわりはない。しかし定期開催なので、生活のリズム形成に有効と思われる。

■ 他事業との関わり

老人クラブや各自治会よりサポーターの応援をいただき、昔遊び等活発に展開を目指している。 【 わくわく子ども将棋クラブ 】

■ 事業の成果と課題

長年にわたり「子どもクラブ」を開催し、同じ子が1年生から6年生卒業まで継続して参加している。最初はおぼつかない様子だったが、卒業するころには立派に体得し、家庭においても、成果を発揮していることが想像されて非常に喜ばしいと思われる。



報告書記入者（ コミュニティーセンターやす事務局 ）

自分のやりたいことを見つけよう。仲間といっしょに楽しもう。

野洲市	活動名：三上楽しいクラブ活動	三上小学校 学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
主な活動場所：コミュニティセンターみかみ 開始年度：平成14年度 年間開催日数：32日（開催ペース：月1日、年1回） 地域学校協働活動推進員数：0人 平均参加人数：6人（2～22人） 平均スタッフ数：2人（1人～4人） ・活動内容： <input type="checkbox"/> 学習支援 <input checked="" type="checkbox"/> 体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 芸術・文化 <input checked="" type="checkbox"/> スポーツ <input type="checkbox"/> その他（ ） ・教室のもち方： <input type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input checked="" type="checkbox"/> 土曜日実施 <input type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input checked="" type="checkbox"/> その他（日曜日実施） ・スタッフの属性： <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input type="checkbox"/> 元教職員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input type="checkbox"/> その他		

■ 活動の概要

フラメンコ、軽スポーツ、バドミントン（月1回）
 むかで太鼓体験教室（5月に1回）、かけっこ教室（7月に1回）

■ 特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫

複数のクラブに参加できるよう、クラブの活動日が被らないように配慮している。
 普段触れる機会の少ない体験活動（むかで太鼓体験）を実施した。

■ 学校や放課後児童クラブとの関わり・連携

小学校の体育館を使用しているため、事前に日程調整したり、学校を通じて案内を出したり、情報提供いただいたりしている。

■ 他事業との関わり

今年度はコミュニティセンターみかみの改修工事があったため、他の事業との関わりをもつことができなかった。

■ 事業の成果と課題

月1回の活動には参加できなくても、年1回の活動であれば参加できる子どもがいる。参加を希望する子どもの数が年々減っているのは活動のマンネリ化と習い事に通う子どもが増えているのも原因のひとつと思われる。子どものニーズに合わせた活動内容と日程を改めて考える必要がある。



【 むかで太鼓体験教室 】

報告書記入者（ 三上地域推進委員会事務局 ）

自然に触れ、人に触れ、さまざまな体験を通して健やかな成長を育む

野洲市	活動名：篠原地域子ども教室運営協議会	篠原小学校 学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
主な活動場所：コミュニティセンターしのはら		開始年度：平成17年度
年間開催日数：21日（開催ペース：月2日）		地域学校協働活動推進員数：0人
平均参加人数：14人		平均スタッフ数：3人
・活動内容： <input type="checkbox"/> 学習支援 <input checked="" type="checkbox"/> 体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 芸術・文化 <input type="checkbox"/> スポーツ <input type="checkbox"/> その他（ ） ・教室の持ち方： <input type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input checked="" type="checkbox"/> 土曜日実施 <input checked="" type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他（日曜日実施） ・スタッフの属性： <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input type="checkbox"/> 元教職員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input type="checkbox"/> その他		

■ 活動の概要

地域の青少年の心地良い居場所づくり、体験の場の推進・充実を図り、創造性と自主性に富んだ健全な成長を願い、協働心をも育む。

■ 特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫

茶道教室は日本文化との関わりを深めるために年間を通じて開催している。

今年度は、外に出掛けて仕事を体験する事業を取り入れた。

■ 学校や放課後児童クラブとの関わり・連携

学校を通じて、事業募集のチラシを配布していただいた。

■ 他事業との関わり

コミュニティ・スクールを意識し、学校のワクワクコンサートとコミュニティセンターの文化祭発表を共催した。工作・フラワーアレンジ・手編み・レジン等、子ども達の創った作品も展示した。

■ 事業の成果と課題

事業を通して異年児とも仲良くなったり、「作ったものを家に飾れると嬉しい。」との声を頂いたりした。

少ない児童数の中で、興味を持って参加してもらえる事業を考える事や、講師の確保が課題である。



【 料理教室 】

報告書記入者（ 篠原地域子ども教室運営協議会事務局 ）

いろんなことにチャレンジしよう！！「ぎおう子ども体験教室」

野洲市	活動名：ぎおう子ども体験教室	祇王小学校 学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
主な活動場所：史跡 永原御殿跡		開始年度：平成17年度
年間開催日数：4日		地域学校協働活動推進員数：1人（兼務1人）
平均参加人数：10人		平均スタッフ数：4人
・活動内容： <input type="checkbox"/> 学習支援 <input checked="" type="checkbox"/> 体験活動 <input type="checkbox"/> 芸術・文化 <input type="checkbox"/> スポーツ <input type="checkbox"/> その他（ ） ・教室の持ち方： <input type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input checked="" type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・スタッフの属性： <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input type="checkbox"/> 元教職員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input checked="" type="checkbox"/> その他		

■ 活動の概要

国指定史跡「永原御殿跡」の発掘体験を企画した。

夏休みの企画で4日間の日程で開催した。

■ 特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫

新型コロナウイルス感染症に対しては手指の消毒、事前に検温を行うように声をかけるなど基本的な対策をした。

暑さ対策として水筒と帽子・汗拭きタオルを持たせた。

また、安全対策として長靴・軍手・ヘルメットを着用した。

■ 学校や放課後児童クラブとの関わり・連携

事業実施にあたり、運営スタッフだけでなく地域の方に見守りに入ってもらうなど連携している。

■ 他事業との関わり

なるべく多くの子供達に参加してもらえるよう日程を調整した。

■ 事業の成果と課題

楽しく郷土の歴史を学び、地域住民と交流することで、子どもたちが歴史の面白さや郷土の大切さを学んでくれている。



【 永原御殿跡発掘体験 】

報告書記入者（ コミュニティセンターぎおう事務局 ）

地域とともに！楽しく遊んで学ぼう！

野洲市	活動名：北野っ子フレンドリークラブ	北野小学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
主な活動場所：コミュニティセンターきたの		開始年度：平成23年度	
年間開催日数：21日（開催ペース：週・月3日）		地域学校協働活動推進員数：0人	
平均参加人数：20人		平均スタッフ数：6人	
・活動内容： <input type="checkbox"/> 学習支援 <input type="checkbox"/> 体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 芸術・文化 <input checked="" type="checkbox"/> スポーツ <input type="checkbox"/> その他（ ）			
・教室の持ち方： <input type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input checked="" type="checkbox"/> 土曜日実施 <input type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他（ ）			
・スタッフの属性： <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input type="checkbox"/> 元教職員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input type="checkbox"/> その他			

■ 活動の概要

地域の子どもたちが中心となって、活動できる居場所づくりを目指して、地域の理解と協力を得ながら、事業に取り組んでいく。

■ 特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫

持続的な活動及び家でも親子と共に行えるメニューを考えている。

■ 学校や放課後児童クラブとの関わり・連携

特になし。

■ 他事業との関わり

特になし。

■ 事業の成果と課題

子どもたちには喜んで笑顔がみられる。

課題は講師の確保と提供するラインナップの拡大である。



【 工作教室 】

報告書記入者（ コミュニティセンターきたの事務局 ）

体験は心と体の栄養だ！さあ元気になろう！

野洲市	活動名：中主地域子ども教室(中里学区)	中主小学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
主な活動場所：コミュニティセンターなかさと		開始年度：平成18年度	
年間開催日数：20日（開催ペース：月2日）		地域学校協働活動推進員数：0人	
平均参加人数：10人		平均スタッフ数：2人	
・活動内容： <input type="checkbox"/> 学習支援 <input checked="" type="checkbox"/> 体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 芸術・文化 <input type="checkbox"/> スポーツ <input type="checkbox"/> その他（ ）			
・教室の持ち方： <input type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input checked="" type="checkbox"/> 土曜日実施 <input type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他（ ）			
・スタッフの属性： <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input type="checkbox"/> 元教職員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input type="checkbox"/> その他			

■ 活動の概要

茶道クラブ、手芸クラブ、各月1回、年間10回を小学生以上対象で行っている。

■ 特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫

【茶道クラブ】お茶菓子を個包装の物、茶道具も使いまわしのないようになっている。

【手芸クラブ】小さくても作品作りの達成感や喜びを味わえるようになっている。

■ 学校や放課後児童クラブとの関わり・連携

小学校を通じてチラシ（申込用紙）を配布している。

■ 他事業との関わり

学校行事と子ども教室事業の日程調整を行い、参加しやすい環境づくりに努めている。

■ 事業の成果と課題

〔課題〕・子ども達の習熟度にバラツキがあるので、少数の指導者で教えるのが難しい。

・子どもたちの集中力を持続させる工夫が必要である。

〔成果〕・集中力の持続性や達成感を得られ、そのことが学習意欲の高揚に結び付く一助となっていると考えられる。



【 手芸クラブの様子 】

報告書記入者（ 中主地域子ども教室運営協議会事務局／中里学区 ）

なかよく楽しくみんなでチャレンジ！心豊かな中主っ子

野洲市	活動名：中主地域子ども教室（兵主学区）	中主小学校 学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
主な活動場所： 年間開催日数：14日（開催ペース：週・月1日） 平均参加人数：10人		開始年度：平成18年度 地域学校協働活動推進員数：0人 平均スタッフ数：2人
・活動内容： <input type="checkbox"/> 学習支援 <input checked="" type="checkbox"/> 体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 芸術・文化 <input type="checkbox"/> スポーツ <input type="checkbox"/> その他（ ） ・教室の持ち方： <input type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input checked="" type="checkbox"/> 土曜日実施 <input type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・スタッフの属性： <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input type="checkbox"/> 元教職員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input checked="" type="checkbox"/> その他		

■ 活動の概要

コミュニティセンター職員や地域住民が事業の講師となって小学生の居場所作りとなる活動を行っている。

■ 特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫

部屋の換気、消毒などに気を付けながら子どもの自主性を尊重しながら活動している。

■ 学校や放課後児童クラブとの関わり・連携

小学校の行事と重ならないように連絡を密にし、小学校を通じて教室の募集チラシなどを配布している。

■ 他事業との関わり

コミュニティセンター主催の収穫祭において、茶道クラブ所属の子どもたちにお抹茶の接待のお手伝いをしてもらうことで地域の方々との交流を図っている。

■ 事業の成果と課題

生け花や茶道を学ぶことで仲間を思いやる心や協調性が育まれている。



【 正月用寄せ植え教室 】

報告書記入者（ 中主地域子ども教室／兵主学区事務局 ）

地域・学校・家庭が手を携えて支え合う学習会「2023 夏休み宿題お助け会」

東近江市	活動名：八日市キッズ夏休み学習会	箕作小学校、八日市北小学校 学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
主な活動場所：八日市コミュニティセンター 年間開催日数：4日（夏休み開催） 平均参加人数：25人		開始年度：平成29年度： 地域学校協働活動推進員数：1人 平均スタッフ数：9人
・活動内容： <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援 <input checked="" type="checkbox"/> 体験活動 <input type="checkbox"/> 芸術・文化 <input type="checkbox"/> スポーツ <input type="checkbox"/> その他（ ） ・教室のもち方： <input type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input checked="" type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・スタッフの属性： <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input checked="" type="checkbox"/> 元教職員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input checked="" type="checkbox"/> その他		

■ 活動の概要

地域の児童の夏休み宿題を、地域ボランティアが支援する。

■ 特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫

学習の合間に「読み語り」や「レクリエーション」、「クイズ」、「ジャズダンス」、「ピアノ演奏鑑賞」などを取り入れて、学習活動にメリハリをつける。
高校生ボランティアが子どもたちに関わり、元教員が高校生をサポートする。

■ 学校や放課後児童クラブとの関わり・連携

代表者から年に数回、校長に活動報告をして指導助言を受ける。



【 学習の様子 】

■ 事業の成果と課題

4日間で延べ101名の児童の参加があった。昨年はコロナ禍で参加者が少なかったが、以前の様子に戻ってきた。
本学習会は、子どもの居場所であるとともに、児童、高校生、大人が関わる貴重な異世代交流の機会にもなっている。学習支援や体験活動を通して、お互いに良い刺激をもらっている。

報告書記入者（ 生涯学習課 指導主事 ）

わかった！できた！～地域の人々と学ぶ学習会～

東近江市	活動名：みなみっこ学習会	八日市南小学校 学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
主な活動場所：南部コミュニティセンター 年間開催日数：6日（夏休み4日、冬休み2日） 平均参加人数：20人		開始年度：平成26年度： 地域学校協働活動推進員数：1人 平均スタッフ数：8人
・活動内容： <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援 <input type="checkbox"/> 体験活動 <input type="checkbox"/> 芸術・文化 <input type="checkbox"/> スポーツ <input type="checkbox"/> その他（ ） ・教室のもち方： <input type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input checked="" type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・スタッフの属性： <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input checked="" type="checkbox"/> 元教職員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input checked="" type="checkbox"/> その他		

■ 活動の概要

・長期休業中の宿題や自主学習等の支援を通じて、学習習慣を身につける。

■ 特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫

・学年によって部屋を分けて実施している。
・地域住民の他、高校生ボランティアも参加して、学習支援を行っている。

■ 学校や放課後児童クラブとの関わり・連携

・学校との連絡を密にして実施している。また、学校の先生に学習会を見に来ていただいている。

■ 他事業との関わり

・南部地区まちづくり協議会の事業と共同実施している。ボランティアの募集だけでなく交流活動の用品や高校生ボランティアへの謝礼などに支援をいただいている。

■ 事業の成果と課題

・学習会の最終日に交流活動を行っていることもあって、子どもと大人の関係がよく和やかな雰囲気での学習ができている。子どもに家族、先生以外の大人が関わるよい機会となっている。
・学習会が必要な児童へ参加を促したいが、具体的な対応はできていないので今後検討していきたい。



【 学習の様子 】

報告書記入者（ 生涯学習課 指導主事 ）

楽しい夏休み！ 地域に子どもの居場所を！

東近江市	活動名：子どもの居場所	湖東第一小学校、湖東第二小学校、湖東第三小学校 学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
主な活動場所：湖東コミュニティセンター、小学校体育館等 年間開催日数：9日（夏休み9日） 平均参加人数：20人		開始年度：令和5年度： 地域学校協働活動推進員数：3人（兼務1人） 平均スタッフ数：3人
・活動内容： <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援 <input checked="" type="checkbox"/> 体験活動 <input type="checkbox"/> 芸術・文化 <input checked="" type="checkbox"/> スポーツ <input type="checkbox"/> その他（ ） ・教室のもち方： <input type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input checked="" type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・スタッフの属性： <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input type="checkbox"/> 元教職員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input checked="" type="checkbox"/> その他		

■ 活動の概要

- 湖東中学校区の3小学校の児童を対象に、コミュニティセンター、小学校体育館を活用して学習支援や体験活動を実施した。

■ 特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫

- 子どもたちに学習支援や体験活動を提供するのではなく、子どもたちが主体的に活動内容を考えて学習や体験活動に取り組むようにする。そのため、学習や体験活動の環境を整えるが、なるべく子どもたちの主体性に任せた取組を実施する。



【 木工細工に親しむ 】

■ 学校や放課後児童クラブとの関わり・連携

- 子どもたちが午前午後と過ごすため、小学校体育館を利用したニュースポーツ等を実施している。

■ 他事業との関わり

- 市のスポーツ課にはニュースポーツ、地域の団体には体験活動の講師を依頼している。

■ 事業の成果と課題

夏休みに子どもの居場所を作ることはできないかということで、まちづくり協議会が関わって放課後子ども教室を実施した。9日間で子どもたちは学習、体験活動に取り組み、子どもたちの居場所としてだけでなく学びの場としても大変有意義な教室となった。次年度はさらに子どもと保護者のニーズに応えた教室開催を検討している。

報告書記入者（ 生涯学習課 指導主事 ）

地域で子どもと大人が交流する、わくわく楽しい「夏休み勉強会」

東近江市	活動名：わくわく夏休み勉強会	五個荘小学校 学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
主な活動場所：五個荘コミュニティセンター 年間開催日数：4日（夏休み開催） 平均参加人数：29人		開始年度：令和3年度： 地域学校協働活動推進員数：2人 平均スタッフ数：8人
・活動内容： <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援 <input checked="" type="checkbox"/> 体験活動 <input type="checkbox"/> 芸術・文化 <input type="checkbox"/> スポーツ <input type="checkbox"/> その他（ ） ・教室のもち方： <input type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input checked="" type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・スタッフの属性： <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input checked="" type="checkbox"/> 元教職員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input checked="" type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input checked="" type="checkbox"/> その他		

■ 活動の概要

- 子どもたちの学習の場、地域の大人と子どもの交流の場を作り出すことを目的に開催している。五個荘地区に在住の小学1年生から6年生までを対象に募集をした。

■ 特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫

- 夏休みの宿題等に取り組む学習の時間以外に体験活動の時間を作っている。体験活動の時間には、「風鈴絵付け体験」、「コットンバックの染付体験」、クイズなどの「レクリエーション」を実施した。
- 4日目には、永源寺クリーンランドにてイワナ、アマゴ釣り・つかみ取り体験を実施した。

■ 学校や放課後児童クラブとの関わり・連携

- 学校と五個荘コミュニティセンターが連携して、各学年のドリルを学習教材として準備した。



【 学習支援の様子 】

■ 事業の成果と課題

- 地域の方々と子どもたちとの交流ができた。
- 各学年の夏休みドリルの答えを学校に準備してもらったことで、丸付けができた。

報告書記入者（ 生涯学習課 指導主事 ）

地域で学び、地域で育つ「市原っ子」の明るく楽しい共同学習の場

東近江市	活動名：放課後子ども教室「まなびい」	市原小学校 学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
主な活動場所：市原小学校ランチルーム 年間開催日数：13日（開催ペース：月1日） 平均参加人数：20人		開始年度：平成25年度 地域学校協働活動推進員数：3人 平均スタッフ数：4人
・活動内容： <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援 <input type="checkbox"/> 体験活動 <input type="checkbox"/> 芸術・文化 <input type="checkbox"/> スポーツ <input checked="" type="checkbox"/> その他（タブレット学習・プログラミング） ・教室の持ち方： <input checked="" type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input checked="" type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・スタッフの属性： <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input type="checkbox"/> 元教職員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input type="checkbox"/> その他		

■ 活動の概要

- ・1年生～3年生は前半16:00～17:00 保護者送迎
- ・4年生～6年生は後半17:00～18:00 保護者送迎
- ・前半30分は、宿題や自主学習、読書、
- ・後半30分はタブレットを使用した「eライブラリ」・「プログラミング学習（高学年のみ）」

■ 特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫

- ・『まなびい ふりかえりカード』に「今日のためあて」を記入して学習に取り組む。
- ・終了時、児童は『まなびい ふりかえりカード』に成果などを記入する。
- ・児童が主体的に学習内容を決めている。支援者は必要な時に寄り添うのみ。
- ・eライブラリでの学習を個々に積み上げている。
- ・高学年のプログラミング学習では論理的思考やアイデア力を育てている。

■ 学校や放課後児童クラブとの関わり・連携

- ・要請はしていない。一般教員は適宜自由に児童の様子を見に来る形。
- ・管理職・事務職員が学習支援やタブレット学習の準備、プログラミング学習、後始末など行っている。

■ 他事業との関わり

- ・特に無し

■ 事業の成果と課題

- ・「まなびい」の日を楽しみにして、参加申し込みを継続している児童が多い。
- ・児童は「小学校は学びの場」と認識しているので、主体的に学習を行っている。
- ・低学年と高学年の人数に差があり、低学年の児童の学習補助に人手が足りない時がある

報告書記入者（ 市原小学校地域学校協働本部長 ）



【 タブレット学習 】

みんなでわいわい楽しくにほんごのしゅくだいをしよう！

東近江市	活動名：マナビーみその	御園小学校 学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
主な活動場所：御園コミュニティセンター 年間開催日数：2日（夏休み1日、冬休み1日） 平均参加人数：5人		開始年度：令和4年度： 地域学校協働活動推進員数：1人 平均スタッフ数：5人
・活動内容： <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援 <input type="checkbox"/> 体験活動 <input type="checkbox"/> 芸術・文化 <input type="checkbox"/> スポーツ <input type="checkbox"/> その他（ ） ・教室の持ち方： <input type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input checked="" type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・スタッフの属性： <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input checked="" type="checkbox"/> 元教職員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input type="checkbox"/> その他		

■ 活動の概要

- ・御園小学校に通う、外国にルーツのある児童を対象に学習支援を行う。

■ 特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫

- ・地域の方（元教職員等）の協力を得て、日本語が十分に習得できていない児童に少人数で日本語の学習や宿題等の学習支援を行う。
- ・ゲームなどを行って、子どもと大人が交流する機会をもっている。

■ 学校や放課後児童クラブとの関わり・連携

- ・学校関係者も参加して共通認識の上で連携して実施している。

■ 他事業との関わり

- ・校区内で実施されるまちづくり協議会等のイベントへの参加を促すために関係するチラシを配布している。

■ 事業の成果と課題

- ・児童に丁寧に個別支援することで、次学期に向けて学習意欲の動機づけとなっている。また地域住民の交流機会にもなっている。

報告書記入者（ 生涯学習課 指導主事 ）



【 学習の様子 】

外国にルーツがある子の居場所

東近江市	活動名：日本語学習会なかよし	東近江市内小中学校 学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
主な活動場所：東近江市福祉センター ハートピア		開始年度：平成 28 年度：
年間開催日数：37 日（開催ペース：毎週土曜日）		地域学校協働活動推進員数：1 人
平均参加人数：8 人		平均スタッフ数：7 人
・活動内容： <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援 <input type="checkbox"/> 体験活動 <input type="checkbox"/> 芸術・文化 <input type="checkbox"/> スポーツ <input type="checkbox"/> その他（ ） ・教室のもち方： <input type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input checked="" type="checkbox"/> 土曜日実施 <input type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・スタッフの属性： <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input type="checkbox"/> 元教職員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO 等関係者 <input type="checkbox"/> その他		

■ 活動の概要

- ・長期休業日を除く毎週土曜日の午後 2 時から午後 4 時まで学習会を開いている。
- ・市内小中学校に通う外国にルーツのある児童・生徒への学習支援を実施している。
- ・学校の宿題の他、学習プリントを用意して、学習支援を行っている。

■ 特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫

- ・参加する児童・生徒に応じた学習支援を実施している。
- ・学習支援が主たる目的であるが、子どもたちがホッとできる場所になるように協働活動支援員は関わるようにしている。



【 学習の様子 】

■ 学校や放課後児童クラブとの関わり・連携

- ・日本語を学習したい児童・生徒がいる場合には、学校から本学習会を紹介してもらうことがある。

■ 他事業との関わり

- ・1月から3月までは外国にルーツのある未就学児を対象としたプレスクールも同施設内で実施している。

■ 事業の成果と課題

- ・個々の課題に応じた学習支援によって、課題克服が達成できている。
- ・参加した子ども同士につながりが生まれて、子どもたちのよい居場所となっている。

報告書記入者（ 生涯学習課 指導主事 ）

“わかる・できる・楽しい”を実感する子どもの育成を目指す「日野小てらこや」

日野町	活動名：日野小チャレンジ教室（日野小てらこや）	日野小学校 学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
主な活動場所：少人数教室 年間開催日数：45日（開催ペース：週3日） 平均参加人数：10人		開始年度：平成29年度 地域学校協働活動推進員数：1人（兼務1人） 平均スタッフ数：4人
・活動内容： <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援 <input type="checkbox"/> 体験活動 <input type="checkbox"/> 芸術・文化 <input type="checkbox"/> スポーツ <input type="checkbox"/> その他（ ） ・教室のもち方： <input checked="" type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・スタッフの属性： <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input checked="" type="checkbox"/> 元教職員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input checked="" type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input type="checkbox"/> その他		

■ 活動の概要

今年度は9月から開始した。算数について、学習の土台となる計算等の復習のための補充プリントに取り組んだ。夏季休業期間中は夏休みの宿題教室を開催した。

■ 特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫

補充プリントを多数用意し、児童の実態に合わせて取り組めるよう工夫した。参加児童数を少数とし、個別指導が充実できるようにすることや、隣との間隔を十分確保して児童が集中して学習に取り組めるよう工夫した。

■ 学校や放課後児童クラブとの関わり・連携

学校から、対象学年全員にチャレンジ教室への参加の文書で呼びかけをした。個別懇談時には、担任からも保護者に声かけをして学力補充の機会として周知をした。

■ 他事業との関わり

特になし

■ 事業の成果と課題

〈成果〉少人数指導で、毎回、集中して学習に取り組む児童の姿が見られた。学習問題に児童がつまづいている姿を素早く指導員がつかみ、個別指導を行い、「わかった。」「次はできる。」とつぶやき、自信を高める姿が見られた。

〈課題〉今年度も4年生以上を対象に事業を行なった。対象学年を拡大してほしいとの声が保護者からもあり、実施方法、回数、参加方法を検討していく必要がある。



【 補充プリント 】

報告書記入者（ 教頭 ）

放課後にじっくり ゆっくり 勉強タイム！ 放課後チャレンジ教室

日野町	活動名：放課後チャレンジ教室	西大路小学校 学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
主な活動場所：図書室、2年教室、3年教室 年間開催日数：20日（開催ペース：週・月3日） 平均参加人数：10人		開始年度：平成29年度 地域学校協働活動推進員数：1人（兼務1人） 平均スタッフ数：4人
・活動内容： <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援 <input type="checkbox"/> 体験活動 <input type="checkbox"/> 芸術・文化 <input type="checkbox"/> スポーツ <input type="checkbox"/> その他（ ） ・教室のもち方： <input checked="" type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・スタッフの属性： <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input checked="" type="checkbox"/> 元教職員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input type="checkbox"/> その他		

■ 活動の概要

学習に支援が必要な児童（2～6年対象）を中心に、放課後、国・算のプリントを行う。

■ 特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫

- ・学習したプリントは、各自のファイルにとじ、学習の成果を残していく。
- ・前半（2年生または3年生）、後半（4～6年生）の二部制とし、1回の受講人数を5～7名にして実施している。
- ・2年教室、3年教室と図書室を利用し、一人一人が広いスペースを確保することと、換気等を徹底している。

■ 学校や放課後児童クラブとの関わり・連携

- ・出席カードを作り、学習前には確認する。
- ・学童に行く子どもは、この学習を終えてから学童に向かう。

■ 他事業との関わり

なし

■ 事業の成果と課題

〈成果〉少人数での学習なので、個々のつまづきが分かり、それに応じた学習をすることができた。

〈課題〉申し込み時点で、「意欲をもって参加する」が条件であるが、十分に徹底できているとは言えず、力を発揮できていない児童もあった。受講説明の際に十分な説明が必要であると考えられる。



【放課後チャレンジ教室の様子】

報告書記入者（ 教頭 ）

「南比がすき」～地域で学ぶ、地域に学ぶ～

日野町	活動名：放課後子ども教室	南比都佐小学校 学校運営協議会：■有 □無
主な活動場所：南比都佐公民館		開始年度：平成29年度：
年間開催日数：年間約60日（開催ペース：書道・茶道月2日、科学月1日）		地域学校協働活動推進員数：1人（兼務1人）
平均参加人数：22人（書道） 7人（科学） 6人（茶道）		平均スタッフ数：2人（書道・茶道） 1人（科学）
・活動内容：■学習支援 ■体験活動 ■芸術・文化 □スポーツ □その他（ ）		
・教室の持ち方：■平日放課後実施 ■土曜日実施 ■長期休業日実施 □その他（ ）		
・スタッフの属性：□企業関係者 □行政職員 □元教職員 ■地域住民 □大学生 □NPO等関係者 □その他		

■ 活動の概要

（書道教室）硬筆、毛筆の書き方の基礎を習得する。
 （科学教室）様々な実験を通して、科学の楽しさを味わう。
 （茶道教室）茶席の基本作法を学ぶ。

■ 特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫

・活動母体が学校に隣接する公民館であり、土曜日や長期休業日に開催が可能である。

■ 学校や放課後児童クラブとの関わり・連携

・11月に実施した学校行事「南比コミュニティ・フェスティバル」では、茶道教室の講師が“師匠”となり、茶道の体験講座を実施した。
 ・放課後学童クラブの子どもも平日開催の書道教室に数名参加しているが、この日は学童には通所せず、保護者の方が直接公民館まで迎えに行ってください。

■ 他事業との関わり

・公民館での秋の文化祭に、書道作品を出品したり茶席を開いたりしている

■ 事業の成果と課題

・学校では十分できない学びや体験ができる場として活動が定着しており、子どもたちも参加するのを楽しみにしている。
 ・地域の方が講師となって下さっており、地域の良き学びの場であるとともに、学校と地域をつなぐ場の一つとなっている。



【 書道教室（硬筆指導） 】

報告書記入者（ 教頭 ）

「分かった」「できた」を増やし、子どもたちの学習意欲を引き出す

日野町	活動名：放課後必佐寺子屋	必佐小学校 学校運営協議会：■有 □無
主な活動場所：		開始年度：平成4年度：
年間開催日数：50日（開催ペース：週3日）		地域学校協働活動推進員数：0人
平均参加人数：8人		平均スタッフ数：3人
・活動内容：■学習支援 □体験活動 □芸術・文化 □スポーツ □その他（ ）		
・教室の持ち方：■平日放課後実施 □土曜日実施 □長期休業日実施 □その他（ ）		
・スタッフの属性：□企業関係者 □行政職員 ■元教職員 □地域住民 □大学生 □NPO等関係者 ■その他		

■ 活動の概要

3～5年生を対象とした補充学習

■ 特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫

教科は算数、対象学年を3～5年生に限定する。四則計算を中心に授業内容の理解の不十分な部分の補充を行う。

■ 学校や放課後児童クラブとの関わり・連携

参加児童は授業終了後、下校せずに放課後15:35～16:20に学習室で学習する。下校は保護者の迎えを基本とする。

■ 他事業との関わり

特になし

■ 事業の成果と課題

放課後教室を実施したい時間帯での指導者の確保が難しい。参加児童を増やしたいが、十分な指導体制を組めないため必要と思われるすべての児童の参加は難しい。



【 学習室での寺子屋学習 】

報告書記入者（ 教頭 ）

子どもたちの算数学習意欲を向上させ基礎学力の定着を図る取組

日野町	活動名：放課後学習補充教室	桜谷小学校 学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
主な活動場所： 年間開催日数：15日（開催ペース：週・月1，2日） 平均参加人数：19人		開始年度：（元号）令和3年度： 地域学校協働活動推進員数：1人（兼務1人） 平均スタッフ数：3～4人
・活動内容： <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援 <input type="checkbox"/> 体験活動 <input type="checkbox"/> 芸術・文化 <input type="checkbox"/> スポーツ <input type="checkbox"/> その他（ ） ・教室の持ち方： <input checked="" type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input checked="" type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・スタッフの属性： <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input checked="" type="checkbox"/> 元教職員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input type="checkbox"/> その他		

■ 活動の概要

算数科の学習意欲の向上と学習習慣の定着を目標に、夏休みから3月まで基礎的な学習の積み上げに重点を置く「放課後基礎補充学習」を実施した。

■ 特徴的な活動内容や実施にあたっての工夫

前半を1，2年、後半を3～6年にわけて45分間ずつ学習に取り組んでいる。児童2，3人に対して1人の指導者がつき、丁寧に理解できるまで教えている。

■ 学校や放課後児童クラブとの関わり・連携

学校側は管理職または児童の担任が指導者とともに必ず参加している。参加する児童に必要な課題内容を克服できるような学習プリントを担任や指導員が用意して学習を進めている。放課後児童クラブに入っている児童は学習後放課後児童クラブに戻るという体制で行っている。

■ 他事業との関わり

なし

■ 事業の成果と課題

丁寧な見取りと指導をしていただけるので、どの子も安心して楽しく学習することができている。宿題や授業でわからなかったところを放課後学習補充の先生に質問して教えてもらっている子がいる。四則計算（特にかけ算の九九の暗唱）など基礎的な学力補充が必要な児童が増加する傾向にあり、今後も一人ひとりの学習状況を担任に聞き取るなどして小学校で身に付けなければならない力を確実に身に付けられるようにしていきたい。



【放課後学習補充教室の様子】

報告書記入者（ 教頭 ）

放課後児童クラブの現状

令和5年5月1日現在

1 放課後児童クラブ数実施状況

(1) 小学校の状況

小学校区数	218か所	児童数	77,452人
小学校1～3年生の総数	37,771人	*4～6年	39,681人

(2) 放課後児童クラブの概況

設置・運営主体別クラブ数	公立公営	公立民営	民立民営	合計
	74	146	112	332

(3) 放課後児童クラブの状況

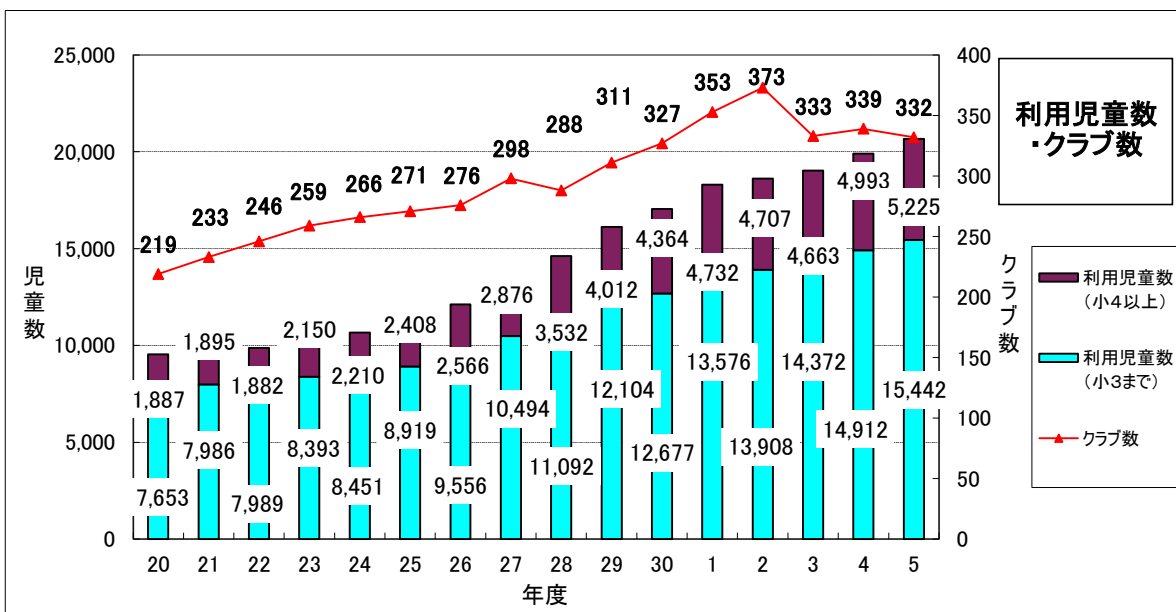
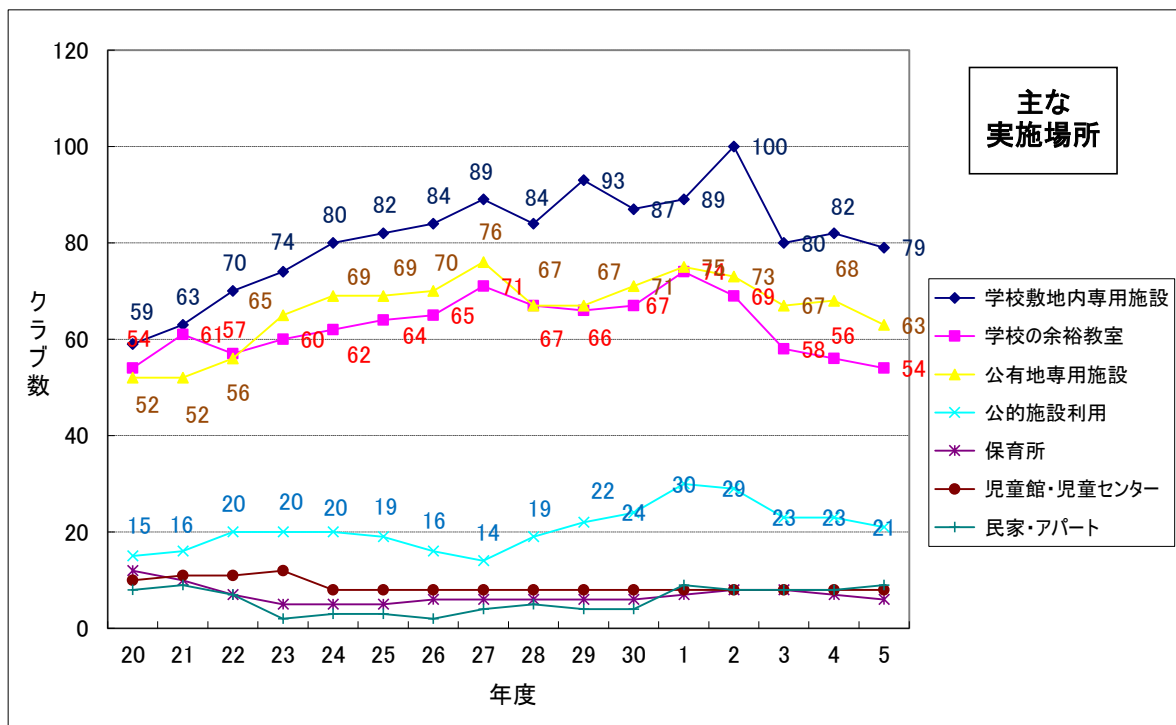
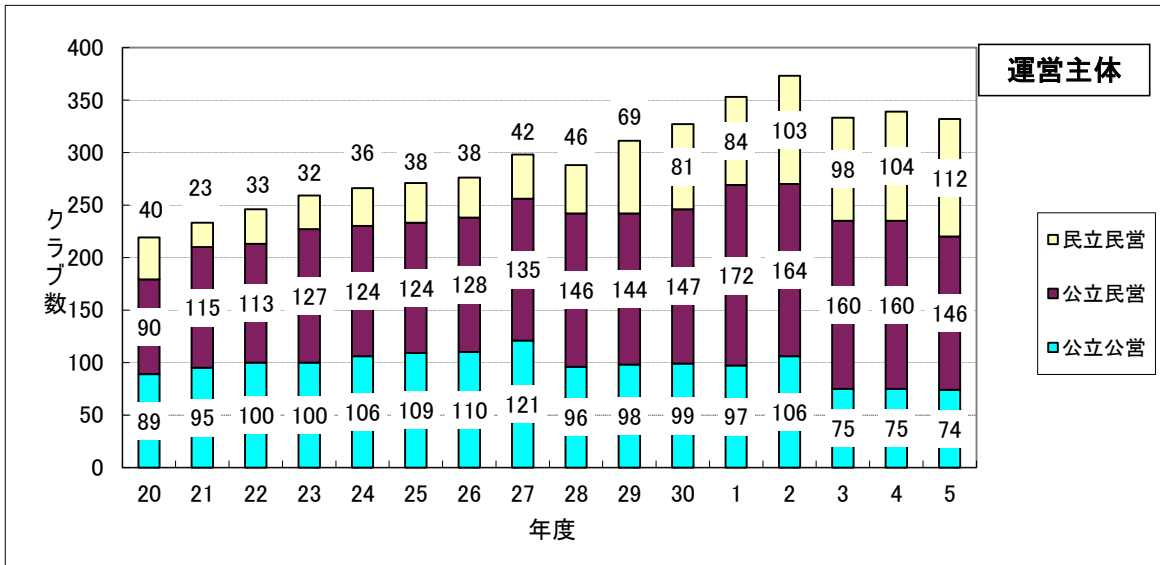
調査項目	公立公営	公立民営	民立民営	合計
実施場所別 放課後児童 クラブ数				
児童館・児童センター	1	2	5	8
学校の余裕教室	34	20	0	54
学校敷地内専用施設	23	56	0	79
公有地専用施設	13	50	0	63
民有地専用施設	2	0	28	30
民家・アパート	0	0	9	9
公的施設利用	1	9	11	21
団地集会室	0	0	0	0
保育所	0	1	5	6
幼稚園	0	0	0	0
認定こども園	0	0	1	1
空き店舗	0	2	52	54
その他	0	6	1	7
合計	74	146	112	332
登録児童数別 放課後児童 クラブ数				
9人以下	0	2	6	8
10人～19人	2	3	11	16
20人～35人	10	32	38	80
36人～70人	20	57	48	125
71人以上	42	52	9	103
合計	74	146	112	332
障害児受入数別 放課後児童 クラブ数				
受入なし	12	11	45	68
1人	5	13	21	39
2人	12	16	23	51
3人	10	23	11	44
4人以上	35	83	12	130
合計	74	146	112	332
平日の終了時刻別 放課後児童 クラブ数				
17:01～17:30	0	1	0	1
17:31～18:00	16	0	1	17
18:01～18:30	19	41	13	73
18:31～19:00	39	103	48	190
19:01～20:00	0	1	49	50
20:01～21:00	0	0	1	1
21:01～22:00	0	0	0	0
合計	74	146	112	332
休日の開館状況別 放課後児童 クラブ数				
土曜日(毎週実施以外)	55 (7)	46 (76)	64 (41)	165 (124)
日曜・祝日	0	28	1	29
長期休暇	74	141	112	327
学年別児童数				
小学校1年生(障害児)	1,848 (93)	2,613 (150)	1,250 (41)	5,711 (284)
小学校2年生(障害児)	1,700 (70)	2,547 (160)	1,138 (41)	5,385 (271)
小学校3年生(障害児)	1,351 (71)	1,980 (157)	1,015 (31)	4,346 (259)
小学校4年生(障害児)	914 (45)	1,319 (142)	610 (29)	2,843 (216)
小学校5年生(障害児)	454 (13)	772 (70)	372 (17)	1,598 (100)
小学校6年生(障害児)	201 (12)	417 (54)	166 (10)	784 (76)
合計(障害児)	6,468 (304)	9,648 (733)	4,551 (169)	20,667 (1,206)
学年別利用(登録) できなかった児童数				
小学校1年生(障害児)				5 (0)
小学校2年生(障害児)				5 (0)
小学校3年生(障害児)				5 (0)
小学校4年生(障害児)				11 (0)
小学校5年生(障害児)				17 (0)
小学校6年生(障害児)				17 (0)
合計(障害児)				60 (0)

注：()内の数は、再掲である。

(4) 市区町村の実施状況

全市区町村数 A	実施率 (B/A)	実施市区町村			合計 B
		市(特別区)	町	村	
19	100%	13	6	0	19

2 放課後児童クラブ数の推移



VI 土曜日の教育支援活動の実践事例

令和5年度 土曜日の教育支援 活動事例一覧

市町名	教室数	活動名	対象学校名	主な実施場所	委託	委託団体名
長浜市	1	田根子ども学び座	田根小学校	田根まちづくりセンター 田根小学校		
湖南省	9	いしべっ子学習教室	石部小学校	石部まちづくりセンター		
		みなみっこ土曜講座	石部南小学校	石部南小学校		
		さんさん教室	三雲小学校	学区内のまちづくり センター等の公共施設		
		ひがしっこ教室	三雲東小学校	三雲まちづくりセンター		
		土曜教室	岩根小学校	岩根まちづくりセンター		
		学校・地域で学ぶ土曜日教室	菩提寺小学校	菩提寺小学校		
		菩提寺学区土曜日の教育支援活動	菩提寺北小学校	菩提寺北小学校 菩提寺まちづくりセンター		
		しもしょう土曜教室	下田小学校	下田小学校 下田まちづくりセンター		
		水戸っ子 学ぶ力アップ!教室	水戸小学校	水戸小学校		
東近江市	15	キッズダンス（初級）	玉緒小学校 御園小学校	わたむきホール	○	玉緒地区地域教育協議会
		キッズダンス教室（中級）	玉緒小学校 御園小学校 玉園中学校	わたむきホール	○	
		小学生のプログラミング教室	玉緒小学校 御園小学校	ハンダーペーカー	○	
		中学生のプログラミング教室	玉園中学校	ハンダーペーカー	○	
		農業体験・田園アートクラブ	玉緒小学校	上大森町 農地・田	○	
		小中学生のネイティブスピーカー英会話	玉緒小学校 玉園中学校	地域の子ども食堂会場	○	
		蒲生マックスクラブ 茶道クラブ	蒲生東小学校 蒲生西小学校 蒲生北小学校 朝桜中学校	蒲生コミュニティセンター	○	蒲生地区地域教育協議会
		蒲生マックスクラブ マックスダンス 初級		蒲生コミュニティセンター	○	
		蒲生マックスクラブ マックスダンス 中級		蒲生コミュニティセンター	○	
		蒲生マックスクラブ マックスダンス 上級		蒲生コミュニティセンター	○	
		蒲生マックスクラブ KIDS FLOWER（キッズフラワー）	蒲生東小学校 蒲生西小学校 蒲生北小学校	蒲生コミュニティセンター	○	
		蒲生マックスクラブ あかねジュニアバンド		蒲生コミュニティセンター	○	
		蒲生マックスクラブ 陶芸クラブ		蒲生コミュニティセンター	○	
		蒲生マックスクラブ わくわくチャレンジ隊		蒲生コミュニティセンター	○	
		蒲生マックスクラブ 蒲生野太鼓わらべ組		蒲生コミュニティセンター	○	
竜王町	4	竜王キッズクラブ サイエンスクラブ	竜王小学校 竜王西小学校	竜王町公民館 他		
		竜王キッズクラブ 書道クラブ		竜王町公民館		
		竜王キッズクラブ チャレンジクラブ		竜王町公民館 他		
		竜王キッズクラブ 竜王ユースプラス		竜王町公民館 他		

学校と連携した子ども学び座 ～ 学校+αの学びを地域で ～

長浜市	活動名：田根子ども学び座	田根小学校	学校運営協議会：■有 □無
主な活動場所：田根まちづくりセンター・田根小学校		開始年度：令和5年度	
年間開催日数：6日（開催ペース：週1日）		地域学校協働活動推進員数：2人	
平均参加人数：14人		平均スタッフ数：4人	
・活動内容：□学習支援 ■体験活動 □芸術・文化 □スポーツ □その他（ ）			

■ 活動の概要・特徴的な活動

- ・地域のまちづくりセンター祭「タネまき祭り」を活用し、子ども商店の企画から準備、当日運営までを子どもたちが主体的に実施。
- ・自分で考え、自分で作り、自分たちで運営することで、子どもの主体性を育てるとともに、商店を開くための準備を通して、働くことやビジネスについて学ぶ。
- ・活動場所については、まちづくりセンターでの活動に加え、昼休みを活用し、学校の図工室でも実施。

■ 外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫

- ・地域のまちづくりセンター祭に絡めて実施したことで、たくさんの地域の方々との関わり、つながる機会とした。

■ 体系的・継続的な取組にするための工夫

- ・学校と連携を密にして打合せを行い、効果的な学びとなるよう、外部講師により講座の組み立てや子どもたちへのファシリテートを行った。

■ 事業の成果と課題

- ・子どもたちが一から企画を考え、自ら実施することで、子どもの主体性を育む取組ができた。祭り当日は地域づくり協議会の役員の方々のサポートもいただき、子どもたちが地域の方々につながる機会となった。
- ・子ども学び座は以前から地域のまちづくりセンターで行っていたが、今年度から学校と連携することでさらに充実した学びにすることができた。



【 講座の様子 】

報告書記入者（ 市民協働部生涯学習課 担当 ）

地域で子どもたちを育てるいしべっ子学習教室

湖南省	活動名 : いしべっ子学習教室	石部小学校	学校運営協議会 : <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
主な活動場所 : 石部まちづくりセンター 年間開催日数 : 5日 (10回) 平均参加人数 : 72人 ・活動内容 : <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援 <input checked="" type="checkbox"/> 体験活動 <input type="checkbox"/> 芸術・文化 <input type="checkbox"/> スポーツ <input type="checkbox"/> その他 ()		開始年度 : 平成27年度 : 地域学校協働活動推進員数 : 1人 平均スタッフ数 : 15人	

■ 活動の概要・特徴的な活動

長期休業期間に集中して学習に取り組める場を提供し、子どもたちの学習意欲が高まるよう支援している。学習教室以外に絵はがき教室、工作教室を開いた。

■ 外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫

まちづくり協議会に協力を依頼し、会場を校区の中心にあるまちづくりセンターに設定した。まちづくり協議会のみなさんには駐輪場の案内や受付を担当していただき、地域の方が子どもたちを育てる体制づくりを図った。今年度も中学生ボランティアを募集したところ、9名の参加があった。

■ 体系的・継続的な取組にするための工夫

学校運営協議会の学習支援委員会が中心となり、協議し、子どもたちが安全に楽しく学習できるように配慮した。宿題のプラス学習としてプリントやオリジナルワークを用意し、終了時間までしっかりと学習できるようにした。絵はがき教室では裏面から宛先まで書き、切手を貼る体験もした。貯金箱づくりではカラー粘土を使い、色の三原色の学習も取り入れ、子どもたちはオリジナルの貯金箱を完成させた。

■ 事業の成果と課題

地域の協力を支えられ、のべ343人の子どもたちが参加し、集中して学習に取り組めた。幅広い年代の地域の方に子どもたちを育てていただきたいという思いより、学生ボランティアの人材確保が必要だと思われる。



【 工作教室の様子 】

報告書記入者 (地域学校協働活動推進員)

みなみっこ 土曜講座 夏休み子ども教室を企画しよう！

湖南省	活動名 : みなみっこ土曜講座	石部南小学校	学校運営協議会 : <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
主な活動場所 : 石部南小学校 年間開催日数 : 10日 平均参加人数 : 45人 ・活動内容 : <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援 <input checked="" type="checkbox"/> 体験活動 <input type="checkbox"/> 芸術・文化 <input type="checkbox"/> スポーツ <input type="checkbox"/> その他 ()		開始年度 : 平成26年度 : 地域学校協働活動推進員数 : 1人 平均スタッフ数 : 14人	

■ 活動の概要・特徴的な活動

みなみっこ土曜講座では「ふるさと意識の醸成」「自主性の育成」を大きな柱とし、地域に伝わる伝統行事に参加・体験し、地域の特性を生かした活動を行っている。毎年開催されている「夏休み子ども教室」は企画から児童会が参画して行われている。
・宿題教室2回 ・カレー作り ・お菓子作りを行った。

■ 外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫

CS委員、地域の方、保護者にボランティアをお願いした。当日の動きを事前に伝えていたのでスムーズに活動が行われた。中学生にはスタッフとして、受付から片付けまで、責任をもって参加してもらった。

■ 体系的・継続的な取組にするための工夫

各クラスに事前にアンケートをとり集約して理事会と話し合った。子どもたちが企画から参画することで、自分たちが考えた企画を運営する意識をもってもらう。

■ 事業の成果と課題

カレー作りのグループは縦割り学年で編成した。高学年が低学年のサポートをする姿が多くみられた。卒業した中学生や地域ボランティアは高学年を見守る立場で活動していた。



【 児童と理事の懇談会 】

報告書記入者 (地域学校協働活動推進員)

地域ぐるみで子どもを見守る「さんさん教室」

湖南省	活動名：さんさん教室	三雲小学校	学校運営協議会：■有 □無
主な活動場所：学区内まちづくりセンター等の公共施設 年間開催日数：10日 平均参加人数：35人 ・活動内容：■学習支援 ■体験活動 ■芸術・文化 □スポーツ □その他（ ）		開始年度：平成27年度： 地域学校協働活動推進員数：1人 平均スタッフ数：18人	

■ 活動の概要・特徴的な活動

- 夏休みの宿題や自主学習の支援活動を実施。折り紙アートで夏を彩るうちわ作り、抹茶体験、手作りおもちゃ（風船ボール、飛ぶ紙飛行機）を工作。
- CSと協力し、甲西中学校生徒による三雲小学校、三雲東小学校児童対象のクリスマス会を実施。
- 三雲学区まちづくり協議会オリジナル「にん忍パン」づくりを2月4日に実施予定。

■ 外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫

- 三雲学区まちづくり協議会との連携で各地区からスタッフを配置し、安全面に配慮。
- また、材料費の支援、各講師の紹介等様々な面で支えていただいている。

■ 体系的・継続的な取組にするための工夫

- 子どもと保護者の方には、安心して楽しいと思える活動内容。地域の方々ともつながりあえる交流を目指し、従来の活動内容を変更した。

■ 事業の成果と課題

- コロナ後ということもあり、参加者が増え、手狭な施設もあったが、夏休み前半と後半の活動は多くの友だちと会い、笑顔溢れる楽しい時間となった。また、新たな取組としてCS共催のクリスマス会は、甲西中学校、三雲小学校、三雲東小学校の枠を超え、地域の方とも交流ができ、大変好評だった。

報告書記入者（ 地域学校協働活動推進員 ）



【夏を彩るうちわ完成】

「みくもっ子・ひがしっこ クリスマスパティー」

湖南省	活動名：ひがしっこ教室	三雲東小学校	学校運営協議会：■有 □無
主な活動場所：三雲小学校 年間開催日数：10日（開催ペース：7～8月8日・12月2日） 平均参加人数：33人 ・活動内容：■学習支援 ■体験活動 ■芸術・文化 ■スポーツ □その他（ ）		開始年度：平成26年度 地域学校協働活動推進員数：1人（兼務1人） 平均スタッフ数：11人	

■ 活動の概要・特徴的な活動

甲西中学校区の三校（甲西中学校・三雲小学校・三雲東小学校）、学校運営協議会、みくも学区まちづくり協議会と連携して計画、実施している。地域で活躍中のボランティアサークルに協力いただき、折り紙アート（うちわ制作）やお抹茶体験、お習字教室と夏休みの課題学習。また、コロナ終息で4年ぶりの親子パン教室を開催。12月には三雲東青少年育成学区民会議とコラボし、「あつまれ！ひがしっこ」というスポーツイベント開催。12月22日には、学校運営協議会が主体となり甲西中学校の生徒を実行委員とした三雲小・三雲東小合同企画「みくもっ子・ひがしっこクリスマスパーティー」を開催。

■ 外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫

甲西中学校区でCSを運営している利点を活用し、小中三校の児童生徒が参加、交流できる内容を考えた。中学生が企画やポスター作製、進行を行った。また、手作りの大きな看板は三雲小学校、ツリーにする木と飾りは三雲東小学校で分担し、準備した。

■ 体系的・継続的な取組にするための工夫

- 例年秋に企画していた歴史探訪は、児童の参加が少なく、両校の児童がより楽しく交流できる企画へと変更した。大人だけで考えるのではなく、甲西中学校の生徒を実行委員として迎え、企画・準備について打合せを重ねた。
- 交流するイベントの内容を楽しく、参加者同士が協力できるものにすることや企画・進行する中学生の姿を見せるようにした。

■ 事業の成果と課題

小学生115人（三雲小67人、三雲東小48人）が参加し、学校・学年をミックスしたグループ16チームによる対抗戦でゲームを楽しんだ。当日は、楽しく活動する小学生、ドキドキしながらも進行する中学生の姿があり、貴重な経験のできる場となった。参加した小学生が中学生の姿を目標にしてくれると嬉しい。小中の連携、打合せ、準備等に調整が必要なため、年度初めから余裕をもって取り組めるようにしていきたい。

■ その他

内容を「ひがしっこ教室通信」として配布し周知を図った。（ホームページにも掲載）

報告書記入者（ 地域学校協働活動推進員 ）



【サンタさんからプレゼント】

できた！ わかった！ が実感できる土曜教室

湖南省	活動名：土曜教室	岩根小学校	学校運営協議会：■有 □無
主な活動場所：岩根まちづくりセンター		開始年度：平成22年度：	
年間開催日数：20日（開催ペース：週1日）		地域学校協働活動推進員数：2人	
平均参加人数：6人		平均スタッフ数：6人	
・活動内容：■学習支援 □体験活動 □芸術・文化 □スポーツ □その他（ ）			

■ 活動の概要・特徴的な活動

国語と算数の基礎的内容を窓口とし、「ほめて、認めて、励ます」ことを重視し、自尊感情を高めることを目指している。通常学級で個別の指導・支援を要する児童（3～4年生）のうち、校内の協議結果に保護者の合意が得られた児童を対象として個別の学習支援を実施している。形態は、全体指導者1名と個別支援者約6名と事務局1名でなされている。

■ 外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫

事務局は、本校の学校支援員を兼ねているため、児童の実態をよく把握している。支援者は、校区在住の元教員や元保育士および教育や福祉等を志す学生等。



【 ほめて 認めて 励ます 】

■ 体系的・継続的な取組にするための工夫

- ・指導・支援の質が保てる範囲を維持できる人数にすること。
- ・教室終了後、スタッフで個々の児童の課題を共有し、個に応じた手立てを決定する場を設けている。

■ 事業の成果と課題

- 自力で学習する力がつき始め、学校の宿題である自主学習も意欲的に取り組めた。
- カルタなどのグループワークによって、よりよい人間関係づくりができた。
- 失敗経験が多いため、自信を失っている児童が多い。根気よくほめて認めて励ますことで、児童の自信につながり、自尊感情が高まり、学ぶ意欲を引き出すことができた。
- 新たな支援者（特に、学生）の発掘に苦慮している。

報告書記入者（ 校長 ）

学び、体験 そして地域を知ろう！土曜日教室

湖南省	活動名：学校・地域で学ぶ土曜日教室	菩提寺小学校	学校運営協議会：■有 □無
主な活動場所：菩提寺小学校		開始年度：平成26年度：	
年間開催日数：10日（開催ペース：1、2ヶ月に1回）		地域学校協働活動推進員数：2人（兼務2人）	
平均参加人数：30人		平均スタッフ数：5人	
・活動内容：■学習支援 ■体験活動 ■芸術・文化 □スポーツ □その他（ ）			

■ 活動の概要・特徴的な活動

菩提寺地区には小学校が2校あり、年10回の活動のうち5回（内1回は天候不良で中止）は2校で開催している。地域の菩提寺まちづくり協議会からの支援を得ての開催もある。

■ 外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫

地域の菩提寺まちづくり協議会からの支援や地域住民がボランティア講師となり継続して協力いただけている事業もある。また地元中学生のボランティア部の協力も大きな力となっている。

■ 体系的・継続的な取組にするための工夫

今年度よりタウンメールにて案内を配信する試みを行ったが、保護者のみの案内となることで開催を知らない児童がいたり見落とししたりすることに繋がってしまったので、配信と同時に書面配布を行うことで児童の目にも留まる様に工夫した。



【 ボランティア講師によるマジック教室 】

■ 事業の成果と課題

夏休み中に開催する勉強会や絵画教室は例年参加人数が多いが、土曜日に開催する教室は減少傾向にある。児童の興味関心を探りながら地域の方と連携し継続した活動を行っていきたい。

■ その他

参加した児童は満足し次回の参加に繋がっている。活動の様子を学校ホームページや広報等に載せ、多くの方に本事業に関心をもっていただけるよう取り組んでいきたい。

報告書記入者（ 地域学校協働活動推進員 ）

土曜日の教育支援活動～地域の子どもがつながる～ わくわく体験・学習教室

湖南省	活動名 菩提寺学区土曜日の教育支援活動	菩提寺北小学校 学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
主な活動場所：菩提寺北小学校 菩提寺まちづくりセンター		開始年度：平成 22 年度：
年間開催日数：10 日（開催ペース：1・2か月に1回）		地域学校協働活動推進員数：2 人
平均参加人数：20 人		平均スタッフ数：5 人
・活動内容： <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援 <input checked="" type="checkbox"/> 体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 芸術・文化 <input type="checkbox"/> スポーツ <input type="checkbox"/> その他（ ）		

■ 活動の概要・特徴的な活動

毎年、菩提寺まちづくり協議会支援のもと、菩提寺学区にある菩提寺北小・菩提寺小の2校が合同で年間10回計画を立て開催している。

今年度活動

①大山川での魚つかみ ②～④学習教室&絵画教室 ⑤ポンポン船づくり
⑥わらじ作り ⑦マジック教室 ⑧門松作り ⑨習字教室 ⑩竹細工

■ 外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫

各講座の講師・指導は全て地域の方やボランティア団体、まちづくり協議会の委員会にお願いしている。

■ 体系的・継続的な取組にするための工夫

ほとんどの活動が保護者同伴となっており、親子で力を合わせて作り上げたり、挑戦したりと日頃気薄になりがちな親子でのコミュニケーションを図ることも大事なひとつとなっている。

■ 事業の成果と課題

この事業をやり始めた当初より年々どの講座も参加者が減ってきている。土曜日の過ごし方も各家庭で多様化してきており、みんなが興味を持てるようなものを企画しようと考えてはいるが、これが一番の課題である。

■ その他

菩提寺まちづくり協議会の参加者への保険・材料費などの支援が非常にありがたく事業を継続できる要因にもなっている



【 マジック教室 】

報告書記入者（ 地域学校協働活動推進員 ）

『アートなしもしょう』 ～ 地域と一緒に創立 150 周年を盛り上げよう～

湖南省	活動名：しもしょう土曜教室	下田小学校 学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
主な活動場所：下田小学校・下田まちづくりセンター		開始年度：平成 26 年度：
年間開催日数：10 日		地域学校協働活動推進員数：2 人（兼務 2 人）
平均参加人数：10 人		平均スタッフ数：10 人
・活動内容： <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援 <input checked="" type="checkbox"/> 体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 芸術・文化 <input type="checkbox"/> スポーツ <input type="checkbox"/> その他（ ）		

■ 活動の概要・特徴的な活動

令和 6 年 3 月に下田小学校が創立 150 周年を迎えるため、児童だけでなく地域とともに盛り上げようと「アートなしもしょう」を企画、実施した。この活動では、地域の方や児童と 150 周年に関係する作品を作ることをテーマとし、カウントダウンボードや横断幕を作成した。

■ 外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫

地域で木工の仕事をしている方にカウントダウンボード土台の作成をお願いした。横断幕の作成には、卒業生である日枝中学校の生徒にボランティアとして参加してもらった。

■ 体系的・継続的な取組にするための工夫

児童や参加してくれているボランティアに、150 周年を盛り上げるといふ共通目標があることで、それぞれの活動の企画、運営がスムーズに実施できている。

■ 事業の成果と課題

横断幕の作成はデザインを参加児童が考え、布への下書き、色塗り等の作業も児童が中心となって活動を実施したことで、150 周年を迎える下田小学校について関心を持つことができた。

カウントダウンボードの数字を 6 年生と 5 年生が書き、自分たちで数字の張替えをしてくれている。カウントダウンボードは正面玄関に設置してあるが、運動会等で地域の方々にも見てもらうことができている。

下田小学校創立 150 周年ということを地域に広く知ってもらうためには、今後も様々な形での広報活動が重要になる。



【 横断幕とカウントダウンボード 】

報告書記入者（ 地域学校協働活動推進員 ）

夢中になれるものを見つけよう。ダンスは皆を笑顔にしてくれる！

東近江市	活動名：キッズダンス（初級）	玉緒小学校、御園小学校 学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
主な活動場所：わたむきホール等 年間開催日数：48日（開催ペース：月4日） 平均参加人数：12人 ・活動内容： <input type="checkbox"/> 学習支援 <input type="checkbox"/> 体験活動 <input type="checkbox"/> 芸術・文化 <input checked="" type="checkbox"/> スポーツ <input type="checkbox"/> その他（ ）		開始年度：平成27年度： 地域学校協働活動推進員数：1人 平均スタッフ数：2人

■ 活動の概要・特徴的な活動

インストラクターの指導により、低学年層の子どもたちを中心に、初歩的なレッスンから初めて、基本動作を身につけていく。また音楽や他の人とも合わせられる事を重点に初級での上達を図っている。

■ 外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫

外部への発表の機会を持てるように図っている。

■ 体系的・継続的な取組にするための工夫

初級と中級に分けてダンス教室を実施して、子どもたちが長くダンスに親しめるようにしている。

■ 事業の成果と課題

コロナ禍の制限がなくなり従来の活動ができるようになった。今後は発表の機会を増やしたり内容の充実を図ったりして、参加人数が増えるようにしたい。



【 教室の様子 】

報告書記入者（ 玉緒地区地域教育協議会 代表 ）

夢中になれるものを見つけよう。ダンスは皆を笑顔にしてくれる！

東近江市	活動名：キッズダンス（中級）	玉緒小学校、御園小学校、玉園中学校 学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
主な活動場所：わたむきホール等 年間開催日数：48日（開催ペース：月4日） 平均参加人数：12人 ・活動内容： <input type="checkbox"/> 学習支援 <input type="checkbox"/> 体験活動 <input type="checkbox"/> 芸術・文化 <input checked="" type="checkbox"/> スポーツ <input type="checkbox"/> その他（ ）		開始年度：平成27年度： 地域学校協働活動推進員数：1人 平均スタッフ数：2人

■ 活動の概要・特徴的な活動

インストラクターの指導により、中学年・上学年層の子どもたちを中心に、基本動作を身につけた上で、より高度な動きを練習している。また、音楽や他の人とも合わせられる事を重点に上達を図っている。

■ 外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫

外部への発表の機会を持てるように図っている。

■ 体系的・継続的な取組にするための工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

初級と中級に分けてダンス教室を実施して、子どもたちが長くダンスに親しめるようにしている。

■ 事業の成果と課題

コロナ禍の制限がなくなり従来の活動ができるようになった。今後は発表の機会を増やしたり内容の充実を図ったりして、参加人数が増えるようにしたい。



【 教室の様子 】

報告書記入者（ 玉緒地区地域教育協議会 代表 ）

プログラミングで楽しもう！

東近江市	活動名：小学生のプログラミング教室	玉緒小学校、御園小学校	学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
主な活動場所：ハンダーベーカリー		開始年度：令和3年度：	
年間開催日数：5日（開催ペース：2箇月に1回）		地域学校協働活動推進員数：1人	
平均参加人数：5人		平均スタッフ数：1人	
・活動内容： <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援 <input type="checkbox"/> 体験活動 <input type="checkbox"/> 芸術・文化 <input type="checkbox"/> スポーツ <input type="checkbox"/> その他（ ）			

- 活動の概要・特徴的な活動
パソコンの起動など初歩的な所から始めた。小学校でプログラミング学習が行われているので、子どものスキルに合わせて取り組んだ。
- 外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫
地域人材を生かして教室を運営している。
- 体系的・継続的な取組にするための工夫
小学校の教室と中学校の教室が連携して運営している。
- 事業の成果と課題
参加児童が楽しんで活動することができた。プログラミングの面白さを感じてもらえた。



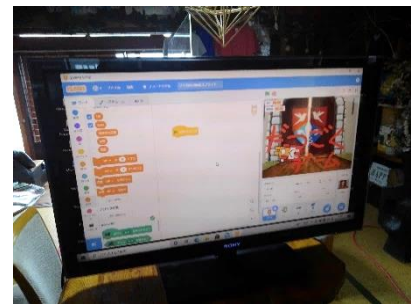
【 教室の様子 】

報告書記入者（ 玉緒地区地域教育協議会 代表 ）

プログラミングで楽しもう！

東近江市	活動名：中学生のプログラミング教室	玉園中学校	学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
主な活動場所：ハンダーベーカリー		開始年度：令和3年度：	
年間開催日数：10日（開催ペース：月1回）		地域学校協働活動推進員数：1人	
平均参加人数：10人		平均スタッフ数：2人	
・活動内容： <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援 <input type="checkbox"/> 体験活動 <input type="checkbox"/> 芸術・文化 <input type="checkbox"/> スポーツ <input type="checkbox"/> その他（ ）			

- 活動の概要・特徴的な活動
個々の子どもに合わせてプログラミングの学習に取り組んでいる。プログラミングを学校以外で取り組んだことがある子もない子も楽しく学習できるようにしている。
- 外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫
地域人材を生かして教室を運営している。
- 体系的・継続的な取組にするための工夫
小学校の教室と中学校の教室が連携して運営している。
- 事業の成果と課題
どの子もプログラミングを楽しめた。またプログラミングの学習を通して、身の回りの機械のプログラミングについて考えることができた。



【 プログラム画面 】

報告書記入者（ 玉緒地区地域教育協議会 代表 ）

地域の人に教わって、自然に親しもう！

東近江市	活動名：農業体験・田園アートクラブ	玉緒小学校	学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
主な活動場所：上大森町 農地・田		開始年度：令和3年度	
年間開催日数：3日（開催ペース：年3日）		地域学校協働活動推進員数：1人	
平均参加人数：10人		平均スタッフ数：2人	
・活動内容： <input type="checkbox"/> 学習支援 <input checked="" type="checkbox"/> 体験活動 <input type="checkbox"/> 芸術・文化 <input type="checkbox"/> スポーツ <input type="checkbox"/> その他（ ）			

■ 活動の概要・特徴的な活動

田園や畑で走り回る事で健康の増進を図り情操を豊かにする。サツマイモを植えることや収穫することを体験する。田園アートに触れる。

■ 外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫

豊かな田園資源を活用して、大人と子どもが楽しむことをねらう。

■ 体系的・継続的な取組にするための工夫

継続した取組になるように地域人材で継承できるようにしていく。

■ 事業の成果と課題

地域の支えで、農業体験が実施できた。農家さんとの日程調整が必要な上、天候に左右されやすいため日程調整が難しい。

■ その他

地元の農家さん等の協力が必要。



【 芋掘り体験 】

報告書記入者（ 玉緒地区地域教育協議会 代表 ）

地域の人との会話を通して、英語を親しもう！

東近江市	活動名：小中学生のネイティブスピーカー英会話	玉緒小学校・玉園中学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 無
主な活動場所：地域の子ども食堂会場		開始年度：令和3年度	
年間開催日数：10日（開催ペース：週1回）		地域学校協働活動推進員数：2人	
平均参加人数：5人		平均スタッフ数：2人	
・活動内容： <input type="checkbox"/> 学習支援 <input type="checkbox"/> 体験活動 <input type="checkbox"/> 芸術・文化 <input type="checkbox"/> スポーツ <input checked="" type="checkbox"/> その他（英会話 ）			

■ 活動の概要・特徴的な活動

子どもの英語の活用力が育つように、児童・生徒のレベルに沿った英会話レッスンを行う。英会話の基礎となる英語学習の支援を行う。

■ 外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫

地域の子ども食堂会場を使用することで、お互いに協力している。

■ 体系的・継続的な取組にするための工夫

以前に参加していた子が大きくなり、英語を教えに参加してくれている。

■ 事業の成果と課題

苦手意識を持っていた子ども徐々に英語に親しみを覚えるようになった。日常会話の中で活用できるようになるには、自然に少しずつ行っていくことが大切なので時間をかけて取り組む必要があると思う。



【 活動の様子 】

報告書記入者（ 玉緒地区地域教育協議会 代表 ）

子どもの五感を最大限に使って豊かな心や生きる力を育む

東近江市	活動名：蒲生マックスクラブ 茶道クラブ	蒲生東小学校・蒲生北小学校 学校運営協議会：■有 □無
		蒲生西小学校・朝桜中学校 学校運営協議会：□有 ■無
主な活動場所：蒲生コミュニティセンター		開始年度：平成14年度：
年間開催日数：10日（開催ペース：月1日）		地域学校協働活動推進員数：1人（兼務1人）
平均参加人数：9人		平均スタッフ数：1人
・活動内容：□学習支援 □体験活動 ■芸術・文化 □スポーツ □その他（ ）		

■ 活動の概要・特徴的な活動

- ・茶道経験のない子がほとんどなので基本から学んでいる。
- ・茶道の所作と併せて基本的な礼儀作法についても話をしている。

■ 外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫

- ・指導者を見つけるために人材バンクやボランティアグループのリストを利用している。他に指導者間のネットワークも利用。

■ 体系的・継続的な取組にするための工夫

- ・年度末に体験教室を開き、面白さや楽しさをより多くの子どもたちにも感じてもらう。次年度のクラブ員増につながるよう工夫をしている。

■ 事業の成果と課題

- ・クラブ員はより深く茶道を理解することにより、積極的に練習に集中する様子が見られる。
- ・自分が点てたお茶を人に供する喜びを感じてもらえている。
- ・動き自体が地味なものなので、その面白さが理解されにくい。



【 体験会の様子 】

報告書記入者（ 蒲生マックスクラブ 事務局 ）

子どもの五感を最大限に使って豊かな心や生きる力を育む

東近江市	活動名：蒲生マックスクラブ マックスダンス 初級	蒲生東小学校・蒲生西小学校・蒲生北小学校
		学校運営協議会：■有 □無
主な活動場所：蒲生コミュニティセンター		開始年度：平成24年度：
年間開催日数：10日（開催ペース：月1日）		地域学校協働活動推進員数：1人（兼務1人）
平均参加人数：16人		平均スタッフ数：1人
・活動内容：□学習支援 □体験活動 ■芸術・文化 □スポーツ □その他（ ）		

■ 活動の概要・特徴的な活動

- ・初級のメンバーはほとんどがダンス未経験者である。また低学年が多い。
- ・基礎的なステップを中心にダンスの練習を行っている。

■ 外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫

- ・指導者同士のネットワークを利用し指導者の確保に努めている。

■ 体系的・継続的な取組にするための工夫

- ・初級クラスにおいては、練習でも発表でも常に楽しい雰囲気を大切にしている。そのため、子どもたちの意欲が継続し高まるように工夫している。
- ・発表の機会があれば、簡単な内容で出来るだけ場数を踏ますようにしている。

■ 事業の成果と課題

- ・子どもたちは意欲的に教室に参加している。保護者も協力的である。
- ・今まで継続的に行われてきた教室であるため、翌年はレベルを上げた教室に参加する子どもが多く、段階を経て上達することができている。
- ・練習時間が短いために全体の動きを合わせるの難しいことがある。



【 練習の様子 】

報告書記入者（ 蒲生マックスクラブ 事務局 ）

子どもの五感を最大限に使って豊かな心や生きる力を育む

東近江市	活動名：蒲生マックスクラブ マックスダンス 中級	蒲生東小学校・蒲生西小学校・蒲生北小学校 学校運営協議会：■有 □無
主な活動場所：蒲生コミュニティセンター 年間開催日数：10日（開催ペース：月1日） 平均参加人数：10人 ・活動内容：□学習支援 □体験活動 ■芸術・文化 □スポーツ □その他（ ）		開始年度：平成26年度： 地域学校協働活動推進員数：1人（兼務1人） 平均スタッフ数：1人

■ 活動の概要・特徴的な活動

- ・初級クラスよりさらに難度の高いステップを中心に、フリースタイルダンスの練習を行っている。
- ・初級クラスでダンス経験を積んだ子どもたちの加入が多く、より高度な内容で目標を定めて活動を行っている。
- ・昨年度、中級クラスに入っていた子が、より基礎技術を固めるためにもう一度中級クラスに入る子が何人かいる。

■ 外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫

- ・指導者同士のネットワークを利用し指導者の確保に努めている。

■ 体系的・継続的な取組にするための工夫

- ・みんなで共通の目標を持ちながら活動するようにしている。
- ・目標を持たせ、子どもたちもメリハリを持って練習に取り組めるように工夫している。初級を終えた子どもが中級へ進みやすいように同じ指導者が体系的に教えてくれている。

■ 事業の成果と課題

- ・子どもたちはより難度の高い技能を希望するようになり、意欲的な取組みの姿勢が見られた。
- ・ダンスが高度になるほど、その技能の習得にも個人差が出てくるためステージ発表をどのレベルで納得させ、演技するのが指導者として難しい。



【 発表会の様子 】

報告書記入者（ 蒲生マックスクラブ 事務局 ）

子どもの五感を最大限に使って豊かな心や生きる力を育む

東近江市	活動名：蒲生マックスクラブ マックスダンス 上級	蒲生東小学校・蒲生西小学校・蒲生北小学校 学校運営協議会：■有 □無
主な活動場所：蒲生コミュニティセンター 年間開催日数：10日（開催ペース：月1日） 平均参加人数：10人 ・活動内容：□学習支援 □体験活動 ■芸術・文化 □スポーツ □その他（ ）		開始年度：平成27年度： 地域学校協働活動推進員数：1人（兼務1人） 平均スタッフ数：1人

■ 活動の概要・特徴的な活動

- ・中級クラスより難度の高いステップを中心に、フリースタイルダンスの練習を行っている。
- ・中級クラスでダンス経験を積んだ子どもたちの加入が多く、より高度な内容で目標を定めて活動を行っている。

■ 外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫

- ・指導者同士のネットワークを利用し指導者の確保に努めている。

■ 体系的・継続的な取組にするための工夫

- ・みんなで共通の目標を持ちながら活動するようにしている。
- ・目標を持たせ、子どもたちもメリハリを持って練習に取り組めるように工夫している。中級を終えた子どもが上級へ進みやすいように同じ指導者が体系的に教えてくれている。

■ 事業の成果と課題

- ・子どもたちはより難度の高い技能やステージ発表を希望するようになり、意欲的な取組みの姿勢が見られた。
- ・ダンスが高度になるほど、その技能の習得にも個人差が出てくるため、ステージ発表をどのレベルで納得させ、演技するのが指導者として難しい。



【 練習の様子 】

報告書記入者（ 蒲生マックスクラブ 事務局 ）

子どもの五感を最大限に使って豊かな心や生きる力を育む

東近江市	活動名：蒲生マックスクラブ KIDS FLOWER (キッズフラワー)	蒲生東小学校・蒲生西小学校・蒲生北小学校 学校運営協議会：■有 □無
主な活動場所：蒲生コミュニティセンター 年間開催日数：6日（開催ペース：2か月に1日） 平均参加人数：14人 ・活動内容：□学習支援 □体験活動 ■芸術・文化 □スポーツ □その他（ ）		開始年度：平成14年度： 地域学校協働活動推進員数：1人（兼務1人） 平均スタッフ数：2人

■ 活動の概要・特徴的な活動

- ・フラワーアレンジメントの基礎的な作り方やアレンジの方法を習得する。
- ・じっくりと落ち着いて取り組むことで、創造することの楽しさを味わってもらう。

■ 外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫

- ・指導者同士のネットワークを利用し指導者の確保に努めている。

■ 体系的・継続的な取組にするための工夫

- ・楽しみながら活動することを通じて、仲間づくりもできるように工夫している。
- ・作品を年度末のマックスクラブ発表会などに展示して、創作意欲を高めるようにしている。また、見物者の関心を引くようにしている。

■ 事業の成果と課題

- ・熱心に作成する子どもたちの様子から集中力や持続力を養えたと考える。
- ・フラワーアレンジメントに対するアレンジ力や創造力が身についた。
- ・材料費がかかるため、少ない予算の中で充実した活動を行うのは大変である。



【 活動の様子 】

報告書記入者（ 蒲生マックスクラブ 事務局 ）

子どもの五感を最大限に使って豊かな心や生きる力を育む

東近江市	活動名：蒲生マックスクラブ あかねジュニアバンド	蒲生東小学校・蒲生西小学校・蒲生北小学校 学校運営協議会：■有 □無
主な活動場所：蒲生コミュニティセンター 年間開催日数：46日（開催ペース：週1日） 平均参加人数：9人 ・活動内容：□学習支援 □体験活動 ■芸術・文化 □スポーツ □その他（ ）		開始年度：平成28年度： 地域学校協働活動推進員数：1人（兼務1人） 平均スタッフ数：2人

■ 活動の概要・特徴的な活動

- ・子どもの健康を考え、永久歯が生えそろう小学3年生以上を対象にしている。
- ・週1回の合同練習と楽器を家に持ち帰っての練習で、技術レベルが落ちないようにしている。

■ 外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫

- ・クラブ員の保護者など、経験のある方の協力を得ている。
- ・指導者の知り合いなどで他地域の指導している方の協力も得ている。

■ 体系的・継続的な取組にするための工夫

- ・練習が単調にならないよう簡単な曲を演奏するようにしている。
- ・発表会や地域のイベントに出場して、ステージ発表に対する意欲を高めるとともに、年間の活動についてもメリハリをつけるようにしている。
- ・練習不足を補うため、LINEグループに楽曲を載せ自宅でも練習できるようにしている。

■ 事業の成果と課題

- ・曲が演奏できるようになると、よりよいものへと子どもたちも求めるようになってきた。
- ・保護者の方で楽器心得のある方が補助としてサポートしてくれている。
- ・週一回の練習のため、上達速度がおそい。個人差または学年差があり、全員のレベルをそろえるのが難しい。
- ・クラブ員数が年度によって違うため、一定の演奏レベルを保つのが難しい。
- ・今年度は入会者が少ないので、楽器の構成が難しい。また、希望の楽器に答えられない場合がある。

■ その他

- ・コロナ禍のため、息を吐く吹奏楽はより感染防止に気を使わざるを得ない。



【 発表会の様子 】

報告書記入者（ 蒲生マックスクラブ 事務局 ）

子どもの五感を最大限に使って豊かな心や生きる力を育む

東近江市	活動名：蒲生マックスクラブ 陶芸クラブ	蒲生東小学校・蒲生西小学校・蒲生北小学校 学校運営協議会：■有 □無
主な活動場所：蒲生コミュニティセンター 年間開催日数：10日（開催ペース：月1日） 平均参加人数：13人 ・活動内容：□学習支援 □体験活動 ■芸術・文化 □スポーツ □その他（ ）		開始年度：平成14年度： 地域学校協働活動推進員数：1人（兼務1人） 平均スタッフ数：2人

■ 活動の概要・特徴的な活動

- ・好きな作品を作ったり絵付けをしたりして、思い思いの作品作りをしている。
- ・マックスクラブ発表会で地域の子もたちに体験教室を実施している。

■ 外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫

- ・職員以外の人にも声をかけ、幅広く人材を探している。
- ・クラブ員の保護者に当番制を敷き、活動日には1名ずつ補助として入ってもらっている。

■ 体系的・継続的な取組にするための工夫

- ・子どもの自主性を尊重し出来るだけ指導者は手を出さないようにしている。
- ・体験教室を実施することで、その面白さや楽しさを他の子どもたちに体験してもらいクラブ員を増やす工夫をしている。

■ 事業の成果と課題

- ・陶芸に関心のある子どもが増えており、常にクラブ員が一定数集まる。
- ・作陶に積極的に取り組み、作品作りに集中する様子が見られた。
- ・制作時間に個人差があるが、早く終わった子どもには複数の作品制作をすすめている。
- ・作陶がはやく終わった子が遊びだしたりして騒がしいことがある。



【 作陶の様子 】

報告書記入者（ 蒲生マックスクラブ 事務局 ）

子どもの五感を最大限に使って豊かな心や生きる力を育む

東近江市	活動名：蒲生マックスクラブ わくわくチャレンジ隊	蒲生東小学校・蒲生西小学校・蒲生北小学校 学校運営協議会：■有 □無
主な活動場所：蒲生コミュニティセンター 年間開催日数：8日（開催ペース：1～2か月に1日） 平均参加人数：17人 ・活動内容：□学習支援 ■体験活動 □芸術・文化 □スポーツ ■その他（ 郷土学習 ）		開始年度：平成20年度： 地域学校協働活動推進員数：1人（兼務1人） 平均スタッフ数：4人

■ 活動の概要・特徴的な活動

- ・館外活動が基本であり、子どもの五感をを使った活動をこころがけている。
- ・地域の自然にふれあいながら、新たな発見を体験する。
- ・低学年は保護者と一緒に、高学年は自分一人で活動してもらっている。

■ 外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫

- ・蒲生地区にお住まいの方で協力していただける方を、その回の内容に応じて依頼している。

■ 体系的・継続的な取組にするための工夫

- ・活動内容の中で継続して観察するものや比較して違いを認識するものなどでクラブ員の興味を引き付けるようにしている。

■ 事業の成果と課題

- ・東近江地域への理解を深めることができた。
- ・クラブ員に年齢差があり、同じ内容の活動をして遅い早いが出てくる。
- ・活動場所が野外のため、天候に左右される場合がある。
- ・指導者が特定の団体のため、事業が似たようなものになってくる。



【 活動の様子 】

報告書記入者（ 蒲生マックスクラブ 事務局 ）

子どもの五感を最大限に使って豊かな心や生きる力を育む

東近江市	活動名：蒲生マックスクラブ 蒲生野太鼓わらべ組	蒲生東小学校・蒲生西小学校・蒲生北小学校 学校運営協議会：■有 □無
	主な活動場所：蒲生コミュニティセンター 年間開催日数：37日（開催ペース：週1日） 平均参加人数：12人 ・活動内容：□学習支援 □体験活動 ■芸術・文化 □スポーツ □その他（ ）	開始年度：平成14年度： 地域学校協働活動推進員数：1人（兼務1人） 平均スタッフ数：5人

■ 活動の概要・特徴的な活動

- ・基本的な和太鼓の演奏方法を学習する。
- ・和太鼓文化に触れながら、演奏技術の向上と集団で演奏する楽しさを学ぶ。
- ・通常の練習は、初心者と経年者を時間差で分けて練習している。

■ 外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫

- ・わらべ組を卒業した高校生や大学生・社会人などに指導してもらっている。

■ 体系的・継続的な取組にするための工夫

- ・習熟度別に初心者向きと中級者向きとに分かれて練習し、子どもたちの意欲が途切れないように工夫している。
- ・先輩が後輩を指導する等の縦のつながりも大切にしながら活動している。

■ 事業の成果と課題

- ・マックスクラブを卒業しても、上部団体の「鈴温泉太鼓」に加入し、和太鼓を続けるクラブ員が多い。後輩（わらべ組）の指導にも積極的に協力してくれるので、小中学生と青少年層とのつながりができている。



【 発表会の様子 】

報告書記入者（ 蒲生マックスクラブ 事務局 ）

わくわくサイエンス～ボクもワタシも科学博士～

竜王町	活動名：竜王キッズクラブ サイエンスクラブ	竜王小学校・竜王西小学校 学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
主な活動場所：竜王町公民館 他		開始年度：平成 18 年度
年間開催日数：年間 7 日（開催ペース：2 か月に 1 回）		地域学校協働活動推進員数：2 名（兼務 2 名）
平均参加人数：15 名		平均スタッフ数：3 名
・活動内容： <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援 <input checked="" type="checkbox"/> 体験活動 <input type="checkbox"/> 芸術・文化 <input type="checkbox"/> スポーツ <input checked="" type="checkbox"/> その他（ 郷土学習 ）		

■ 活動の概要・特徴的な活動

・小学校 1 年生～6 年生までの子どもたちが地域の人々との交流を深めながら、科学工作や実験等を通じて、新しい学びや技能の向上をはかり、何事にも挑戦する勇気を育み、自らの可能性を切り拓く「生きる力」を身につける。

■ 外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫

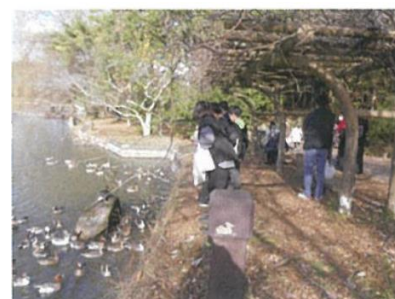
・地元の自然に関する書籍等の編纂に携わり、自然観察や自然素材を使った工作教室などを手がけている団体や元教師が講師として指導をすることで、低学年の子どもでも分かり易く学ぶことができる。

■ 体系的・継続的な取組にするための工夫

・参加者は低学年が多いため、原則保護者同伴で開催をしているので、兄弟等小さい子どもがいる家庭は、事前に連絡をいただき家族参加も可能としている。
・低学年参加者で保護者同伴できない場合は当日参加する保護者に見守りを依頼している。

■ 事業の成果と課題

・天体観望（夏・冬）、自然観察会、野鳥観察会、科学工作など、サイエンスに関わるいろいろな活動内容を楽しく学ぶ機会を提供することにより、理科離れが叫ばれる昨今ではあるが、サイエンスをはじめ何事にも興味を持ち、挑戦していく力を養うことができた。
・家族参加も可能なため、家族間の交流も深まり、情報交換や共有の場にもなった。
・活動開始から 10 年以上が経過しているが、1 年生から参加できるクラブのため人気が高い。一方、低学年は保護者同伴とはいえ、対象者が 1 年生から 6 年生までと幅広く、みんなの歩調を合わせた活動の進め方が難しい。



【 野鳥観察 】

報告書記入者（ 公民館 公民館係 ）

一筆一筆に心を込めて！

竜王町	活動名：竜王キッズクラブ 書道クラブ	竜王小学校・竜王西小学校 学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
主な活動場所：竜王町公民館		開始年度：平成 23 年度
年間開催日数：年間 22 日（開催ペース：月 2 回）		地域学校協働活動推進員数：2 名（兼務 2 名）
平均参加人数：13 名		平均スタッフ数：2 名
・活動内容： <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援 <input type="checkbox"/> 体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 芸術・文化 <input type="checkbox"/> スポーツ <input type="checkbox"/> その他（ ）		

■ 活動の概要・特徴的な活動

・書道を基礎から学び、硬筆と毛筆の技能向上はもちろんのこと、両小学校の異年齢の子どもたち同士が地域の人々との交流を深め、何事にも挑戦する勇気を育み、自らの可能性を切り拓く「生きる力」を身につける。

■ 外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫

・県の展覧会等でも受賞経験のある有段者（元町職員）が講師として指導をすることで職員との連携や情報共有が取りやすい。

■ 体系的・継続的な取組にするための工夫

・小学校 2 年生から 6 年生までの小学生を対象として、同じ教材をもとに継続した取り組みができていますので、6 年生まで継続してくれる子どもが多い。



【 毛筆練習 】

■ 事業の成果と課題

・技能の向上をめざして、練習（復習）を重ねる継続した取り組みにより、進歩が形となって現れるため、何事にも挑戦し、あきらめない力を養うことができた。
・展覧会への出展や町公民館等で定期的に展示することにより、自信や達成感となり、次へと飛躍する原動力となった。
・月 2 回のペースで開催をしているため、学校行事や他の習い事などと重なり、日程変更をする場合の調整に苦慮している。

報告書記入者（ 公民館 公民館係 ）

仲間とともに限界にチャレンジ ～自分の可能性を切り拓く～

竜王町	活動名：竜王キッズクラブ チャレンジクラブ	竜王小学校・竜王西小学校 学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
主な活動場所：竜王町公民館 他		開始年度：平成 22 年度
年間開催日数：8日（開催ペース：2か月に1回）		地域学校協働活動推進員数：2名（兼務2名）
平均参加人数：18名		平均スタッフ数：2名
・活動内容： <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援 <input checked="" type="checkbox"/> 体験活動 <input type="checkbox"/> 芸術・文化 <input checked="" type="checkbox"/> スポーツ <input checked="" type="checkbox"/> その他（ 郷土学習 ）		

■ 活動の概要・特徴的な活動

・県内にある屋内外の体験施設等を訪問し、チャレンジをしながら、両小学校の異年齢の子どもたち同士が地域の人々や仲間と交流を深め、協力しあう大切さや何事にも挑戦する勇気を育み、自らの可能性を切り拓く「生きる力」を身につける。

■ 外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫

・町生活安全課や消防署、赤十字奉仕団等のボランティア団体の協力を得ながら、活動内容を組むことで、普段の学校生活では体験できないことを体感し知識を身に付けられる。

■ 体系的・継続的な取組にするための工夫

・メニューごとにその分野に長けた保護者やボランティアを指導員として依頼している。

■ 事業の成果と課題

- ・野外活動が中心となるため安全管理を十分に行う必要があり、職員だけでは十分でないため、保護者等の協力を得なければ活動が難しいことがある。野外活動のボランティア確保が必要である。
- ・カヌー体験、防災デイキャンプ、スキー教室等では、受講料以外の諸経費を毎回負担金として徴収するため保護者の負担が大きいが、普段体験できない貴重な経験ができるということで保護者の理解は得られている。
- ・活動内容のマンネリ化や小学生が体験できる屋外アクティビティには、子どもの安全確保のため、大人の引率が必要など様々な条件が重なり内容の決定に苦慮している。
- ・野外活動が中心となるため、天候に左右され実施できないことが多い。



【 アドベンチャー体験 】

報告書記入者（ 公民館 公民館係 ）

吹いて奏でてみんなで楽しむ ～子ども吹奏楽団～

竜王町	活動名：竜王キッズクラブ 竜王ユースプラス	竜王小学校・竜王西小学校 学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
主な活動場所：竜王町公民館 他		開始年度：昭和 62 年度
年間開催日数：年間 50 日（開催ペース：毎週土曜日）		地域学校協働活動推進員数：2名（兼務 2名）
平均参加人数：15名		平均スタッフ数：3名
・活動内容： <input type="checkbox"/> 学習支援 <input type="checkbox"/> 体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 芸術・文化 <input type="checkbox"/> スポーツ <input type="checkbox"/> その他（ ）		

■ 活動の概要・特徴的な活動

・音楽の基礎知識を学びながら演奏技能の向上と両小学校の異年齢の子どもたち同士が発表会等により地域の人々との交流を深め、何事にも挑戦する勇気を育み、自らの可能性を切り拓く「生きる力」を身につける。

■ 外部人材や地域の豊かな資源を活用するための工夫

・地元企業のサークルで活躍する方や元教師の方が講師として指導を行うことで、わかり易く学ぶことができる。

■ 体系的・継続的な取組にするための工夫

- ・3名の講師がおり受講生ひとりひとりの技能にあわせた練習をすることができる。
- ・希望楽器の調査を行い、講師が体格や肺活量をみて子どもにあった楽器を選べる。
- ・卒業生のほとんどが、中学校で吹奏楽部に入部するため、継続した活動ができる。

■ 事業の成果と課題

- ・新しく入部したクラブ生に、経験者が補助をする姿も見られ、責任感や協調性を養うことができた。
- ・開催時間帯が夜間であるため、保護者の送迎等による理解とあわせて防犯対策を十分に講じる必要がある。



【ジュニア・ミュージック・フェスティバル出演】

報告書記入者（ 公民館 公民館係 ）

Ⅶ 地域における家庭教育支援基盤構築事業の実践事例

「地域における家庭教育支援基盤構築事業」市町別実施状況一覧表						
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	家庭教育支援チーム数	家庭教育支援員数
大津市					※(1)	
彦根市	<ul style="list-style-type: none"> ●家庭教育支援に関する取組 ●支援チーム ●訪問型 	<ul style="list-style-type: none"> ●家庭教育支援に関する取組 ●支援チーム ●訪問型 	<ul style="list-style-type: none"> ●家庭教育支援に関する取組 ●支援チーム ●訪問型 	<ul style="list-style-type: none"> ●家庭教育支援に関する取組 ●支援チーム(5) 訪問型(5)◎ ・佐和山小学校◎ ・旭森小学校◎ ・平田小学校◎ ・金城小学校◎ ・城南小学校◎ 	5	11
長浜市					※(1)	
近江八幡市	<ul style="list-style-type: none"> ●家庭教育支援に関する取組 ●支援チーム ●訪問型 	<ul style="list-style-type: none"> ●家庭教育支援に関する取組 ●支援チーム ●訪問型 	<ul style="list-style-type: none"> ●家庭教育支援に関する取組 ●支援チーム ●訪問型 	<ul style="list-style-type: none"> ●家庭教育支援に関する取組 ●支援チーム(12) 訪問型(4)◎ ・八幡小学校 ・沖島小学校 ・金田小学校◎ ・桐原東小学校◎ ・北里小学校◎ ・安土小学校 ・島小学校 ・岡山小学校 ・桐原小学校 ・馬淵小学校 ・武佐小学校◎ ・老蘇小学校 	12	12
草津市	<ul style="list-style-type: none"> ●家庭教育支援に関する取組 	<ul style="list-style-type: none"> ●家庭教育支援に関する取組 	<ul style="list-style-type: none"> ●家庭教育支援に関する取組 	<ul style="list-style-type: none"> ●家庭教育支援に関する取組 	0 ※(1)	0
守山市						
栗東市	<ul style="list-style-type: none"> ●家庭教育支援に関する取組 	<ul style="list-style-type: none"> ●家庭教育支援に関する取組 	<ul style="list-style-type: none"> ●家庭教育支援に関する取組 	<ul style="list-style-type: none"> ●家庭教育支援に関する取組 	0	1
甲賀市	<ul style="list-style-type: none"> ●家庭教育支援に関する取組 ●支援チーム 	<ul style="list-style-type: none"> ●家庭教育支援に関する取組 ●支援チーム 	<ul style="list-style-type: none"> ●家庭教育支援に関する取組 ●支援チーム 	<ul style="list-style-type: none"> ●家庭教育支援に関する取組 ●支援チーム(1) ・甲賀市子育て政策課 	1	6
野洲市				<ul style="list-style-type: none"> ●家庭教育支援に関する取組 ●支援チーム(4) 訪問型(4)◎ ・中主小学校◎ ・野洲小学校◎ ・篠原小学校◎ ・中主中学校◎ 	4	5
湖南市	<ul style="list-style-type: none"> ●家庭教育支援に関する取組 ●支援チーム ●訪問型 	<ul style="list-style-type: none"> ●家庭教育支援に関する取組 ●支援チーム ●訪問型 	<ul style="list-style-type: none"> ●家庭教育支援に関する取組 ●支援チーム ●訪問型 	<ul style="list-style-type: none"> ●家庭教育支援に関する取組 ●支援チーム(7) 訪問型(4)◎ ・石部小学校 ・三雲東小学校◎ ・菩提寺北小学校 ・甲西中学校◎ ・三雲小学校◎ ・菩提寺小学校◎ ・甲西北中学校 	7	10
高島市	<ul style="list-style-type: none"> ●家庭教育支援に関する取組 	<ul style="list-style-type: none"> ●家庭教育支援に関する取組 	<ul style="list-style-type: none"> ●家庭教育支援に関する取組 	<ul style="list-style-type: none"> ●家庭教育支援に関する取組 	0	0
東近江市			<ul style="list-style-type: none"> ●家庭教育支援に関する取組 ●支援チーム ●訪問型 	<ul style="list-style-type: none"> ●家庭教育支援に関する取組 ●支援チーム(7) 訪問型(4)◎ ・箕作小学校 ・八日市北小学校 ・五箇荘小学校◎ ・玉園中学校◎ ・八日市南小学校 ・八日市西小学校◎ ・能登川東小学校◎ 	7	7
米原市						
日野町	<ul style="list-style-type: none"> ●家庭教育支援に関する取組 	<ul style="list-style-type: none"> ●家庭教育支援に関する取組 ●支援チーム ●訪問型 	<ul style="list-style-type: none"> ●家庭教育支援に関する取組 ●支援チーム ●訪問型 	<ul style="list-style-type: none"> ●家庭教育支援に関する取組 ●支援チーム(1) 訪問型(1)◎ ・日野町教育委員会◎ 	1	3
竜王町	<ul style="list-style-type: none"> ●家庭教育支援に関する取組 	<ul style="list-style-type: none"> ●家庭教育支援に関する取組 	<ul style="list-style-type: none"> ●家庭教育支援に関する取組 ●支援チーム ●訪問型 	<ul style="list-style-type: none"> ●家庭教育支援に関する取組 ●支援チーム(1) 訪問型(1)◎ ・竜王町教育委員会◎ 	1	2
愛荘町						
豊郷町						
甲良町						
多賀町						
事業実施市町数	9市町	9市町	10市町	11市町		

○令和2年度モデル市：彦根市・湖南市

○令和3年度モデル市町：近江八幡市・日野町

○令和4年度モデル市町：東近江市・竜王町

●訪問型の家庭教育支援活動については、市・町として施策に明確に位置付け、取り組みを進めている箇所

※本事業以外で活動している家庭教育支援チーム数および支援員数

彦根市における家庭教育支援の取組

■家庭教育を取り巻く現状

核家族化、共働き家庭の増加、地域のつながりの希薄化など、家庭を取り巻く環境が変わりつつあり、子育ての悩みや不安を抱えた家庭の増加など、家庭教育を行う上での困難な現状がある。また、様々な課題を抱えつつ、地域から孤立し、自ら相談の場にアクセスすることが困難な家庭など、支援が届きにくい家庭への対応や、児童虐待など子どもをめぐる状況が懸念され、地域全体での家庭教育支援の必要性が高まっている。

■家庭教育支援で目指す姿（課題解決のために・・・）

子どもに困り感や課題（遅刻、行き渋り、不登校傾向、情緒不安定等）がある小学校児童の家庭で、悩みや不安を抱えたまま自ら相談できない保護者や地域で孤立しやすい家庭の保護者を対象に、訪問型の家庭教育支援を行い、見守りや相談活動を通じて保護者の悩みや不安等のストレスを軽減するとともに、地域におけるつながりをつくる支援、家庭教育や子育てについての助言、子どもへの学習機会の提供等を行うことで、親子に関する問題の解決を目指す。

■本年度の活動

- (1) 家庭教育支援チーム会議の開催（各小学校での開催）
当該校の管理職、関係教員、SSW、家庭教育支援員、市事業担当者
- (2) 家庭教育支援事業運営委員会の開催（年2回）
市教育委員会事務局、子育て支援部局、福祉部局、実践校、県SSW・SVによる運営委員会の開催
- (3) 家庭教育支援員による訪問型支援の実施
実践校の家庭教育支援地域協議会に家庭教育支援員を配置し、訪問型の家庭教育支援を実施するとともに、新規中学校区内の1小学校にも事業を拡充。
- (4) 家庭教育支援員連絡協議会の開催
各校の家庭教育支援の取組の状況を交流するとともに、つながりが難しい家庭に対して、県のSSW・SVから、助言をもらい家庭教育支援員のスキルアップにつなげた。



【 チーム会議の様子 】



【 連絡協議会での学び 】

■訪問型家庭教育支援の実践内容

市内5小学校において、それぞれ家庭教育支援チームを組織するとともに、各小学校において訪問型による家庭教育支援を実施した。

■本年度の成果

家庭教育支援員が、保護者の子育てを労い、悩みを聞くなどの関係性を築く中で、子ども理解が進み、親子関係が改善し不登校傾向が緩和した事例や、登校を渋っている児童の家庭に対して、家庭教育支援員が訪問することで一緒に登校できるようになった事例等があり成果を上げている。

■今後の課題

行政主導ではなく、地域が主体性を発揮した中で、地域学校協働活動一つとして、地域の中で、家庭教育支援活動が位置づいていくこと。また、家庭教育支援員を安定的に確保できる仕組みづくりが必要である。

報告書記入者（生涯学習課 担当）

保護者に寄り添う家庭教育支援推進を目指して

彦根市	本事業開始年度 令和5年度
活動内容	
<input type="checkbox"/> 地域人材の養成 <input type="checkbox"/> 家庭教育支援体制の構築 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育を支援する取組 <input checked="" type="checkbox"/> 訪問型家庭教育支援活動の実施	
年間活動日数 (のべ)	(60 日)

家庭教育支援員や支援チームに関すること	
A : 家庭教育支援チーム数	(1) チーム
B : 家庭教育支援員数	(1) 人
C : 家庭教育支援チームや家庭教育支援員の配置場所数	(1) か所
D : 前項 (C) の配置場所名	(城南小学校)

■ 活動の具体的内容

○訪問型家庭教育支援の実践等

今年度初めての事業となるため、ある程度支援する家庭を絞り、まずは児童・保護者と支援員とのつながりをもつことを重視した活動を進めてきている。また、家庭訪問（児童の登校の迎え）を中心に事業を展開しているが、それ以外に学校生活の中の生活支援、学習支援を行うとともに、様々な学級を巡回し、支援員の存在を児童に広く周知するようにしている。

○家庭教育支援チームの設置、実践等

地域の主任児童委員（兼学校運営協議会委員）の方に事業内容等を説明し、支援員としてご協力いただけないか依頼をした。日常生活に無理がない範囲で活動することを確認し、今年度の取組がスタートした。

○連絡会議・ケース会議の設置、運営等

年度当初に連絡会議を開催し、家庭教育支援員、教育相談担当、虐待対応担当、子育て支援課、母子支援センター、校長、教頭が参加して、本事業の趣旨説明や支援する家庭の絞り込み、各関係機関等からの情報共有を行った。日常的には、教育相談担当が窓口となり、関係機関との連携を密に取るようにしている。

○保護者に対する情報提供等

支援を要する保護者・児童については、年度当初の連絡協議会以外にも、適宜家庭や児童の情報共有を図っている。また、関係機関との連携も密に取り、それぞれの機関がもっている情報を集約しその状況に合わせた支援の在り方を検討するようにしている。

■ 実施に当たっての工夫

○今年度は初めての事業でもあり、支援員と児童、保護者のつながりを少しでも築くように活動を進めている。そのため、訪問時は教育相談担当教員と必ず行くようにし、相手側の保護者が安心して話ができるようにしてきた。

○支援対象の児童、家庭を広げず、ある程度絞った形で活動を進めている。

■ 事業の成果

○家庭教育支援員との情報共有を密に取ることにより、その家庭、児童にあった支援の在り方をともに考えることができた。

○家庭訪問だけでなく、教室での見守りや生活支援、学習支援を行うことにより、普段なかなか登校できていない児童に対して、個別に支援することができ、児童にとっても安心感をもつことができた。

■ 事業実施上の課題

○支援員が定期的に家庭訪問をしてくださっているが、保護者の生活習慣にも課題が見られ、面会できないことのほうが多い状態である。

○教職員も含め、学校全体で支援員の存在や役割、本事業の認識を広めていく必要がある。しかし、少ない支援員の人数のため、ニーズが高まった場合への対応への危惧もある。

○地域同士のつながりが希薄化している地域にとっては、いかに支援員が家庭にまで入り込み、どのような支援ができるのか、それを行政、学校、支援員が連携を密に取る必要がある。



【 支援員による見守り 】



【 登校支援の様子 】

報告書記入者 (教 頭)

家庭と学校をつなぐ～すべては子どもの笑顔のために～

<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;">彦根市</td> <td style="width: 70%;">本事業開始年度 令和4年度</td> </tr> <tr> <td colspan="2">活動内容</td> </tr> <tr> <td colspan="2"> <input type="checkbox"/> 地域人材の養成 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援体制の構築 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育を支援する取組 <input checked="" type="checkbox"/> 訪問型家庭教育支援活動の実施 </td> </tr> <tr> <td>年間活動日数 (のべ)</td> <td style="text-align: center;">(40 日)</td> </tr> </table>	彦根市	本事業開始年度 令和4年度	活動内容		<input type="checkbox"/> 地域人材の養成 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援体制の構築 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育を支援する取組 <input checked="" type="checkbox"/> 訪問型家庭教育支援活動の実施		年間活動日数 (のべ)	(40 日)	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">家庭教育支援員や支援チームに関すること</td> </tr> <tr> <td>A: 家庭教育支援チーム数</td> <td style="text-align: center;">(1) チーム</td> </tr> <tr> <td>B: 家庭教育支援員数</td> <td style="text-align: center;">(2) 人</td> </tr> <tr> <td>C: 家庭教育支援チームや家庭教育支援員の配置場所数</td> <td style="text-align: center;">(2) か所</td> </tr> <tr> <td>D: 前項(C)の配置場所名</td> <td style="text-align: center;">金城小学校(サテライト校) 平田小学校(派遣校)</td> </tr> </table>	家庭教育支援員や支援チームに関すること		A: 家庭教育支援チーム数	(1) チーム	B: 家庭教育支援員数	(2) 人	C: 家庭教育支援チームや家庭教育支援員の配置場所数	(2) か所	D: 前項(C)の配置場所名	金城小学校(サテライト校) 平田小学校(派遣校)
彦根市	本事業開始年度 令和4年度																		
活動内容																			
<input type="checkbox"/> 地域人材の養成 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援体制の構築 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育を支援する取組 <input checked="" type="checkbox"/> 訪問型家庭教育支援活動の実施																			
年間活動日数 (のべ)	(40 日)																		
家庭教育支援員や支援チームに関すること																			
A: 家庭教育支援チーム数	(1) チーム																		
B: 家庭教育支援員数	(2) 人																		
C: 家庭教育支援チームや家庭教育支援員の配置場所数	(2) か所																		
D: 前項(C)の配置場所名	金城小学校(サテライト校) 平田小学校(派遣校)																		

■ 活動の具体的内容

○訪問型家庭教育支援の実践等（保護者からの相談への対応、保護者に対する情報提供、専門機関への橋渡し等）
 保護者および児童と支援員との顔合わせを行った上で、曜日を決めて週一回程度訪問し、朝の送り出しの支援を行った。初回は、支援員と学校教職員の複数で訪問し、次回からは支援員のみで訪問していただくようにした。

○地域人材の養成等

地域の民生児童委員、教育関係者、子育て経験者等、児童の支援や家庭の悩みに寄り添うことのできる人材の発掘を行う。

○家庭教育支援チームの設置、実践等

地域の民生児童委員の方に支援員としての依頼をし、事業内容について説明した。

家庭教育支援チーム（管理職、主幹教諭、家庭教育支援員、生涯学習課、必要に応じて：生徒指導担当、教育相談担当、特別支援コーディネーター、SSW）

○連絡会議・ケース会議の設置、運営等

家庭教育支援員と学校管理職で、取組状況や成果と課題についてその都度話し合った。3学期には、今後の活動内容についても話し合い、次年度入学予定の保育園や幼稚園、こども園に通う気になる家庭へも必要に応じてアプローチしていく。

○保護者に対する情報提供等

支援が必要と思われる家庭に対しては、事業と支援者（家庭教育支援員）についての話をし、理解を得た。また、実際に担任や管理職と支援者宅を訪問して、家庭教育支援員との顔合わせを行った。

■ 実施に当たっての工夫

○家庭教育支援員ごとに訪問していただく家庭を決め、継続した支援を行うことで、保護者との信頼関係を築くことができた。

○支援の方向性を相談するために、学校での様子や家庭での様子をお互いに共有し合うことを意識した。

■ 事業の成果

○児童や保護者との関係を築くことで、児童が安心して登校するためのネットワークが広がった。

○定期的に保護者や児童と関わることで、保護者と家庭教育支援員とが人間関係を築くことができた。その結果、保護者自身が困り感や相談ごとを学校に知らせてくださるようにもなった。家庭教育支援員が家庭と学校をつなぐパイプ役になってくださった。

■ 事業実施上の課題

○今後、支援が必要となる家庭が増えていくことが予想されるので、家庭教育支援員を継続して確保することができるような体制をどのようにしていくのが課題である。

○福祉関係機関との連携を深めていくことが必要であると思われる。

報告書記入者（ 地域連携担当教職員 ）

保護者に「子育ての悩みを話せる人がいる」という安らぎを

彦根市	本事業開始年度	令和2年度	家庭教育支援員や支援チームに関すること
活動内容			A：家庭教育支援チーム数 (1) チーム
<input checked="" type="checkbox"/> 地域人材の養成 <input type="checkbox"/> 家庭教育支援体制の構築 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育を支援する取組 <input checked="" type="checkbox"/> 訪問型家庭教育支援活動の実施			B：家庭教育支援員数 (2) 人
年間活動日数 (のべ)			C：家庭教育支援チームや家庭教育支援員の配置場所数 (1) か所
			D：前項 (C) の配置場所名 (佐和山小学校)
(92 日)			

■ 活動の具体的内容

○家庭教育支援チームの設置、実践等

昨年度に引き続き、不登校児童のいる家庭を対象として、2名で家庭教育支援チームを設置した。

○連絡会議・ケース会議の設置、運営等

SSWをスーパーアドバイザーに迎え、本校校長・地域連携教員・本事業担当教員・彦根市生涯学習課員・家庭教育支援員2名で、学期に1回本会運営会議を開催してきた。ここでは、対象児童の決定と共通理解、支援の方向等を協議した。また対象児童の保護者・担任・地域連携教員・本事業担当教員・家庭教育支援員2名で、必要に応じて実践会議を開いている。ここでは、学校の考えや保護者の悩み等を共有し、具体的な支援について協議をした。

○訪問型家庭教育支援の実践等

保護者の要望に応じて、家庭訪問や電話での連絡を柔軟に実施した。ラインやメールを活用して、より手軽に連絡が取れるようにした。

○地域人材の養成等

また本年度は地域学校協働本部の事業を生かし、地域コーディネーター1名にも家庭教育支援員の活動に参加依頼を行った。

■ 特徴的な活動内容

○親子で参加する学習

不登校・場面緘黙であるA児の父親は熱心で、仕事が休みの日は必ず同伴登校をしている。父親が料理に携わる仕事をしてられる情報が支援員から提供された。学校からは、次年度より特別支援学級に入級予定である情報を提供した。実践会議を開き、特別支援学級主催の「おでんパーティ」への参加を促さないかと考えた。父親の料理の腕を借りることで、父子同伴での参加を考えた。父親が快く承諾をされたため実現した。当日、はじめ、A児は父親にくっついていたが、次第に同学年の児童の誘いでみんなの輪に入り、大根やジャガイモの皮むき等を積極的に行った。父親が快く承諾したのは、支援員との長いやり取りでの信頼があったからである。別室でごく少数の大人とだけ接していたA児にとって、同年代の複数の子どもたちと接したことは、次年度の入級に向けて自信になったと考える。



【 おでん調理の様子 】

○長期展望を意識した、地域人材の育成

現在は、教職退職者2名が支援員をしている。「タイムリーな支援や継続的な支援が難しい」「プライベートなことにとどこまで関われるか」等の課題もある。そのため、地域家庭協働本部や自治会との連携を視野に入れ、地域全体での子育て・親育てを長期展望に据えた。そこで今年は佐和山小学校の地域コーディネーターに、家庭教育支援と同様の活動を依頼した。比較的軽度な不登校傾向のある児童とその保護者を担当していただいている。また、「家庭教育支援実践交流会」への参加を民生委員や地域学校協働本部へも紹介した。本事業を地域に広める一歩である。

■ 実施に当たっての工夫

○保護者とのやり取りについては、必ず事前・事後の学校との連携を怠らないことを約束している。保護者と学校の間にいるときは、保護者側についていただくように決めている。

○「無理せず長続きすることが大切」を合言葉に、支援員の事情を優先するようにしている。

■ 事業の成果

○保護者は支援員にかなりの信頼を寄せている。そのため、児童や保護者の小さな変化も情報として学校が得られている。

○対象児童の多くが明るくなった。

■ 事業実施上の課題

○家庭訪問時、対象児童の兄弟姉妹もいるため、なかなか対象児童との話や保護者との込み入った話が難しい。家庭事情として家庭訪問が望ましいケースだが、今後は2人での家庭訪問等、工夫を要する。

報告書記入者 (家庭教育支援員)

家庭を支え、学校とつなぐアウトリーチ型家庭教育支援事業

彦根市	本事業実施年度 令和3年度
活動内容	
<ul style="list-style-type: none"> ■ 地域人材の養成 ■ 家庭教育支援体制の構築 ■ 家庭教育を支援する取組 ■ 訪問型家庭教育支援活動の実施 	
年間活動日数（のべ）	（ 100日 ）

家庭教育支援員や支援チームに関すること	
A：家庭教育支援チーム数	（ 1 ）チーム
B：家庭教育支援員数	（ 5 ）人
C：家庭教育支援チームや家庭教育支援員の配置場所数	（ 1 ）か所
D：前項（C）の配置場所名	（ 旭森小学校 ）

■ 活動の具体的内容

○地域人材の養成等

地域の教育関係者、子育て経験者等、児童の支援や家庭の悩みに寄り添うことのできる人材の発掘を行う。

○家庭教育支援チームの設置・活動等

スクールソーシャルワーカー、家庭教育支援員、教育相談担当、生徒指導担当、管理職

○連絡会議・ケース会議の設置、運営等

今年度は5人のチームとなり、全員が集まったの連絡会議が難しいため、適時、スクールソーシャルワーカー、家庭教育支援員、教育相談担当教員、生徒指導担当教員、校長、教頭が参加して本事業の趣旨の確認や支援する家庭の絞り込みを行った。定期的にチーム会議を開催し、進捗状況や今後の計画等について家庭教育支援員相互や学校との情報交流を行った。日常的にも教育相談担当が窓口となり、児童や家庭の様子を情報共有するようにした。

○訪問型家庭教育支援の実施等

不登校児童の家庭への訪問支援、家庭支援の必要な児童の登下校の守りと保護者への声かけを週1回程度行った。保護者の不安や悩みについて話を聞いたり、児童と一緒に登下校したりした。初めは緊張気味だった児童や保護者も、家庭教育支援員といろいろな話をしながら一緒に歩いて登校することで打ち解け、安心につながっている。



【 連絡会議の様子 】

■ 実施に当たっての工夫（コロナ禍における工夫・対応等）

○家庭教育支援員ごとに訪問する家庭を決め、継続した支援を行うことで、保護者との信頼関係を築くことができた。

○連絡会議にスクールソーシャルワーカーにも同席していただき、アドバイスをいただくことで、より適切なアセスメントや支援につなげるようにした。

○学校の教育相談担当を窓口とすることで、学校での様子や家庭での様子をお互いに共有し、次の支援の方向性についても相談することができた。

■ 事業の成果

○定期的な家庭訪問が刺激となり、保護者が自ら子どもを送り出そうとする姿勢が大幅に増えた。

○家から学校まで家庭教育支援員といろいろな話をしながら登校することで、児童の不安が軽減し、登校機会が増えた。登校後もしばらく傍らに付き添うことが児童の安心につながった。

○定期的に保護者と関わることで、保護者と家庭教育支援員が人間関係を築くことができ、訪問した際に子育ての困り感なども話してくださるようになった。

○家庭教育支援員に学校内でも関わっていただくことで、児童との信頼関係を築くことができ、安心して登校することにつながった。



【 家庭教育支援員による児童支援 】

■ 事業実施上の課題

○児童の状況は日々変わることがあるので、定期的な訪問形式では突発的な事象への対応が難しい時もあった。

○今後は、支援対象の家庭を増やすことも視野に入れていきたい。

報告書記入者（ 教頭 ）

家庭と学校をつなぐ～すべては子どもの笑顔のために～

彦根市	本事業開始年度 令和4年度	家庭教育支援員や支援チームに関すること	
活動内容		A：家庭教育支援チーム数	(1) チーム
<input type="checkbox"/> 地域人材の養成 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援体制の構築 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育を支援する取組 <input checked="" type="checkbox"/> 訪問型家庭教育支援活動の実施		B：家庭教育支援員数	(1) 人
		C：家庭教育支援チームや家庭教育支援員の配置場所	(1) か所
		D：前項(C)の配置場所名	金城小学校(ベース校) 平田小学校(派遣校)
年間活動日数(のべ)	(160日)		

■ 活動の具体的内容

○訪問型家庭教育支援の実践等

支援が必要な家庭を訪問し、児童に登校準備の声かけ、母親にも朝の送り出しの支援をしてもらっている。訪問することで家庭の状況がよく把握できる。どんな支援が必要か考え、子育て支援課や学校に伝えてくださることで、活動に見通しがもてている。

○家庭教育支援チームの設置・実践等

地域の民生児童委員の方に、支援員として依頼をしている。民生委員としてこれまでずっと気にかけてくださっている家庭であったことから、子どものためなら、と一生懸命支援してくださっている。

○連絡会議・ケース会議の設置、運営等

定期的にケース会議を行い、子育て支援課、家庭教育支援員、学校で、支援家庭の状況、児童の学校での様子など、情報共有を行い、成果と課題について話し合っている。

○学習講座・行事の実施等

公民館で「朝ごはんプロジェクト」を開催している。地域の方と保護者が気軽に話せる機会になったり、児童に登校するきっかけになったりしている。

■ 実施に当たっての工夫

○学習発表会や音楽学習発表会など、学校行事を知らせ、参観していただき、支援児童の学校での成長の様子を見てもらえるようにした。何より児童の成長を見ることが、支援員の方にとっては大きな励みになり、モチベーションにつながるようで、大変喜んでくれた。

○訪問する家庭を決め、継続した支援を行うことで、保護者との信頼関係を築くことができた。

○定期的に支援児童の担任と話す機会をもち、児童の様子を共有することで、効果的な支援ができた。支援員と担任が同じ方向で支援していくことで相乗効果が得られることがあった。

■ 事業の成果

○毎日のように支援員と保護者と顔を合わせることで、保護者との信頼関係が強まり、母親のよき相談相手になっている。保護者や児童の心の安定につながっている。

○昨年度(1年児童)は、母親が児童を自転車に乗せて学校まで送ってきていたが、支援員の毎日の登校支援により、自力で歩いて登校できるようになった。

○学校が行っていたこと(朝の訪宅など)の一端を担ってもらえ、大変助かった。また、安心して依頼できる方なので、今後もお願いしていきたい。

■ 事業実施上の課題

○現在は支援員が1名で、支援家庭にこれまで長らくかかわってくださった方である。その方に任せている部分が大きく、今後は他に支援員として新しい人材を見つけること、そして、支援対象の家庭を増やすことも視野に入れていきたい。

報告書記入者 (教頭)

近江八幡市における家庭教育支援の取組

■家庭教育を取り巻く現状

経済的困窮、父母の就労機会の増加、核家族化、地域コミュニティの希薄さなど家庭教育をとりまく環境は大きく変化し、子育てのしにくさ、家庭での親子で過ごす時間の減少に拍車をかけている。また、行き渋りや不登校など子育てに関して様々なしんどさを抱え込んでいる家庭が増えている。

このような状況を踏まえ、家庭教育支援のねらいとして家庭の孤立化防止、子育ての悩みや不安の抱え込みの緩和、親同士のつながりを確保し、保護者の悩みや不安に寄り添うことで、一人で抱え込まず、保護者が子育てに対して前向きになれることをねらいとして、本事業を実施している。

しかし、行動力のある保護者は子育てサロンにも積極的に参加して子育てに関する情報を提供することができるが、困り感や不安を抱え、本当に子育てにおける支援を必要としている保護者に必要な情報が届いていない現状があるため、自ら子育てに必要な情報を入手しにくい保護者へのアプローチについて検討していく必要がある。また、福祉部局や子育ての関係機関との連携が不可欠となる深刻な場合もある。本市における家庭教育支援をとおして保護者の悩みや不安に寄り添い、一人で抱え込まず、子育てに対して前向きになれることをねらいとしている。

■家庭教育支援で目指す姿（課題解決のために・・・）

小学校、地域での子どもや保護者の様子を共有した家庭支援チームが、気軽に相談や話を聞く場をつくり、保護者支援の一助となるようにする。子育てサロンや学校行事等をとおして「顔見知りになる」「ちょっと話せる」といった『つながり』をつくり、保護者の情緒的な安定を図り、少しでも子育ての不安解消につなげる。



【市子育てサロンの様子】

■本年度の活動

- (1) 市内12小学校における各家庭支援チームによる活動の展開
 - ・家庭教育支援チームでの困り感を抱える家庭に関するケース会議
 - ・保護者支援活動（子育てサロン・登校支援・地域での居場所づくり）
- (2) 市子育てサロンの実施と家庭教育支援員の交流
 - ・市内就学前・小学校の保護者対象の子育てサロンの実施（年5回）
 - ・家庭教育支援員の実践交流会の開催（各学期に1回）
- (3) 家庭教育推進協議会における協議（7月と2月）
 - ・「家庭教育支援員の活動と連携について」
 - ・「困り感を抱える保護者へのつながりのある支援体制について」
 - ・「次年度に向けた家庭教育支援について」



【家庭教育支援員連絡会の様子】

■訪問型家庭教育支援の実践内容

- ・地域の施設を使った学習会や親子で楽しめるイベント企画など、子ども・保護者の居場所づくり
- ・不登校や行き渋りで困り感を抱える保護者宅への家庭訪問、児童の登校支援
- ・経済的困窮の保護者の子育て支援、児童の登校支援・促進

■本年度の成果

アドバイザーを活用した家庭教育支援員による学校での子育てサロンを実施することができた。また、家庭教育支援員連絡会にて、各校での取組の情報共有やスキルアップにつながる事例検討会を実施することができた。

■今後の課題

今後、家庭教育支援について学校管理職や教職員の理解が必要である。本事業で目指す支援について広めるとともに、支援を必要とする保護者と学校のニーズに応えられるよう、家庭教育支援員へのエンパワーメントを行いつつ、事務局と学校とが家庭教育支援において連携を密にする必要がある。

報告書記入者（生涯学習課担当者）

親同士のコミュニティやつながりから、子育てへの安心感を促す家庭教育支援を目指して

近江八幡市	本事業開始年度	平成 21 年度
活動内容		
<ul style="list-style-type: none"> ■ 地域人材の養成 ■ 家庭教育支援体制の構築 ■ 家庭教育を支援する取組 ■ 訪問型家庭教育支援活動の実施 		
年間活動日数 (のべ)	(809 日)	

家庭教育支援員や支援チームに関すること	
A : 家庭教育支援チーム数	(12) チーム
B : 家庭教育支援員数	(13) 人
C : 家庭教育支援チームや家庭教育支援員の配置場所数	(12) か所
D : 前項 (C) の配置場所名	(八幡小学校、島小学校、沖島小学校、金田小学校、岡山小学校、桐原小学校、桐原東小学校、北里小学校、馬淵小学校、武佐小学校、安土小学校、老蘇小学校)

■ 活動の具体的内容

○訪問型家庭教育支援の実践等

(保護者からの相談への対応、保護者に対する情報提供、専門機関への橋渡し等)
 ・登校時の児童の様子を学校・保護者と共有、子ども食堂等における児童の様子を校内ケース会議で学童保育指導員や主任児童委員も併せて情報共有している。また個別で気になる家庭に訪問し、保護者への声かけ、児童の見守り等の支援を行う。

○地域人材の養成等

・次世代の家庭教育支援員養成に向けて、家庭教育支援員や学校管理職に働きかけている。

○家庭教育支援チームの設置、実践等

・不登校や行き渋りを含め教育相談対応が必要な児童の家庭や地域での状況を把握するため、校長、教頭、教育相談担当、生徒指導担当、家庭教育支援コーディネーター、スクールソーシャルワーカー等で校内ケース会議を開催し、情報共有と家庭への支援方法を探る。状況によっては、地域の民生委員や児童委員との情報共有を図っている。

○学習講座・行事の実施等

・学校を会場に「子育てサロン」を開催し、保護者が子育てについて気軽に話せる機会を設定する。子育てサロンは、子育てアドバイザーの話を聞く講座や、家庭教育支援員がコーディネートして外部から講師を招き、フラワーアレンジメントや料理等、楽しい活動を取り入れるサロンの開催もあった。

○連絡会議・ケース会議の設置、運営等

・毎月開催する家庭教育支援チーム会議において、学校と地域が情報共有し保護者支援や日々の児童理解や指導にいかしている。長期休業前後には、困り感を抱える・気になる児童をピックアップして地域での見守りを依頼している。
 ・より深刻なケースは関係機関と連携し、訪問教育相談員やSSW、福祉のケース検討会等へつなげている。
 ・民生委員等とも連携し、児童の家庭状況等の把握と見守りネットワークづくりに努めている。

○保護者に対する情報提供等

・保護者が多数参加する場に、「家庭教育支援員」として出向き、活動の一端を紹介する。また、その場を活用して保護者などから情報収集を行うことで、家庭支援につなげている。子育てサロンの案内を出し、子育てについて話せる場を提供していることも周知している。

■ 実施に当たっての工夫

○本市生涯学習課主催の講座とタイアップし、親子クッキング教室、子どもおはなし会と併せて子育てサロンを開催した。親子で過ごす時間の確保と保護者が抱える子育ての悩みや不安を話し合える場の提供をねらいとし、リラックスした雰囲気の中で交流することができた。

○家庭教育支援員連絡会では、日々の活動の交流や情報共有とともに、支援員のスキルアップをねらいとした事例検討会を開催した。ある児童や保護者のケースから必要な情報や支援のポイントについて確認し合った。

■ 事業の成果

○子育てサロンではテーマや参加対象保護者を工夫し、不登校や行き渋り等も含めた子育ての悩みや不安について話せる場の提供を行い、学校や保護者のニーズにそった取組を実施することができた。

○家庭教育支援員と学校管理職、担任や養護教諭との情報共有を定期的に行い、子育ての悩みをもつ保護者の人間関係や児童との関わり方など具体的な家庭教育支援につなげることができた。

■ 事業実施上の課題

○家庭教育支援員の役割について、教職員への共通理解を図るとともに、教育相談担当者や学校管理職などが支援員活用に積極的に関わる必要がある。そうすることで多面的な支援へとつなげることができると考える。

○訪問型家庭教育支援活動(アウトリーチ型家庭教育支援)の実施について、アセスメントや支援の具体的な方法を立てることが難しい。家庭への訪問が支援員にとってハードルが高いと感じることも含め、今後検討していきたい。



【 市子育てサロンの様子 】



【 学校での子育てサロンの様子 】

報告書記入者 (生涯学習課担当者)

草津市における家庭教育支援の取組

■家庭教育を取り巻く現状

本市においては、市制施行（昭和 29 年）より、人口が増加しており、子育て世帯や核家族、新たに本市に転入してくる若い世帯も多く、家庭環境の変化や地域での人間関係の希薄化などから、子育てに悩む保護者も多い。家庭での子どものよりよい生活習慣を形成するため、社会的ニーズにあった家庭教育支援を推進していく必要がある。

■家庭教育支援で目指す姿（課題解決のために・・・）

家庭教育の自主性を尊重しつつ、保護者に家庭教育の重要性を改めて認識してもらうため、情報提供を広く行うとともに、身近な地域において、すべての保護者が安心して家庭教育を行えるよう、学校や関係部局等と連携し、保護者へ学習機会を提供することにより家庭教育の推進を図る。

■本年度の活動

（１）家庭教育事業費補助金

家庭教育に直接関わりのある市立こども園、小学校、中学校の各单位 P T A 等の実施する家庭教育学習事業に対して補助金を交付し、各单位 P T A 等で特色のある家庭教育学習事業を支援した。

（２）家庭教育サポート事業

家庭教育に関する保護者向けの学習機会を提供することにより、家庭における教育力の向上を目指す取り組みを実施。今年度においては、家庭教育に関する講座を 4 講座開講した。また、乳幼児健診やすこやか訪問にて、家庭教育のチラシや家読のリーフレットを配布し、家庭教育の大切さについて啓発を行った。

（３）イベントでの出展

市主催のイベントである「アートフェスタくさつ」において、とびだす絵本づくりと題したワークショップを実施し、家庭読書や親子のふれあいの大切さについて啓発を行った。

■特徴的な取り組み

学習参観などの保護者が学校に集まる機会を活用し、学校における家庭教育講座を行った。

■本年度の成果

市施設における家庭教育サポート事業 3 講座
学校における家庭教育サポート事業 1 講座
1 歳 6 か月健診における家庭教育の啓発（チラシ配布）
すこやか訪問における家読の啓発（リーフレット配布）



【市施設における家庭教育サポート事業】

■今後の課題

- ・近年のライフスタイルの変化により、学校を活用した家庭教育学習機会の確保が困難であるため、新たな手法による学習機会の創出の検討が必要である。
- ・保護者のニーズに対応したテーマの講座を開講するなど、工夫を凝らす必要がある。

報告書記入者（生涯学習課 職員）

草津市家庭教育サポート事業 ～地域で育む家庭の力～

草津市	本事業開始年度 平成 26 年度	家庭教育支援員や支援チームに関すること	
活動内容		A : 家庭教育支援チーム数	(0) チーム
<input type="checkbox"/> 地域人材の養成 <input type="checkbox"/> 家庭教育支援体制の構築 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育を支援する取組 <input type="checkbox"/> 訪問型家庭教育支援活動の実施		B : 家庭教育支援員数	(0) 人
年間活動日数 (のべ)		C : 家庭教育支援チームや家庭教育支援員の配置場所数	(0) か所
(41 日) (すこやか訪問除く)		D : 前項 (C) の配置場所名	(-)

■ 活動の具体的内容

○学習講座・行事の実施等

家庭で子どもたちが基本的な生活習慣や善悪の判断をはじめとした生きる力の基本となる能力を身につけるため、学校や市の施設を会場とした保護者向けの学習機会の提供や家庭教育に関する情報発信を行い、家庭の教育力の向上を図るとともに、子どもとのコミュニケーションの大切さを啓発。

○保護者に対する情報提供等

家庭教育講座実施の際は、広報誌や市ホームページ、市メーリングリスト、市SNSなどにより周知をしている。また、講座テーマに合った啓発チラシやリーフレットを配布するなどの情報発信を行った。

○学校における家庭教育サポート事業

小学校との連携のもと、時期・テーマ等実施希望調査を行い、希望に合致する外部講師を生涯学習課が招聘し、学習機会を提供する。

○絵本deうちどくサポート広場

月3回(年間36回)実施される1歳6か月の乳幼児健診で、家庭読書をツールとした家庭でのコミュニケーションの育みの推進を図るため、家庭教育啓発チラシの配布。また、すこやか訪問にて家読に関するリーフレットを配布。

■ 実施に当たっての工夫

○申し込み方法

市電子申請システムを使って、二次元コードやリンクから手軽に講座に申し込みができるようにした。その結果、参加者の約9割が電子申請システムを使った申し込みであった。講座のリマインドメールが送れるようになり、講座参加率が上昇した。

■ 事業の成果

○市施設における家庭教育サポート事業 3講座

「子どものやる気を引き出す言葉がけ～ペップトークで笑顔の子育て～」 講師：安岡 寛 氏

「“子育て”のためのコンプライアンス入門～ネット時代の『安心』のために～」 講師：山本 一宗 氏

「どうする？子どもの『お金』教育～おこづかいで、子どもの『お金経験値』を上げよう～」 講師：高原 育代 氏

○学校における家庭教育サポート事業 1講座

「スマホ時代の子どもたちに大人ができること」

講師：石川 千明 氏

○1歳6か月健診における家庭教育の啓発(チラシ配布)

○すこやか訪問における家読の啓発(リーフレット配布)



【市施設における家庭教育サポート事業】

■ 事業実施上の課題

○学校における家庭教育サポート事業

近年のライフスタイルの変化などにより、学校を活用した家庭教育学習機会の確保が困難になってきているため、新たな手法による学習機会の創出の検討が必要である。また、多様化するニーズを汲み取り、関心の高いテーマを設定するなど、より多くの保護者に受講いただけるよう工夫を凝らす必要がある。

報告書記入者 (生涯学習課 職員)

栗東市における家庭教育支援の取組

■家庭教育を取り巻く現状

本市では、地域のつながりの希薄化や子育て世代の減少に伴い、家庭でのしつけや子どもとのコミュニケーションに戸惑いや行き詰まりを感じ、悩んでいる保護者は年々増加傾向にある。学校園や関係機関が保護者の相談や支援を進めているものの、多岐にわたるニーズへの対応や支援が必要な家庭の多さに、十分に対応しきれていない現状がある。

■家庭教育支援で目指す姿

家庭と学校・地域をつなぎ、地域の身近な学校園等に情報提供や相談対応を専任で行う家庭教育支援員を配置することで、家庭での教育力を支え、基本的な生活習慣の定着を促進する。そして、感謝の心や規範意識・道徳性の芽生えを育み、生涯にわたる「生きる力」の基礎を培うことを目指す。

■本年度の活動

(1) 校内教育支援センターにおける支援・保護者相談

対象児童5名を中心に支援した。送迎時に保護者に気軽に声をかけ、相談や助言を行った。その日の児童の様子や気になる言動を記入した日誌をもとに家庭教育について振り返ったり、学校とのつながりをつくったりした。

(2) 連絡会議・ケース会議への参加

それぞれのケースについて、家庭教育支援員が学校の担当者や当該児童の担任に対して、保護者対応の仕方や児童への関わり方についてアドバイスをした。

(3) 保護者に対する情報提供

「学校だより」等で家庭教育支援員を紹介し、子育てに悩んだときはいつでも相談できるということを保護者に発信した。また、毎月実施している教育相談の相談相手として家庭教育支援員を位置づけた。



【「子育て相談窓口」の様子】

■就学時健康診断での「子育て相談窓口」の開設

各小学校を会場に実施する就学時健康診断では、子育ての悩みや不安の相談ができる相手や相談体制があることを保護者に呼びかけ、「子育て相談窓口」を開設した。悩みを抱える保護者の身近で気軽な相談相手となるよう、対応することができた。

■本年度の成果

家庭教育支援員が、保護者の思いに寄り添い、丁寧に話を聞いて助言を行うことで、保護者は安心し、適切に子どもに関わることができた。家庭で育てたい力について、保護者の願いを大切にしながら相談を進めるとともに、学校と情報共有を行うことで子どもへの効果的な支援を行うことができた。

■今後の課題

講演会や相談会を通して、保護者が家庭教育について学んだり、日ごろの子育てに関する悩み等を交流したりする機会を提供していく必要がある。より多くの保護者の参加につながるよう、情報発信の方法を検討したい。

子育ての悩みを気軽に相談できる体制づくり ～栗東市の家庭教育支援～

栗東市	本事業開始年度 平成 30 年度
活動内容	
<input type="checkbox"/> 地域人材の養成 <input type="checkbox"/> 家庭教育支援体制の構築 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育を支援する取組 <input type="checkbox"/> 訪問型家庭教育支援活動の実施	
年間活動日数（のべ）	（ 76 日※）※見込み

家庭教育支援員や支援チームに関すること	
A：家庭教育支援チーム数	（ 0 ）チーム
B：家庭教育支援員数	（ 1 ）人
C：家庭教育支援チームや家庭教育支援員の配置場所数	（ 1 ）か所
D：前項（C）の配置場所名	（ 治田東小学校 ）

■ 活動の具体的内容

○地域人材の養成等

元校長の経験があり、地域での活動を熱心にされており、支援活動の企画・運営、関係機関との連携等を担うのにふさわしい人材を選定している。

○校内教育支援センターの設置・活動等

今年度、校内教育支援センター（ほのぼのルーム）を設置した。不適応・不登校傾向のある5名の児童に関わって支援しつつ、送迎時や母子登校時の保護者に気軽に話しかけ、関係性をつくった。日頃の家庭や子育ての悩みの相談に応じた。



【 校内教育支援センターでの様子 】

○学習講座・行事の実施等

実施していない。

○連絡会議・ケース会議の設置、運営等

それぞれのケースについて、家庭教育支援員が学校の担当者や該当児童の担任に、保護対応の仕方や児童への関わり方についてアドバイスをした。

○保護者に対する情報提供等

学校だよりで家庭教育支援員の紹介をし、子育てに悩んだときは、いつでも相談できるということを保護者に発信した。また、毎月実施している教育相談の相談相手として家庭教育支援員を紹介した。

○訪問型家庭教育支援の実施等

実施していない。

■ 特徴的な活動内容

○就学時健康診断での「子育て相談窓口」の開設

就学時健康診断では、就学先の小学校に子育ての悩みや不安の相談ができる相手や相談体制があることを保護者に呼びかけ、「子育て相談窓口」を開設した。悩みを抱える保護者が窓口を利用して相談しに来て、家庭教育支援員が対応した。

○校内教育支援センターにおける支援・保護者相談

今年度新設した校内教育支援センター（ほのぼのルーム）にて、教室に入りづらい児童の個別指導をしたり、朝登校しづらい児童を時間を決めて受け入れ、教室に戻れるように支援したりした。

送迎時に保護者に気軽に声をかけ、相談や助言を行った。

その日の児童の様子や気になる言動を記入した日誌をもとに家庭教育について振り返ったり、学校とのつながりをつくったりした。

■ 実施に当たっての工夫

○子育ての悩みがあるが、相談までとりつかない保護者相談のハードルを下げることにより、毎月の教育相談週間に家庭教育支援員との懇談について、全体はもちろんのこと、個別にも働きかけ、保護者や児童に手厚い支援を行うことができた。

■ 事業の成果

○家庭教育支援員が要支援児童に関わって児童の状況把握や理解をしてもらうことができた。

○連絡会議や日誌を通じて、学校と情報を共有することで児童への支援や保護者との懇談を効果的に行うことができた。

○家庭教育支援員がじっくりと話を聞き、助言を行うことで、保護者は安心し、適切に児童に関わることができた。

■ 事業実施上の課題

○保護者が自分の子育てについて振り返ったり、保護者同士が家庭教育について気軽に交流したりする機会をどのように設けていくとよいか、PTAとの連携等、効果的な設定方法を検討していきたい。

○活動日数が限られており、児童や保護者の要望に応じられないことがあり、タイミングを逃してしまうことがある。そのため、現状より多い活動日数を求め、より効果的な事業にしていきたい。

報告書記入者（ 治田東小学校 教頭 ）

甲賀市における家庭教育支援の取組

■家庭教育を取り巻く現状

市では、新しく造成された住宅地が増え、核家族、共働き家庭が急増し、仕事と家事と子育ての中、日々の忙しさから子どもとゆっくり向き合う時間が取れない家庭が多い。加えて、地域での人間関係の希薄化などで、身近な相談相手が無く、育児不安を抱える保護者が増加している。また、親と同居、近居であっても祖父母世代との考え方の違いにより、育児に戸惑いを覚える保護者もいる。

■家庭教育支援で目指す姿（課題解決のために・・・）

- ・各サポーター（家庭教育、子育て、ブックスタート）の育成・登録・活動により、地域の家庭教育支援の意識を高め、市と地域が協力して子育て世代のサポートができるようにする。
- ・子どもにとって家庭が一番安心できる場所でいられるように、家庭の軸である父親や母親、時には祖父母に働きかけ、子どもが親から愛されていると感じ自尊感情を高めていける家庭教育支援を目指す。

■本年度の活動

（１）地域人材の養成等

- ・甲賀市子育てサポーター養成講座（３講座）
- ・ブックスタートサポーター研修会（１回）

（２）学習講座・行事の実施等

- ・子育て親育ち講座（保育園・幼稚園、小学校）
- ・いまどきの孫育て講座（２講座）
- ・ブックスタート事業（年間 26 回）

（３）保護者に対する情報提供

- ・家庭教育についてのブックレットをブックスタート時に配付
- ・講座実施時や各子育て支援センターで祖父母のための子育てリーフレットを配付



【 子育て親育ち講座（命の学習） 】

■特徴的な取組

小学校を対象にした子育て親育ち講座（命の学習）では、助産師を講師に招き、体験や映像を交えて、命の誕生、大切さについて学習する。保護者は、授業参観、体験学習の参加や子どもへの手紙を通して、当時の思いを振り返り、わが子への愛おしさを再認識してもらう。学校の規模によって内容は異なるが、平成 23 年度から継続して取り組んでいる。

■本年度の成果

- ・いまどきの孫育て講座を再開し、グループディスカッションを交えた参加型の内容で、参加者の孫とのかかわり方や、祖父母の役割の理解を深めることができた。
- ・子育て親育ち講座の内容を拡充し、実施校が増加した。

■今後の課題

- ・講座の実施について、より効果的な支援になるよう内容と周知の工夫が必要である。

報告書記入者（ 子育て政策課職員 ）

“親力”アップをめざして ～甲賀市の家庭教育支援～

甲賀市	本事業開始年度 平成 23 年度	家庭教育支援員や支援チームに関すること
活動内容		A：家庭教育支援チーム数 (1) チーム
<input checked="" type="checkbox"/> 地域人材の養成 <input type="checkbox"/> 家庭教育支援体制の構築 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育を支援する取組 <input type="checkbox"/> 訪問型家庭教育支援活動の実施		B：家庭教育支援員数 (6) 人
年間活動日数 (のべ)		C：家庭教育支援チームや家庭教育支援員の配置場所数 (1) か所
(18 日)		D：前項(C)の配置場所名 (甲賀市子育て政策課)

■ 活動の具体的内容

○地域人材の養成等

- ・甲賀市子育てサポーター養成講座（3講座）
実施日／10月10日、17日
場 所／甲賀市まちづくり活動センター「まる一む」
対象者／市内在住・在勤の20歳以上の方、延べ17名参加
- ・ブックスタートサポーター研修会（1回）
実施日／11月29日
場 所／甲南図書交流館
対象者／ブックスタートサポーター、園での読み聞かせサポーター他、8名参加



【いまだきの孫育て講座】

○学習講座・行事の実施等

- ・子育て親育ち講座（保育園・幼稚園、5園6回実施済みまたは予定）
（小学校、6校7回実施済みまたは予定）
- ・いまだきの孫育て講座
実施日／11月11日、25日
場 所／甲賀市まちづくり活動センター「まる一む」、かえで会館
参加者／延べ33名

○保護者に対する情報提供等

- ・家庭教育についてのブックレットをブックスタート時に配付
（年間26回、約600冊配付）
- ・講座実施時や各子育て支援センターで祖父母のための子育てリーフレットを配付

■ 特徴的な活動内容

- 子育て親育ち講座（保育園・幼稚園、小学校）／園の参観や小学校での参観、授業で、親もしくは親子と一緒に家庭教育について学ぶ。テーマは食育、命の大切さ、運動、ふれあい、絵本の読み聞かせの大切さなど。
- いまだきの孫育て講座／それぞれの発達段階に応じた孫との接し方・親世代の援助の仕方について、講話のほか、グループディスカッションや沐浴体験などを交えて学ぶ。

■ 実施に当たっての工夫

- 子育て親育ち講座では、園や小学校の要望に応じて講師を紹介しているが、新しい講師にも来ていただけるよう情報収集し、これまでと違った内容の講座を実施することができた。

■ 事業の成果

- サポーター養成講座では、市の支援体制を広く知ってもらうことができ、サポーターの登録者数を増やすことができた。昨年度新たに登録された方は、実践編を経て、継続して活動に取り組まれている。
- 園での子育て親育ち講座は、わらべうた遊びやミュージック・ケア、バランスボールなどを取り入れ、保護者からは、触れ合い遊びの大切さを改めて感じられた、普段教えてもらうことのできない関わり方ができたのがとても良かったとの声が聞かれた。

■ 事業実施上の課題

- 子育て親育ち講座の対象を広げたが、実施園・校は限られている状況である。周知方法や内容を検討していく必要がある。

報告書記入者（ 子育て政策課職員 ）

野洲市における家庭教育支援の取組

■家庭教育を取り巻く現状

家庭を取り巻く環境の変化により、保護者にとって悩みや不安を抱えても相談できないなど、家庭教育を行う上での複雑化・多様化する困難な現状が本市でも見られる。また、児童・生徒の抱える課題がますます多様化する傾向にあり、保護者のみの家庭教育では、負担が増大するようになってきた。学校を含めた地域ぐるみで家庭を支援していくことは喫緊の課題であると考えている。保護者の悩みや不安等のストレスを軽減し、地域におけるつながりをつくる支援、家庭教育や子育てについての助言、学習機会の提供等、家庭教育に関する支援の必要性が高まっている。

■家庭教育支援で目指す姿（課題解決のために・・・）

本市では、家庭教育支援員を「おやこサポーター」と名付け、親しみやすいようピンクのジャケットを作り活動している。保護者にとって悩みや不安を抱えても相談できないなど、家庭教育を行う上での複雑化・多様化する困難な現状があり、学校を含めた地域ぐるみで家庭を支援していく必要がある。そこで、保護者に対しての相談活動や子どもの登校支援など訪問型の家庭教育支援を行い、保護者の悩みや不安等のストレス軽減、子どもの社会的自立を目的とし、家庭教育支援で解決を目指す。



【家庭教育支援員（おやこサポーター）】

■本年度の活動

- （１）家庭教育支援員連絡協議会の開催（年３回）（市教委で開催）
他校の家庭教育支援員との交流、管理職とともに参加。
- （２）各校での家庭教育チーム会議（年３～４回）（各学校で開催・市教委伴走支援）
家庭教育支援員、SSW、校長、教頭、担任、教育委員会担当が参加し個々の児童生徒についての支援の在り方をケース別に検討。
- （３）地域学校協働活動推進員合同研修会、コミュニティ・スクール合同交流研修会（年２回）
滋賀県の生徒指導上の課題をいじめ・不登校対策支援室から担当を招き学習。各学校の学校運営協議会委員と学校の課題を交流。

■訪問型家庭教育支援の実践内容

- ・毎朝、訪宅し、家庭教育支援員とともに登校。
- ・布団をかぶりひきこもる児童の家での語りかけ。
- ・外国籍の保護者と児童宅を訪問し、学校との橋渡しと意思疎通。
- ・不登校児童の保護者の悩み相談。

■本年度の成果

- ・昨年度教室に行けなかった子どもが、週４回行けるようになった。
- ・保護者の悩み相談で、学校の負担が軽減された。
- ・教員が誘いに行けない場合にすぐ家庭教育支援員が駆け付けることで学校に行ける回数が増えた。

■今後の課題

- ・需要が多く、時間数をもっと欲しいとの要望がある。
- ・中学生に対しての取り組みは保護者相談に偏りがちなので、もっと生徒にもよりそう機会をつくる。

報告書記入者（生涯学習課 職員）

こどもの笑顔を支えるおやこサポーター ～野洲市の各学校の家庭教育支援チーム～

<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%; padding: 5px;">野洲市</td> <td style="padding: 5px;">本事業開始年度 令和5年度</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="padding: 5px;">活動内容</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="padding: 5px;"> <input type="checkbox"/> 地域人材の養成 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援体制の構築 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育を支援する取組 <input checked="" type="checkbox"/> 訪問型家庭教育支援活動の実施 </td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">年間活動日数（のべ）</td> <td style="padding: 5px;">（ 180 日）</td> </tr> </table>	野洲市	本事業開始年度 令和5年度	活動内容		<input type="checkbox"/> 地域人材の養成 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援体制の構築 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育を支援する取組 <input checked="" type="checkbox"/> 訪問型家庭教育支援活動の実施		年間活動日数（のべ）	（ 180 日）	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center; padding: 5px;">家庭教育支援員や支援チームに関すること</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">A：家庭教育支援チーム数</td> <td style="padding: 5px;">（ 4 ）チーム</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">B：家庭教育支援員数</td> <td style="padding: 5px;">（ 5 ）人</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">C：家庭教育支援チームや家庭教育支援員の配置場所数</td> <td style="padding: 5px;">（ 4 ）か所</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="padding: 5px;">D：前項（C）の配置場所名</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="padding: 5px;">（ 中主小学校、篠原小学校、野洲小学校、中主中学校 ）</td> </tr> </table>	家庭教育支援員や支援チームに関すること		A：家庭教育支援チーム数	（ 4 ）チーム	B：家庭教育支援員数	（ 5 ）人	C：家庭教育支援チームや家庭教育支援員の配置場所数	（ 4 ）か所	D：前項（C）の配置場所名		（ 中主小学校、篠原小学校、野洲小学校、中主中学校 ）	
野洲市	本事業開始年度 令和5年度																				
活動内容																					
<input type="checkbox"/> 地域人材の養成 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援体制の構築 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育を支援する取組 <input checked="" type="checkbox"/> 訪問型家庭教育支援活動の実施																					
年間活動日数（のべ）	（ 180 日）																				
家庭教育支援員や支援チームに関すること																					
A：家庭教育支援チーム数	（ 4 ）チーム																				
B：家庭教育支援員数	（ 5 ）人																				
C：家庭教育支援チームや家庭教育支援員の配置場所数	（ 4 ）か所																				
D：前項（C）の配置場所名																					
（ 中主小学校、篠原小学校、野洲小学校、中主中学校 ）																					

■ 活動の具体的内容

○訪問型家庭教育支援の実践等

- ・毎朝自宅を訪宅し、行き渋りのある子どもと登校している。
- ・下校時、集団下校が苦手な子どもと一緒に下校し、保護者と話す。
- ・外国籍の保護者や子どもの思いを伝える学校との橋渡し役として訪宅し、相談にのる。



【 登校の様子 】

○家庭教育支援チームの設置、実践等

- ・学期に1度家庭教育支援チームを各学校で開き、校長、教頭、地域連携担当教員、S W、家庭教育支援員と子どもの学校や家庭の様子を情報交流し、支援の在り方を協議している。
- ・緊急事案に対し、協議の場に参加し、子どもや家庭の様子を提供し、緊急支援につなげている。

○学習講座・行事の実施等

- ・「親カフェ」をコミュニティセンターで、毎月第一土曜日に開き、学校を休みがちな子どもをもつ親の悩みを聞いたり、学校へ言いにくいことを聞き、つなげたりしている。
- ・懇談会や参観日の後に「図書室ほっとカフェ」を「気軽に子育てトーク」と題し開催している。



【 図書館カフェ 】

○連絡会議・ケース会議の設置、運営等

- ・ケース会議に参加し、深刻な事案は、関係機関と協議し、情報共有しながら家庭や子どもへの支援につなげている。
- ・市内の家庭教育支援員と情報交換や現状を交流する「連絡協議会」に参加したり、県からの不登校の現状を聞いたりして資質向上に努めている。

○保護者に対する情報提供等

- ・保護者が悩みを話す場に、民生委員や地域の子育てサポーター、子ども食堂のボランティアなども参加し、聞き役になったり、アドバイスをしたりしている。

■ 実施に当たっての工夫

- 困ったり、悩んだりしている子どもや保護者に直接、すぐに手を差し伸べることができるように、学校と家庭教育支援員がいつでも連絡を取れる体制づくりをしている。

- 教室での子どもの様子も見ながら、行き渋りのある子どもに声をかけるようにして顔見知りになったり、悩みを抱えている保護者たちで話す場を作ったりして、つながりを作るようにしている。

■ 事業の成果

- 教員が、迎えに行きたくてもいけない、その瞬間に家庭教育支援員に連絡し、訪宅できる体制は、子ども、保護者にとっても、貴重な存在となり頼れるところという認識が定着している。

■ 事業実施上の課題

- 需要が多く、支援を必要としている家庭が多いので、一人では回りきれない。

報告書記入者（ 生涯学習課 職員 ）

湖南省における家庭教育支援の取組

■家庭教育を取り巻く現状

核家族化や地域社会のつながりの希薄化により、子育ての悩みや不安を抱えたまま孤立してしまう保護者が増えている。また、ひとり親家庭の増加や貧困など家庭教育の充実に難しさのある中で、学校生活に適應できない子どもが増えている。このように保護者の困り感が子どもたちに影響している現状がある。

■家庭教育支援で目指す姿（課題解決のために・・・）

子育ての支援を必要とする保護者が、地域をはじめとした様々な人とつながることで、子育てに対する不安感を和らげ、ひいては子どもの育ちを豊かにすることができるような体制づくりが求められる。家庭教育の自主性を尊重しつつ、不安を抱える保護者への情報提供や学習の機会の設定などのアプローチ、さらに助けを求めることが難しい保護者へ支援を届けるアウトリーチの取組が期待される。

■本年度の活動

（１）家庭教育支援員連絡会議の開催

- ・ 8月25日（金）県SWSV上村氏、県生涯学習課社会教育主事桂氏にお越しいただき開催。関係各校から家庭教育支援員、校長が参加して、取組概要の報告、情報交換を行った。両氏からのご講話に、参加者一同学びを深め、明日からまたやってみようという元気をいただいた。

（２）中学校区別運営会議の開催

- ・ 4中学校区別に、地域学校協働活動推進員、家庭教育支援員、管理職、市教委担当者が出席し、今年度これまでの取り組んできたことの成果と課題を出し合った。

（３）家庭教育支援チームによる活動

- ・ 本市では5小学校と2中学校7チームに7名（延べ10名）の家庭教育支援員が携わっている。各校の状況に応じて「訪問型支援」や保護者が気軽に集まり、つながるきっかけをつくる「子育てサロン」、不安を抱える保護者の学びの場となる「子育て講演会」の開催等、工夫を凝らした活動を展開している。

■訪問型家庭教育支援の実践内容

「訪問型支援」に積極的に取り組んでいるチームでは以下のような内容で実践を進めている。

- 子どもや保護者と丁寧に信頼関係を築いたスタッフが担当の児童・生徒宅を訪問。
- 個々の状況に応じたアプローチを継続的に進める。
- ケース会議に参加し、学校関係者と情報を共有。

■本年度の成果

8月に行った連絡会議に、家庭教育支援員とともに管理職が参加したことで、改めて校内での連携の大切さを考える機会となった。また、各チームではその学校や児童生徒の状況によりそれぞれに取組を工夫しているが、情報共有により学校間の連携も生まれた。さらに県SWSV上村氏よりすべての家庭教育支援員にエールをいただくことができ、次につながる充実した研修の機会となった。

各校での成果を受けて、この事業に新たに組みたいという学校が増えつつある。

■今後の課題

各チームにおける家庭教育支援員と学校、関係機関との緻密な情報共有、連携が必要。それぞれの役割を明確にしたうえで、子どもたちや保護者の支援にあたることが大切である。本市では、目指すべきモデルとなる「訪問型支援」を展開しているチームがあることが強みである。今後はこれらの取組を参考にしながら、よりよい家庭教育支援の在り方を市レベルで考え、一貫した取組を行うための仕組みづくりを行っていくことが必要である。

報告書記入者（学校教育課・教育研究所長）

ゆっくりゆっくりの子育て ～9年間の子育て応援～

湖南省 本事業開始年度 令和4年度 活動内容 <input type="checkbox"/> 地域人材の養成 <input type="checkbox"/> 家庭教育支援体制の構築 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育を支援する取組 <input checked="" type="checkbox"/> 訪問型家庭教育支援活動の実施	家庭教育支援員や支援チームに関すること A：家庭教育支援チーム数 (1) チーム B：家庭教育支援員数 (3) 人 C：家庭教育支援チームや家庭教育支援員の配置場所数 (1) か所 D：前項(C)の配置場所名 (甲西中学校)
年間活動日数(のべ) (131 日)	

■ 活動の具体的内容

○訪問型家庭教育支援の実践等

本校の家庭教育支援は、3人のスタッフが各々地域の家庭へ個別対応をする形で連携している。3人のスタッフは、小学校の家庭教育支援員も兼ねており、小学校、学童保育からのつながりで、生徒とも保護者ともつながっていて、家庭にも入り込めるという強みがある。

本校では、不登校生徒の増加が非常に大きな問題となっており、年間30日以上の不登校生徒は、令和3年度は35人、令和4年度は53人、令和5年度は12月現在で50人である。この不登校生徒の対応に担任は苦勞していたが、家庭教育支援員の訪問が大きな力となっている。他の誰も会えない生徒に出会って無事を確認したり、児童館などに誘い、家から連れ出し、一緒に活動をしたという働きもしている。

○家庭教育支援チームの設置、実践等

令和4年度からは、「ポレポレサポート」として活動開始。学校、学年部やSSW、市の家庭児童相談室などの関係機関とも連携している。

日々の連絡は、家庭教育支援員が書く連絡ノートや職員室に来て担任や学年の教員と話すことで行っている。連絡ノートは、家庭教育支援員が訪問での本人、保護者、家庭の様子などを書き、担任⇒学年主任⇒教育相談担当⇒管理職と回覧して情報共有している。また、家庭教育支援員が教員業務支援員を兼ねていることで学校に出入りがしやすく、教員も支援員の顔を見ると最近の様子を伝え合ったりして情報共有することができている。また、ケース会議に入ってもら場合もあり、担任があまり会えない生徒や家庭の情報を聞いたり、次回の会議までに担任とは違う立場で動く計画を立てたりすることができている。久しぶりに登校する生徒のケアを担任と協力しながら行い、生徒と保護者を精神的に支えている事例もある。

○学習講座・保護者に対する情報提供等

不登校生徒、学校への行きづらさを感じている生徒やその保護者対象に研修会を行った。主に、不足しがちな進路に関する情報の提供をした。特に、通信制や定時制の高等学校など、全日制以外の高等学校の情報提供に力を入れている。

令和4年度は、教頭が全日制以外の高等学校についての説明会を行った。学年全体に対して行う進路研修は多くが全日制のものであるので、それ以外の情報をあまり知らなかった生徒や保護者に好評であった。

令和5年度は、7月6日に本校の会議室で大津清陵高等学校馬場分校、綾羽高等学校の先生に来ていただき、各学校の定時制や通信制の説明をしていただいた。それぞれに熱のこもったお話をしていただき、特徴や学校生活の実際、学習へのフォロー体制、進路先などについて説明を聞いた。

参加者は10名、保護者だけの家庭もあれば、生徒とともに参加した家庭もあった。研修会後には、高校の先生方に個別で非常に熱心に質問する姿が見られ、関心の高さがうかがわれた。



【進路研修会で提供した資料】

■ 実施に当たっての工夫

○小学校の支援員が兼務していることで、小学校入学から中学校卒業までの9年間を通した見守りを可能にしている。

○家庭教育支援員と教員業務支援員を兼務することで、学校への出入りがしやすくなり、教職員との関係も作りやすくなっている。

■ 事業の成果

○小学校から中学校卒業までの9年間の支援体制ができた。

○保護者との信頼関係を継続することで、生徒との関係も深まった。

■ 事業実施上の課題

○家庭教育支援員は、長年学童保育等で働いている方が多く、家庭との連携も密に取れているが、若手を育成し、引き継いでいくことも考える必要がある。

報告書記入者 (家庭教育支援員、教頭)

高島市における家庭教育支援の取組

■家庭教育を取り巻く現状

周囲との関わりが少なく近い年齢の子どもを持つ他の家庭の様子がわからないため、自身の子どもの接し方や育児全般について「これでいいのだろうか」といった心配や不安を感じている保護者もいる。また、日々の忙しさに追われ、子育てに関する様々な情報を見極めて取り入れることが難しい。祖父母世代や地域の大人の手も必要とされている。

■家庭教育支援で目指す姿（課題解決のために・・・）

保護者に加え、祖父母世代や地域の大人も、考え方の違いを認め合いながら子どもと関わるができるよう、幅広い年代を対象とした講座や学習会を開催し、今の子どもが置かれている環境や子育て世代への理解を深める。

■本年度の活動

子どもと触れ合うきっかけにするため体験を交えたヨガを取り入れたり、保護者に関心の高いインターネットとの付き合い方をテーマにした講座なども開催した。

■子どもにどうかかわりあうか講座 「親子で学ぶ薬物乱用防止教室」

薬物乱用が心身に及ぼす影響や禁止されている理由を学習し、身近な問題として対処方法や断り方を考えた。また薬の正しい飲み方や、効果のあらわれ方の違いについても親子で学んだ。

■本年度の成果

（１）共育学習会

背中や腕に触れることで、手の暖かさや心地よさをあらためて感じてもらうことができた。また講師の実体験を交えながらのお話「家族にもやってあげたい」などの声が聞かれた。

（２）地域教育力向上講座

自然の中で生き抜く鳥の子育てを通して、家族や周囲との関わり方、子育ての様子などを学んだ。

（３）子どもにどうかかわりあうか講座

市内各園や学校で選んだテーマをもとに実施した。親子で話を聞いたり、保護者同士の交流を取り入れたところもあるなど様々な形で子育てについて考えてもらう時間となった。

■今後の課題

座学に拘らない開催の形や関心の高いテーマを取り上げるなど参加しやすい環境を整える。



【 子どもにどうかかわりあうか講座 】
親子で命の大切さを考える性教育



【 共育学習会 】
なごん de タッチ！

高島市の家庭教育支援

高島市	本事業開始年度 平成 26 年度	家庭教育支援員や支援チームに関すること	
活動内容		A：家庭教育支援チーム数	(0) チーム
<input type="checkbox"/> 地域人材の養成 <input type="checkbox"/> 家庭教育支援体制の構築 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育を支援する取組 <input type="checkbox"/> 訪問型家庭教育支援活動の実施		B：家庭教育支援員数	(0) 人
年間活動日数 (のべ)		C：家庭教育支援チームや家庭教育支援員の配置場所数	(0) か所
(8 日)		D：前項 (C) の配置場所名	(—)

■ 活動の具体的内容

○学習講座・行事の実施等

- ・共育学習会 「心とカラダをほぐす時間」としておはなしとヨガ体験を取り入れて開催。座布団を使った簡単なポーズの紹介と体験を取り入れたお話を実施。
- ・地域教育力向上講座 「子育てのお話」というと身構えがちな保護者や周囲の大人に向けて「鳥の世界の子育て」について専門家から学んだ。
- ・子どもにどうかかわりあうか講座 園や学校でテーマを設けて開催。親子で一語に話を聞いたり、保護者の交流を取り入れたり、関心の高いテーマについて専門家から学ぶなど家庭教育支援に努めた。



【 参考図書の展示 】

■ 実施に当たっての工夫

○座学だけでなく、体験を取り入れた講座を開催した。

○市立図書館よりテーマにあわせた資料を集め、会場に展示した。合間の時間に手に取る姿も見られ、参加者にも興味を持ってもらえた。また、会場を図書館にすることで、講座終了後に図書館にも立ち寄っていただけるようにした。

■ 事業の成果

○講師が実体験を交えながら、参加者に寄りそ言葉かけをされたため、テーマとしていた「心とカラダをほぐす」ことができる時間になった。

○「子どもと一緒に話を聞いたので、家に帰ってからもう一度親子で話してみたい」といった感想や、近い年齢の子どもを持つ保護者が自分と同じようなことで悩んでいたことを知り「自分だけではない」と気持ちが楽になったなどの声が聞かれた。



【 共育学習会 】

■ 事業実施上の課題

○子育て世代や親子だけでなく、3世代での参加や家族で参加することも意識して内容や広報を考える必要がある。

○子育て関連の部署や団体との協力が不十分であった。情報提供の場としても利用してもらえるよう呼びかけを行いたい。

報告書記入者 (社会教育課 担当)

東近江市における家庭教育支援の取組

■家庭教育を取り巻く現状

近年の社会状況の変化により、保護者にとって身近な手本となる人がいない、悩みや不安を抱えても相談できないなど、家庭教育を行う上での困難な現状がある。また、児童・生徒の抱える課題が複雑化多様化する傾向にあり、家庭教育はますます大切な役割を担うようになってきており、学校を含めた地域ぐるみで家庭を支援していく必要がある。

■家庭教育支援で目指す姿（課題解決のために・・・）

子育てについて困り感のある保護者や、家庭教育について課題のある家庭の保護者を対象にアウトリーチ型の支援を届ける。家庭教育支援員と対象の家庭に関わる学校関係者を中心に家庭教育支援チームを作り、家庭教育支援員が保護者に寄り添う形で子どもの育ちを支援する。

■本年度の活動

（１）市内7小中学校における各家庭教育支援チームによる活動

- ・家庭教育支援チームでの情報共有
- ・家庭教育支援員による家庭訪問、相談活動、保護者支援、子育てサロンの実施

（２）東近江市家庭教育支援員連絡会の実施

- ・年3回の家庭教育支援員連絡会を実施
- ・年2回の家庭教育支援員・校長（担当者）合同連絡会の実施
- ・各家庭教育支援員の取組報告や情報共有を行う

（３）家庭教育講演会の実施

- ・保護者、学校関係者、民生委員児童委員、社会教育関係者を対象に11月29日に実施



【 家庭教育講演会 】

■訪問型家庭教育支援の実践内容

- ・家庭教育支援員とSSWが不登校児童宅に家庭訪問をして、保護者の相談対応をしたり児童へ関わったりしている。
- ・家庭教育支援員が、家庭事情により集団登校が困難な児童、生徒を家まで迎えに行き一緒に登校している。

■本年度の成果

家庭教育支援基盤構築事業を開始して2年目となった。家庭教育支援員の活動実績によって軌道に乗り、実施校も5校から7校に増えた。各校での活動を熱心にしていただいている。

■今後の課題

訪問型家庭教育支援を実施して保護者の心情、家庭事情等に関するちょっとしたきっかけでそれまで築いてきた関係が切れてしまうことがあり、どんなに技量や熱意のある家庭教育支援員でも訪問型を継続していくことは難しいと感じた。

報告書記入者（生涯学習課 指導主事）

保護者と学校をつなぐ アウトリーチ型家庭教育支援

東近江市	本事業開始年度	令和4年度	家庭教育支援員や支援チームに関すること	
活動内容			A：家庭教育支援チーム数	(1) チーム
<input type="checkbox"/> 地域人材の養成 <input type="checkbox"/> 家庭教育支援体制の構築 <input type="checkbox"/> 家庭教育を支援する取組 <input checked="" type="checkbox"/> 訪問型家庭教育支援活動の実施			B：家庭教育支援員数	(1) 人
年間活動日数 (のべ)			C：家庭教育支援チームや家庭教育支援員の配置場所数	(1) か所
(14 日)			D：前項 (C) の配置場所名	(八日市西小学校)

■ 活動の具体的内容

○訪問型家庭教育支援の実践等

- (保護者からの相談への対応、保護者に対する情報提供、専門機関への橋渡し等)
- ・月に1回2時間、不登校児童宅へ家庭訪問をする。

○地域人材の養成等

- ・なし

○家庭教育支援チームの設置、実践等

- ・校長、SSW、家庭教育支援員、関係教職員による家庭教育支援チーム

○学習講座・行事の実施等

- ・なし

○連絡会議・ケース会議の設置、運営等

- ・東近江市教育委員会主催の家庭教育支援員連絡会
- ・福祉部局と連携したケース会議
- ・校内での打ち合わせ

○保護者に対する情報提供等

- ・なし



【 家庭教育支援員連絡会 】

■ 実施に当たっての工夫

○家庭訪問の工夫

家庭教育支援員とSSWの2人体制で家庭訪問をしている。相談対応が必要な保護者が複数おられるケースだが、家庭教育支援員とSSWが分担することで、保護者や児童に相談対応等できている。また2人体制にすることで、家庭教育支援員とSSWに負担が分散される。

■ 事業の成果

○家庭教育支援員やSSWが家庭訪問をして保護者から話を聞くことで、保護者の気持ちは良い方に向かっている。家庭訪問によって学校が気にかけているというメッセージも伝わっていると感じる。児童は以前家にこもりがちであったが、外出先が増え人とのつながりも増えた。児童は人との関わりについて前向きな気持ちが持ってきているようである。学校に放課後登校することも1度できた。そういった変化を保護者は嬉しく感じておられる。月1回の家庭訪問であるが、継続していく大切さを感じた。

■ 事業実施上の課題

○地域の中から家庭教育支援員に適した人材を見つけることが困難である。どの地域にも適した人材はおられるように思うが、何年か地域に関わっていないと見つけることは難しいと感じる。

報告書記入者 (生涯学習課 指導主事)

日野町における家庭教育支援の取組

■家庭教育を取り巻く現状

少子化や核家族化、地域のつながりの希薄化などにより、誰ともつながらず、子育てを助けてくれる人や子育ての悩みを気軽に相談できる人がいない孤立家庭が増え、育児への不安やストレスを抱える親が増加傾向にある。

また、生活習慣の乱れや経済的な困窮などの課題を抱えた家庭は、コロナ禍でより一層増加の一途をたどり、家庭教育支援の必要性がますます高まっている状況にある。

■家庭教育支援で目指す姿（課題解決のために・・・）

これから親になる方や子育て中の親に対して、親としての力を高めてもらうため、学習機会や仲間づくりの場の提供、相談体制の充実などきめ細やかな家庭教育支援を行うことにより、地域全体で親子の学びや育ちを支えていく必要がある。そのために、あらゆる手段を駆使し子育て家庭を地域と結びつけることが必要である。



【親子ふれすて】

■本年度の活動

（１）交流の場「親子ふれすて」の開催

毎月１～２回、親子が遊びを通してふれあうと同時に、親同士や子育てサポーターと交流することで、情報交換や子育ての悩みの解消の場となっている。

（２）学習講座の実施

- ・子育て学習会・・・保育園・こども園・幼稚園・小学校・中学校（計１０講座）
- ・就学前学習講座・・・全小学校（５校）で年１回
- ・マイナス１歳からの子育てを楽しもう（講座）・・・１講座
- ・子育て親育ち講座・・・２講座

（３）地域人材の育成

- ・子育てサポーター養成講座・・・２講座

（４）訪問型家庭教育支援

- ・ケース会議の実施。支援員交流会を開催し、情報共有にあたっている。
- 今後、家庭教育支援員の確保に向けて、より一層の周知・広報に努める。



【マイナス１歳からの子育て講座】

■本年度の成果

- ・親子ふれすての開催により、保護者同士のつながりが生まれ、交流や情報交換の場として、子育ての悩みやストレスの解消につながった。
- ・各種講座の開催により、子どもとの関わり方や成長段階に合わせた接し方などを保護者に学んでもらうことができた。
- ・各事業の実施にあたり、学校や関係課と連携して取り組み、多角的に充実した支援を行えた。
- ・子育てサポーターとして、合計１２名のサポーターにより年間の活動を実施することができた。
- ・学校では行き届かない第三者との関わりがあることで、新たな切り口からの家庭教育支援ができた。
- ・家庭教育の受け止め先が増えた。

■今後の課題

- ・各種事業への参加者が固定化している傾向にあるため、これまで参加したことのない親子の孤立を防ぐため、各関係機関との連携や未参加親子への情報発信を強化する必要がある。
- ・支援者の確保に努め、地域とのつながりを増やす努力が必要である。

報告記入者（生涯学習課 職員）

「ゆっくり大きくなあれ」 ～子育て・親育ちを支える就学前学習講座の開催～

日野町	本事業実施年度 令和5年度
活動内容	
<ul style="list-style-type: none"> ■ 地域人材の養成 ■ 家庭教育支援体制の構築 ■ 家庭教育を支援する取組 ■ 訪問型家庭教育支援活動の実施 	
年間活動日数 (のべ)	(43 日)

家庭教育支援員や支援チームに関すること	
A : 家庭教育支援チーム数	(1) チーム
B : 家庭教育支援員数	(3) 人
C : 家庭教育支援チームや家庭教育支援員の配置場所数	(3) か所
D : 前項 (C) の配置場所名	(日野小学校、必佐小学校、日野中学校)

■ 活動の具体的内容

○地域人材の養成等

子育てサポーター養成講座…2回

○家庭教育支援チームの設置・活動等

子育て支援チーム会議…6回

○学習講座・行事の実施

子育て・親育ち講座…2回

親子ふれすて…12回

わくわく広場…1回

就学前学習講座…5回

P T A子育て講演会…10回

マイナス1歳からの子育てを楽しもう (講座) …1回

○連絡会議・ケース会議の設置、運営等

訪問型家庭教育支援ケース会議…複数回・子育て支援チーム会議…6回

○保護者に対する情報提供等

子育て応援通信「ゆっくり大きくなあれ」(毎月1回発行)

○訪問型家庭教育支援の実施等

■ 特徴的な活動内容

○家庭での教育力の向上を目的に、幼稚園や小学校など保護者が集まる機会 (授業参観、1日入学など) に、家庭での子どもとの関わり方、子育てで大切にしたいことなど、子育てや家庭教育について学ぶ場を提供している。

○これから結婚や出産を迎える方や乳幼児期の子育て中のお父さんお母さんを対象として、命が宿るマイナス1歳から、子どもの成長・発達について学ぶためにマイナス1歳からの子育てを楽しもう (講座) を開催する。

■ 実施に当たっての工夫 (コロナ禍における工夫・対応等)

○子育て応援通信「ゆっくりおおきなあれ」(毎月1日発行) を庁内の子育て関係課 (日野町子育て支援チーム) が連携して発行している。町内の子育てサロン事業や親子でつどえる行事などの情報のほか、保健師や図書館司書、臨床心理士から子育てに役立つ豆知識、時期や季節に合わせた内容になるように工夫したり、行事予定をカレンダー化することによって各種のイベントや学習会に参加しやすい情報提供となるように心がけている。

○「親子ふれすて」では、近年災害が多いなか、家庭でも無理なく取り組めるよう、日常的な備え (ローリングストック) の重要性や、非常時でも役に立つ調理方法を身に付ける機会として防災ちびっこクッキングを開催した。

■ 事業の成果

○就学前学習講座

小学校入学という節目を迎える時期にあたり、1日入学などの機会を捉え、この時期に大切にしたい子育てのことやこれからの子どもとの関わり方について学ぶ機会としている。保護者からは「子どもへ寄り添うことの考え方が変わった」「講座を受けたことでもっと子育ての勉強をしていきたい」など概ね高評価を得ている。

○P T A等子育て学習会

多くの親に子育てやしつけなどの家庭教育のあり方を見つめていただける機会となった。家庭教育の関心の少ない親にも家庭教育について考える機会を提供することができ、今後の子育てに対する事前学習となった。

○マイナス1歳からの子育て講座を楽しもう (講座)

出産前から両親がしっかりと学習することで、子どもに関心をもてる気持ちの余裕やそれが子どもにとっても健やかな育ちにつながるなど、ワンオペ育児の抑制に大きな効果があると思われる。

■ 事業実施上の課題

○親子ふれすて

内容により参加人数にバラツキが生じており、参加者ニーズをいかに把握できるかが重要となる。参加者が固定化しつつあり、初めての方でも参加しやすい雰囲気となるよう子育てサポーターと連携・協力して取り組みたい。

○子育てサポーターの育成

子育てサポーターが支援者として保護者と信頼関係を持ち、相談等に対応できるよう、事業やセミナー等への積極的な参加を促したり、第2回子育てサポーター養成講座を行うなど、しっかりと育成していく必要がある。



【 わくわく広場 】



【 就学前学習会 】

竜王町における家庭教育支援の取組

■家庭教育を取り巻く現状

当町では、家庭の教育力向上に取り組んでいるものの家庭における子どもたちの生活は、新型コロナウイルス感染症による感染拡大によって、皮肉にも今まで以上にスマートフォン、ゲーム等の情報通信機器に割く時間が多くなったことなどから、十分な睡眠時間の確保などの「基本的な生活習慣」が根付かない状況です。このことに起因して、家庭学習の習慣も十分とはいえない。

一方、保護者においては、核家族化や地域でのつながりの希薄化など家庭を取り巻く環境が大きく変化し、家庭が抱える問題も複雑化・多様化が進む中、家庭の教育力低下や孤立化が顕著となっており、従来の啓発・研修型の家庭教育支援では十分とはいえず、訪問型の「とどける」「つながる」仕組み作りが必要である。

■家庭教育支援で目指す姿（課題解決のために・・・）

学校教育のめざす「生きて働く基礎学力の定着」と生涯学習の掲げる「規則正しい生活習慣の確立」を『車の両輪』と位置付ける中、学社連携のもと、子どもたちの『学ぶ力の向上』に向け、家庭教育の担い手である保護者などを対象として、テーマを設定し、研修会を開催する。

また、町内においても前述のコロナ禍による生活への影響や人とのつながりの希薄化がますます深刻化している。核家族化や地域における地縁的なつながりの減少と多様な文化をルーツに持つ家庭の増加など、これまでの地域社会とは異なる状況の中、相談できる人がなく孤立化が危惧される家庭もあり、個々の家庭の教育力の差はますます広がっている。

これらを背景に社会全体での家庭教育支援の必要性は一層高まっている状況を踏まえ、令和4年度に引き続き、アウトリーチ型の支援に取り組み、問題の発生予防や早期発見につなげ、保護者とつながる支援を実施展開する。

■本年度の活動

- (1) 竜王こどもスマホサミット～教育フォーラム 2023～の開催（11月11日）
- (2) 家庭教育支援サポーターによる支援の実施（週3回）
- (3) 家庭教育支援研修会の開催（9月28日、11月16日、1月25日）
- (4) 子育て講座「ペアレントトレーニング」の開催（年6回：10月～2月）

■訪問型家庭教育支援の実践内容

昨年度のモデル事業に引き続き、2名のサポーターによるつながりが必要と思われる家庭へ支援を実施した。学校との調整は町スクールソーシャルワーカーが行い、併せて、関係者によって各家庭の状況をアセスメントしながら必要な支援を検討した。また、本年度はペアレントトレーニング（講師は町SSW）に参加された方が親子そだてサロン＊tomoni＊（子育てサロンを名称変更し継続実施）へつながるなど、地域の支援拠点を活用し、親や子どもへの温かいまなざしを地域に増やす活動を展開した。

■本年度の成果

小学校が支援につなげたい家庭とつながりを持つことができ、地域の支援人材・支援拠点（ソーシャルキャピタル）にもつなげることができた。また、多種多様な背景を持つすべての家庭を包摂する地域社会づくり（社会的包摂）に向けた方向性が見えてきた。

■今後の課題

家庭教育支援サポーターの資質の向上は必須である。従事していただくにあたり、継続した研修機会の保障が必要であり、新たなサポーターの発掘も喫緊の課題である。

報告書記入者（生涯学習課 生涯学習係 主査）

竜王っ子の『学ぶ力』を育てよう！～心豊かでたくましい竜王っ子をめざして～

竜 王 町	本事業実施年度 平成 24 年度
活動内容	
<input checked="" type="checkbox"/> 訪問型家庭教育支援の実施 <input type="checkbox"/> 地域人材の養成 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援体制の構築 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育を支援する取組	
年間活動日数 (のべ)	(下記参照)

家庭教育支援員や支援チームに関すること	
A : 家庭教育支援チーム数	(1) チーム
B : 家庭教育支援員数	(2) 人
C : 家庭教育支援チームや家庭教育支援員の配置場所数	(1) 個所
D : 前項 (C) の配置場所名	(竜王町教育委員会)

■ 活動の具体的内容

○訪問型家庭教育支援の実践等

- ・ 学校訪問 (週 3 回) し、気になる保護者とのつながりを持つ。
- ・ 子育て家庭の親同士が出会い、つながり、育児等の悩みを共有したり、互いが支え合う場として、親子そだてサロン*tomoni*の開設 (月 1 回)
- ・ 気になる家庭へのアプローチと家庭訪問の実施
- ・ 子ども食堂、暮らし育て組の活動に子育てに悩む保護者をつないでいく取組



【 親子そだてサロン*tomoni* 】

○学習講座・行事の実施等

- ・ 竜王こどもスマホサミット～教育フォーラム 2023～の開催 (11 月 11 日)
- ・ 家庭教育支援研修会の開催 (9 月 28 日、11 月 16 日、1 月 25 日)
- ・ 子育て講座「ペアレントトレーニング」の開催 (年 6 回 : 10 月～2 月)



【 子育て講座「ペアレントトレーニング」 】

○連絡会議・ケース会議の設置、運営等

- ・ 両小学校と連携のあり方や個々の事例等についてチーム会議を実施

○保護者に対する情報提供等

- ・ 町広報りゅうおうへの活動紹介の掲載 (令和 5 年 7 月号)
- ・ ホームページの開設、町防災行政無線での案内

■ 特徴的な活動内容

○竜王こどもスマホサミット～教育フォーラム 2023～

11 月 11 日 (土) 午後開催。対象者は、町内教職員、PTA 関係者、社会教育関係者、地域住民等。「私からあなたへ、そして、家庭から地域へ。みんなでめざそう「こどもまんなか社会」！～合言葉は“早寝早起き朝ごはん”と“作ろう、守ろう、わが家のスマホルール”～」のテーマに基づき、兵庫県立大学環境人間学部の竹内和雄教授を進行役をお願いし、「こどもスマホサミット」として開催した。小学校 1 年生から中学校 3 年生の 918 名を対象に実施したアンケート調査の結果を基に当町の子どもたちとスマホとの関係について、児童・生徒・保護者・教諭の生の声を聞くとともに、ネット接続の状況やスマホ依存度など、その現状を学ぶ機会となった。

○親子そだてサロン*tomoni*

日ごろ子育てをがんばる親同士が、悩みを打ち明けたり、共有したりできるホッと一息つける場所として開設。語り合える機会を持つことで、同じ悩みを持つ親同士での支え合いが生まれている。また、相談事には、家庭教育支援サポーターやスクールソーシャルワーカーと一緒に考え、必要に応じて関係機関とも連携している。

○家庭教育支援研修会

県スクールソーシャルワーカーや町内医療機関の医師を講師に、「発達に合わせた子どもへのかわり方」、「お医者さんに聞くスマホやゲーム依存」をテーマに 3 回の研修会を開催した。子育てをする中で不安や悩みなどを抱えている保護者を対象に貴重な学びの場となった。

■ 実施に当たっての工夫

- 教育フォーラムでは、案内チラシを作成し、PTA 関係者や全戸に配付した。185 名の参加者を集めることができた。

■ 事業の成果

- 教育フォーラムでは、当町の子どもたちとスマホとの関係、ネット接続の状況から、全国平均を上回る危機的状況にあるスマホ依存度について、参加者が喫緊の課題として受け止める場となった。アンケート結果では、「スマホルールについて早速家庭で話し合う、子どもにスマホをもたせる時期について考えたい」という声も聞かれ、基本的な生活習慣の確立に向け、家庭教育の重要性を改めて認識するとともに、参加者の一部にはスマホ使用にかかる家庭でのルールづくりを実践する姿が見られた。

■ 事業実施上の課題

- 教育フォーラムは、参加者が固定化傾向にあり、真に家庭教育支援が必要な家庭への啓発や支援には、直接的に結びついていない。「気づき」が必要な家庭の関係者に参加してもらえる研修会や啓発方法について検討していく必要がある。

報告書記入者 (生涯学習課 生涯学習係 主査)

Ⅷ コミュニティ・スクール推進事業

1 目的

コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）に関する研修機会の拡充等を図り、制度や事例についての理解を深めることを通じて、県内の学校運営協議会設置校の一層の拡大や取組の充実を図る。

2 事業内容

コミュニティ・スクールの全校設置と推進体制の構築をめざす教育委員会を対象とした「コミュニティ・スクール推進体制構築事業」（国庫補助事業）として実施。

(1)CSアドバイザー派遣

①趣旨

- ・コミュニティ・スクールの立ち上げや推進体制の構築に向けて助言を行う実践者（CSアドバイザー）を県教育委員会に配置し、市町教育委員会や県立学校からの要請に応じて派遣する。
- ・県内全域において市町と県立学校との関係の構築や情報の共有を推進するなど、コミュニティ・スクールの設置や取組の充実に資することを目的とする。

②CSアドバイザー

CS
アドバイザー

わたしたちがサポートします！

＼ CS導入、取組の充実、相談、研修会講師…ニーズに応じて訪問いたします！ ／ (五十音順)



安藤 清代
元滋賀県立
草津養護学校長
(CS設置校)



伊藤 照男
元湖南市立
岩根小学校長
(CS設置校)



梅本 剛雄
元滋賀県立
高等学校長



北島 泰雄
元草津市立
草津第二小学校長
(CS設置校)



北辺 禎雄
元長浜市立
虎姫小学校長
(CS設置校)



武井 哲郎
立命館大学
准教授
博士(教育学)



松田 幸夫
長浜市立
余呉小学校
主任事務主査
(CS設置校)

問合せ先

滋賀県教育委員会事務局生涯学習課

〒520-8577
大津市京町四丁目1番1号

TEL 077-528-4654 FAX 077-528-4962
MAIL ma06@pref.shiga.lg.jp

CSアドバイザーの
メッセージ動画を
視聴できます！



[参考・引用] 文部科学省
『「学校運営協議会」設置の手引き』
令和5年(2023年)9月発行

③派遣実績

	派遣日 出役時間		派遣先 研修名	派遣 アドバイザー	概要 ①参加者 ②テーマ・内容
1	4月17日	(月)	第1回 滋賀県CSアドバイザー会議	7名	① CSアドバイザー、県教委生涯学習課員 6名 ② 滋賀県におけるコミュニティ・スクールの推進について
	15:00	16:30			
2	4月25日	(火)	東近江市役所 東近江市地域学校協働本部第1回 本部長及び推進員合同連絡会	北島 泰雄	① 東近江市立小学校長、地域学校協働活動推進員、行政関係者 66名 ② 持続可能なコミュニティ・スクールのために～CSって何が出来るの？～
	15:00	16:30			
3	6月27日	(火)	守山養護学校 学校運営協議会	安藤 清代	① 学校運営協議会委員、学校管理職等 11名 ② 守山養護学校の学校運営協議会の導入について
	10:00	12:00			
4	7月26日	(水)	草津市立市民総合交流センター キラリエ草津 第2回滋賀県立特別支援学校 副校長・教頭会	安藤 清代	① 学校運営協議会委員、学校管理職等 ② 県内におけるコミュニティ・スクールについて
	14:30	16:45			
5	10月18日	(水)	長浜市地域づくりセンター さざなみタウン 長浜市地域まちづくり 連絡会研修会	武井 哲郎	① 長浜市地域づくり協議会委員、行政担当者 32名 ② 地域と学校の連携・協働(学校を核とした地域づくりとは)
	9:00	12:00			

6	11月2日	(木)	南地区公民館	伊藤 照男	① 市内小中学校地域学校協働活動推進員・地域連携担当者、行政担当者26名
	15:30 ~ 16:30		令和5年度彦根市地域学校協働活動推進員研修会		② 地域学校協働活動推進員の果たす役割 ～コミュニティ・スクールの活性化に向けて～
7	11月8日	(水)	草津市役所	松田 幸夫	① 市内小中学校教頭、行政担当者 23名
	15:30 ~ 16:30		定例教頭研修会		② 学校運営協議会のあるべき姿 ～学校と地域のつながりを強化する、互いに元気になるために変えていけること～
8	11月14日	(火)	米原市役所	北辺 禎雄	① 学校運営協議会委員、地域学校協働活動推進員、行政担当者 19名
	19:00 ~ 20:30		米原市コミュニティ・スクール推進事業等 地域・学校の連携に関わる研修会		② コミュニティ・スクール推進事業の取組について 地域と学校の連携について
9	11月16日	(木)	甲賀市役所	北島 泰雄	① 市内小中学校管理職、学校運営協議会、推進員、行政担当者等 58名
	19:00 ~ 20:30		コミュニティ・スクールに係る学校運営協議会委員 研修会ならびに第3回管理職研修会		② コミュニティ・スクールの導入に向けて～持続可能な「地域とともにある学校」のために～
10	11月21日	(火)	米原市立伊吹山中学校	北辺 禎雄	① 伊吹山中学校区各校園職員・学校運営協議会委員、行政担当者 60名
	15:00 ~ 16:40		伊吹山学区教育フォーラム		② コミュニティ・スクールの現状と課題
11	11月28日	(火)	稲枝地区公民館	松田 幸夫	① 稲枝中学校区教職員、学校運営協議会委員、行政担当者 32名
	15:30 ~ 16:30		彦根市コミュニティ・スクール(学校運営協議会)を 充実・発展させていくための研修会		② 対話のある学校 地域協働で大切な観点(熟議)
12	11月29日	(水)	県立北大津養護学校	安藤 清代	① 学校運営協議会委員、学校教職員 13名
	10:00 ~ 12:00		第2回学校運営協議会		② 防災に関わる現状確認と活動報告・避難訓練の見学と意見交換
13	12月5日	(火)	県立八日市養護学校	安藤 清代	① 学校運営協議会委員、学校教職員 10名
	10:00 ~ 12:00		第2回学校運営協議会		② 高等部作業学習についての意見交換、学校評価について
14	12月13日	(水)	東近江市役所	北島 泰雄	① 学校運営協議会会長・副会長、行政担当者 10名
	15:00 ~ 17:00		コミュニティ・スクール 会長等交流会		② 熟議・活動についての意見交換と情報共有
15	12月18日	(火)	長浜市立田根小学校	北辺 禎雄	① 田根小学校管理職、行政担当者 6名
	13:30 ~ 15:00		地域と学校の連携と協働による 「活きる力」推進事業・打合せ		② 地域と学校の連携と協働についての今後の進め方について
16	1月15日	(月)	第2回 滋賀県CSアドバイザー会議	6名	① CSアドバイザー、県教委生涯学習課員 6名
	15:00 ~ 16:30				② 滋賀県におけるコミュニティ・スクールの推進について
17	2月2日	(金)	県立東大津高等学校	梅本 剛雄	① 県立東大津高等学校管理職 4名
	15:45 ~ 16:45		コミュニティ・スクール設置に 向けての研修会		② コミュニティ・スクール設置に向けての手続きと円滑な運営について
18	2月9日	(金)	県立新旭養護学校	安藤 清代	① 学校運営協議会、学校教職員
	10:00 ~ 12:00		第3回学校運営協議会		② 今年度の取組・学校評価についての意見交換等
19	2月17日	(土)	長浜市役所 浅井支部	北島 泰雄	① 各校園管理職・学校運営協議会委員、行政担当者 76名
	13:30 ~ 15:30		長浜市学校運営協議会 各校園代表社会		② 地域と学校の連携と協働について(今年度の活動を振り返って)
20	2月20日	(火)	草津市役所	北島 泰雄	① 市立小中学校 CS担当者20名、行政担当者
	16:15 ~ 16:45		令和5年度第2回コミュニティ・ スクールくさつ研修会		② 今年度の振り返りを活かした次年度学校経営の構想づくりについて
21	2月22日	(木)	彦根市立河瀬小学校	伊藤 照男	① 次年度CS導入予定の学校教職員、学校運営協議会委員 50名
	15:50 ~ 16:50		コミュニティ・スクール 次年度導入に向けて		② 学校運営協議会を充実させていくために

(2)コミュニティ・スクールの研修の充実 (詳細は「I 推進協議会の取組」の項に掲載)

- ① 「学校を核とした地域力強化プラン」(新規導入市町等対象)研修会
- ② 「学校を核とした地域力強化プラン」(事業推進市町等対象)研修会
- ③ 県立学校コミュニティ・スクール推進事業研修会

(3)「学校を核とした地域力強化プラン」推進協議会の開催

- ・CSアドバイザーから2名が参加し、アドバイザー派遣を通じて得た市町および県立学校等のコミュニティ・スクール導入・取組充実に関する実情や課題等の情報提供を行う。

(4) 県立学校の学校運営協議会設置推進

県設置方針を策定

- ・法改正による努力義務化を受け、県立学校への学校運営協議会の設置を推進する。
- ・すべての県立学校を対象学校とし、各校の実情や意向に応じて希望する学校から順次設置する。

令和5年度（2023年度）学校運営協議会の設置校

	校名	設置年度	備考
1	長浜北高等学校	平成28年度 設置	
2	瀬田工業高等学校	平成30年度 設置	中高一貫の 学校運営協議会
3	河瀬中学校		
4	河瀬高等学校		
5	伊香高等学校		
6	彦根工業高等学校	平成31年度 (令和元年) 設置	
7	守山北高等学校		
8	甲西高等学校		
⑨	草津養護学校		
10	国際情報高等学校	令和2年度 設置	学校運営協議会は 2校で1協議会
11	能登川高等学校		
12	八日市南高等学校		
13	愛知高等学校		
⑭	愛知高等養護学校		
⑮	甲良養護学校		
16	大津高等学校	令和3年度 設置	
17	八幡高等学校		
18	野洲高等学校		
⑰	野洲養護学校		
20	湖南農業高等学校	令和4年度 設置	
21	栗東高等学校		
22	信楽高等学校		
⑳	三雲養護学校		
㉑	八日市養護学校		
25	堅田高等学校	令和5年度 設置	学校運営協議会は 2校で1協議会
26	長浜北星高等学校		
㉒	長浜北星高等養護学校		
28	守山中学校		中高一貫の 学校運営協議会
29	守山高等学校		
30	水口高等学校		
㉓	北大津養護学校		
㉔	守山養護学校		
㉕	新旭養護学校		

○番号は、特別支援学校を表す。

高等学校23校（中高一貫の2校含む）、特別支援学校10校で学校運営協議会を設置。29協議会。

(5) 令和5年度版「滋賀のコミュニティ・スクール」リーフレット

※電子データもご活用ください。(滋賀県学習情報提供システム「におねっと」内に掲載)

URL および 二次元コード

https://www.nionet.jp/lldivision/community_school/index.html



～ 5校の取組について紹介 (リーフレットより抜粋) ～

学校運営協議会での“熟議”が様々な活動に活かされています。

草津市立渋川小学校



「近江茶についての学習」

ふるさとの自然やくらし、文化に愛着や誇りを育む機会にするために地域協働校事業を進め、全校の学びの成果を展示物にまとめたものを展示する「渋川ESD(いいまち・しぶかわ・だいすき)ミュージアム」を開催し、保護者や地域の人々に発信しています。

児童の声

「世界農業遺産」についての学びを深め、琵琶湖と共生してきた滋賀の農林水産業の魅力を知ることによって郷土への愛着や誇りを深めることができました。

湖南市立水戸小学校



「水戸っ子応援団ボランティア・教職員交流会」

子どもたちに関わってくださっているボランティアさんと教職員が1学期の活動を振り返り、子どもの様子を語り合いました。また、今後の活動について意見交流し、「一緒に水戸っ子を育てよう」という思いを深めました。

協議会委員の声

日頃の活動について交流するだけでなく、CSの役割などについての研修の時間があり、とても有意義でした。

野洲市立中主中学校



「チュッピー弁当を地域に届けよう」

学区のキャラクターのチュッピーにちなんで、チュッピー弁当を作りました。地域の皆さんと一緒に地元でとれたお米でおにぎりをつくり、メッセージを添えてお弁当にしました。地域の一人暮らしの高齢者に、社会福祉協議会の方を通して届けました。

地域の声

参加をして、中学生から元気をもらえました。地域と学校とがつながる活動を今後もできたらと思います。

生徒の声

メッセージやおにぎりを喜んでもらえたらいいな。地域の方と話すのが楽しかったです。

県立八幡高等学校



「学校運営協議会の様子」

委員から「生徒の声を聞いてみたい」とのご意見があり、会議を文化祭当日に設定しました。模擬店部門で地域と連携をしている3年生の代表者や、地元企業と商品開発をしている生徒会代表が参加し、活動の意図や苦労などを話しました。

協議会委員の声

地元自治会との関わりもできるとよいと思います。普通科の高校でも、いろんな取組ができることがわかりました。

県立北大津養護学校



「学校防災について」

本校の防災の取組、課題を説明後、避難方法の助言をいただいたり、災害時引き渡しカードについての質問をいただいたりして、活発に意見交換することができました。今後も熟議を重ね、より良い防災の取組を実施していきます。

協議会委員の声

学校の特徴を理解したうえで、自助・公助・共助・互助の視点で考えていくことが大切だと感じました。

令和5年度

「学校を核とした地域力強化プラン事業」実践事例集

令和6年（2024年）3月

発行：滋賀県教育委員会事務局生涯学習課

〒520-8577 滋賀県大津市京町4丁目1-1

TEL：077-528-4654

FAX：077-528-4962

MAIL：ma06@pref.shiga.lg.jp

ホームページ：「におねっと」<https://www.nionet.jp/>